

在宅高齢者の生活実態調査 報告書

令和元年12月

東京都福祉保健局

—目次—

第1 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の基準日	3
4 調査事項	3
5 調査方法	3
6 回収状況	3
7 報告書の見方	3
8 調査機関	4
第2 調査結果の概要	5
第1章 調査対象者の基本的属性	7
1 性別（問1）	7
2 年齢階級（問2）	7
第2章 家族	8
1 世帯	8
（1）世帯人員	8
ア 世帯人員（性別、年齢階級別）	8
（2）世帯構成（世代）	9
ア 世帯構成（世代）（性・年齢階級別）	9
（3）世帯類型	10
ア 世帯類型（性・年齢階級別）	10
（4）配偶者の有無（問3）	11
ア 配偶者の有無（性・年齢階級別）	11
（5）子供の有無・人数（問4）	12
ア 子供の有無・人数（性別）	12
（6）健康意識（問5）	13
ア 健康意識（性別、年齢階級別）	13
（7）介護の状況（問7）	14
ア 介護の状況（性・年齢階級別）	14
イ 介護の状況（世帯類型別）	15
（8）同居家族（問8）	17
ア 世帯の就業状況（就業人数）（世帯類型別）	18
イ 同居している子供の就業状況	19
第3章 健康	20
（1）日常生活の動作の程度（問9）	20
ア 日常生活の動作の程度…歩くこと（性・年齢階級別）	21

イ	日常生活の動作の程度…食べること（性・年齢階級別）	22
ウ	日常生活の動作の程度…衣服の着替え（性・年齢階級別）	23
エ	日常生活の動作の程度…入浴（性・年齢階級別）	24
オ	日常生活の動作の程度…排せつ（性・年齢階級別）	25
カ	日常生活の動作の程度…家事一般（性・年齢階級別）	26
キ	日常生活の動作の程度…金銭の管理（性・年齢階級別）	27
ク	日常生活の動作の程度…薬の管理（性・年齢階級別）	28
ケ	日常生活の動作の程度…電話の利用（性・年齢階級別）	29
	（2）物忘れの状況（問 10）	30
ア	物忘れの状況（性別、年齢階級別）	30
イ	物忘れの状況（世帯類型別）	31
ウ	物忘れの状況（世帯構成（世代）別）	32
	（3）食事の状況（問 11）	33
ア	食事の状況（性・年齢階級別）	33
イ	食事の状況（配偶者の有無別）	34
	（4）日常生活動作（ADL）（問 12）	35
ア	日常生活動作（ADL）（性・年齢階級別）	36
イ	日常生活動作（ADL）（世帯構成（世代）別）	37
	（5）現在の状態になってからの期間（問 12-1）	38
	（6）現在の状態になった原因（問 12-2）	38
	（7）動作能力類型（問 9、問 12）	39
ア	動作能力類型（性・年齢階級別）	40
第 4 章 医療		41
	（1）現状の傷病の病名（問 13）	41
ア	現状の傷病の病名（性別、年齢階級別）	42
イ	現状の傷病の病名（動作能力類型別）	43
ウ	現状の傷病の病名（物忘れの状況別）	44
	（2）通院の有無（問 13-1）	45
ア	通院の有無（性別、年齢階級別）	45
イ	通院の有無（動作能力類型別）	46
	（3）通院頻度（問 13-2）	47
ア	通院頻度（性別、年齢階級別）	47
イ	通院頻度（動作能力類型別）	48
	（4）付添の有無（問 13-3）	49
ア	付添の有無（年齢階級別）	49
イ	付添の有無（動作能力類型別）	50
	（5）かかりつけ医の有無（問 14）	51
ア	かかりつけ医の有無（性別、年齢階級別）	51

イ	かかりつけ医の有無（動作能力類型別）	52
	（6）延命医療についての希望（問 15）	53
ア	延命医療についての希望（性別、年齢階級別）	53
イ	延命医療についての希望（世帯類型別）	54
ウ	延命医療についての希望（世帯構成（世代）別）	55
	（7）延命医療についての希望の周知（問 15-1）	56
ア	延命医療についての希望の周知	57
	（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別、ACPの認知度別）	57
	（8）最期を迎えたい場所（問 16）	58
イ	最期を迎えたい場所（世帯類型別）	59
	（9）ACPの認知度について（問 17）	60
ア	ACPについて（性別、年齢階級別）	60
イ	ACPについて（世帯類型別）	61
第5章 介護サービス		62
	（1）要介護認定の申請の有無（問 18）	62
ア	要介護認定の申請の有無（性・年齢階級別）	62
イ	要介護認定の申請の有無（世帯類型別）	63
ウ	要介護認定の申請の有無（動作能力類型別）	64
	（2）要支援・要介護度（問 18-1）	65
ア	要支援・要介護度（性別、年齢階級別）	65
イ	要支援・要介護度（世帯類型別）	66
ウ	要支援・要介護度（動作能力類型別）	67
	（3）介護の状況（問 18-2）	68
ア	介護の状況（性・年齢階級別、配偶者の有無別、世帯類型別）	69
イ	最も介護をしている時間が長い人（世帯類型別、要介護度別、生活支援サービス利用有無別）	70
	（4）日常生活を支援するサービス-利用しているサービス（問 19（1））	71
ア	日常生活を支援するサービス-利用しているサービス（性・年齢階級別、	71
イ	日常生活を支援するサービス-利用しているサービス（要介護度別、	72
	（5）日常生活を支援するサービス-今後利用したいサービス（問 19（2））	73
ア	日常生活を支援するサービス-利用したいサービス（性・年齢階級別、世帯類型別）	73
イ	日常生活を支援するサービス-利用したいサービス（要介護度別、動作能力類型別）	74
	（6）サービスの主体（問 19-1）	75
ア	サービスの主体（性別、年齢階級別）	75
イ	サービスの主体（世帯類型別）	76
ウ	サービスの主体（世帯構成（世代）別）	77
	（7）利用のきっかけ（問 19-2）	78

ア 利用のきっかけ（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別、サービスの主体別）	79
(8) 介護予防の活動内容（問 20）	80
ア 介護予防の活動内容（性別、年齢階級別、世帯類型別）	80
イ 介護予防の活動内容（外出頻度別、就業状況別、収入別、金融貯蓄別）	81
(9) 介護予防の活動頻度（問 20-1）	82
ア 介護予防の活動頻度（性別、年齢階級別、活動内容別、外出頻度別）	82
(10) 介護予防の活動の参加理由（問 20-2）	83
(11) 介護予防の活動を行わない理由（問 20-3）	84
(12) フレイルについて（問 21）	85
ア フレイルについて（性別、年齢階級別）	85
イ フレイルについて（世帯類型別）	86
ウ フレイルについて（世帯構成（世代）別）	87
エ フレイルについて（近所付き合いの程度別）	87
(13) フレイル予防について（問 21-1）	88
第 6 章 認知症	89
(1) 認知症について（問 22）	89
ア 認知症の早期発見について（性・年齢階級別）	89
イ 認知症の症状について（性・年齢階級別）	90
ウ 認知症になった場合の意思決定について（性・年齢階級別）	91
エ 若年性認知症について（性・年齢階級別）	92
(2) 認知症講座への参加意向（問 23）	93
(3) 成年後見制度の認知度（問 24（1）ア）	94
ア 成年後見制度の認知度（性別、年齢階級別）	94
イ 成年後見制度の認知度（動作能力類型別）	95
(4) 成年後見制度の利用意向（問 24（1）イ）	96
ア 成年後見制度の利用意向（性別、年齢階級別）	96
イ 成年後見制度の利用意向（子どもの有無別）	97
ウ 成年後見制度の利用意向（認知度別）	97
(5) 日常生活自立支援事業の認知度（問 24（2）ア）	98
ア 日常生活自立支援事業の認知度（性別、年齢階級別）	98
イ 日常生活自立支援事業の認知度（動作能力類型別）	99
(6) 日常生活自立支援事業の利用意向（問 24（2）イ）	100
ア 日常生活自立支援事業の利用意向（性別、年齢階級別）	100
イ 日常生活自立支援事業の利用意向（子どもの有無別）	101
ウ 日常生活自立支援事業の利用意向（認知度別）	101
第 7 章 住まい	102
(1) 住まいの形態（問 25）	102

ア	住まいの形態（年齢階級別）	102
イ	住まいの形態（世帯構成（世代）別）	103
	（2）家賃（問 25-1）	104
	（3）高齢者向け住宅の利用料（問 25-2）	104
	（4）介護が必要になったときの希望の住まい（問 26）	105
ア	介護が必要になったときの希望の住まい（性別、年齢階級別）	105
イ	介護が必要になったときの希望の住まい（配偶者の有無別）	106
ウ	介護が必要になったときの希望の住まい（住宅種類別）	107
エ	介護が必要になったときの希望の住まい（世帯構成（世代）別）	108
オ	介護が必要になったときの希望の住まい（介護予防の活動有無別）	108
	（5）今の住居に住み続けたい理由（問 26-1）	109
ア	今の住居に住み続けたい理由（性別、年齢階級別、配偶者の有無別、住宅種類別）	109
イ	今の住居に住み続けたい理由（本人年収別、世帯類型別）	110
	（6）高齢者向け住宅に支出可能な利用料（問 27）	111
ア	高齢者向け住宅に支出可能な利用料（性別、年齢階級別）	111
イ	高齢者向け住宅に支出可能な利用料（本人年収別）	112
第 8 章	コミュニケーション	113
	（1）一番近い子供との距離（問 28）	113
	（2）日中独居の頻度（問 29）	114
ア	日中独居の頻度（性・年齢階級別）	114
イ	日中独居の頻度（配偶者の有無別）	115
	（3）外出頻度（問 30）	116
ア	外出頻度（性別、年齢階級別）	116
イ	外出頻度（近所付き合い別）	117
ウ	外出頻度（本人年収別）	118
エ	外出頻度（動作能力類型別）	119
オ	外出頻度（金融貯蓄別）	120
	（4）交流の頻度（問 31）	121
ア-1	子供との交流の頻度（性・年齢階級別）	122
ア-2	子供との交流の頻度（子どもとの距離別）	123
ア-3	子供との交流の頻度（世帯類型別）	124
ア-4	子供との交流の頻度（動作能力類型別）	125
イ-1	親族との交流の頻度（性・年齢階級別）	126
イ-2	親族との交流の頻度（世帯類型別）	127
ウ-1	友人・知人との交流の頻度（性・年齢階級別）	128
ウ-2	友人・知人との交流の頻度（外出頻度別）	129
ウ-3	友人・知人との交流の頻度（近所付き合い別）	129
ウ-4	友人・知人との交流の頻度（地域とのつながり別）	130

ウ-5 友人・知人との交流の頻度（世帯類型別）	131
(5) 緊急連絡先（問 32）	132
ア 緊急連絡先（性・年齢階級別）	132
イ 緊急連絡先（子どもの有無別）	133
ウ 緊急連絡先（世帯類型別）	134
(6) 近所との付き合いの程度（問 33）	135
ア 近所との付き合いの程度（性別、年齢階級別）	135
イ 近所との付き合いの程度（外出頻度別）	136
ウ 近所との付き合いの程度（地域とのつながり別）	137
エ 近所との付き合いの程度（世帯構成（世代）別）	138
(7) 地域とのつながりの変化（問 34）	139
ア 地域とのつながりの変化（性別、年齢階級別）	139
イ 地域とのつながりの変化（最長職業別）	140
ウ 地域とのつながりの変化（活動の状況別）	141
エ 地域とのつながりの変化（世帯類型別）	142
(8) 役割の期待（問 35）	143
ア 役割の期待（性別、年齢階級別）	143
イ 役割の期待（世帯類型別）	144
ウ 役割の期待（動作能力類型別）	145
エ 役割の期待（世帯構成（世代）別）	146
オ 役割の期待（介護予防の活動内容別）	147
カ 役割の期待（外出頻度別）	148
キ 役割の期待（社会参加活動別）	149
ク 役割の期待（収入のある仕事の有無別）	149
第9章 生きがい	150
(1) 生きがいの程度（問 36）	150
ア 生きがいの程度（性別、年齢階級別）	150
イ 生きがいの程度（世帯類型別）	151
ウ 生きがいの程度（世帯構成（世代）別）	152
エ 生きがいの程度（役割期待別）	153
オ 生きがいの程度（介護予防の活動内容別）	154
カ 生きがいの程度（外出頻度別）	155
キ 生きがいの程度（社会参加活動別）	156
ク 生きがいの程度（収入のある仕事の有無別）	156
(2) 生きがいを感じる時（問 36-1）	157
ア 生きがいを感じる時（性別、年齢階級別）	157
イ 生きがいを感じる時（世帯類型別、世帯構成（世代）別）	158
第10章 不安や悩み事	159

(1) 悩み事の内容 (問 37)	159
ア 悩み事の内容 (性別、住宅種類別、世帯構成 (世代) 別)	159
(2) 相談相手 (問 38)	160
ア 相談相手 (性別、世帯構成 (世代) 別)	160
(3) 地域包括支援センターの認知度 (問 39)	161
ア 地域包括支援センターの認知度 (性別、年齢階級別)	161
イ 地域包括支援センターの認知度 (介護の状況別)	162
ウ 地域包括支援センターの認知度 (要介護申請の有無別)	163
エ 地域包括支援センターの認知度 (世帯類型別)	164
オ 地域包括支援センターの認知度 (動作能力類型別)	165
第 11 章 社会参加	166
(1) 一年間の活動状況 (問 40)	166
ア 一年間の活動状況 (性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながり別)	167
イ 一年間の活動状況 (活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別)	168
(2) 今後の活動意向 (問 40)	169
ア 今後の活動意向 (性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながりの変化別)	170
イ 今後の活動意向 (活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別)	171
(3) 活動のきっかけ (問 40-1)	172
ア 活動のきっかけ (活動内容別)	172
(4) 参加している活動の主体 (問 40-2)	173
ア 参加している活動の主体 (性別、年齢階級別)	173
イ 参加している活動の主体 (世帯類型別)	174
ウ 参加している活動の主体 (世帯構成 (世代) 別)	175
(5) 参加しない理由 (問 40-3)	176
ア 参加しない理由 (性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成 (世代) 別)	177
(6) 活動の効果の認知度 (問 41)	178
ア 活動の効果の認知度 (性別、年齢階級別)	178
イ 活動の効果の認知度 (世帯類型別)	179
ウ 活動の効果の認知度 (世帯構成 (世代) 別)	180
(7) 必要な行政の支援 (問 42)	181
第 12 章 就労	182
(1) 収入のある仕事の有無 (問 43)	182
ア 収入のある仕事の有無 (性・年齢階級別)	182
イ 収入のある仕事の有無 (健康意識別)	183
ウ 収入のある仕事の有無 (最長職業別)	184
エ 収入のある仕事の有無 (働いていたい年齢別)	185

(2) 仕事の形態 (問 43-1)	186
ア 仕事の形態 (性・年齢階級別)	186
イ 仕事の形態 (最長職業別)	187
(3) 仕事の頻度 (問 43-2)	188
ア 仕事の頻度 (性別、年齢階級別)	188
イ 仕事の頻度 (世帯類型別)	189
ウ 仕事の頻度 (世帯構成 (世代) 別)	190
(4) 仕事をしている理由 (問 43-3)	191
ア 仕事をしている理由 (性・年齢階級別、健康意識別、最長職業別)	192
(5) 非就業者の今後の就業意向と頻度 (問 43-4)	193
ア 非就業者の今後の就業意向と頻度 (性・年齢階級別)	193
イ 非就業者の今後の就業意向と頻度 (家計の状況別)	194
(6) 仕事をしていない理由 (問 43-5)	195
ア 仕事をしていない理由 (性別、年齢階級別)	195
イ 仕事をしていない理由 (最長職業別)	196
(7) 理想の就業年齢 (問 44)	197
ア 理想の就業年齢 (性・年齢階級別)	197
イ 理想の就業年齢 (最長職業別)	198
第 13 章 経済状況	199
(1) 収入の種類 (問 45)	199
ア 収入の種類 (性・年齢階級別、最長職業別、世帯類型別)	200
(2) 公的年金の種類 (問 45-1)	201
(3) 年間収入 (問 46)	202
ア 年間収入 (性・年齢階級別、収入のある仕事の有無別、仕事の形態別)	203
(4) 家計の状況 (問 47)	204
ア 家計の状況 (性別、年齢階級別)	204
イ 家計の状況 (住まいの形態別)	205
ウ 家計の状況 (収入のある仕事の有無別)	206
エ 家計の状況 (世帯類型別)	207
(5) 金融貯蓄 (問 48)	208
ア 金融貯蓄 (性・年齢階級別、世帯構成 (世代) 別、世帯類型別)	209
イ 金融貯蓄 (仕事の有無別、仕事の形態別、本人の収入別)	210
第 14 章 ひとりぐらし高齢者 (単身世帯) の生活実態	211
1 ひとりぐらし高齢者の概況	211
(1) ひとりぐらし高齢者の割合	211
(2) 年齢階級—性別、全数との比較 (問 2)	212
(3) 子供の有無・人数—全数との比較 (問 4)	212
(4) 健康意識—性別、年齢階級別、全数との比較 (問 5)	213

2	健康	214
	(1) 日常生活の動作の程度(問 9)	214
	(2) 物忘れの状況—全数との比較(問 10)	216
	(3) 食事の状況(問 11)	217
	(4) 日常生活動作 (ADL) —性・年齢階級別(問 12)	218
3	医療	219
	(1) 延命医療についての希望 (性別、年齢階級別) (問 15)	219
	(2) 延命医療についての希望の周知 (性別、年齢階級別) (問 15-1)	220
	(3) 最期を迎えたい場所 (性別、年齢階級別) (問 16)	221
	(4) ACP 認知度 (性別、年齢階級別) (問 17)	222
4	介護サービスなど	223
	(1) 要介護認定の有無(問 18)	223
	(2) 要支援・要介護度 (問 18-1)	224
ア	要支援・要介護度 (性別、年齢階級別)	224
イ	要支援・要介護度 (動作能力類型別)	225
	(3) 介護の状況 (介護を受けている状況) (問 18-2)	226
ア	介護をしている人—性別、全数との比較	226
イ	介護している人のうち、最も介護している時間が長い人—性別、全数との比較	227
	(4) 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス (性別、年齢階級別) (問 19 (1))	228
	(5) 日常生活を支援するサービス-今後利用したいサービス (性別、年齢階級別) (問 19 (2))	229
	(6) サービスの主体 (性別、年齢階級別) (問 19-1)	230
	(7) 利用のきっかけ (性別、年齢階級別) (問 19-2)	231
	(8) 介護予防の活動内容 (性別、年齢階級別) (問 20)	232
	(9) 介護予防の活動頻度 (性別、年齢階級別) (問 20-1)	233
	(10) 介護予防の活動の参加理由 (性別、年齢階級別) (問 20-2)	234
	(11) 介護予防の活動を行わない理由 (性別、年齢階級別) (問 20-3)	235
	(12) フレイルについて (性別、年齢階級別) (問 21)	236
5	住まい	237
	(1) 住まいの形態 (性別、性・年齢階級別) (問 25)	237
6	コミュニケーション	239
	(2) 交流の頻度 (問 31)	240
ア	子供との交流の頻度 (性別、年齢階級別)	240
イ	親族との交流の頻度 (性別、年齢階級別)	241
ウ	友人・知人との交流の頻度 (性別、年齢階級別)	242
イ	近所との付き合いの程度 (動作能力類型別)	244
7	生きがい	246

(1) 生きがいの程度（性別、年齢階級別）（問 36）	246
(2) 生きがいを感じる時（性別、年齢階級別）（問 36-1）	247
8 不安や悩み事	248
(1) 悩み事の内容（性別、年齢階級別）（問 37）	248
(2) 相談相手（性別、年齢階級別）（問 38）	249
9 社会参加	250
(1) 1年間の活動状況（性別、年齢階級別）（問 40）	250
(2) 今後の活動意向（性別、年齢階級別）（問 40）	251
(3) 参加している活動の主体（性別、年齢階級別）（問 40-2）	252
(4) 参加しない理由（性別、年齢階級別）（問 40-3）	253
10 就労	255
(1) 収入のある仕事の有無（性別、年齢階級別）（問 43）	255
(4) 仕事をしている理由（性・年齢階級別）（問 43-3）	258
第 15 章 自由意見	262
第 3 調査票（単純集計結果入り）	271

第 1 調査の概要

1 調査の目的

令和2（2020）年度の「東京都高齢者保健福祉計画」改定に向けた作業を行っていく上で、高齢者の生活実態を明らかにするとともに、都民の高齢者施策等に関するニーズを把握し、専門的な視点から分析を加えた施策検討に資する資料を作成することを目的とする。

2 調査の対象

東京都内に居住する調査基準日現在 65 歳以上の在宅の高齢者を対象とし、住民基本台帳から無作為に抽出した 6,000 人を客体とする。

3 調査の基準日

令和元年 7 月 1 日時点（調査期間 令和元年 7 月 30 日から同年 8 月 26 日まで）

4 調査事項

- | | |
|---------------|-------------|
| (1) 基本事項 | (8) 生きがい |
| (2) 健康 | (9) 不安や悩み事 |
| (3) 医療 | (10) 社会参加 |
| (4) 介護サービスなど | (11) 就労 |
| (5) 認知症 | (12) 経済状況 |
| (6) 住まい | (13) 行政への要望 |
| (7) コミュニケーション | |

5 調査方法

郵送配布・郵送回収

6 回収状況

発送数	回収数	回収率	不達
6,000 件	3,192 件	53.2%	37 件

7 報告書の見方

- (1) 比率の単位は「%」、実数の単位は「世帯」又は「人」である。
- (2) 統計表の百分率については、小数点以下第 2 位を四捨五入してあるため、総数と内訳の合計は必ずしも一致しない。
- (3) 統計表中、用いた符号は以下の通りとする。
「0.0」…表単位に満たないもの
「-」…皆無又は該当数値の無いもの
- (4) 表側では「無回答」は省略している。
- (5) 本文中の「高齢者」とは、65 歳以上を指す。

(6) 本文中の「前期高齢者」とは、65～74 歳、「後期高齢者」とは 75 歳以上を指す。

8 調査機関

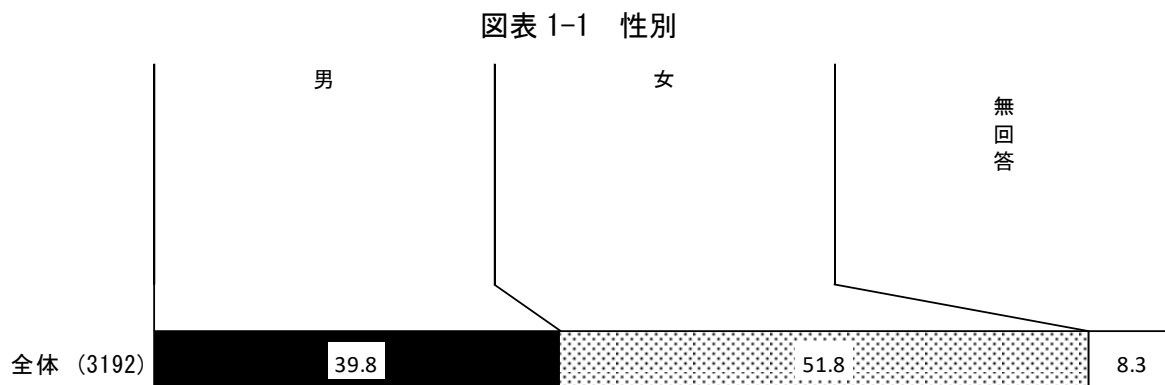
株式会社アストジェイ

第 2 調査結果の概要

第1章 調査対象者の基本的属性

1 性別（問1）

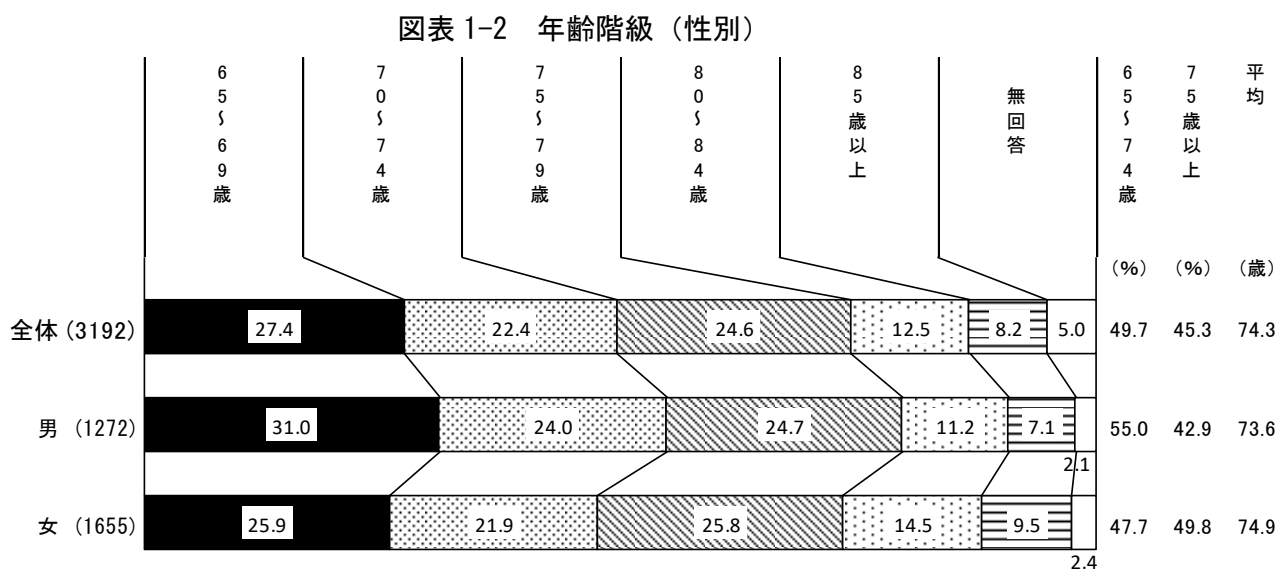
対象者全員に性別について聞いたところ、男性 39.8%、女性 51.8%である。（図 1-1）



2 年齢階級（問2）

平均年齢は、74.3 歳である。年齢階級は、前期高齢者が 49.7%、後期高齢者が 45.3%である。

性別で見ると、男性は前期高齢者が 55.0%、後期高齢者が 42.9%で前期高齢者の割合が 12.1 ポイント高くなっているのに対し、女性は前期高齢者が 47.7%、後期高齢者が 49.8%でほぼ同じ割合となっている。（図表 1-2）



第2章 家族

1 世帯

(1) 世帯人員

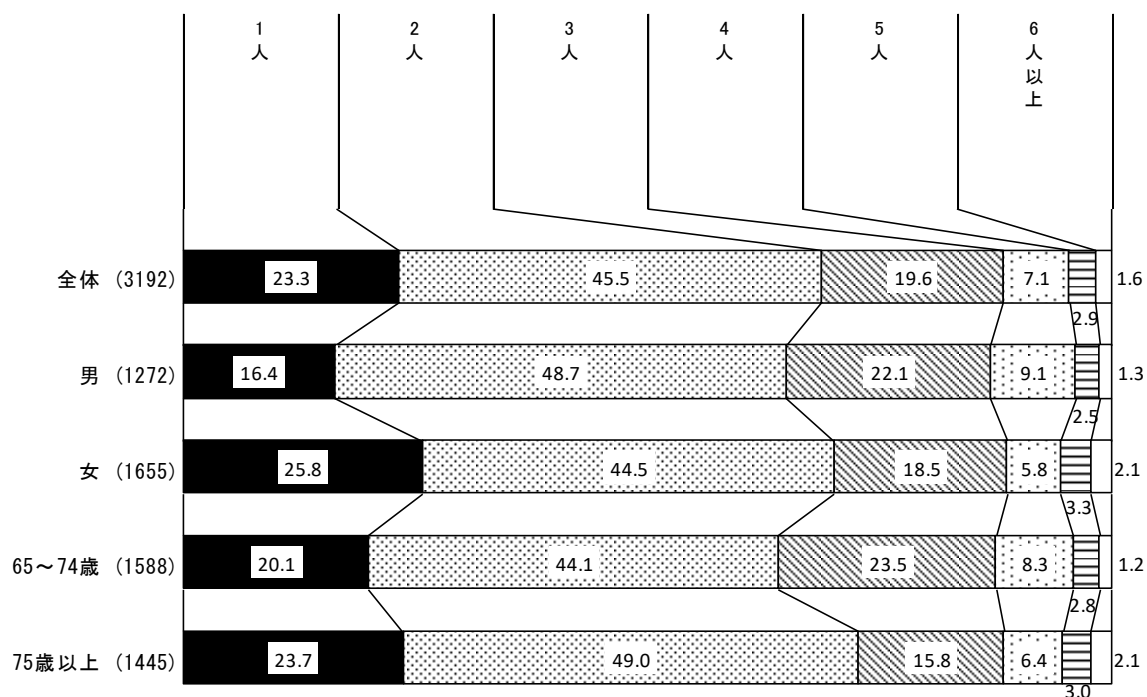
ア 世帯人員（性別、年齢階級別）

世帯人員は「2人」が45.5%で最も高く、次いで「1人」が23.3%、「3人」が19.6%となっており、世帯人員の平均は2.3人となっている。

世帯人員を性別で見ると、「1人」は男性16.4%、女性25.8%で、女性の方が9.4ポイント高くなっている。男性は6人に1人、女性は4人に1人がひとりぐらしとなっている。

年齢階級別で見ると、「1人」は前期高齢者20.1%、後期高齢者23.7%で、後期高齢者の方が3.6ポイント高くなっている。（図表2-1）

図表2-1 世帯人員（性別、年齢階級別）



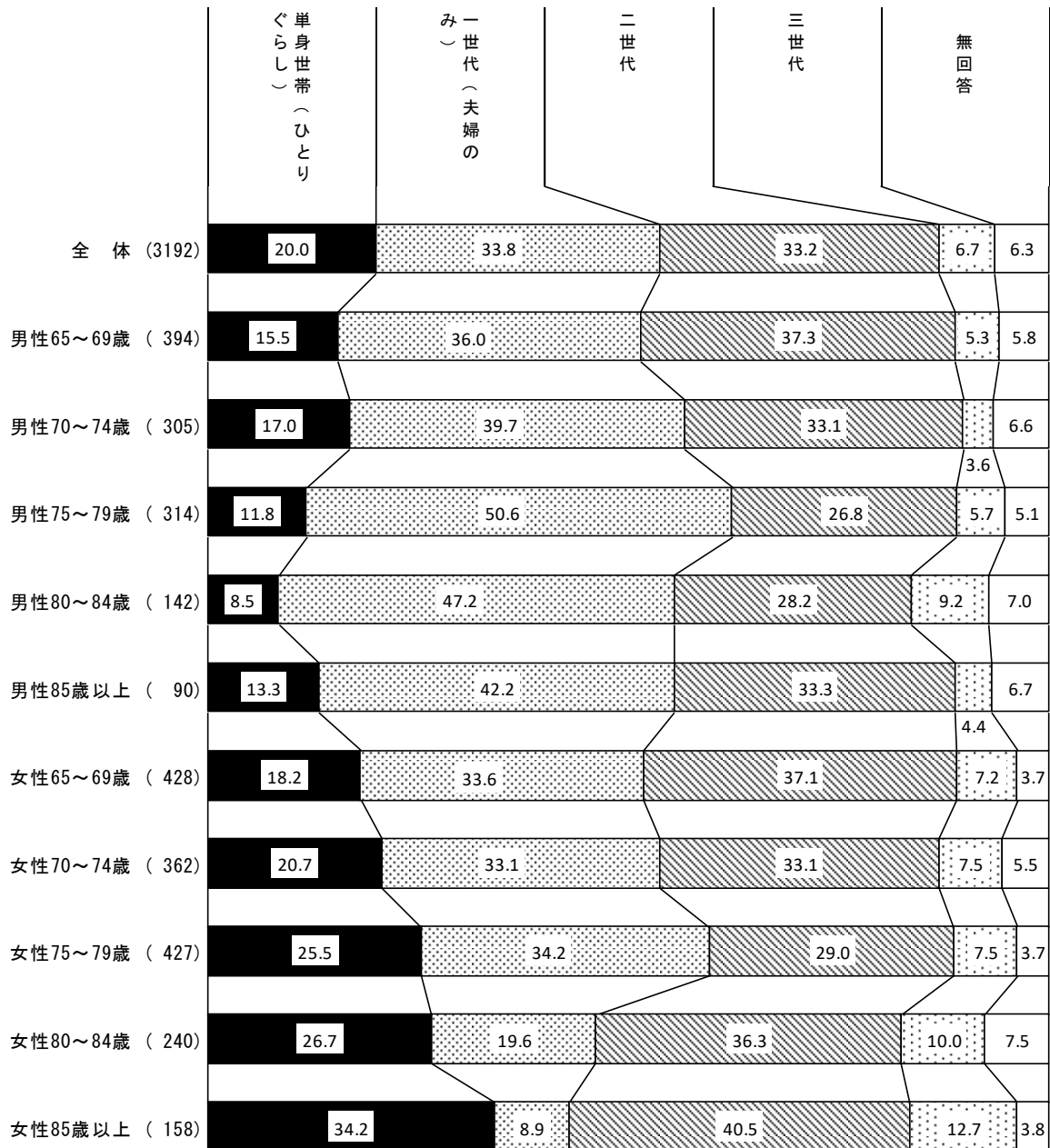
(2) 世帯構成 (世代)

ア 世帯構成 (世代) (性・年齢階級別)

世帯構成を世代別で見ると、「一世代 (夫婦のみ)」が 33.8% で最も高く、次いで「二世代」が 33.2%、「単身世帯 (ひとりぐらし)」が 20.0% となっている。

世帯構成 (世代) を性・年齢階級別で見ると、男性の 70 歳から 84 歳まででは年齢階級が上がるにつれて「単身世帯 (ひとりぐらし)」の割合が低くなっている。一方、女性は年齢階級が上がるにつれて「単身世帯 (ひとりぐらし)」の割合が高くなっている。(図表 2-2)

図表 2-2 世帯構成 (世代) (性・年齢階級別)



(3) 世帯類型

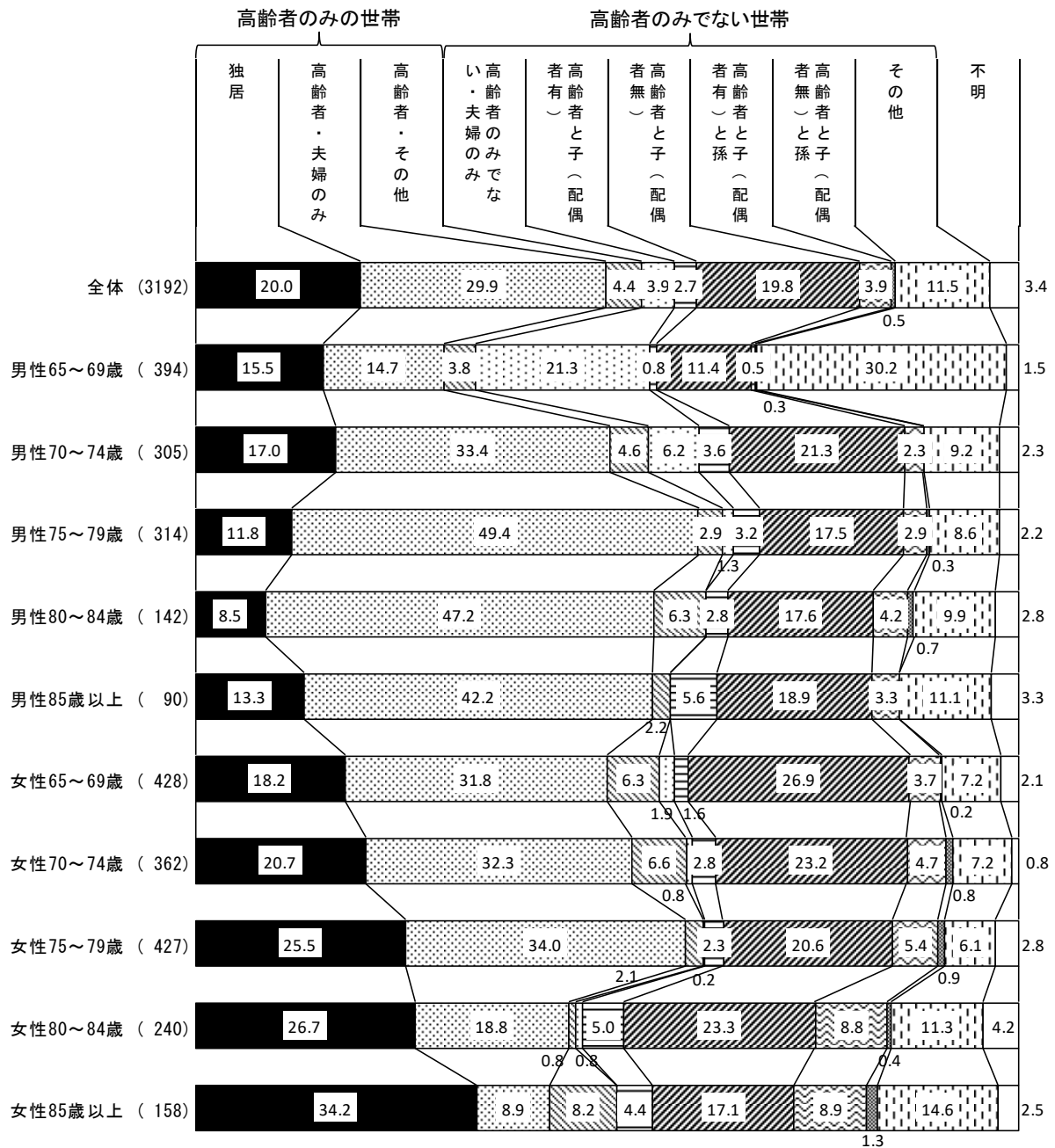
ア 世帯類型（性・年齢階級別）

世帯構成を世帯類型別でみると、「高齢者のみの世帯」が54.3%、「高齢者のみでない世帯」が42.3%となっている。そのうち「独居」は高齢者全体の20.0%を占めている。

世帯類型を性・年齢階級別でみると、「高齢者のみの世帯」は男性65～69歳（34.0%）と女性80～84歳（46.3%）を除く全ての性・年齢階級で5割以上を占めている。一方、「高齢者のみでない世帯」は男性65～69歳（64.5%）を除く全ての性・年齢階級で5割以下となっている。

（図表 2-3）

図表 2-3 世帯類型（性・年齢階級別）



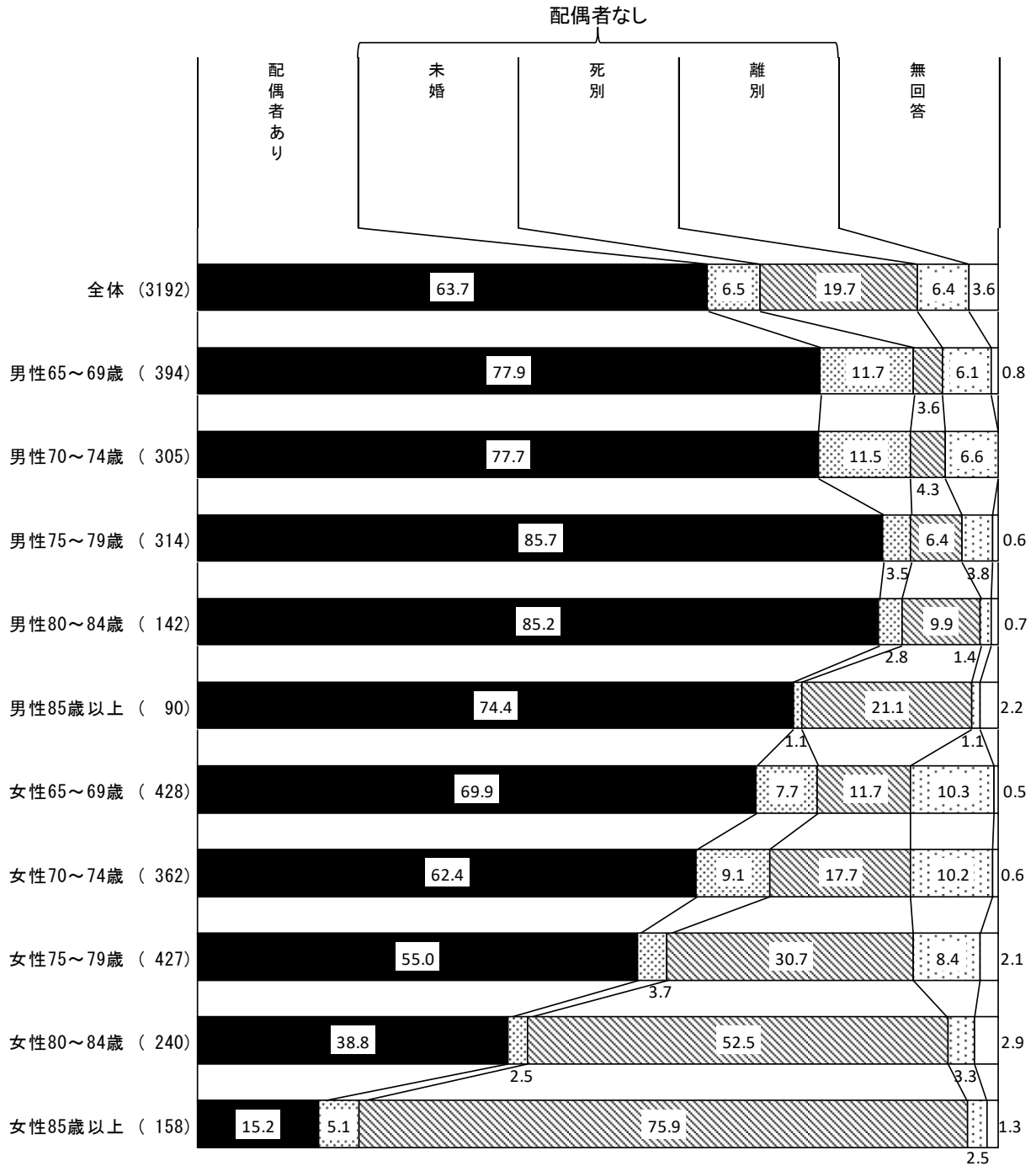
(4) 配偶者の有無 (問3)

ア 配偶者の有無 (性・年齢階級別)

対象者全員に配偶者の有無について聞いたところ、「配偶者あり」が63.7%、「未婚」「死別」「離別」を合わせた『配偶者なし』が32.6%となっている。

配偶者の有無を性・年齢階級別でみると、男女ともに、概ね年齢階級が上がるにつれて、「死別」の割合が高くなり、「未婚」および「離別」の割合が低くなる傾向がみられる。(図表2-4)

図表 2-4 配偶者の有無 (性・年齢階級別)



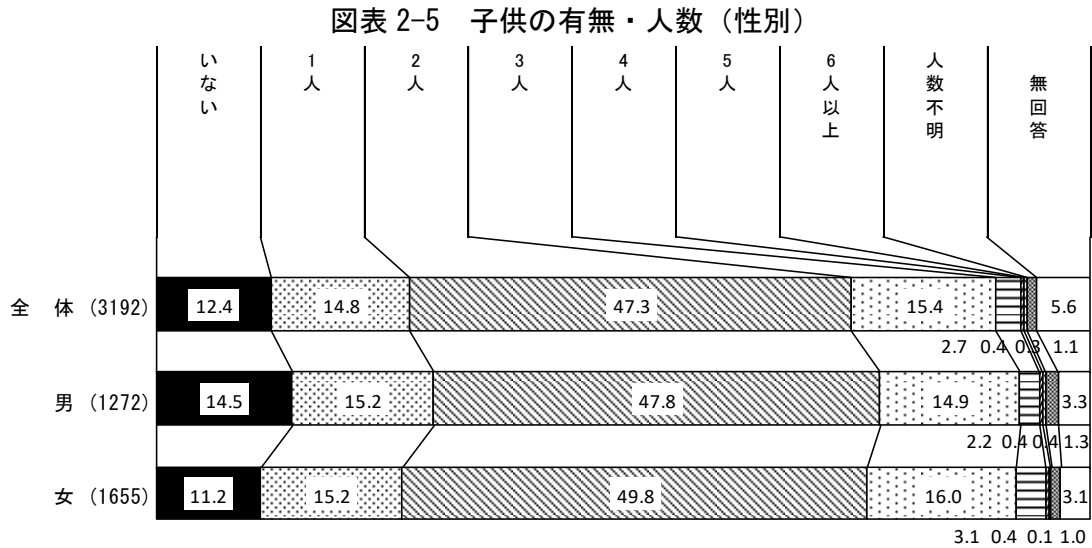
(5) 子供の有無・人数 (問 4)

ア 子供の有無・人数 (性別)

対象者全員に子供の有無と人数について聞いたところ、「子供がいる」が82.0%、「子供がない」が12.4%となっている。

子供がいる人に人数について聞いたところ、「2人」が47.3%で最も高く、次いで「3人」が15.4%、「1人」が14.8%となっている。

子どもの有無と人数について性別でみると、「いない」は男性14.5%、女性11.2%で、男性の方が3.3ポイント高くなっている。(図表2-5)



(6) 健康意識 (問5)

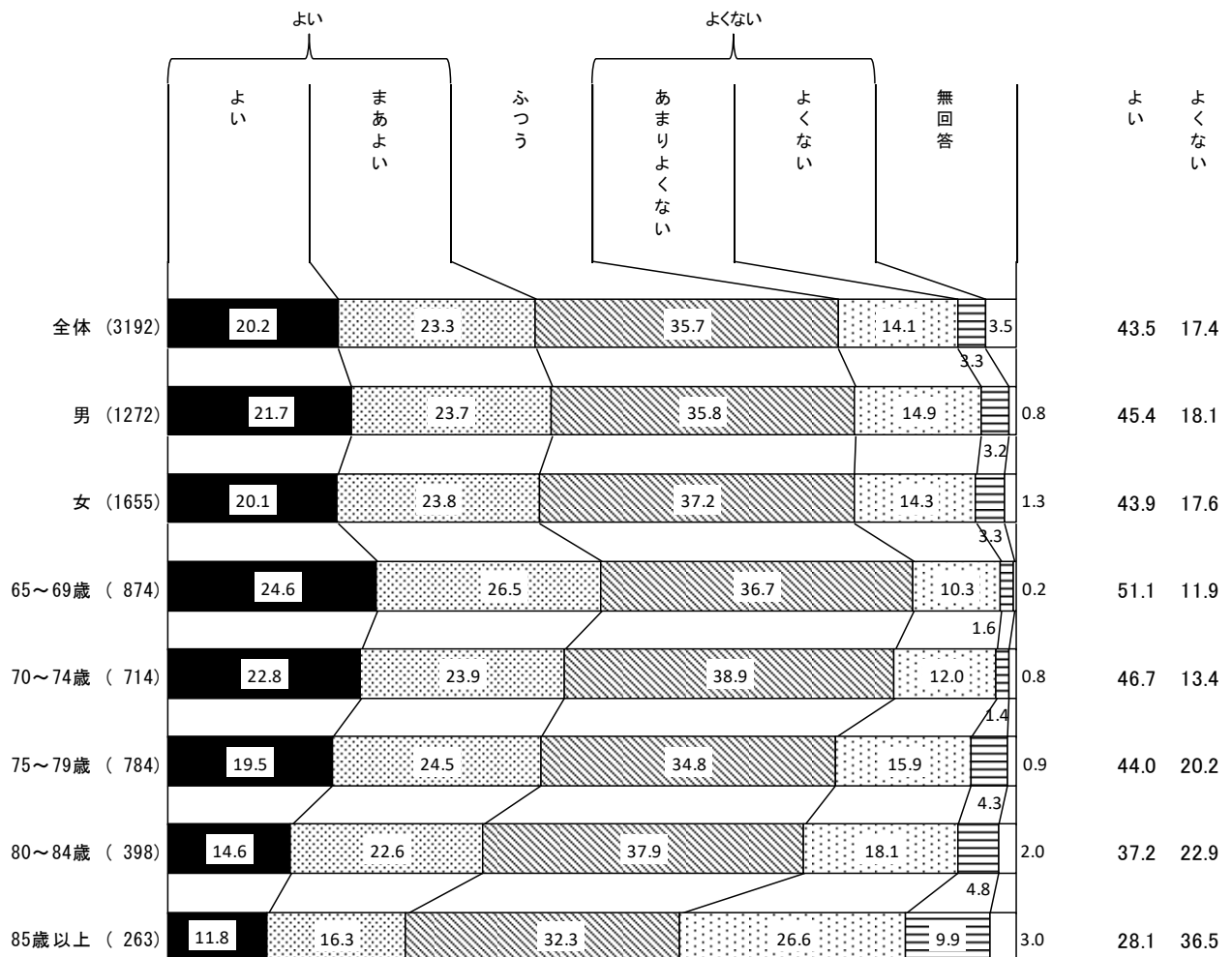
ア 健康意識 (性別、年齢階級別)

対象者全員に健康意識について聞いたところ、「ふつう」が35.7%で最も高く、次いで「まあよい」が23.3%、「よい」が20.2%となっている。

また、「よい」と「まあよい」を合わせた『よい』が43.5%、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた『よくない』が17.4%となっている。

健康意識について、年齢階級別でみると、『よい』は年齢階級が上がるにつれて、割合が低くなっている。(図表2-6)

図表 2-6 健康意識 (性別、年齢階級別)



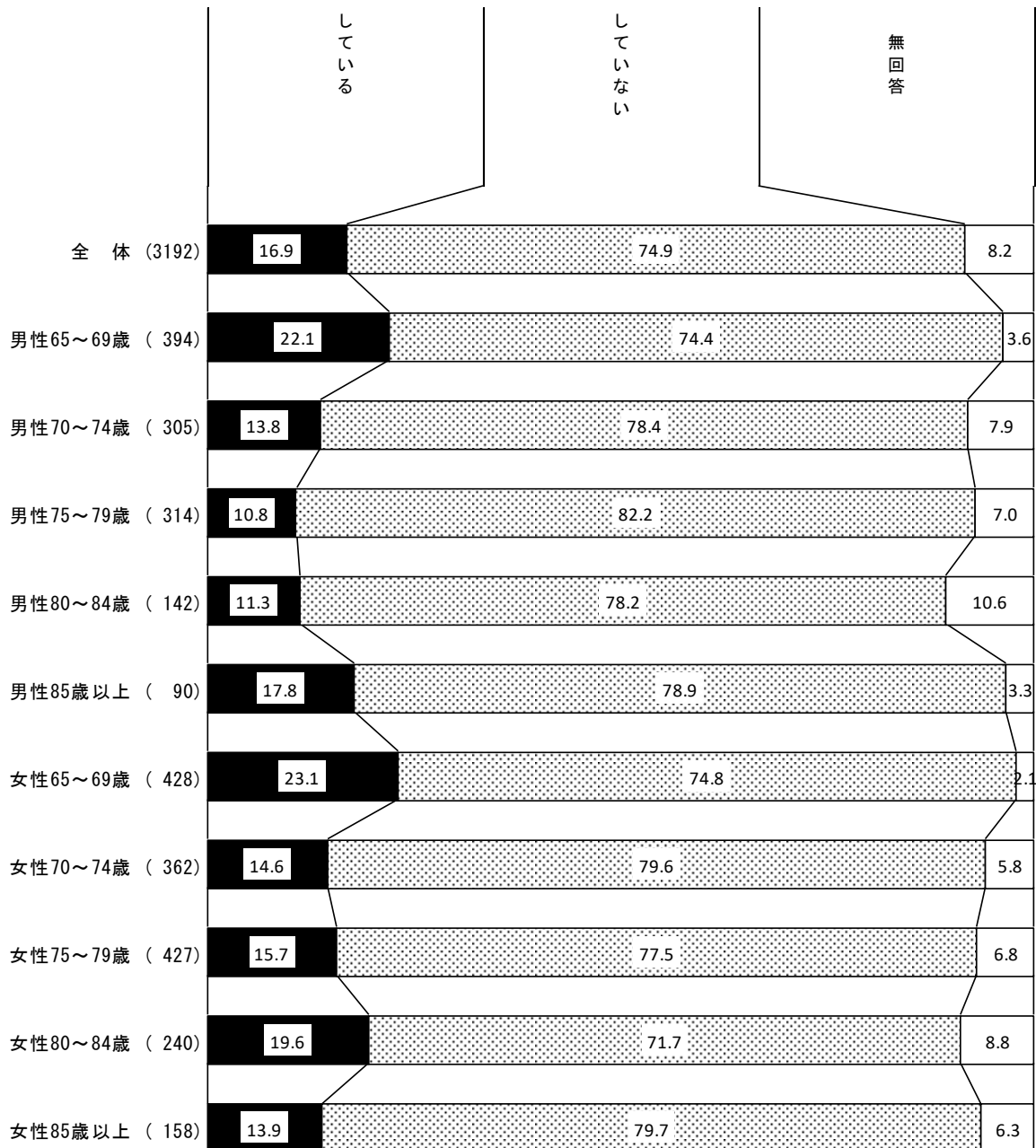
(7) 介護の状況 (問7)

ア 介護の状況 (性・年齢階級別)

対象者全員に介護の状況について聞いたところ、「している」が16.9%、「していない」が74.9%となっている。

介護の状況について、性・年齢階級別にみると、「している」は女性65～69歳が23.1%で最も高く、次いで男性65～69歳が22.1%、女性80～84歳が19.6%と続いている。(図表2-7)

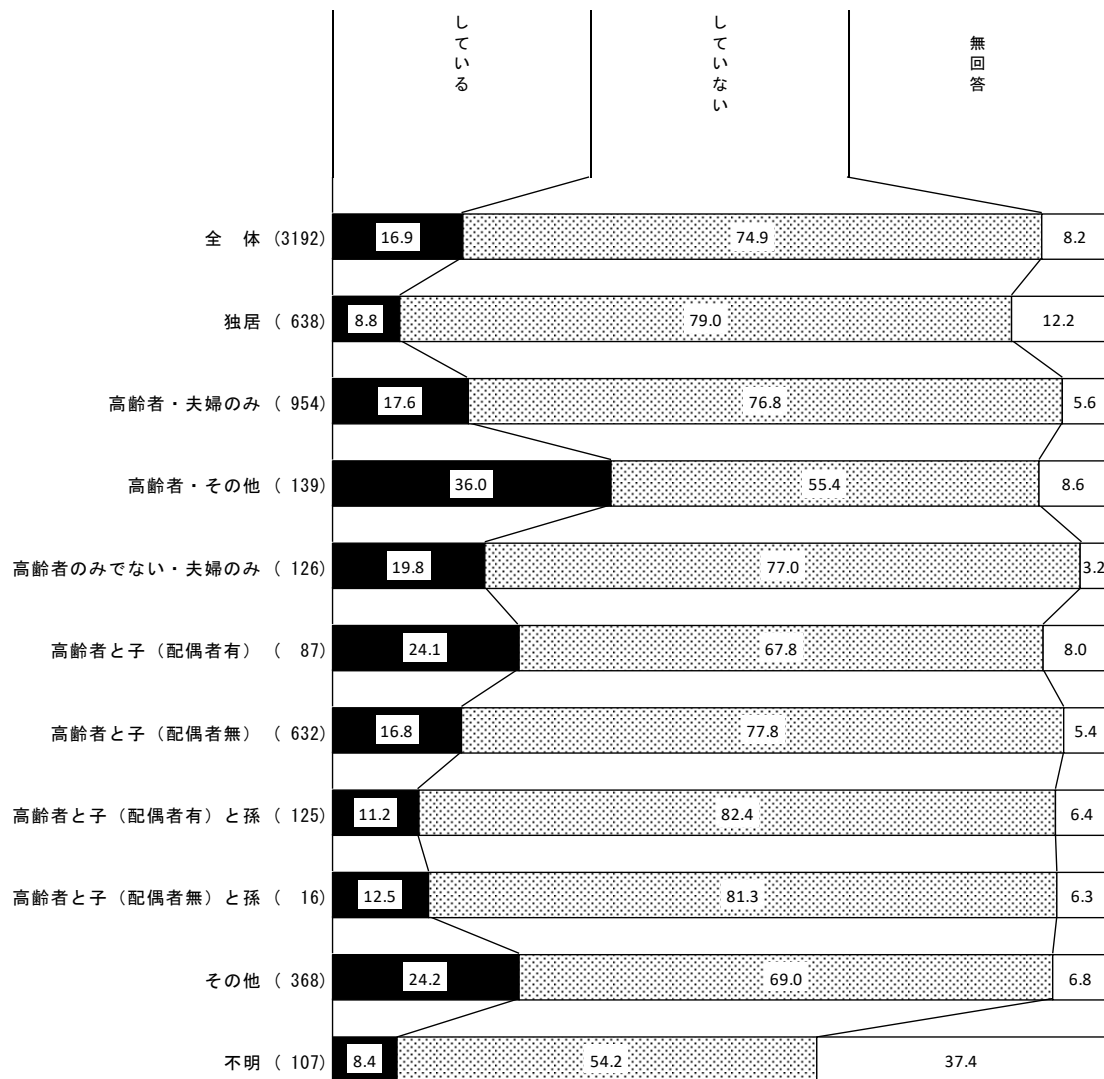
図表 2-7 介護の状況 (性・年齢階級別)



イ 介護の状況（世帯類型別）

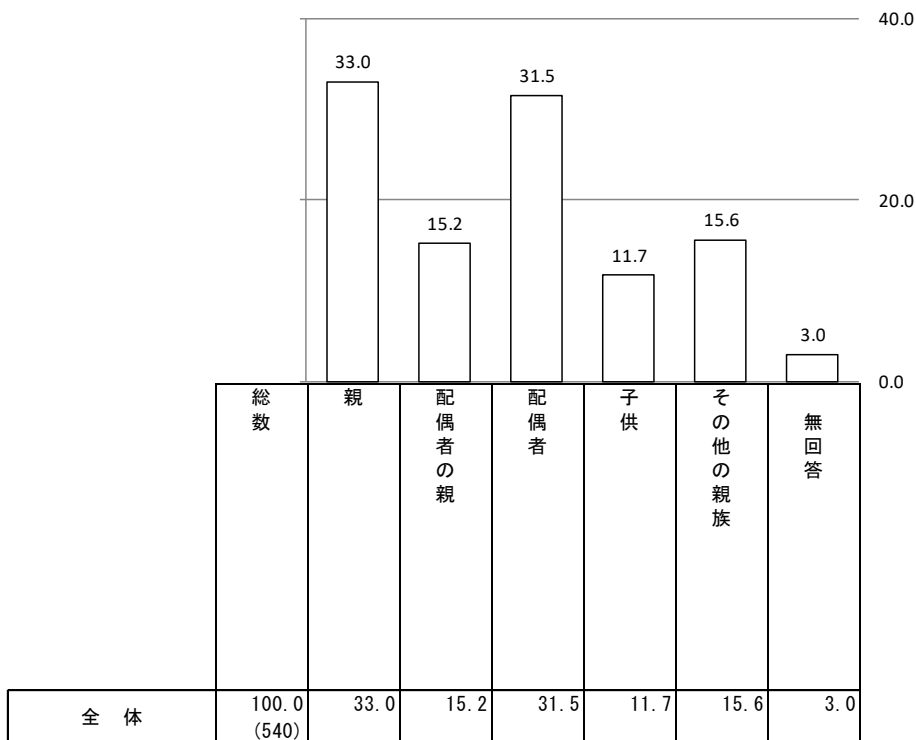
介護の状況について、世帯類型別にみると、「している」は高齢者のみ世帯（その他）が36.0%で最も高く、次いで高齢者のみでない世帯（高齢者と子（配偶者有））が24.1%、高齢者のみでない世帯（夫婦のみ）が19.8%と続いている。（図表2-7-2）

図表 2-7-2 介護の状況（世帯類型別）



また、介護をしている人（540人）に介護をしている相手を聞いたところ、「親」が33.0%で最も高く、次いで「配偶者」が31.5%、「その他の親族」が15.6%と続いている。（図表2-7-3）

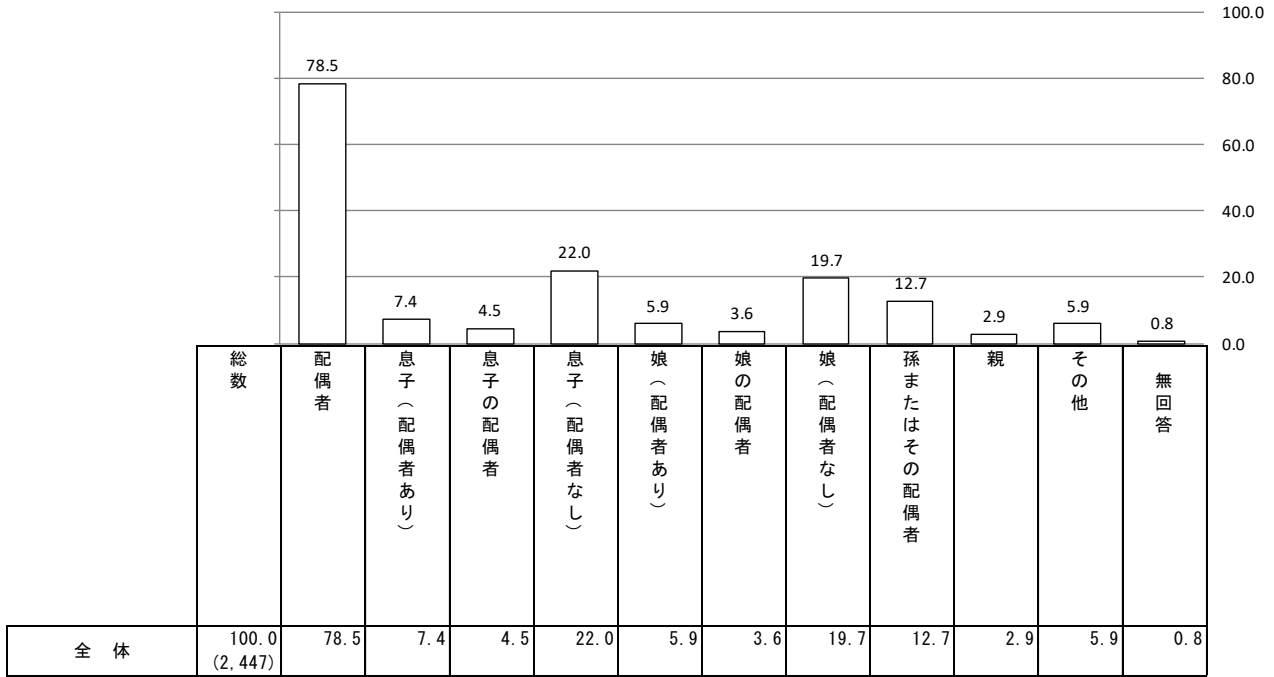
図表 2-7-3 介護をしている相手



(8) 同居家族 (問8)

同居家族について聞いたところ、「配偶者」が78.5%で最も高く、次いで「息子(配偶者なし)」が22.0%、「娘(配偶者なし)」が19.7%となっている。(図表2-8)

図表 2-8 同居家族



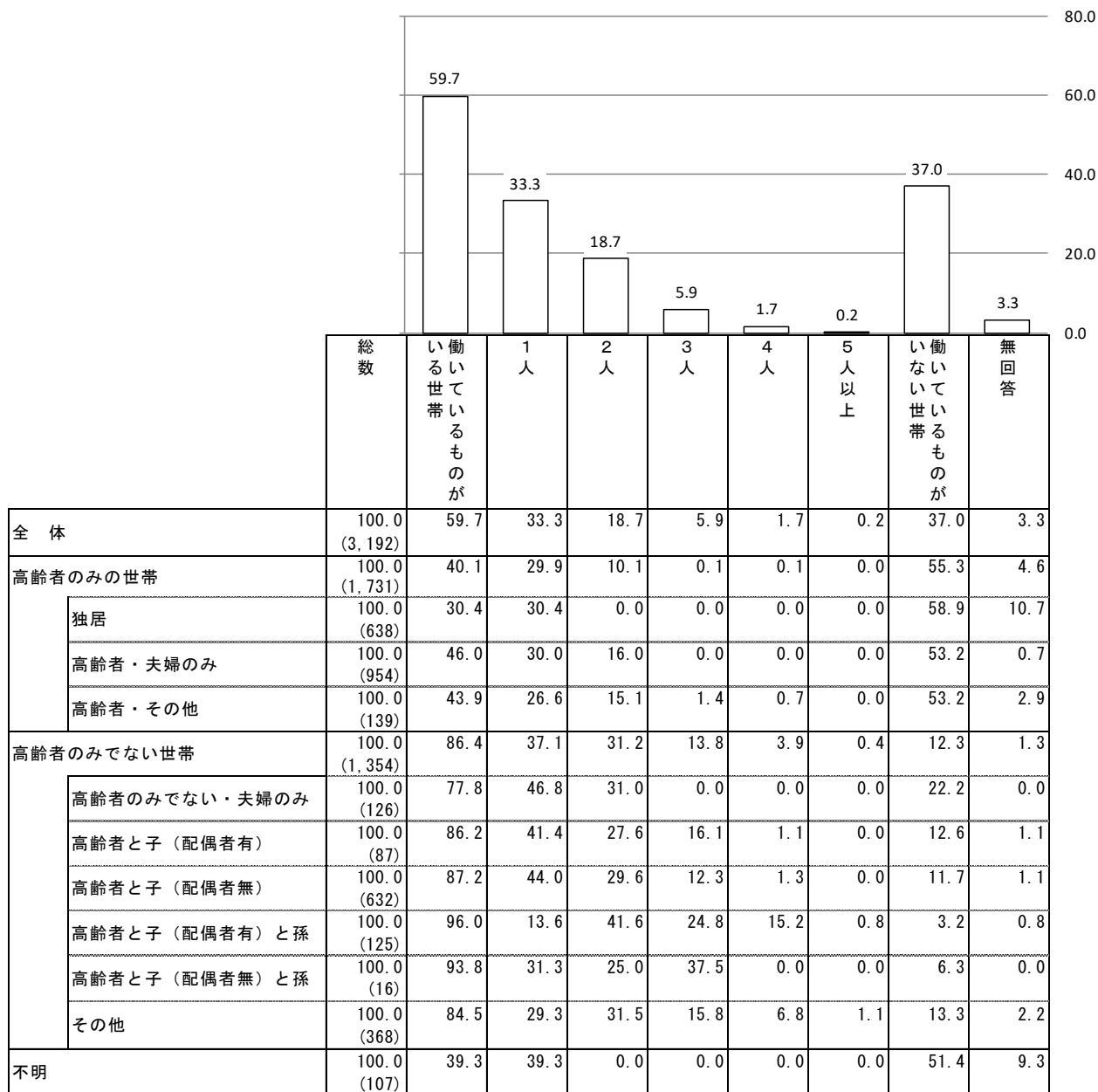
世帯類型「独居」「不明」を除く2,447人が集計対象

ア 世帯の就業状況（就業人数）（世帯類型別）

世帯の中で働いているものがあるかどうかをみると、「働いているものがある世帯」は59.7%、「働いているものがない世帯」は37.0%であった。

世帯類型別にみると、「働いているものがある世帯」の割合は、高齢者のみの世帯が40.1%、高齢者のみでない世帯は86.4%で、高齢者のみでない世帯の方が46.3ポイント高くなっている。
（図表 2-8-1）

図表 2-8-1 同居家族の就業状況

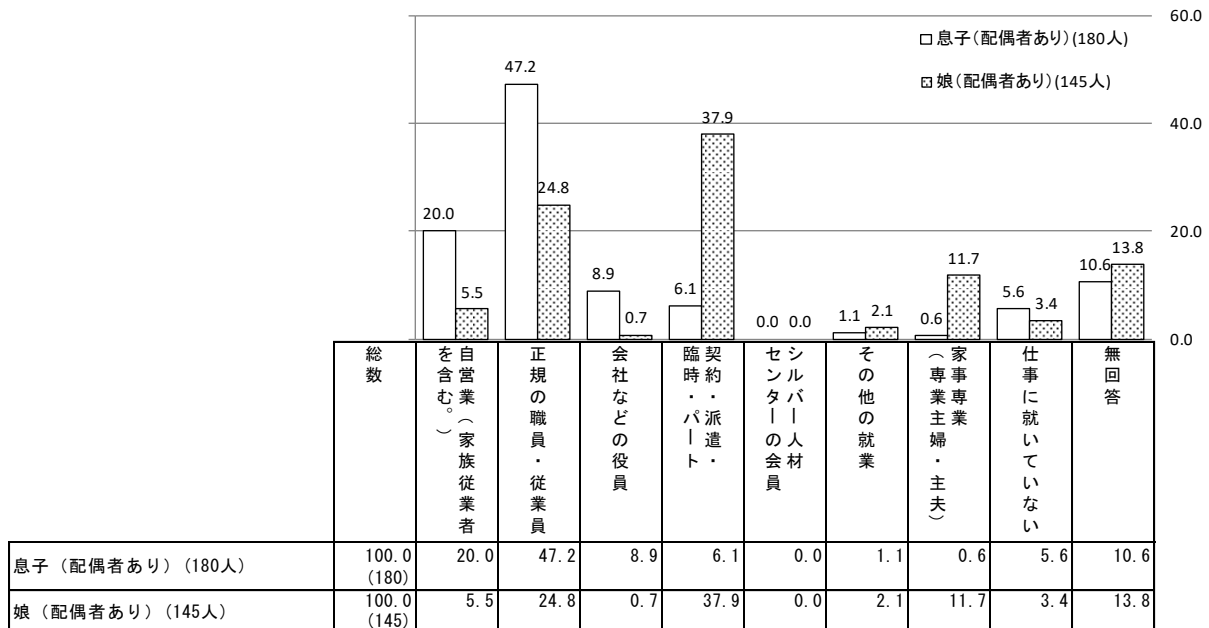


イ 同居している子供の就業状況

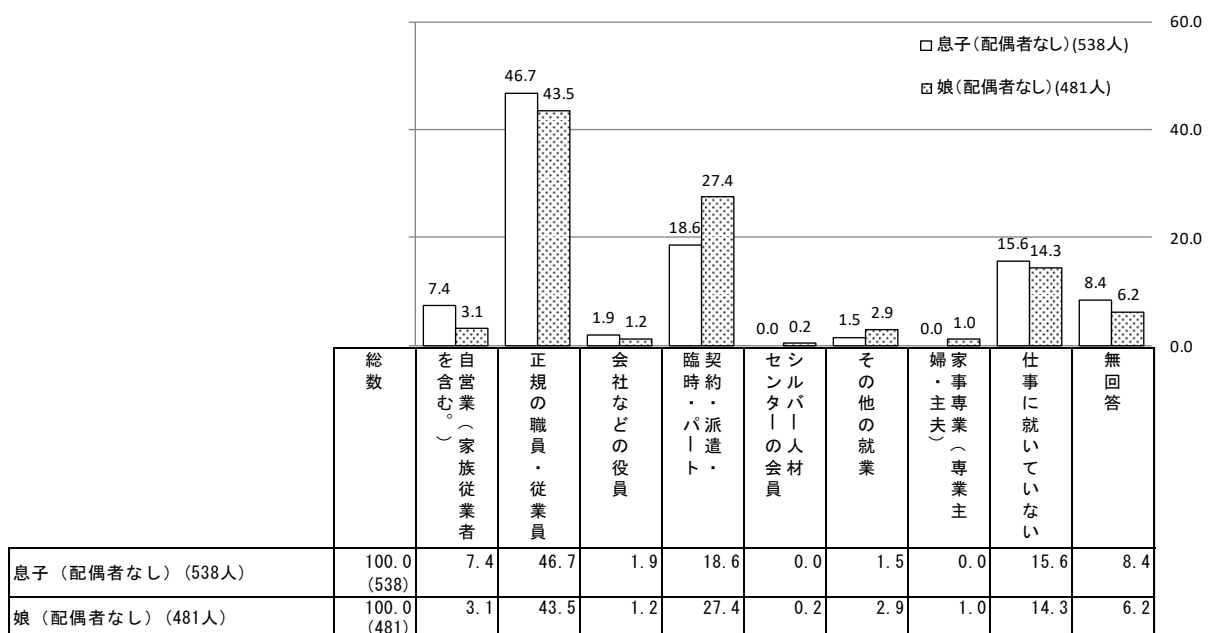
子供と一緒に住んでいる人（1,132人）に、子供の就業状況を聞いたところ、娘（配偶者あり）を除き、「正規の職員・従業員」の割合が最も高くなっている（43.5%～47.2%）。娘（配偶者あり）は「契約・派遣・臨時・パート」が37.9%で最も高くなっている。

また、「仕事に就いていない」の割合は息子（配偶者なし）が15.6%、娘（配偶者なし）が14.3%とそれぞれ配偶者ありよりも高くなっている。（図表2-8-2、図表2-8-3）

図表 2-8-2 同居している子供（配偶者あり）の就業状況



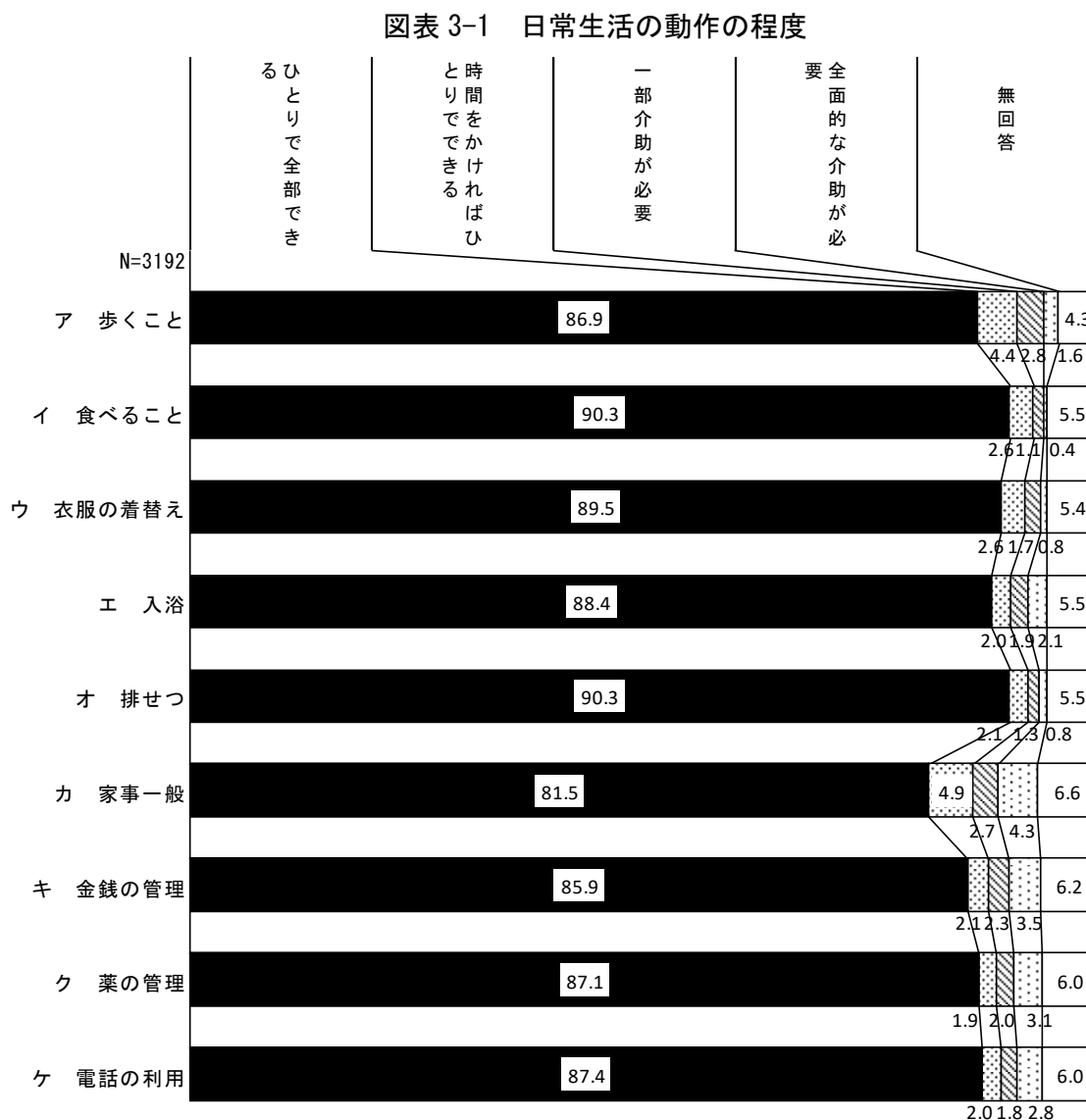
図表 2-8-3 同居している子供（配偶者なし）の就業状況



第3章 健康

(1) 日常生活の動作の程度 (問9)

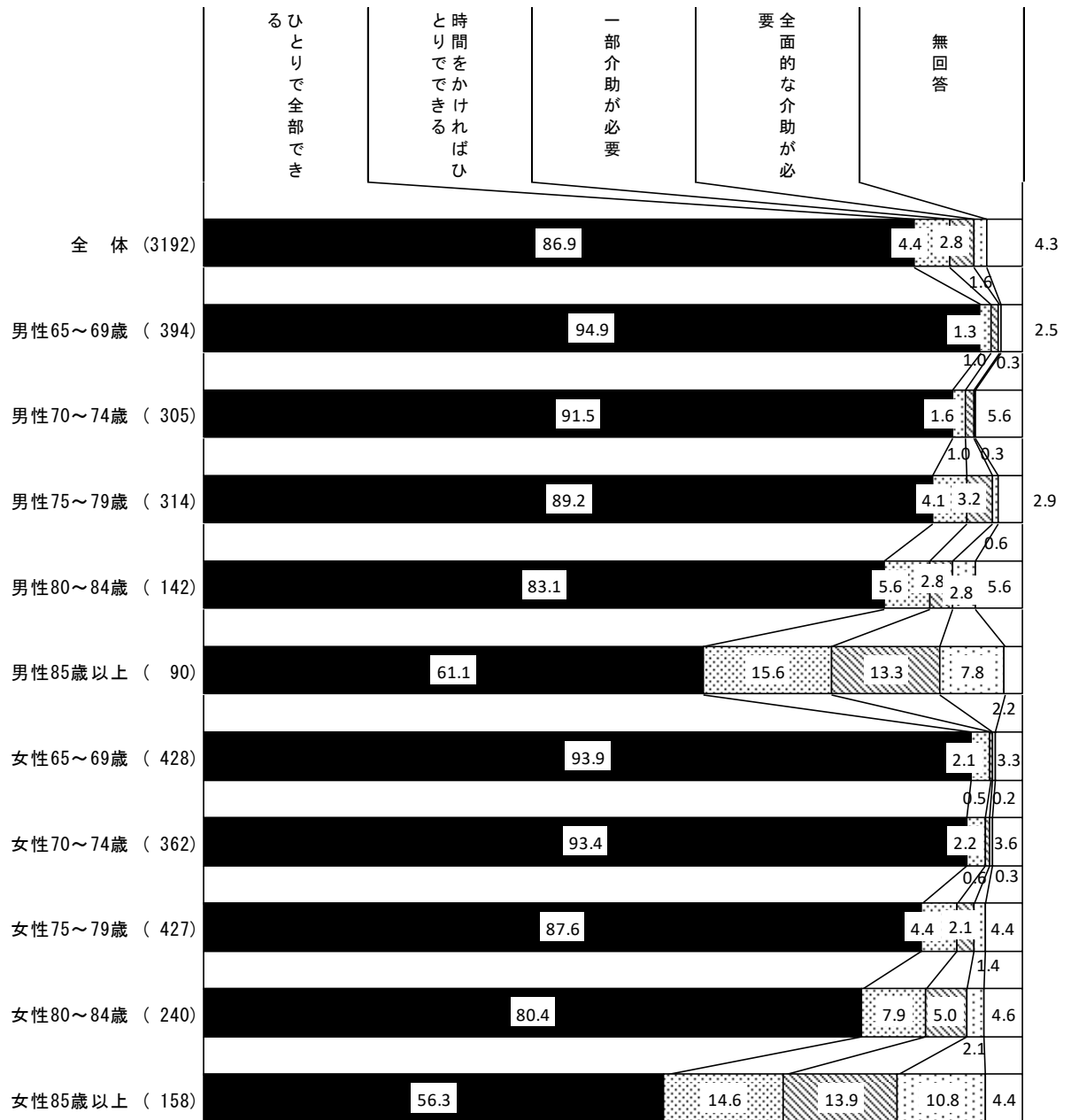
対象者全員に日常生活の動作の程度について聞いたところ、すべての項目で「ひとりで全部できる」が8割以上となっている。(図表3-1)



ア 日常生活の動作の程度…歩くこと（性・年齢階級別）

歩くことについて動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-1）

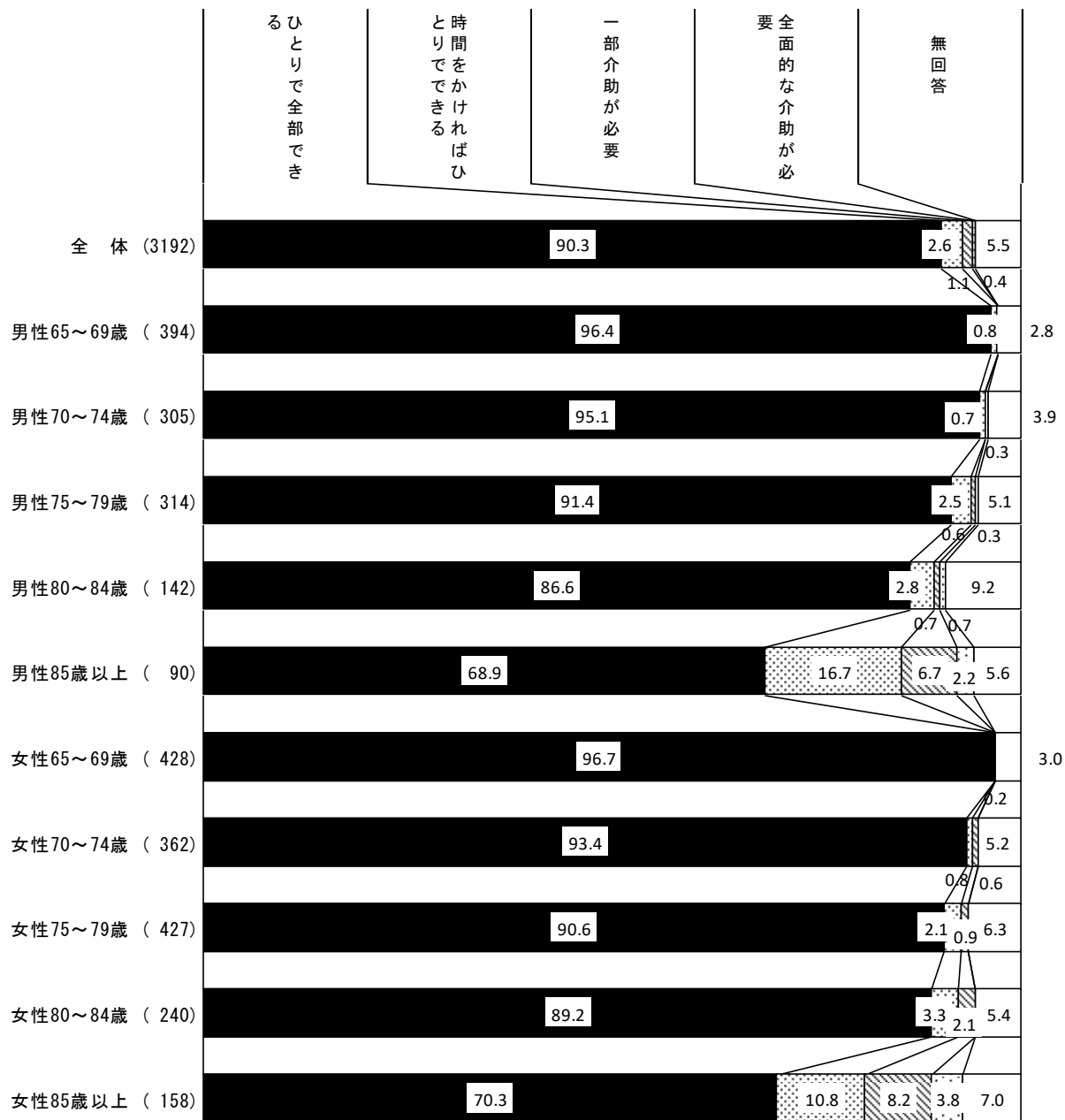
図表 3-1-1 日常生活の動作の程度…歩くこと（性・年齢階級別）



イ 日常生活の動作の程度…食べること（性・年齢階級別）

食べることについて動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部でき」の割合が低くなっている。（図表 3-1-2）

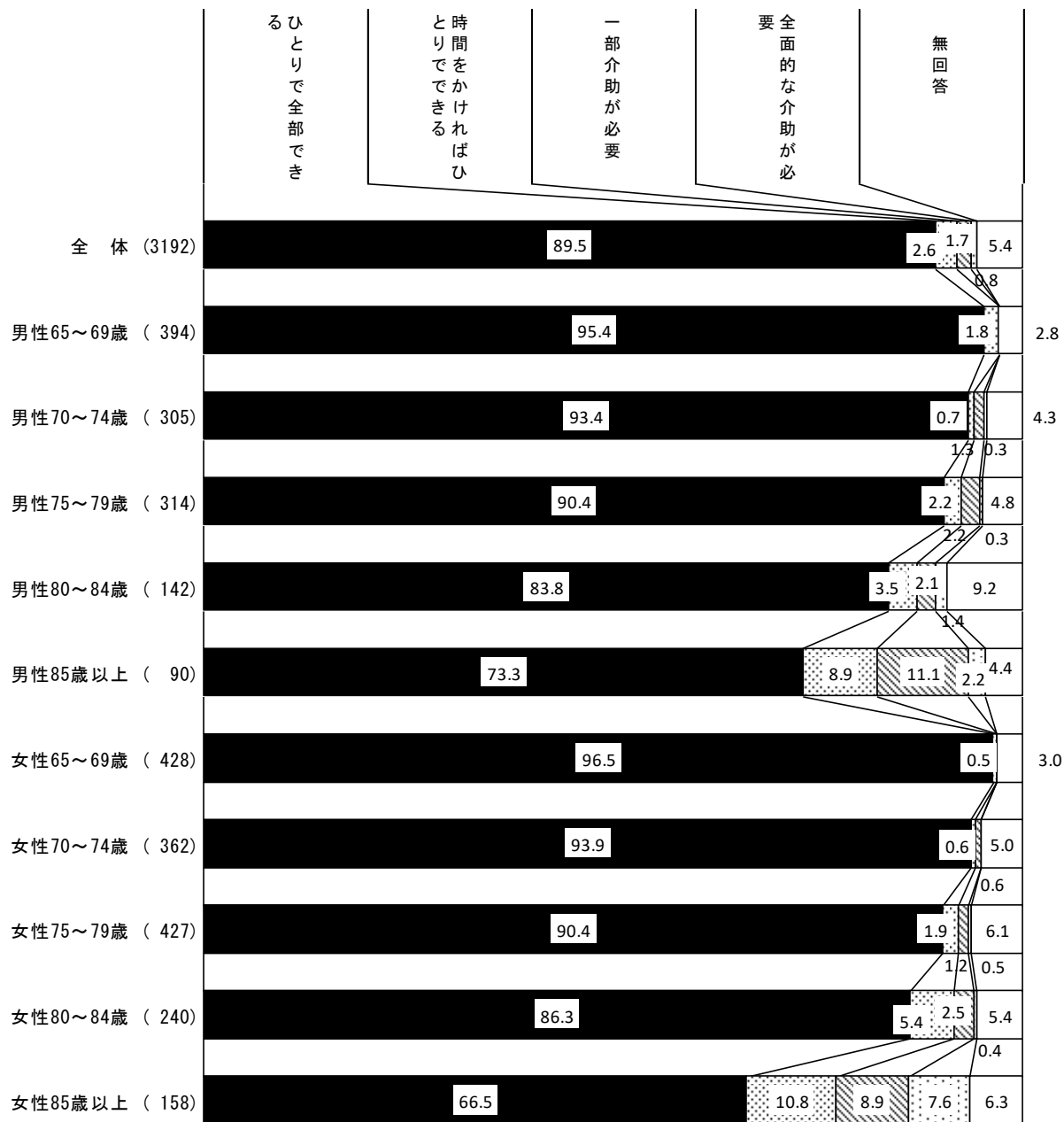
図表 3-1-2 日常生活の動作の程度…食べること（性・年齢階級別）



ウ 日常生活の動作の程度…衣服の着替え（性・年齢階級別）

衣服の着替えについて動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-3）

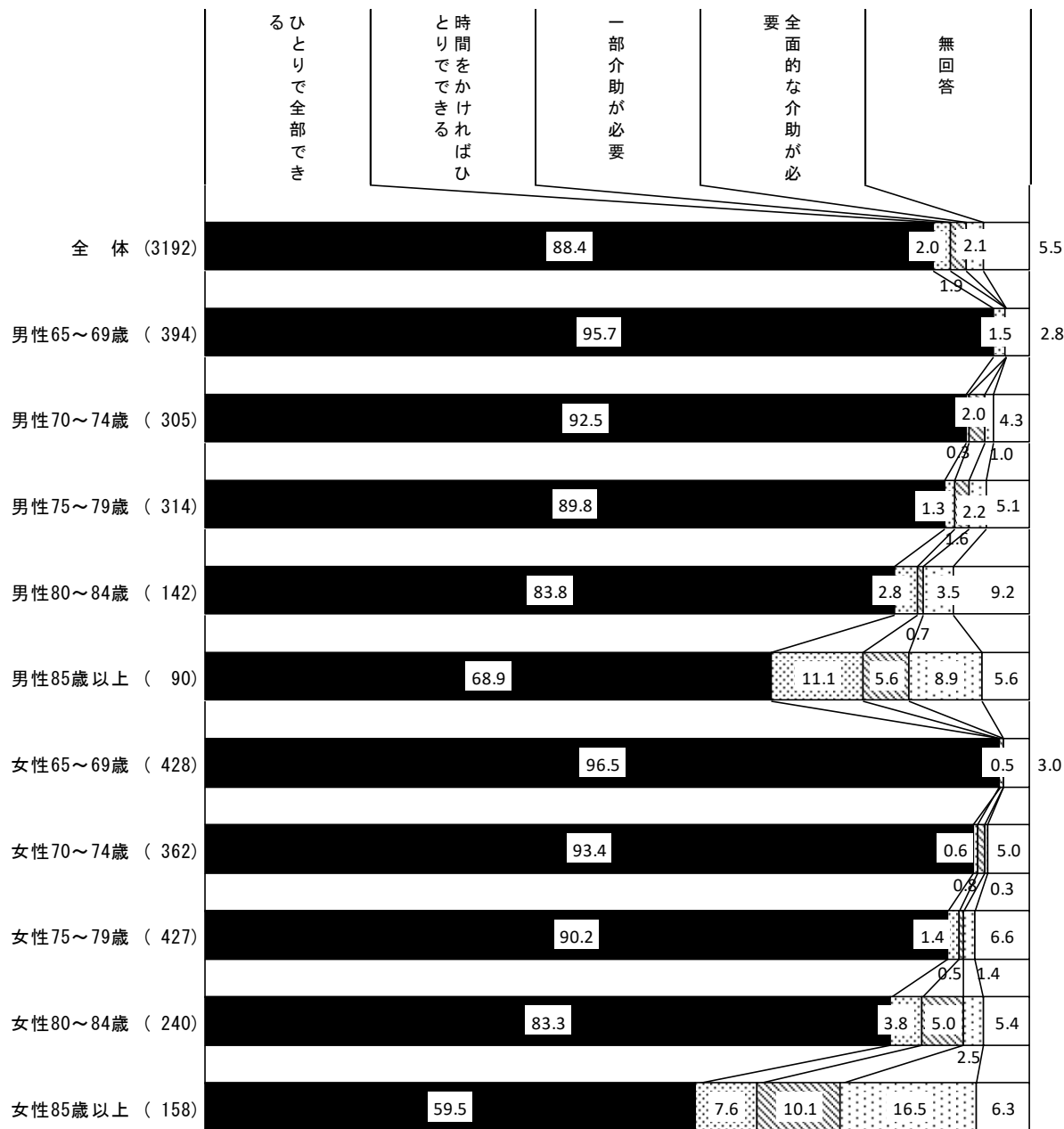
図表 3-1-3 日常生活の動作の程度…衣服の着替え（性・年齢階級別）



エ 日常生活の動作の程度…入浴（性・年齢階級別）

入浴について動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-4）

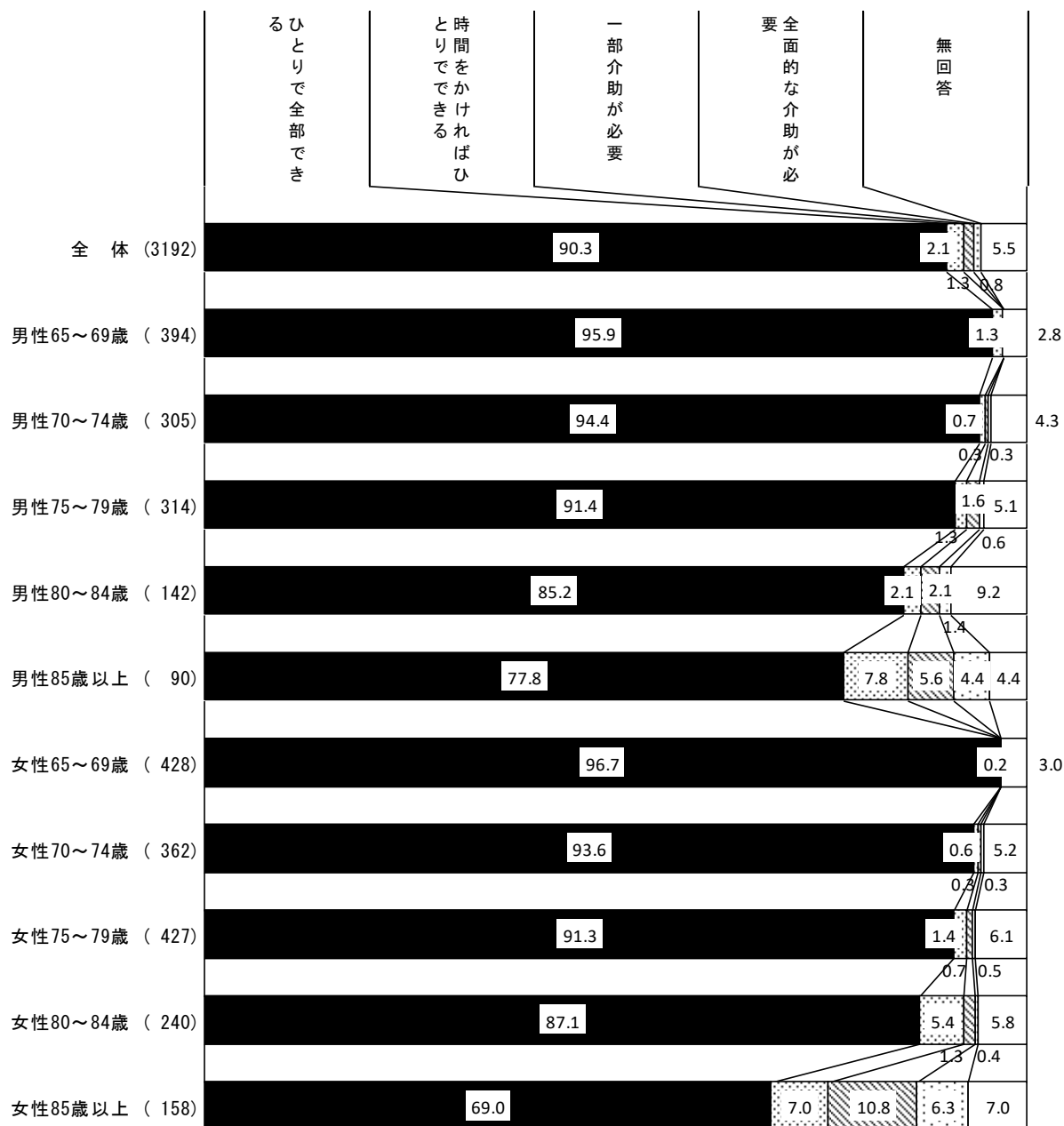
図表 3-1-4 日常生活の動作の程度…入浴（性・年齢階級別）



オ 日常生活の動作の程度…排せつ（性・年齢階級別）

排せつについて動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-5）

図表 3-1-5 日常生活の動作の程度…排せつ（性・年齢階級別）

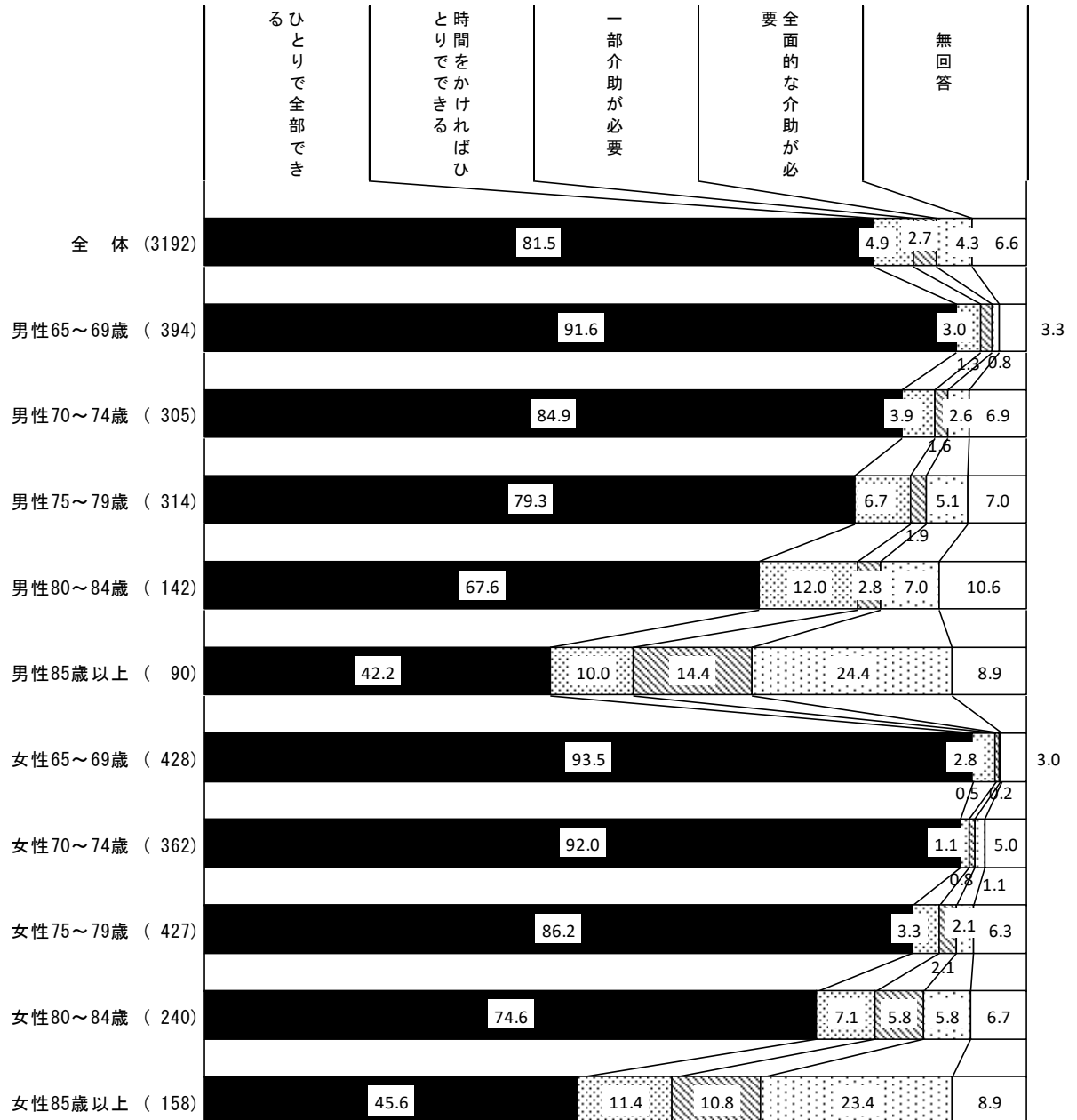


カ 日常生活の動作の程度…家事一般（性・年齢階級別）

家事一般について動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。特に85歳以上では割合が低く、5割以下となっている。

（図表 3-1-6）

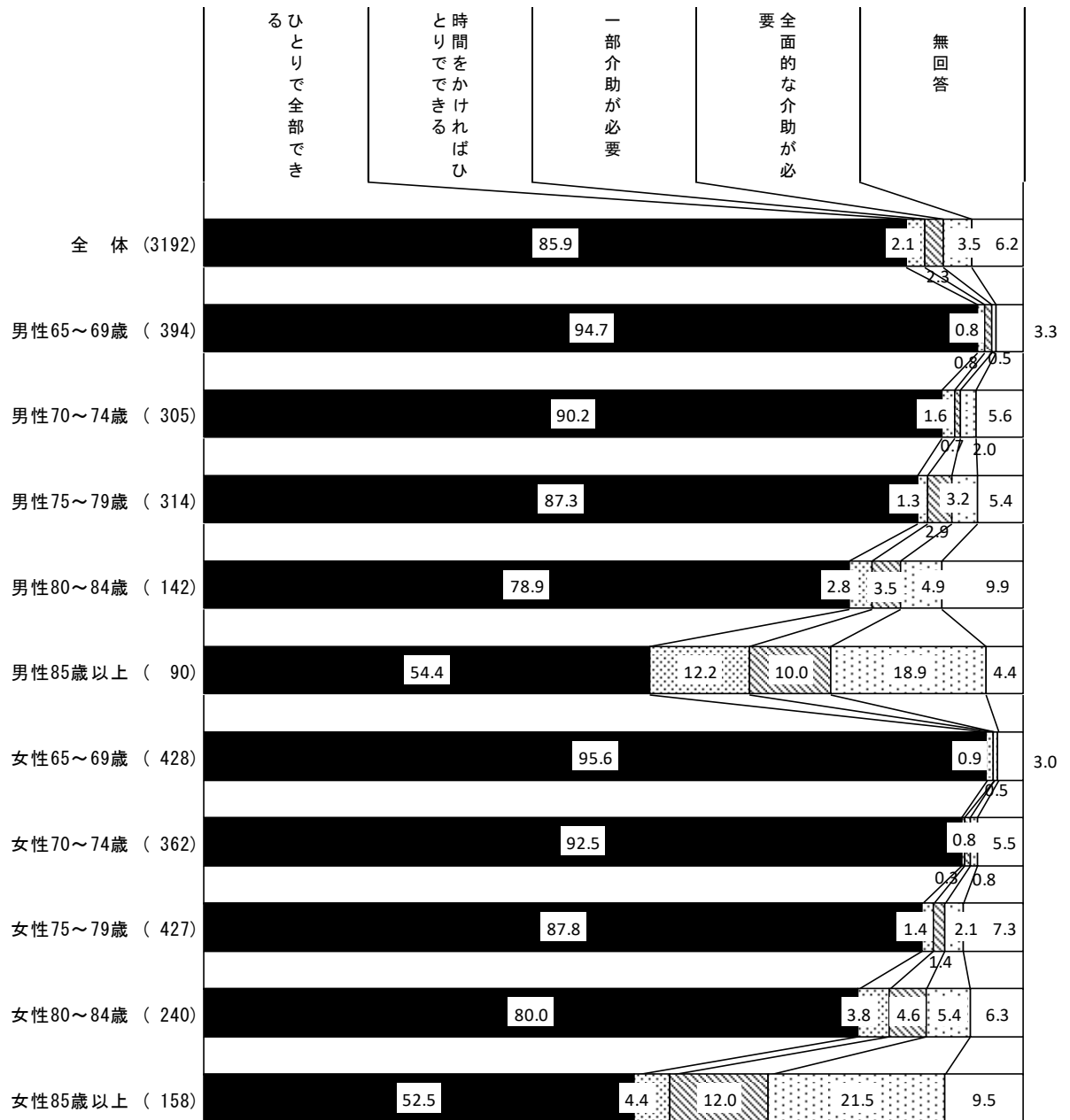
図表 3-1-6 日常生活の動作の程度…家事一般（性・年齢階級別）



キ 日常生活の動作の程度…金銭の管理（性・年齢階級別）

金銭の管理について動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-7）

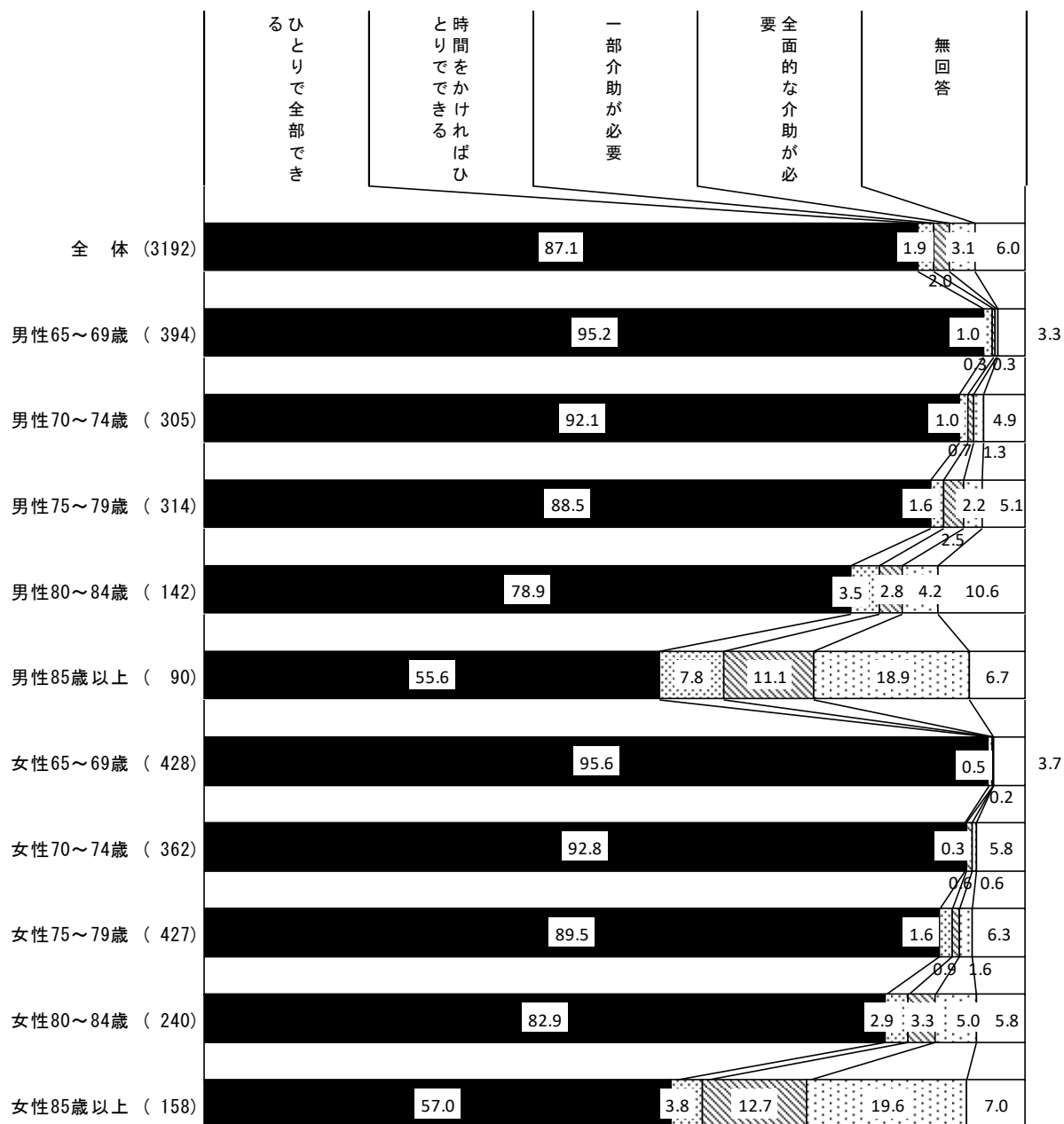
図表 3-1-7 日常生活の動作の程度…金銭の管理（性・年齢階級別）



ク 日常生活の動作の程度…薬の管理（性・年齢階級別）

薬の管理について動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部できる」の割合が低くなっている。（図表 3-1-8）

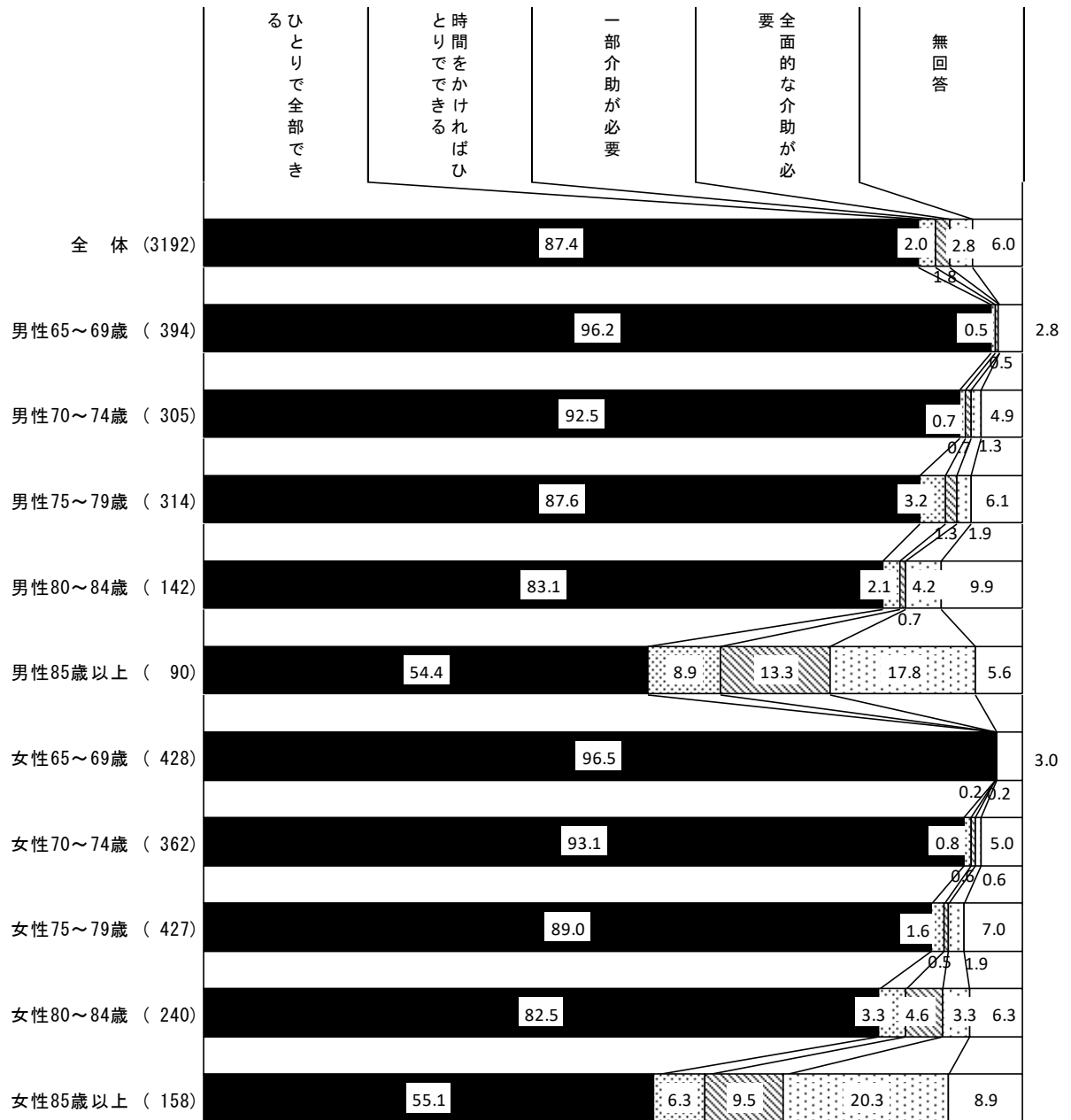
図表 3-1-8 日常生活の動作の程度…薬の管理（性・年齢階級別）



ケ 日常生活の動作の程度…電話の利用（性・年齢階級別）

電話の利用について動作の程度を聞いたところ、男女ともに年齢が上がるにつれて、「ひとりで全部でき」の割合が低くなっている。（図表 3-1-9）

図表 3-1-9 日常生活の動作の程度…電話の利用（性・年齢階級別）



(2) 物忘れの状況 (問 10)

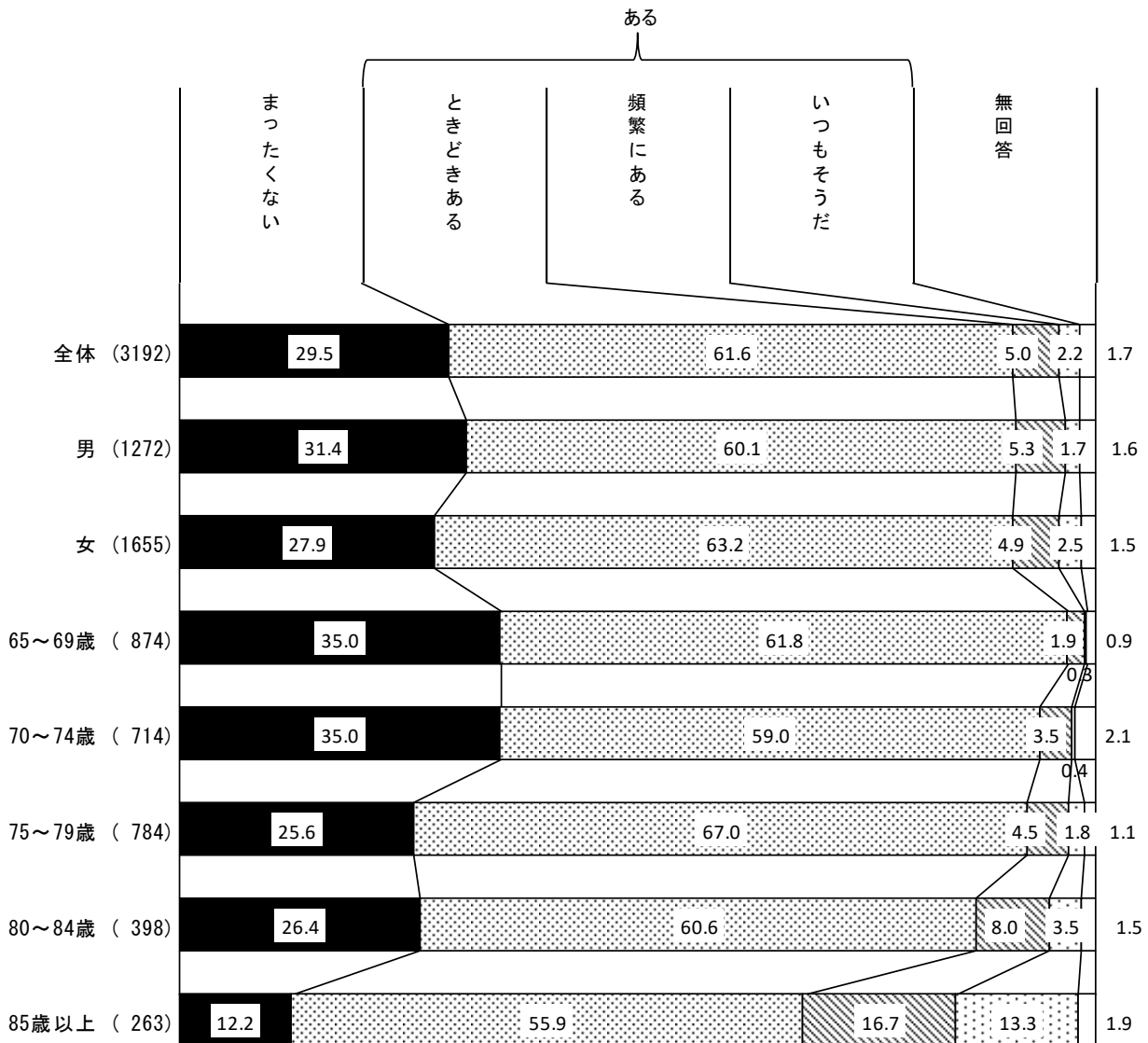
ア 物忘れの状況 (性別、年齢階級別)

対象者全員に物忘れの状況について聞いたところ、「ときどきある」が61.6%で最も高く、次いで「まったくない」が29.5%となっている。

物忘れの状況について、性別で見ると、「まったくない」は女性が27.9%、男性が31.4%で男性の方が3.5ポイント上回っている。

年齢階級別で見ると、年齢階級が上がるにつれて「まったくない」の割合が低くなり、「ときどきある」、「頻繁にある」、「いつもそうだ」を合わせた『ある』が85歳以上では85.9%と高くなっている。(図表 3-2)

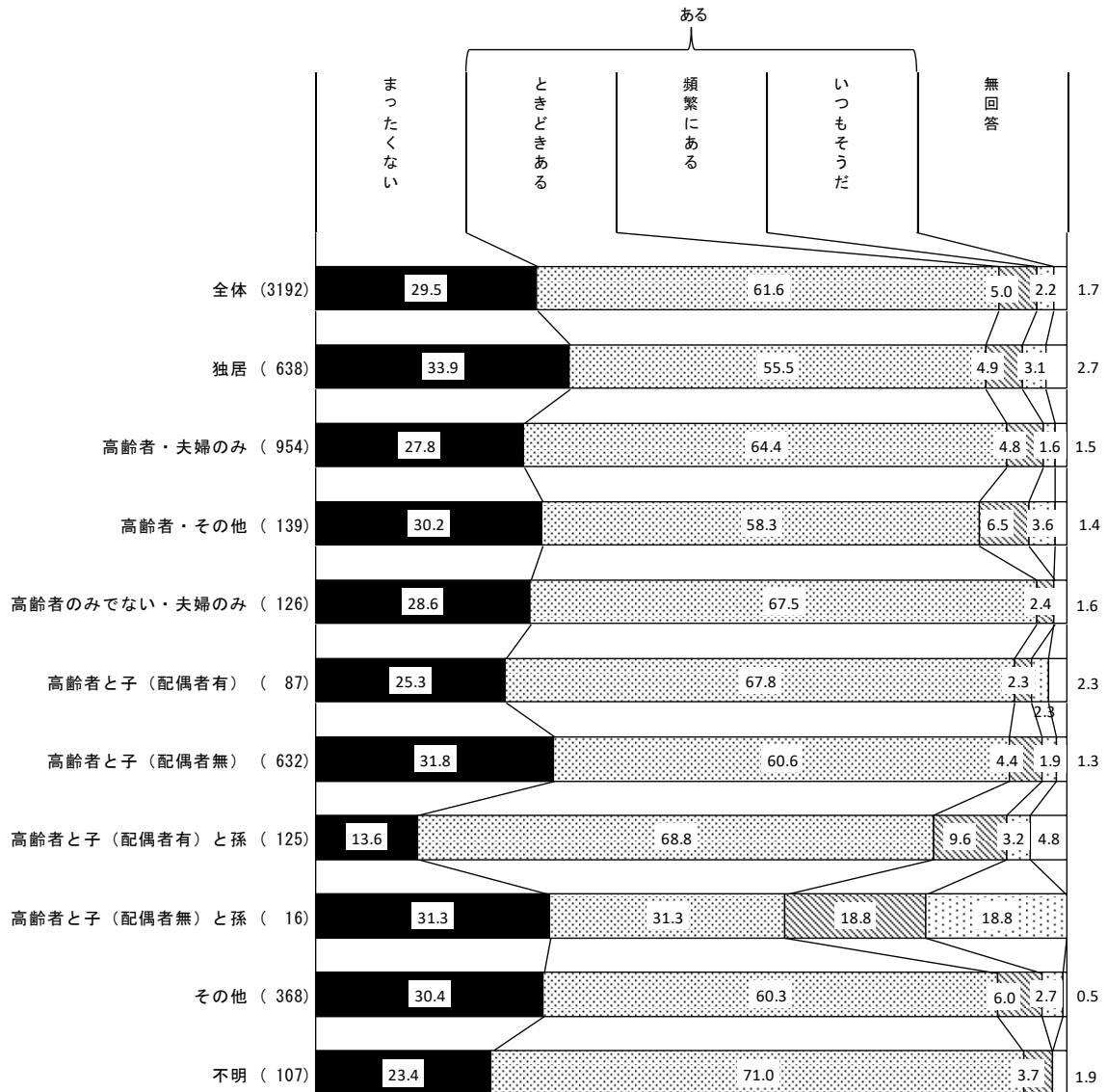
図表 3-2 物忘れの状況 (性別、年齢階級別)



イ 物忘れの状況（世帯類型別）

物忘れの状況について、世帯類型別でみると、サンプル数の少ない「高齢者と子(配偶者無)と孫」を除くと、「まったくない」が3割前後、「ときどきある」が6割前後になっている。ただし「高齢者と子(配偶者有)と孫」では「まったくない」が1割強(13.6%)で、比較的低くなっている。（図表 3-2-1）

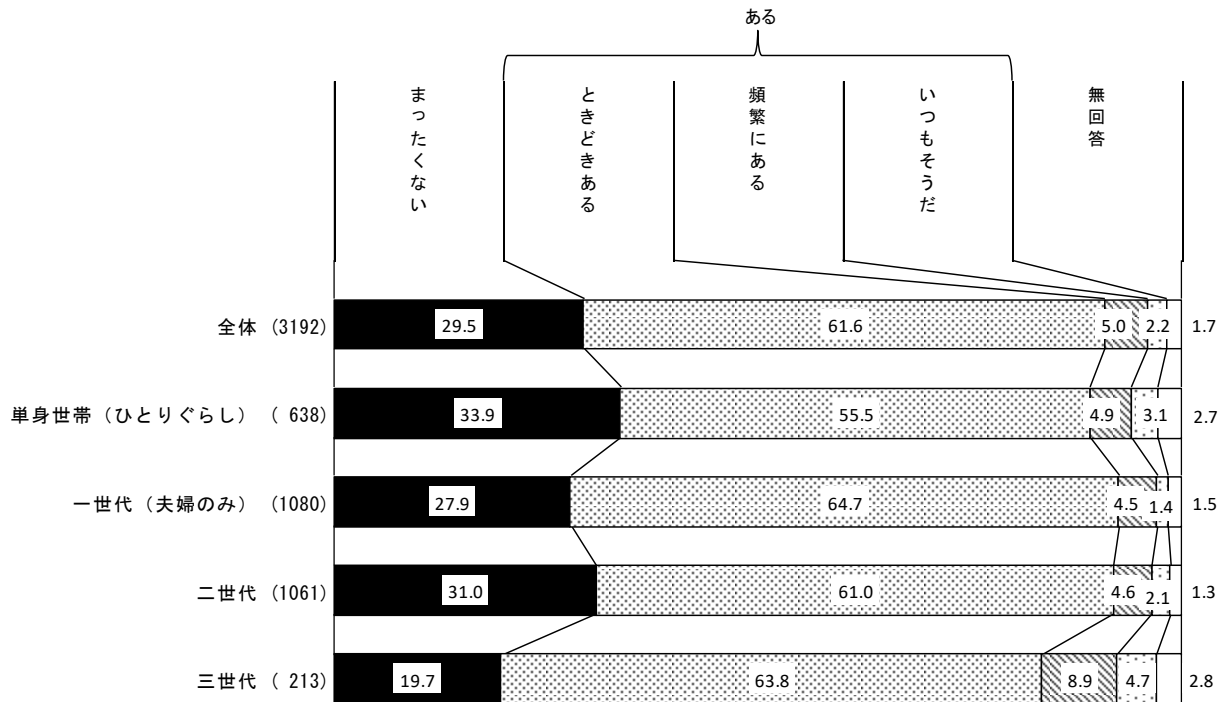
図表 3-2-1 物忘れの状況（世帯類型別）



ウ 物忘れの状況（世帯構成（世代）別）

物忘れの状況について、世帯構成（世代）別でみると、各世帯構成で「まったくない」が3割前後、「ときどきある」が6割前後になっている。ただし「三世代」では「まったくない」が2割弱(19.7%)で、比較的低くなっている。（図表 3-2-2）

図表 3-2-2 物忘れの状況（世帯構成（世代）別）



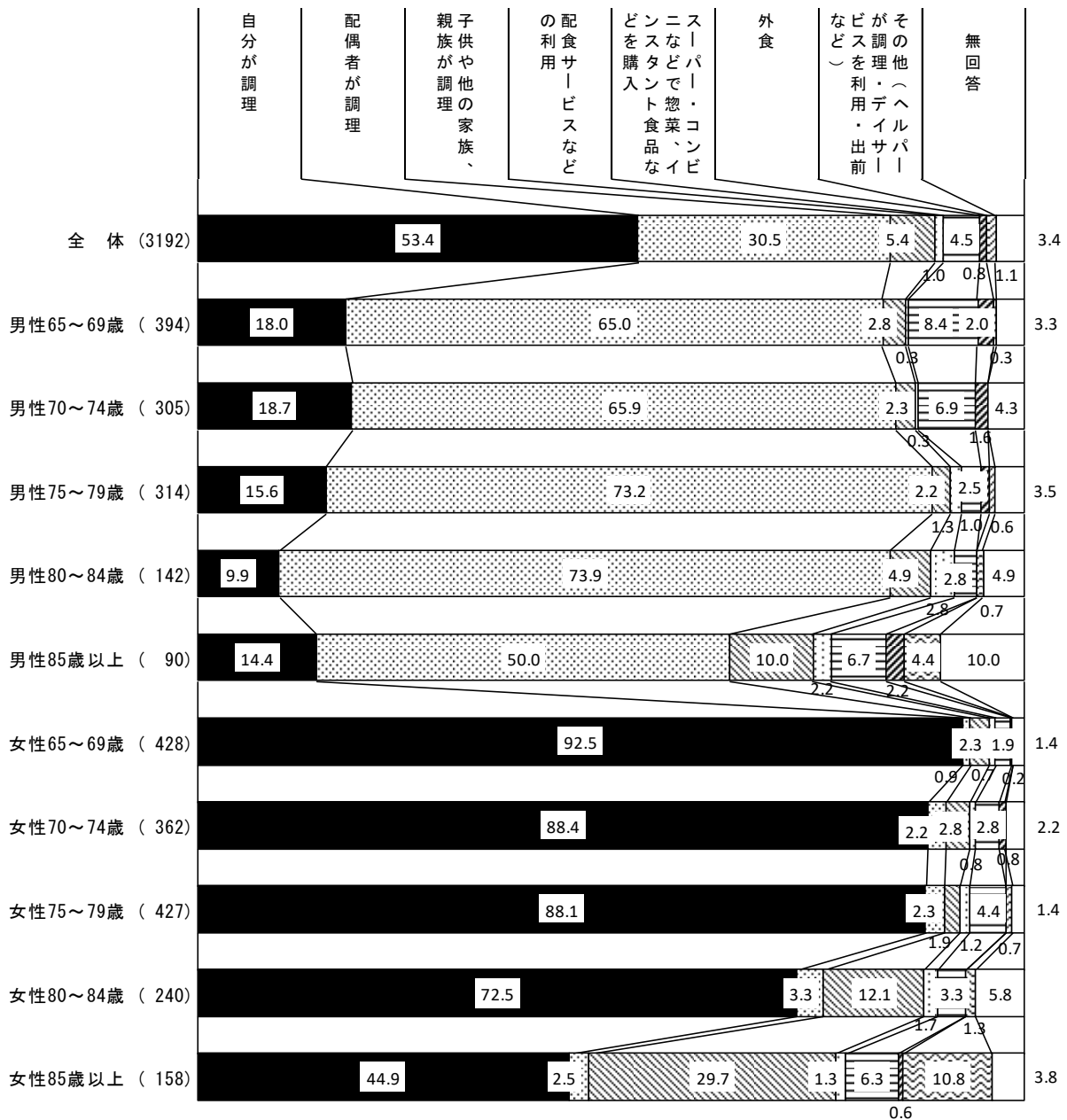
(3) 食事の状況 (問 11)

ア 食事の状況 (性・年齢階級別)

対象者全員に食事の状況について聞いたところ、「自分が調理」が 53.4%で最も高く、次いで「配偶者が調理」が 30.5%となっている。

食事の状況について、性・年齢階級別でみると、男性は「自分が調理」が 1 割前後、「配偶者が調理」が過半数、女性は 85 歳未満がいずれも「自分が調理」が 7 割以上で最も高い。ただし、女性の 85 歳以上では「自分が調理」が半数に満たず(44.9%)、代わって「子供や他の家族・親族が調理」が 3 割弱(29.7%)まで高くなっている。(図表 3-3)

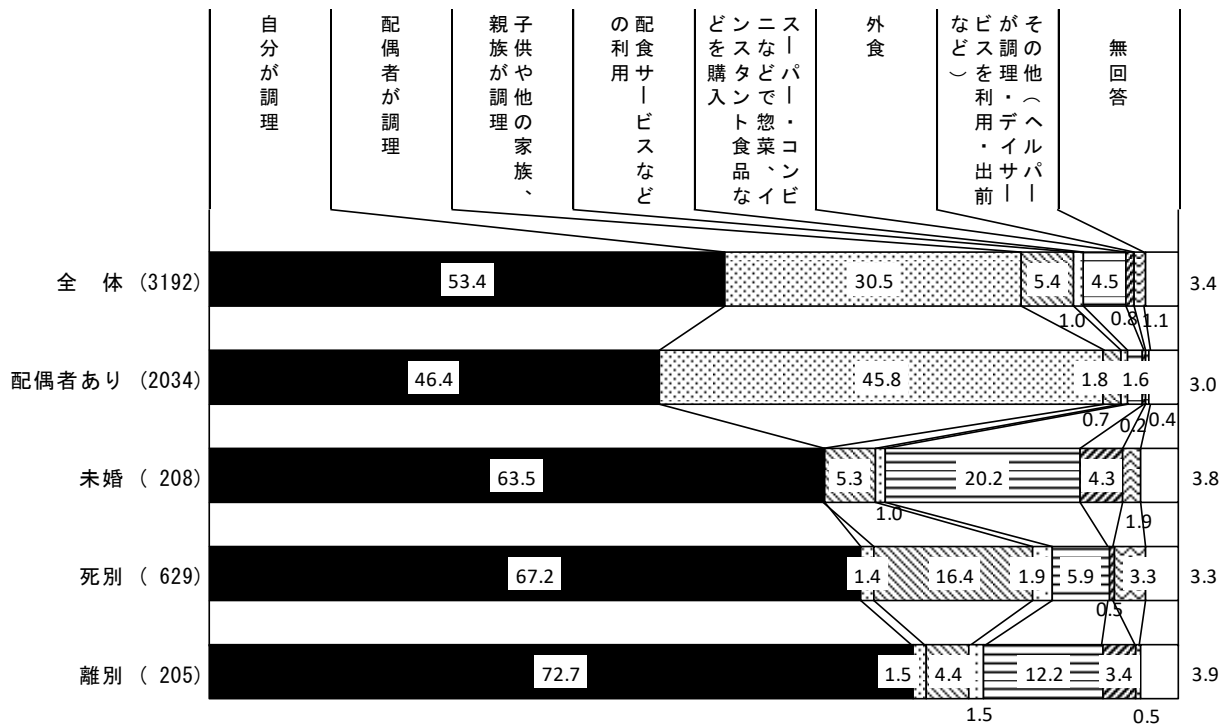
図表 3-3 食事の状況 (性・年齢階級別)



イ 食事の状況（配偶者の有無別）

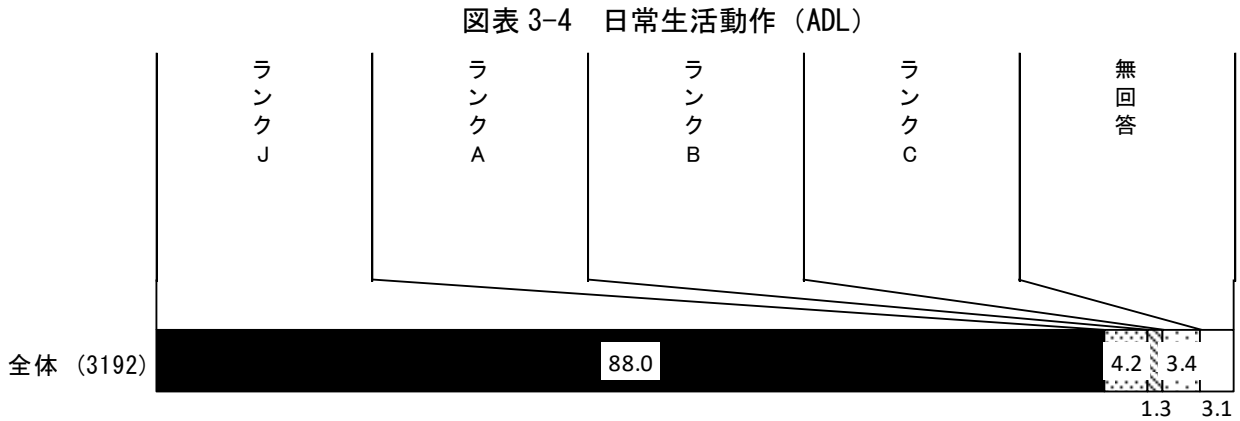
食事の状況について、配偶者の有無別でみると、「配偶者あり」は「自分が調理」（46.4%）と「配偶者が調理」（45.8%）がほぼ拮抗しているが、他は「自分が調理」が6割強～7割強で最も高くなっている。なお、集計上「死別」に「配偶者が調理」回答が1.4%存在する矛盾の理由については不明である。（図表 3-3-1）

図表 3-3-1 食事の状況（配偶者の有無別）



(4) 日常生活動作 (ADL) (問 12)

日常生活動作 (ADL) を総合的にみるため、下記の図表 3-4-1 の段階に分けて聞いたところ、「ランク J (日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる)」の割合が 88.0%で、自立した高齢者の割合は約 9 割となっている。(図表 3-4)



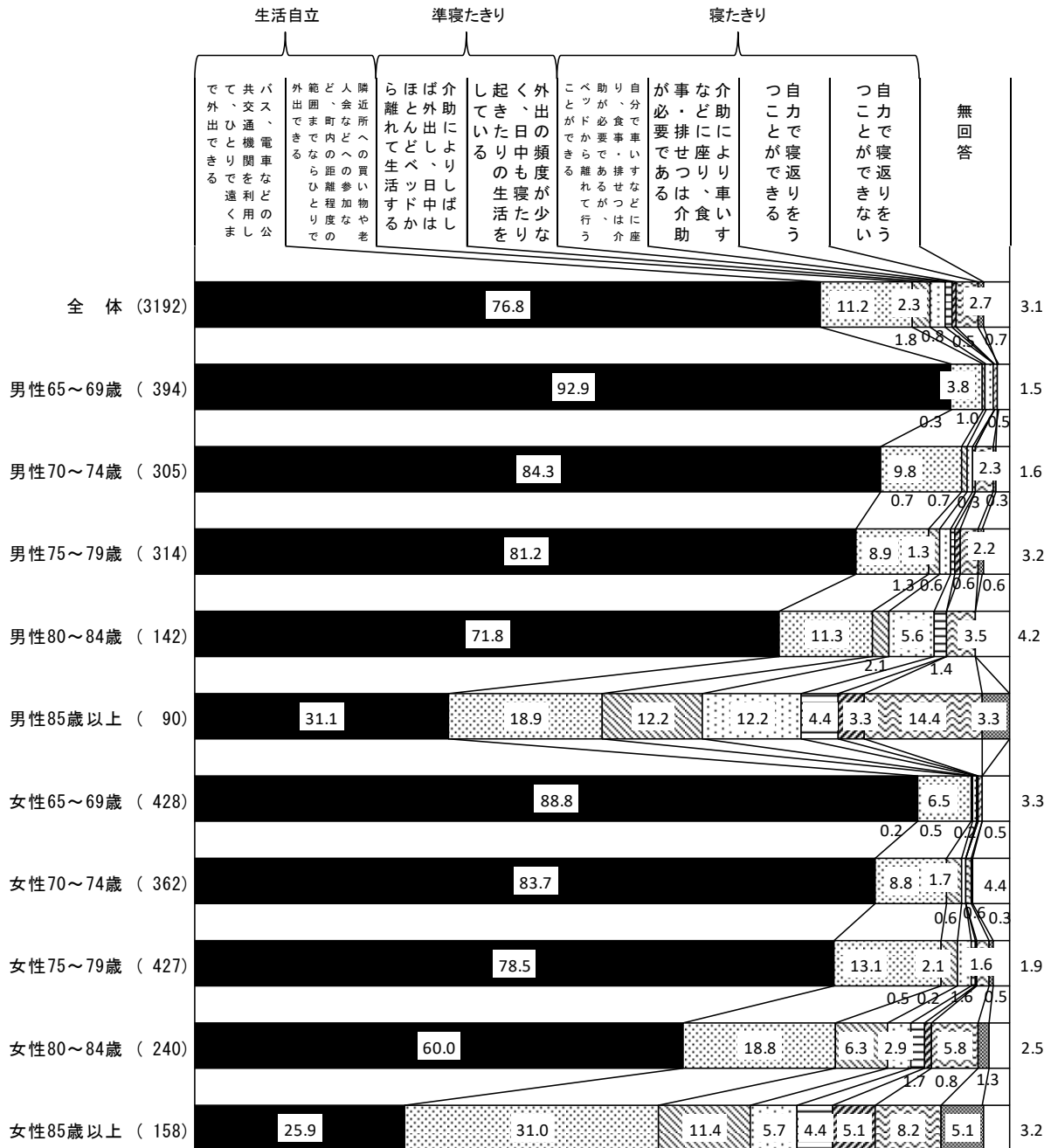
図表 3-4-1 日常生活動作 (総合)

ランク J	生活自立	<p>①日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる</p> <p>1 バス、電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる</p> <p>2 隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる</p>
ランク A	準寝たきり	<p>②食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である</p> <p>3 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する</p> <p>4 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている</p>
ランク B	寝たきり	<p>③食事、着替え、排せつのいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる</p> <p>5 自分で車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる</p> <p>6 介助により車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要である</p>
ランク C		<p>④1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である</p> <p>7 自力で寝返りをうつことができる</p> <p>8 自力で寝返りをうつことができない</p>

ア 日常生活動作（ADL）（性・年齢階級別）

日常生活動作（ADL）について、性・年齢階級別で見ると、85歳未満では日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる「生活自立」がほぼ8割かそれ以上を保っているが、85歳以上では5割程度(男性50.0%・女性56.9%)となり、その分「準寝たきり」や「寝たきり」が高くなっている。（図表3-4-2）

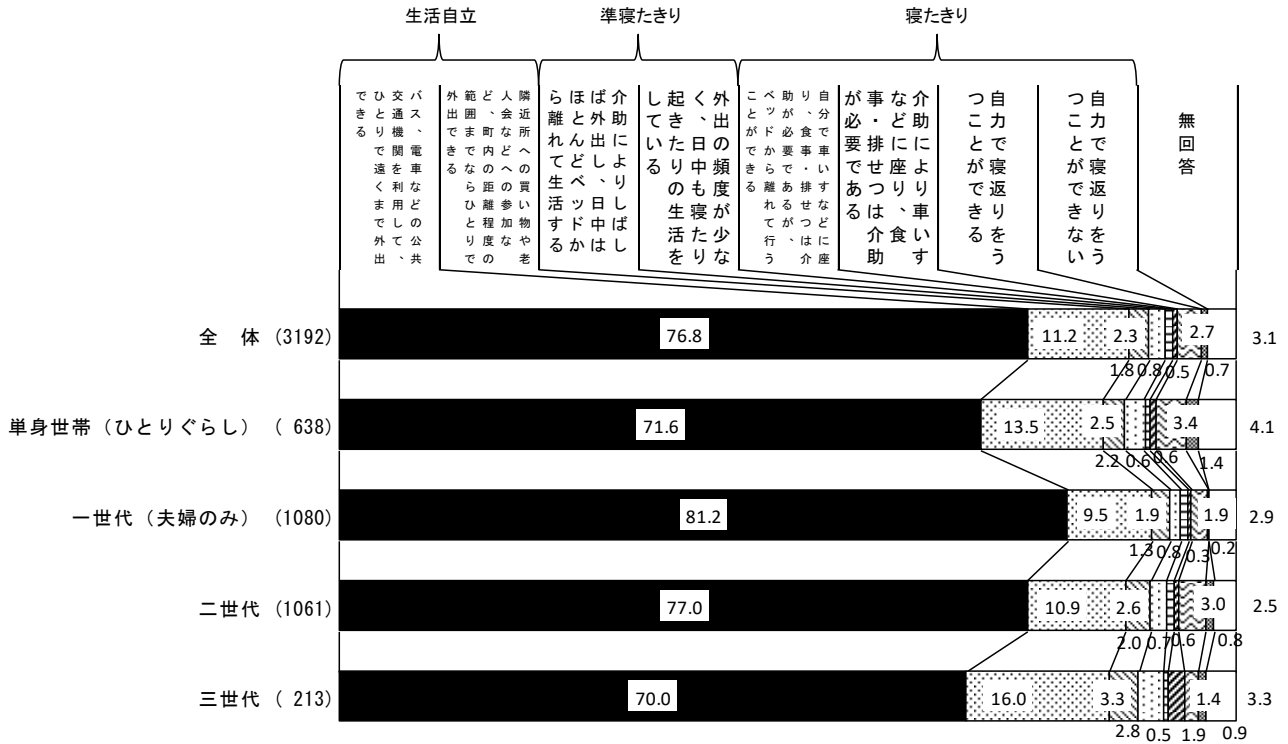
図表3-4-2 日常生活動作（ADL）（性・年齢階級別）



イ 日常生活動作（ADL）（世帯構成（世代）別）

日常生活動作（ADL）について、世帯構成（世代）別でみると、すべての世帯構成で「バス、電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる」が7割以上、「隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる」が1割前後となり、合わせて85%以上となっている。（図表 3-4-3）

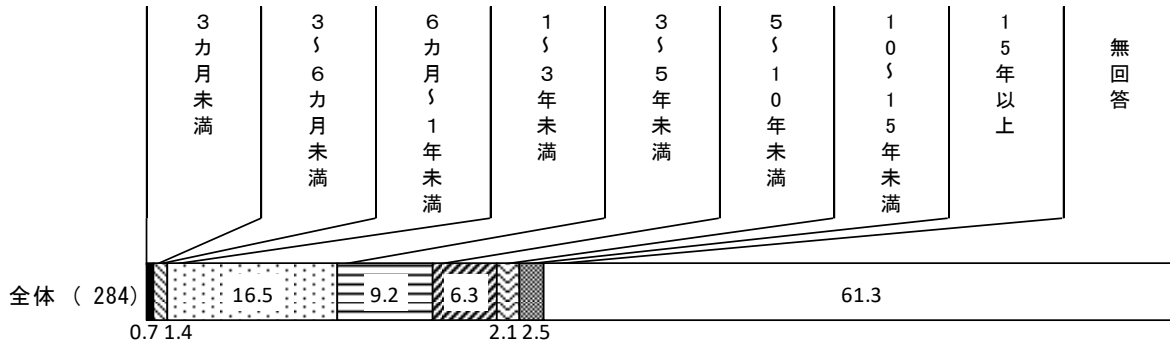
図表 3-4-3 日常生活動作（ADL）（世帯構成（世代）別）



(5) 現在の状態になってからの期間 (問 12-1)

問 12 で日常生活動作を「準寝たきり」または「寝たきり」を選んだ方に現在の状態になってからの期間について聞いたところ、「1～3 年未満」が 16.5%で最も高く、次いで「3～5 年未満」が 9.2%となっている。(図表 3-5)

図表 3-5 現在の状態になってからの期間



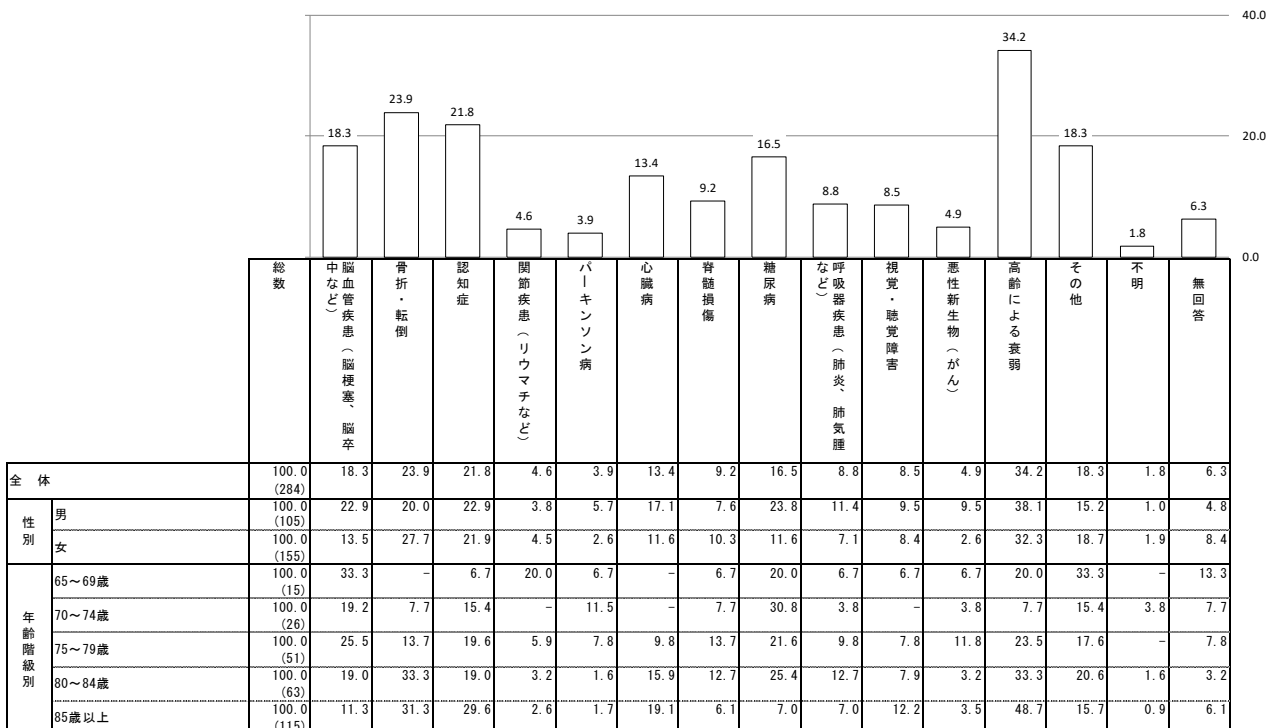
(6) 現在の状態になった原因 (問 12-2)

問 12 で日常生活動作を「準寝たきり」または「寝たきり」を選んだ方に現在の状態になった原因について聞いたところ、「高齢による衰弱」が 34.2%で最も高く、次いで「骨折・転倒」が 23.9%となっている。

性別でみると、「糖尿病」は女性が 11.6%、男性が 23.8%で男性の方が 12.2 ポイント上回っている。

年齢階級別でみると、70～74 歳では「糖尿病」が 30.8%、85 歳以上では「高齢による衰弱」が 48.7%で高くなっている。(図表 3-6)

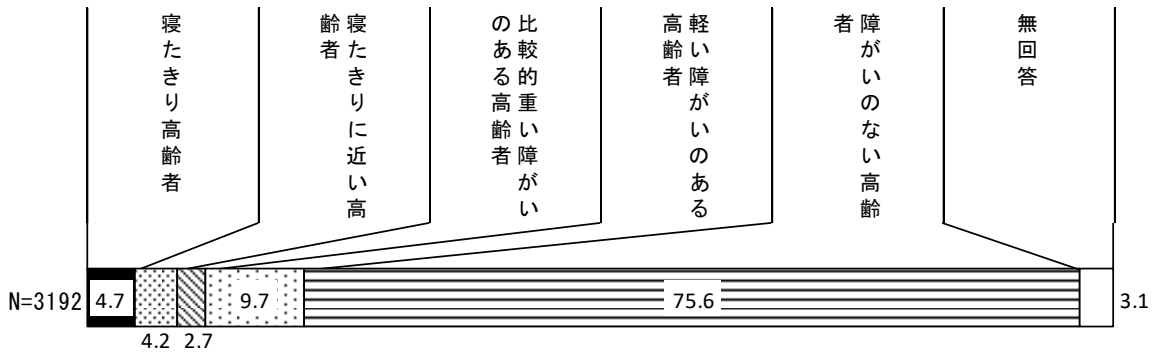
図表 3-6 現在の状態になった原因 (性別、年齢階級別)



(7) 動作能力類型 (問9、問12)

調査対象者の動作能力について、下記の図表3-7-1のとおり類型分けを行ったところ、「障がない高齢者」が75.6%で最も高く、次いで「軽い障がいのある高齢者」が9.7%、「寝たきり高齢者」が4.7%と続いている。(図表3-7)

図表 3-7 動作能力類型



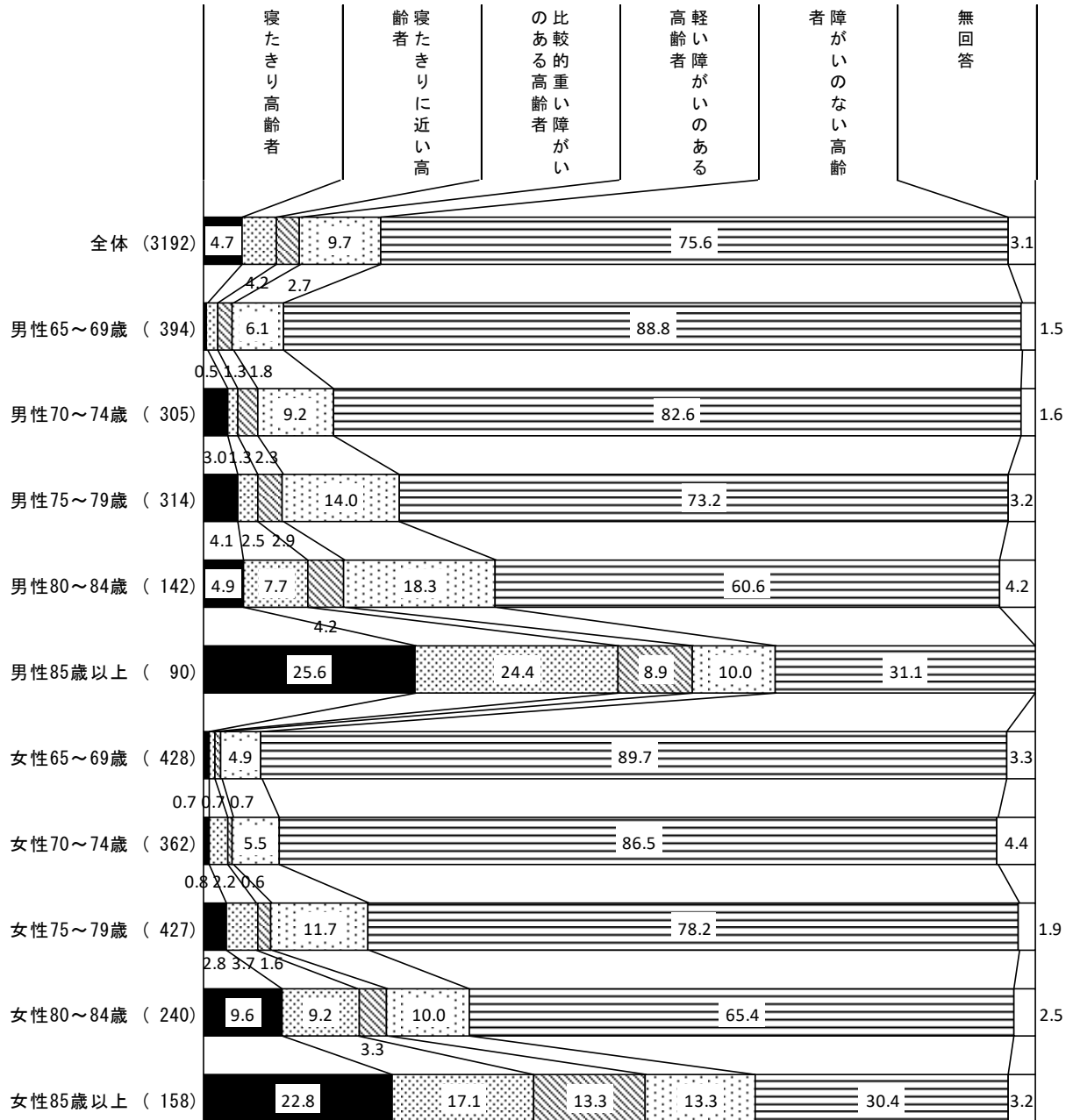
図表 3-7-1 動作能力類型分類表

寝たきりなどの高齢者	寝たきり高齢者	「日常生活動作(総合)」(P35、図表3-4-1)のランクB又はC
	寝たきりに近い高齢者	「日常生活動作(総合)」(P35、図表3-4-1)のランクA
生活自立	比較的重い障がいのある高齢者	「日常生活動作(総合)」(P35、図表3-4-1)のランクJかつ問9で一つでも選択肢「3」、「4」を選択したもの
	軽い障がいのある高齢者	「日常生活動作(総合)」(P35、図表3-4-1)のランクJかつ問9で選択肢「3」、「4」を一つも選んでおらず、すべてが「1」でないもの
	障がない高齢者	「日常生活動作(総合)」(P35、図表3-4-1)のランクJかつ問9ですべて選択肢「1」を選択したもの

ア 動作能力類型（性・年齢階級別）

動作能力類型について、性・年齢階級別で見ると、85歳以上を除いて「障がいのない高齢者」の割合は男性よりも女性の方が高くなる傾向が見られる。（図表 3-7-2）

図表 3-7-2 動作能力類型（性・年齢階級別）

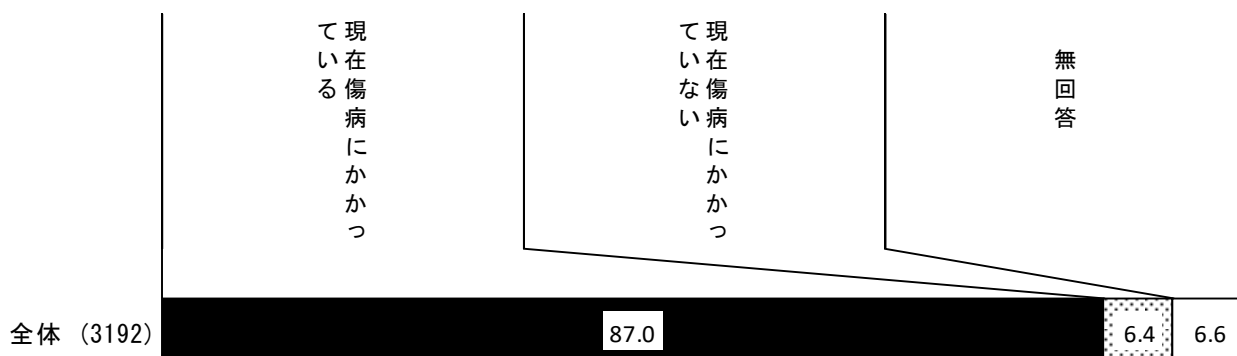


第4章 医療

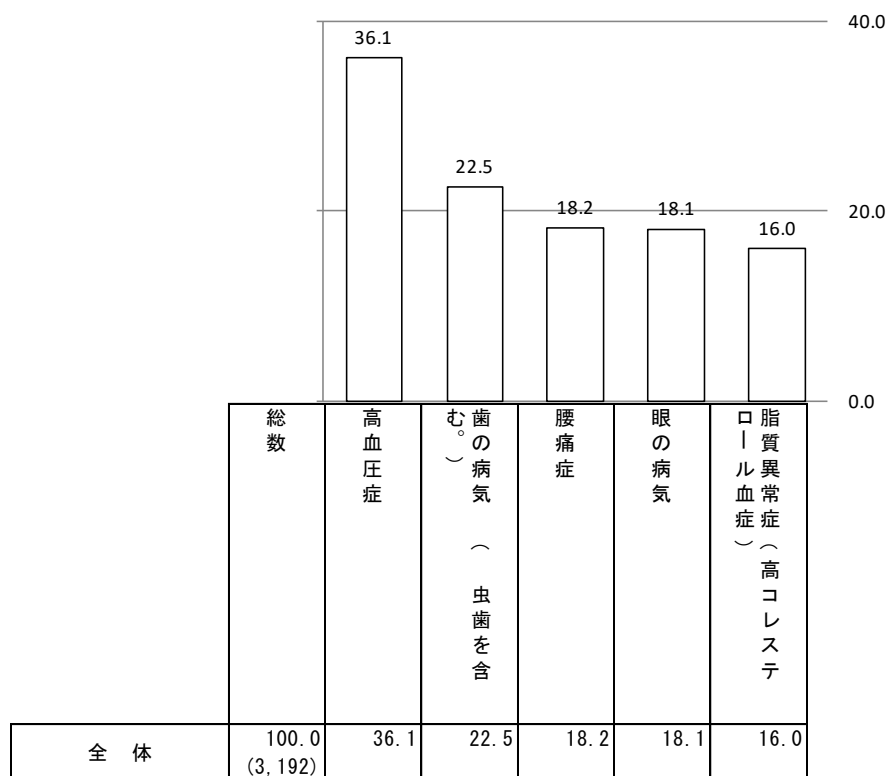
(1) 現状の傷病の病名 (問13)

対象者全員に現状の傷病の病名について聞いたところ、「現在傷病にかかっている」が87.0%となっており、そのうち「高血圧症」が36.1%で最も高く、次いで「歯の病気(虫歯を含む)」が22.5%、「腰痛症」が18.2%となっている。また、「現在傷病にかかっていない」は6.4%で1割未満であった。(図表4-1、図表4-1-1)

図表4-1 現状かかっている傷病の有無



図表4-1-1 現状かかっている傷病の有無



ア 現状の傷病の病名（性別、年齢階級別）

現在かかっている傷病の病名について、性別でみると、男性は「高血圧症」が38.5%で最も高く、次いで「歯の病気（虫歯を含む）」が25.4%、「眼の病気」が18.3%で続いている。女性は「高血圧症」が34.1%で最も高く、次いで「歯の病気（虫歯を含む）」が20.7%、「腰痛症」が19.8%で続いている。

年齢階級別でみると、いずれの階級も「高血圧症」の割合が高くなっている（30.0%～44.7%）。

（図表 4-1-2）

図表 4-1-2 現状の傷病の病名（性別、年齢階級別）

		総数	糖尿病	肥満症	脂質異常症（高コレステロール血症）	甲状腺の病気	うつ病やその他の心の病気	認知症	パーキンソン病	痛・麻痺等 その他神経の病気（神経痛）	眼の病気	耳の病気	高血圧症	脳卒中（脳出血、脳梗塞等）	狭心症・心筋梗塞（更年期障害等）	その他循環器系の病気	急性鼻咽喉炎（かぜ）
全	体	100.0 (3,192)	13.4	4.4	16.0	2.7	2.4	3.0	0.8	1.9	18.1	5.9	36.1	2.6	6.1	5.3	0.6
性別	男	100.0 (1,272)	17.6	4.6	12.3	1.5	1.7	3.0	1.0	2.1	18.3	6.6	38.5	3.8	9.2	6.1	0.4
	女	100.0 (1,655)	9.6	4.5	19.3	3.6	2.9	3.0	0.7	2.1	18.6	5.8	34.1	1.7	3.8	4.8	0.8
年齢階級別	65～69歳	100.0 (874)	11.4	4.3	16.7	3.1	3.0	0.1	0.5	1.4	12.5	3.1	30.0	1.3	2.9	3.0	0.2
	70～74歳	100.0 (714)	13.9	6.0	20.4	2.9	2.0	0.6	1.1	2.1	17.1	3.9	36.4	2.4	4.6	5.3	0.4
	75～79歳	100.0 (784)	12.9	3.6	15.4	2.7	3.1	2.2	0.9	1.8	20.7	7.0	36.4	2.9	8.4	5.1	0.5
	80～84歳	100.0 (398)	18.3	5.0	15.6	1.3	1.3	5.8	1.0	2.3	23.9	10.1	44.7	3.3	9.8	7.0	1.5
	85歳以上	100.0 (263)	12.5	3.0	6.5	2.7	1.9	18.3	1.1	3.8	24.7	11.4	39.9	5.3	9.5	9.9	1.1
		総数	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患（COPD）	喘息	花粉症	その他の呼吸器系の病気	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他の消化器系の病気	歯の病気（虫歯を含む）	アトピー性皮膚炎	その他の皮膚の病気	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症
全	体	100.0 (3,192)	6.7	0.6	2.7	14.7	2.5	3.7	2.5	3.1	22.5	1.1	5.8	2.7	1.8	5.8	7.9
性別	男	100.0 (1,272)	6.7	1.0	3.1	14.0	3.2	4.7	3.4	2.9	25.4	1.0	6.6	5.7	1.0	3.5	4.4
	女	100.0 (1,655)	6.8	0.2	2.4	15.6	2.1	2.9	2.1	3.5	20.7	1.3	5.1	0.2	2.4	7.6	10.3
年齢階級別	65～69歳	100.0 (874)	7.8	0.3	2.5	19.3	1.9	2.9	2.2	2.7	22.4	1.5	4.9	3.3	2.1	5.6	7.7
	70～74歳	100.0 (714)	6.0	0.6	2.7	13.4	2.1	3.4	2.4	2.7	24.9	1.3	5.9	3.4	2.0	4.5	6.9
	75～79歳	100.0 (784)	6.6	0.6	2.3	14.4	2.9	4.6	2.7	4.6	22.4	0.8	5.7	2.4	1.9	7.4	8.5
	80～84歳	100.0 (398)	7.0	1.0	3.0	11.1	3.0	4.5	3.3	2.0	23.1	0.8	5.8	1.5	2.3	5.3	8.5
	85歳以上	100.0 (263)	3.8	0.8	3.0	9.9	3.4	3.0	2.3	3.8	19.0	1.5	10.3	1.5	-	6.8	6.8
		総数	腰痛症	骨粗しょう症	腎臓病	前立腺肥大症	閉経期又は閉経後障害	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物（がん）	その他	特になし	無回答			
全	体	100.0 (3,192)	18.2	8.3	3.4	5.5	0.1	2.3	0.8	2.2	3.1	2.4	6.4	6.6			
性別	男	100.0 (1,272)	17.4	1.5	5.0	12.4	-	1.9	0.2	2.4	4.1	1.5	6.2	6.1			
	女	100.0 (1,655)	19.8	13.4	2.2	-	0.2	2.7	1.4	2.2	2.3	3.3	6.8	6.6			
年齢階級別	65～69歳	100.0 (874)	14.5	3.9	2.5	2.4	0.1	1.7	0.3	0.7	2.9	2.2	9.4	7.3			
	70～74歳	100.0 (714)	17.5	6.3	2.7	5.3	-	1.0	0.8	1.7	3.5	2.2	7.3	7.1			
	75～79歳	100.0 (784)	20.9	9.1	3.3	7.3	0.1	2.0	1.5	2.0	3.6	2.4	5.2	5.6			
	80～84歳	100.0 (398)	21.4	14.8	5.5	7.3	-	4.0	0.5	5.5	2.8	2.3	3.0	5.3			
	85歳以上	100.0 (263)	20.2	17.1	7.2	8.0	0.8	6.5	1.1	3.0	1.9	4.6	1.9	4.6			

イ 現状の傷病の病名（動作能力類型別）

現在かかっている傷病の病名について、動作能力類型別にみると、いずれの能力類型も「高血圧症」の割合が高くなっている（31.1%～43.6%）。（図表 4-1-3）

図表 4-1-3 現状の傷病の病名（動作能力類型別）

		総数	糖尿病	肥満症	脂質異常症（高コレステロール血症）	甲状腺の病気	うつ病やその他のこころの病	認知症	パーキンソン病	その他の神経の病気（神経痛・麻痺等）	眼の病気	耳の病気	高血圧症	脳卒中（脳出血、脳梗塞等）	狭心症・心筋梗塞（更年期障害等）	その他循環器系の病気	急性鼻咽頭炎（かぜ）
全	体	100.0 (3,192)	13.4	4.4	16.0	2.7	2.4	3.0	0.8	1.9	18.1	5.9	36.1	2.6	6.1	5.3	0.6
動作能力類型	寝たきり高齢者	100.0 (151)	18.5	5.3	8.6	0.7	4.0	25.2	4.0	4.6	25.2	8.6	31.1	11.9	13.9	9.9	2.0
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (133)	22.6	5.3	6.0	3.8	6.0	27.8	3.8	7.5	17.3	13.5	43.6	9.8	11.3	9.8	0.8
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (87)	18.4	4.6	8.0	3.4	3.4	11.5	3.4	8.0	29.9	16.1	42.5	12.6	6.9	10.3	1.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (310)	16.1	6.8	14.2	3.5	4.2	1.6	1.0	1.0	17.1	7.1	34.5	3.9	7.4	4.8	0.6
	障害のない高齢者	100.0 (2,412)	12.1	4.1	17.5	2.7	1.8	0.1	0.4	1.3	17.6	4.9	36.2	1.2	5.1	4.7	0.5

		総数	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患（COPD）	喘息	花粉症	その他の呼吸器系の病気	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他の消化器系の病気	歯の病気（虫歯を含む。）	アトピー性皮膚炎	その他の皮膚の病気	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症
全	体	100.0 (3,192)	6.7	0.6	2.7	14.7	2.5	3.7	2.5	3.1	22.5	1.1	5.8	2.7	1.8	5.8	7.9
動作能力類型	寝たきり高齢者	100.0 (151)	7.9	2.0	2.0	13.2	5.3	6.6	6.0	6.0	22.5	1.3	9.9	2.6	2.0	7.9	11.3
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (133)	5.3	0.8	3.8	7.5	6.8	6.0	3.8	3.8	21.1	2.3	9.0	1.5	3.8	10.5	5.3
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (87)	5.7	1.1	2.3	10.3	5.7	3.4	5.7	4.6	33.3	1.1	10.3	1.1	4.6	8.0	8.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (310)	7.7	0.6	2.9	14.5	2.6	4.2	3.2	4.2	28.1	0.3	7.1	2.3	3.5	5.5	9.7
	障害のない高齢者	100.0 (2,412)	6.7	0.4	2.7	15.5	1.9	3.4	2.0	2.8	21.8	1.2	4.9	2.9	1.4	5.4	7.8

		総数	腰痛症	骨粗しょう症	腎臓病	前立腺肥大症	閉経期又は閉経後障害	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物（がん）	その他	特になし	無回答
全	体	100.0 (3,192)	18.2	8.3	3.4	5.5	0.1	2.3	0.8	2.2	3.1	2.4	6.4	6.6
動作能力類型	寝たきり高齢者	100.0 (151)	22.5	20.5	11.9	7.9	0.7	10.6	2.6	7.3	7.9	2.6	1.3	6.0
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (133)	21.1	17.3	6.0	4.5	-	4.5	0.8	5.3	4.5	5.3	-	0.8
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (87)	27.6	12.6	10.3	5.7	1.1	9.2	1.1	5.7	4.6	2.3	1.1	2.3
	軽い障害のある高齢者	100.0 (310)	21.0	7.4	4.2	9.0	-	3.5	1.0	2.3	2.9	1.9	4.5	10.6
	障害のない高齢者	100.0 (2,412)	17.3	7.0	2.5	5.0	0.1	1.3	0.7	1.7	2.7	2.3	7.5	6.2

ウ 現状の傷病の病名（物忘れの状況別）

現在かかっている傷病の病名について、物忘れの状況別にみると、「いつもそうだ」と回答した方では「認知症」が66.2%と高くなっている。（図表4-1-4）

図表4-1-4 現状の傷病の病名（物忘れの状況別）

	総数	糖尿病	肥満症	脂質異常症（高コレステロール血症）	甲状腺の病気	うつ病やその他のこころの病	認知症	パーキンソン病	その他神経の病気（神経痛・麻痺等）	眼の病気	耳の病気	高血圧症	脳卒中（脳出血、脳梗塞等）	狭心症・心筋梗塞（更年期障害等）	その他循環器系の病気	急性鼻咽頭炎（かぜ）
全 体	100.0 (3,192)	13.4	4.4	16.0	2.7	2.4	3.0	0.8	1.9	18.1	5.9	36.1	2.6	6.1	5.3	0.6
物忘れの状況別	まったくない	100.0 (941)	14.1	3.3	14.9	2.4	0.0	0.2	0.6	13.3	3.1	36.5	1.5	5.4	3.7	0.0
	ときどきある	100.0 (1,965)	13.3	5.0	16.8	2.8	0.9	0.8	2.1	19.9	6.7	36.0	2.5	6.2	5.5	0.8
	頻繁にある	100.0 (160)	15.0	6.3	18.1	3.8	18.8	5.0	6.9	24.4	11.9	39.4	9.4	9.4	10.6	1.9
	いつもそうだ	100.0 (71)	8.5	1.4	9.9	1.4	66.2	0.0	2.8	16.9	8.5	38.0	4.2	5.6	8.5	0.0

	総数	アレルギー性鼻炎	慢性閉塞性肺疾患（COPD）	喘息	花粉症	その他の呼吸器系の病気	胃・十二指腸の病気	肝臓・胆のうの病気	その他の消化器系の病気	歯の病気（虫歯を含む。）	アトピー性皮膚炎	その他の皮膚の病気	痛風	関節リウマチ	関節症	肩こり症
全 体	100.0 (3,192)	6.7	0.6	2.7	14.7	2.5	3.7	2.5	3.1	22.5	1.1	5.8	2.7	1.8	5.8	7.9
物忘れの状況別	まったくない	100.0 (941)	4.9	0.2	2.9	11.9	2.2	2.9	1.9	18.2	0.7	4.7	2.8	2.3	4.3	3.9
	ときどきある	100.0 (1,965)	7.1	0.6	2.4	16.1	2.6	4.1	2.4	24.1	1.3	5.9	2.8	1.6	6.3	9.3
	頻繁にある	100.0 (160)	11.9	1.3	3.8	15.6	3.8	5.6	8.1	28.8	1.9	8.1	2.5	1.3	8.8	15.0
	いつもそうだ	100.0 (71)	8.5	2.8	4.2	12.7	0.0	2.8	0.0	23.9	0.0	14.1	1.4	1.4	5.6	5.6

	総数	腰痛症	骨粗しょう症	腎臓病	前立腺肥大症	閉経期又は閉経後障害	骨折	骨折以外のけが・やけど	貧血・血液の病気	悪性新生物（がん）	その他	特になし	無回答
全 体	100.0 (3,192)	18.2	8.3	3.4	5.5	0.1	2.3	0.8	2.2	3.1	2.4	6.4	6.6
物忘れの状況別	まったくない	100.0 (941)	12.0	5.2	3.4	4.0	0.0	1.3	0.4	2.3	1.2	9.4	8.8
	ときどきある	100.0 (1,965)	20.7	9.0	3.1	5.9	0.2	2.5	1.0	2.5	2.9	5.3	5.5
	頻繁にある	100.0 (160)	26.9	18.8	8.1	10.6	0.6	5.6	1.9	5.0	4.4	1.9	1.3
	いつもそうだ	100.0 (71)	12.7	11.3	7.0	2.8	0.0	5.6	0.0	5.6	4.2	1.4	4.2

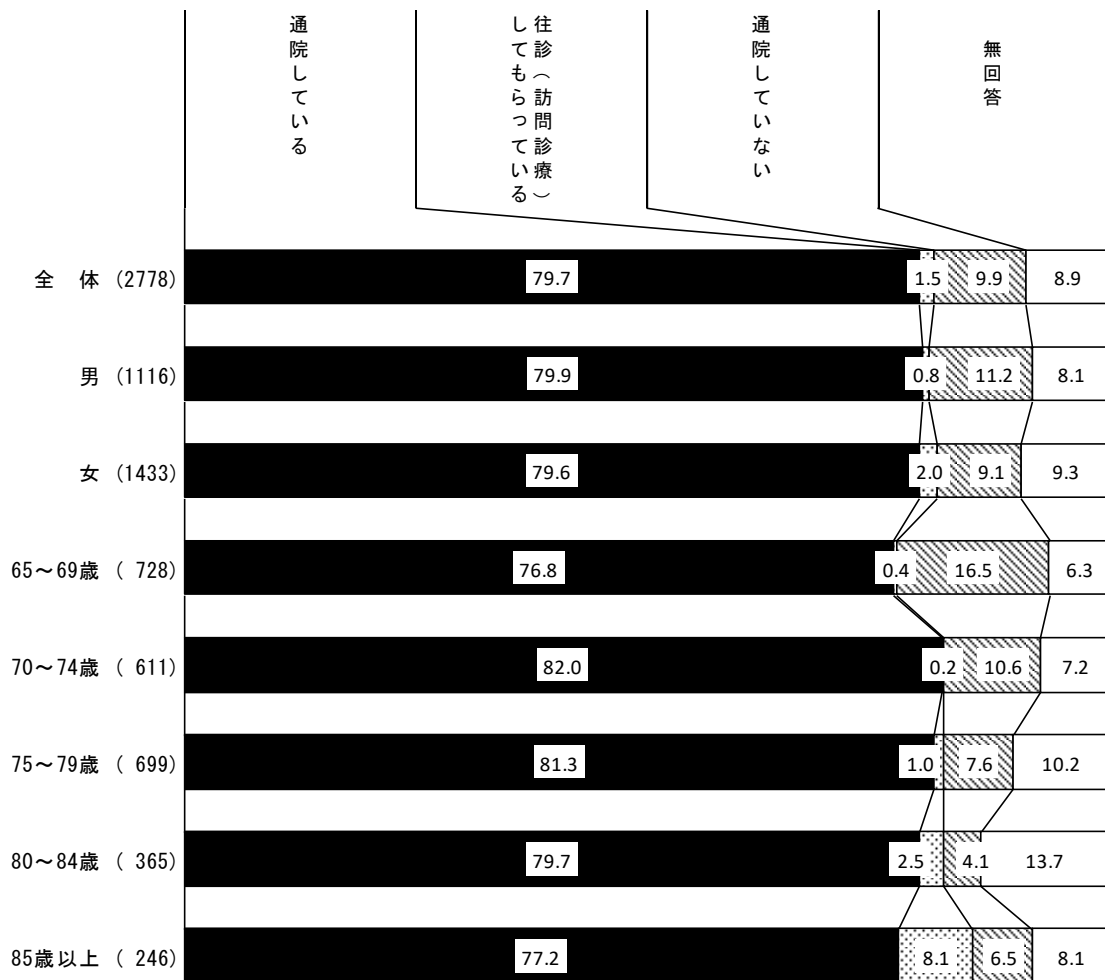
(2) 通院の有無 (問 13-1)

ア 通院の有無 (性別、年齢階級別)

問 13 で何らかの傷病にかかっていると回答した方に通院の有無について聞いたところ、「通院している」が 79.7%、「通院していない」が 9.9%、「往診 (訪問診療) してもらっている」が 1.5%となっている。

通院の有無について性別、年齢階級別にみると、すべての階級で「通院している」が 8 割前後で最も高くなっている。また、「往診 (訪問診療) してもらっている」は 85 歳以上 (8.1%) で、「通院していない」は 60~69 歳 (16.5%) で、それぞれ比較的高くなっている。(図表 4-2)

図表 4-2 通院の有無 (性別、年齢階級別)

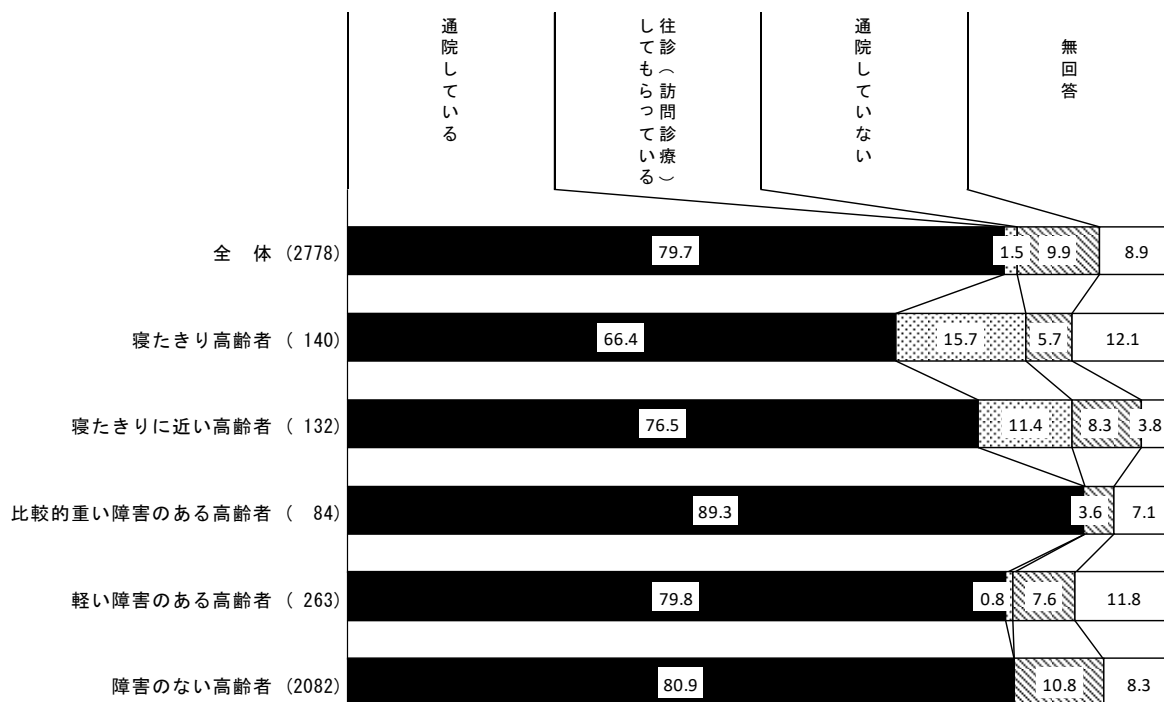


イ 通院の有無（動作能力類型別）

通院の有無について動作能力類型別にみると、すべての類型で「通院している」が7割弱～9割弱で最も高くなっている。また、「往診（訪問診療）してもらっている」は寝たきり高齢者（15.7%）と寝たきりに近い高齢者（11.4%）で比較的高く、他の類型では僅少になっている。

（図表 4-2-1）

図表 4-2-1 通院の有無（動作能力類型別）



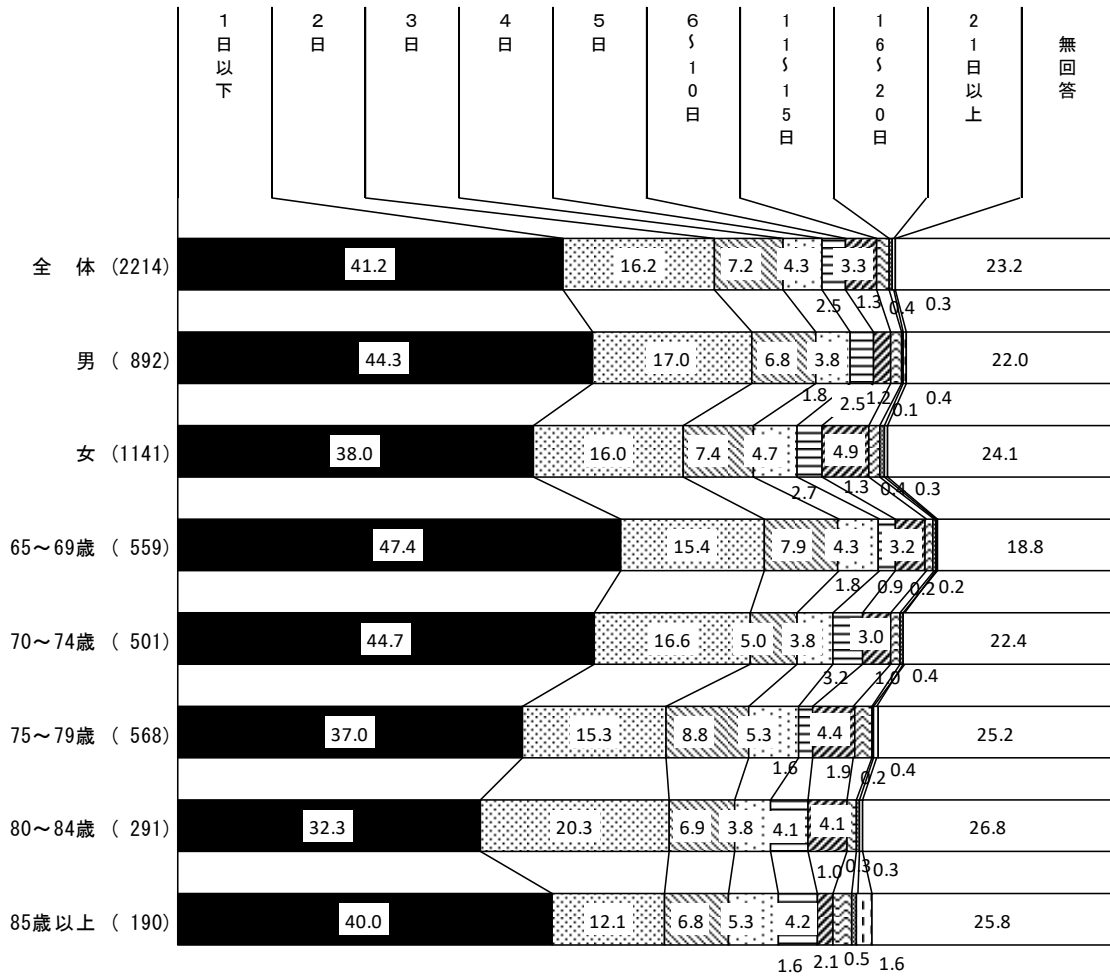
(3) 通院頻度 (問 13-2)

ア 通院頻度 (性別、年齢階級別)

問 13-1 で「通院している」を選んだ方に通院頻度について聞いたところ、「1 日以下」が 41.2% で最も高く、次いで「2 日」が 16.2%、「3 日」が 7.2%となっている。

通院頻度について性別、年齢階級別にみると、すべての階級で「1 日以下」が 3 割強～5 割弱で最も高くなっており、「2 日」が 1 割強～2 割強でそれに次いでいる。(図表 4-3)

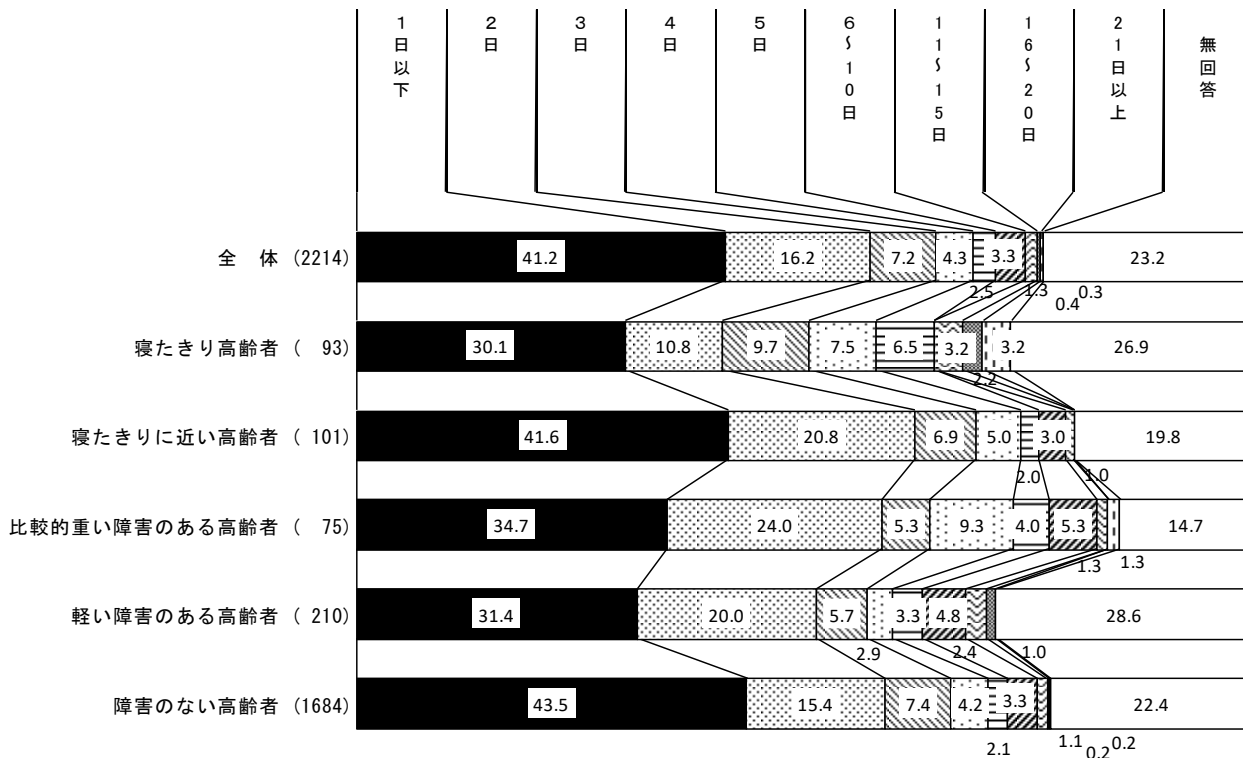
図表 4-3 通院頻度 (性別、年齢階級別)



イ 通院頻度（動作能力類型別）

通院頻度について動作能力類型別にみると、すべての類型で「1日以下」が3割強～4割弱で最も高くなっている。また、「2日」が1割強～2割強でそれに次いでいる。（図表 4-3-1）

図表 4-3-1 通院頻度（動作能力類型別）



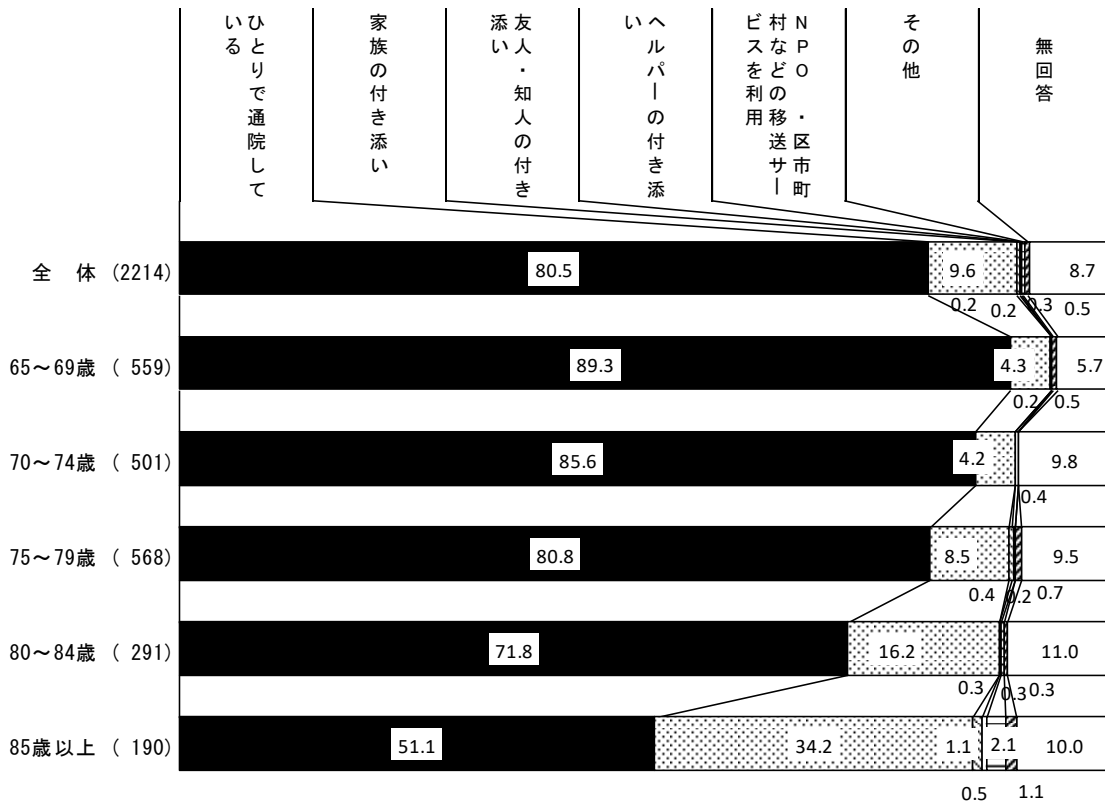
(4) 付添の有無 (問 13-3)

ア 付添の有無 (年齢階級別)

問 13-1 で「通院している」を選んだ方に付添の有無について聞いたところ、「ひとりで通院している」が 80.5%で最も高く、次いで「家族の付き添い」が 9.6%となっている。

付添の有無について年齢階級別にみると、すべての階級で「ひとりで通院している」が 5 割強～9 割弱で最も高くなっており、「家族の付き添い」が 80～84 歳で 16.2%、85 歳以上で 34.2%とやや高くなっている。また、それ以外の項目はいずれも僅少である。(図表 4-4)

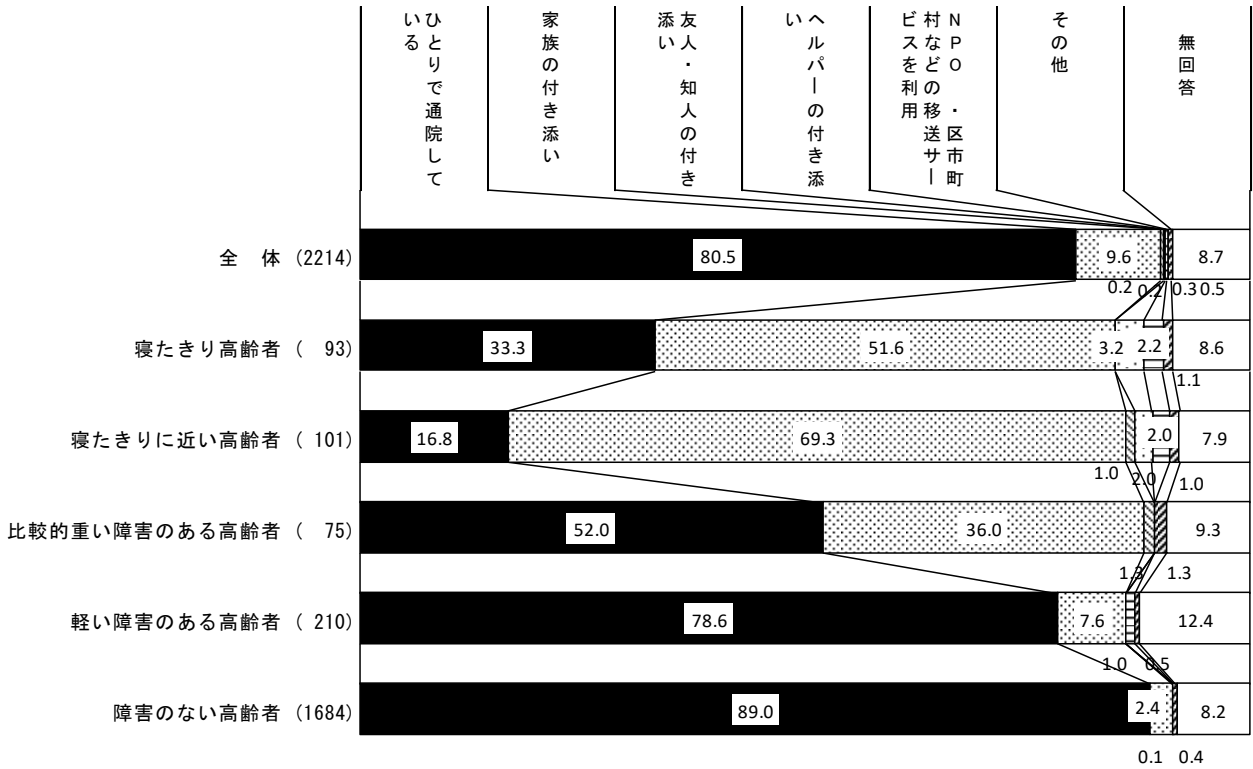
図表 4-4 付添の有無 (年齢階級別)



イ 付添の有無（動作能力類型別）

付添の有無について動作能力類型別にみると、「家族の付き添い」が寝たきり高齢者(51.6%)と寝たきりに近い高齢者(69.3%)で最も高く、他の類型では「ひとりで通院している」が過半数で最も高くなっている。（図表 4-4-1）

図表 4-4-1 付添の有無（動作能力類型別）



(5) かかりつけ医の有無 (問 14)

ア かかりつけ医の有無 (性別、年齢階級別)

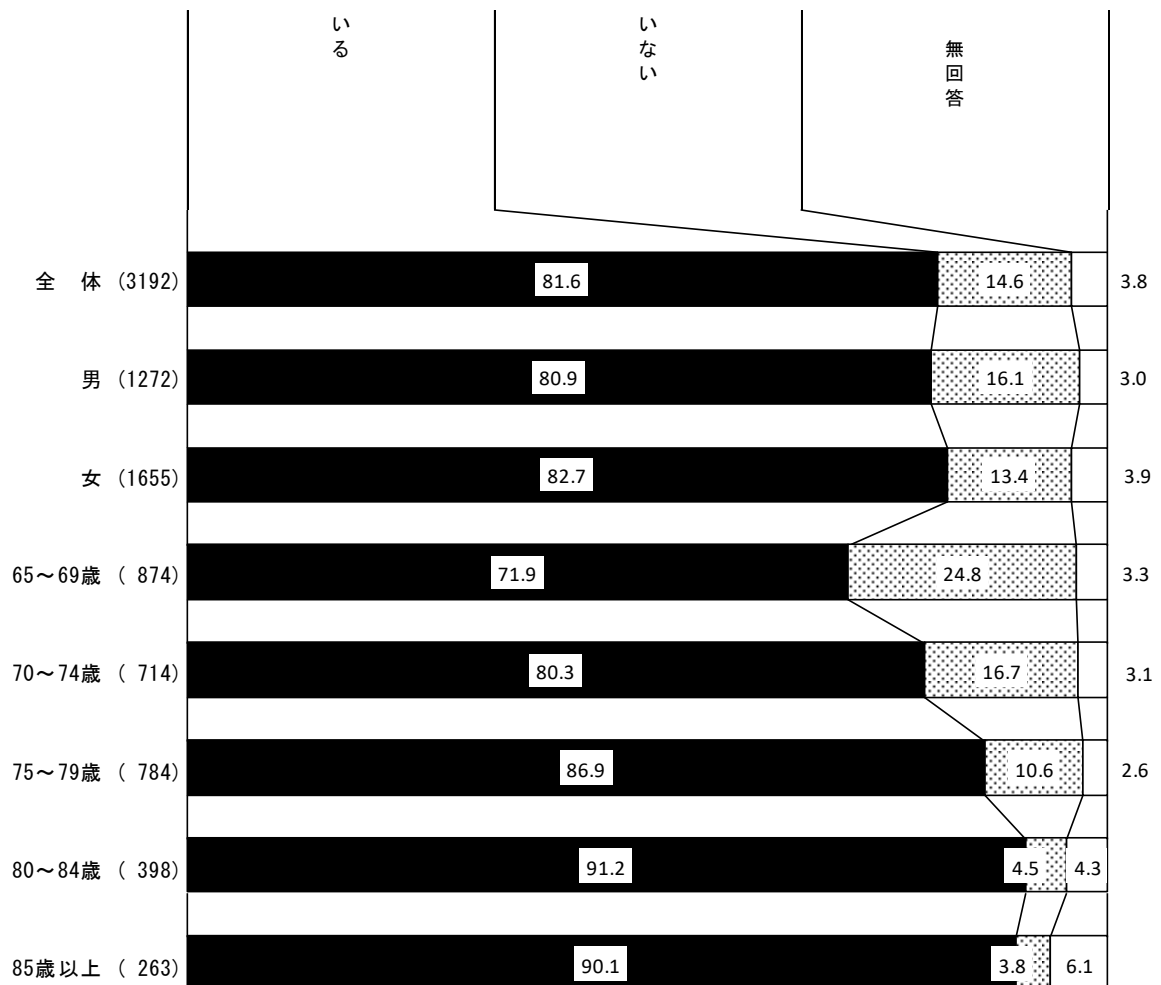
対象者全員にかかりつけ医の有無について聞いたところ、「いる」が81.6%、「いない」が14.6%となっている。

かかりつけ医の有無について性別にみると、男女ともに「いる」が8割強で大きな差異はない。

年齢階級別にみても、すべての階級で「いる」が7割強～9割強で最も高くなっている。また、「いない」は60～69歳が24.8%で、高齢になるにつれ低くなる傾向がうかがえる。

(図表 4-5)

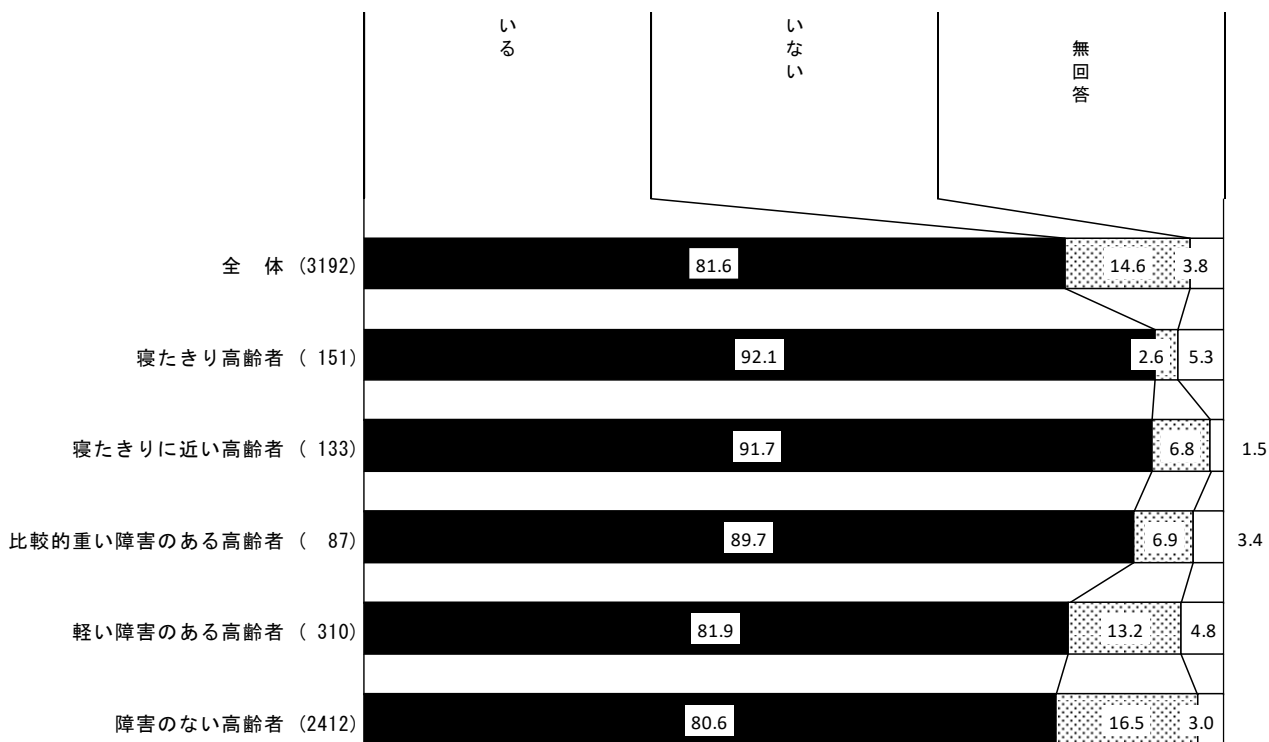
図表 4-5 かかりつけ医の有無 (性別、年齢階級別)



イ かかりつけ医の有無（動作能力類型別）

かかりつけ医の有無について動作能力類型別にみると、すべての類型で「いる」が8割強で最も高くなっている。また、「いない」は寝たきり高齢者が2.6%で最も低く、障害のない高齢者が16.5%で最も高い。（図表 4-5-1）

図表 4-5-1 かかりつけ医の有無（動作能力類型別）



(6) 延命医療についての希望 (問 15)

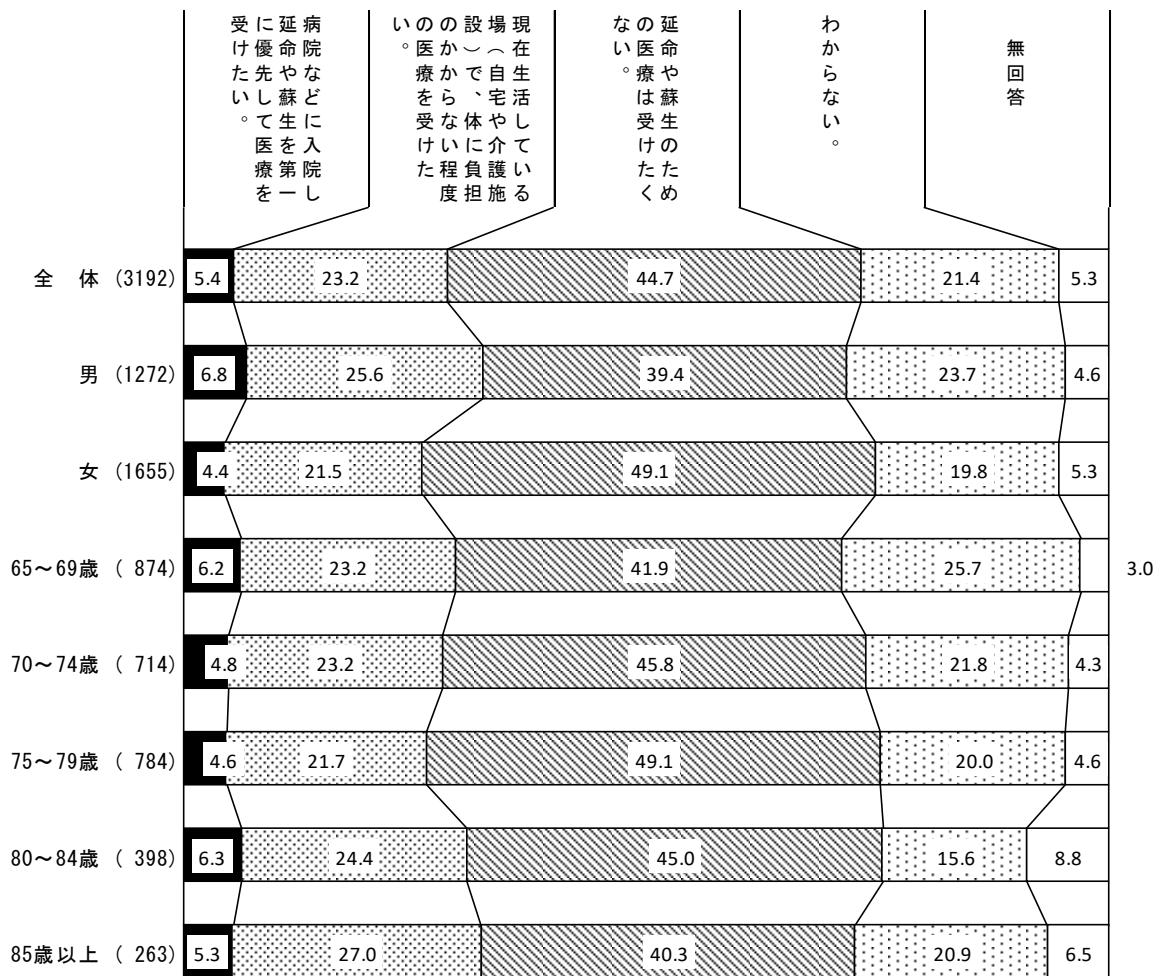
ア 延命医療についての希望 (性別、年齢階級別)

対象者全員に延命医療についての希望について聞いたところ、「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」が44.7%で最も高く、次いで「現在生活している場(自宅や介護施設)で、体に負担のかからない程度の医療を受けたい。」が23.2%となっている。

延命医療についての希望について性別にみると、「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」で女性(49.1%)が男性(39.4%)を9.7ポイント上まわった。

年齢階級別にみると、すべての階級で「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」が4割強～5割弱で最も高くなっている。また、「現在生活している場(自宅や介護施設)で、体に負担のかからない程度の医療を受けたい。」は2割強～3割弱、「わからない」は2割前後となっている。(図表4-6)

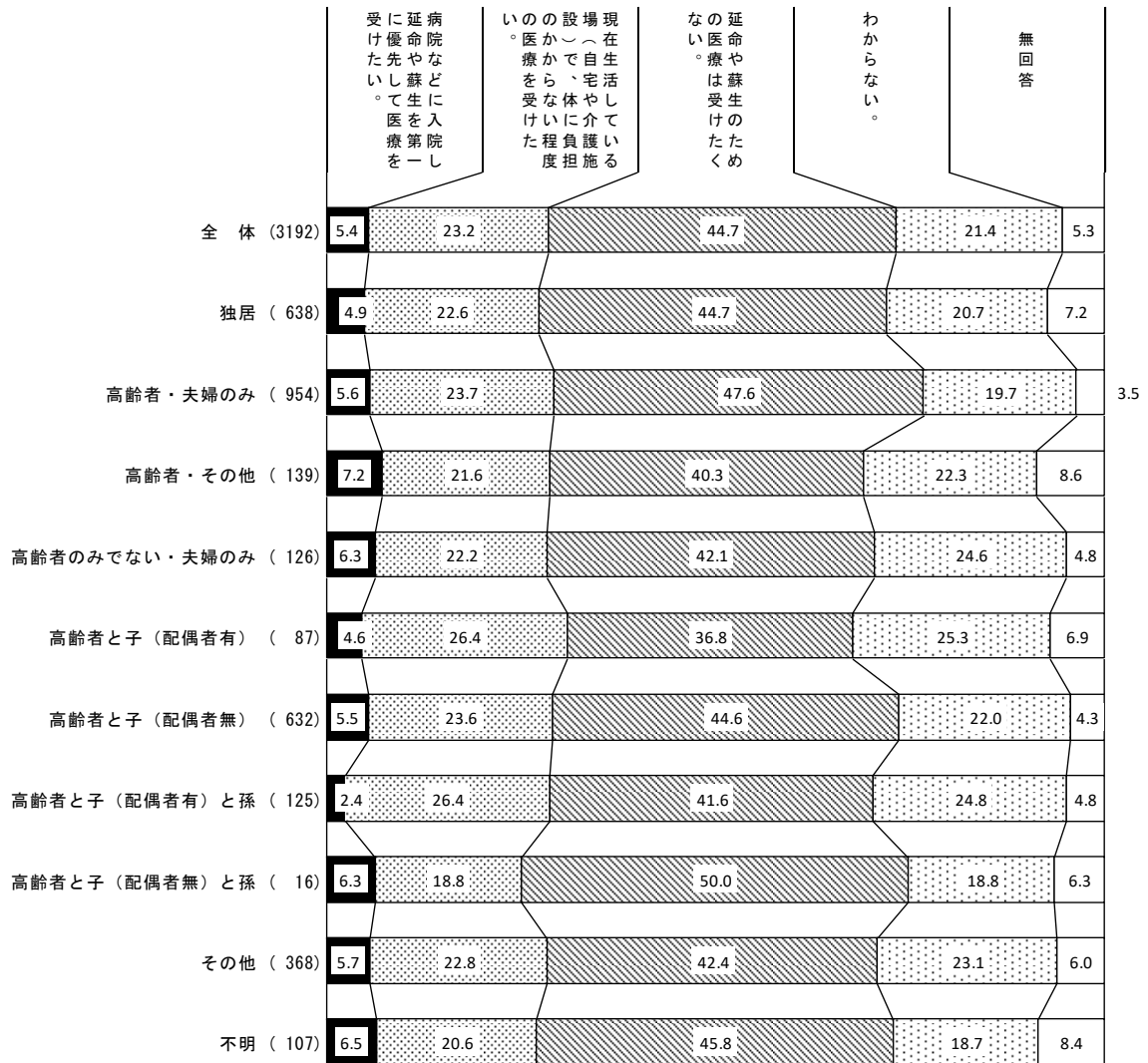
図表 4-6 延命医療についての希望 (性別、年齢階級別)



イ 延命医療についての希望（世帯類型別）

延命医療についての希望について世帯類型別にみると、すべての類型で「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」が4割弱～5割で最も高くなっている。また、「現在生活している場（自宅や介護施設）で、体に負担のかからない程度の医療を受けたい。」と「わからない。」は2割前後となっている。（図表 4-6-1）

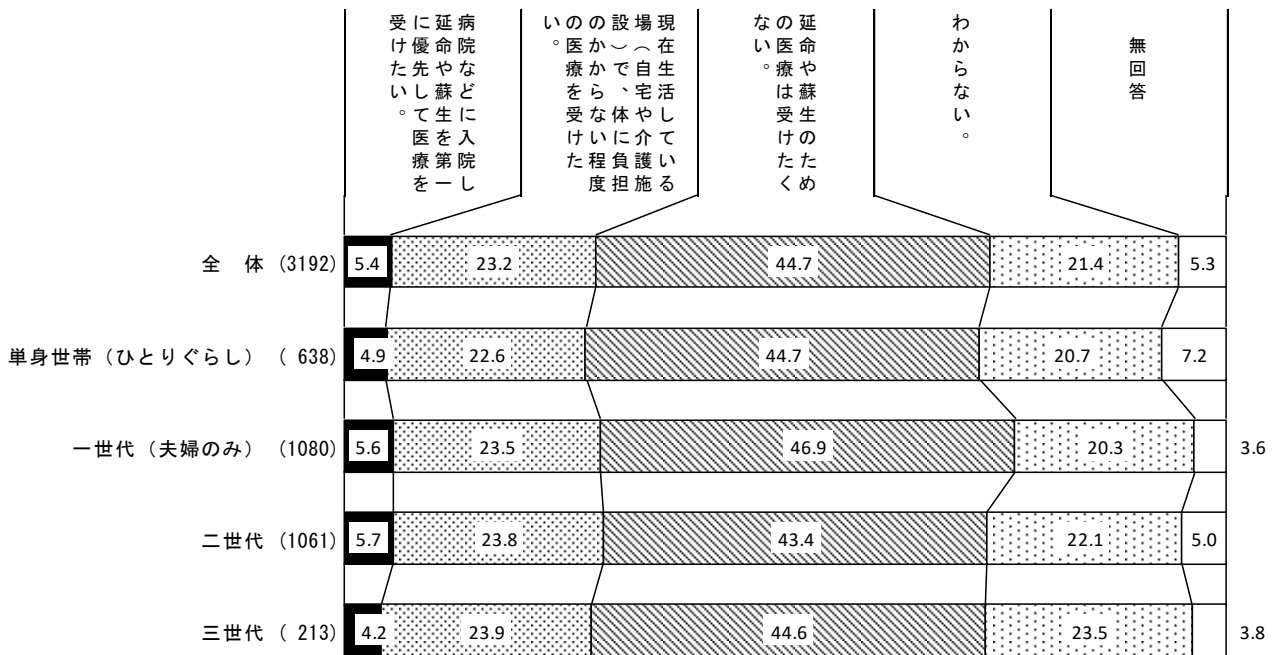
図表 4-6-1 延命医療についての希望（世帯類型別）



ウ 延命医療についての希望（世帯構成（世代）別）

延命医療についての希望について世帯構成（世代）別にみると、すべての世帯構成で「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」が45%前後で最も高くなっており、「現在生活している場（自宅や介護施設）で、体に負担のかからない程度の医療を受けたい。」は23%前後、「わからない」は21%前後で、世帯構成別で大きな差異はなかった。（図表 4-6-2）

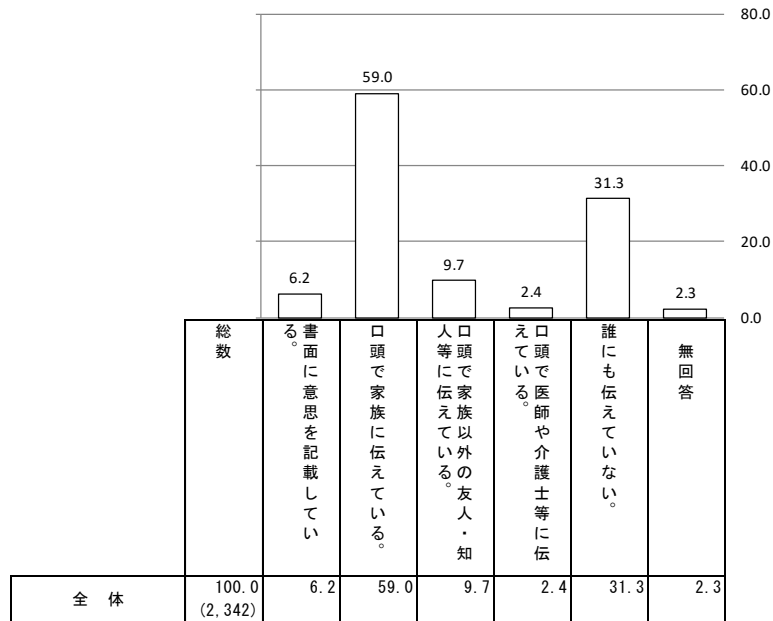
図表 4-6-2 延命医療についての希望（世帯構成（世代）別）



(7) 延命医療についての希望の周知 (問 15-1)

問 15 で「1~3」を選んだ方に延命医療についての希望の周知について聞いたところ、「口頭で家族に伝えている」が 59.0%で最も高く、次いで「誰にも伝えていない」が 31.3%となっている。(図表 4-7)

図表 4-7 延命医療についての希望の周知



ア 延命医療についての希望の周知

(性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成(世代)別、ACPの認知度別)

延命医療についての希望の周知について、性別でみると、「口頭で家族に伝えている」は男性が53.9%、女性が62.6%で女性の方が8.7ポイント上回っている。

年齢階級別でみると、いずれの年齢階級も「口頭で家族に伝えている」が最も高く、80～84歳が66.1%で特に高くなっている。

世帯類型別でみると、「誰にも伝えていない」は高齢者のみでない世帯(夫婦のみ)が40.4%で最も高くなっている。

世帯構成(世代)別でみると、「口頭で家族に伝えている」は一世代(夫婦のみ)が66.9%で最も高くなっている。(図表4-7-1)

図表4-7-1 延命医療についての希望の周知

(性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成(世代)別、ACPの認知度別)

		総 数	載 書 し 面 て い 意 思 を 記	え 口 頭 で い る。 家 族 に 伝	に の 口 頭 で 友 人 ・ 家 族 に 以 外 の 人 に 伝 え て い る。	い 護 士 等 に 伝 え て い る。	誰 に も 伝 え て い ない。	無 回 答
全	体	100.0 (2,342)	6.2	59.0	9.7	2.4	31.3	2.3
性 別	男	100.0 (912)	3.3	53.9	5.6	2.1	38.6	2.0
	女	100.0 (1,240)	7.7	62.6	13.0	2.7	26.7	2.3
年 齢 階 級 別	65～69歳	100.0 (623)	4.0	51.8	8.8	0.5	41.7	0.8
	70～74歳	100.0 (527)	4.6	58.4	8.3	0.9	32.4	2.7
	75～79歳	100.0 (591)	6.6	62.3	10.8	2.2	28.3	1.9
	80～84歳	100.0 (301)	10.3	66.1	11.6	4.0	20.6	3.7
	85歳以上	100.0 (191)	9.9	61.8	9.9	11.0	23.0	3.7
世 帯 類 型	独居	100.0 (460)	10.2	43.7	16.1	2.4	36.3	4.1
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (733)	4.4	68.1	7.4	2.5	25.8	1.4
	高齢者・その他	100.0 (96)	7.3	53.1	10.4	7.3	36.5	2.1
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (89)	5.6	57.3	4.5	1.1	40.4	-
	高齢者と子(配偶者有)	100.0 (59)	6.8	64.4	6.8	1.7	28.8	1.7
	高齢者と子(配偶者無)	100.0 (466)	5.2	59.2	9.0	0.9	33.5	1.9
	高齢者と子(配偶者有)と孫	100.0 (88)	9.1	63.6	18.2	4.5	22.7	2.3
	高齢者と子(配偶者無)と孫	100.0 (12)	-	66.7	8.3	8.3	25.0	-
	その他	100.0 (261)	5.4	58.2	6.9	3.1	33.0	3.4
不明	100.0 (78)	6.4	62.8	6.4	2.6	29.5	1.3	
世 帯 構 成 (世 代)	単身世帯(ひとりぐらし)	100.0 (460)	10.2	43.7	16.1	2.4	36.3	4.1
	一世代(夫婦のみ)	100.0 (822)	4.5	66.9	7.1	2.3	27.4	1.2
	二世代	100.0 (774)	5.3	58.7	8.3	2.2	33.7	2.3
	三世代	100.0 (155)	6.5	65.8	12.9	3.9	25.2	1.3
A C P の 認 知 度	知っている	100.0 (79)	8.9	68.4	10.1	3.8	17.7	1.3
	中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	100.0 (356)	7.6	68.0	11.8	5.1	21.3	2.8
	知らない	100.0 (1,855)	5.8	57.0	9.3	1.9	33.7	2.1

(8) 最期を迎えたい場所 (問 16)

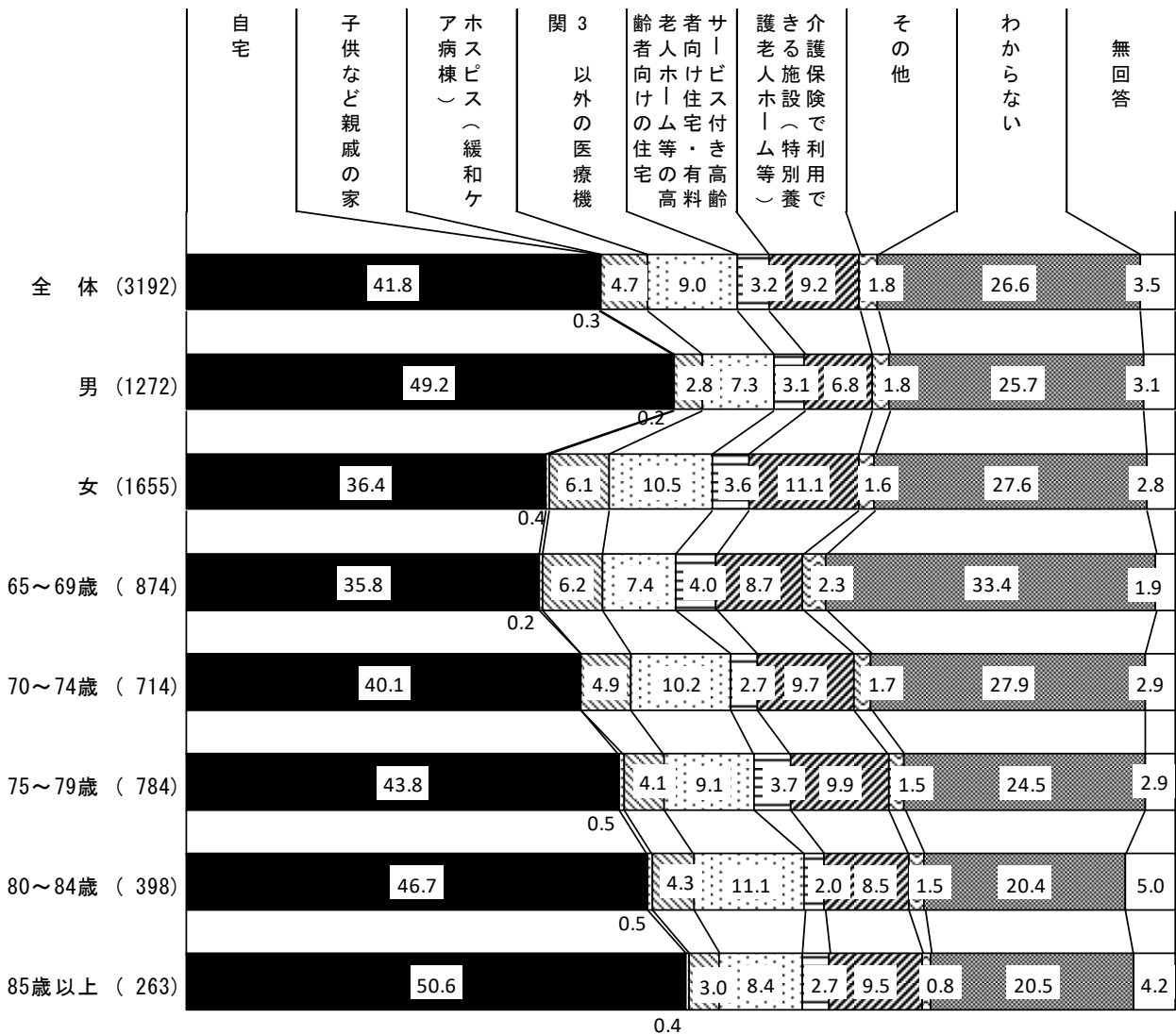
ア 最期を迎えたい場所 (性別、年齢階級別)

対象者全員に最期を迎えたい場所について聞いたところ、「自宅」が41.8%で最も高く、次いで「わからない」が26.6%となっている。

最期を迎えたい場所について性別にしてみると、「自宅」で男性(49.2%)が女性(36.4%)を12.8ポイント上まわった。

年齢階級別にしてみると、すべての階級で「自宅」が最も高く、60~69歳は35.8%だが、高齢になるにつれ高くなり、85歳以上では50.6%と過半数にまで達している。(図表4-8)

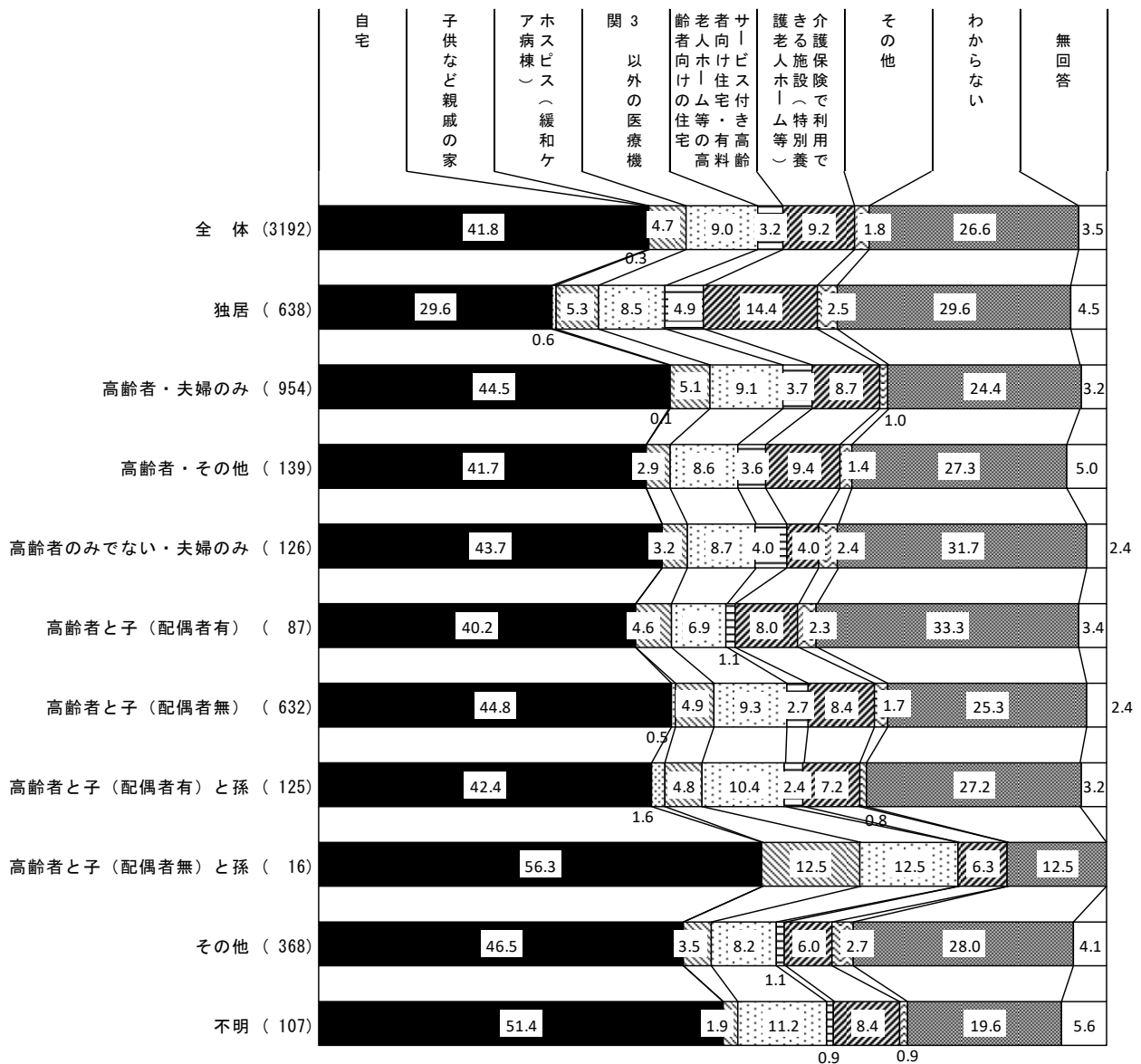
図表 4-8 最期を迎えたい場所 (性別、年齢階級別)



イ 最期を迎えたい場所（世帯類型別）

最期を迎えたい場所について世帯類型別にみると、すべての世帯類型で「自宅」が最も高いが、その割合は他が4割以上なのに対し独居は29.6%にとどまり、差異がみられる。また、独居は「介護保険で利用できる施設（特別養護老人ホーム等）」が14.4%と、比較的高くなっている。（図表4-8-1）

図表4-8-1 最期を迎えたい場所（世帯類型別）



(9) ACPの認知度について (問17)

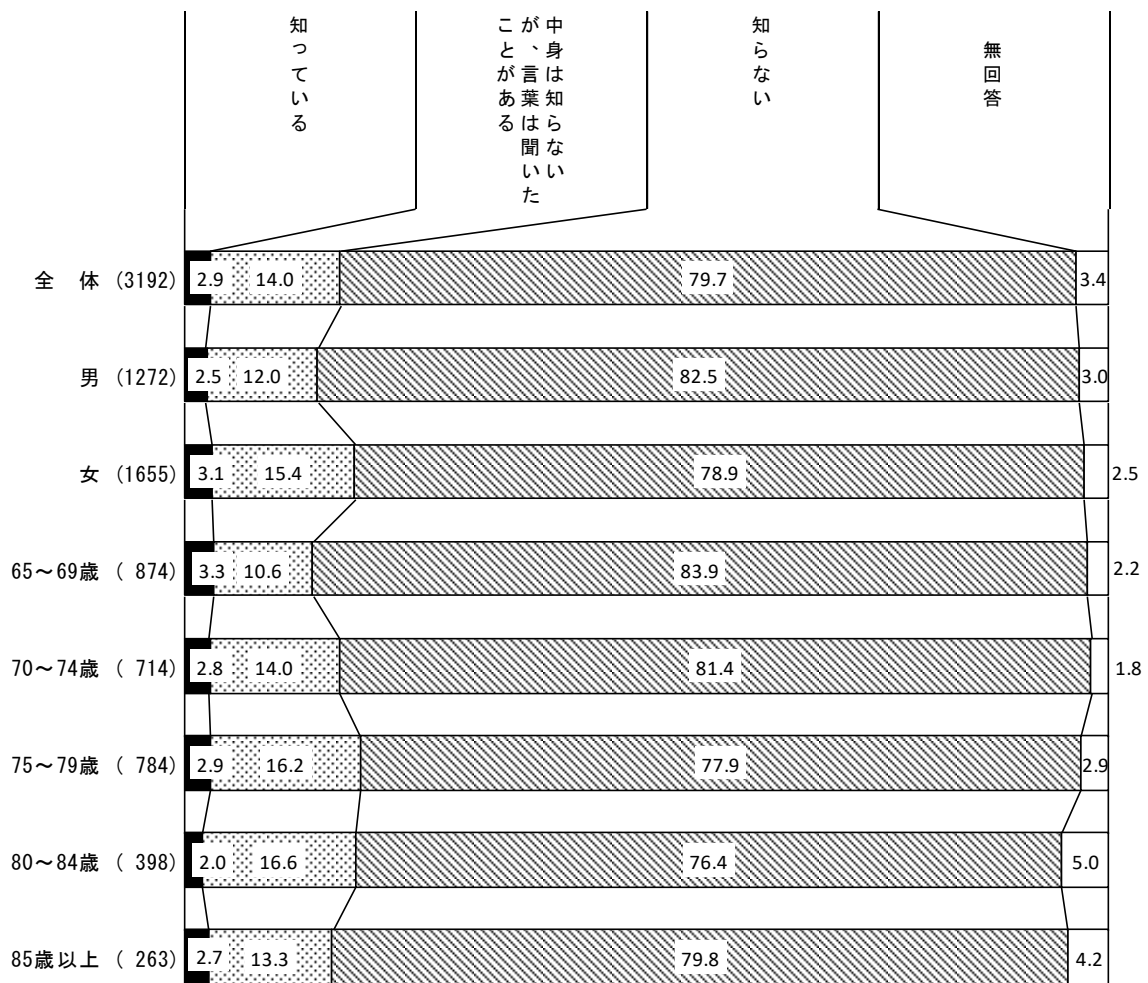
ア ACPについて (性別、年齢階級別)

対象者全員にACPの認知度について聞いたところ、「知っている」が2.9%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が14.0%、「知らない」が79.7%となっている。

ACPの認知度について性別にしてみると、「知らない」で男性(82.5%)が女性(78.9%)を3.6ポイント上まわった。

年齢階級別にしてみると、すべての階級で「知らない」が8割前後で最も高く、それに次いで「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が15%前後となり、特に大きな差異はみられなかった。(図表4-9)

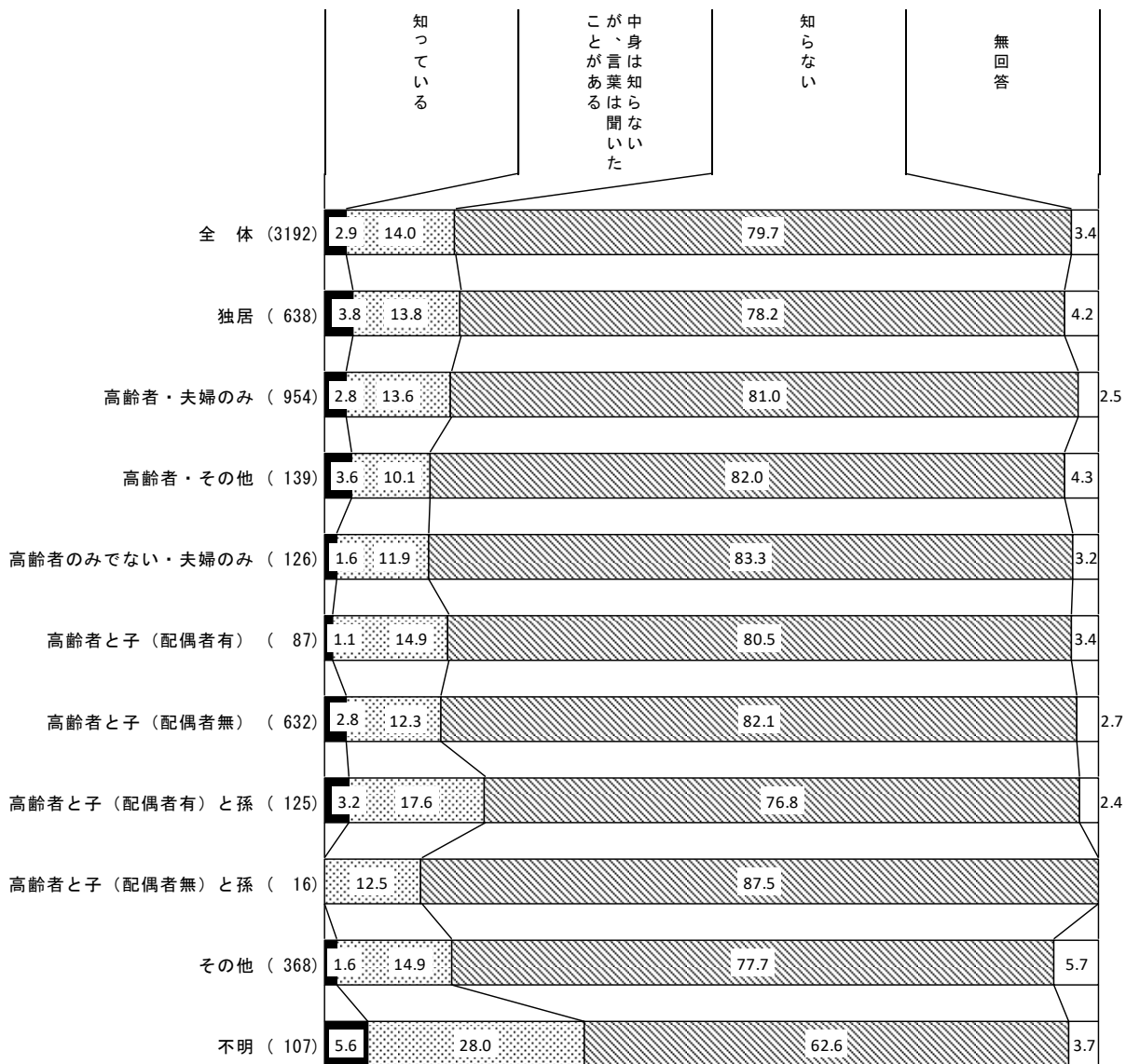
図表4-9 ACPについて (性別、年齢階級別)



イ ACPについて（世帯類型別）

ACPの認知度について世帯類型別にみると、不明を除くすべての世帯類型で「知らない」が8割前後で最も高く、それに次いで「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が15%前後となり、特に大きな差異はみられなかった。（図表4-9-1）

図表 4-9-1 ACPについて（世帯類型別）



第5章 介護サービス

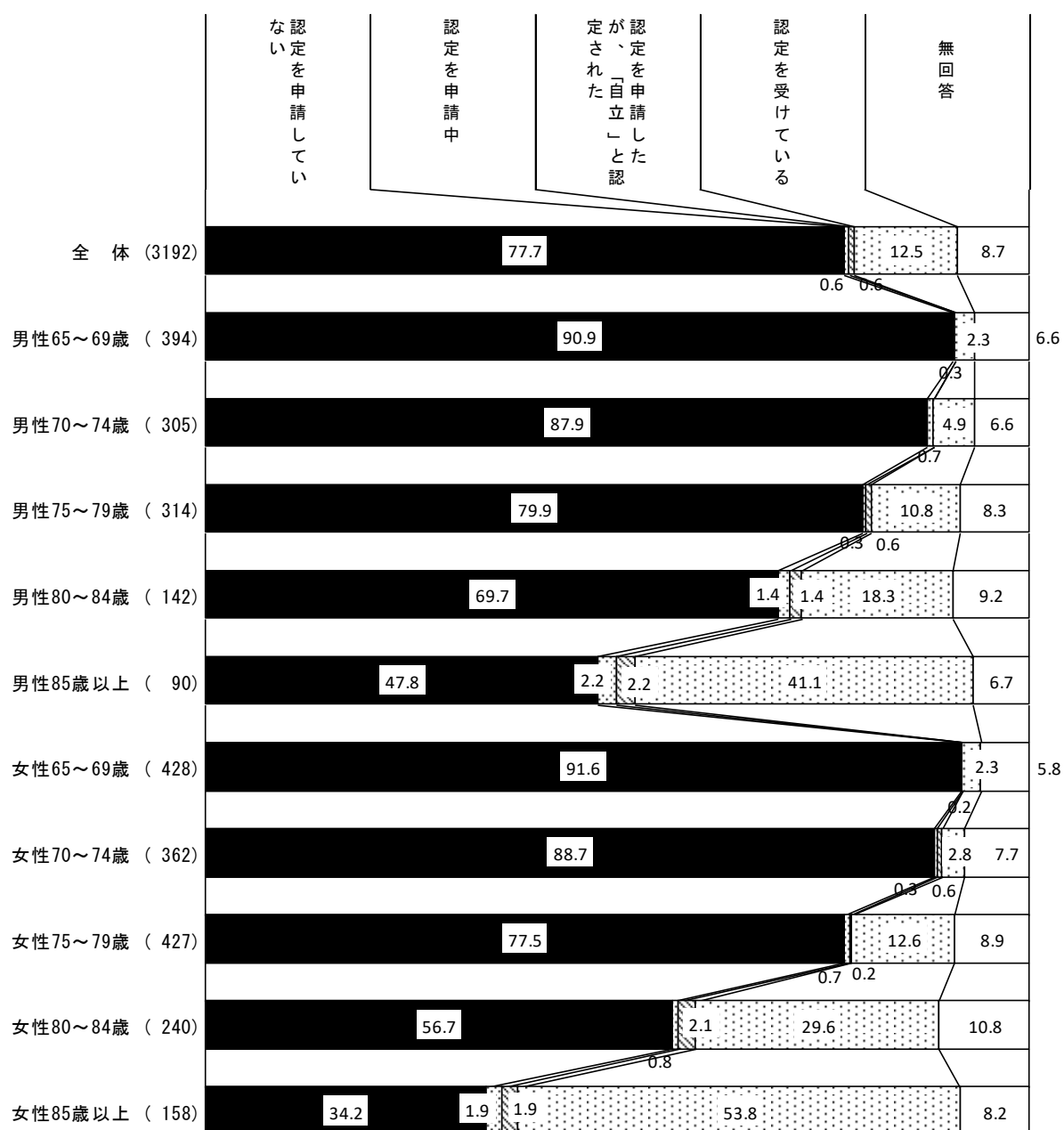
(1) 要介護認定の申請の有無 (問18)

ア 要介護認定の申請の有無 (性・年齢階級別)

対象者全員に要介護認定の申請の有無について聞いたところ、「認定を申請していない」が77.7%で最も高く、次いで「認定を受けている」が12.5%となっている。

要介護認定の申請の有無について性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて「認定を受けている」割合が高くなっている。(図表5-1)

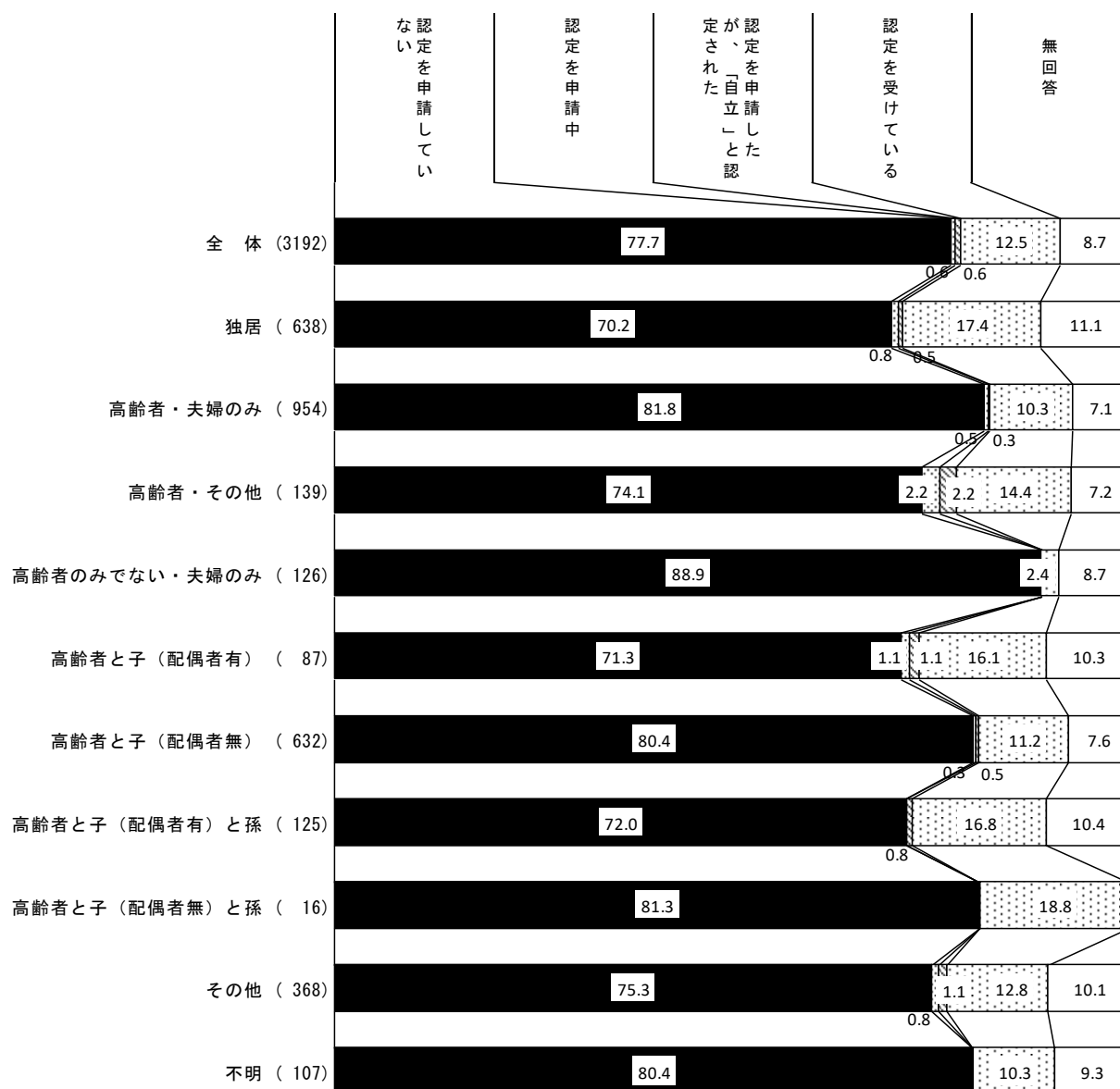
図表5-1 要介護認定の申請の有無 (性・年齢階級別)



イ 要介護認定の申請の有無（世帯類型別）

要介護認定の申請の有無について世帯類型別にみると、いずれの世帯類型も「認定を申請していない」が7割以上で最も高いが、最高値の高齢者のみでない・夫婦のみの88.9%と最低値の独居の70.2%ではやや差異がみられる。「認定を受けている」では他の類型が10%台なのに対し、高齢者のみでない・夫婦のみは2.4%と比較的低くなっている。（図表 5-1-1）

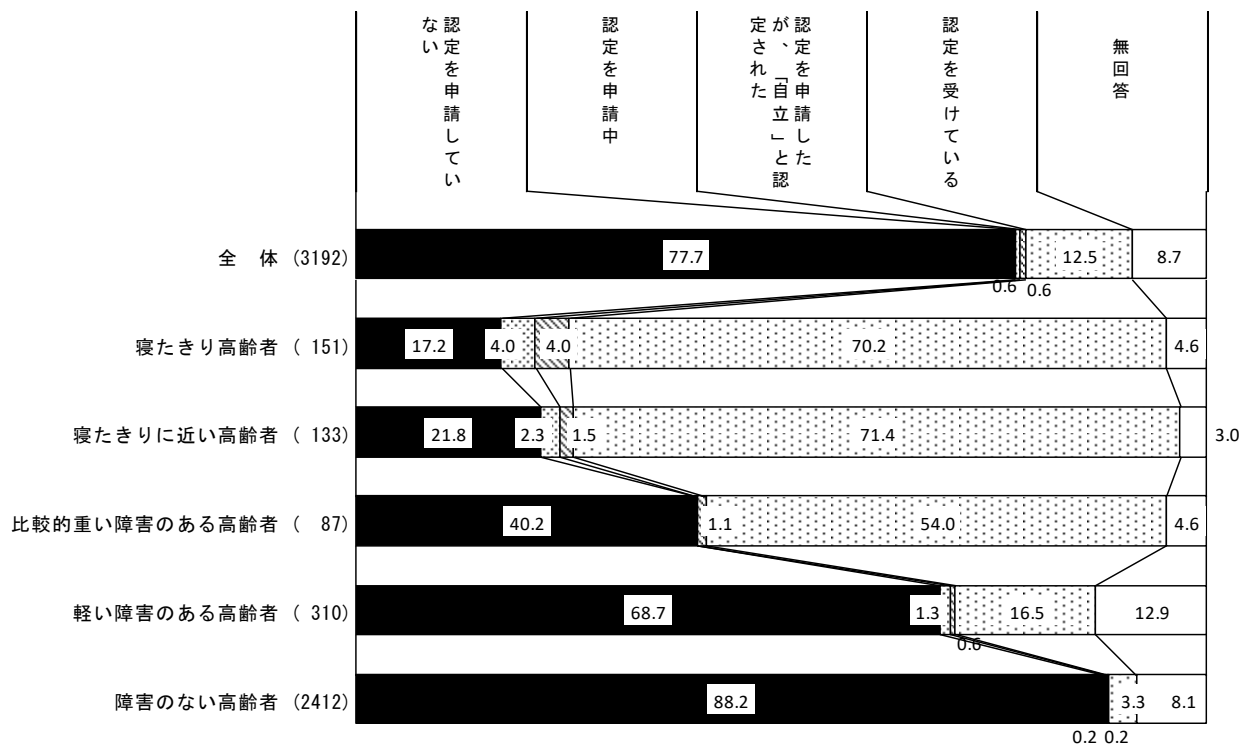
図表 5-1-1 要介護認定の申請の有無（世帯類型別）



ウ 要介護認定の申請の有無（動作能力類型別）

要介護認定の申請の有無について動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者と寝たきりに近い高齢者は「認定を受けている」（70.2%と71.4%）が最も高く、軽い障害のある高齢者と障害のない高齢者は「認定を申請していない」（68.7%と88.2%）が最も高い。比較的重い障害のある高齢者は「認定を受けている」（54.0%）が「認定を申請していない」（40.2%）をやや上まわっている。（図表 5-1-2）

図表 5-1-2 要介護認定の申請の有無（動作能力類型別）



(2) 要支援・要介護度 (問 18-1)

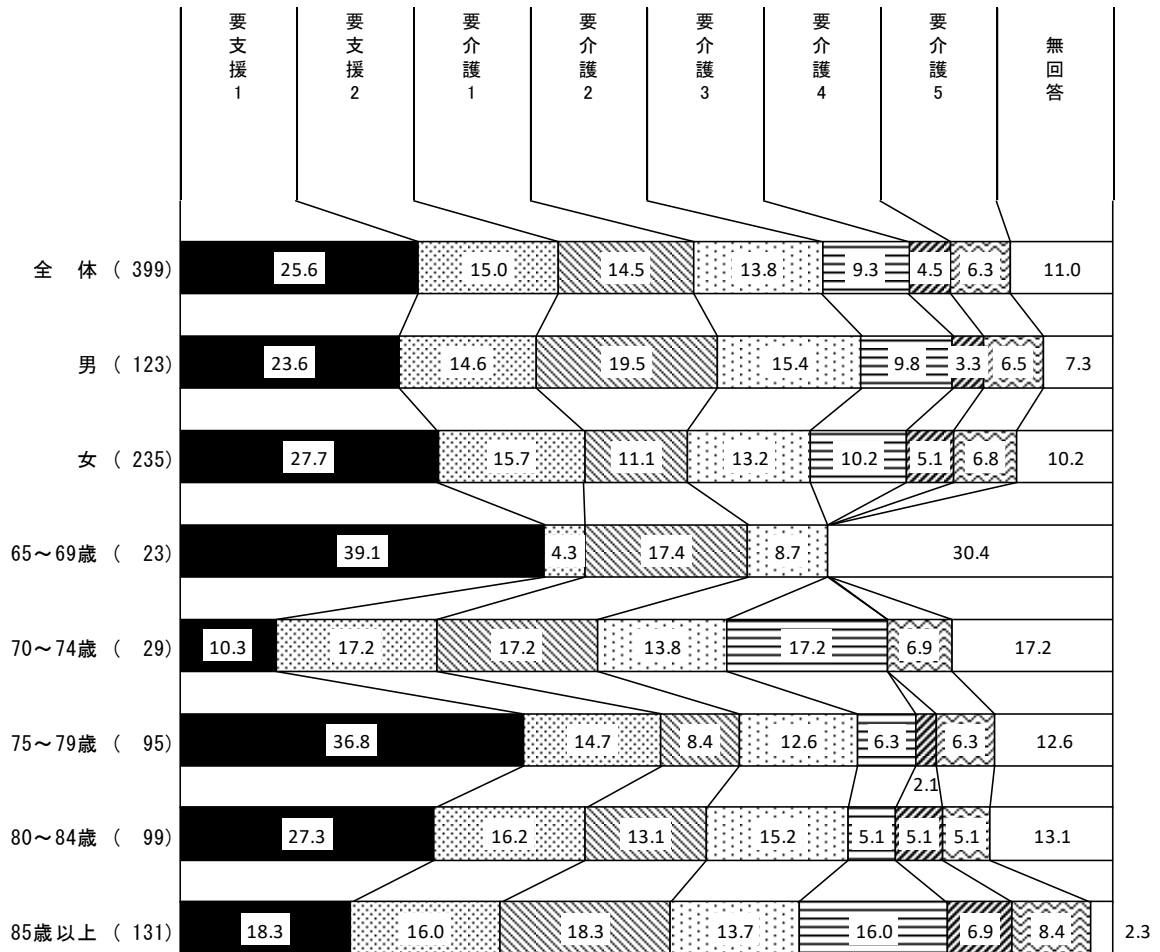
ア 要支援・要介護度 (性別、年齢階級別)

要介護認定 (要支援認定を含む) を受けている人 (399 人) に要支援・要介護度について聞いたところ、「要支援 1」が 25.6% で最も高く、次いで「要支援 2」が 15.0%、「要介護 1」が 14.5% となっている。

性別にみると、男女ともに「要支援 1」が最も高く、それぞれ 23.6%、27.7% となっている。

(図表 5-2)

図表 5-2 要支援・要介護度 (性別、年齢階級別)

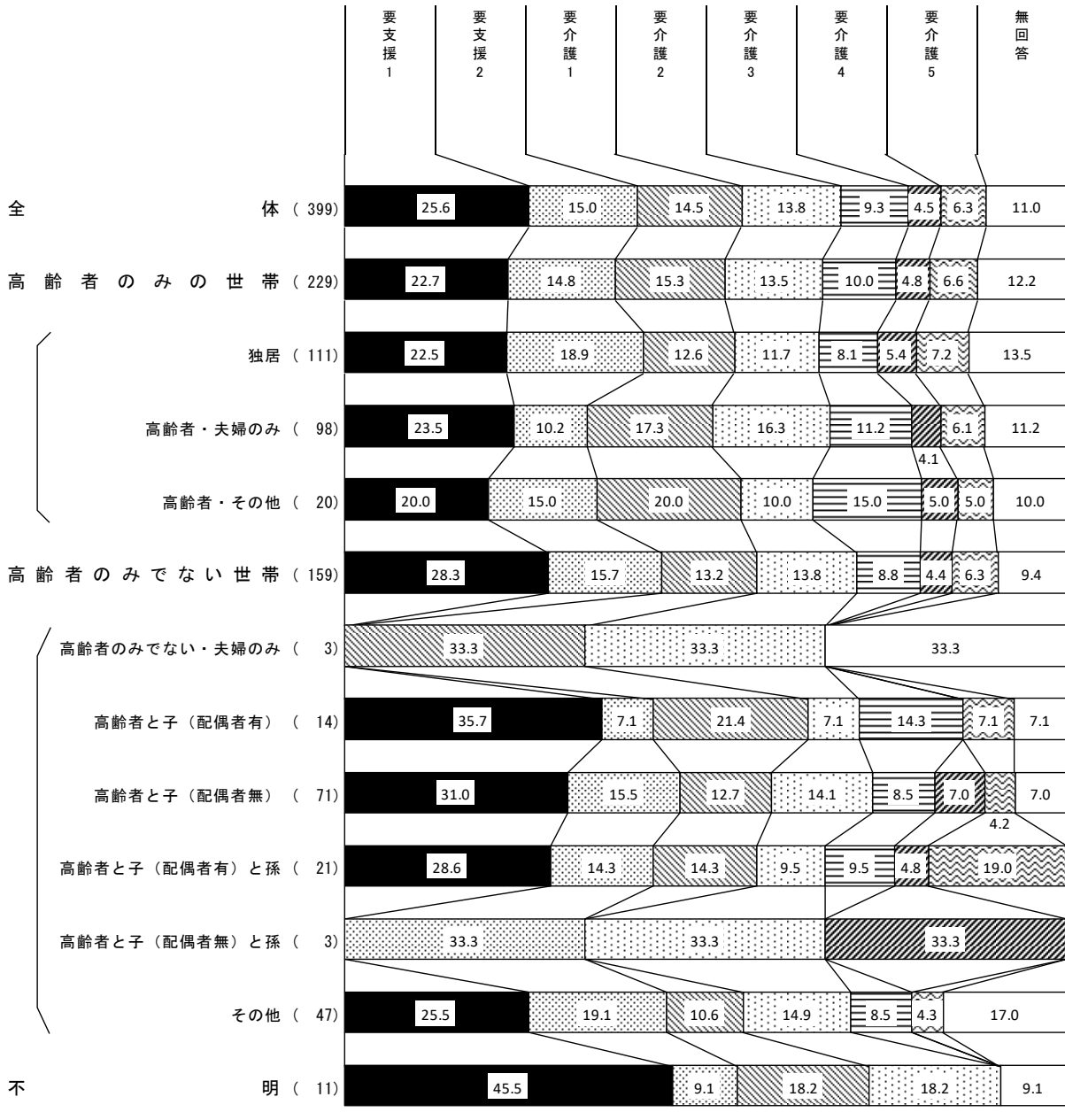


イ 要支援・要介護度（世帯類型別）

要支援・要介護度について世帯類型別にみると、対象サンプルが30件未満の世帯類型を除くと、いずれも「要支援1」が最も高い。独居では「要介護5」が7.2%とやや高い。

（図表 5-2-1）

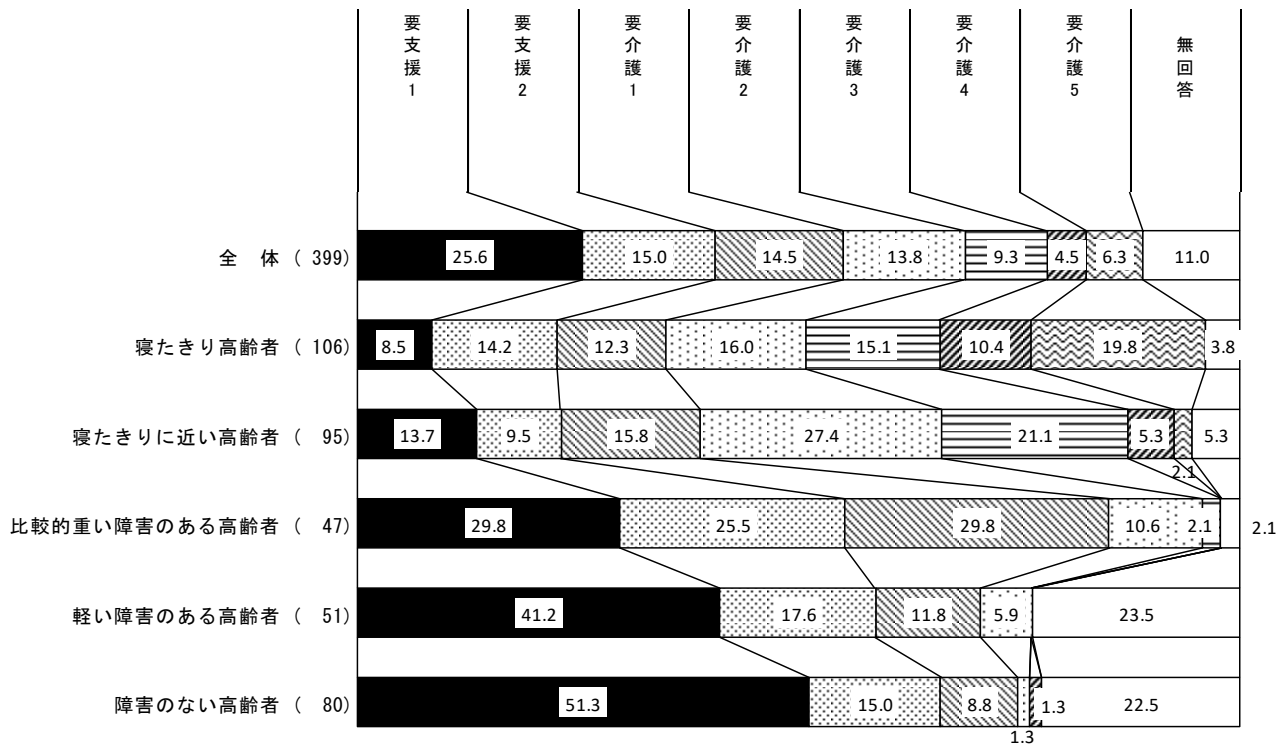
図表 5-2-1 要支援・要介護度（世帯類型別）



ウ 要支援・要介護度（動作能力類型別）

要支援・要介護度について動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者は「要介護5」が19.8%で、寝たきりに近い高齢者は「要介護2」が27.4%で、比較的重い障害のある高齢者は「要支援1」と「要介護1」がそれぞれ29.8%で、軽い障害のある高齢者と障害のない高齢者は「要支援1」がそれぞれ41.2%と51.3%で最も高かった。（図表5-2-2）

図表 5-2-2 要支援・要介護度（動作能力類型別）



(3) 介護の状況 (問 18-2)

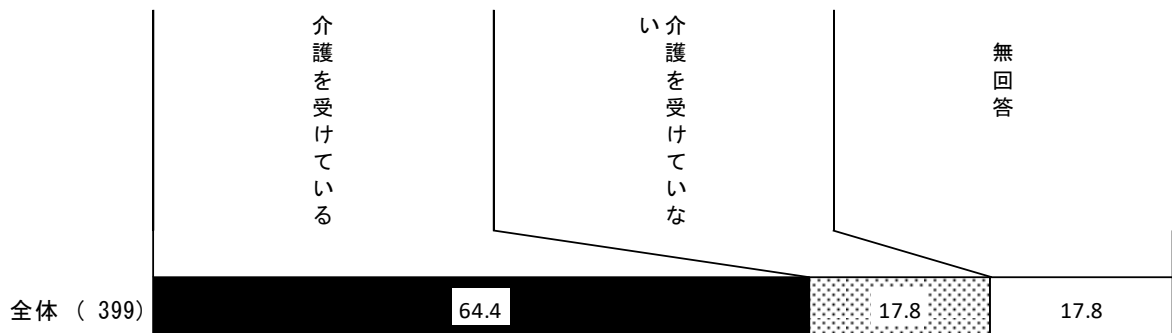
要介護認定（要支援認定を含む）を受けている人（399人）が家族等から介護者について聞いたところ、「介護を受けている」が64.4%、「介護を受けていない」が17.8%となっている。

(図表 5-3)

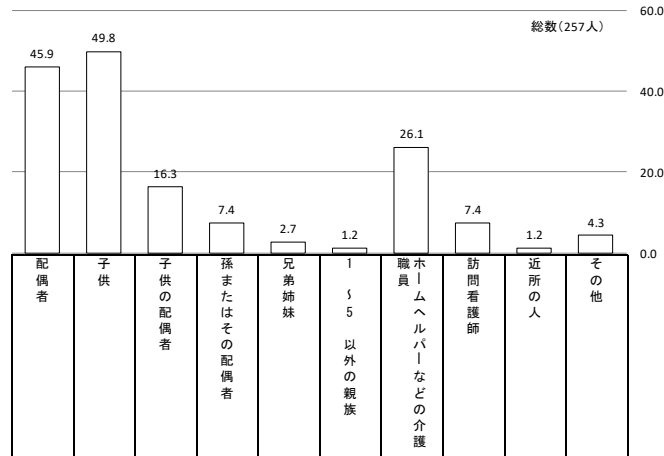
介護を受けている人（257人）に介護をしている人について聞いたところ、「子供」が49.8%で最も高く、次いで「配偶者」が45.9%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が26.1%で続いている。(図表 5-3-1)

さらに、介護をしている人のうち、最も介護をしている時間が長い人について聞いたところ、「配偶者」が40.1%で最も高く、次いで「子供」が28.4%、「ホームヘルパーなどの介護職員」が15.2%で続いている。(図表 5-3-2)

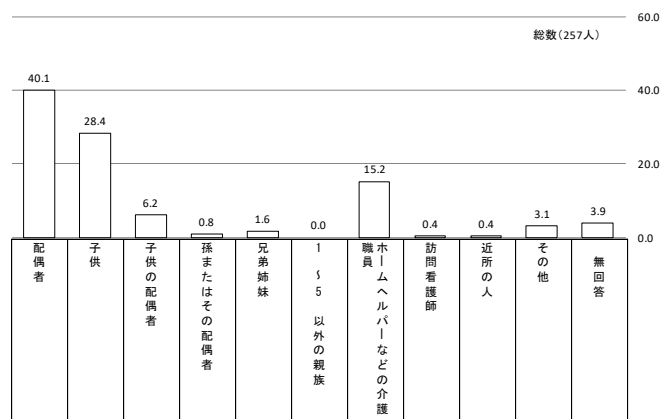
図表 5-3 介護の状況



図表 5-3-1 介護をしている人



図表 5-3-2 最も介護をしている時間が長い人



ア 介護の状況（性・年齢階級別、配偶者の有無別、世帯類型別）

介護を受けている人について、性・年齢階級別にみると、「配偶者」は男性70～74歳が73.3%で最も高く、次いで男性85歳以上が62.2%となっている。

配偶者の有無別にみると、「子供」は死別が43.8%で最も高くなっている。

世帯類型別にみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」は独居が34.2%で最も高く、次いで高齢者のみでない世帯（高齢者と子（配偶者無））が16.9%となっている。（図表5-3-3）

図表5-3-3 介護をしている人（性・年齢階級別、配偶者の有無別、世帯類型別）

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	ホームヘルパーなどの介護職員	訪問看護師	近所の人	その他	介護を受けていない	無回答
全体		100.0 (399)	29.6	32.1	10.5	4.8	1.8	0.8	16.8	4.8	0.8	2.8	17.8	17.8
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (9)	33.3	11.1	-	-	11.1	-	33.3	-	-	-	11.1	11.1
	男性70～74歳	100.0 (15)	73.3	6.7	-	-	-	-	26.7	6.7	-	-	6.7	6.7
	男性75～79歳	100.0 (34)	44.1	20.6	8.8	-	2.9	-	8.8	5.9	-	2.9	26.5	11.8
	男性80～84歳	100.0 (26)	53.8	19.2	3.8	7.7	-	-	7.7	3.8	-	3.8	19.2	7.7
	男性85歳以上	100.0 (37)	62.2	32.4	8.1	-	-	-	13.5	-	-	5.4	-	13.5
	女性65～69歳	100.0 (10)	30.0	20.0	-	-	-	-	10.0	10.0	-	-	40.0	10.0
	女性70～74歳	100.0 (10)	20.0	30.0	-	10.0	10.0	-	20.0	10.0	-	-	20.0	40.0
	女性75～79歳	100.0 (54)	25.9	22.2	1.9	1.9	1.9	-	11.1	3.7	-	1.9	27.8	29.6
	女性80～84歳	100.0 (71)	23.9	39.4	9.9	2.8	-	-	15.5	5.6	1.4	-	16.9	22.5
	女性85歳以上	100.0 (85)	5.9	49.4	25.9	9.4	1.2	1.2	29.4	7.1	1.2	5.9	11.8	12.9
配偶者の有無	配偶者あり	100.0 (183)	59.6	25.7	4.4	1.6	2.2	0.5	7.1	6.6	-	3.8	12.6	17.5
	未婚	100.0 (20)	-	10.0	5.0	-	10.0	-	25.0	-	-	5.0	30.0	20.0
	死別	100.0 (162)	3.1	43.8	19.8	8.6	0.6	1.2	25.3	3.7	1.9	1.2	18.5	17.9
	離別	100.0 (16)	-	18.8	-	6.3	-	-	50.0	6.3	-	6.3	37.5	12.5
世帯類型	独居	100.0 (111)	0.9	23.4	9.0	0.9	1.8	1.8	34.2	3.6	1.8	1.8	26.1	21.6
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (98)	58.2	13.3	4.1	2.0	3.1	1.0	6.1	6.1	-	2.0	18.4	17.3
	高齢者・その他	100.0 (20)	30.0	30.0	10.0	-	5.0	-	10.0	5.0	-	5.0	10.0	20.0
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (3)	66.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	33.3
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (14)	42.9	64.3	14.3	-	-	-	14.3	7.1	-	7.1	7.1	21.4
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (71)	36.6	50.7	1.4	1.4	-	-	16.9	8.5	-	1.4	11.3	16.9
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (21)	23.8	52.4	42.9	23.8	-	-	4.8	-	4.8	14.3	9.5	9.5
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (3)	-	100.0	-	100.0	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-	-
	その他	100.0 (47)	19.1	38.3	27.7	12.8	2.1	-	10.6	-	-	-	23.4	14.9
	不明	100.0 (11)	54.5	54.5	9.1	9.1	-	-	-	-	-	-	-	9.1

イ 最も介護をしている時間が長い人（世帯類型別、要介護度別、生活支援サービス利用有無別）

最も介護をしている時間が長い人について、世帯類型別にみると、「配偶者」は高齢者夫婦のみが85.7%で最も高く、次いで高齢者と子（配偶者無）が41.2%となっている。

要介護度別にみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」は要支援2が30.6%と最も高くなっている。

生活支援サービス利用有無別にみると、「子供」は生活支援サービスの利用有が32.5%と高くなっている。（図表5-3-4）

図表5-3-4 最も介護をしている時間が長い人
（世帯類型別、要介護度別、生活支援サービス利用有無別）

		総数	配偶者	子供	子供の配偶者	孫またはその配偶者	兄弟姉妹	1～5以外の親族	職員 ホームヘルパーなどの介護	訪問看護師	近所の人	その他	無回答
全 体		100.0 (257)	40.1	28.4	6.2	0.8	1.6	0.0	15.2	0.4	0.4	3.1	3.9
世帯類型	独居	100.0 (58)	0.0	25.9	6.9	0.0	1.7	0.0	51.7	0.0	1.7	3.4	8.6
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (63)	85.7	1.6	0.0	0.0	1.6	0.0	1.6	1.6	0.0	3.2	4.8
	高齢者・その他	100.0 (14)	42.9	28.6	7.1	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (10)	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (51)	41.2	49.0	2.0	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	3.9
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (17)	23.5	29.4	35.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (3)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	100.0 (29)	24.1	34.5	13.8	6.9	3.4	0.0	17.2	0.0	0.0	0.0	0.0
不明	100.0 (10)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
要介護度別	要支援1	100.0 (44)	38.6	34.1	11.4	0.0	0.0	0.0	9.1	2.3	0.0	0.0	4.5
	要支援2	100.0 (36)	30.6	33.3	2.8	0.0	0.0	0.0	30.6	0.0	0.0	0.0	2.8
	要介護1	100.0 (47)	44.7	21.3	4.3	2.1	2.1	0.0	14.9	0.0	0.0	6.4	4.3
	要介護2	100.0 (47)	46.8	19.1	8.5	2.1	2.1	0.0	14.9	0.0	2.1	2.1	2.1
	要介護3	100.0 (34)	44.1	38.2	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	2.9	2.9
	要介護4	100.0 (15)	40.0	53.3	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	要介護5	100.0 (22)	27.3	18.2	4.5	0.0	0.0	0.0	31.8	0.0	0.0	13.6	4.5
生活支援サービス利用状況別	利用有	100.0 (114)	28.9	32.5	4.4	0.0	0.0	0.0	27.2	0.9	0.9	2.6	2.6
	利用無	100.0 (20)	55.0	25.0	5.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0
	無回答	100.0 (123)	48.0	25.2	8.1	0.8	3.3	0.0	5.7	0.0	0.0	3.3	5.7

(4) 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス (問 19 (1))

ア 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス (性・年齢階級別、世帯類型別)

対象者全員に利用している日常生活を支援するサービスについて聞いたところ、「現在利用しているサービスまたは今後利用しているサービスはない」が7.3%で最も高く、次いで「家事援助(掃除、洗濯、買い物など)」が2.5%、「配食サービス」が2.1%となっている。

利用しているサービスについて、性・年齢階級別にみると、男性は「現在利用しているサービスはない」では年齢階級が上がるにつれて、概ね割合が低くなる傾向がある。

世帯類型別にみると、高齢者のみでない世帯の方が「現在利用しているサービスはない」の割合が高くなっている。(図表5-4)

図表5-4 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス
(性・年齢階級別、世帯類型別)

	総数	配食サービス	家事援助(掃除、洗濯、買い物など)	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援(車での送迎、付き添い等)	通院の付き添い	定期的な訪問(安否確認、話し相手となる等)	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	預かった費用で、葬儀を行う(葬儀の実施の契約(あらかじめ済ませる費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う)	残存家財の片づけの契約(あらかじめ済ませた費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う)	墓の管理	その他	い	現在利用しているサービスまたは今後利用しているサービスはない	無回答
全 体	100.0 (3,192)	2.1	2.5	1.3	1.4	1.7	1.4	1.5	1.6	1.3	0.6	0.8	0.4	1.6	0.6	7.3	84.8	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	0.5	0.8	0.5	0.5	0.8	0.3	0.8	1.0	-	0.8	0.3	0.3	0.5	-	11.7	86.3
	男性70～74歳	100.0 (305)	1.0	1.0	0.7	0.7	0.7	0.7	1.3	0.7	0.3	0.7	0.3	1.0	0.7	11.8	83.0	
	男性75～79歳	100.0 (314)	1.3	1.6	1.0	0.3	1.0	1.0	1.9	2.2	1.6	1.0	1.3	-	2.2	0.3	10.5	80.9
	男性80～84歳	100.0 (142)	1.4	1.4	1.4	2.1	1.4	0.7	0.7	1.4	0.7	0.7	1.4	-	3.5	-	7.0	83.8
	男性85歳以上	100.0 (90)	8.9	5.6	5.6	3.3	7.8	8.9	4.4	4.4	3.3	-	2.2	-	4.4	2.2	5.6	72.2
	女性65～69歳	100.0 (428)	1.4	0.7	-	0.2	0.2	0.5	0.5	0.2	0.5	0.2	0.2	0.2	0.7	0.2	6.3	90.4
	女性70～74歳	100.0 (362)	1.1	0.8	0.8	0.6	0.6	0.6	0.3	0.6	0.6	-	0.3	-	0.3	-	5.8	92.0
	女性75～79歳	100.0 (427)	3.0	3.0	0.7	1.2	1.4	0.7	1.2	1.9	0.9	0.5	0.9	0.2	1.9	0.9	3.3	86.4
	女性80～84歳	100.0 (240)	3.8	6.3	3.3	3.8	3.3	5.0	2.5	2.5	3.8	0.8	2.1	2.1	2.9	1.3	4.6	81.7
	女性85歳以上	100.0 (158)	7.0	9.5	3.8	3.8	8.2	3.8	6.3	5.1	6.3	1.3	1.3	0.6	1.9	4.4	5.1	69.0
世帯類型	高齢者のみの世帯	100.0 (1,731)	2.7	3.5	1.7	1.8	1.8	1.5	2.1	2.1	1.4	0.9	0.9	0.5	1.8	0.8	6.7	84.1
	独居	100.0 (638)	3.6	6.9	3.1	3.6	3.4	3.1	3.8	3.6	2.4	2.0	1.6	0.9	2.8	0.9	4.4	81.7
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	2.1	1.7	0.9	0.6	0.8	0.6	1.0	1.3	0.8	0.1	0.5	0.2	1.3	0.7	8.3	85.2
	高齢者・その他	100.0 (139)	2.2	-	0.7	1.4	1.4	-	2.2	1.4	0.7	0.7	-	-	0.7	-	6.5	87.1
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,354)	1.5	1.5	0.9	1.0	1.6	1.4	0.8	1.0	1.1	0.2	0.9	0.3	1.3	0.5	8.1	85.2
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8	-	-	0.8	-	0.8	-	-	-	-	12.7	85.7
	高齢者と子(配偶者有)	100.0 (87)	1.1	3.4	3.4	2.3	1.1	4.6	1.1	-	1.1	-	1.1	1.1	2.3	1.1	4.6	83.9
	高齢者と子(配偶者無)	100.0 (632)	1.7	1.7	0.8	0.9	1.4	1.3	0.5	0.8	1.4	-	1.3	0.2	1.1	0.5	6.2	86.2
	高齢者と子(配偶者有)と孫	100.0 (125)	0.8	0.8	0.8	-	2.4	0.8	0.8	1.6	-	-	-	0.8	1.6	1.6	11.2	82.4
	高齢者と子(配偶者無)と孫	100.0 (16)	6.3	6.3	-	-	-	-	-	6.3	6.3	-	-	-	-	-	-	87.5
	その他	100.0 (368)	1.4	0.8	0.5	1.1	2.2	1.6	1.6	1.1	1.1	0.5	0.8	0.3	1.6	0.3	10.1	84.5
不明	100.0 (107)	-	-	-	-	-	-	0.9	0.9	0.9	-	-	-	2.8	-	5.6	91.6	

イ 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス（要介護度別、動作能力類型別）

利用している日常生活を支援するサービスについて要介護度別にみると、要介護2では「配食サービス」が20.0%で最も高く、次いで「家事援助」が18.2%で続いている。

動作能力類型別にみると、寝たきり高齢者では「配食サービス」と「家事援助」が共に15.9%で最も高く、次いで「外出支援」が13.9%で続いている。寝たきりに近い高齢者では、「配食サービス」が12.8%で最も高く、次いで「外出支援」が11.3%で続いている。（図表5-4-1）

図表5-4-1 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス
（要介護度別、動作能力類型別）

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	葬儀の実施の契約（あらかじめ残った費用で、葬儀を行う）	残存家財の片づけの契約（あらかじめ残った費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う）	墓の管理	その他	いは現在利用しているサービスまたは今後利用したいサービスはな	無回答	
全 体	100.0 (3,192)	2.1	2.5	1.3	1.4	1.7	1.4	1.5	1.6	1.3	0.6	0.8	0.4	1.6	0.6	7.3	84.8	
要介護度別	要支援1	100.0 (102)	1.0	7.8	2.0	-	4.9	5.9	4.9	2.9	1.0	1.0	1.0	2.9	3.9	8.8	68.6	
	要支援2	100.0 (60)	10.0	21.7	6.7	6.7	6.7	15.0	8.3	1.7	5.0	1.7	-	3.3	1.7	5.0	50.0	
	要介護1	100.0 (58)	10.3	17.2	3.4	8.6	12.1	12.1	13.8	8.6	5.2	3.4	5.2	5.2	1.7	8.6	53.4	
	要介護2	100.0 (55)	20.0	18.2	10.9	12.7	16.4	10.9	14.5	5.5	9.1	1.8	1.8	-	1.8	10.9	7.3	40.0
	要介護3	100.0 (37)	18.9	10.8	2.7	5.4	8.1	8.1	5.4	2.7	18.9	-	5.4	-	5.4	-	10.8	54.1
	要介護4	100.0 (18)	22.2	22.2	11.1	11.1	16.7	5.6	5.6	5.6	22.2	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	5.6	44.4
	要介護5	100.0 (25)	32.0	32.0	16.0	24.0	36.0	24.0	20.0	16.0	36.0	8.0	-	-	4.0	8.0	8.0	28.0
動作能力類型	寝たきり高齢者	100.0 (151)	15.9	15.9	7.9	10.6	13.9	13.2	11.3	6.6	13.2	5.3	4.0	2.6	6.6	4.0	6.6	53.6
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (133)	12.8	8.3	6.0	5.3	11.3	5.3	7.5	4.5	6.8	-	2.3	-	3.0	5.3	6.8	60.2
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (87)	2.3	18.4	3.4	4.6	4.6	4.6	9.2	3.4	1.1	2.3	-	-	1.1	-	12.6	62.1
	軽い障害のある高齢者	100.0 (310)	1.3	1.9	1.0	0.6	0.3	0.6	1.0	1.6	0.3	0.6	0.6	0.3	0.6	-	6.1	87.7
	障害のない高齢者	100.0 (2,412)	0.7	0.7	0.6	0.6	0.4	0.4	0.5	1.1	0.3	0.2	0.7	0.3	1.4	0.3	7.5	88.3

(5) 日常生活を支援するサービス-今後利用したいサービス (問 19 (2))

ア 日常生活を支援するサービス-利用したいサービス (性・年齢階級別、世帯類型別)

対象者全員に今後利用したい日常生活を支援するサービスについて聞いたところ、「家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)」が 44.5% で最も高く、次いで「配食サービス」が 43.1%、「通院の付き添い」が 32.8% となっている。

今後利用したい日常生活を支援するサービスについて性・年齢階級別にみると、「家事援助」では 85 歳以上以外の年齢階級で、女性の割合が男性を上回る。

世帯類型別にみると、独居では「家事援助」が 47.5% で最も高く、次いで「配食サービス」が 43.3% で続いている。(図表 5-5)

図表 5-5 日常生活を支援するサービス-利用したいサービス
(性・年齢階級別、世帯類型別)

	総数	配食サービス	家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援 (車での送迎、付き添い等)	通院の付き添い	定期的な訪問 (安否確認、話し相手となる等)	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	預かった費用で、葬儀を行う	葬儀の実施の契約 (あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う)	残存家財の片づけの契約 (あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う)	墓の管理	その他	現在利用しているサービスまたは今後利用したいサービスはなし	無回答
全 体	100.0 (3,192)	43.1	44.5	30.4	26.3	32.7	32.8	26.7	29.7	24.9	12.9	14.0	14.1	8.9	1.2	8.6	28.7	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	46.7	45.2	32.5	28.9	35.5	32.0	28.7	32.5	23.9	16.8	18.0	16.5	12.2	1.3	15.2	20.6
	男性70～74歳	100.0 (305)	41.0	42.3	28.5	25.6	30.2	29.5	26.9	26.9	18.4	14.4	15.4	18.0	10.8	1.3	11.5	30.5
	男性75～79歳	100.0 (314)	44.6	42.4	29.6	27.7	31.5	32.2	29.6	31.8	25.2	15.6	18.2	15.0	8.9	1.0	11.1	30.9
	男性80～84歳	100.0 (142)	41.5	31.7	26.1	19.0	21.1	26.8	23.2	25.4	14.8	13.4	16.9	12.7	11.3	1.4	8.5	35.2
	男性85歳以上	100.0 (90)	37.8	41.1	28.9	21.1	27.8	30.0	14.4	24.4	16.7	7.8	11.1	11.1	12.2	-	5.6	37.8
	女性65～69歳	100.0 (428)	53.5	58.2	40.2	33.2	44.6	41.6	35.0	39.0	31.1	15.7	17.8	19.4	10.7	0.9	8.9	16.6
	女性70～74歳	100.0 (362)	49.7	51.7	33.7	32.3	37.6	36.5	27.3	36.5	31.8	12.4	13.0	13.3	6.9	0.3	6.4	23.8
	女性75～79歳	100.0 (427)	44.0	49.9	32.3	27.9	37.2	39.8	30.0	30.2	30.7	12.4	14.1	13.1	7.7	1.9	4.2	28.8
	女性80～84歳	100.0 (240)	32.9	36.7	25.0	19.6	26.3	26.3	19.2	22.5	20.4	7.5	6.3	10.0	6.3	0.4	5.8	37.5
	女性85歳以上	100.0 (158)	22.8	25.3	14.6	14.6	20.3	24.7	17.1	16.5	25.3	6.3	5.7	7.6	5.1	3.8	7.0	37.3
世帯類型	高齢者のみの世帯	100.0 (1,731)	46.2	48.7	34.1	30.3	34.4	34.7	29.2	32.4	26.2	14.0	14.9	16.2	9.2	1.4	7.5	27.0
	独居	100.0 (638)	43.3	47.5	33.2	32.0	31.3	33.4	28.2	31.8	25.1	15.2	15.8	18.7	9.9	1.1	5.6	29.6
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	48.7	50.6	34.9	29.6	36.6	35.5	29.9	32.6	26.6	12.4	13.4	13.8	8.0	1.3	9.0	25.4
	高齢者・その他	100.0 (139)	41.7	41.0	32.4	27.3	33.8	35.3	28.8	33.8	28.1	19.4	20.9	21.6	14.4	3.6	5.8	25.9
	高齢者のみでない世帯	100.0 (1,354)	39.1	39.1	25.9	21.6	30.9	30.4	24.0	26.8	23.4	11.5	13.1	11.7	8.9	0.9	10.1	30.4
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	46.0	48.4	33.3	28.6	39.7	37.3	31.7	38.9	27.8	18.3	18.3	19.8	12.7	0.8	15.1	23.0
	高齢者と子 (配偶者有)	100.0 (87)	25.3	24.1	12.6	8.0	17.2	23.0	12.6	12.6	11.5	4.6	4.6	3.4	4.6	1.1	9.2	42.5
	高齢者と子 (配偶者無)	100.0 (632)	42.2	45.4	29.4	24.7	34.7	35.0	26.7	29.6	25.5	11.4	13.3	11.4	9.0	0.6	7.8	27.1
	高齢者と子 (配偶者有) と孫	100.0 (125)	28.8	22.4	16.0	12.8	24.0	17.6	15.2	17.6	19.2	8.0	11.2	10.4	6.4	0.8	11.2	43.2
	高齢者と子 (配偶者無) と孫	100.0 (16)	31.3	25.0	12.5	18.8	25.0	25.0	25.0	18.8	18.8	6.3	12.5	6.3	6.3	-	12.5	31.3
	その他	100.0 (368)	38.3	34.8	24.5	20.4	27.4	26.6	22.3	24.7	22.8	12.5	13.6	12.0	9.2	1.4	12.2	31.3
不明	100.0 (107)	44.9	45.8	28.0	22.4	28.0	30.8	20.6	23.4	23.4	13.1	11.2	10.3	5.6	0.9	7.5	35.5	

イ 日常生活を支援するサービス-利用したいサービス（要介護度別、動作能力類型別）

今後利用したい日常生活を支援するサービスについて要介護度別にみると、「残存家財の片づけの契約（あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う）」が 16.7%と全体を 2.6 ポイント上回る。

動作能力類型別にみると、「配食サービス」は障害のない高齢者が 46.8%で最も高くなっている。（図表 5-5-1）

図表 5-5-1 日常生活を支援するサービス-利用したいサービス
（要介護度別、動作能力類型別）

	総数	配食サービス	家事援助（掃除、洗濯、買い物など）	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	ゴミ出し	外出支援（車での送迎、付き添い等）	通院の付き添い	定期的な訪問（安否確認、話し相手となる等）	緊急通報システム・火災安全システムの設置	訪問理・美容	身元保証制度	預かった費用で、葬儀を行う（葬儀の実施の契約（あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う））	残存家財の片づけの契約（あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う）	墓の管理	その他	現在利用しているサービスはまた	無回答	
全 体	100.0 (3,192)	43.1	44.5	30.4	26.3	32.7	32.8	26.7	29.7	24.9	12.9	14.0	14.1	8.9	1.2	8.6	28.7	
要介護度別	要支援1	100.0 (102)	35.3	40.2	27.5	24.5	26.5	34.3	23.5	22.5	24.5	10.8	12.7	16.7	9.8	2.0	5.9	30.4
	要支援2	100.0 (60)	23.3	30.0	23.3	18.3	25.0	21.7	20.0	16.7	15.0	8.3	6.7	10.0	6.7	-	3.3	35.0
	要介護1	100.0 (58)	19.0	37.9	24.1	25.9	29.3	34.5	20.7	22.4	24.1	10.3	10.3	12.1	12.1	-	1.7	44.8
	要介護2	100.0 (55)	21.8	21.8	20.0	14.5	12.7	18.2	10.9	7.3	14.5	7.3	5.5	3.6	7.3	3.6	5.5	45.5
	要介護3	100.0 (37)	18.9	16.2	13.5	8.1	29.7	21.6	16.2	21.6	18.9	18.9	16.2	16.2	10.8	-	8.1	43.2
	要介護4	100.0 (18)	16.7	33.3	33.3	16.7	22.2	27.8	22.2	16.7	22.2	11.1	11.1	11.1	5.6	-	11.1	44.4
	要介護5	100.0 (25)	16.0	24.0	20.0	20.0	16.0	20.0	20.0	12.0	12.0	16.0	24.0	24.0	24.0	8.0	4.0	28.0
動作能力類型	寝たきり高齢者	100.0 (151)	25.2	29.1	20.5	19.9	23.2	24.5	19.2	17.9	18.5	13.9	13.9	14.6	11.3	2.0	4.0	41.1
	寝たきりに近い高齢者	100.0 (133)	28.6	30.1	27.1	19.5	27.1	30.8	17.3	21.1	25.6	12.0	12.0	12.0	12.0	3.8	4.5	36.8
	比較的重い障害のある高齢者	100.0 (87)	28.7	33.3	24.1	25.3	25.3	31.0	19.5	20.7	18.4	9.2	12.6	12.6	9.2	-	9.2	31.0
	軽い障害のある高齢者	100.0 (310)	38.4	37.4	23.2	23.9	28.1	30.6	22.9	22.6	21.3	11.3	11.9	12.6	8.4	1.3	5.5	39.4
	障害のない高齢者	100.0 (2,412)	46.8	48.2	32.7	27.8	34.7	34.1	28.9	32.5	26.3	13.4	14.5	14.5	8.7	1.0	9.7	25.2

(6) サービスの主体 (問 19-1)

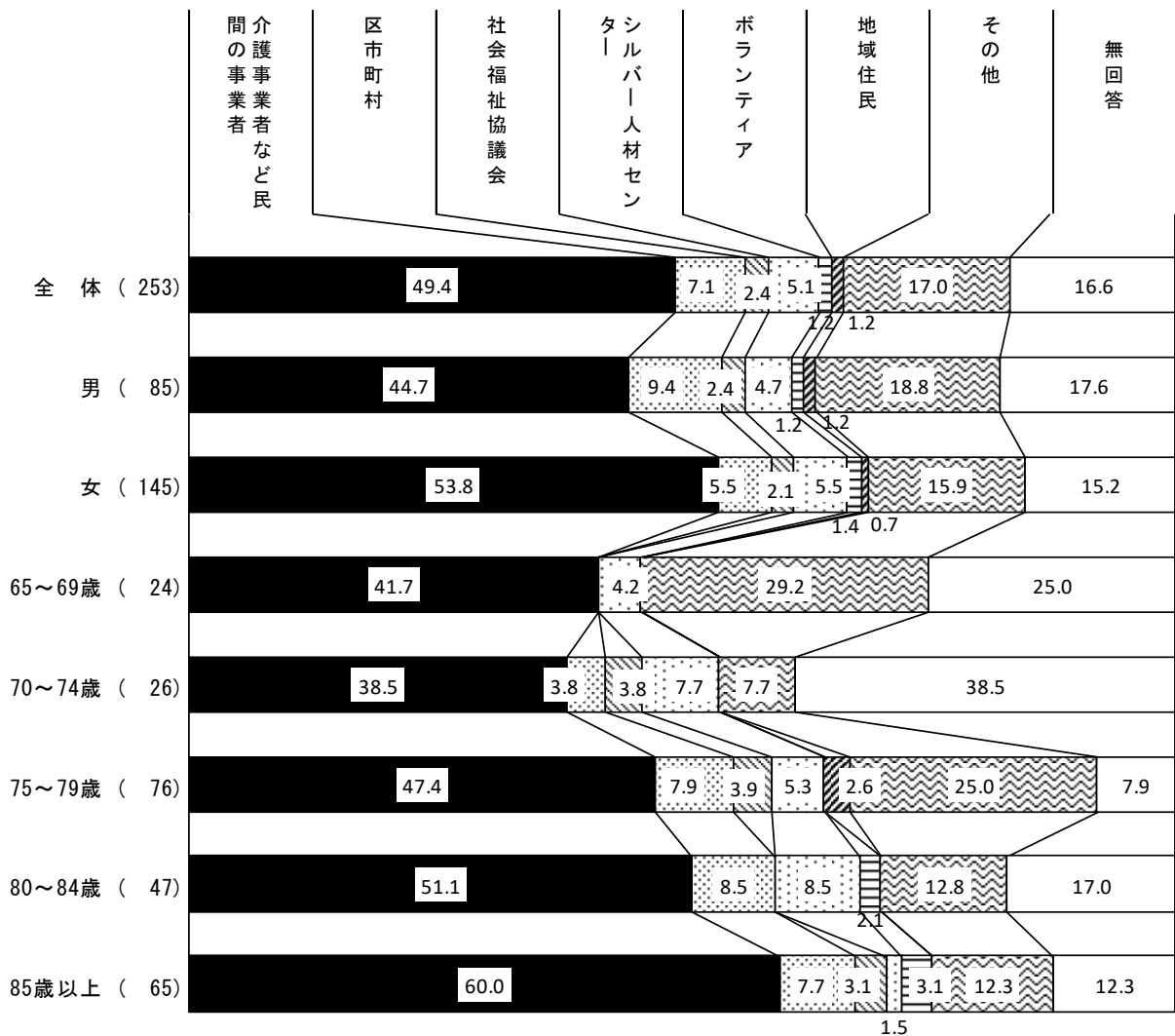
ア サービスの主体 (性別、年齢階級別)

問 19 で利用しているを1つ以上選んだ方にサービスの主体について聞いたところ、「介護事業者など民間の事業者」が49.4%で最も高く、次いで「区市町村」が7.1%、「シルバー人材センター」が5.1%となっている。

サービスの主体について性別にしてみると、「介護事業者など民間の事業者」で女性(53.8%)が男性(44.7%)を9.1ポイント上まわった。

年齢階級別にしてみると、いずれの階級も「介護事業者など民間の事業者」が最も高く、高齢になるにつれその割合が高くなる傾向がみられる。(図表 5-6)

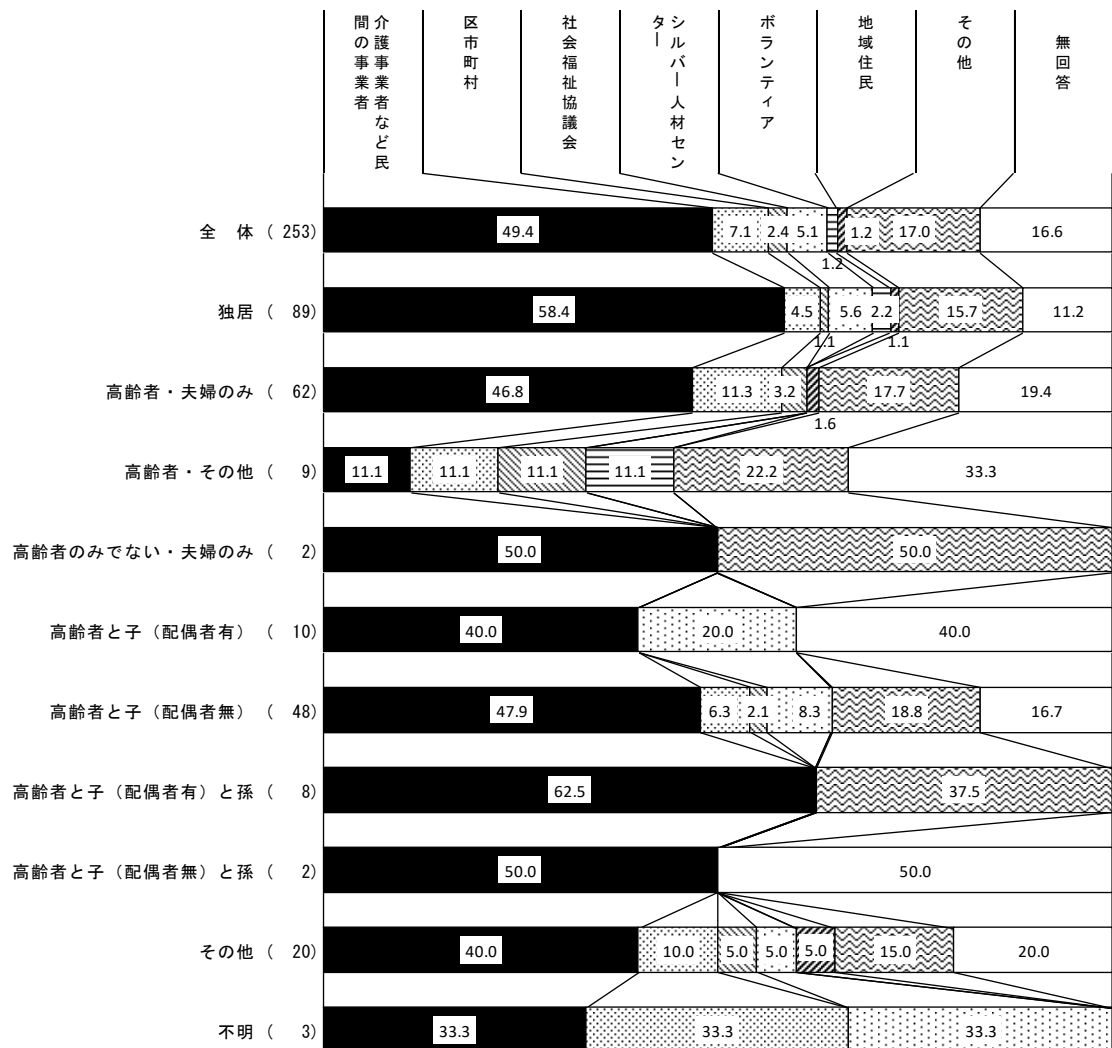
図表 5-6 サービスの主体 (性別、年齢階級別)



イ サービスの主体（世帯類型別）

サービスの主体について世帯類型別にサンプル数 30 件以上の世帯類型をみると、独居と高齢者・夫婦のみと高齢者と子（配偶者無）では「介護事業者など民間の事業者」がそれぞれ 58.4%・46.8%・47.9%で最も高くなっている。（図表 5-6-1）

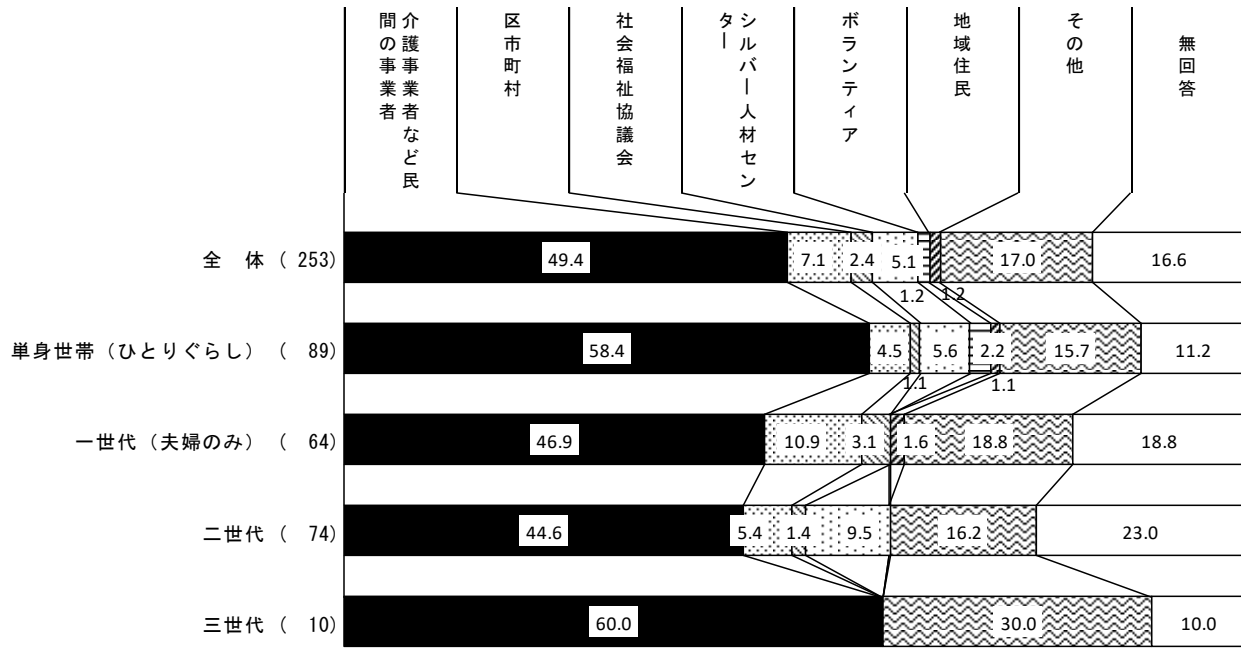
図表 5-6-1 サービスの主体（世帯類型別）



ウ サービスの主体（世帯構成（世代）別）

サービスの主体について世帯構成（世代）別にみると、すべての世帯構成で「介護事業者など民間の事業者」が最も高くなっている。また、「区市町村」は一世代（夫婦のみ）で10.9%と比較的高くなっている。（図表5-6-2）

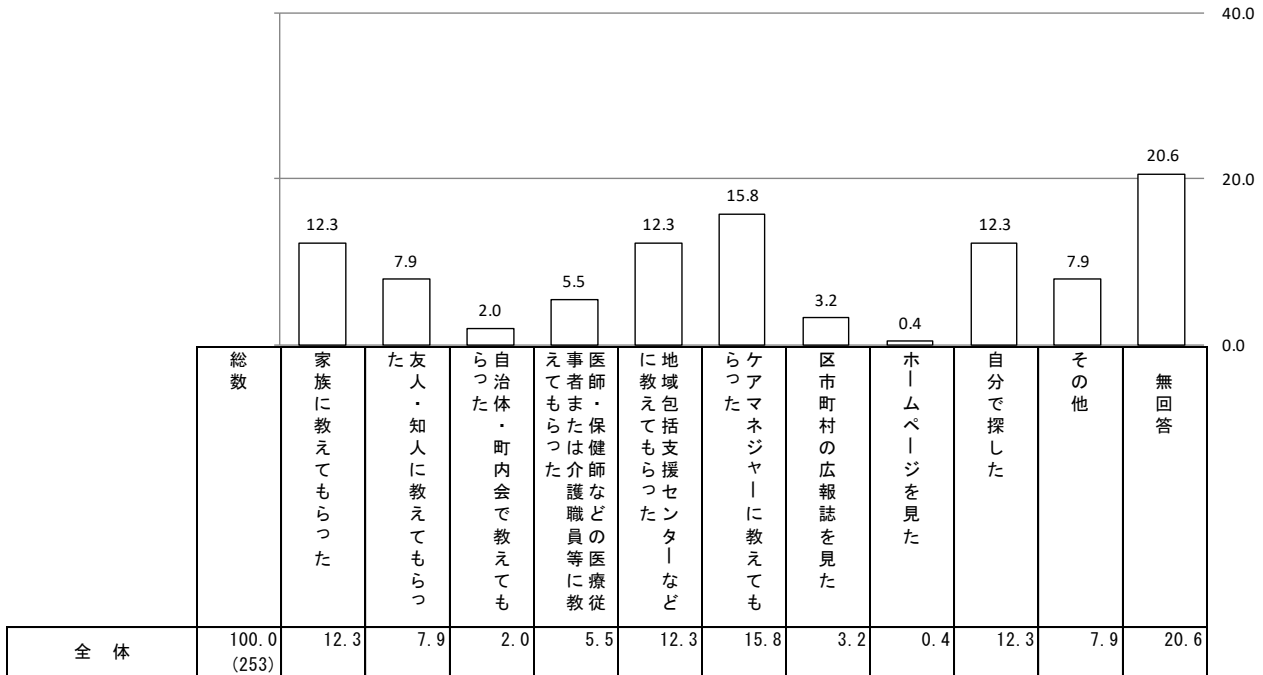
図表 5-6-2 サービスの主体（世帯構成（世代）別）



(7) 利用のきっかけ (問 19-2)

問 19 で利用しているを 1 つ以上選んだ方に利用のきっかけについて聞いたところ、「ケアマネジャーに教えてもらった」が 15.8%で最も高く、次いで「家族に教えてもらった」と「地域包括支援センターなどに教えてもらった」と「自分で探した」が共に 12.3%となっている。(図表 5-7)

図表 5-7 利用のきっかけ



ア 利用のきっかけ（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別、サービスの主体別）

利用のきっかけについて、性別にみると、「ケアマネジャーに教えてもらった」では男性が 8.2%、女性が 20.7%で女性の方が 12.5 ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、サンプル数の少ない 60～74 歳を除くと、85 歳以上では「ケアマネジャーに教えてもらった」が 29.2%で高くなっている。

サービスの主体別にみても、介護事業者など民間の事業者では「ケアマネジャーに教えてもらった」が 22.4%で高くなっている。（図表 5-7-1）

図表 5-7-1 利用のきっかけ
（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別、サービスの主体別）

	総数	家族に教えてもらった	友人・知人に教えてもらった	自治体・町内会で教えてもらった	医師・保健師などの医療従事者または介護職員等に教えてもらった	地域包括支援センターなどに教えてもらった	ケアマネジャーに教えてもらった	区市町村の広報誌を見た	ホームページを見た	自分で探した	その他	無回答	
全体	100.0 (253)	12.3	7.9	2.0	5.5	12.3	15.8	3.2	0.4	12.3	7.9	20.6	
性別	男	100.0 (85)	16.5	1.2	2.4	4.7	17.6	8.2	4.7	-	16.5	7.1	21.2
	女	100.0 (145)	9.0	12.4	2.1	6.2	9.0	20.7	2.1	0.7	11.0	6.9	20.0
年齢階級別	65～69歳	100.0 (24)	4.2	8.3	-	-	12.5	4.2	4.2	4.2	16.7	16.7	29.2
	70～74歳	100.0 (26)	3.8	3.8	7.7	3.8	7.7	3.8	7.7	-	11.5	7.7	42.3
	75～79歳	100.0 (76)	10.5	13.2	1.3	6.6	10.5	10.5	2.6	-	19.7	11.8	13.2
	80～84歳	100.0 (47)	12.8	6.4	-	10.6	14.9	14.9	4.3	-	6.4	4.3	25.5
	85歳以上	100.0 (65)	21.5	4.6	3.1	4.6	13.8	29.2	-	-	7.7	4.6	10.8
世帯類型	独居	100.0 (89)	11.2	10.1	2.2	3.4	11.2	18.0	-	-	15.7	10.1	18.0
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (62)	14.5	4.8	1.6	6.5	12.9	11.3	1.6	-	11.3	8.1	27.4
	高齢者・その他	100.0 (9)	-	-	-	11.1	-	22.2	11.1	-	-	22.2	33.3
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (10)	10.0	10.0	-	10.0	20.0	10.0	-	-	10.0	-	30.0
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (48)	12.5	10.4	2.1	8.3	14.6	16.7	4.2	2.1	12.5	4.2	12.5
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (8)	12.5	-	-	12.5	-	37.5	12.5	-	12.5	-	12.5
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (2)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
	その他	100.0 (20)	20.0	5.0	5.0	-	20.0	15.0	10.0	-	5.0	5.0	15.0
	不明	100.0 (3)	-	33.3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	33.3
世帯構成（世代）	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0 (89)	11.2	10.1	2.2	3.4	11.2	18.0	-	-	15.7	10.1	18.0
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (64)	14.1	4.7	1.6	6.3	12.5	10.9	1.6	-	12.5	9.4	26.6
	二世帯	100.0 (74)	13.5	9.5	1.4	6.8	13.5	17.6	5.4	1.4	9.5	4.1	17.6
	三世帯	100.0 (10)	10.0	-	-	10.0	-	30.0	10.0	-	10.0	-	30.0
サービスの主体別	介護事業者など民間の事業者	100.0 (125)	17.6	8.0	2.4	5.6	18.4	22.4	0.0	0.8	9.6	4.0	11.2
	区市町村	100.0 (18)	16.7	0.0	5.6	22.2	11.1	16.7	11.1	0.0	5.6	0.0	11.1
	社会福祉協議会	100.0 (6)	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0
	シルバー人材センター	100.0 (13)	0.0	38.5	0.0	0.0	23.1	7.7	23.1	0.0	7.7	0.0	0.0
	ボランティア	100.0 (3)	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域住民	100.0 (3)	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	その他	100.0 (43)	7.0	9.3	0.0	4.7	0.0	7.0	2.3	0.0	34.9	30.2	4.7

(8) 介護予防の活動内容 (問 20)

ア 介護予防の活動内容 (性別、年齢階級別、世帯類型別)

対象者全員に介護予防の活動内容について聞いたところ、「1～3 以外の活動 (自宅での運動や散歩等)」が 35.1%で最も高く、次いで「何も行っていない」が 34.2%、「民間サービスを利用した活動 (スポーツジム等)」が 10.9%となっている。

介護予防の活動内容について性別にみても、「1～3 以外の活動 (自宅での運動や散歩等)」で男性(41.7%)が女性(31.4%)を 10.3 ポイント上まわった。

年齢階級別にみても、いずれの階級も「1～3 以外の活動 (自宅での運動や散歩等)」と「何も行っていない」が拮抗して最も高く、「民間サービスを利用した活動 (スポーツジム等)」は高齢になるにつれその割合が低く、逆に「区市町村や保健所が実施する体操教室などの活動」は高くなる傾向がみられる。

世帯類型別(サンプル数の少ない「高齢者と子 (配偶者無) と孫」は除く)にみても、すべての類型で「1～3 以外の活動 (自宅での運動や散歩等)」と「何も行っていない」が 3～4 割程度で拮抗して最も高くなっている。「民間サービスを利用した活動 (スポーツジム等)」は高齢者・夫婦のみが 14.3%で比較的高い。(図表 5-8)

図表 5-8 介護予防の活動内容 (性別、年齢階級別、世帯類型別)

	総数	区市町村や保健所が実施する体操教室などの活動	地域住民が運営する体操グループなどの活動	民間サービスを利用した活動 (スポーツジム等)	1～3 以外の活動 (自宅での運動や散歩等)	何も行っていない	無回答	
全 体	100.0 (3,192)	5.0	6.2	10.9	35.1	34.2	8.6	
性別	男	100.0 (1,272)	2.4	3.5	7.2	41.7	39.2	5.9
	女	100.0 (1,655)	7.5	8.0	14.0	31.4	29.9	9.1
年齢階級別	65～74歳	100.0 (1,588)	4.2	4.8	12.9	35.0	38.1	5.0
	75～84歳	100.0 (1,182)	5.8	9.0	9.7	37.1	28.6	9.8
	85歳以上	100.0 (263)	7.2	2.3	5.3	31.2	40.7	13.3
	75歳以上	100.0 (1,445)	6.1	7.8	8.9	36.0	30.8	10.4
世帯類型	独居	100.0 (638)	5.6	6.0	10.8	32.8	32.8	12.1
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	5.6	7.2	14.3	36.0	30.5	6.5
	高齢者・その他	100.0 (139)	4.3	2.9	10.1	26.6	46.8	9.4
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	2.4	2.4	8.7	41.3	41.3	4.0
	高齢者と子 (配偶者有)	100.0 (87)	5.7	5.7	8.0	34.5	32.2	13.8
	高齢者と子 (配偶者無)	100.0 (632)	4.6	7.0	10.1	35.6	33.1	9.7
	高齢者と子 (配偶者有) と孫	100.0 (125)	6.4	8.8	9.6	37.6	35.2	2.4
	高齢者と子 (配偶者無) と孫	100.0 (16)	-	25.0	12.5	31.3	31.3	-
	その他	100.0 (368)	4.3	3.5	6.3	36.4	42.1	7.3
	不明	100.0 (107)	4.7	7.5	8.4	34.6	32.7	12.1

イ 介護予防の活動内容（外出頻度別、就業状況別、収入別、金融貯蓄別）

外出頻度別にみても、「ほとんど外出しない」では「何もやっていない」が62.0%で比較的高い。

収入別と金融貯蓄別でみても、「何も行ってない」は3～4割台が多い中、本人収入1,000万円以上(25.6%)と金融貯蓄2,000～3,000万円(27.7%)・3,000万円以上(23.3%)はそれぞれ3割未満となり、経済的余裕と反比例する傾向がみられる。（図表5-8-1）

図表 5-8-1 介護予防の活動内容（外出頻度別、就業状況別、収入別、金融貯蓄別）

		総数	区市町村 操作教室や 保健所が 実施する 活動	地域住民 が運営する 体操グ ループなど の活動	民間サー ビスを利用 した活 動（スポ ーツジ ム等）	153 以外の活 動（自 宅で 運動や 散歩等）	何も 行って ない	無 回 答
全 体		100.0 (3,192)	5.0	6.2	10.9	35.1	34.2	8.6
外 出 頻 度 別	ほぼ毎日	100.0 (1,603)	5.3	6.9	13.3	36.6	30.9	7.0
	週4回程度	100.0 (562)	5.3	7.5	13.9	34.7	30.8	7.8
	週2～3回程度	100.0 (602)	5.8	5.6	7.5	37.0	36.0	8.0
	週1回程度	100.0 (180)	3.3	3.3	2.2	32.2	48.3	10.6
	ほとんど外出しない	100.0 (142)	0.7	2.1	1.4	23.2	62.0	10.6
状 況 別 就 業	している	100.0 (1,117)	3.2	5.6	9.6	34.6	40.4	6.6
	していない	100.0 (1,930)	6.3	7.0	12.0	35.5	31.4	7.8
収 入 別	50万円未満	100.0 (184)	4.9	7.1	8.7	26.1	39.7	13.6
	50万円以上100万円未満	100.0 (610)	5.9	8.2	11.8	33.4	32.0	8.7
	100万円以上150万円未満	100.0 (425)	6.6	7.5	13.2	30.1	33.9	8.7
	150万円以上200万円未満	100.0 (340)	6.2	6.8	10.3	36.2	35.6	5.0
	200万円以上250万円未満	100.0 (405)	5.4	7.9	9.9	37.5	34.6	4.7
	250万円以上300万円未満	100.0 (356)	3.7	6.2	9.6	38.2	34.6	7.9
	300万円以上500万円未満	100.0 (358)	3.4	4.2	13.4	39.4	36.0	3.6
	500万円以上700万円未満	100.0 (127)	3.1	1.6	11.8	47.2	32.3	3.9
	700万円以上1,000万円未満	100.0 (65)	7.7	1.5	9.2	40.0	35.4	6.2
	1,000万円以上	100.0 (78)	-	5.1	11.5	43.6	25.6	14.1
金 融 貯 蓄 別	貯蓄はない	100.0 (242)	2.9	4.5	5.0	35.1	44.2	8.3
	100万円未満	100.0 (328)	4.0	3.0	4.3	34.1	47.6	7.0
	100～200万円	100.0 (169)	5.3	6.5	9.5	30.8	38.5	9.5
	200～300万円	100.0 (167)	4.2	8.4	8.4	31.1	38.9	9.0
	300～400万円	100.0 (115)	2.6	4.3	7.0	33.0	46.1	7.0
	400～500万円	100.0 (208)	5.3	5.3	7.7	37.5	37.5	6.7
	500～1,000万円	100.0 (445)	5.2	9.0	12.1	34.2	33.3	6.3
	1,000～2,000万円	100.0 (461)	6.7	6.3	14.1	35.4	30.4	7.2
	2,000～3,000万円	100.0 (310)	6.5	7.1	13.9	36.8	27.7	8.1
	3,000万円以上	100.0 (459)	4.8	7.4	18.1	41.0	23.3	5.4

(9) 介護予防の活動頻度 (問 20-1)

ア 介護予防の活動頻度 (性別、年齢階級別、活動内容別、外出頻度別)

問 20 で「1~3」を選んだ方に介護予防の活動頻度について聞いたところ、「月 2・3 回」が 51.6% で最も高く、次いで「週 1 回以上」が 34.5%、「月 1 回」が 2.4%となっている。

介護予防の活動内容について性別にしてみると、「月 2・3 回」で女性(53.2%)が男性(46.1%)を 7.1 ポイント上まわった。

年齢階級別にしてみると、「週 1 回以上」は 70~74 歳が 38.9%で高くなっている。

外出頻度別にしてみると、「週 1 回以上」はほぼ毎日が 40.7%で最も高くなっている。

(図表 5-9)

図表 5-9 介護予防の活動頻度 (性別、年齢階級別、活動内容別、外出頻度別)

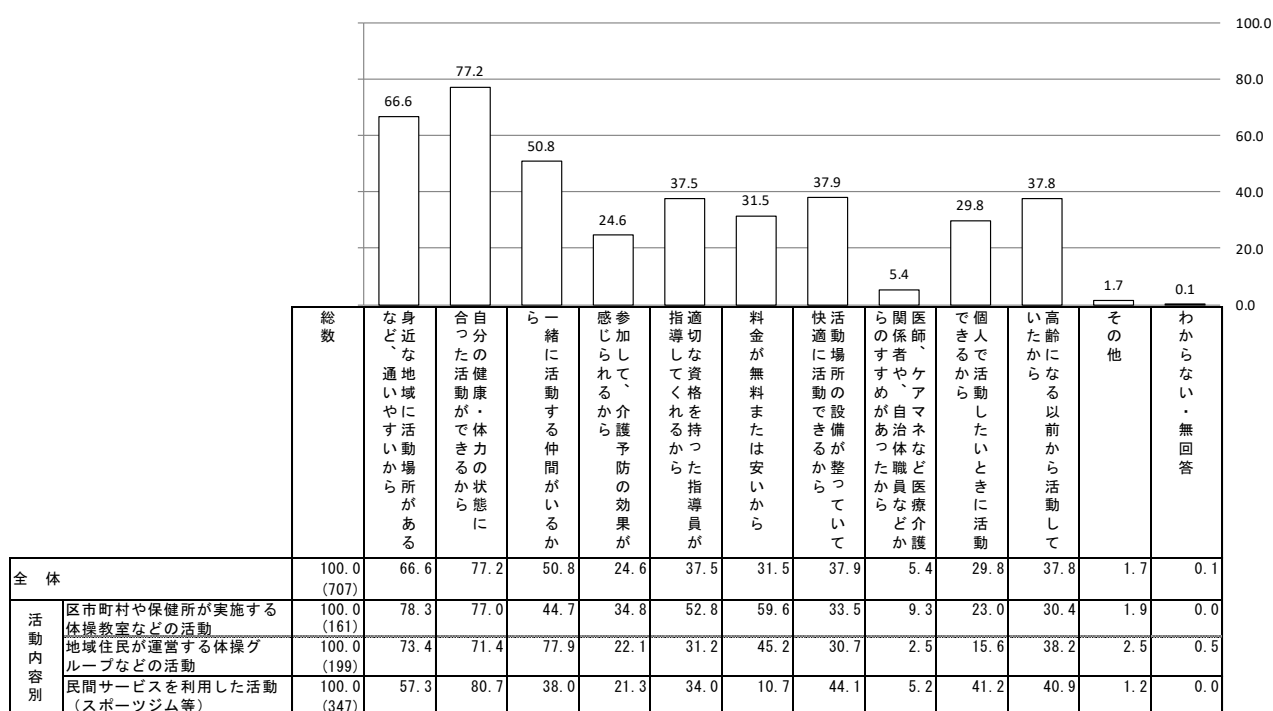
		総 数	週 1 回 以 上	月 2 ・ 3 回	月 1 回	年 に 数 回	無 回 答
全 体		100.0 (707)	34.5	51.6	2.4	2.3	9.2
性 別	男	100.0 (167)	38.9	46.1	3.0	1.8	10.2
	女	100.0 (489)	33.5	53.2	1.8	2.7	8.8
年 齢 階 級 別	65~69歳	100.0 (186)	38.7	46.8	2.2	3.2	9.1
	70~74歳	100.0 (162)	38.9	44.4	1.9	2.5	12.3
	75~79歳	100.0 (196)	33.2	54.6	1.5	2.0	8.7
	80~84歳	100.0 (94)	26.6	58.5	4.3	2.1	8.5
	85歳以上	100.0 (39)	28.2	61.5	5.1	0.0	5.1
活 動 内 容 別	区市町村や保健所が実施する 体操教室などの活動	100.0 (161)	23.0	62.7	4.3	4.3	5.6
	地域住民が運営する体操グ ループなどの活動	100.0 (199)	22.6	64.3	4.0	1.5	7.5
	民間サービスを利用した活動 (スポーツジム等)	100.0 (347)	46.7	39.2	0.6	1.7	11.8
外 出 頻 度 別	ほぼ毎日	100.0 (408)	40.7	43.1	2.7	2.7	10.8
	週 4 回程度	100.0 (150)	27.3	62.7	1.3	0.7	8.0
	週 2 ~ 3 回程度	100.0 (114)	27.2	61.4	3.5	2.6	5.3
	週 1 回程度	100.0 (16)	25.0	68.8	0.0	0.0	6.3
	ほとんど外出しない	100.0 (6)	16.7	50.0	0.0	16.7	16.7

(10) 介護予防の活動の参加理由（問 20-2）

問 20 で「1～3」を選んだ方に介護予防の活動の参加理由について聞いたところ、「自分の健康・体力の状態に合った活動ができるから」が 77.2%で最も高く、次いで「身近な地域に活動場所があるなど、通いやすいから」が 66.6%、「一緒に活動する仲間がいるから」が 50.8%となっている。

活動内容別にみると、「区市町村や保健所が実施する体操教室などの活動」は「身近な地域に活動場所があるなど、通いやすいから」が 78.3%、「地域住民が運営する体操グループなどの活動」は「一緒に活動する仲間がいるから」が 77.9%、「民間サービスを利用した活動(スポーツジム等)」は「自分の健康・体力の状態に合った活動ができるから」が 80.7%とそれぞれ最も高くなっている。（図表 5-10）

図表 5-10 介護予防の活動の参加理由（活動内容別）

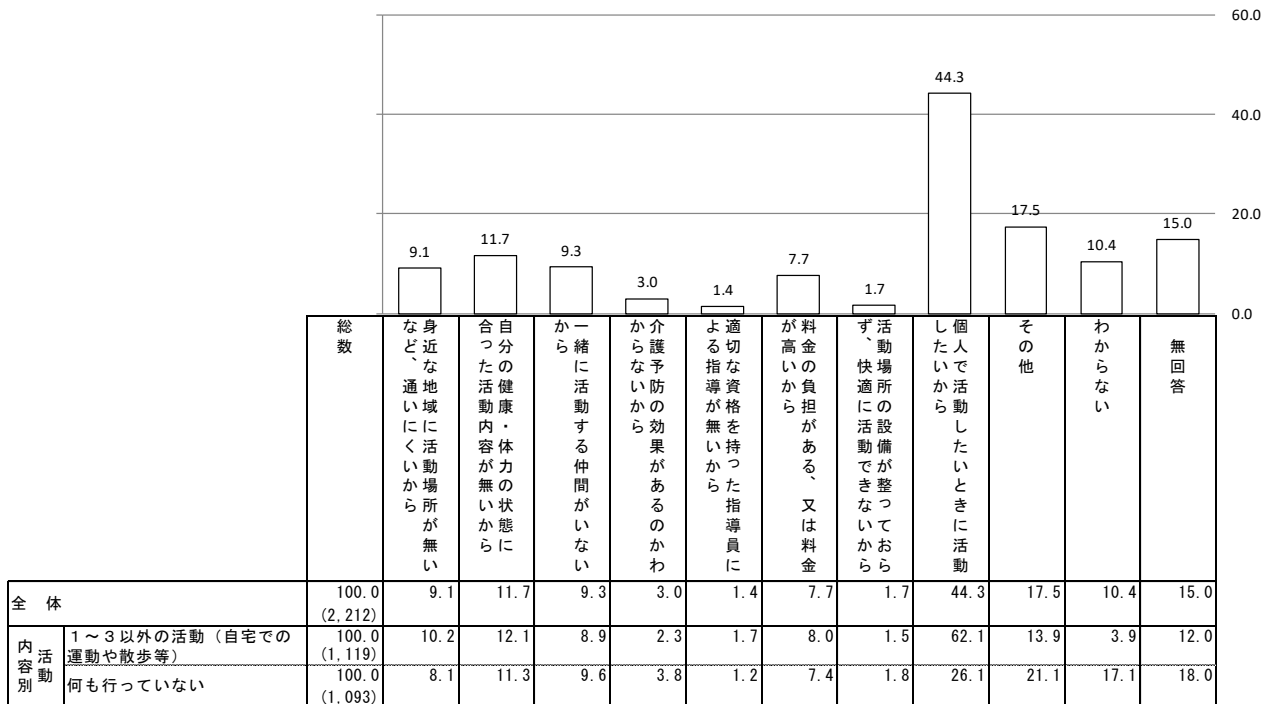


(11) 介護予防の活動を行わない理由（問 20-3）

問 20 で「4・5」を選んだ方に 1～3 の活動を行わない理由について聞いたところ、「個人で活動したいときに活動したいから」が 44.3%で最も高く、次いで「自分の健康・体力の状態に合った活動内容が無いから」が 11.7%、「一緒に活動する仲間がいないから」が 9.3%となっている。

（図表 5-11）

図表 5-11 介護予防の活動を行わない理由（活動内容別）



(12) フレイルについて (問 21)

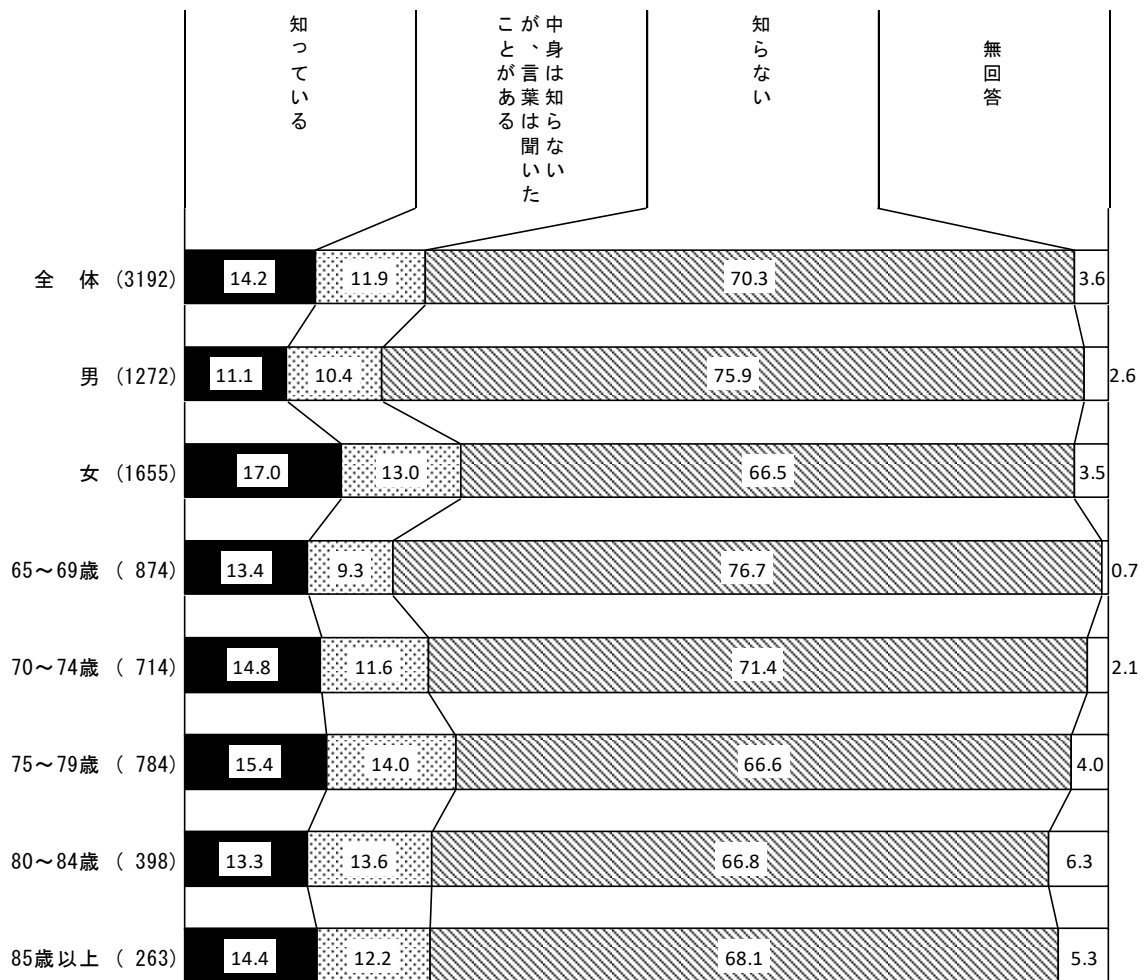
ア フレイルについて (性別、年齢階級別)

対象者全員にフレイルの認知度について聞いたところ、「知っている」が14.2%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が11.9%、「知らない」が70.3%となっている。

フレイルの認知度について性別にしてみると、「知らない」で男性(75.9%)が女性(66.5%)を9.4ポイント上まわった。

年齢階級別にしてみると、いずれの階級も「知らない」が7割前後で最も高く、「知っている」は1割強、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」は1割前後になっている。(図表 5-12)

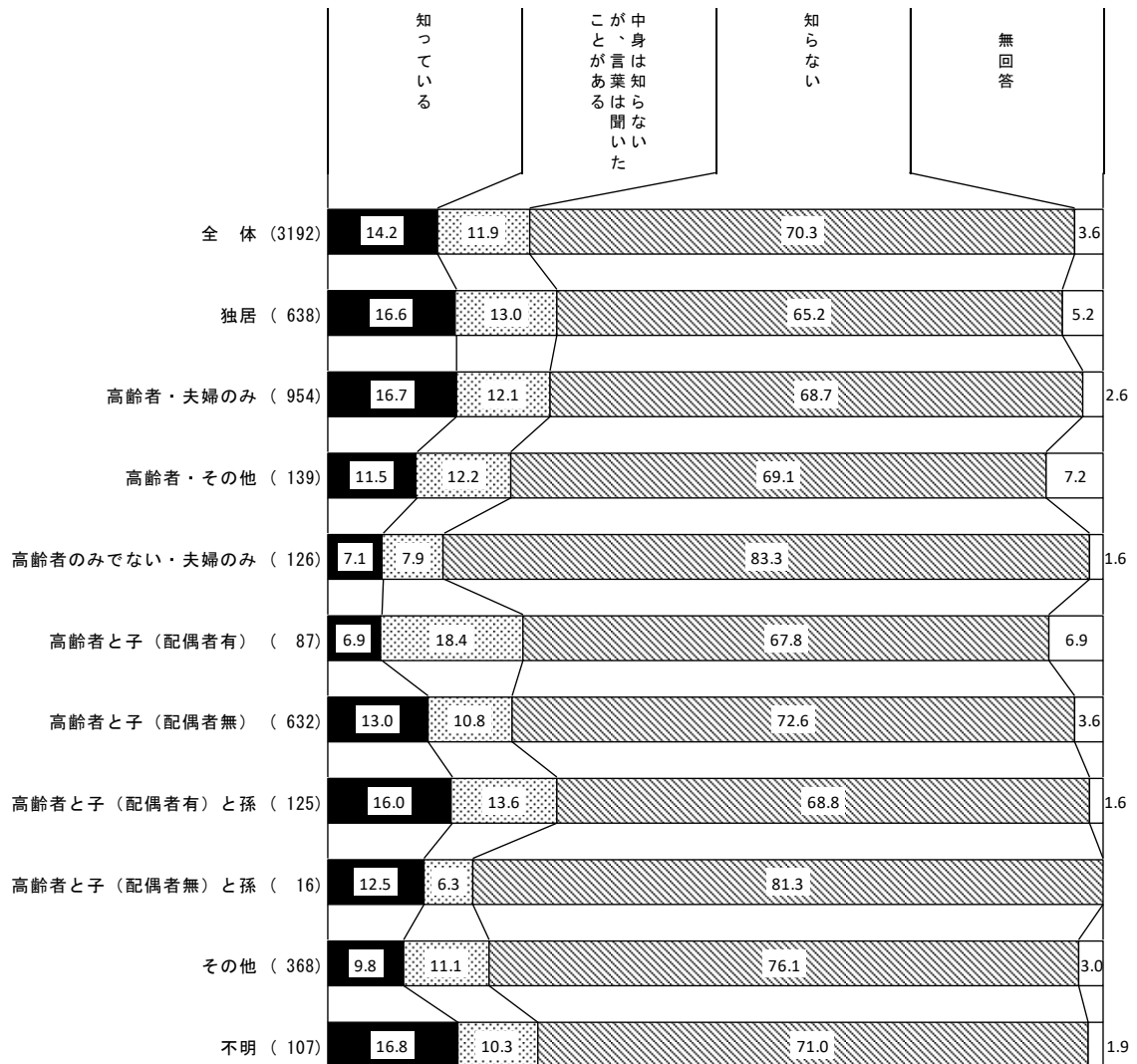
図表 5-12 フレイルについて (性別、年齢階級別)



イ フレイルについて（世帯類型別）

フレイルの認知度について世帯類型別にみると、いずれの類型も「知らない」が7割前後で最も高く、特に高齢者のみでない・夫婦のみでは83.3%となった。「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」は高齢者と子（配偶者有）で18.4%と比較的高かった。（図表 5-12-1）

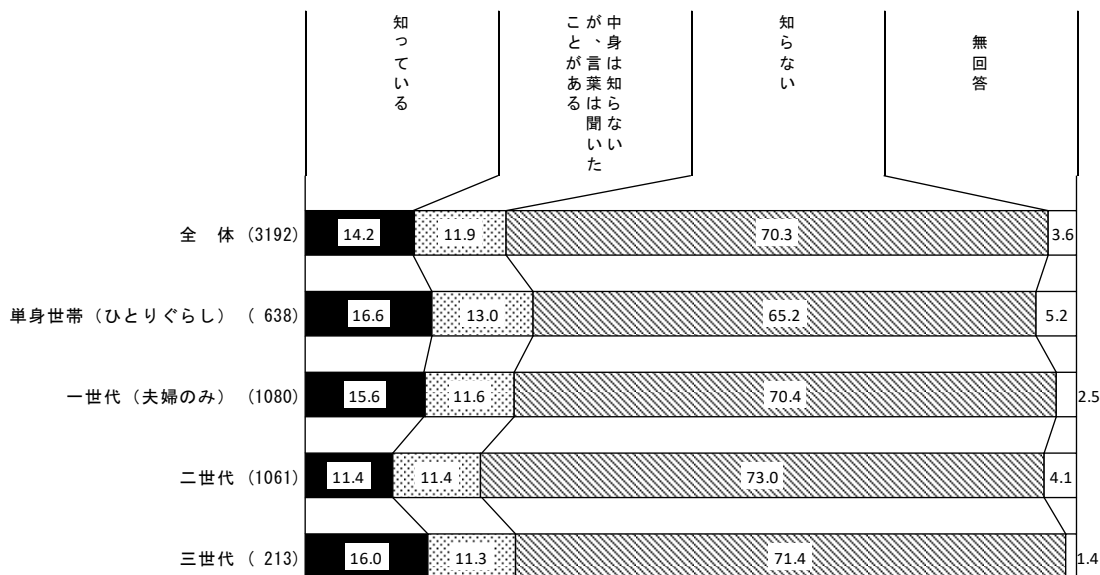
図表 5-12-1 フレイルについて（世帯類型別）



ウ フレイルについて（世帯構成（世代）別）

フレイルの認知度について世帯構成（世代）別にみると、いずれの類型も「知らない」が7割前後で最も高かった。「知っている」と「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」はどちらも単身世帯（ひとりぐらし）がそれぞれ16.6%と13.0%で回答比率では最も高かった。（図表 5-12-2）

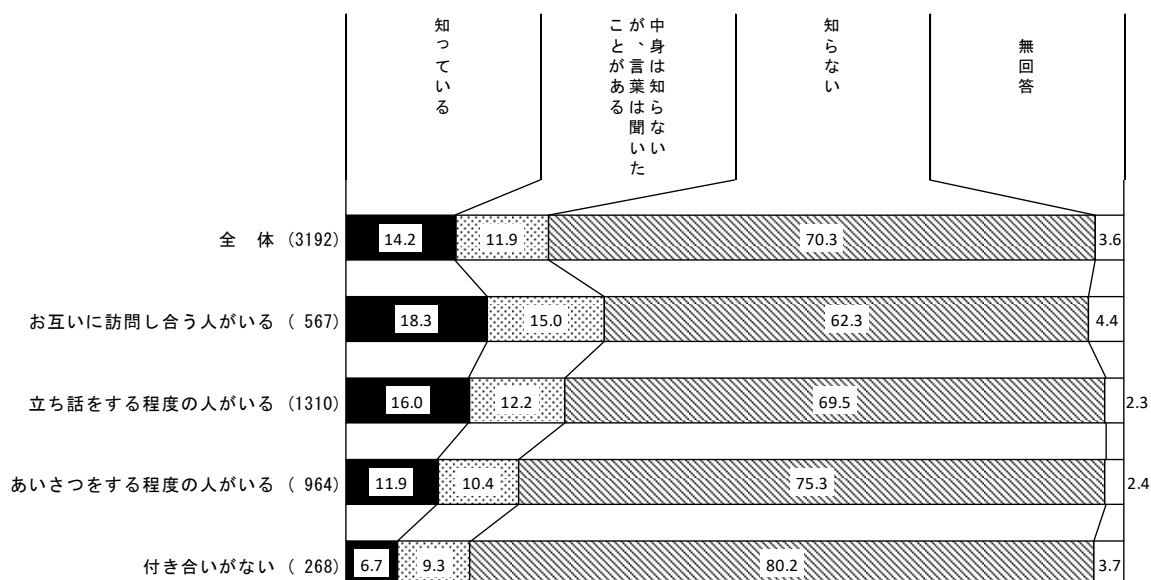
図表 5-12-2 フレイルについて（世帯構成（世代）別）



エ フレイルについて（近所付き合いの程度別）

フレイルの認知度について近所付き合いの程度別にみると、付き合いが深くなるにつれて、「知っている」の割合および「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」の割合がそれぞれ高くなっている。（図表 5-12-3）

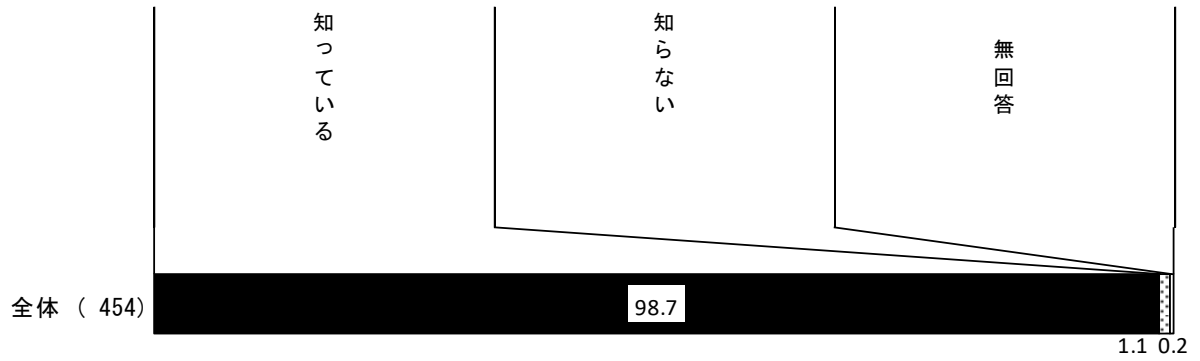
図表 5-12-3 フレイルについて（近所付き合いの程度別）



(13) フレイル予防について (問 21-1)

問 21 でフレイルを「知っている」を選んだ方にフレイルを予防するにはどんなことに気をつけたらよいかを知っているか聞いたところ、「知っている」が 98.7%、「知らない」が 1.1%となっている。(図表 5-13)

図表 5-13 フレイル予防について



第6章 認知症

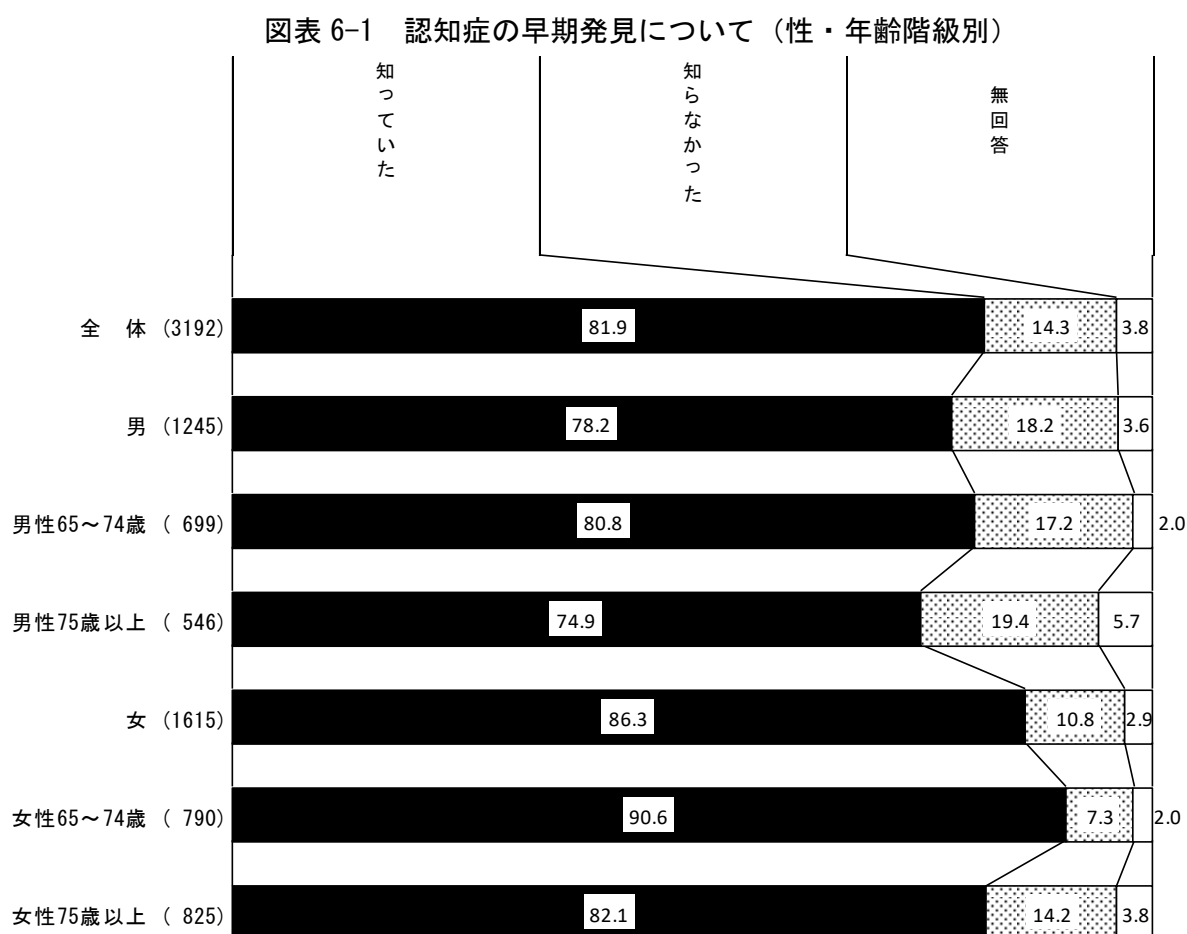
(1) 認知症について (問 22)

ア 認知症の早期発見について (性・年齢階級別)

対象者全員に認知症の早期発見について聞いたところ、「知っていた」が81.9%、「知らなかった」が14.3%となっている。

性別にみると、「知っていた」で女性(86.3%)が男性(78.2%)を8.1ポイント上まわった。

年齢階級別にみると、男女ともに65～74歳が75歳以上を「知っていた」で上まわっている。男性75歳以上は「知らなかった」が19.4%となり、比較的高かった。(図表6-1)



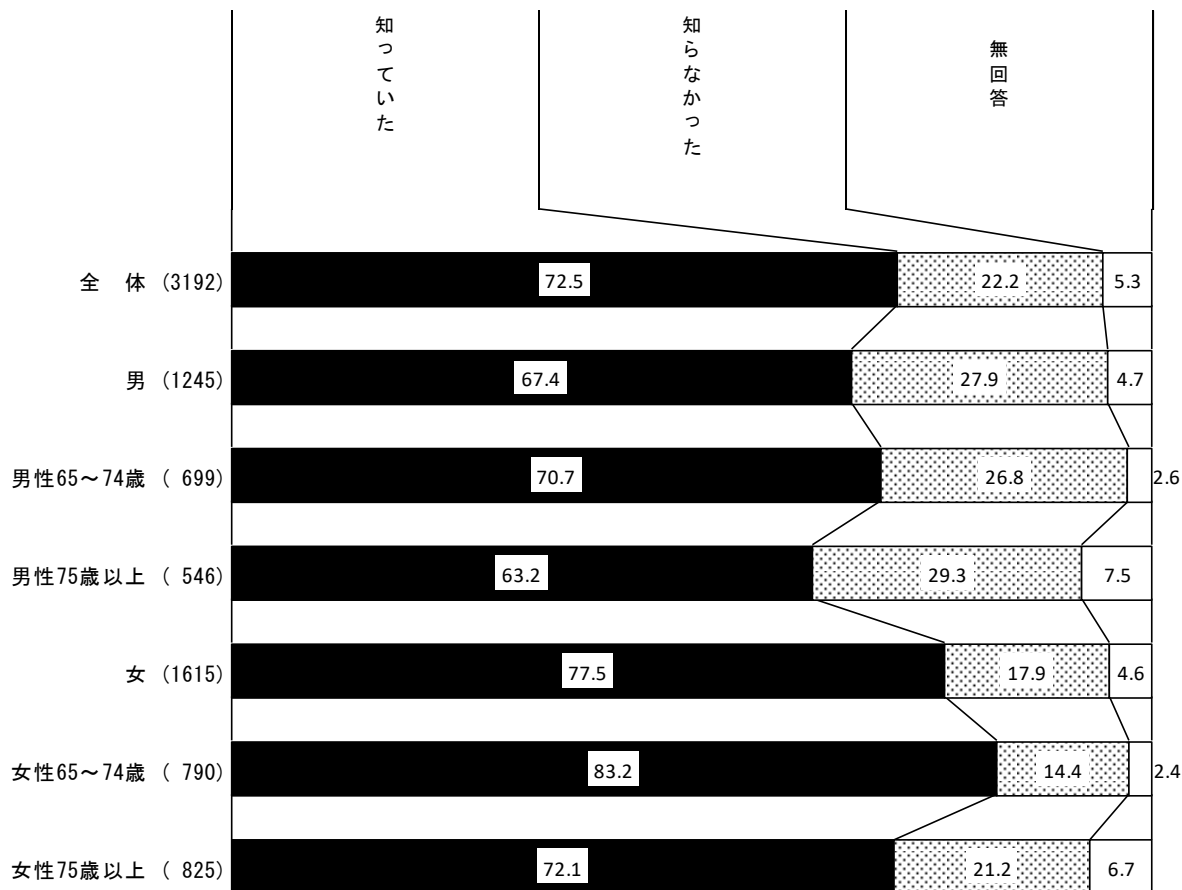
イ 認知症の症状について（性・年齢階級別）

対象者全員に認知症の症状について聞いたところ、「知っていた」が72.5%、「知らなかった」が22.2%となっている。

性別にみると、「知っていた」で女性(77.5%)が男性(67.4%)を10.1ポイント上まわった。

年齢階級別にみると、男女ともに65～74歳が75歳以上を「知っていた」で上まわっている。男性75歳以上は「知らなかった」が29.3%となり、比較的高かった。（図表 6-1-1）

図表 6-1-1 認知症の症状について（性・年齢階級別）

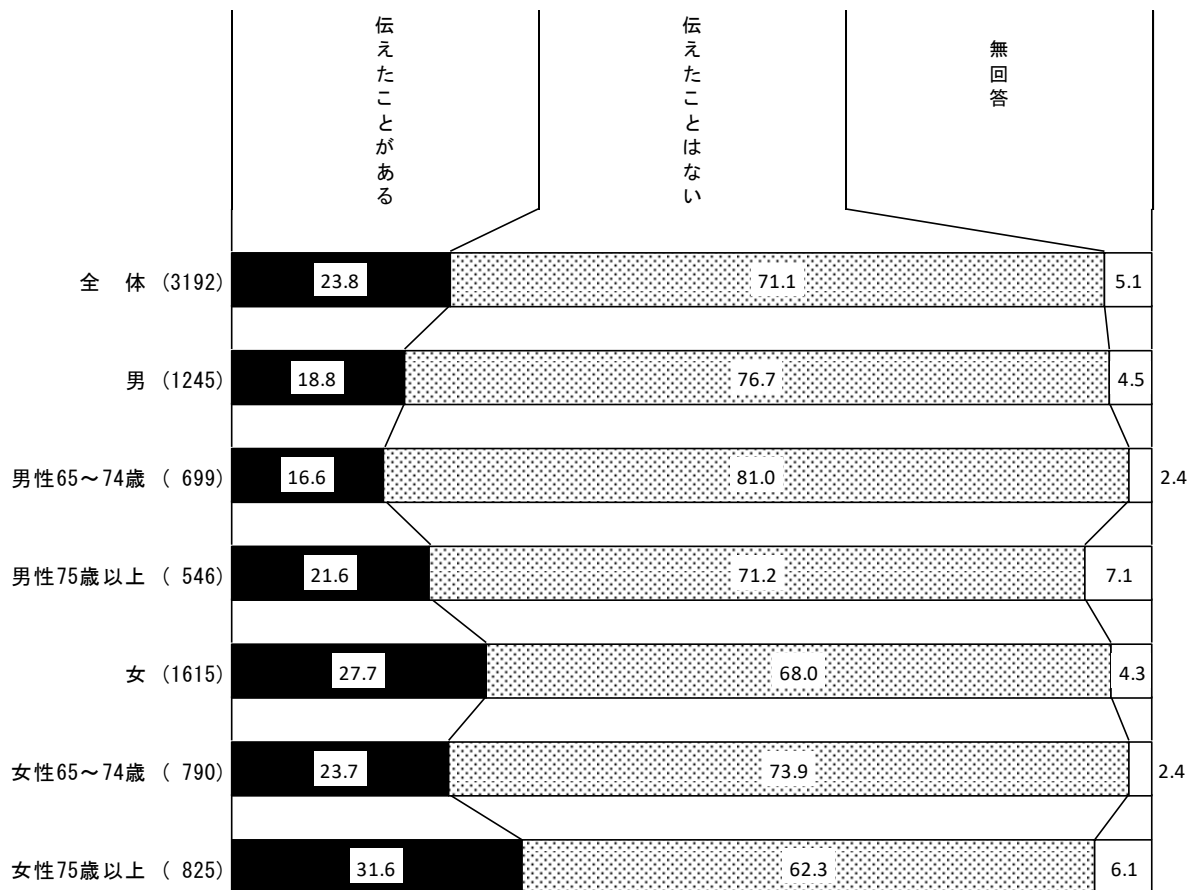


ウ 認知症になった場合の意思決定について（性・年齢階級別）

対象者全員に認知症になった場合に備えて、希望する暮らし方や財産管理について誰かに伝えたことがあるか聞いたところ、「伝えたことがある」が23.8%、「伝えたことはない」が71.1%となっている。

性別で見ると、「伝えたことがある」は男性が18.8%、女性が27.7%で女性の方が8.9ポイント高くなっている。（図表 6-1-2）

図表 6-1-2 認知症になった場合の意思決定について（性・年齢階級別）



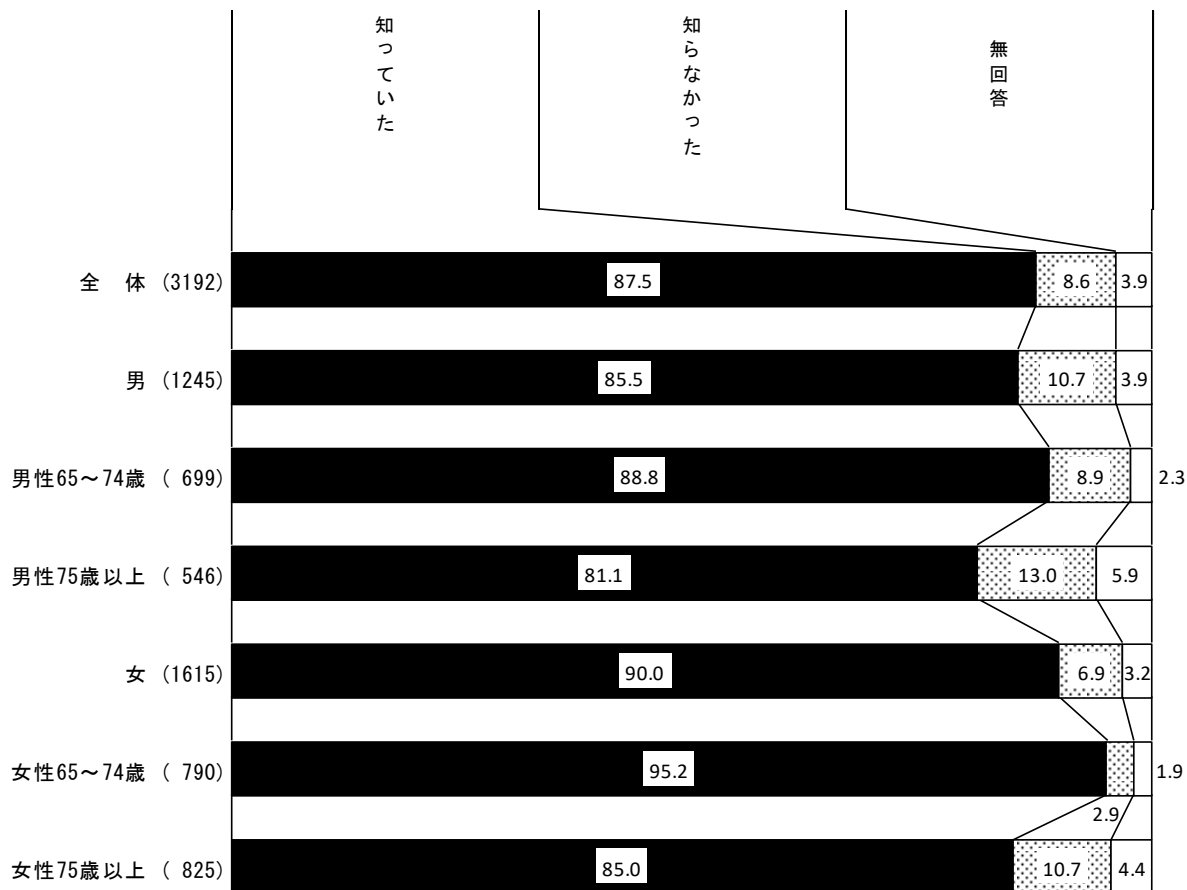
エ 若年性認知症について（性・年齢階級別）

対象者全員に若年性認知症について聞いたところ、「知っていた」が87.5%、「知らなかった」が8.6%となっている。

性別にみると、「知っていた」で女性(90.0%)が男性(85.5%)を4.5ポイント上まわった。

年齢階級別にみると、男女ともに65～74歳が75歳以上を「知っていた」で上まわっている。男性75歳以上は「知らなかった」が13.0%となり、比較的高かった。（図表 6-1-3）

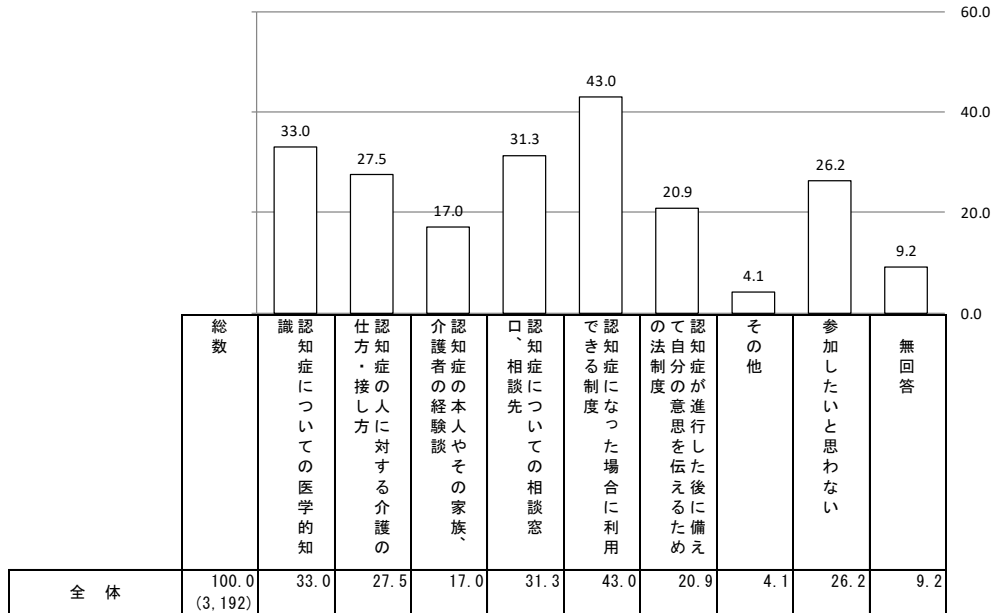
図表 6-1-3 若年性認知症について（性・年齢階級別）



(2) 認知症講座への参加意向 (問 23)

対象者全員に認知症講座への参加意向について聞いたところ、「認知症になった場合に利用できる制度」が43.0%で最も高く、次いで「認知症についての医学的知識」が33.0%、「認知症についての相談窓口、相談先」が31.3%となっている。(図表 6-2)

図表 6-2 認知症講座への参加意向



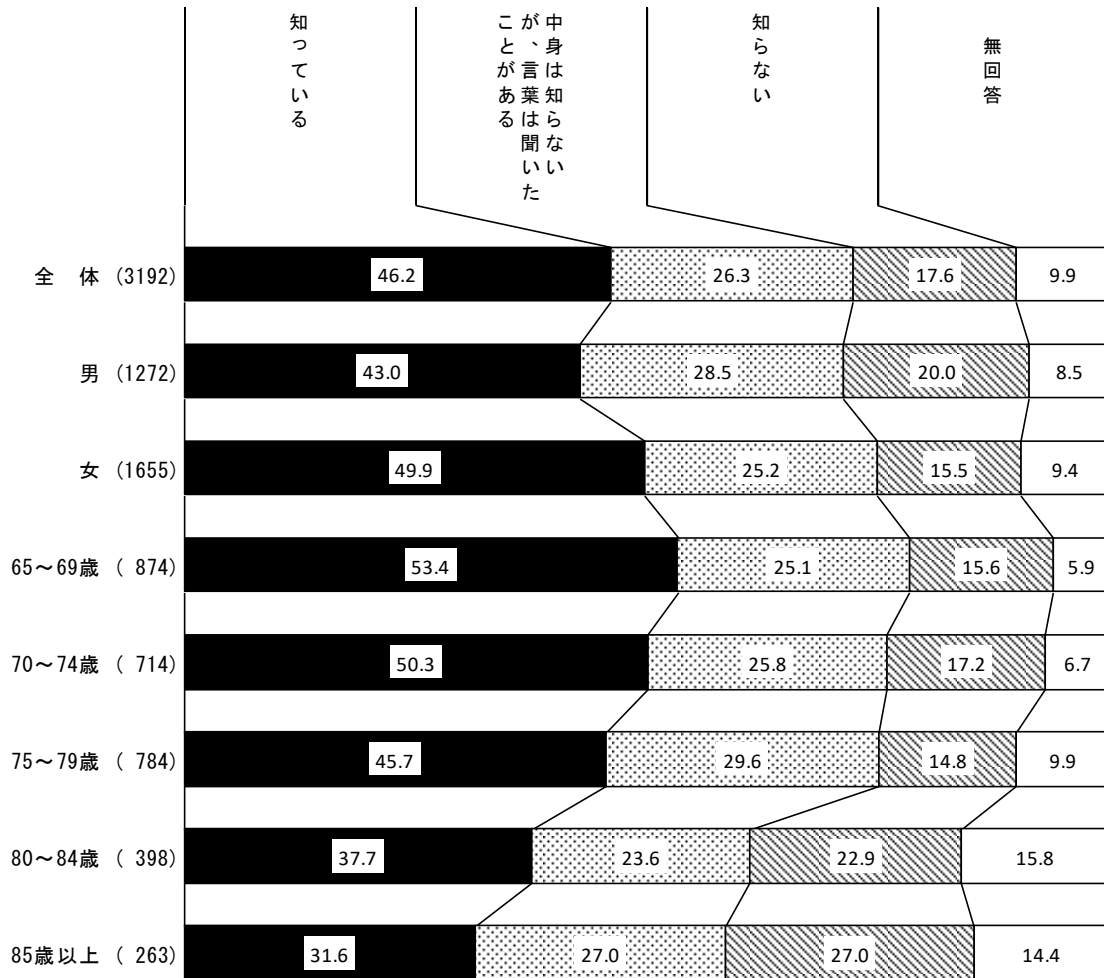
(3) 成年後見制度の認知度 (問 24 (1) ア)

ア 成年後見制度の認知度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に成年後見制度の認知度について聞いたところ、「知っている」が 46.2%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 26.3%、「知らない」が 17.6%となっている。

成年後見制度の認知度について、年齢階級別で見ると、階級があがるにつれて「知っている」の割合が低くなっている。(図表 6-3)

図表 6-3 成年後見制度の認知度 (性別、年齢階級別)

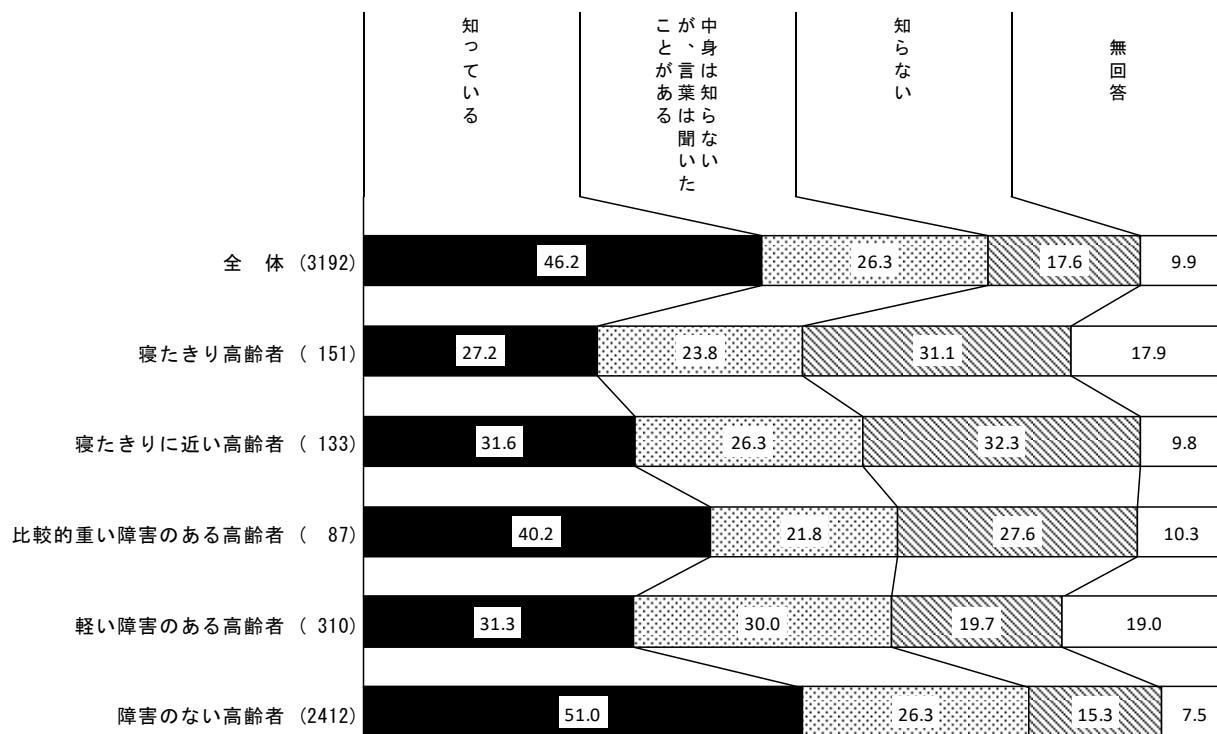


イ 成年後見制度の認知度（動作能力類型別）

成年後見制度の認知度について動作能力類型別でみると、障害のない高齢者では「知っている」が51.0%で、寝たきりに近い高齢者では「知らない」が32.3%で比較的高くなっている。

（図表 6-3-1）

図表 6-3-1 成年後見制度の認知度（動作能力類型別）



(4) 成年後見制度の利用意向 (問 24 (1) イ)

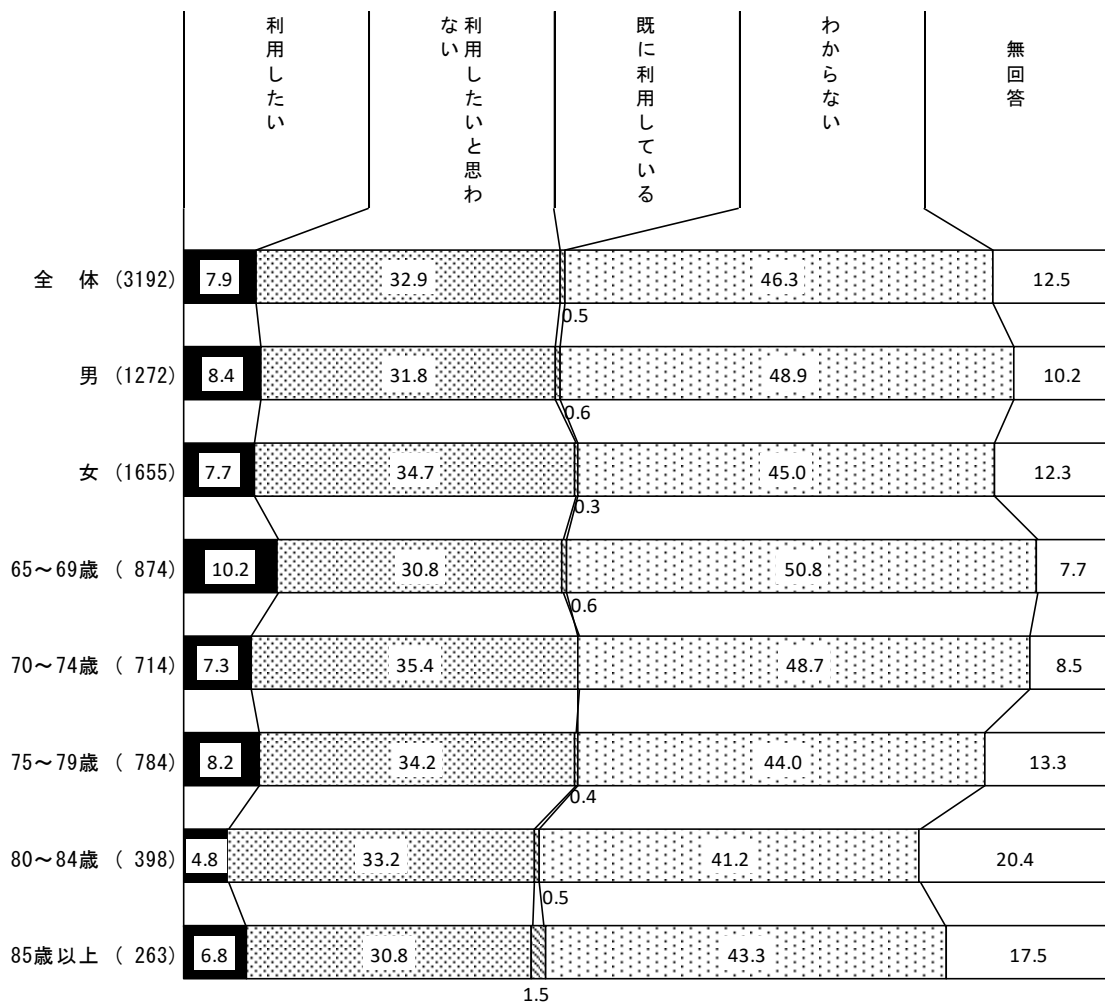
ア 成年後見制度の利用意向 (性別、年齢階級別)

対象者全員に成年後見制度の利用意向について聞いたところ、「利用したい」が7.9%、「利用したいと思わない」が32.9%、「既に利用している」が0.5%、「わからない」が46.3%となっている。

成年後見制度の利用意向について、性別では大きな差異はみられなかった。

年齢階級別でみると、全体的に「利用したい」が1割弱、「利用したいと思わない」が3割強、「既に利用している」が僅少で、「わからない」が5割弱の傾向になっている。65~69歳では「利用したい」が10.2%で、「わからない」が50.8%で比較的高くなっている。(図表 6-4)

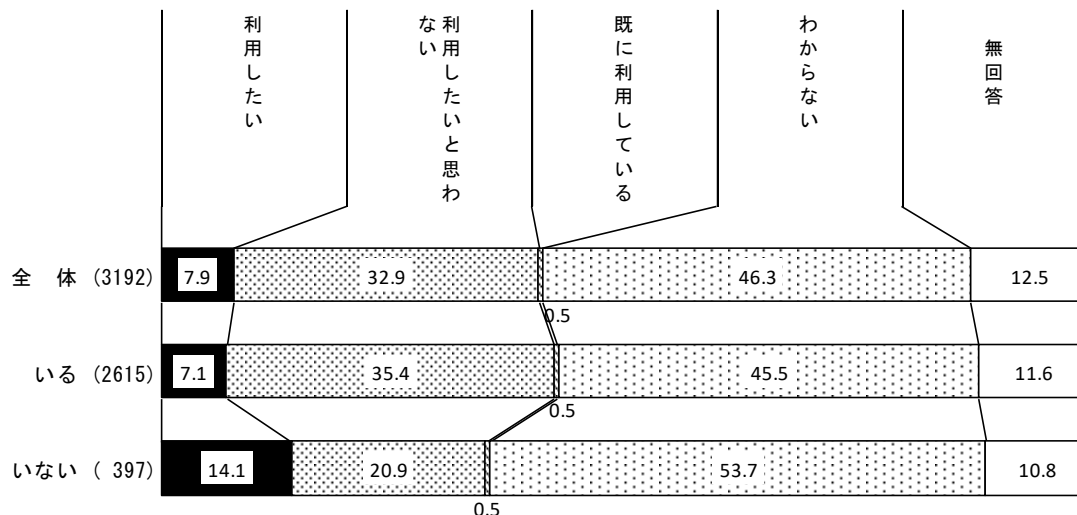
図表 6-4 成年後見制度の利用意向 (性別、年齢階級別)



イ 成年後見制度の利用意向（子どもの有無別）

成年後見制度の利用意向について、子どもの有無別でみると、「利用したい」ではない（14.1%）がいる（7.1%）を7.0ポイント上まわり、逆に「利用したいと思わない」ではいる（35.4%）がいない（20.9%）を14.5ポイント上まわった。（図表 6-4-1）

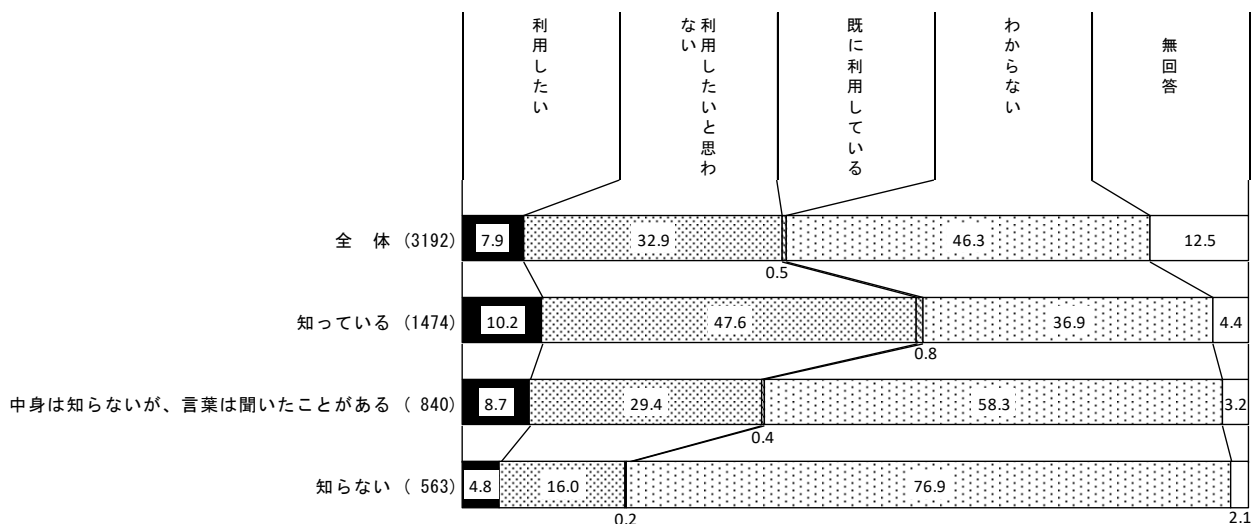
図表 6-4-1 成年後見制度の利用意向（子どもの有無別）



ウ 成年後見制度の利用意向（認知度別）

成年後見制度の利用意向について、成年後見制度の認知度別でみると成年後見制度を知っている人のうち「利用したい」は10.2%となっている。（図表 6-4-2）

図表 6-4-2 成年後見制度の利用意向（認知度別）



(5) 日常生活自立支援事業の認知度 (問 24 (2) ア)

ア 日常生活自立支援事業の認知度 (性別、年齢階級別)

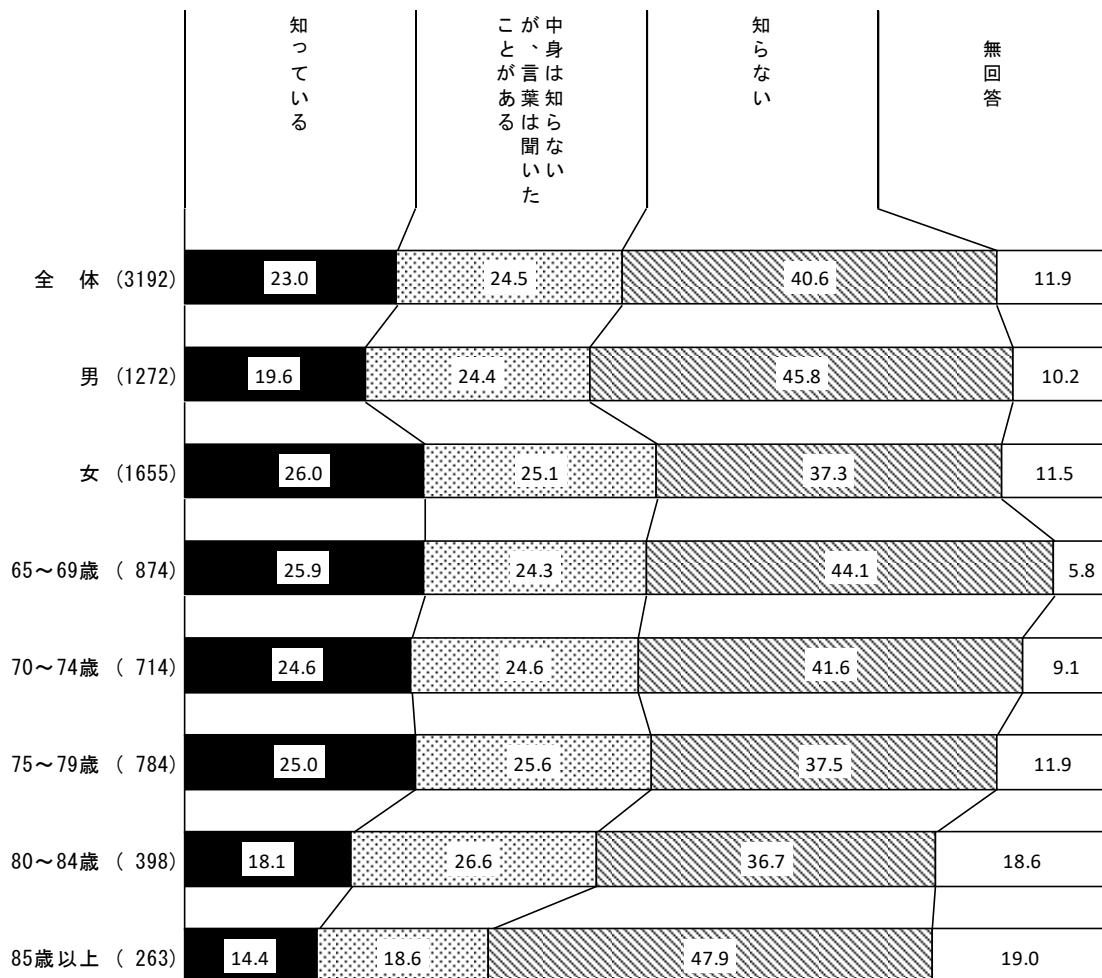
対象者全員に日常生活自立支援事業の認知度について聞いたところ、「知っている」が 23.0%、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」が 24.5%、「知らない」が 40.6%となっている。

日常生活自立支援事業の認知度について、性別でみると、「知っている」は男性が 19.6%、女性が 26.0%で女性の方が 6.4 ポイント高くなっている。

また、年齢階級別でみると、階級があがるにつれて「知っている」の割合が低くなっている。

(図表 6-5)

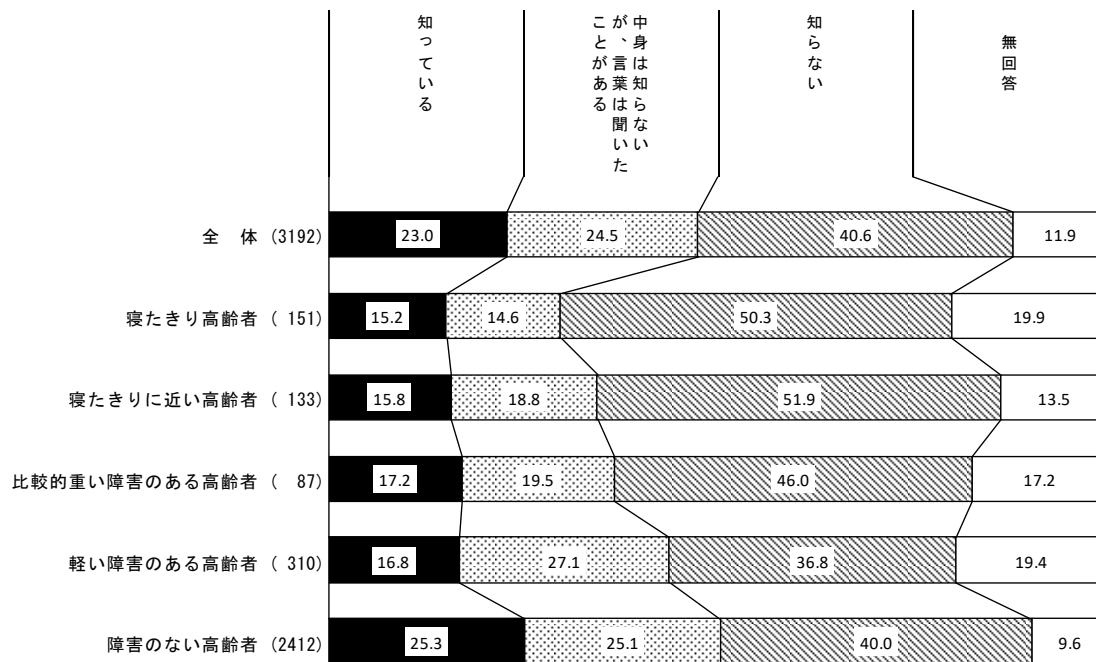
図表 6-5 日常生活自立支援事業の認知度 (性別、年齢階級別)



イ 日常生活自立支援事業の認知度（動作能力類型別）

日常生活自立支援事業の認知度について、動作能力類型別でみると、障害のない高齢者では「知っている」が25.3%で、寝たきりに近い高齢者では「知らない」が51.9%で、それぞれ比較的高かった。（図表 6-5-1）

図表 6-5-1 日常生活自立支援事業の認知度（動作能力類型別）



(6) 日常生活自立支援事業の利用意向 (問 24 (2) イ)

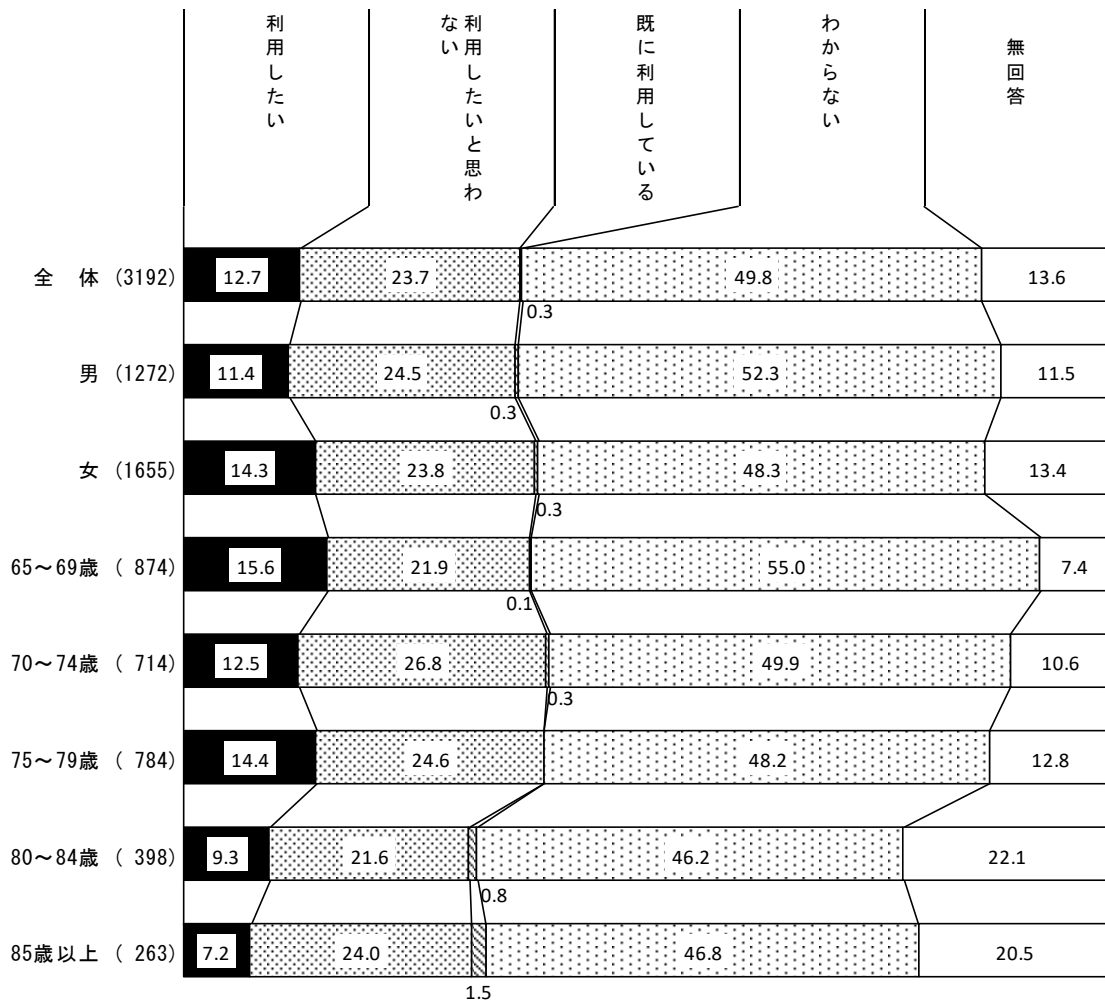
ア 日常生活自立支援事業の利用意向 (性別、年齢階級別)

対象者全員に日常生活自立支援事業の利用意向について聞いたところ、「利用したい」が 12.7%、「利用したいと思わない」が 23.7%、「既に利用している」が 0.3%、「わからない」が 49.8% となっている。

日常生活自立支援事業の利用意向について、性別でみると、「利用したい」では女性(14.3%)が男性(11.4%)を 2.9 ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、65～69 歳が「利用したい」で 15.6%と比較的高く、85 歳以上が 7.2%で比較的低かった。「利用したいと思わない」では 70～74 歳が 26.8%で比較的高かった。(図表 6-6)

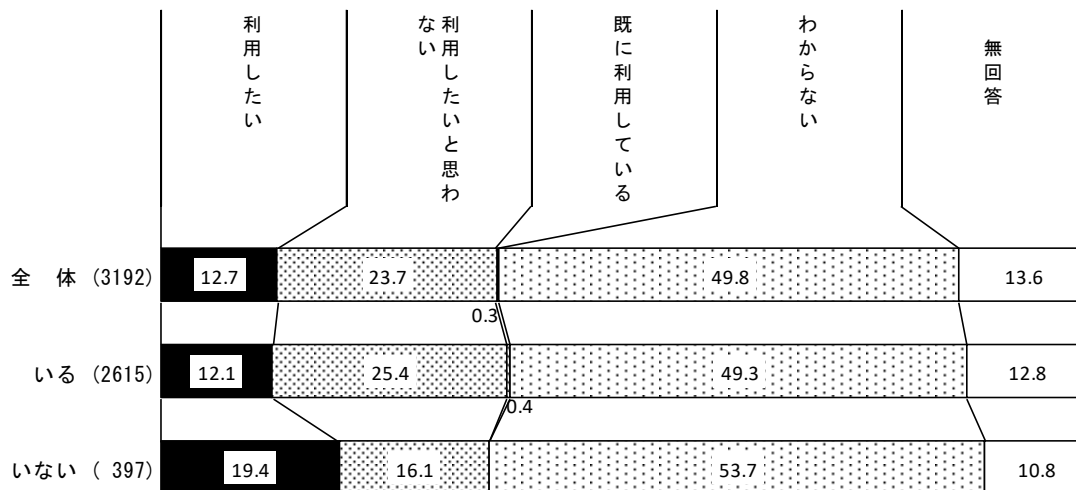
図表 6-6 日常生活自立支援事業の利用意向 (性別、年齢階級別)



イ 日常生活自立支援事業の利用意向（子どもの有無別）

日常生活自立支援事業の利用意向について、子どもの有無別でみると、「利用したい」ではない(19.4%)がいる(12.1%)を7.3ポイント上まわり、逆に「利用したいと思わない」ではいる(25.4%)がいない(16.1%)を9.3ポイント上まわった。（図表 6-6-1）

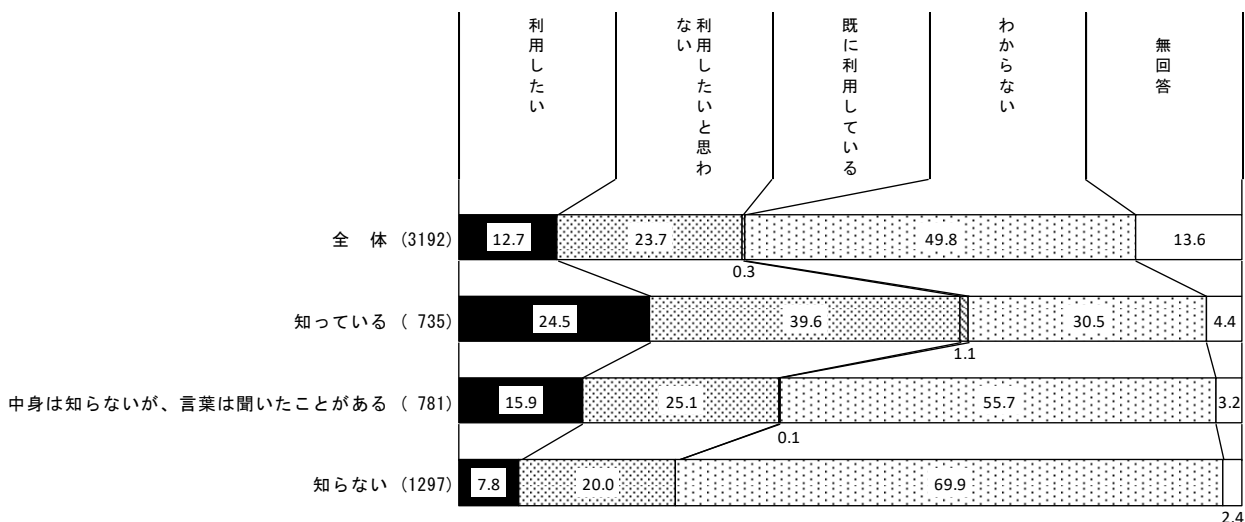
図表 6-6-1 日常生活自立支援事業の利用意向（子どもの有無別）



ウ 日常生活自立支援事業の利用意向（認知度別）

日常生活自立支援事業の利用意向について、日常生活自立支援事業の認知度別でみると日常生活自立支援事業を知っている人のうち「利用したい」は24.5%となっている。（図表 6-6-2）

図表 6-6-2 日常生活自立支援事業の利用意向（認知度別）



第7章 住まい

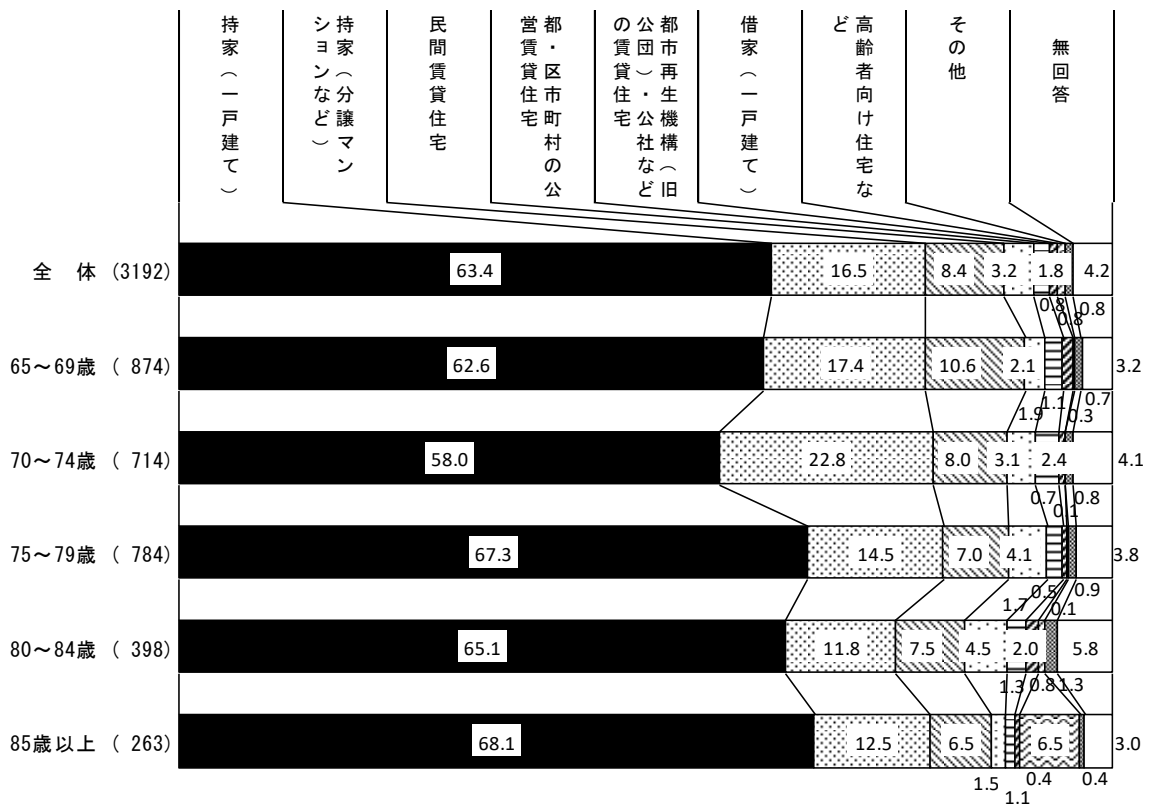
(1) 住まいの形態 (問 25)

ア 住まいの形態 (年齢階級別)

対象者全員に住まいの形態について聞いたところ、「持家(一戸建て)」が63.4%で最も高く、次いで「持家(分譲マンションなど)」が16.5%、「民間賃貸住宅」が8.4%となっている。

住まいの形態について、年齢階級別でみると、すべての階級で「持家(一戸建て)」が過半数で最も高く、「持家(分譲マンションなど)」が1割強～2割強でこれに次いだ。「持家(一戸建て)」は85歳以上が68.1%で、「持家(分譲マンションなど)」は70～74歳が22.8%で比較的高かった。(図表7-1)

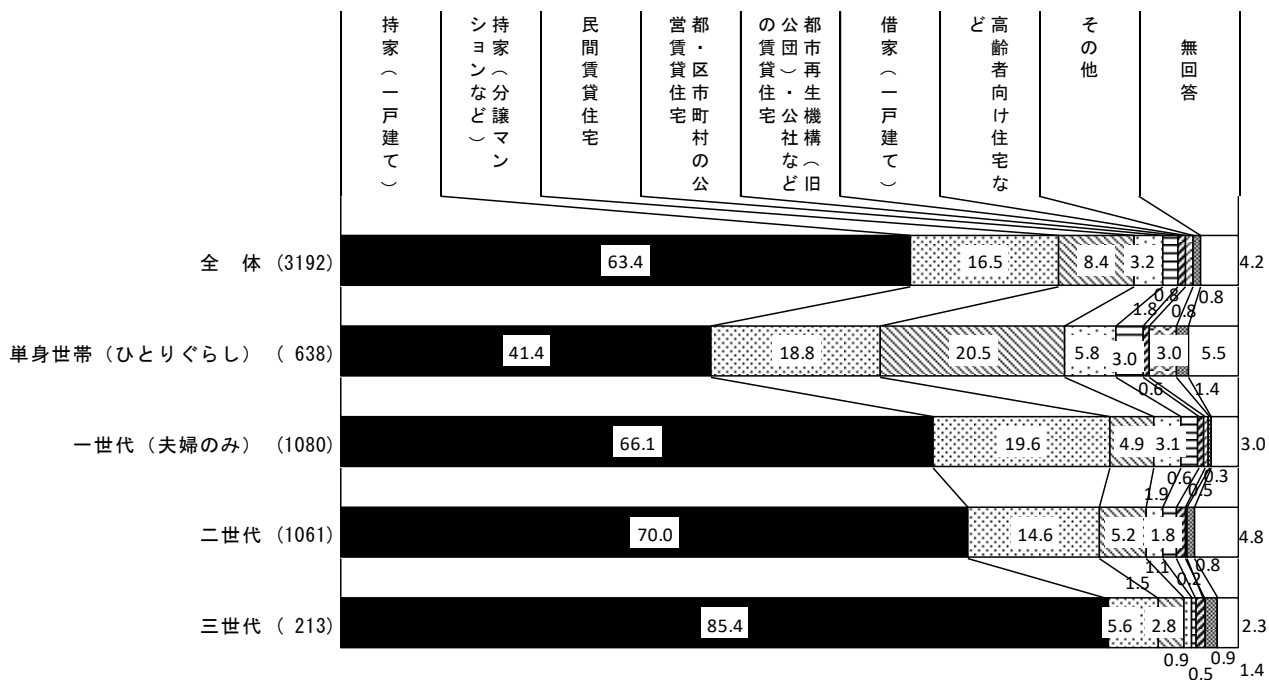
図表7-1 住まいの形態 (年齢階級別)



イ 住まいの形態（世帯構成（世代）別）

住まいの形態について、世帯構成（世代）別でみると、単身世帯（ひとりぐらし）は「持家（一戸建て）」で41.4%と比較的低く、「民間賃貸住宅」で20.5%と比較的高かった。三世代は「持家（一戸建て）」が85.4%と特に高く、他の項目については僅少となった。（図表 7-1-1）

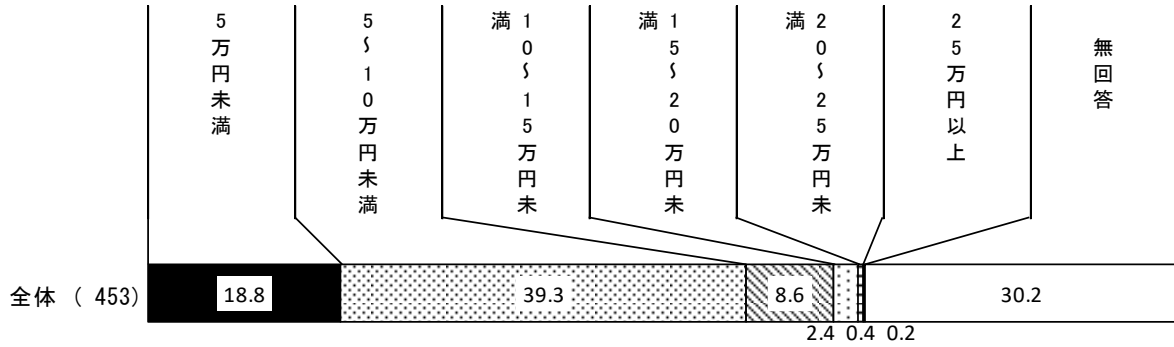
図表 7-1-1 住まいの形態（世帯構成（世代）別）



(2) 家賃 (問 25-1)

問 25 で「3~6」を選んだ方に家賃について聞いたところ、「5~10 万円未満」が 39.3%で最も高く、次いで「5 万円未満」が 18.8%、「10~15 万円未満」が 8.6%となっている。(図表 7-2)

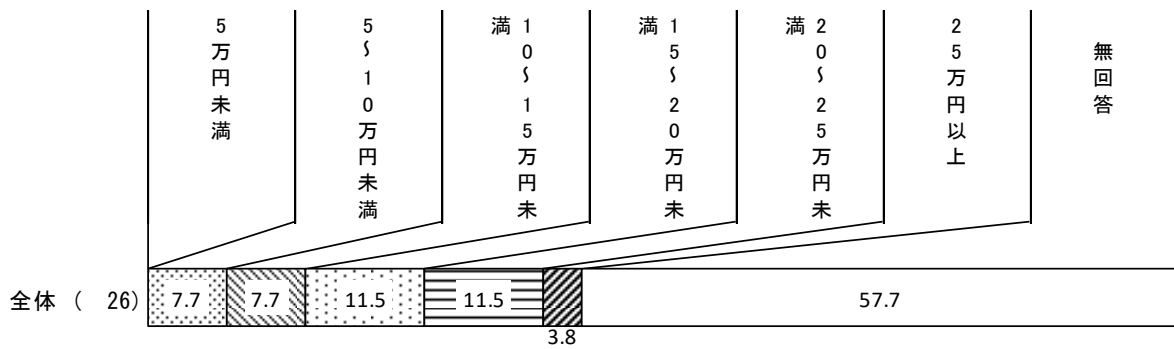
図表 7-2 家賃



(3) 高齢者向け住宅の利用料 (問 25-2)

問 25 で「7」を選んだ方に高齢者向け住宅の利用料について聞いたところ、「15~20 万円未満」、「20~25 万円未満」がそれぞれ 11.5%で最も高く、次いで「5~10 万円未満」、「10~15 万円未満」が 7.7%となっている。(図表 7-3)

図表 7-3 高齢者向け住宅の利用料



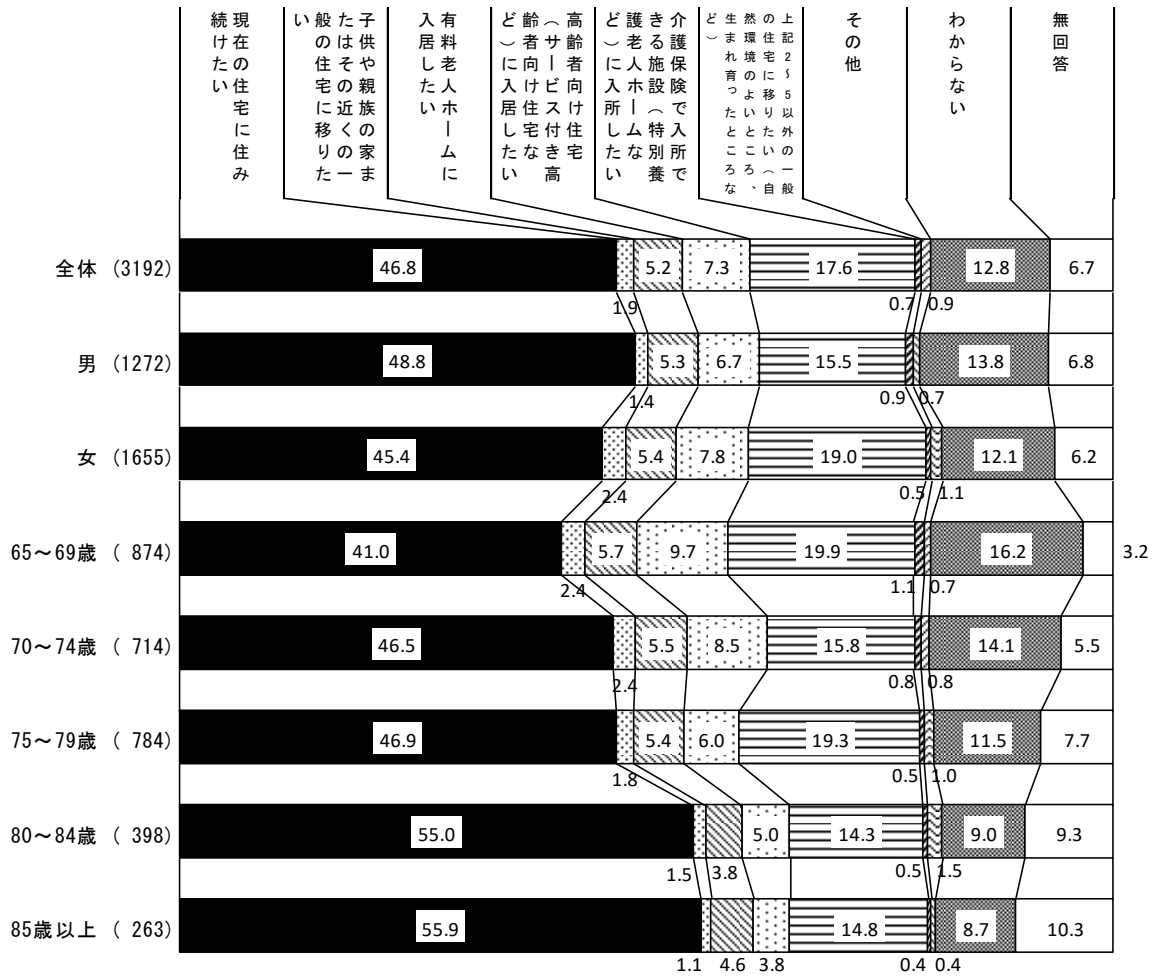
(4) 介護が必要になったときの希望の住まい (問 26)

ア 介護が必要になったときの希望の住まい (性別、年齢階級別)

対象者全員に介護が必要になったときの希望の住まいについて聞いたところ、「現在の住宅に住み続けたい」が46.8%で最も高く、次いで「介護保険で入所できる施設(特別養護老人ホームなど)に入所したい」が17.6%となっている。

介護が必要になったときの希望の住まいについて、年齢階級別でみると、階級が上がるにつれて「現在の住宅に住み続けたい」が高くなっている。(図表 7-4)

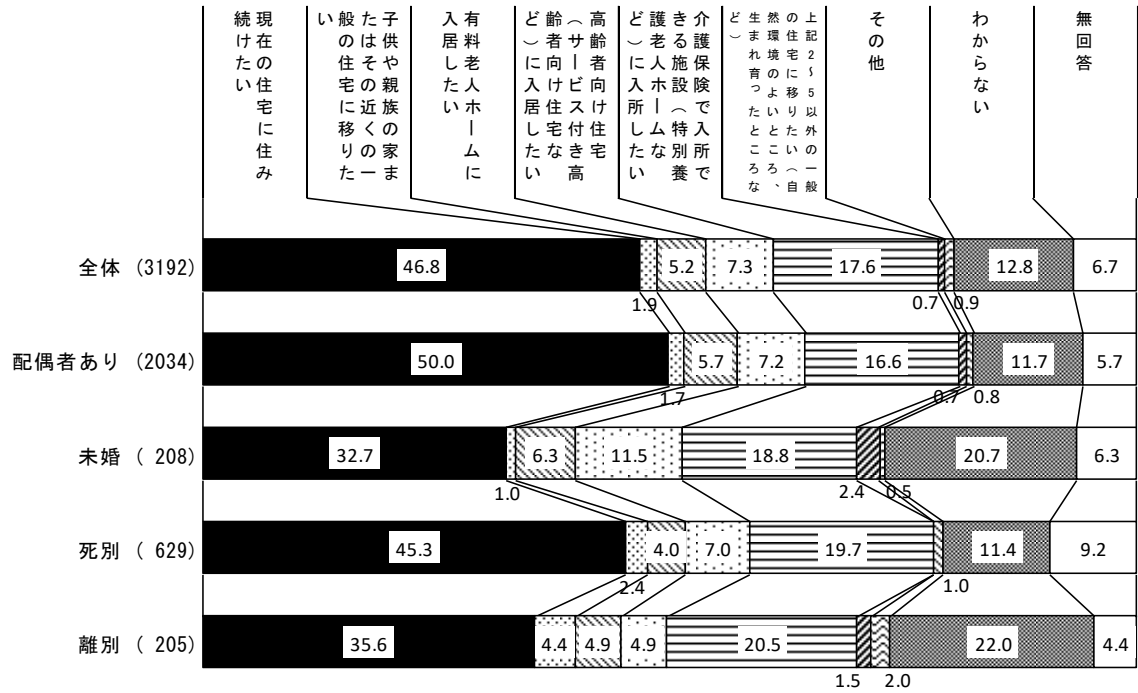
図表 7-4 介護が必要になったときの希望の住まい (性別、年齢階級別)



イ 介護が必要になったときの希望の住まい（配偶者の有無別）

介護が必要になったときの希望の住まいについて、配偶者の有無別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」は配偶者ありで5割、配偶者なしのうち未婚と離別が3割台となっている。（図表 7-4-1）

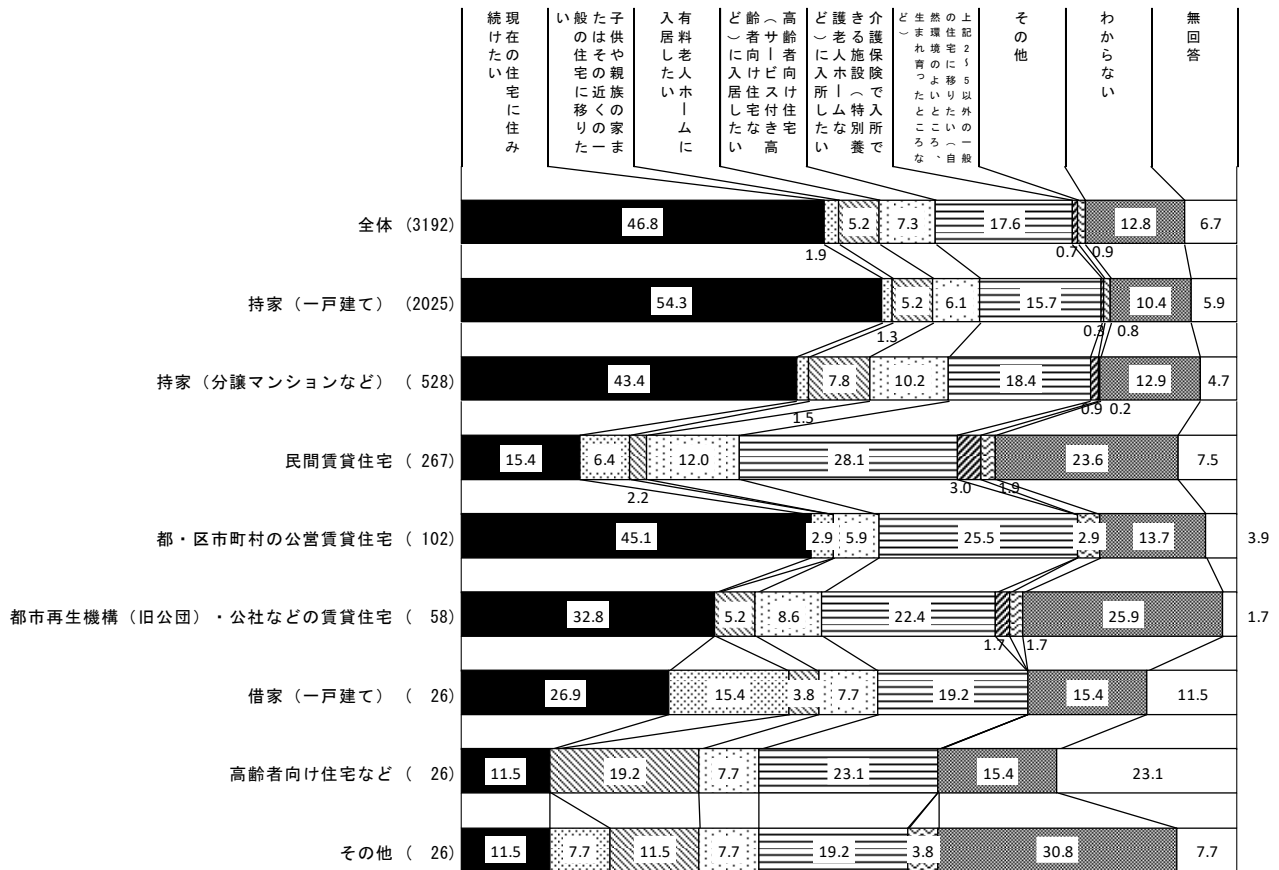
図表 7-4-1 介護が必要になったときの希望の住まい（配偶者の有無別）



ウ 介護が必要になったときの希望の住まい（住宅種別別）

介護が必要になったときの希望の住まいについて、住宅種別別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」は持家（一戸建）、持家（分譲マンションなど）、都・区市町村の公営賃貸住宅で4割以上となっている。（図表 7-4-2）

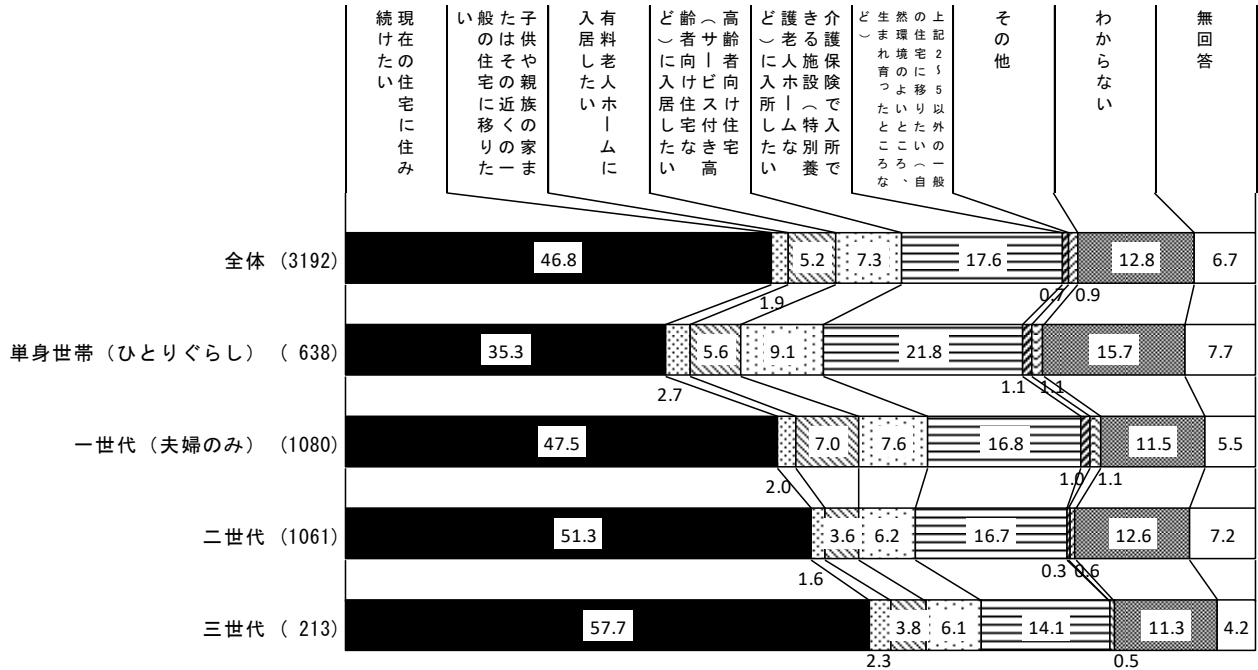
図表 7-4-2 介護が必要になったときの希望の住まい（住宅種別別）



エ 介護が必要になったときの希望の住まい（世帯構成（世代）別）

介護が必要になったときの希望の住まいについて、世帯構成（世代）別でみると、「現在の住宅に住み続けたい」は世代数が大きくなるにつれて割合が高くなっている。（図表 7-4-3）

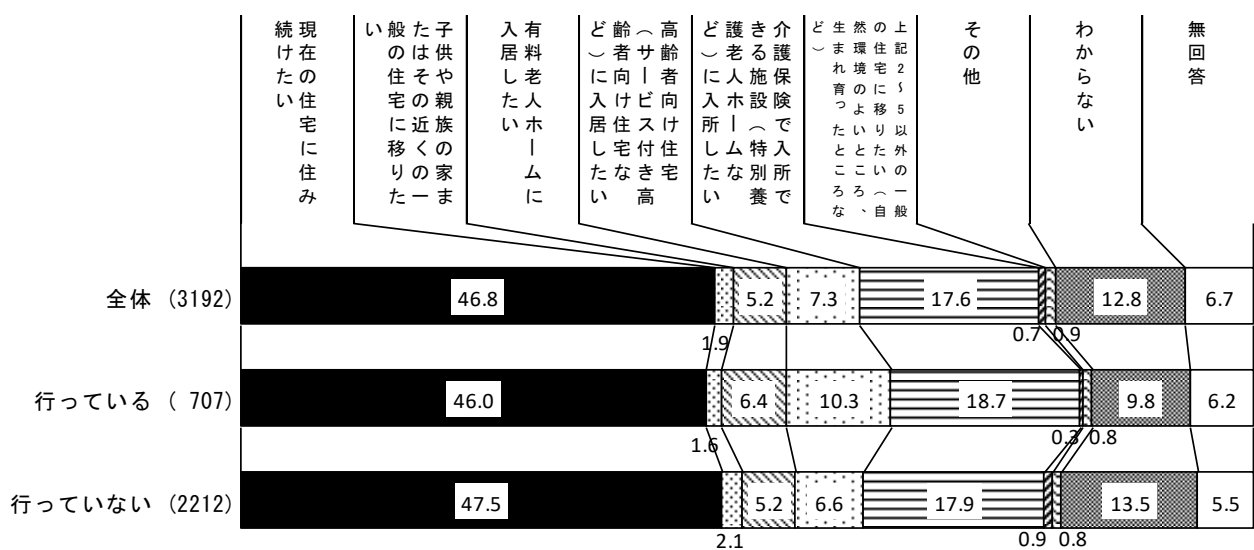
図表 7-4-3 介護が必要になったときの希望の住まい（世帯構成（世代）別）



オ 介護が必要になったときの希望の住まい（介護予防の活動有無別）

介護予防の活動有無別でみると、「高齢者向け住宅に入居したい」は行っているが10.3%、行っていないが6.6%で行っているの方が3.7ポイント上回っている。（図表 7-4-4）

図表 7-4-4 介護が必要になったときの希望の住まい（介護予防の活動有無別）



(5) 今の住居に住み続けたい理由 (問 26-1)

ア 今の住居に住み続けたい理由 (性別、年齢階級別、配偶者の有無別、住宅種類別)

問 26 で「現在の住宅に住み続けたい」を選んだ方に今の住居に住み続けたい理由について聞いたところ、「現在住んでいる地域に愛着があるから」が 59.1%で最も高く、次いで「現在同居している家族と住み続けたいから」が 51.4%、「新たな環境で生活するのは不安だから」が 27.8%となっている。

性別でみると、「現在同居している家族と住み続けたいから」では男性(58.6%)が女性(46.7%)を 11.9 ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、80～84 歳が「現在住んでいる地域に愛着があるから」(65.8%)と「現在の住宅や土地を処分したくないから」(34.7%)と「現在同居している家族と住み続けたいから」(53.9%)で比較的高かった。

配偶者の有無別でみると、未婚が「現在住んでいる地域に愛着があるから」で 75.0%と比較的高く、「現在同居している家族と住み続けたいから」で 13.2%と比較的低かった。

住宅種類別でみると、「現在住んでいる地域に愛着があるから」は民間賃貸住宅(61.0%)と都・区市町村の公営賃貸住宅(67.4%)で 6 割を超え、賃貸住宅で比較的高かった。「現在同居している家族と住み続けたいから」では持家(一戸建て)(54.8%)と持家(分譲マンションなど)(49.3%)の持家が比較的高かった。(図表 7-5)

図表 7-5 今の住居に住み続けたい理由 (性別、年齢階級別、配偶者の有無別、住宅種類別)

	総数	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の住宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	新たな環境で生活するのは不安だから	賃貸料、利用料、入居一時金などを負担できないから	賃貸住宅は好きではないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	その他	無回答	
全体	100.0 (1,495)	59.1	25.0	51.4	27.8	20.6	10.0	21.0	3.4	0.7	
性別	男	100.0 (621)	60.5	27.5	58.6	26.1	18.7	9.8	21.9	1.8	0.6
	女	100.0 (751)	57.8	23.4	46.7	30.1	22.2	10.3	19.3	4.9	0.9
年齢階級別	65～69歳	100.0 (358)	52.0	24.6	52.5	30.7	19.0	9.8	21.2	3.6	0.3
	70～74歳	100.0 (332)	56.6	20.5	49.1	29.5	23.8	7.2	23.8	3.3	0.6
	75～79歳	100.0 (368)	62.8	23.4	51.6	21.2	19.3	9.2	17.9	2.7	1.4
	80～84歳	100.0 (219)	65.8	34.7	53.9	28.8	23.3	13.7	20.1	3.7	0.9
	85歳以上	100.0 (147)	59.2	25.2	53.7	32.7	13.6	12.2	17.7	4.1	0.7
配偶者の有無別	配偶者あり	100.0 (1,016)	58.6	26.7	58.2	27.3	20.0	9.6	20.4	2.7	0.4
	未婚	100.0 (68)	75.0	16.2	13.2	22.1	29.4	11.8	26.5	4.4	1.5
	死別	100.0 (285)	57.9	24.6	43.9	30.9	20.0	10.9	20.7	5.6	2.1
	離別	100.0 (73)	54.8	13.7	31.5	32.9	21.9	11.0	24.7	4.1	-
住宅種類別	持家(一戸建て)	100.0 (1,100)	61.8	29.3	54.8	29.5	20.6	12.6	21.5	3.6	0.5
	持家(分譲マンションなど)	100.0 (229)	45.0	17.9	49.3	24.0	21.8	3.9	23.1	2.6	0.4
	民間賃貸住宅	100.0 (41)	61.0	-	22.0	22.0	14.6	-	7.3	7.3	2.4
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (46)	67.4	-	23.9	21.7	23.9	-	19.6	-	4.3
	都市再生機構(旧公団)・公社などの賃貸住宅	100.0 (19)	47.4	-	36.8	31.6	15.8	-	10.5	5.3	-
	借家(一戸建て)	100.0 (7)	28.6	-	57.1	14.3	14.3	-	14.3	-	14.3
	高齢者向け住宅など	100.0 (3)	33.3	-	-	66.7	-	-	33.3	-	-
	その他	100.0 (3)	66.7	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-

イ 今の住居に住み続けたい理由（本人年収別、世帯類型別）

今の住居に住み続けたい理由について、本人年収別でみると、「現在住んでいる地域に愛着があるから」では500万円以上700万円未満が64.9%で、「現在同居している家族と住み続けたいから」では700万円以上1,000万円未満が65.6%で、比較的高かった。

世帯類型別（サンプル数の少ない高齢者と子（配偶者無）と孫は除く）でみると、「現在住んでいる地域に愛着があるから」では独居が69.3%で、「現在同居している家族と住み続けたいから」では高齢者と子（配偶者有）と孫が83.8%で、比較的高かった。なお、集計上「独居」に「現在同居している家族と住み続けたいから」回答が5.3%存在する矛盾の理由については不明である。（図表7-5-1）

図表7-5-1 今の住居に住み続けたい理由（本人年収別、世帯類型別）

		総数	現在住んでいる地域に愛着があるから	現在の住宅や土地を処分したくないから	現在同居している家族と住み続けたいから	新たな環境で生活するのは不安だから	賃貸料、利用料、入居一時金などを負担できないから	賃貸住宅は好きではないから	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	その他	無回答
全体		100.0 (1,495)	59.1	25.0	51.4	27.8	20.6	10.0	21.0	3.4	0.7
本人年収別	50万円未満	100.0 (92)	59.8	23.9	51.1	25.0	30.4	12.0	17.4	2.2	1.1
	50万円以上100万円未満	100.0 (283)	56.5	23.0	53.0	29.7	23.3	8.5	20.5	3.2	1.1
	100万円以上150万円未満	100.0 (185)	58.9	18.4	42.2	25.9	23.8	10.3	19.5	3.8	-
	150万円以上200万円未満	100.0 (151)	59.6	22.5	42.4	32.5	20.5	11.3	13.9	4.0	1.3
	200万円以上250万円未満	100.0 (188)	62.8	28.7	53.2	34.6	19.7	13.3	25.5	1.1	-
	250万円以上300万円未満	100.0 (176)	58.5	24.4	50.6	24.4	22.7	8.0	20.5	4.0	-
	300万円以上500万円未満	100.0 (186)	58.1	28.5	59.7	25.3	17.7	10.2	26.9	3.8	-
	500万円以上700万円未満	100.0 (57)	64.9	33.3	57.9	22.8	14.0	7.0	15.8	1.8	1.8
	700万円以上1,000万円未満	100.0 (32)	50.0	28.1	65.6	21.9	15.6	9.4	37.5	6.3	-
1,000万円以上	100.0 (43)	48.8	37.2	62.8	20.9	2.3	14.0	34.9	14.0	-	
世帯類型	独居	100.0 (225)	69.3	21.3	5.3	29.8	22.7	11.6	25.3	7.6	2.2
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (461)	62.5	24.1	46.0	30.2	19.3	8.2	18.2	3.9	0.7
	高齢者・その他	100.0 (68)	52.9	16.2	60.3	30.9	26.5	11.8	25.0	1.5	-
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (52)	48.1	34.6	71.2	23.1	26.9	11.5	30.8	-	-
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (42)	61.9	35.7	59.5	26.2	11.9	11.9	16.7	4.8	-
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (314)	54.1	28.3	67.8	29.3	23.2	12.1	23.2	1.9	0.3
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (74)	48.6	18.9	83.8	13.5	16.2	6.8	17.6	2.7	1.4
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (10)	90.0	40.0	70.0	40.0	20.0	-	20.0	-	-
	その他	100.0 (195)	52.8	24.6	67.7	25.6	16.9	8.2	16.9	1.5	0.5
不明	100.0 (54)	63.0	29.6	50.0	16.7	20.4	14.8	22.2	3.7	-	

(6) 高齢者向け住宅に支出可能な利用料 (問 27)

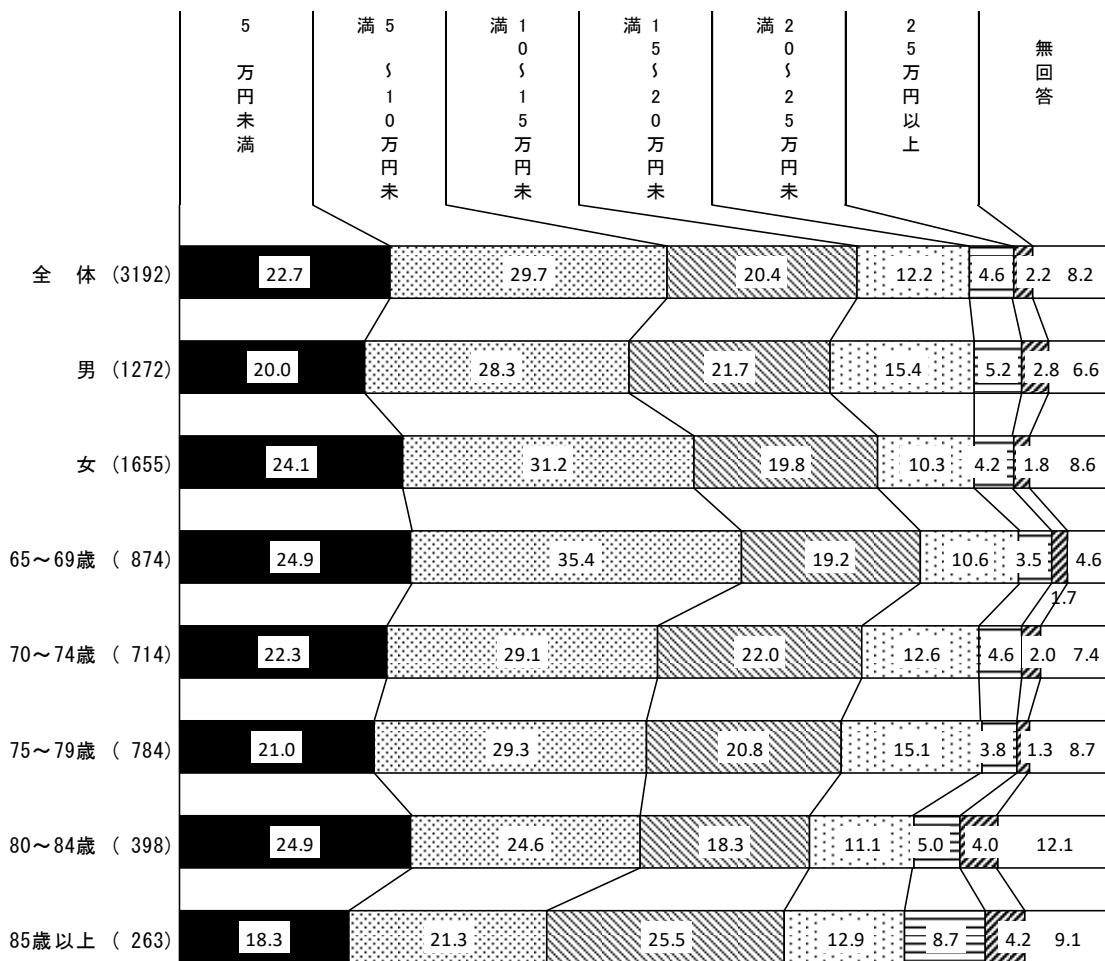
ア 高齢者向け住宅に支出可能な利用料 (性別、年齢階級別)

対象者全員に、高齢者向け住宅に支出可能な利用料について聞いたところ、「5～10 万円未満」が 29.7%で最も高く、次いで「5 万円未満」が 22.7%、「10～15 万円未満」が 20.4%となっている。

性別でみると、「15～20 万円未満」では男性(15.4%)が女性(10.3%)を 5.1 ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「5 ～10 万円未満」は 65～69 歳が 35.4%で、「10～15 万円未満」は 85 歳以上が 25.5%で、比較的高かった。(図表 7-6)

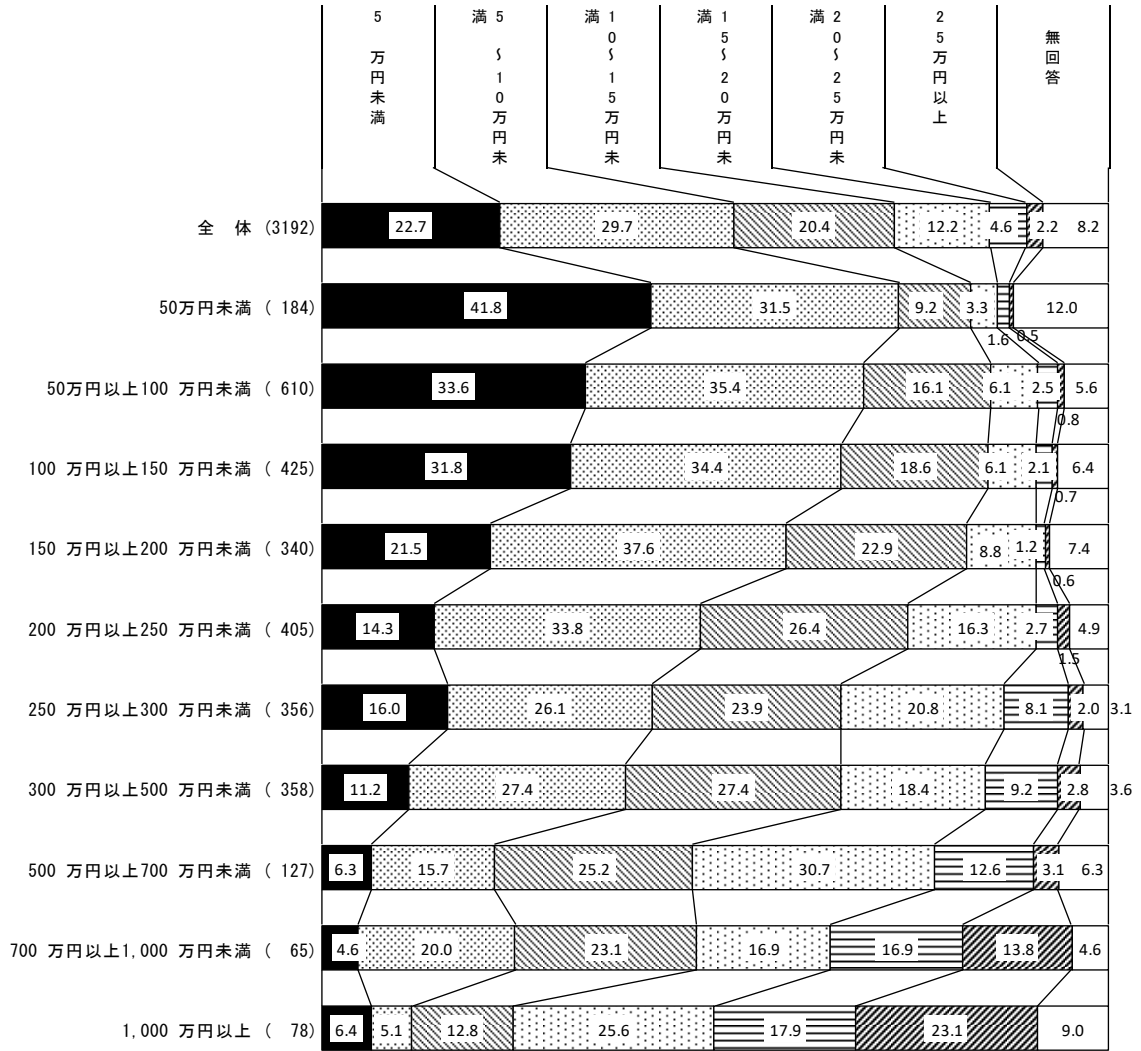
図表 7-6 高齢者向け住宅に支出可能な利用料 (性別、年齢階級別)



イ 高齢者向け住宅に支出可能な利用料（本人年収別）

高齢者向け住宅に支出可能な利用料について、本人年収別でみると、年収と支出可能な利用料が比例する傾向となり、「5万円未満」では本人収入50万円未満が41.8%で、「25万円以上」では本人収入1,000万円以上が23.1%で、それぞれ最も高かった。（図表7-6-2）

図表 7-6-2 高齢者向け住宅に支出可能な利用料（本人年収別）

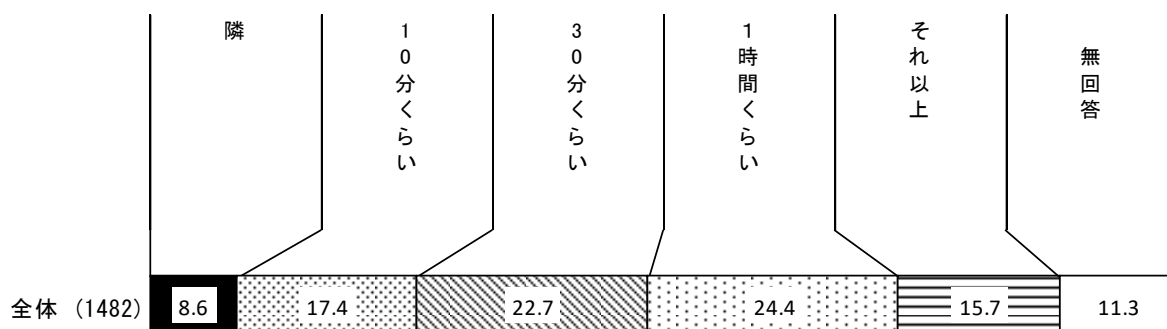


第8章 コミュニケーション

(1) 一番近い子供との距離 (問28)

お子さんがいらっしゃる方で、現在、お子さんと同居していない方に、一番近い子供との距離について聞いたところ、「1時間くらい」が24.4%で最も高く、次いで「30分くらい」が22.7%、「10分くらい」が17.4%となっている。(図表8-1)

図表8-1 一番近い子供との距離



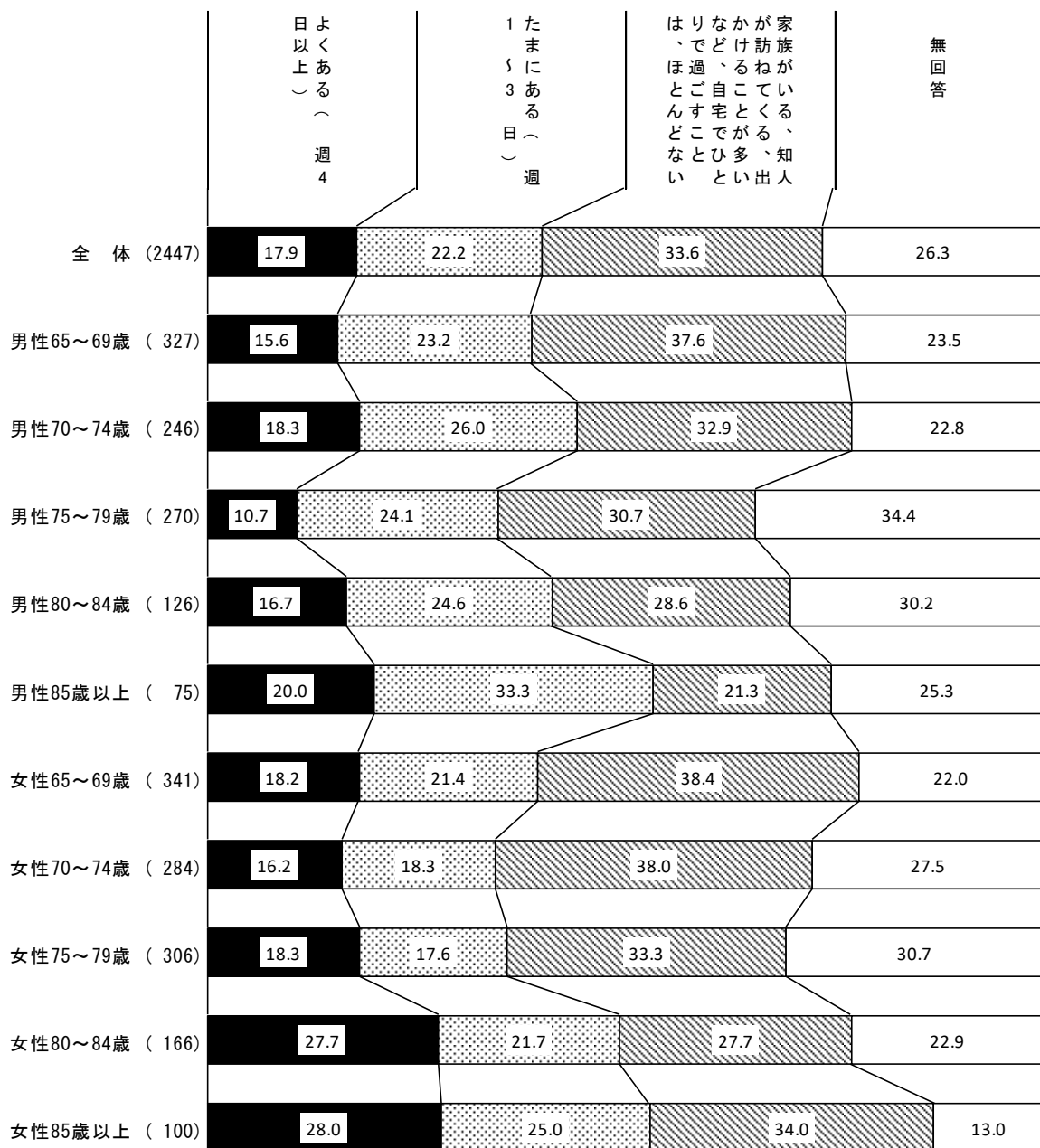
(2) 日中独居の頻度 (問 29)

ア 日中独居の頻度 (性・年齢階級別)

現在、ご家族と同居している方に、日中独居の頻度について聞いたところ、「家族がいる、知人が訪ねてくる、出かけることが多いなど、自宅でひとりで過ごすことは、ほとんどない」が33.6%で最も高く、次いで「たまにある(週1~3日)」が22.2%、「よくある(週4日以上)」が17.9%となっている。

性・年齢階級別でみると、「よくある(週4日以上)」では女性の80~84歳(27.7%)と85歳以上(28.0%)が3割弱で比較的高かった。「ほとんどない」は男性の80~84歳(28.6%)と85歳以上(21.3%)が3割に満たず、比較的低かった。(図表8-2)

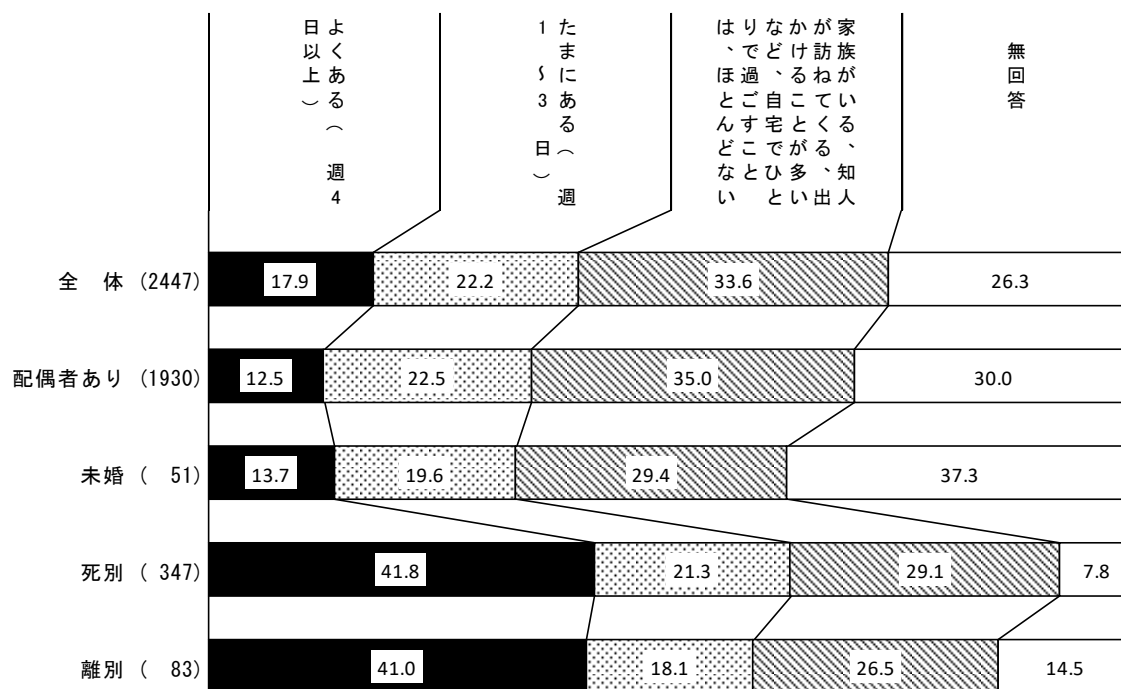
図表 8-2 日中独居の頻度 (性・年齢階級別)



イ 日中独居の頻度（配偶者の有無別）

日中独居の頻度について、配偶者の有無別でみると、「よくある（週4日以上）」では死別（41.8%）と離別（41.0%）が4割強で比較的高かった。「ほとんどない」は配偶者ありが35.0%でやや高かった。（図表 8-2-1）

図表 8-2-1 日中独居の頻度（配偶者の有無別）



(3) 外出頻度 (問 30)

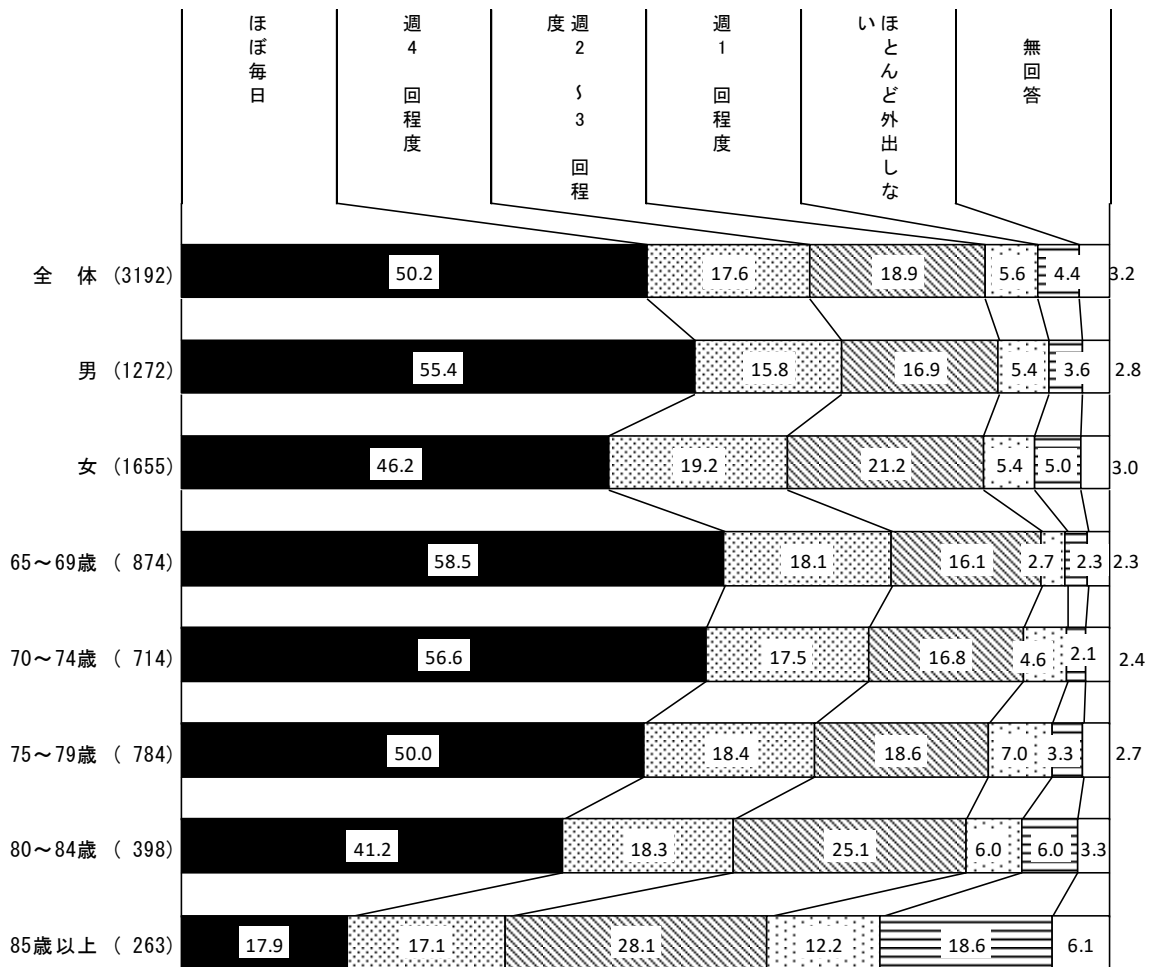
ア 外出頻度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に外出頻度について聞いたところ、「ほぼ毎日」が 50.2%で最も高く、次いで「週 2~3 回程度」が 18.9%、「週 4 回程度」が 17.6%となっている。

性別でみると、「ほぼ毎日」では男性(55.4%)が女性(46.2%)を 9.2 ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「ほぼ毎日」は 65~69 歳(58.5%)から年齢が高くなるにつれ割合は低くなり、85 歳以上では 17.9%にまで下がっている。また「ほとんど外出しない」は 85 歳以上(18.6%)が比較的高かった。(図表 8-3)

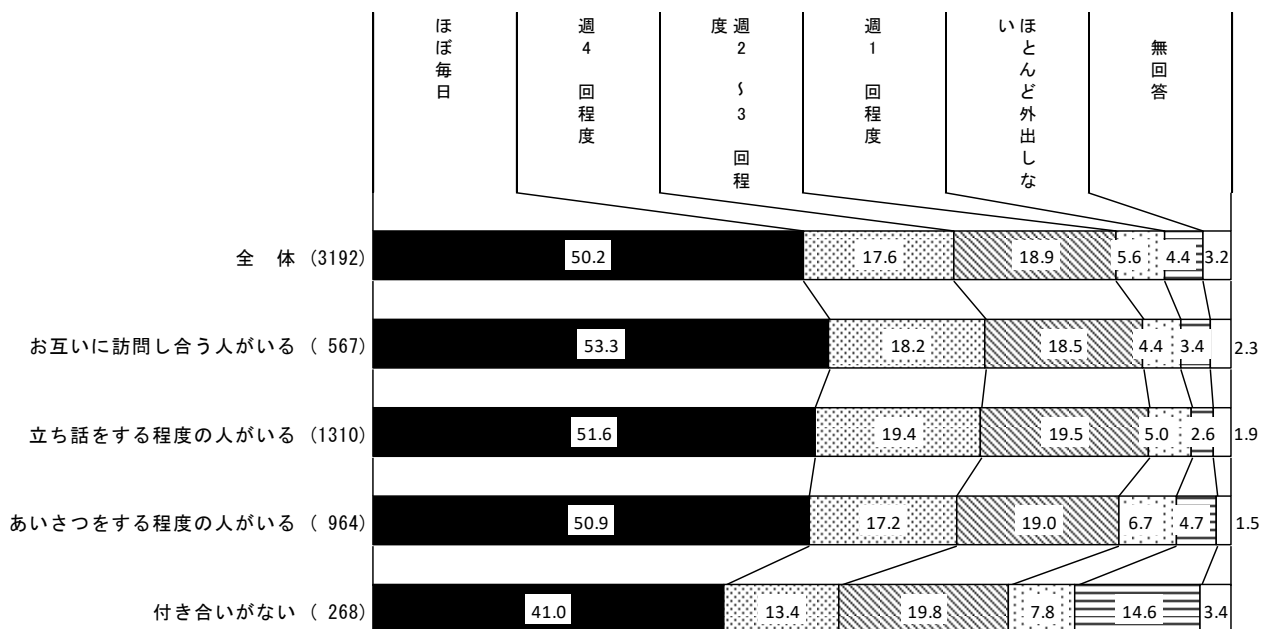
図表 8-3 外出頻度 (性別、年齢階級別)



イ 外出頻度（近所付き合い別）

外出頻度について、近所付き合い別でみると、「ほぼ毎日」は付き合いがない(41.0%)だけが半数に満たず、「週4回程度」も13.4%で比較的低く、逆に「ほとんど外出しない」は付き合いがない(14.6%)だけが比較的高かった。（図表 8-3-1）

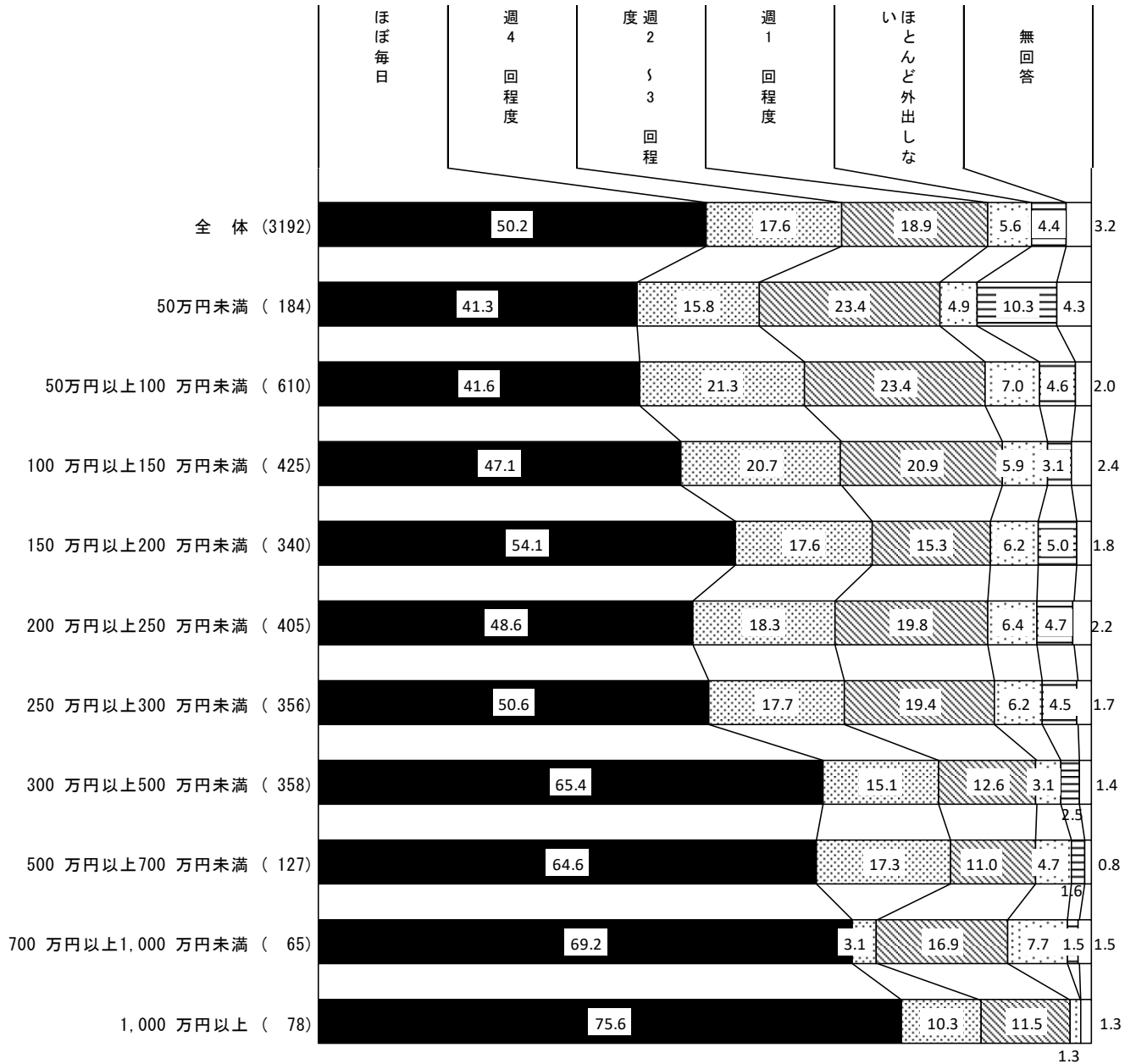
図表 8-3-1 外出頻度（近所付き合い別）



ウ 外出頻度（本人年収別）

外出頻度について、本人年収別でみると、おおむね年収が高くなるにつれ外出頻度も高くなる傾向がある。「ほぼ毎日」は50万円未満が41.3%だが、1,000万円以上は75.6%にまで高くなっている。「ほとんど外出しない」も50万円未満(10.3%)だけが1割に達している。(図表 8-3-2)

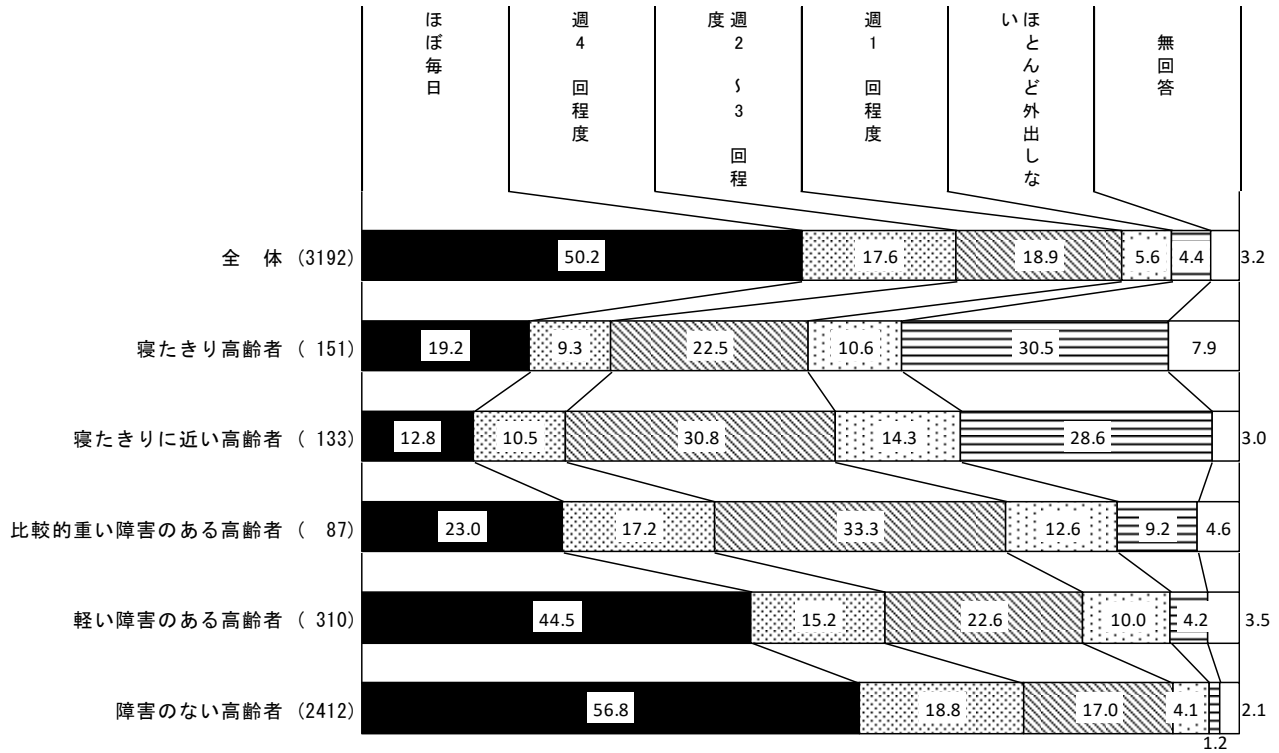
図表 8-3-2 外出頻度（本人年収別）



エ 外出頻度（動作能力類型別）

外出頻度について、動作能力類型別でみると、「ほぼ毎日」は障害のない高齢者が56.8%で過半数となり、軽い障害のある高齢者が44.5%でこれに次いだ。「ほとんど外出しない」は寝たきり高齢者が30.5%、寝たきりに近い高齢者も28.6%となり比較的高い。（図表8-3-3）

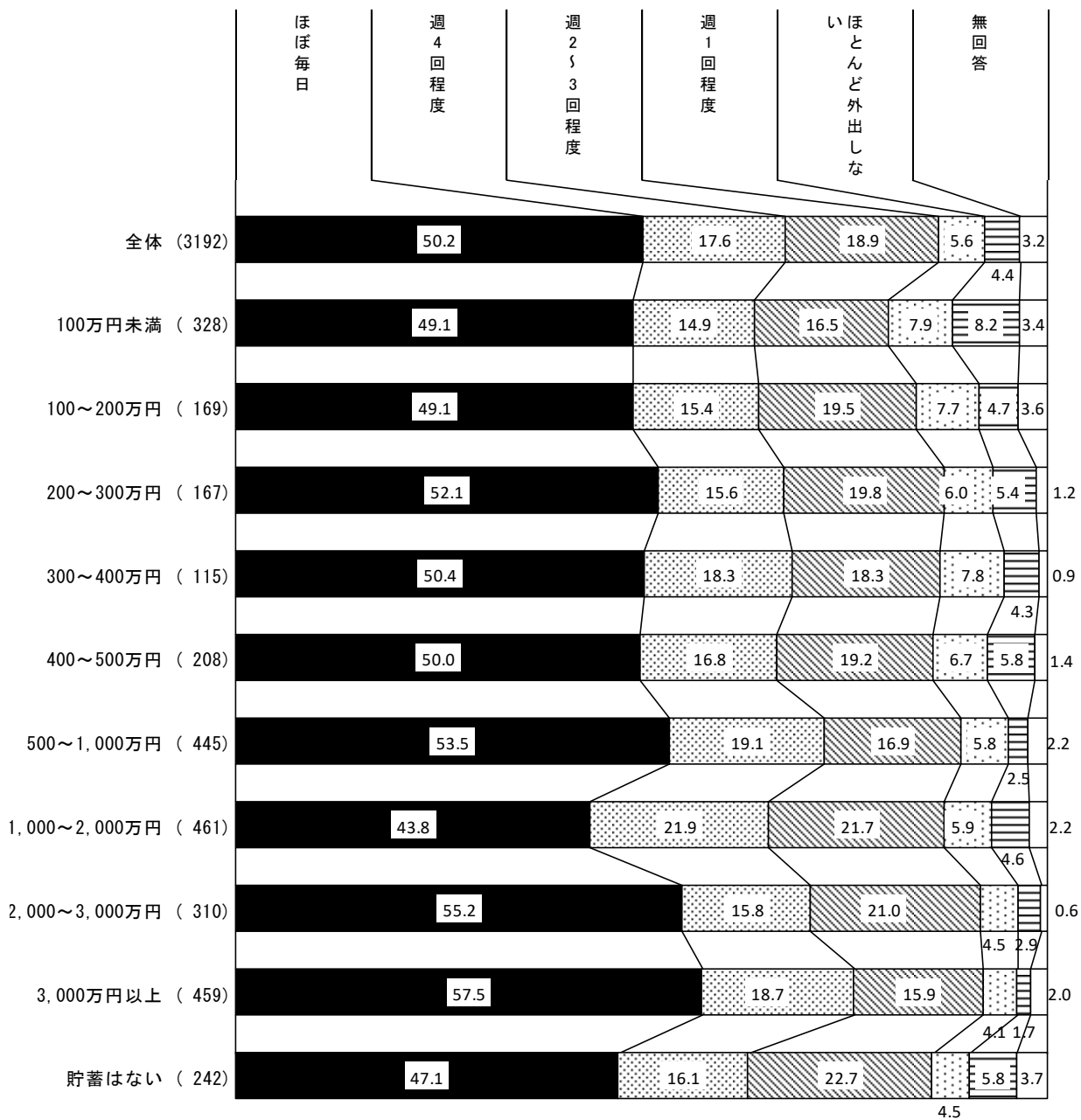
図表 8-3-3 外出頻度（動作能力類型別）



オ 外出頻度（金融貯蓄別）

外出頻度について、金融貯蓄別でみると、「ほぼ毎日」は3,000万円以上が57.5%で最も高く、1,000～2,000万円が43.8%で最も低かった。「ほとんど外出しない」は100万円未満が8.2%で最も高く、3,000万円以上が1.7%で最も低かった。（図表8-3-4）

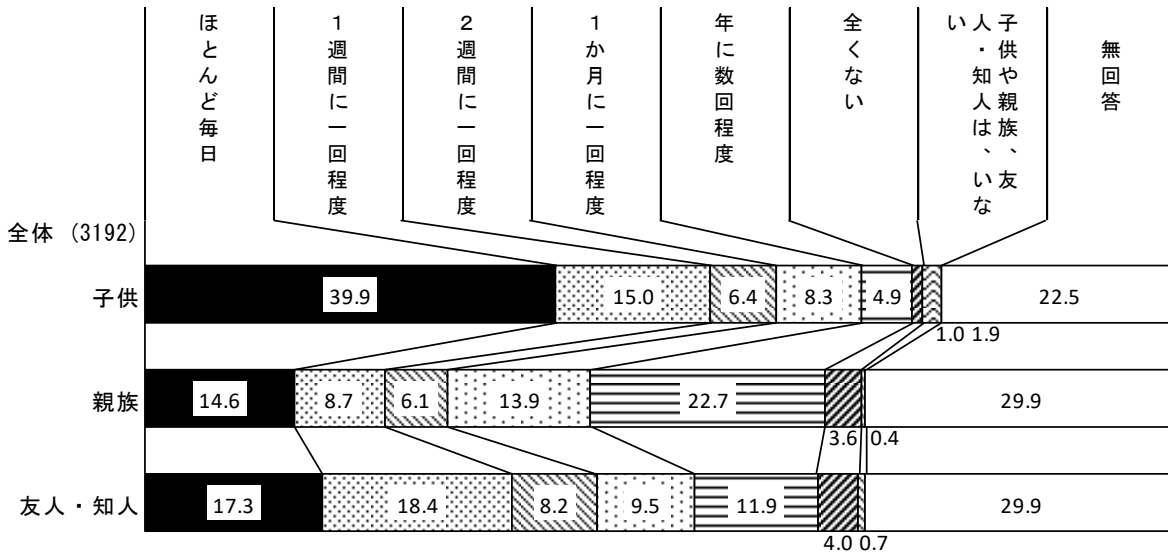
図表 8-3-4 外出頻度（金融貯蓄別）



(4) 交流の頻度 (問 31)

対象者全員に交流の頻度について聞いたところ、子供については「ほとんど毎日」が 39.9%で最も高く、次いで「1週間に一回程度」が 15.0%となっている。親族については「年に数回程度」が 22.7%で最も高く、次いで「ほとんど毎日」が 14.6%となっている。友人・知人については「1週間に一回程度」が 18.4%で最も高く、次いで「ほとんど毎日」が 17.3%となっている。(図表 8-4)

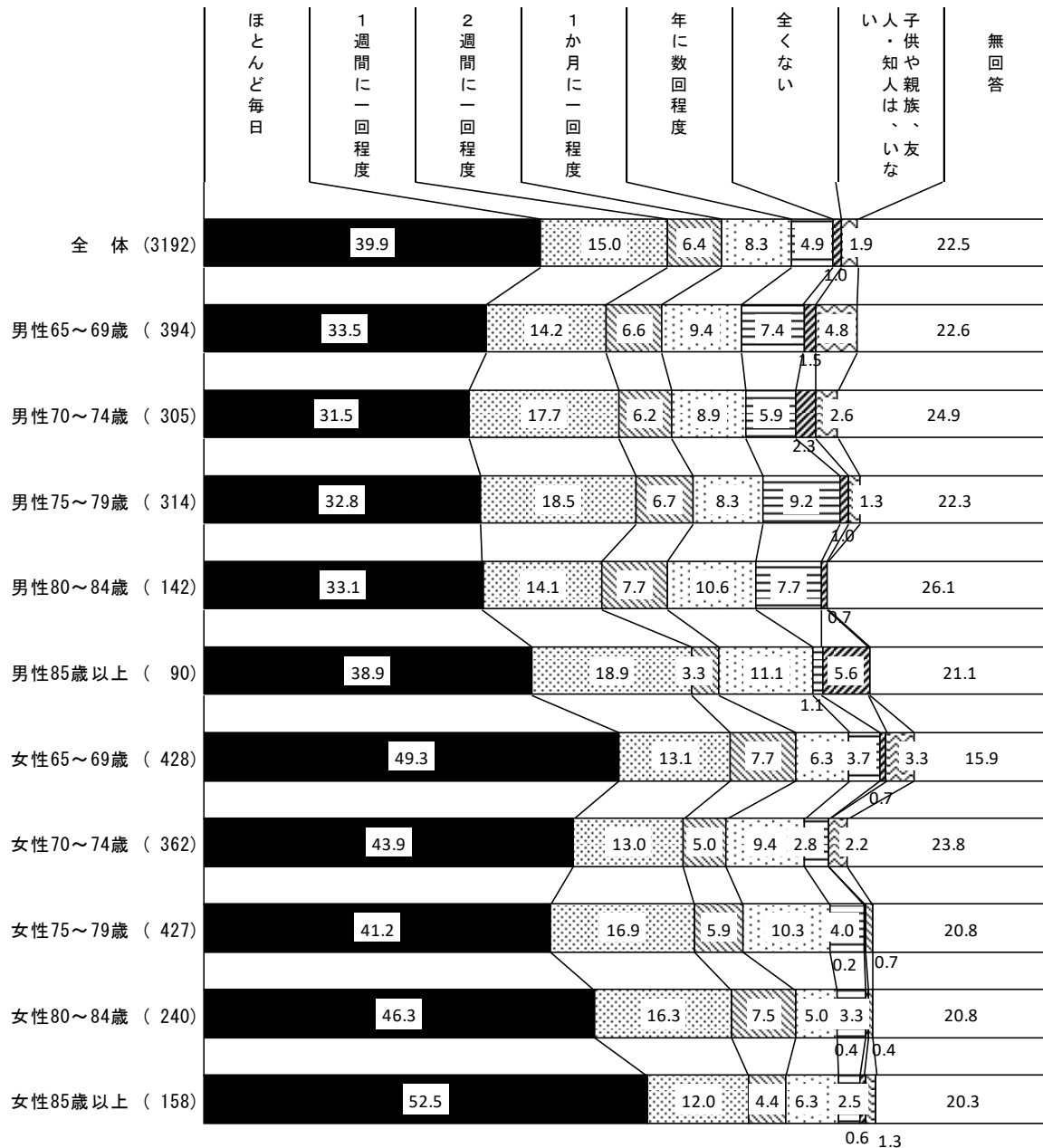
図表 8-4 交流の頻度



ア-1 子供との交流の頻度（性・年齢階級別）

子供との交流の頻度について、性・年齢階級別でみると、「ほとんど毎日」では女性85歳以上が52.5%で最も高く、女性65～69歳が49.3%でそれに次いだ。「ほとんど毎日」は総じて男性より女性が10ポイントほど高い傾向にある。（図表8-4-1）

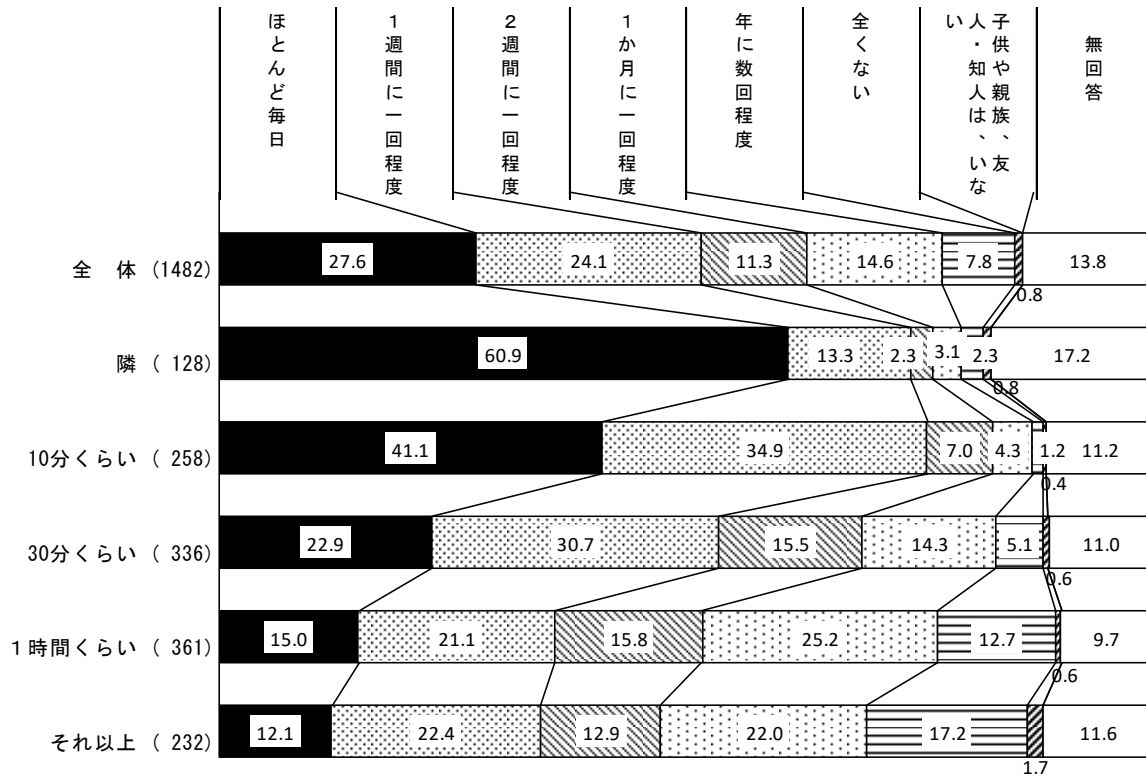
図表8-4-1 子供との交流の頻度（性・年齢階級別）



ア-2 子供との交流の頻度（子どもとの距離別）

子供との交流の頻度について、子どもとの距離別でみると、交流の頻度は距離にほぼ比例している。「ほとんど毎日」は「隣」では60.9%にまで高くなり、「それ以上」では12.1%にまで低くなる。「全くない」は「1時間くらい」が12.7%で、「それ以上」が17.2%となり、比較的高かった。（図表 8-4-2）

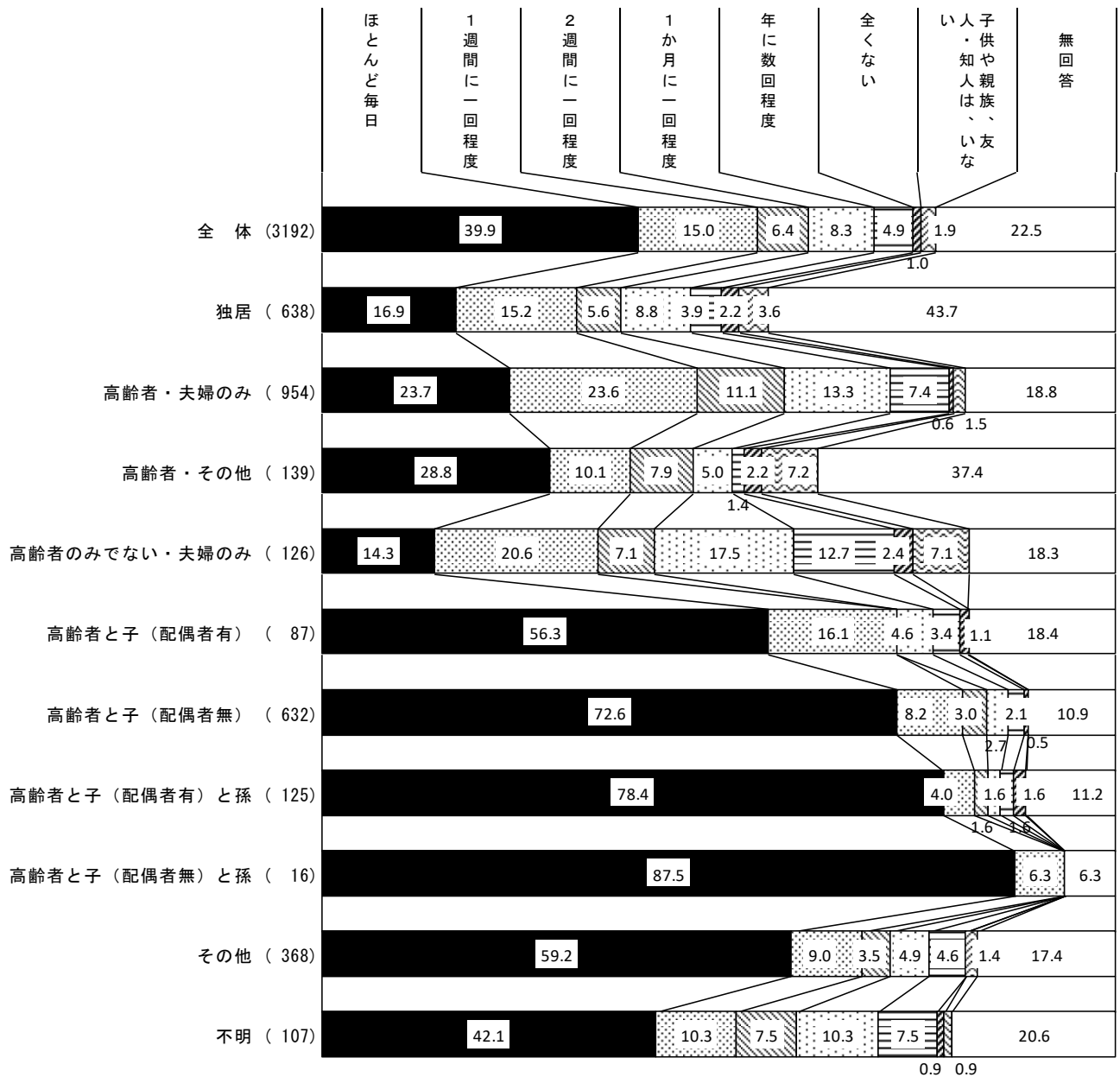
図表 8-4-2 子供との交流の頻度（子どもとの距離別）



ア-3 子供との交流の頻度（世帯類型別）

子供との交流の頻度について、世帯類型別で見ると、子供と同居している世帯は「ほとんど毎日」が過半数となり、同居していない世帯との差異が大きくなった。（図表 8-4-3）

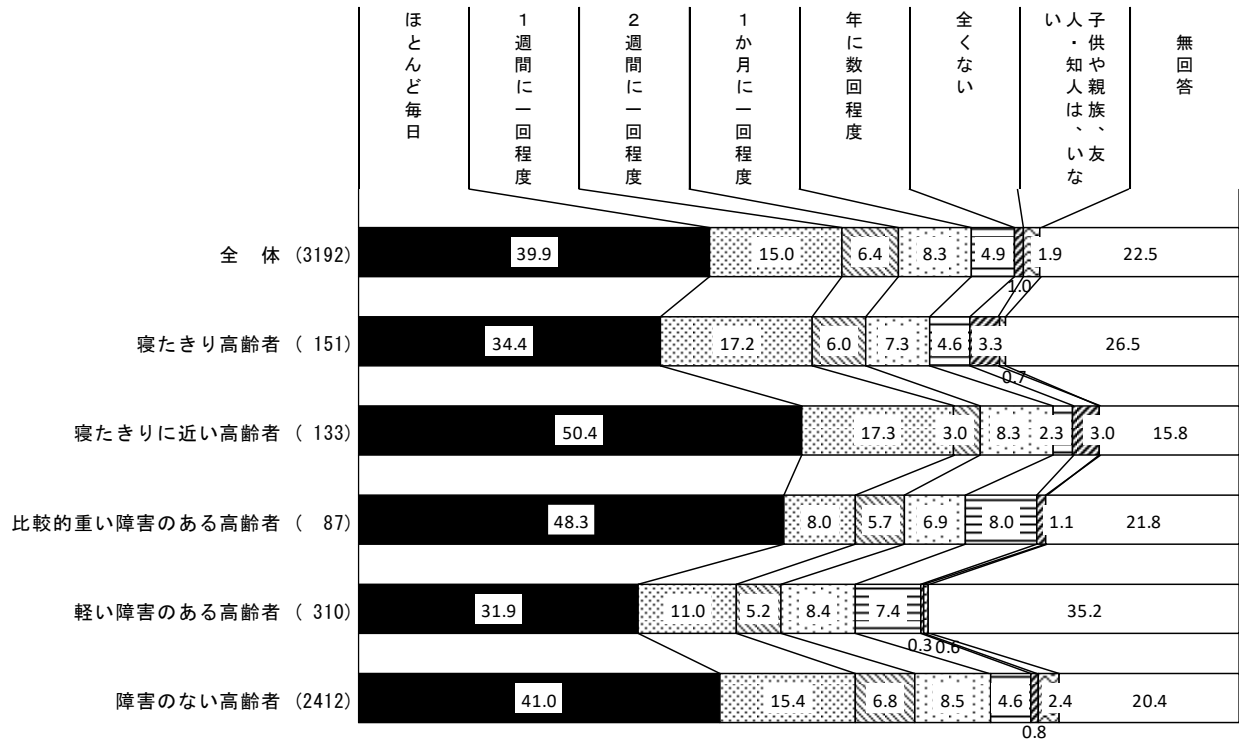
図表 8-4-3 子供との交流の頻度（世帯類型別）



ア-4 子供との交流の頻度（動作能力類型別）

子供との交流の頻度について、動作能力類型別でみると、「ほとんど毎日」は「寝たきりに近い高齢者」が50.4%で過半数となり、「比較的重い障害のある高齢者」が48.3%でそれに次いだ。「軽い障害のある高齢者」と「寝たきり高齢者」は交流の頻度が比較的低い傾向にある。（図表8-4-4）

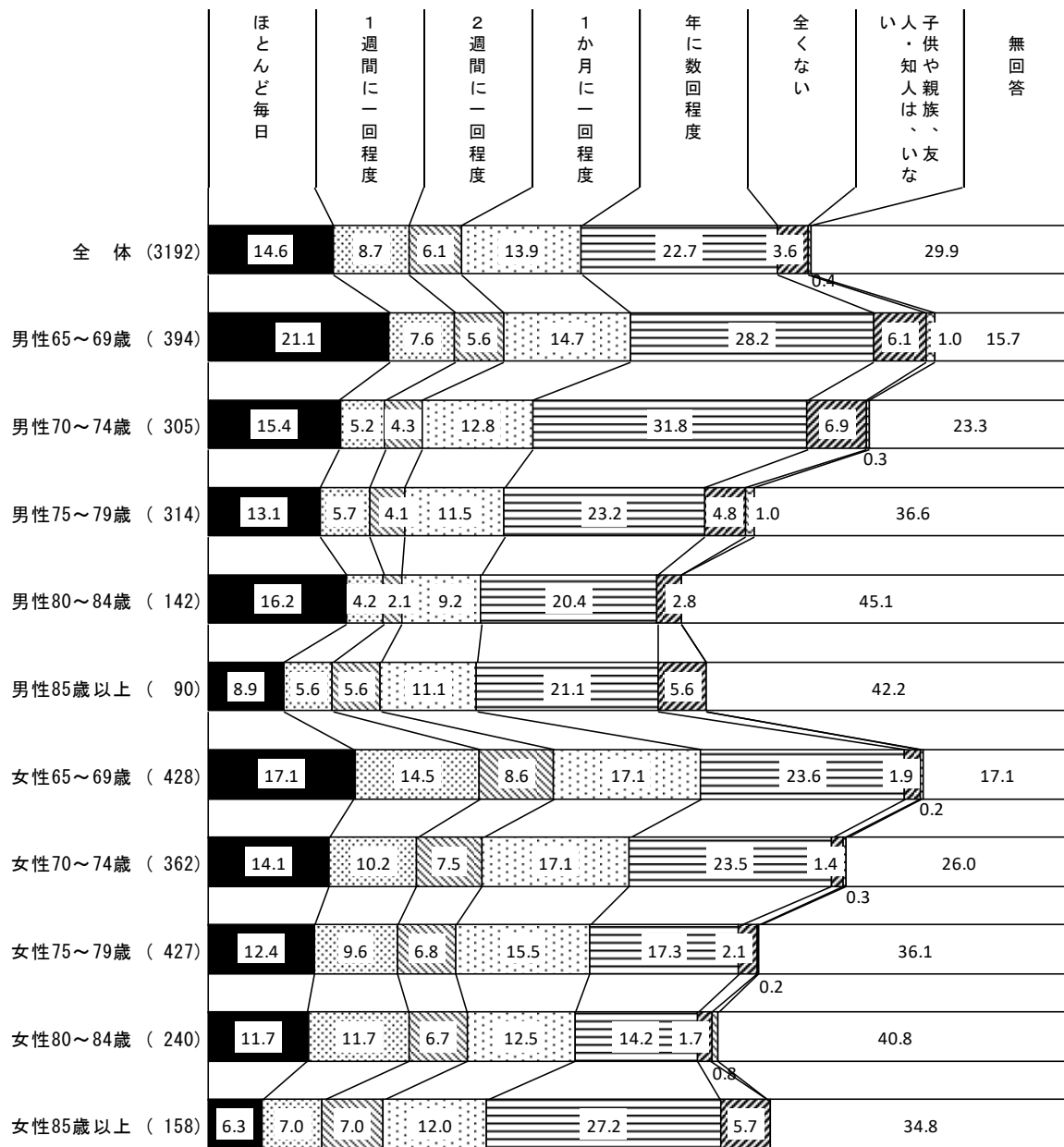
図表 8-4-4 子供との交流の頻度（動作能力類型別）



イ-1 親族との交流の頻度（性・年齢階級別）

親族との交流の頻度について、性・年齢階級別でみると、すべての階級で「年に数回程度」が2割弱～3割強で最も高かった。総じて、より高齢になると交流頻度は低くなり、男性より女性の方がやや高い傾向がみられる。（図表 8-4-5）

図表 8-4-5 親族との交流の頻度（性・年齢階級別）

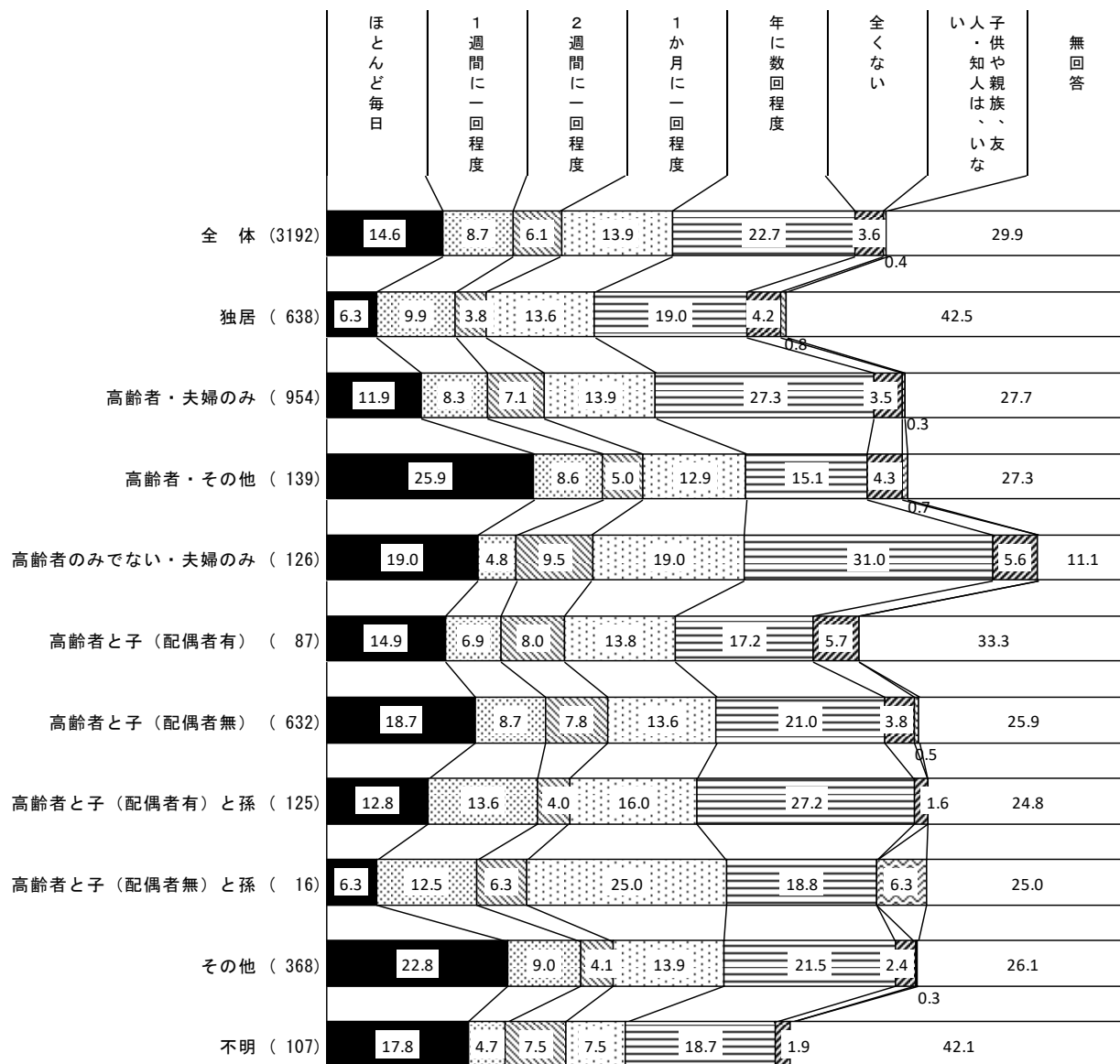


イ-2 親族との交流の頻度（世帯類型別）

親族との交流の頻度について、世帯類型別で見ると、すべての類型で「年に数回程度」が2割弱～3割強で最も高かった。「ほとんど毎日」は高齢者・その他が25.9%で最も高くなった。

（図表 8-4-6）

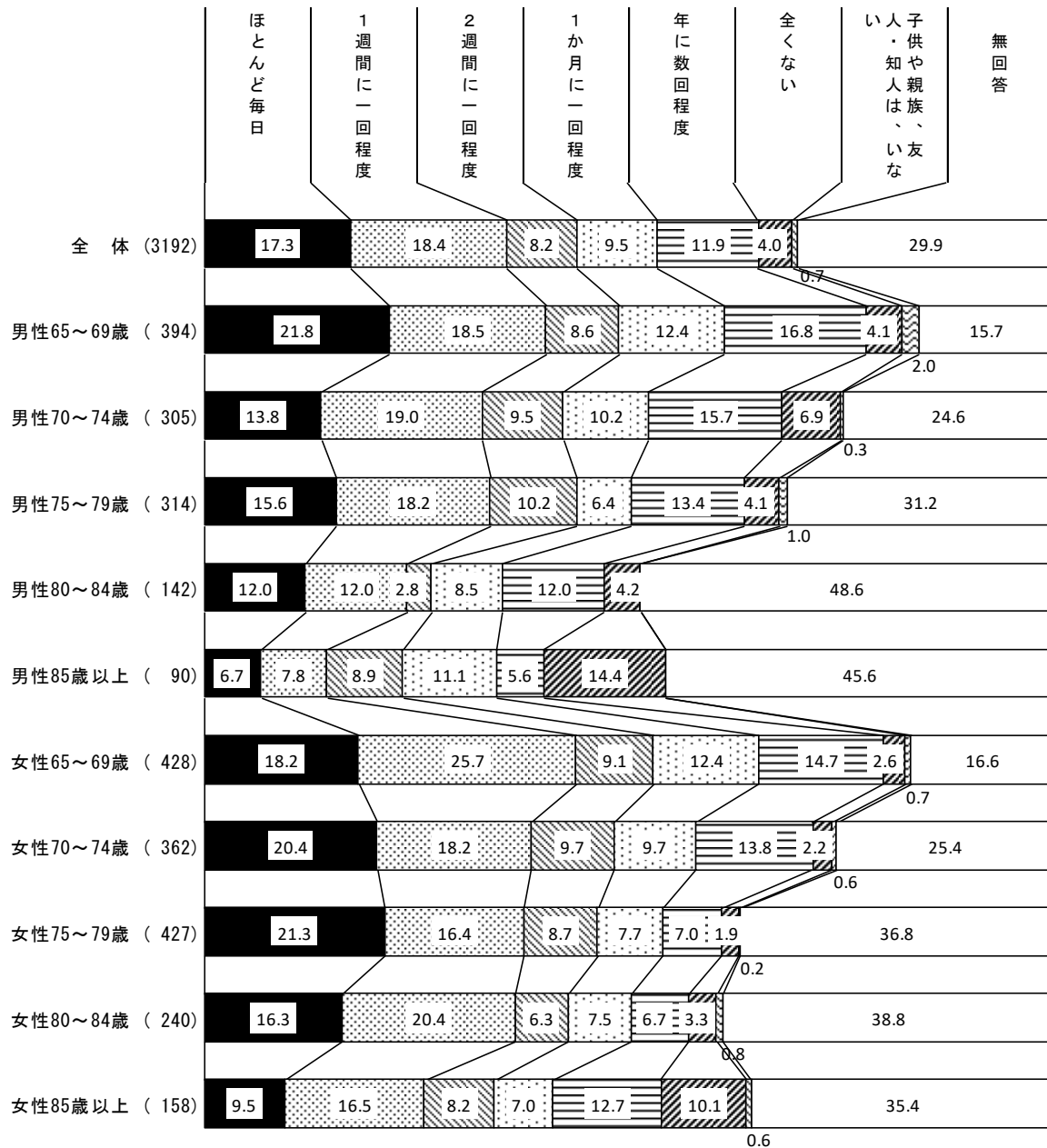
図表 8-4-6 親族との交流の頻度（世帯類型別）



ウ-1 友人・知人との交流の頻度（性・年齢階級別）

友人・知人との交流の頻度について、性・年齢階級別でみると、「ほとんど毎日」は男性65～69歳が21.8%、女性75～79歳が21.3%、女性70～74歳が20.4%で2割以上と高くなっている。（図表8-4-7）

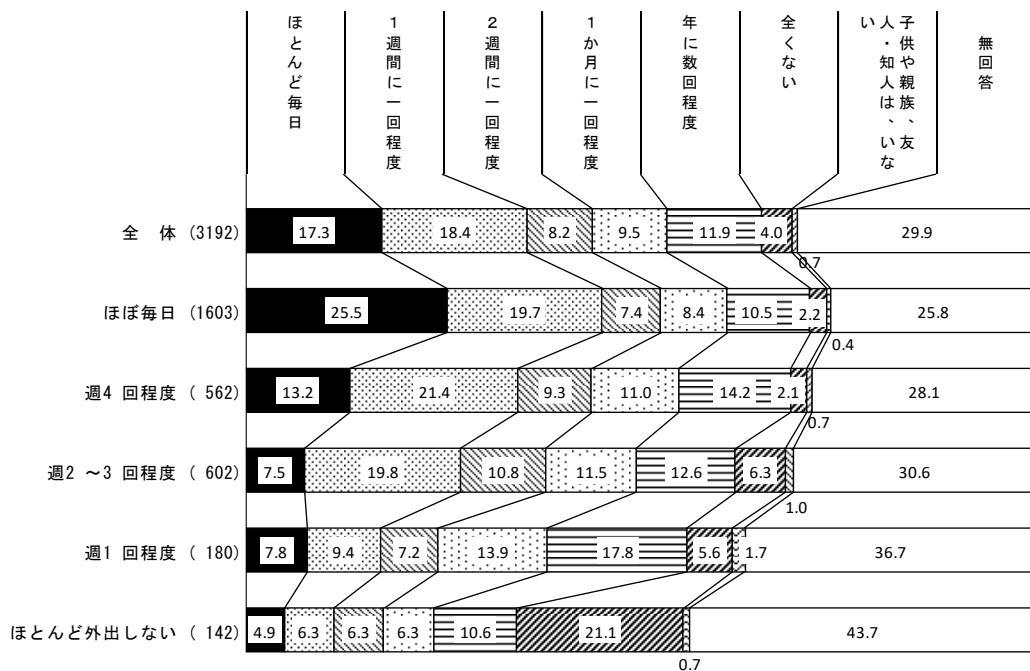
図表8-4-7 友人・知人との交流の頻度（性・年齢階級別）



ウ-2 友人・知人との交流の頻度（外出頻度別）

友人・知人との交流の頻度について外出頻度別でみると、「ほとんど毎日」は外出頻度が少なくなるにつれて概ね割合が低くなっている。（図表 8-4-8）

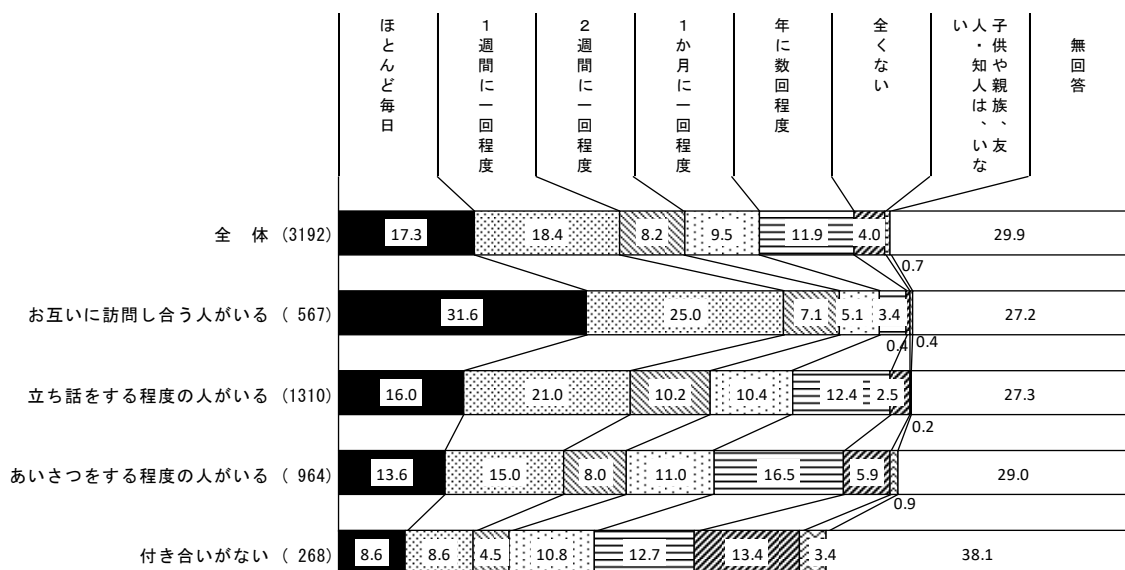
図表 8-4-8 友人・知人との交流の頻度（外出頻度別）



ウ-3 友人・知人との交流の頻度（近所付き合い別）

友人・知人との交流の頻度について近所付き合い別でみると、「ほとんど毎日」は「お互いに訪問し合う人がいる」が31.6%で最も高くなっている。（図表 8-4-9）

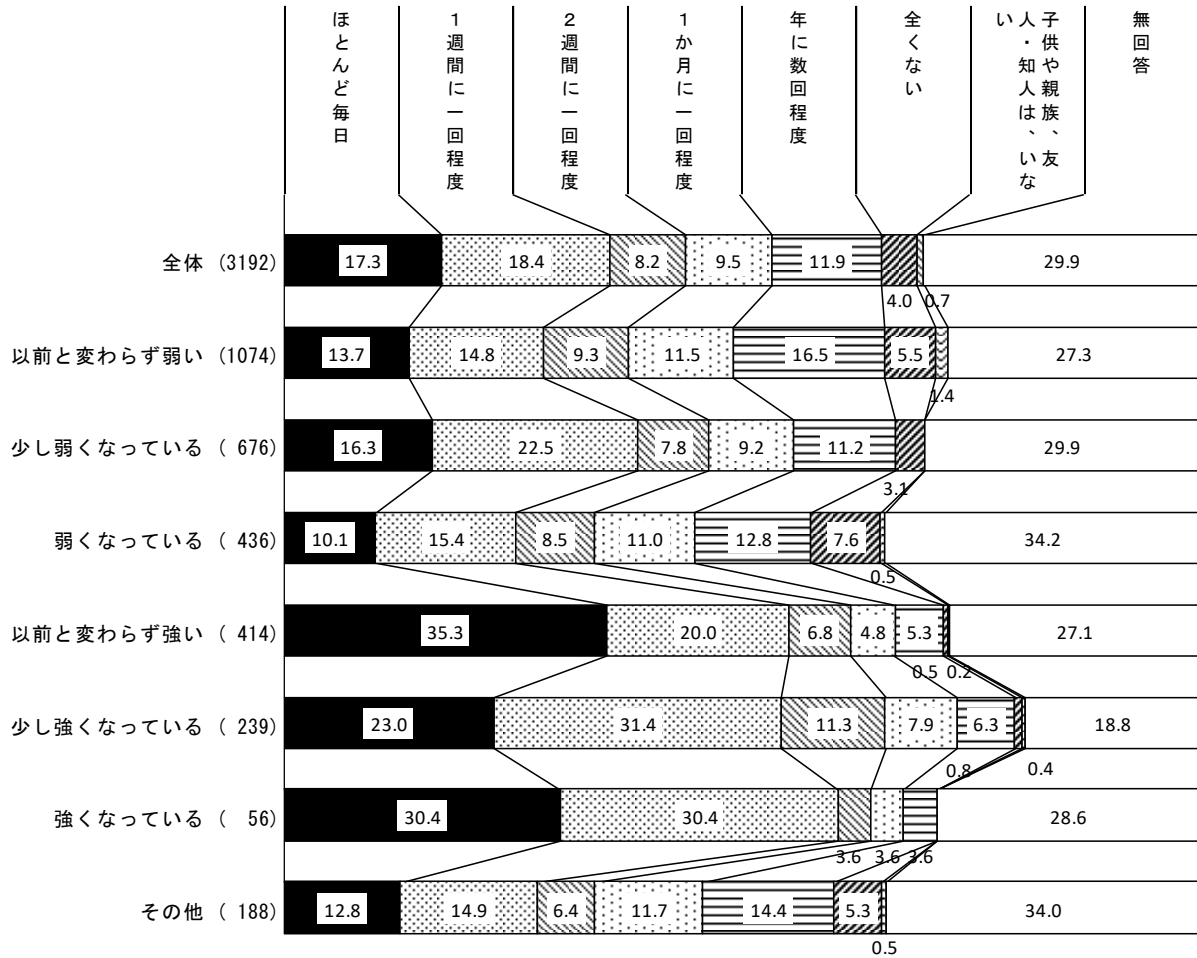
図表 8-4-9 友人・知人との交流の頻度（近所付き合い別）



ウ-4 友人・知人との交流の頻度（地域とのつながり別）

友人・知人との交流の頻度について地域とのつながり別でみると、「ほとんど毎日」は以前と変わらず強いが 35.3%、強くなっているが 30.4%で割合が高くなっている。（図表 8-4-10）

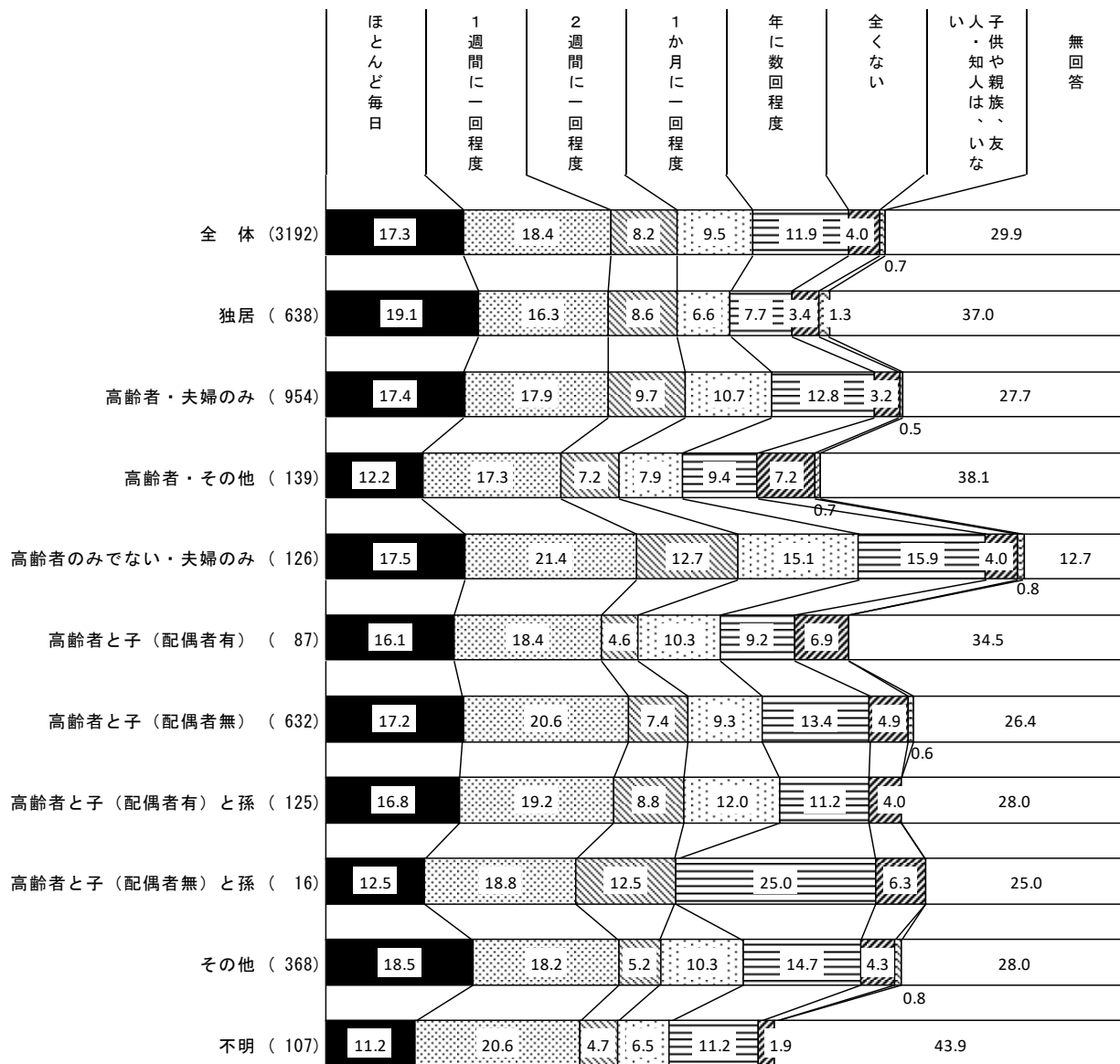
図表 8-4-10 友人・知人との交流の頻度（地域とのつながり別）



ウ-5 友人・知人との交流の頻度（世帯類型別）

友人・知人との交流の頻度について世帯類型別でみると、「1か月に一回程度」は「高齢者のみでない・夫婦のみ」が15.1%、「高齢者と子（配偶者有）と孫」が12.0%で割合が高くなっている。（図表8-4-11）

図表 8-4-11 友人・知人との交流の頻度（世帯類型別）



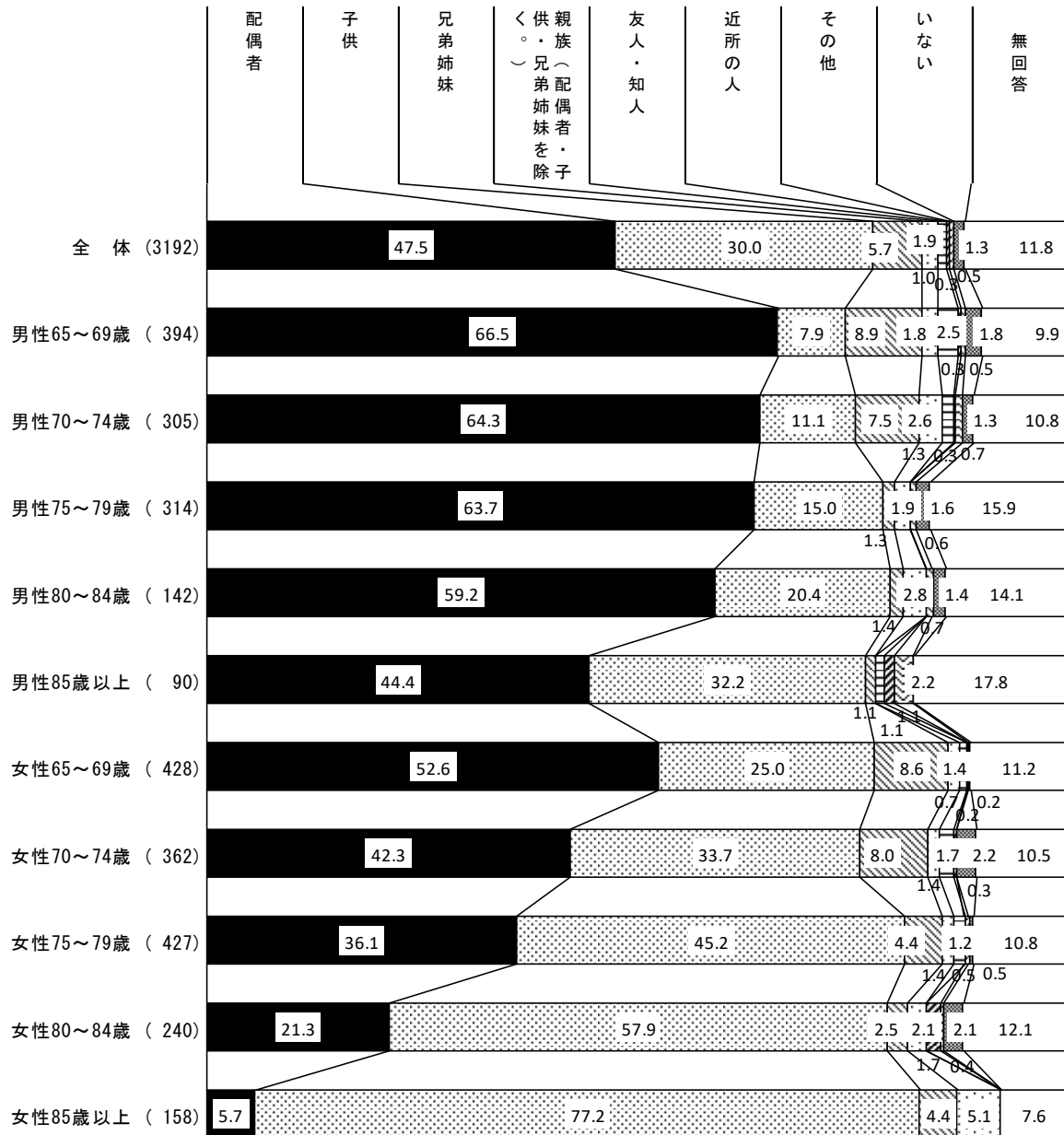
(5) 緊急連絡先 (問 32)

ア 緊急連絡先 (性・年齢階級別)

対象者全員に緊急連絡先について聞いたところ、「配偶者」が47.5%で最も高く、次いで「子供」が30.0%となっている。

性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢階級が上がるにつれて、「配偶者」の割合が低く、「子供」の割合が高くなっている。(図表 8-5)

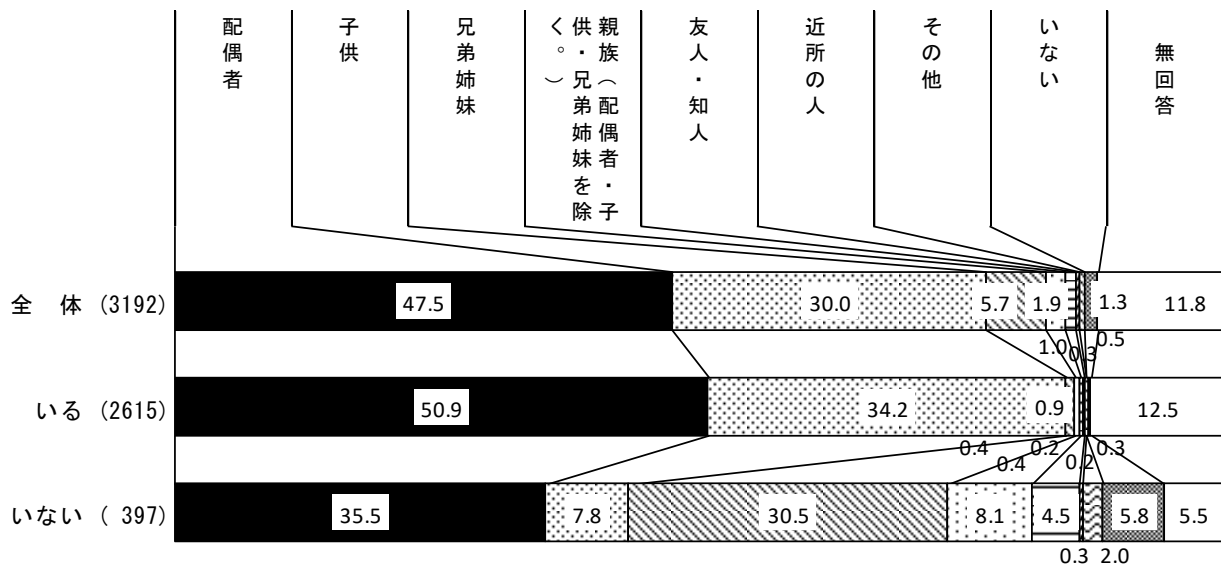
図表 8-5 緊急連絡先 (性・年齢階級別)



イ 緊急連絡先（子どもの有無別）

緊急連絡先について子どもの有無別にみると、緊急連絡先に「配偶者」を選んだ人は子供が「いる」と回答した人の割合が50.9%、「いない」と回答した人の割合が35.5%と「いる」と回答した方が15.4ポイント上回っている。緊急連絡先に「子供」を選んだ人は、子供が「いる」と回答した人の割合が34.2%、「いない」と回答した人の割合が7.8%と「いる」と回答した人の方が26.4ポイント上回った。（図表 8-5-1）

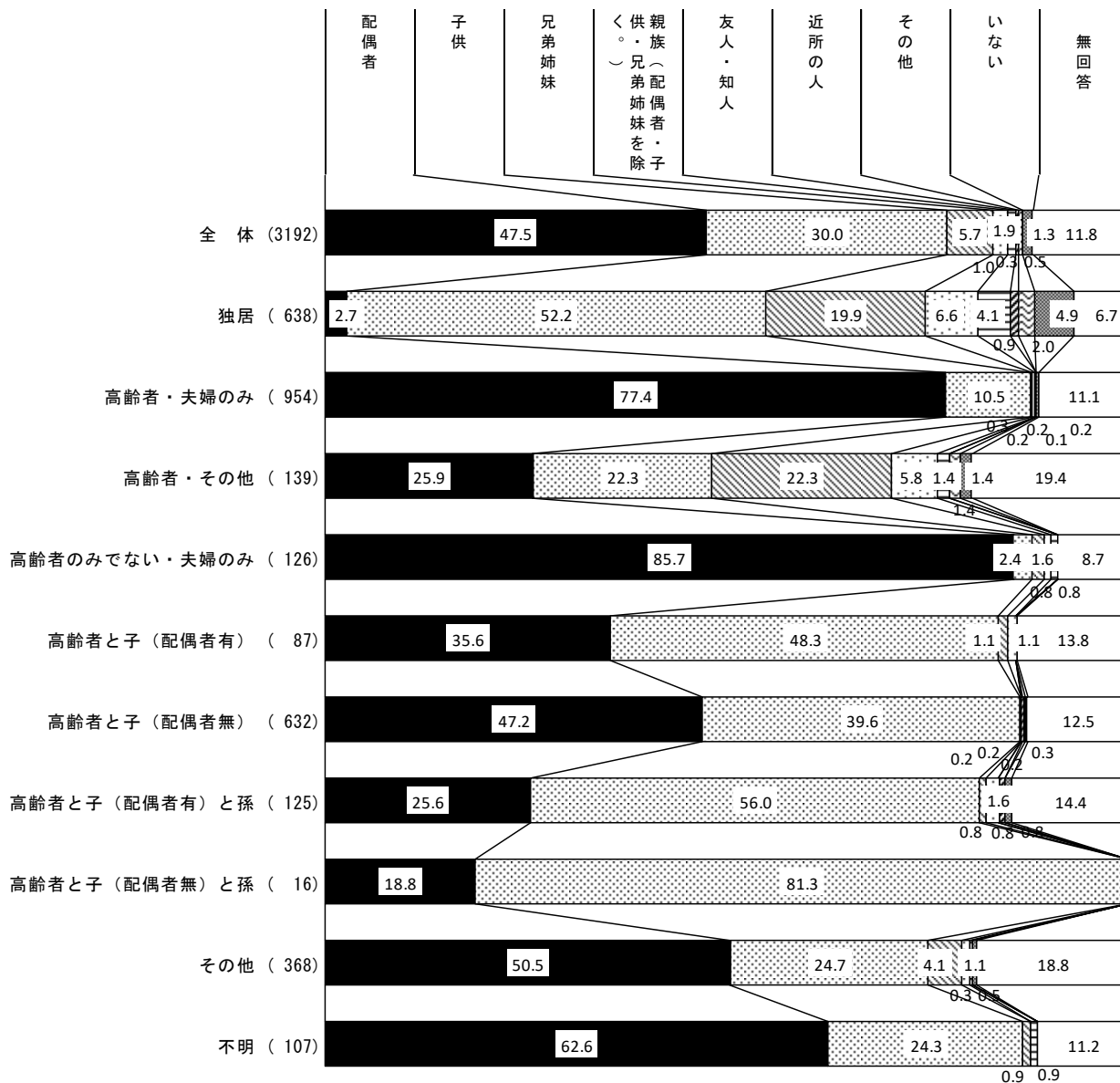
図表 8-5-1 緊急連絡先（子どもの有無別）



ウ 緊急連絡先（世帯類型別）

緊急連絡先について、世帯類型別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、「子供」は「高齢者と子（配偶者有）と孫」が56.0%、「独居」が52.2%と高くなっている。（図表8-5-2）

図表 8-5-2 緊急連絡先（世帯類型別）



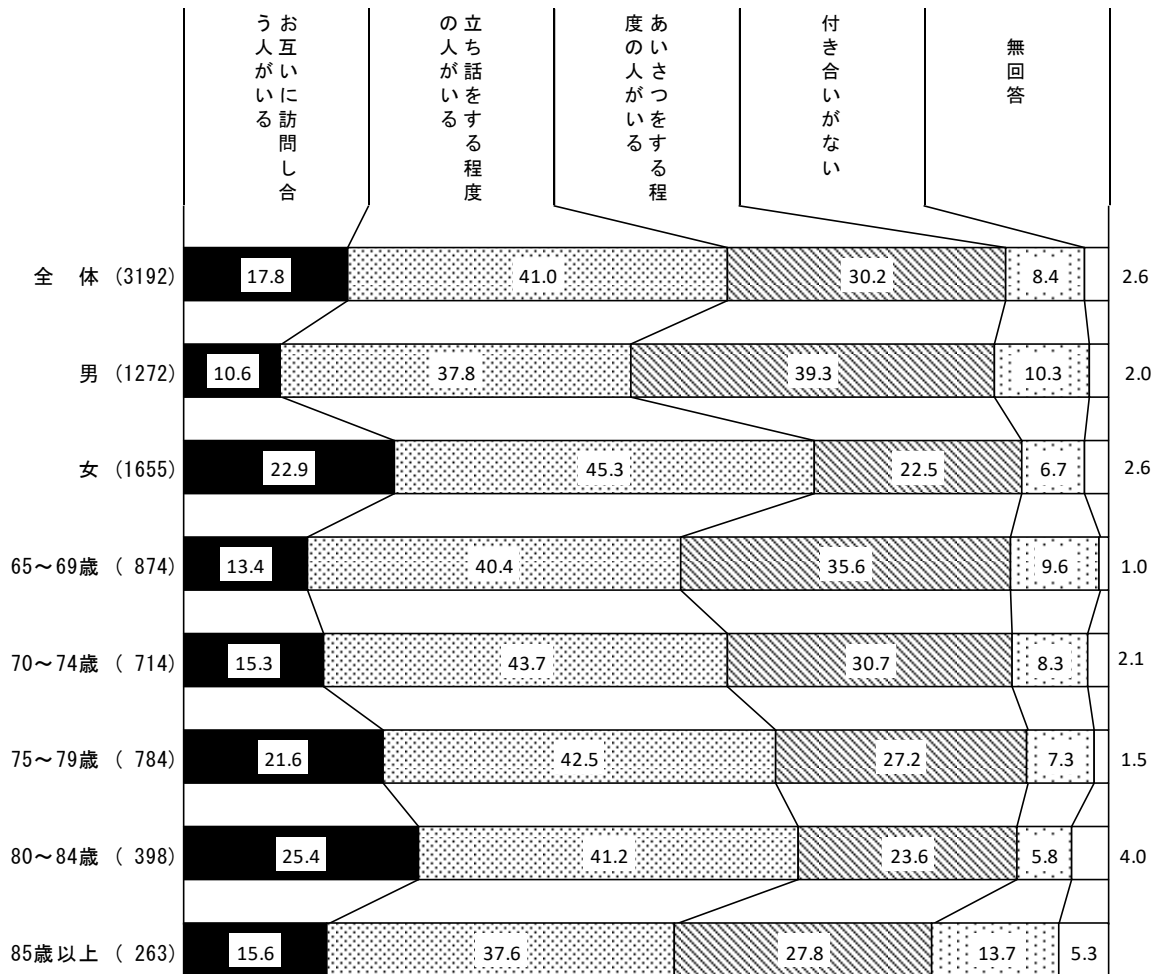
(6) 近所との付き合いの程度 (問 33)

ア 近所との付き合いの程度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に近所との付き合いの程度について聞いたところ、「立ち話をする程度の人がいる」が41.0%で最も高く、次いで「あいさつをする程度の人がいる」が30.2%、「お互いに訪問し合う人がある」が17.8%となっている。

近所との付き合いの程度について、性別で見ると、「お互いに訪問しあう人がある」は男性が10.6%、女性が22.9%で、女性の方が12.3ポイント高くなっている。(図表8-6)

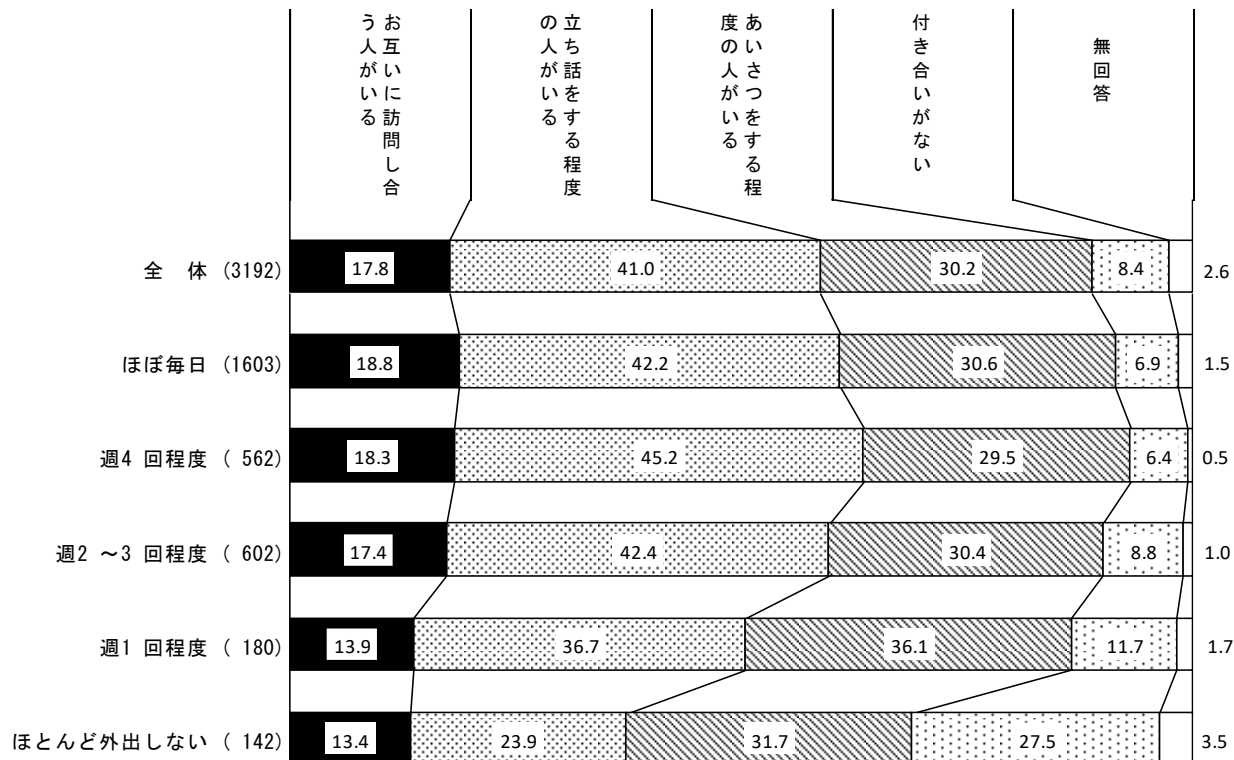
図表 8-6 近所との付き合いの程度 (性別、年齢階級別)



イ 近所との付き合いの程度（外出頻度別）

近所との付き合いの程度について、外出頻度でみると、外出頻度が低くなるにつれ「お互いに訪問し合う人がある」の割合が低くなっている。（図表 8-6-1）

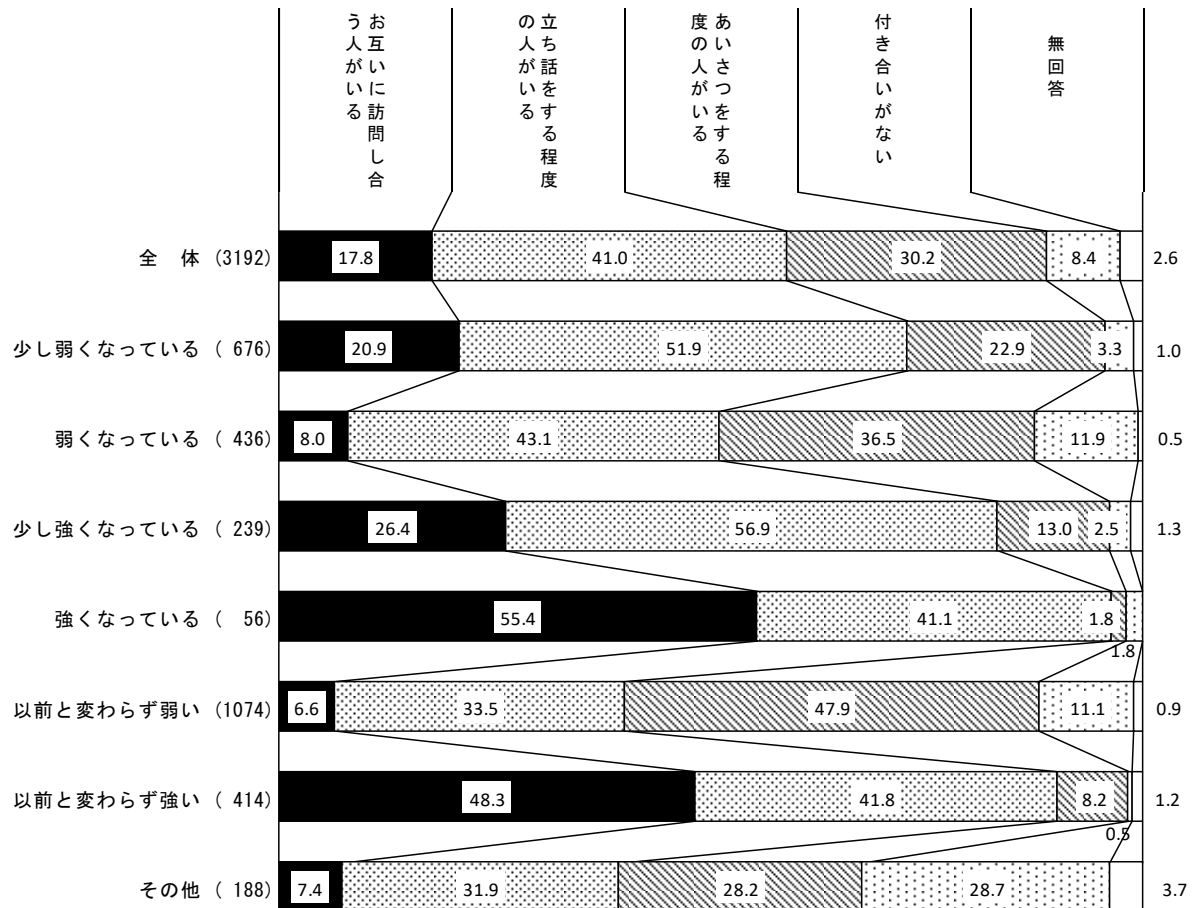
図表 8-6-1 近所との付き合いの程度（外出頻度別）



ウ 近所との付き合いの程度（地域とのつながり別）

近所との付き合いの程度について、地域とのつながり別でみると、「お互いに訪問し合う人がいる」は地域とのつながりが「強くなっている」が55.4%、「以前と変わらず強い」が48.3%で高くなっている。（図表 8-6-2）

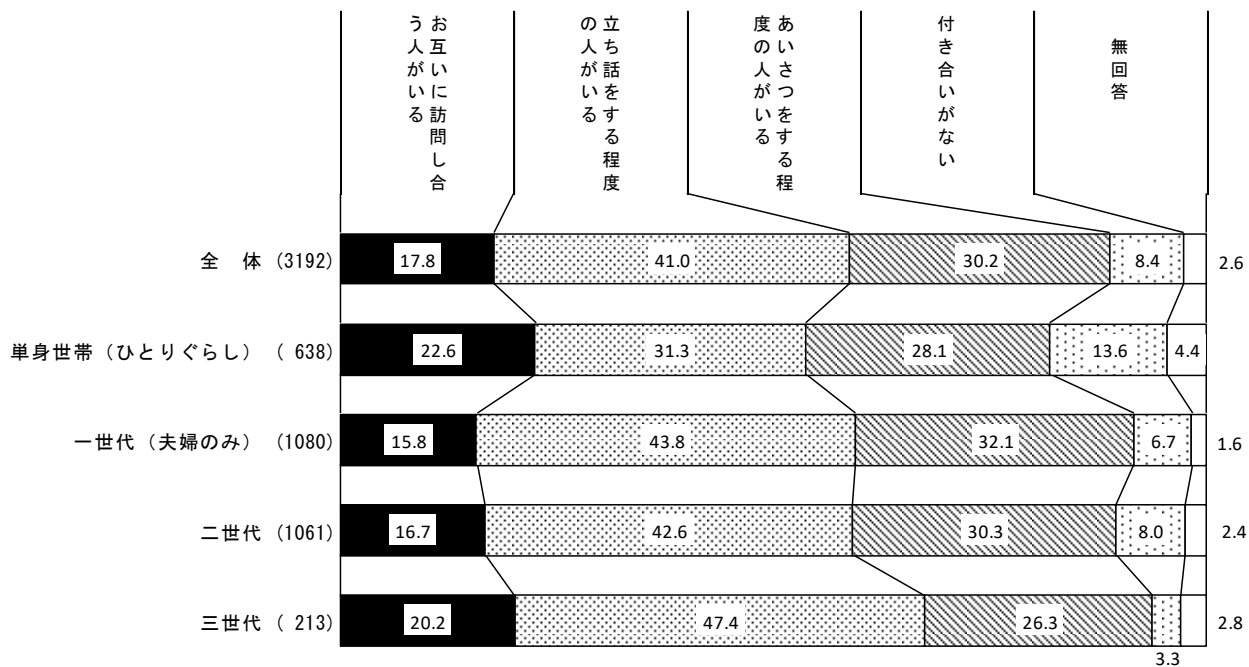
図表 8-6-2 近所との付き合いの程度（地域とのつながり別）



エ 近所との付き合いの程度（世帯構成（世代）別）

近所との付き合いの程度について、世帯構成（世代）別でみると、いずれの世帯構成でも「立ち話をする程度の人がある」が最も高くなっている。（図表 8-6-3）

図表 8-6-3 近所との付き合いの程度（世帯構成（世代）別）



(7) 地域とのつながりの変化 (問 34)

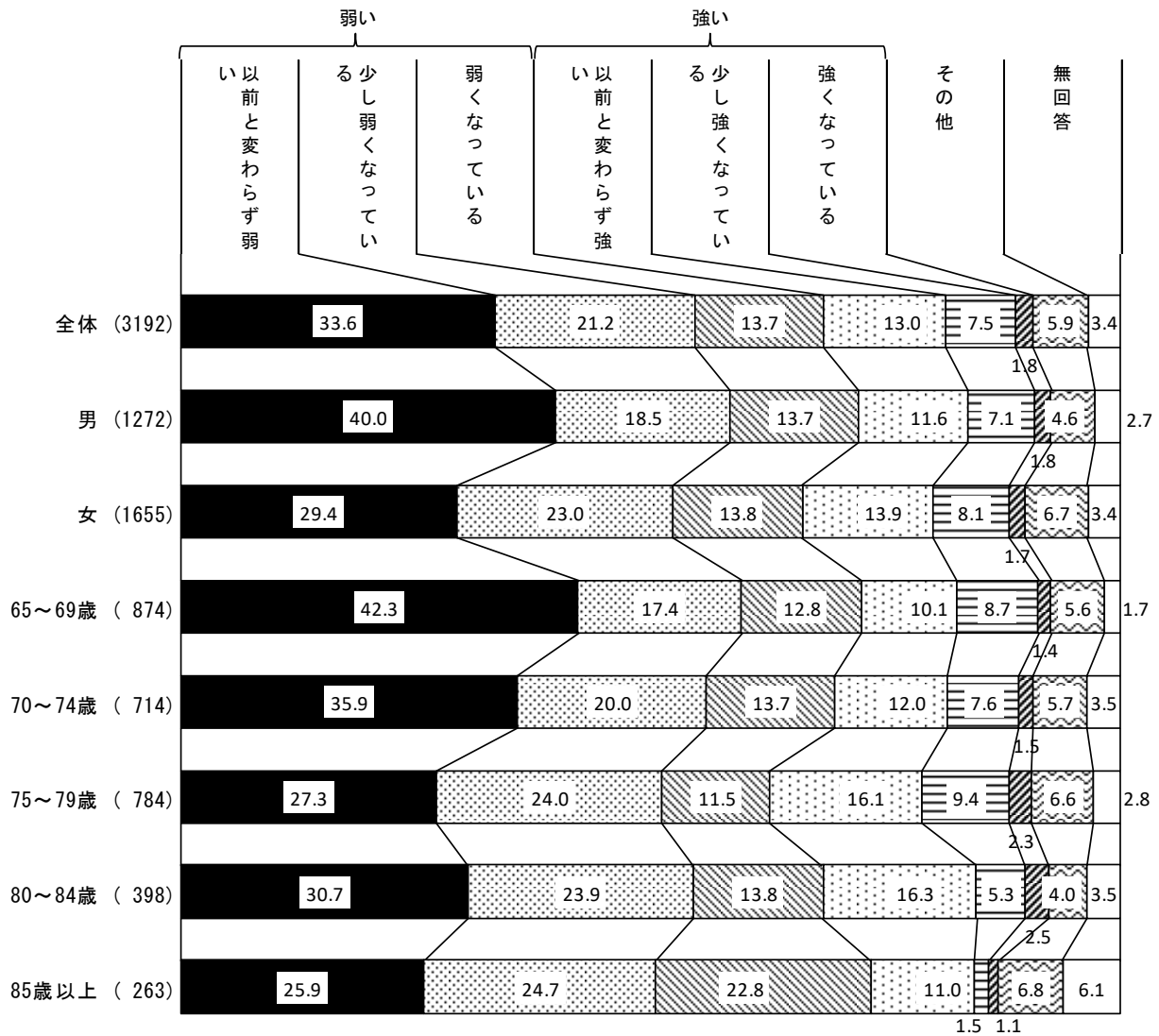
ア 地域とのつながりの変化 (性別、年齢階級別)

対象者全員に地域の人とのつながりについて、以前と比べてどのように感じるか聞いたところ、「以前と変わらず弱い」が33.6%で最も高く、次いで「少し弱くなっている」が21.2%、「弱くなっている」が13.7%と続き、これらを合わせた『弱い』の割合は68.5%となっている。「以前と変わらず強い」と「少し強くなっている」と「強くなっている」を合わせた『強い』は22.3%となっている。

地域とのつながりの変化について、性別にみると、「以前と変わらず弱い」は女性が29.4%、男性が40.0%で男性の方が10.6ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、『弱い』は85歳以上が73.4%で、『強い』は75～79歳が27.8%で、それぞれ最も高くなっている。(図表8-7)

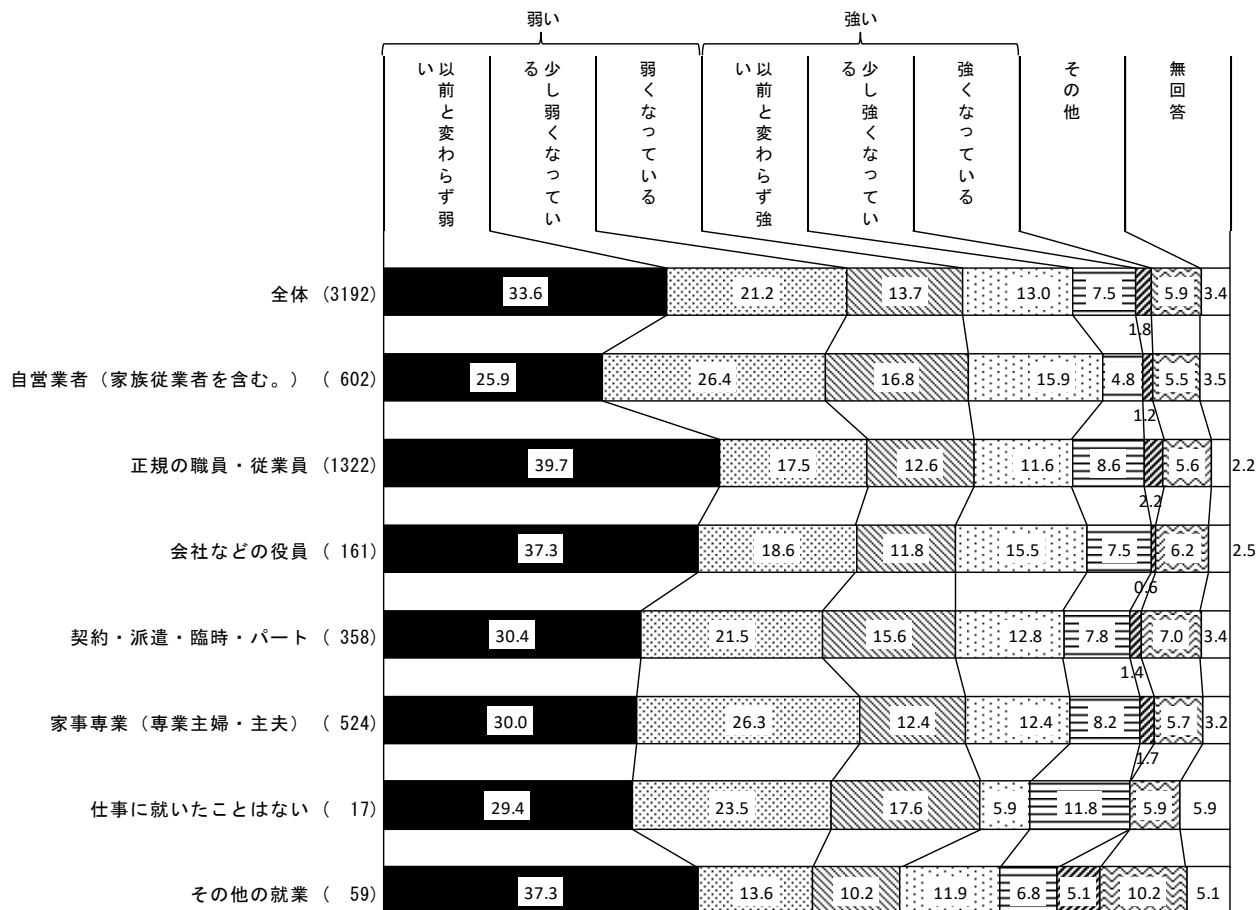
図表 8-7 地域とのつながりの変化 (性別、年齢階級別)



イ 地域とのつながりの変化（最長職業別）

地域とのつながりの変化について、最長職業別にみると、「少し弱くなっている」は自営業者が26.4%、家事専業が26.3%で高くなっている。また、『弱い』は正規の職員・従業員が69.8%で、『強い』は会社などの役員が23.6%で、それぞれ比較的高くなっている。（図表8-7-1）

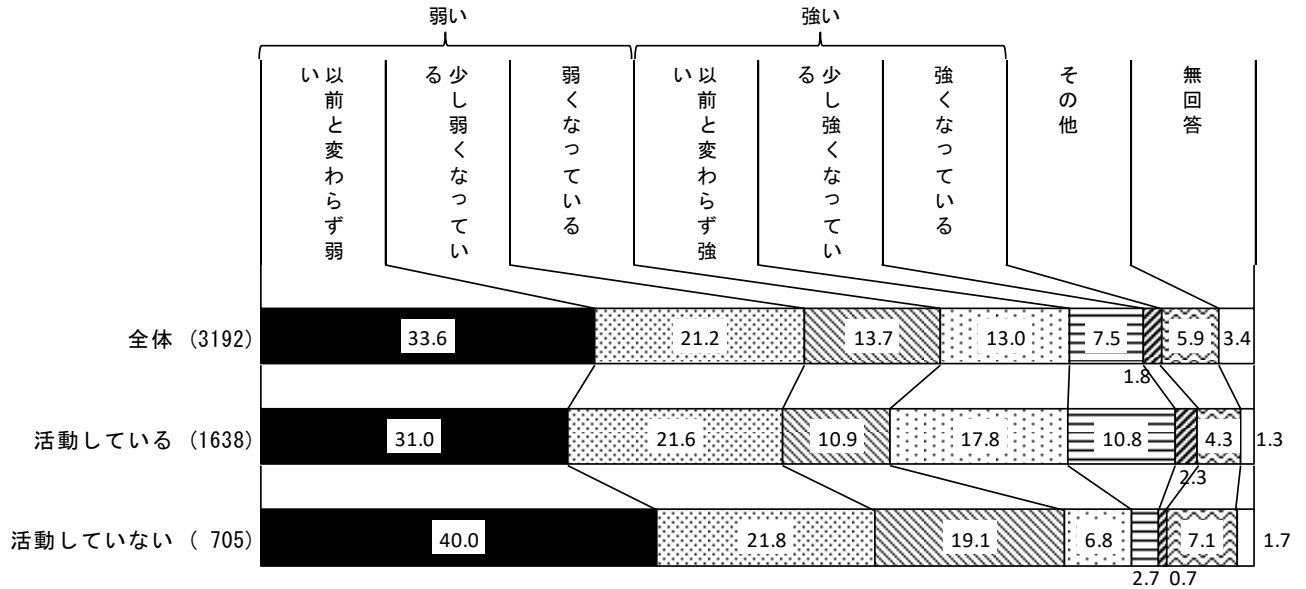
図表 8-7-1 地域とのつながりの変化（最長職業別）



ウ 地域とのつながりの変化（活動の状況別）

地域とのつながりの変化について、活動の状況別にみると、『弱い』割合は「活動していない」(80.9%)が「活動している」(63.5%)を17.4ポイント上まわった。（図表 8-7-2）

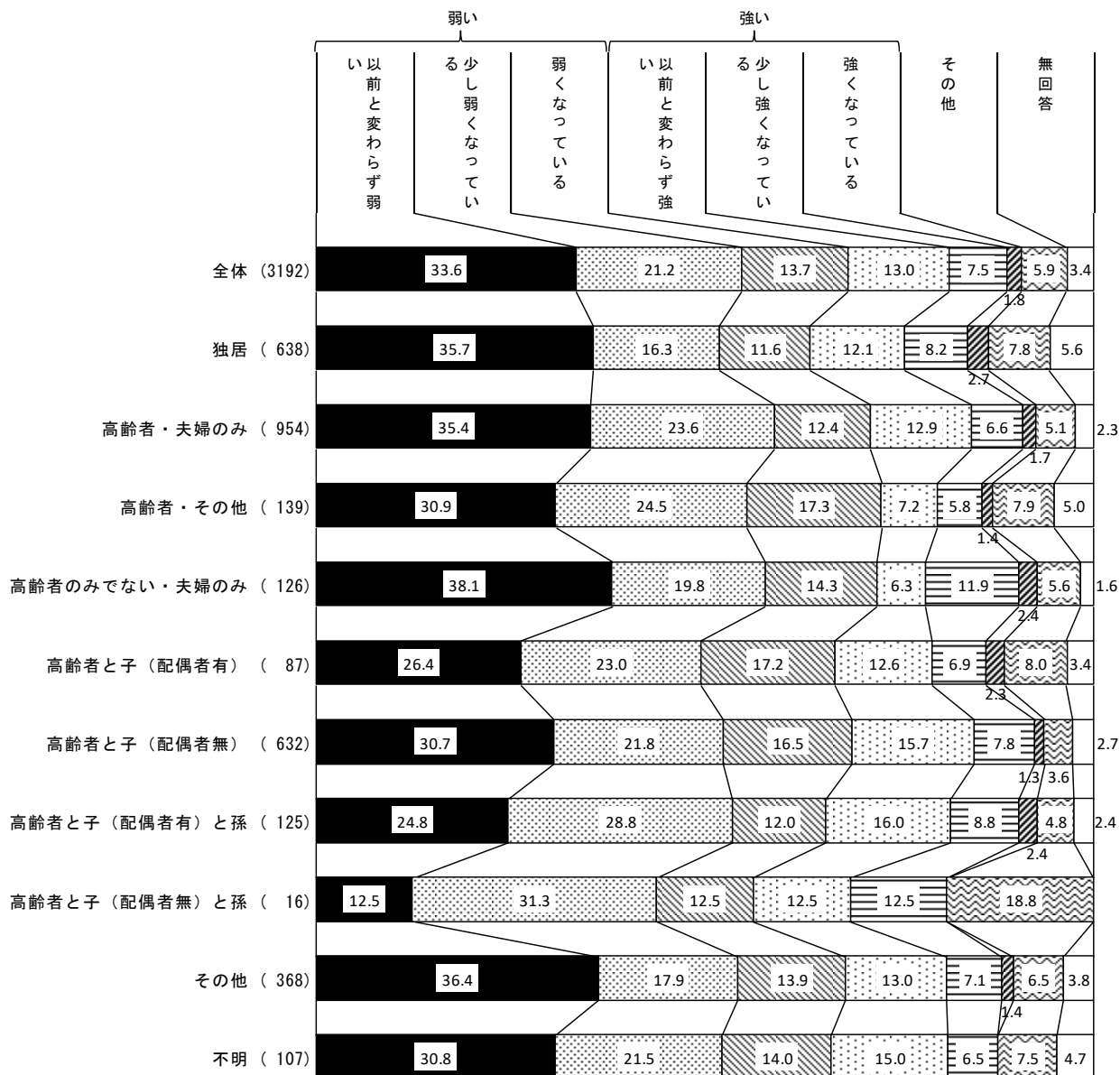
図表 8-7-2 地域とのつながりの変化（活動の状況別）



エ 地域とのつながりの変化（世帯類型別）

地域とのつながりの変化について、世帯類型別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、「以前と変わらず弱い」は「高齢者と子（配偶者有）と孫」が24.8%で低くなっている。また、『弱い』は「高齢者・その他」が72.7%で、『強い』は「高齢者と子（配偶者有）と孫」が27.2%で、それぞれ最も高くなっている。（図表 8-7-3）

図表 8-7-3 地域とのつながりの変化（世帯類型別）



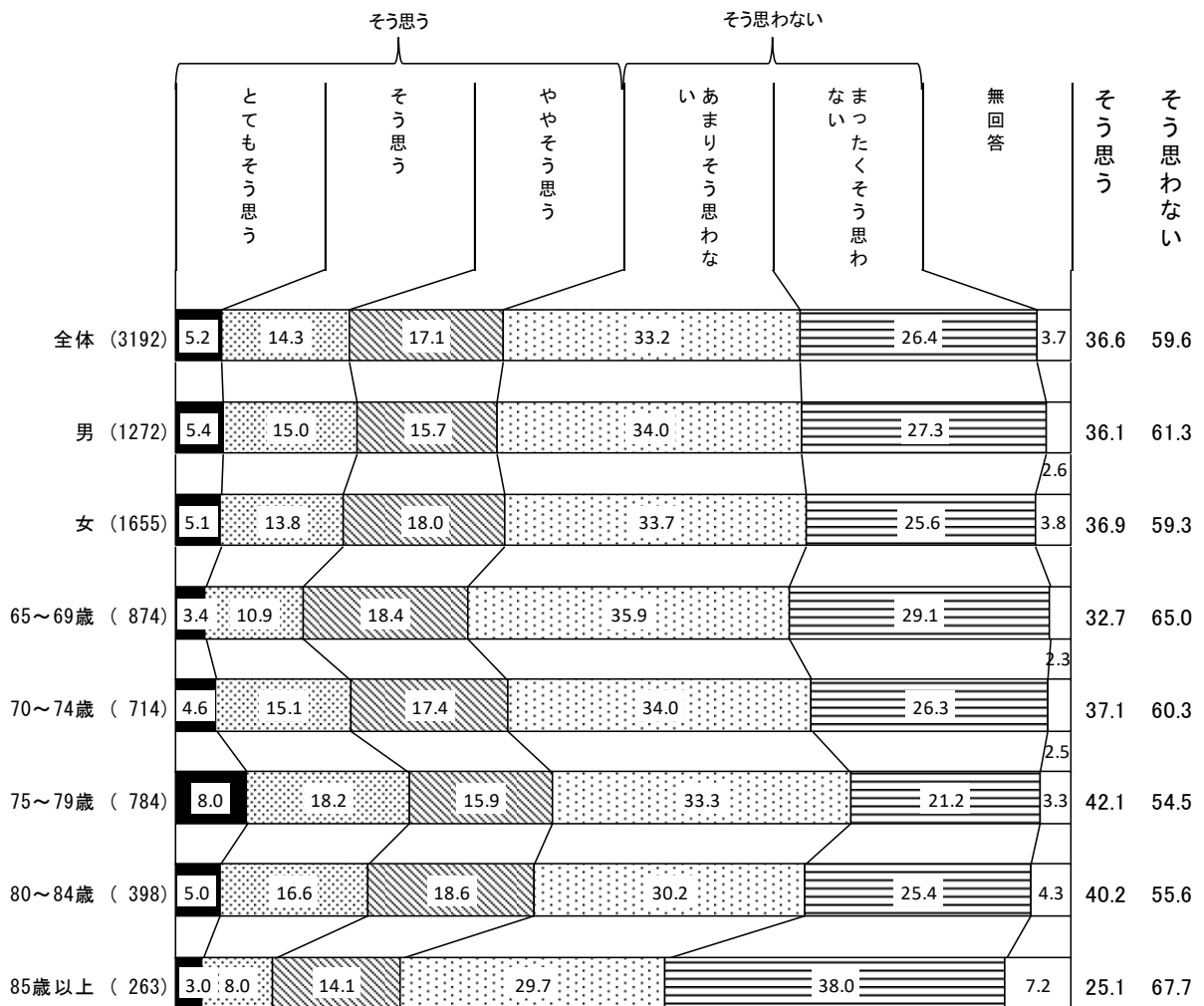
(8) 役割の期待 (問 35)

ア 役割の期待 (性別、年齢階級別)

対象者全員に地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされたりしていると思うか (役割の期待) 聞いたところ、「あまりそう思わない」が 33.2% で最も高く、次いで「まったくそう思わない」が 26.4%、「ややそう思う」が 17.1% となっている。また、「とてもそう思う」と「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は 36.6%、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』は 59.6% となっている

年齢階級別にみると、「まったくそう思わない」は 85 歳以上が 38.0%、『そう思わない』でも 85 歳以上が 67.7% と高くなっている。(図表 8-8)

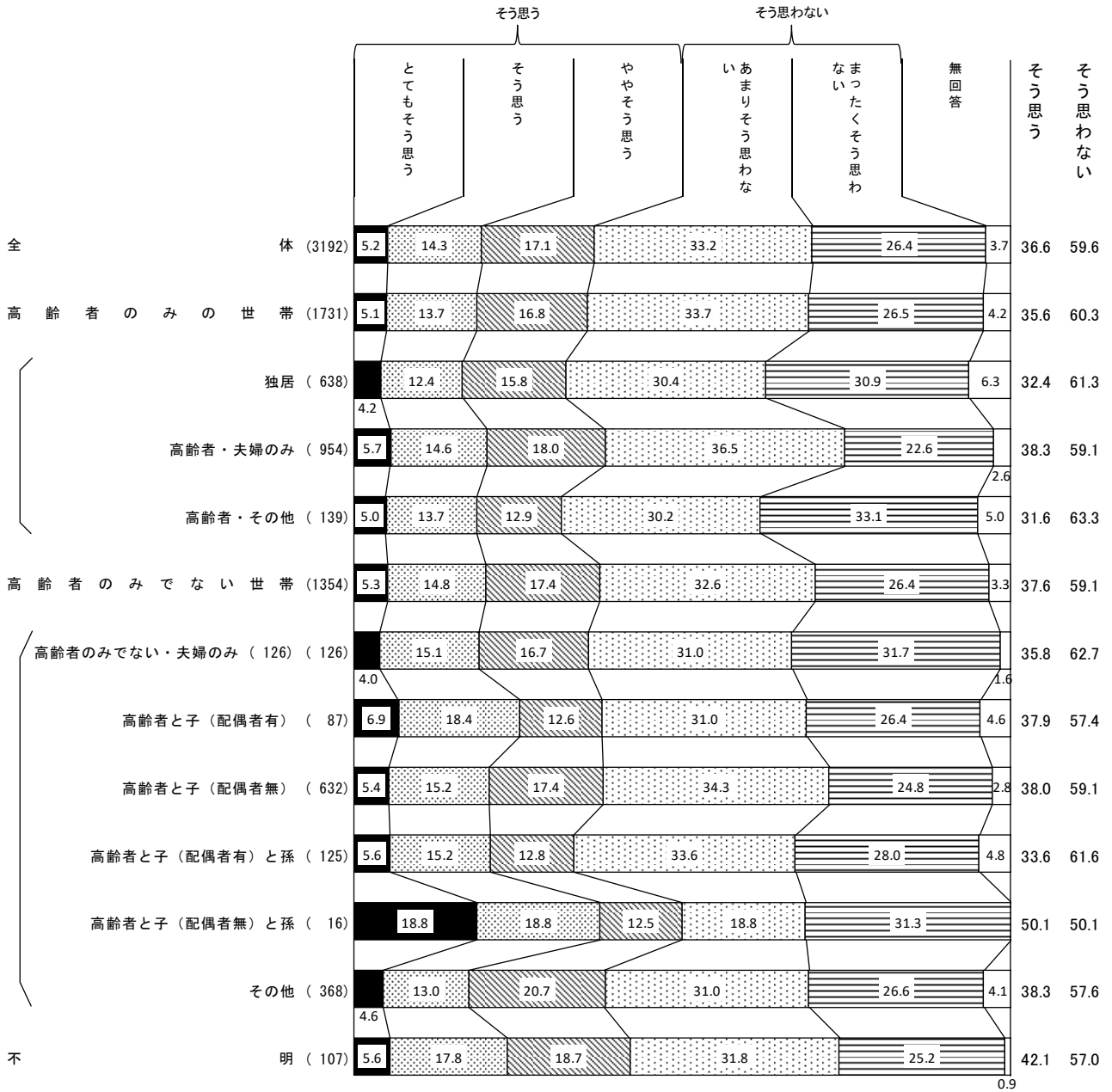
図表 8-8 役割の期待 (性別、年齢階級別)



イ 役割の期待（世帯類型別）

役割の期待について、世帯類型別にみると、すべての世帯類型で「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない』が5割以上となっている。（図表 8-8-1）

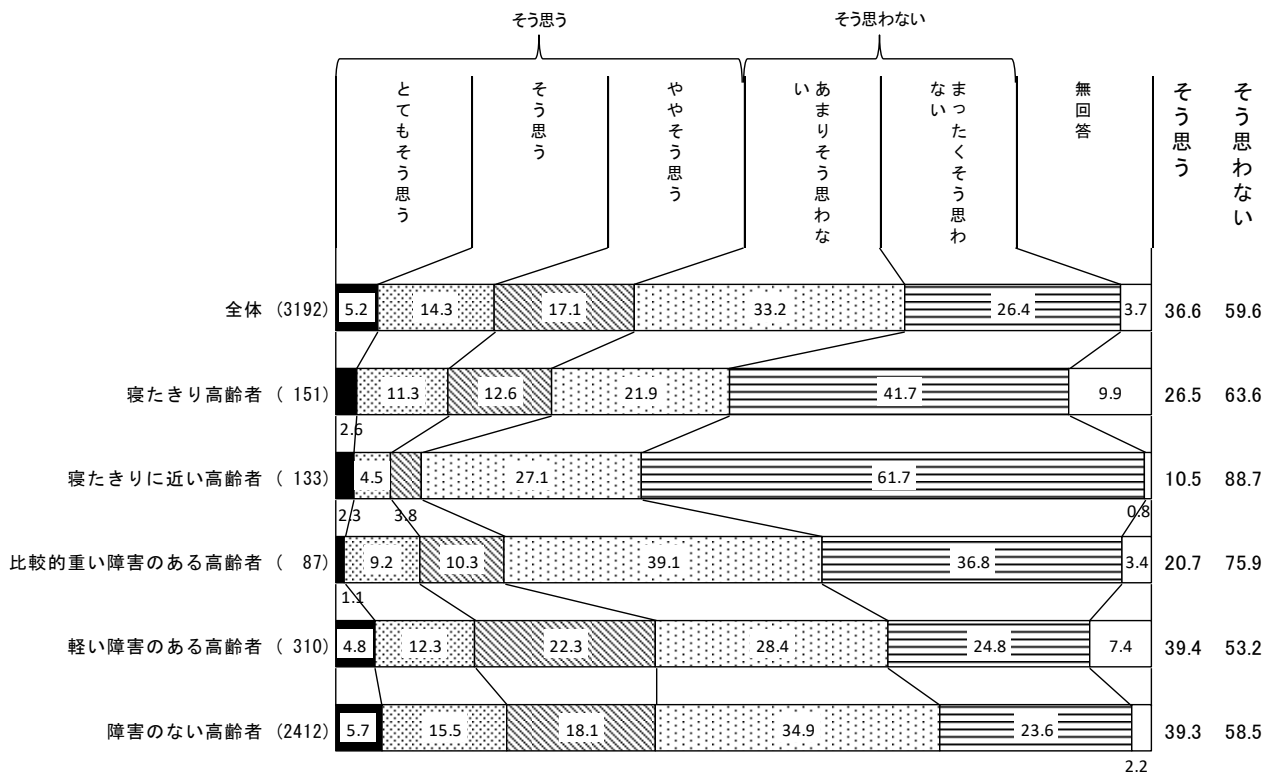
図表 8-8-1 役割の期待（世帯類型別）



ウ 役割の期待（動作能力類型別）

役割の期待について、動作能力類型別にみると、「まったくそう思わない」は「寝たきりに近い高齢者」が61.7%と高くなっている。『そう思う』は「軽い障害のある高齢者」が39.4%で、『そう思わない』は「寝たきりに近い高齢者」が88.7%でそれぞれ最も高くなっている。（図表8-8-2）

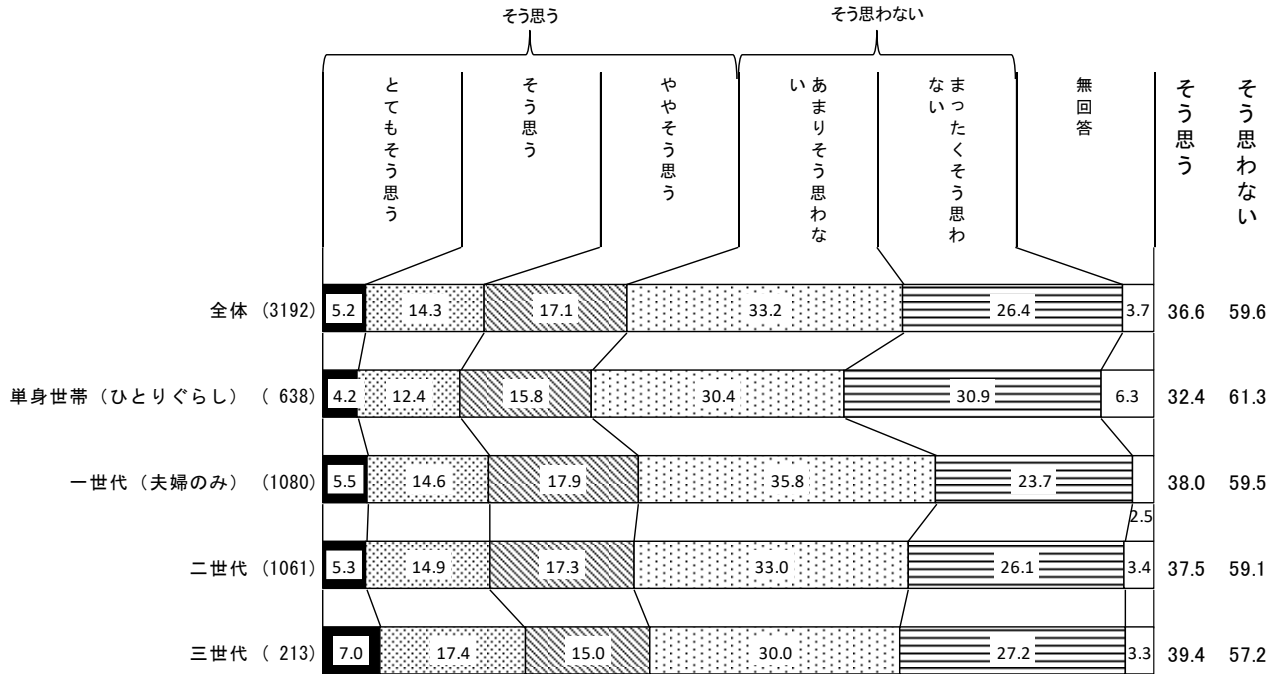
図表 8-8-2 役割の期待（動作能力類型別）



エ 役割の期待（世帯構成（世代）別）

役割の期待について、世帯構成（世代）別にみると、すべての世帯構成で『そう思わない』が5割以上となっている。（図表 8-8-3）

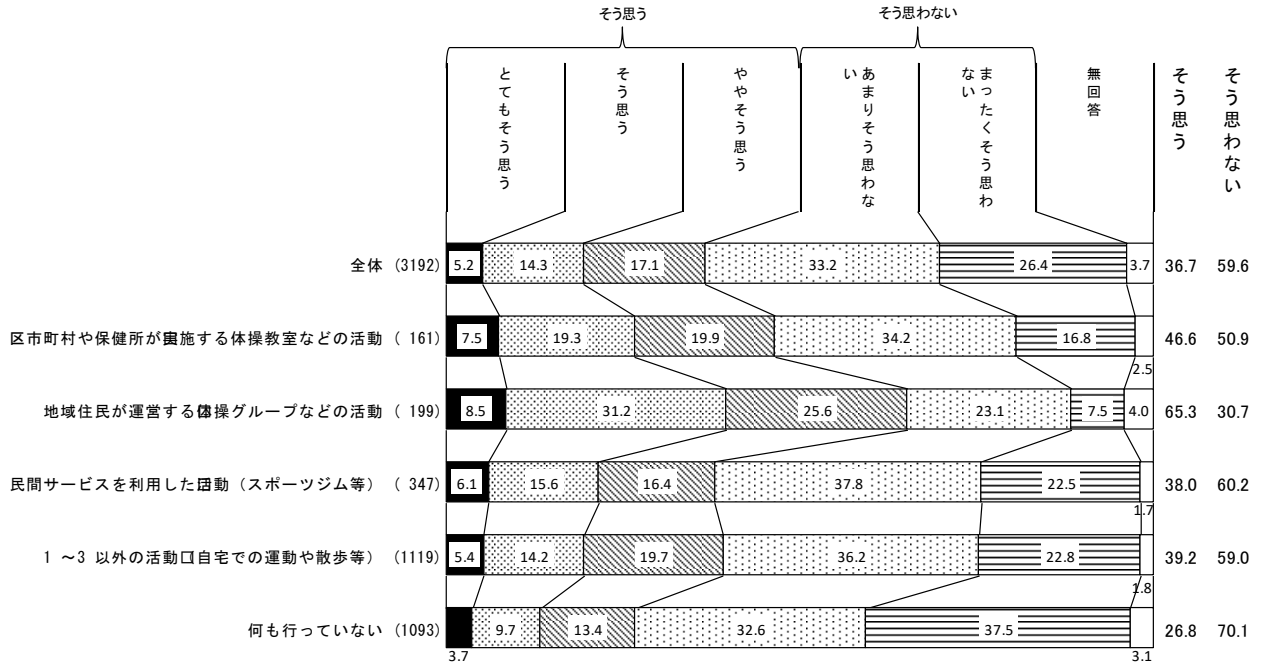
図表 8-8-3 役割の期待（世帯構成（世代）別）



オ 役割の期待（介護予防の活動内容別）

役割の期待について、介護予防の活動内容別にみると、『そう思う』は「地域住民が運営する体操グループなどの活動」が65.3%で最も高く、『そう思わない』は「何も行ってない」が70.1%で最も高くなっている。（図表 8-8-4）

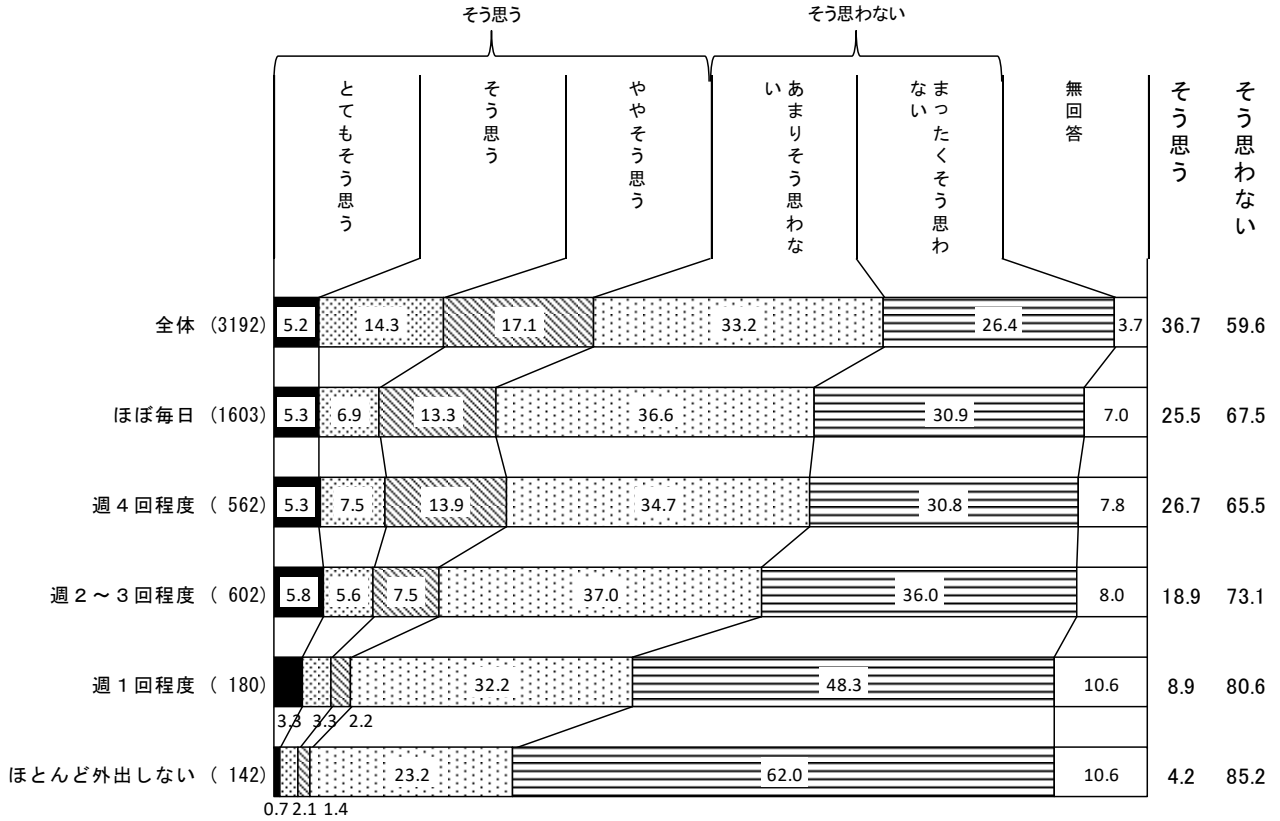
図表 8-8-4 役割の期待（介護予防の活動内容別）



カ 役割の期待（外出頻度別）

役割の期待について、外出頻度別にみると、外出頻度が高くなるにつれ『そう思う』の割合が低く、『そう思わない』の割合が高くなる傾向が見られる。（図表 8-8-5）

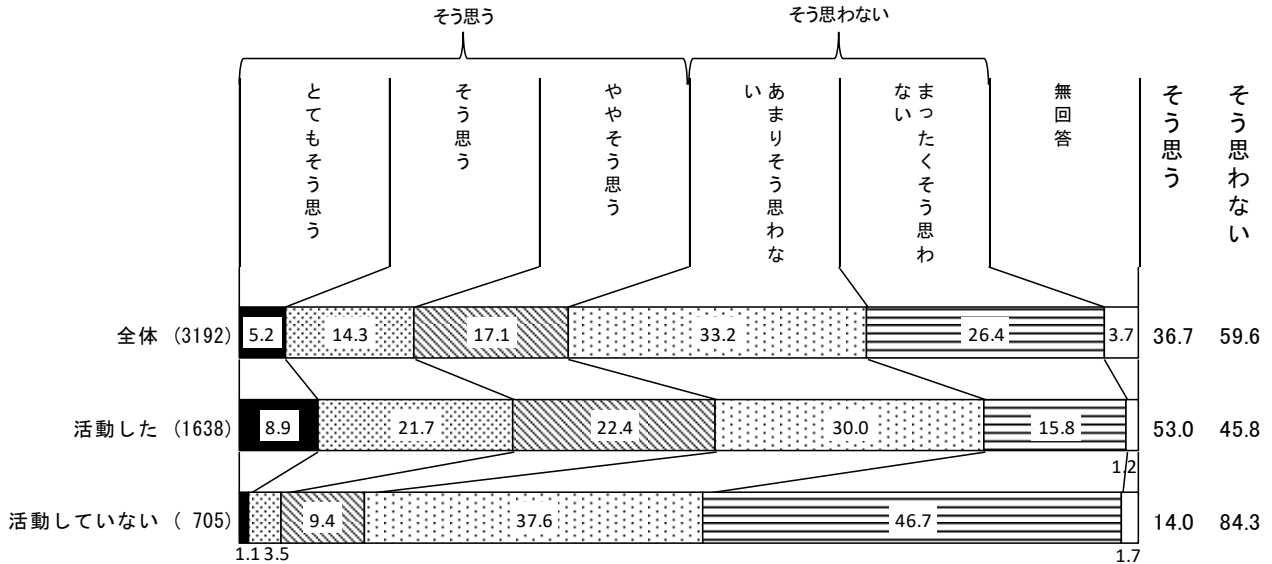
図表 8-8-5 役割の期待（外出頻度別）



キ 役割の期待（社会参加活動別）

役割の期待について、社会参加活動別にみると、『そう思う』は「活動した」が53.0%、「活動していない」が14.0%となっている。（図表 8-8-6）

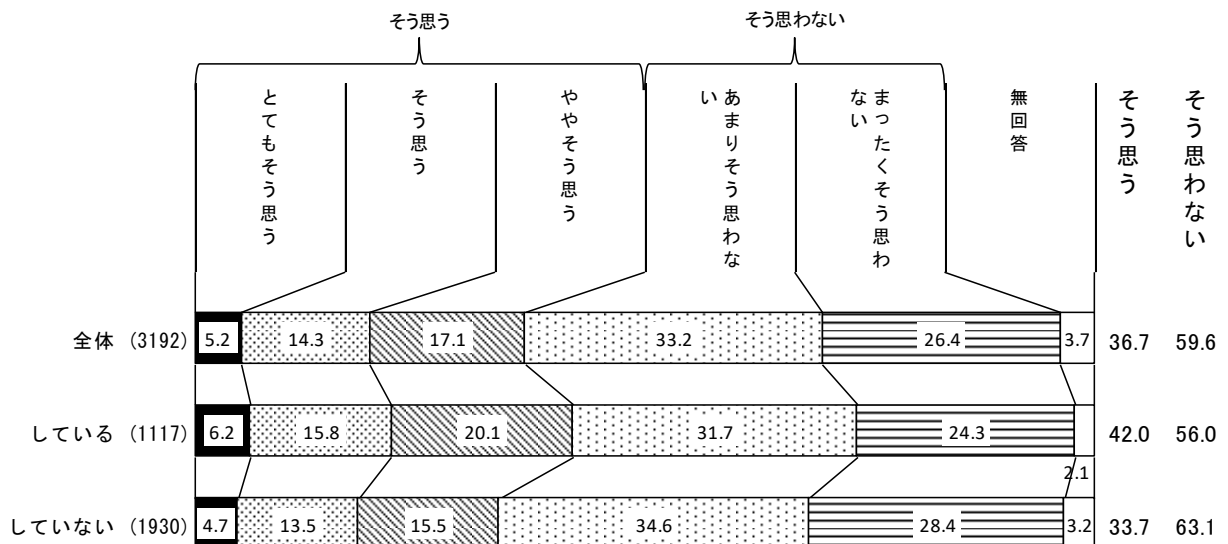
図表 8-8-6 役割の期待（社会参加活動別）



ク 役割の期待（収入のある仕事の有無別）

役割の期待について、収入のある仕事の有無別にみると、『そう思う』は収入のある仕事を「している」が42.0%、「収入のある仕事を「していない」が33.7%となっている。（図表 8-8-7）

図表 8-8-7 役割の期待（収入のある仕事の有無別）



第9章 生きがい

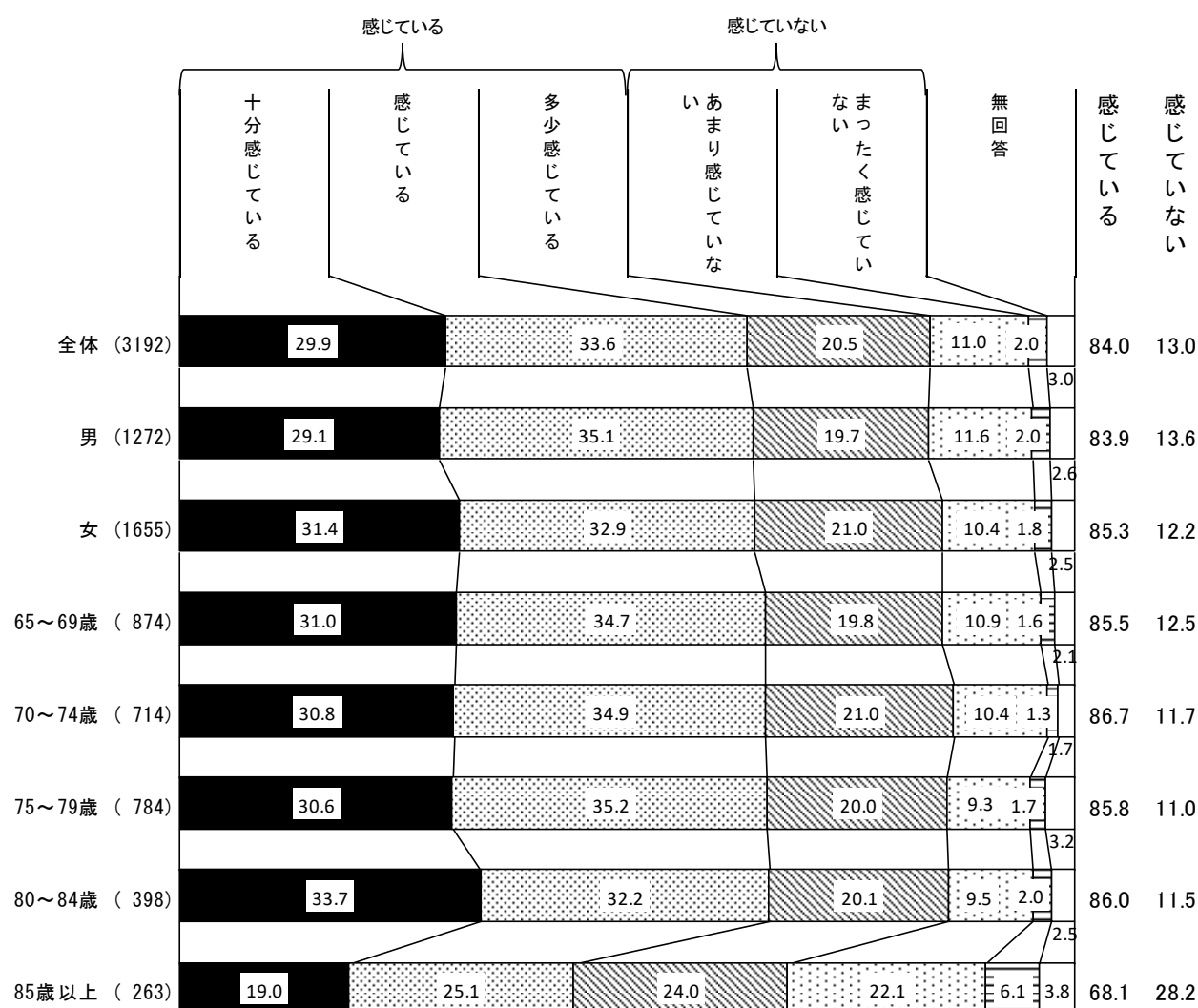
(1) 生きがいの程度 (問 36)

ア 生きがいの程度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に生きがいの程度について聞いたところ、「感じている」が33.6%で最も高く、次いで「十分感じている」が29.9%、「多少感じている」が20.5%となっており、これらを合わせた『感じている』の割合は84.0%に、「あまり感じていない」と「まったく感じていない」を合わせた『感じていない』の割合は13.0%になっている。

年齢階級別にみると、85歳以上のみ「十分感じている」「感じている」「多少感じている」を合わせた『感じている』の割合が68.1%と8割を下回っている。(図表9-1)

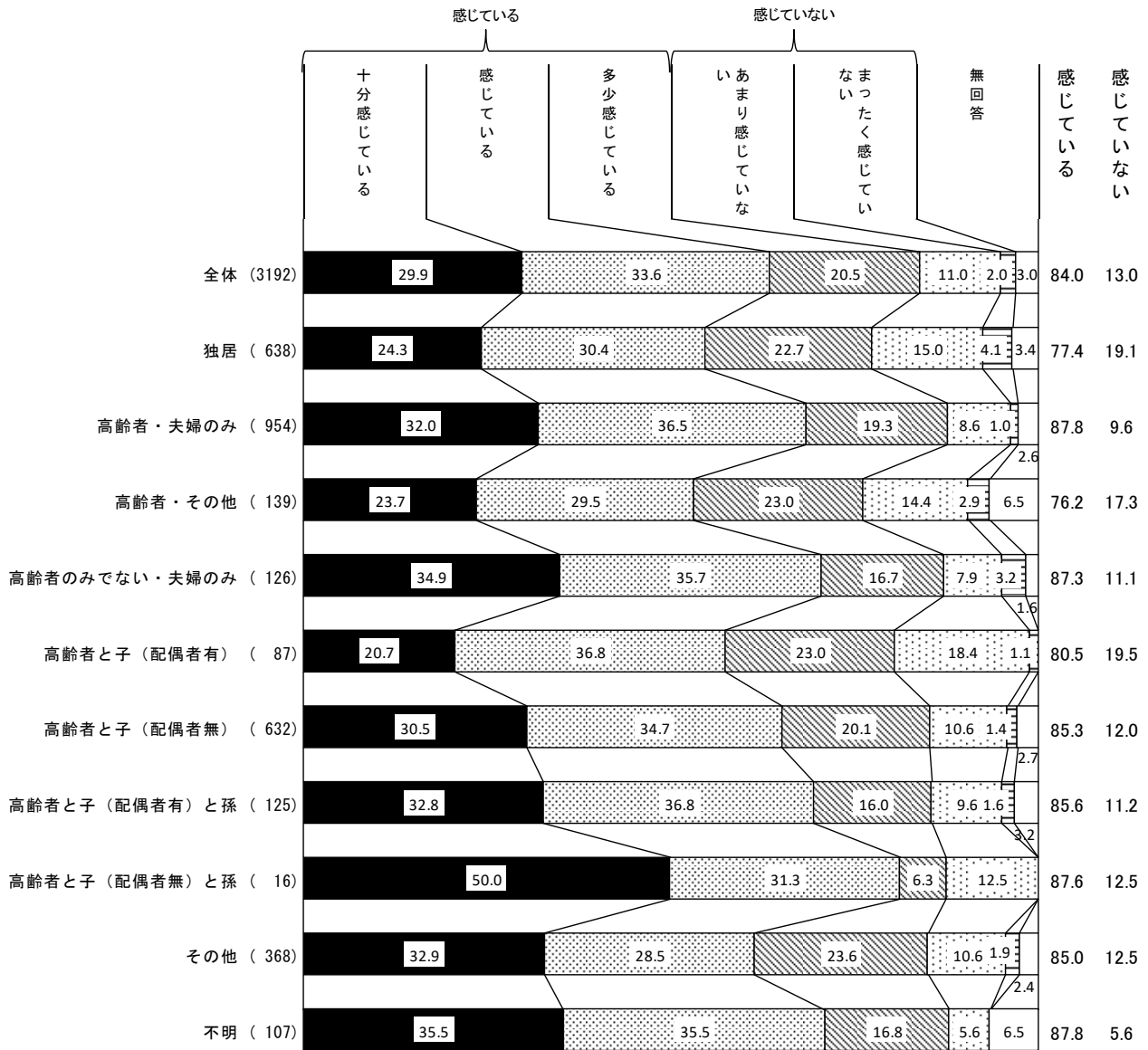
図表 9-1 生きがいの程度 (性別、年齢階級別)



イ 生きがいの程度（世帯類型別）

生きがいの程度について、世帯類型別にみると、『感じている』は「独居」（77.4%）と「高齢者・その他」（76.2%）のみ8割以下となっている。『感じていない』は「高齢者と子(配偶者有)」が19.5%で最も高くなっている。（図表 9-1-1）

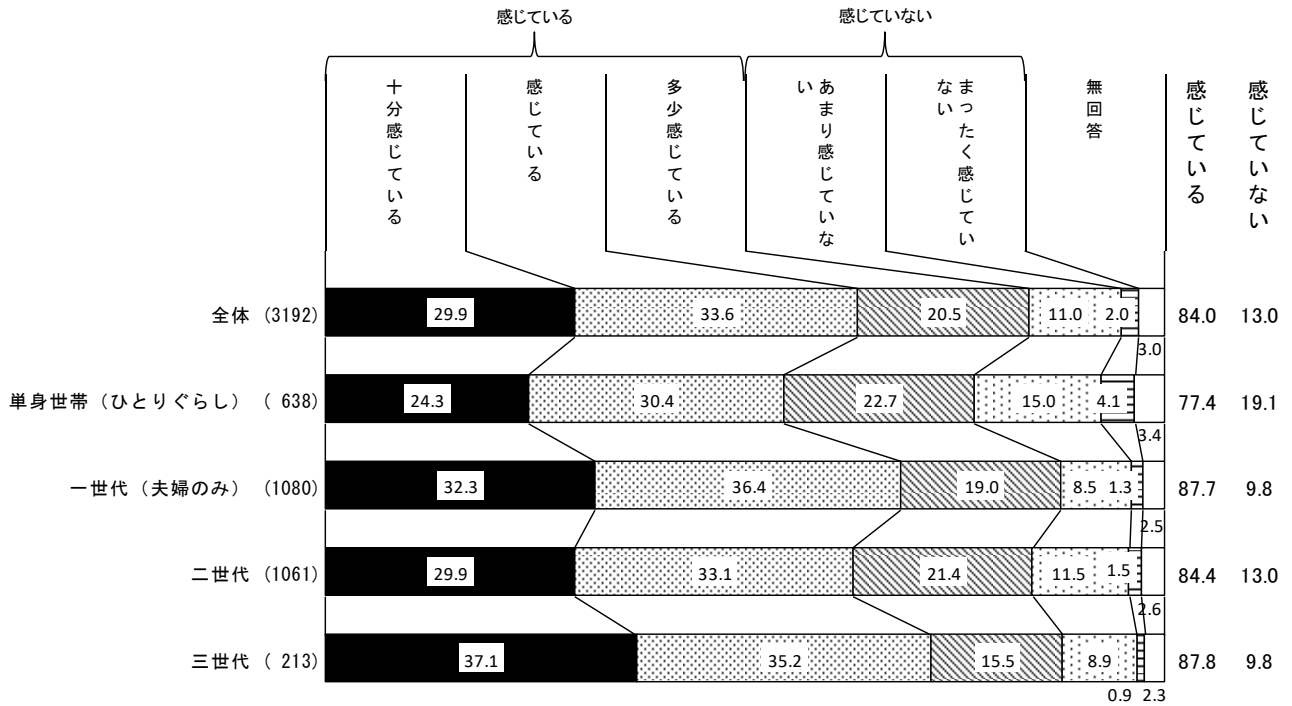
図表 9-1-1 生きがいの程度（世帯類型別）



ウ 生きがいの程度（世帯構成（世代）別）

生きがいの程度について、世帯構成（世代）別にみると、『感じている』は「一世代（夫婦のみ）」（87.7%）と「三世代」（87.8%）が高い割合になっている。『感じていない』は「単身世帯（ひとりぐらし）」が19.1%で最も高くなっている。（図表 9-1-2）

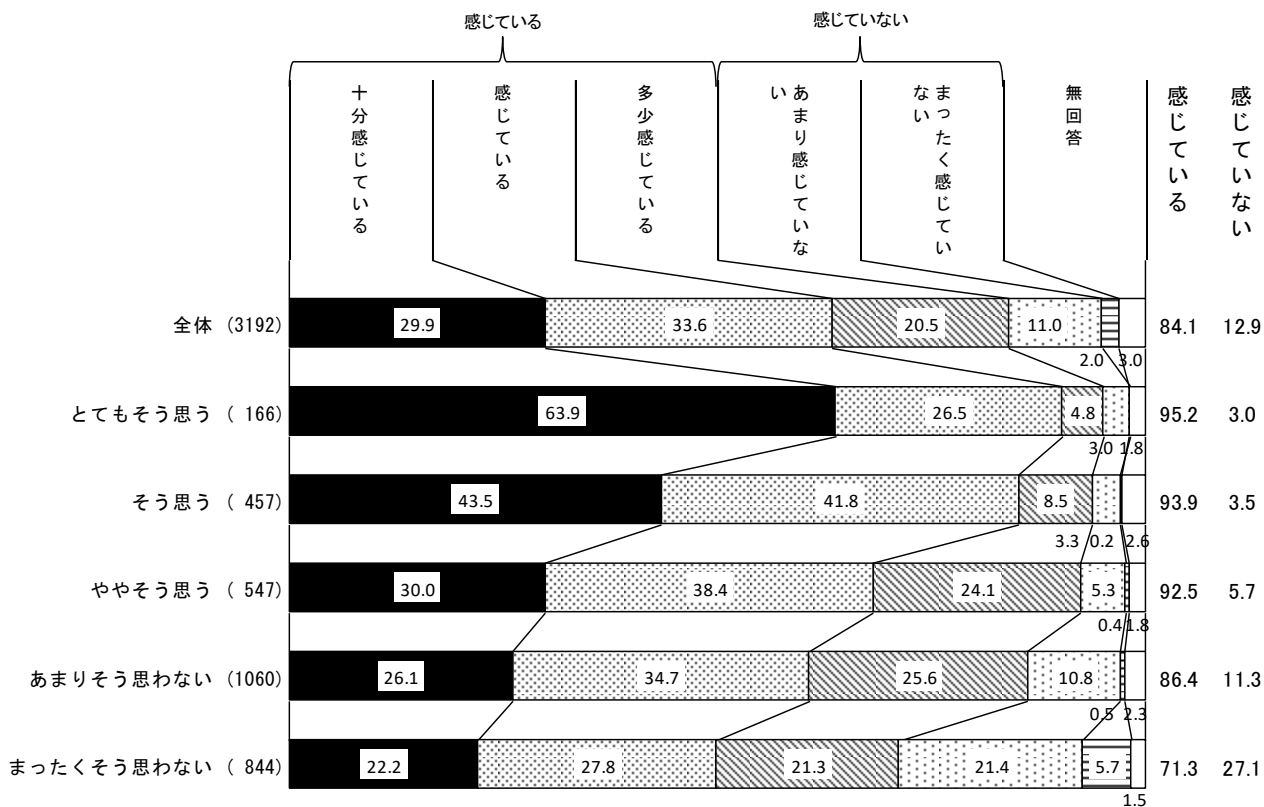
図表 9-1-2 生きがいの程度（世帯構成（世代）別）



エ 生きがいの程度（役割期待別）

生きがいの程度について、役割期待別にみると、『感じている』は「とてもそう思う」が95.2%で、『感じていない』は「まったくそう思わない」が27.1%でそれぞれ最も高くなっている。総じて生きがいの程度は役割期待度と比例する傾向がみられる。（図表 9-1-3）

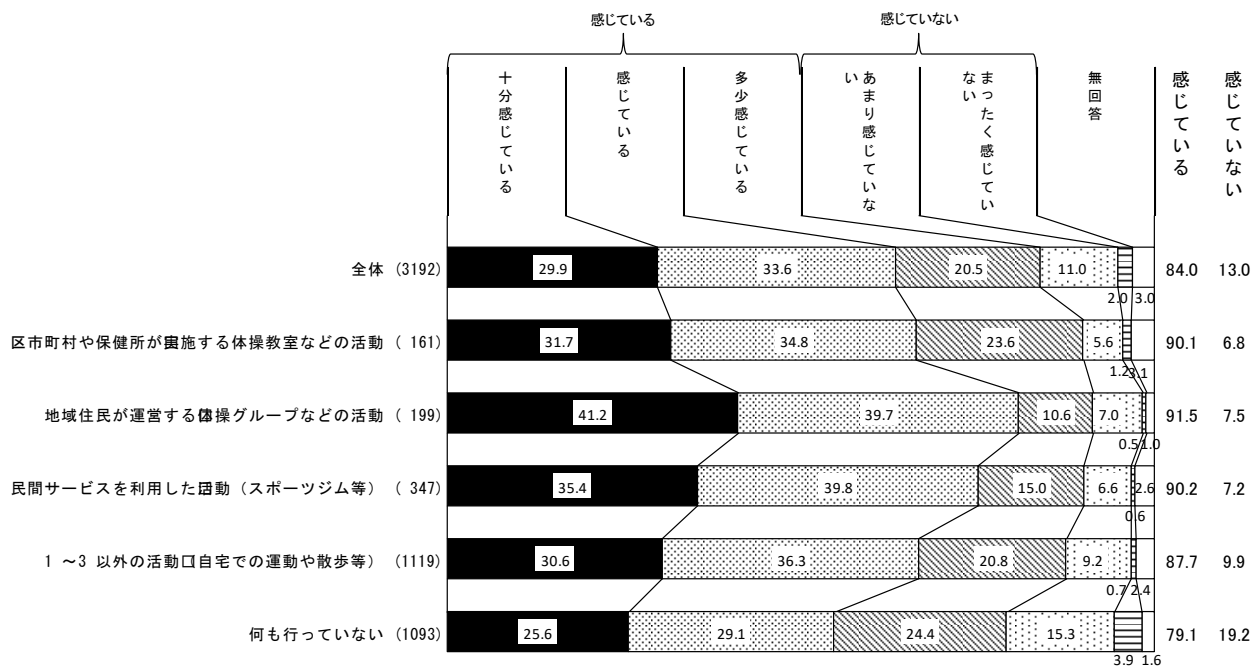
図表 9-1-3 生きがいの程度（役割期待別）



オ 生きがいの程度（介護予防の活動内容別）

生きがいの程度について、介護予防の活動内容別にみると、『感じている』は介護予防の活動を「何も行っていない」で79.1%とやや低くなっている。（図表 9-1-3）

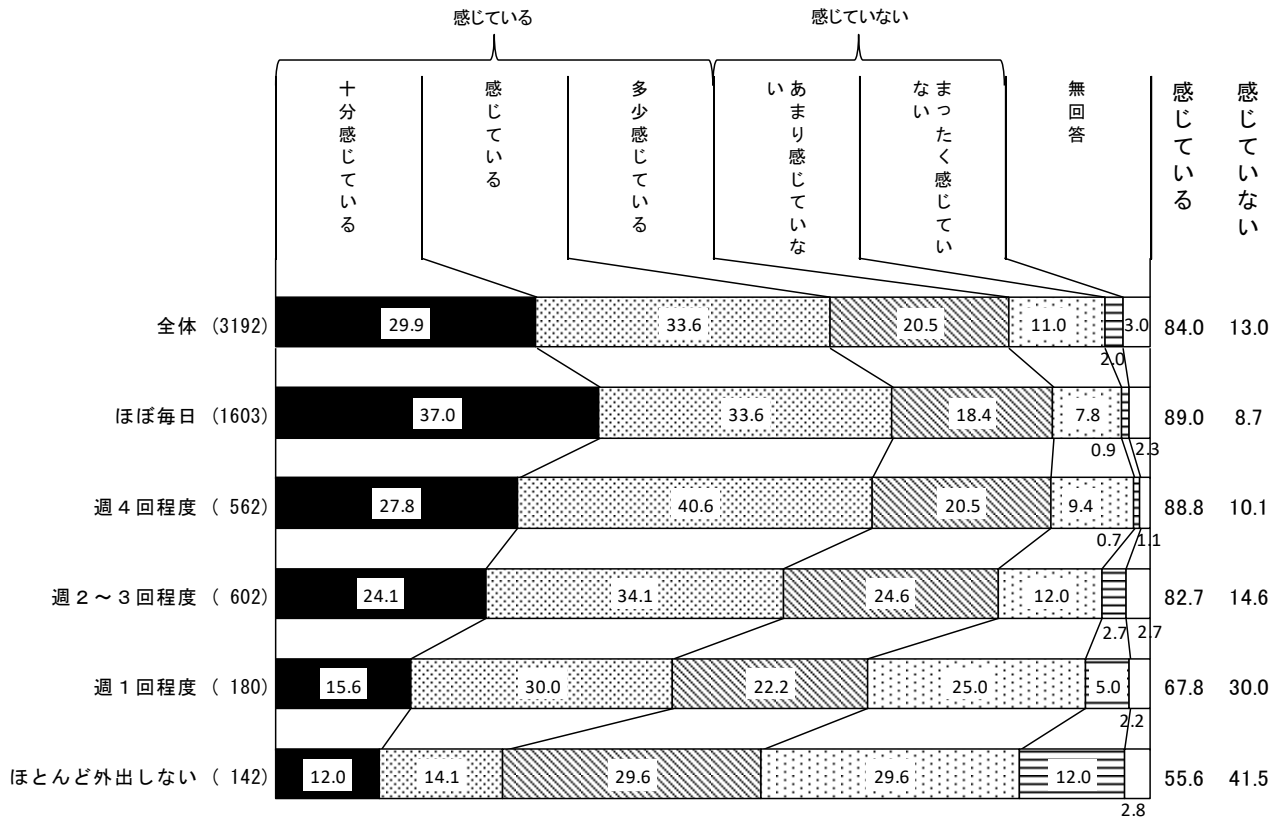
図表 9-1-3 生きがいの程度（介護予防の活動内容別）



カ 生きがいの程度（外出頻度別）

生きがいの程度について、外出頻度別にみると、『感じている』は外出頻度が高くなるにつれて割合が高くなる傾向がみられる。（図表 9-1-3）

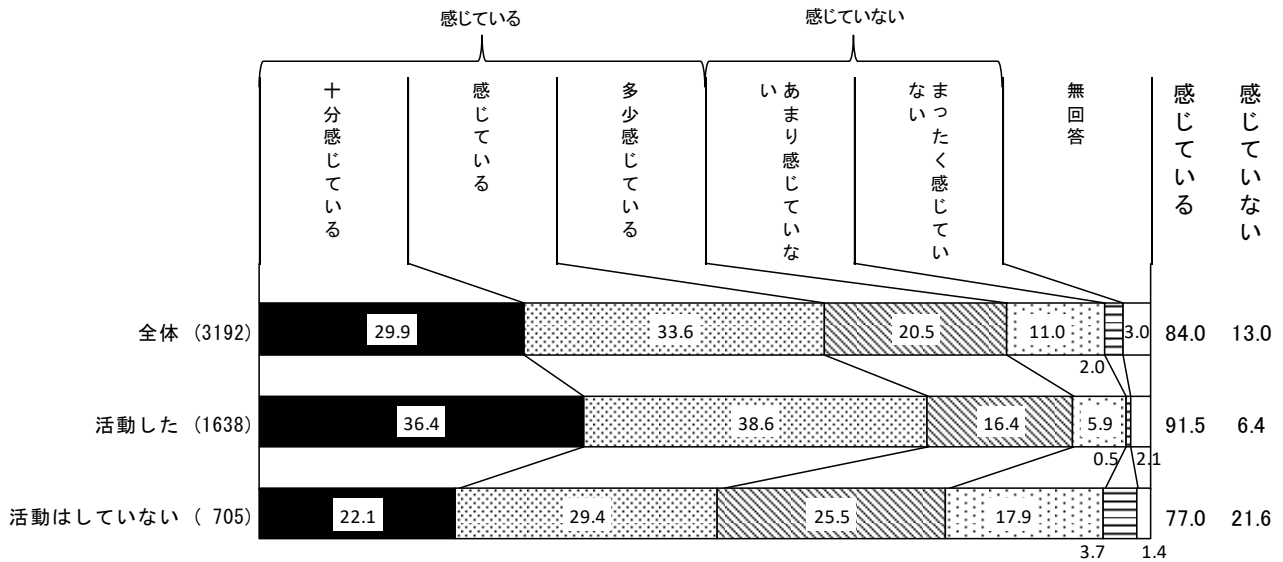
図表 9-1-3 生きがいの程度（外出頻度別）



キ 生きがいの程度（社会参加活動別）

生きがいの程度について、社会参加活動別にみると、『感じている』は「活動した」が91.5%、「活動はしていない」が77.0%となっている。（図表9-1-3）

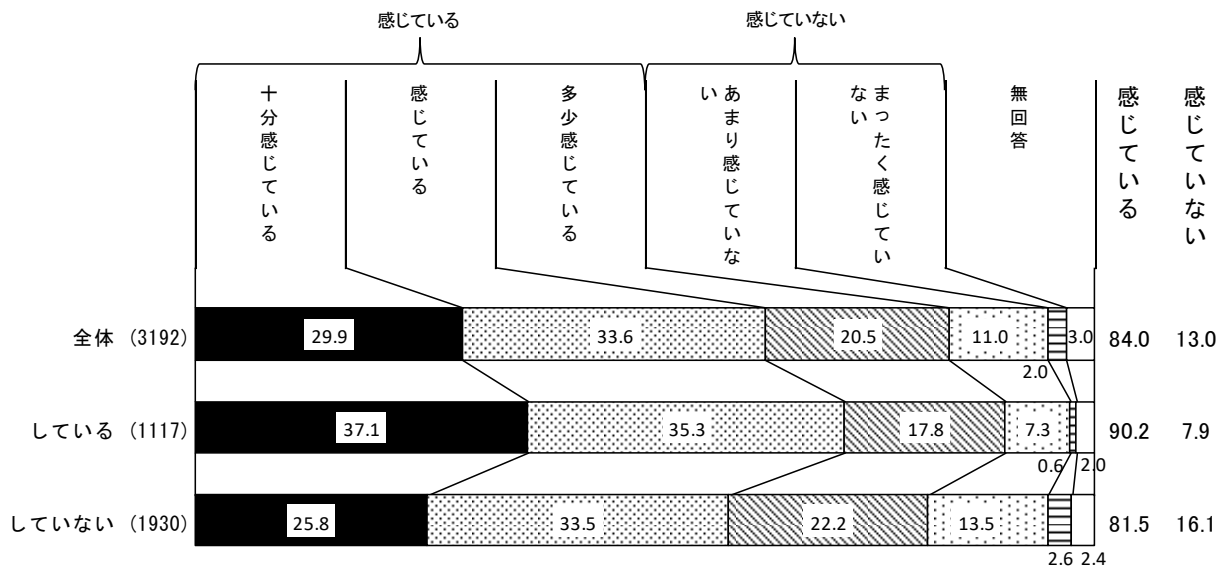
図表 9-1-3 生きがいの程度（社会参加活動別）



ク 生きがいの程度（収入のある仕事の有無別）

生きがいの程度について収入のある仕事の有無別にみると、『感じている』は収入のある仕事を「している」が90.2%、収入のある仕事を「していない」が81.5%となっている。（図表9-1-3）

図表 9-1-3 生きがいの程度（収入のある仕事の有無別）



(2) 生きがいを感じる時 (問 36-1)

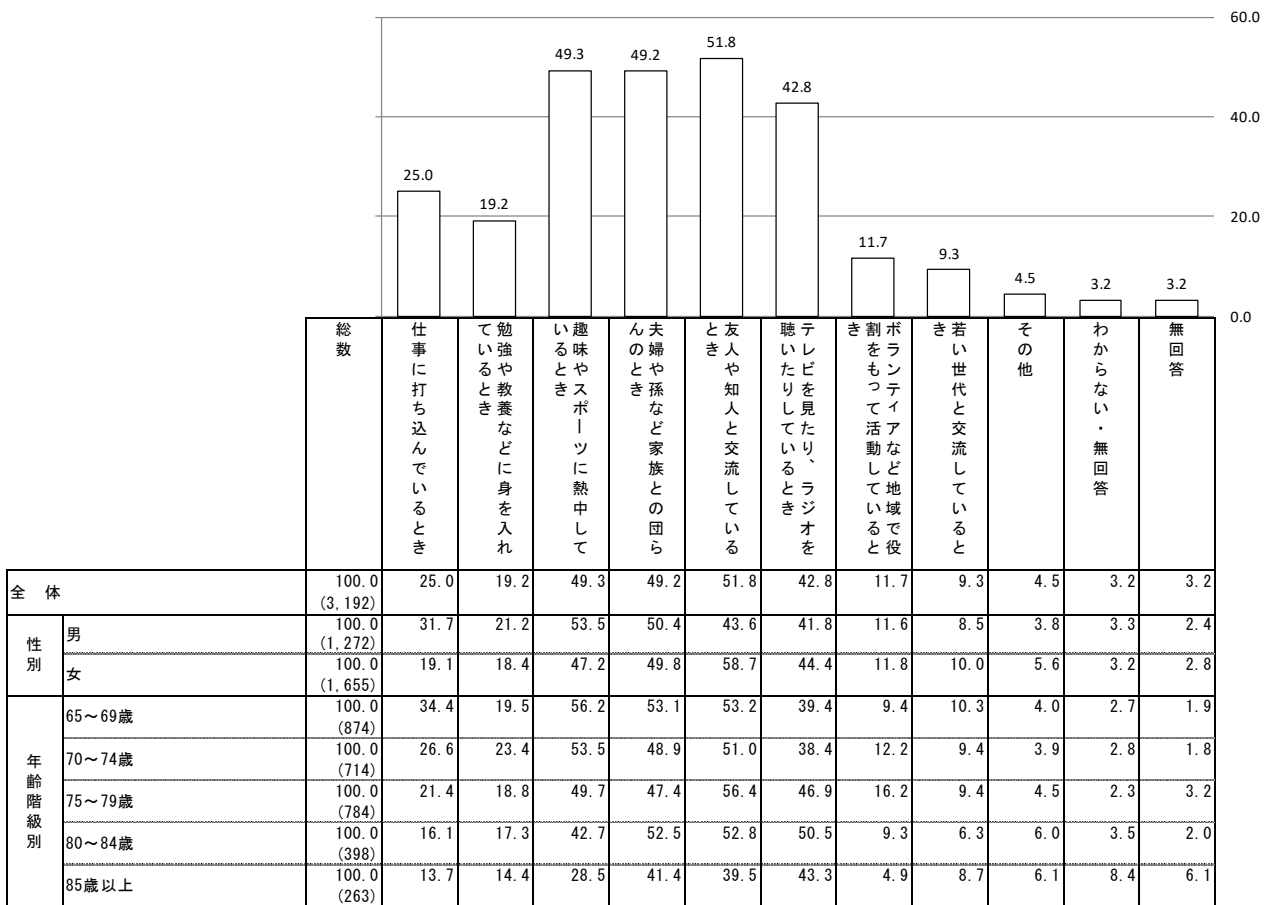
ア 生きがいを感じる時 (性別、年齢階級別)

対象者全員に生きがいを感じる時について聞いたところ、「友人や知人と交流しているとき」が51.8%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中しているとき」が49.3%、「夫婦や孫など家族との団らんのとき」が49.2%となっている。

性別にみると、「友人や知人と交流しているとき」は男性が43.6%、女性が58.7%で女性の方が15.1%上回っている。

年齢階級別にみると、「趣味やスポーツに熱中しているとき」は85歳以上が28.5%とほかの年齢階級と比べて割合が低くなっている。(図表 9-2)

図表 9-2 生きがいを感じる時 (性別、年齢階級別)



イ 生きがいを感じる時（世帯類型別、世帯構成（世代）別）

生きがいを感じる時について、世帯類型別にみると、「仕事に打ち込んでいる時」は「高齢者のみでない・夫婦のみ」が42.1%で高くなっている。

世帯構成（世代）別にみると、「夫婦や孫など家族との団らんの時」は「三世代」が67.6%と高くなっている。（図表9-2-1）

図表9-2-1 生きがいを感じる時（世帯類型別、世帯構成（世代）別）

		総数	仕事に打ち込んでいる時	勉強や教養などに身を入れる時	趣味やスポーツに熱中している時	夫婦や孫など家族との団らんの時	友人や知人と交流している時	テレビを見たり、ラジオを聴いたりしている時	割り当てられた地域で活動している時	若い世代と交流している時	その他	わからない・無回答	無回答
全 体		100.0 (3,192)	25.0	19.2	49.3	49.2	51.8	42.8	11.7	9.3	4.5	3.2	3.2
世帯類型	独居	100.0 (638)	20.5	16.6	44.8	23.0	53.1	42.6	8.5	8.0	6.7	4.4	4.1
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	23.7	21.8	54.8	64.7	55.5	44.7	13.7	7.8	3.2	2.3	3.0
	高齢者・その他	100.0 (139)	20.1	15.1	42.4	42.4	44.6	49.6	12.9	10.1	5.0	2.9	6.5
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	42.1	23.0	55.6	59.5	50.8	31.7	11.1	19.0	3.2	5.6	2.4
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (87)	21.8	11.5	39.1	47.1	47.1	41.4	8.0	11.5	3.4	4.6	2.3
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (632)	25.6	17.4	50.9	45.4	52.8	42.4	11.4	7.9	5.9	1.9	2.4
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (125)	16.0	16.8	41.6	66.4	46.4	44.0	13.6	12.8	4.0	4.8	2.4
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (16)	25.0	12.5	75.0	56.3	68.8	18.8	18.8	12.5	-	6.3	-
	その他	100.0 (368)	32.6	23.4	46.5	53.5	45.4	41.3	11.1	12.0	2.4	4.1	2.4
	不明	100.0 (107)	32.7	17.8	42.1	52.3	43.9	42.1	15.0	10.3	3.7	2.8	4.7
世帯構成（世代）	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0 (638)	20.5	16.6	44.8	23.0	53.1	42.6	8.5	8.0	6.7	4.4	4.1
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (1,080)	25.8	21.9	54.9	64.1	54.9	43.1	13.4	9.1	3.2	2.7	3.0
	二世代	100.0 (1,061)	26.4	18.5	47.3	46.7	49.6	42.0	11.1	9.5	4.9	3.0	2.4
	三世代	100.0 (213)	22.5	16.4	49.3	67.6	51.2	41.8	15.0	12.7	3.3	4.2	1.9

第10章 不安や悩み事

(1) 悩み事の内容 (問37)

ア 悩み事の内容 (性別、住宅種類別、世帯構成 (世代) 別)

対象者全員に現在の悩み事の内容について聞いたところ、「自分の健康・病気」が61.1%で最も高く、次いで「配偶者や家族の健康・病気」が48.2%、「地震などの災害にあうこと」が27.4%となっている。

性別にみると、「地震などの災害にあうこと」は男性が22.2%、女性が32.0%で女性の方が9.8ポイント上回っている。

住宅種類別にみると、「配偶者や家族の健康・病気」は「民間賃貸住宅」及び「高齢者向け住宅など」で4割未満となっている。

世帯構成 (世代) 別にみると、「将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと」は「一世代 (夫婦のみ)」が33.8%と高くなっている。(図表10-1)

図表10-1 悩み事の内容

	総数	自分の健康・病気	配偶者や家族の健康・病気	家族や親族との人間関係	相談したり、頼れる人がいなくて、一人きりである	地域の人たちとの関係	生活費や経済的なこと	年金・介護・医療など社会保障給付の水準	住宅に関すること	仕事に関すること	財産管理や相続のこと	犯罪に巻き込まれること	地震などの災害にあうこと	将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと	自分の死後の配偶者や子供の将来	墓の管理	その他	心配ごとや悩みごとはない	無回答	
全体	100.0 (3,192)	61.1	48.2	11.1	2.8	2.4	24.1	26.8	10.8	3.9	9.1	7.6	27.4	20.6	20.5	10.2	1.7	8.6	3.2	
性別	男	100.0 (1,272)	63.2	51.1	11.2	3.1	2.9	26.4	27.5	10.7	5.8	9.8	7.0	22.2	26.2	22.7	11.8	1.1	8.5	2.5
	女	100.0 (1,655)	61.3	47.6	11.5	2.5	2.0	22.3	26.8	11.5	2.4	9.2	8.7	32.0	17.5	19.6	9.2	2.2	8.2	3.0
住宅種類	持家 (一戸建て)	100.0 (2,025)	61.1	52.6	11.4	1.8	2.7	19.8	25.2	8.7	3.2	11.0	8.8	30.3	21.6	21.6	10.4	1.6	8.6	2.4
	持家 (分譲マンションなど)	100.0 (528)	63.1	47.2	12.9	3.0	1.5	24.1	26.5	4.7	4.2	8.9	5.9	26.1	22.7	22.0	10.6	2.3	10.6	1.7
	民間賃貸住宅	100.0 (267)	60.7	33.0	9.4	7.1	3.0	45.7	34.5	33.3	7.5	1.1	4.9	19.9	12.7	15.7	8.2	1.5	7.1	3.0
	都・区市町村の公営賃貸住宅	100.0 (102)	69.6	44.1	6.9	2.9	2.9	37.3	37.3	12.7	4.9	-	3.9	21.6	23.5	15.7	12.7	2.0	4.9	2.9
	都市再生機構 (旧公団)・公社などの賃貸住宅	100.0 (58)	58.6	46.6	10.3	8.6	1.7	37.9	39.7	29.3	5.2	3.4	6.9	20.7	31.0	22.4	10.3	-	3.4	1.7
	借家 (一戸建て)	100.0 (26)	65.4	42.3	11.5	3.8	-	34.6	23.1	15.4	7.7	3.8	3.8	11.5	3.8	15.4	-	-	11.5	-
	高齢者向け住宅など	100.0 (26)	80.8	30.8	7.7	3.8	-	30.8	30.8	15.4	-	11.5	3.8	7.7	11.5	3.8	7.7	-	7.7	-
	その他	100.0 (26)	57.7	38.5	3.8	3.8	-	26.9	23.1	15.4	3.8	11.5	3.8	23.1	3.8	23.1	11.5	3.8	3.8	7.7
世帯構成 (世代)	単身世帯 (ひとりぐらし)	100.0 (638)	65.0	15.7	10.7	9.2	3.0	26.2	25.9	13.8	4.1	8.0	8.6	27.9	1.7	6.1	10.7	1.7	9.4	3.9
	一世代 (夫婦のみ)	100.0 (1,080)	61.6	64.0	10.5	0.8	2.3	21.2	26.9	8.9	3.3	9.6	6.9	27.3	33.8	23.1	9.5	1.4	7.3	2.5
	二世代	100.0 (1,061)	59.8	53.2	11.8	1.4	2.6	25.8	27.9	11.6	4.2	9.8	7.6	27.1	19.5	27.2	11.0	1.7	8.2	3.1
	三世代	100.0 (213)	53.5	44.6	11.7	-	0.5	21.6	25.8	7.5	4.2	6.6	6.6	28.2	14.6	20.2	4.7	1.4	16.4	1.9

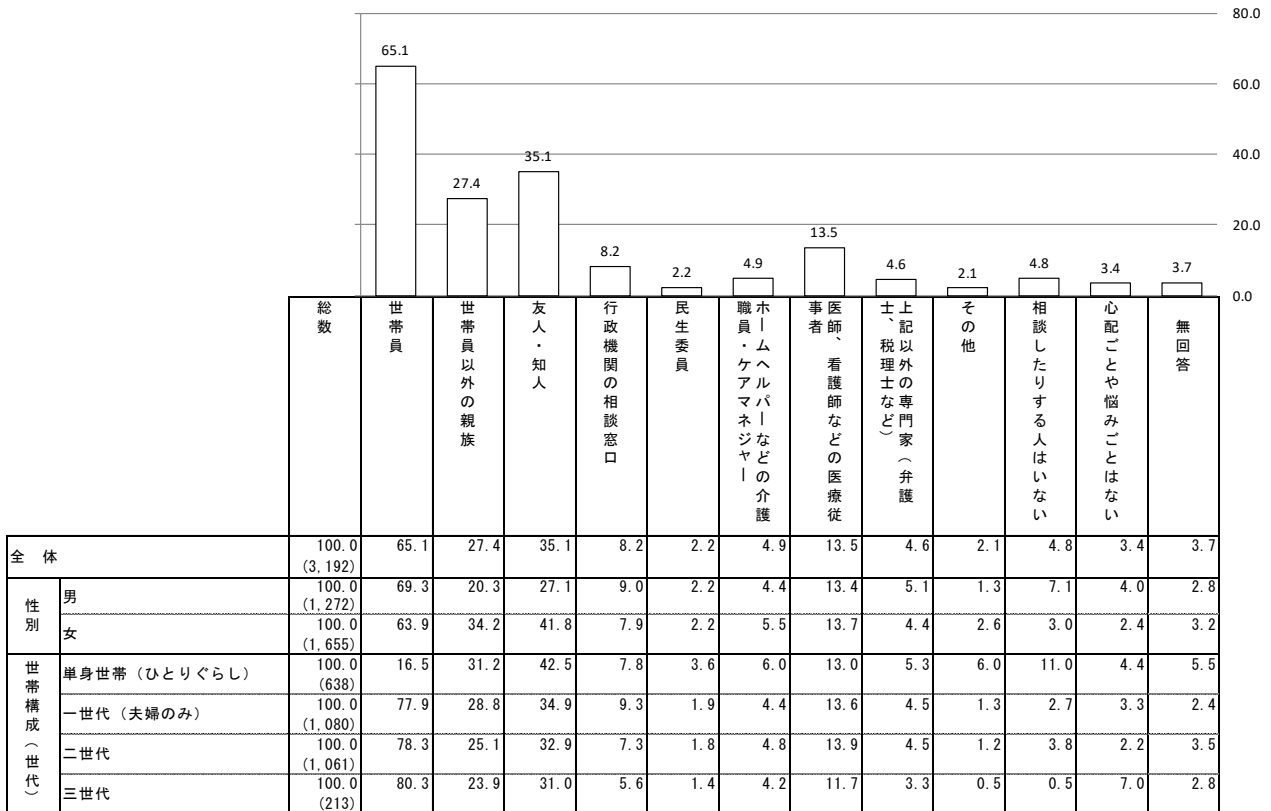
(2) 相談相手 (問 38)

ア 相談相手 (性別、世帯構成 (世代) 別)

対象者全員に心配事や悩み事の相談相手について聞いたところ、「世帯員」が 65.1% で最も高く、次いで「友人・知人」が 35.1%、「世帯員以外の親族」が 27.4% となっている。

性別でみると、男女とも「世帯員」が最も高く (69.3%、63.9%)、次いで「友人・知人」(27.1%、41.8%)、「世帯員以外の親族」(20.3%、34.2%) と続いている。(図表 10-2)

図表 10-2 相談相手



(3) 地域包括支援センターの認知度 (問 39)

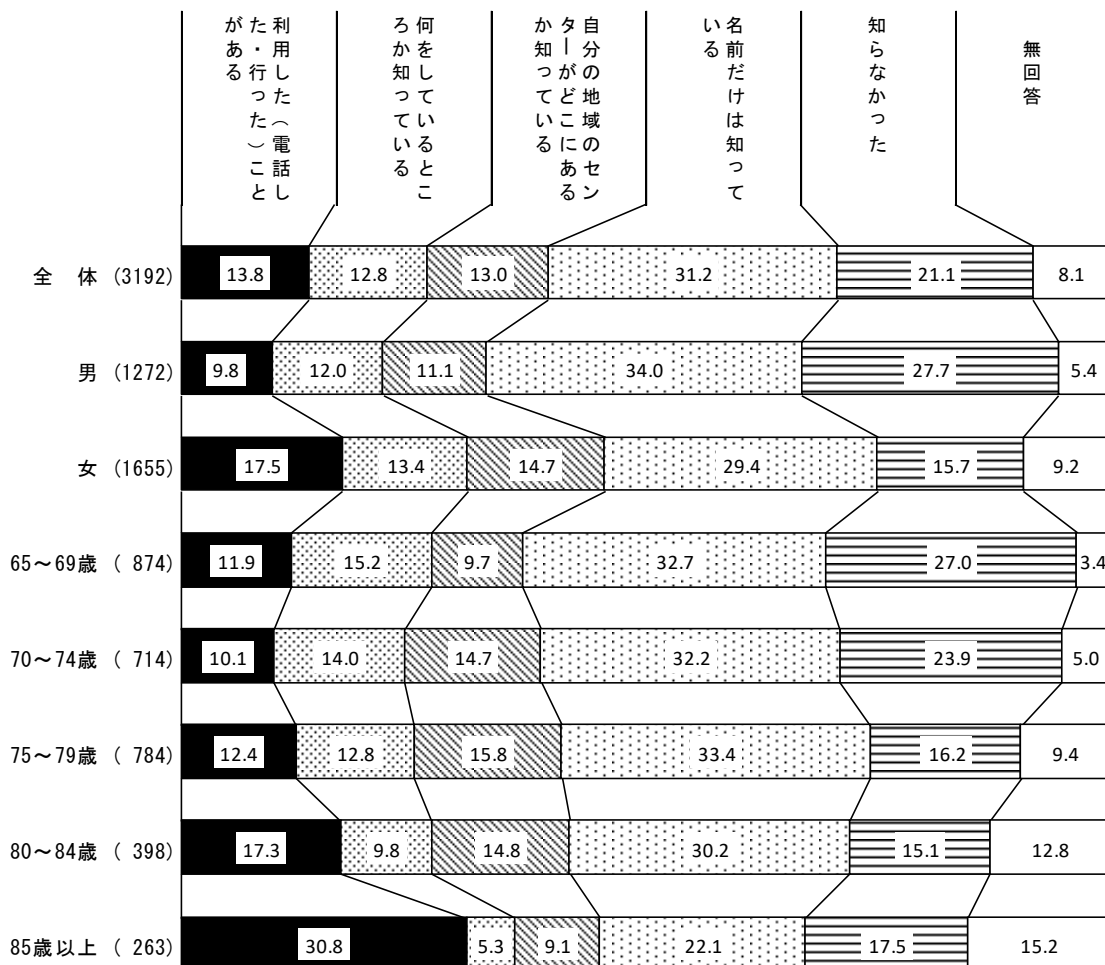
ア 地域包括支援センターの認知度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に地域包括支援センターの認知度について聞いたところ、「名前だけは知っている」が31.2%で最も高く、次いで「知らなかった」が21.1%、「利用した(電話した・行った)ことがある」が13.8%となっている。

地域包括支援センターの認知度について、性別にみると、「知らなかった」は女性が15.7%、男性が27.7%で男性の方が12.0ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、「何をしているところか知っている」は年齢階級が上がるにつれて、割合が低くなっている。(図表 10-3)

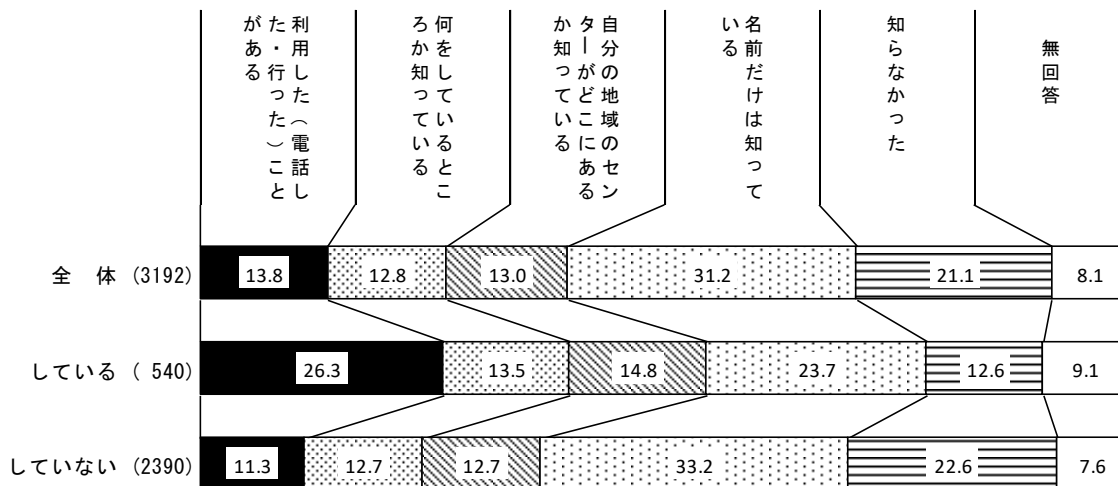
図表 10-3 地域包括支援センターの認知度 (性別、年齢階級別)



イ 地域包括支援センターの認知度（介護の状況別）

地域包括支援センターの認知度について、介護の状況別にみると、「利用した（電話した・行った）ことがある」は介護を「していない」が11.3%、介護を「している」が26.3%で介護を「している」の方が15.0ポイント上回っている。（図表 10-3-1）

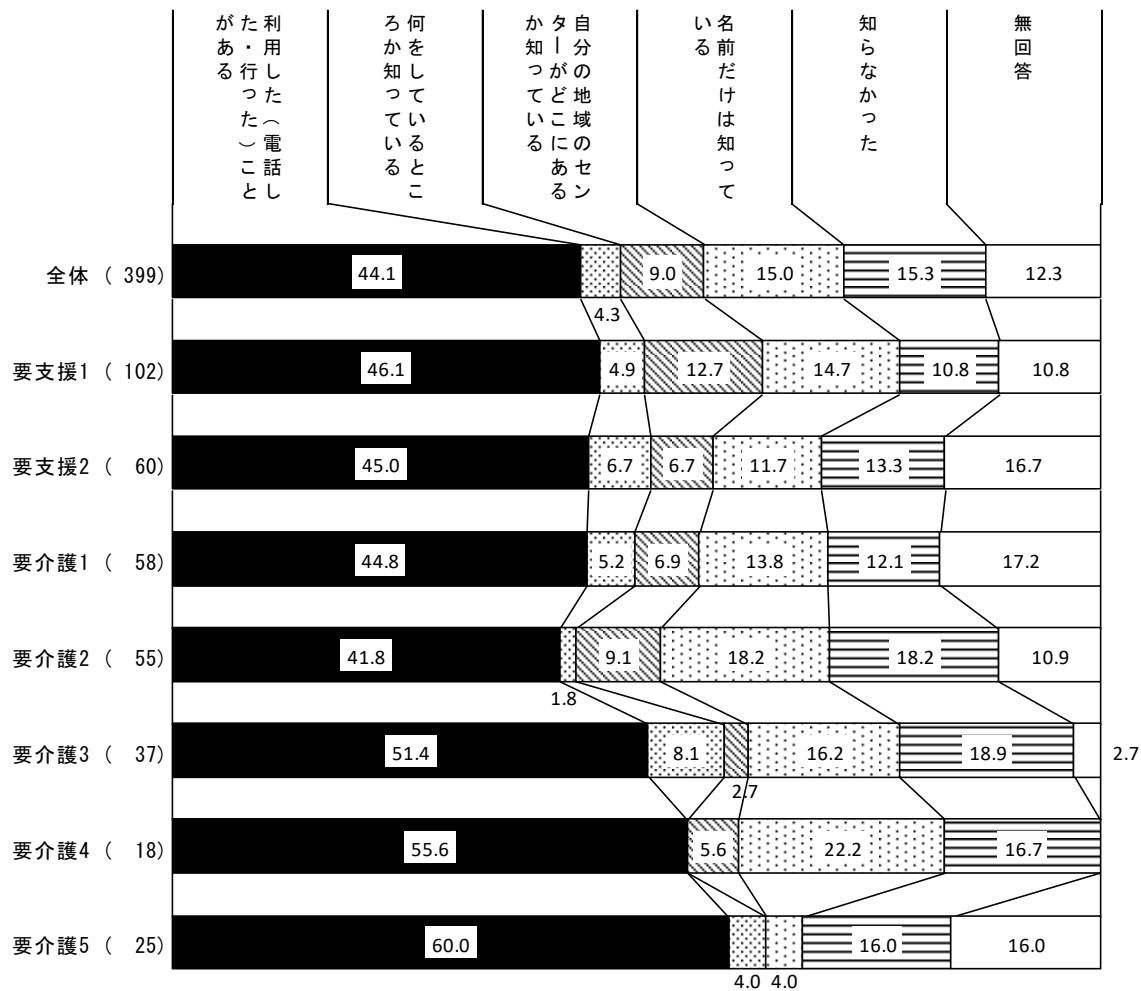
図表 10-3-1 地域包括支援センターの認知度（介護の状況別）



ウ 地域包括支援センターの認知度（要介護申請の有無別）

地域包括支援センターの認知度について、要介護申請の有無別にみると、「利用した（電話した・行った）ことがある」は要介護3以上では、要介護度が高くなるにつれて割合が高くなっている。（図表 10-3-2）

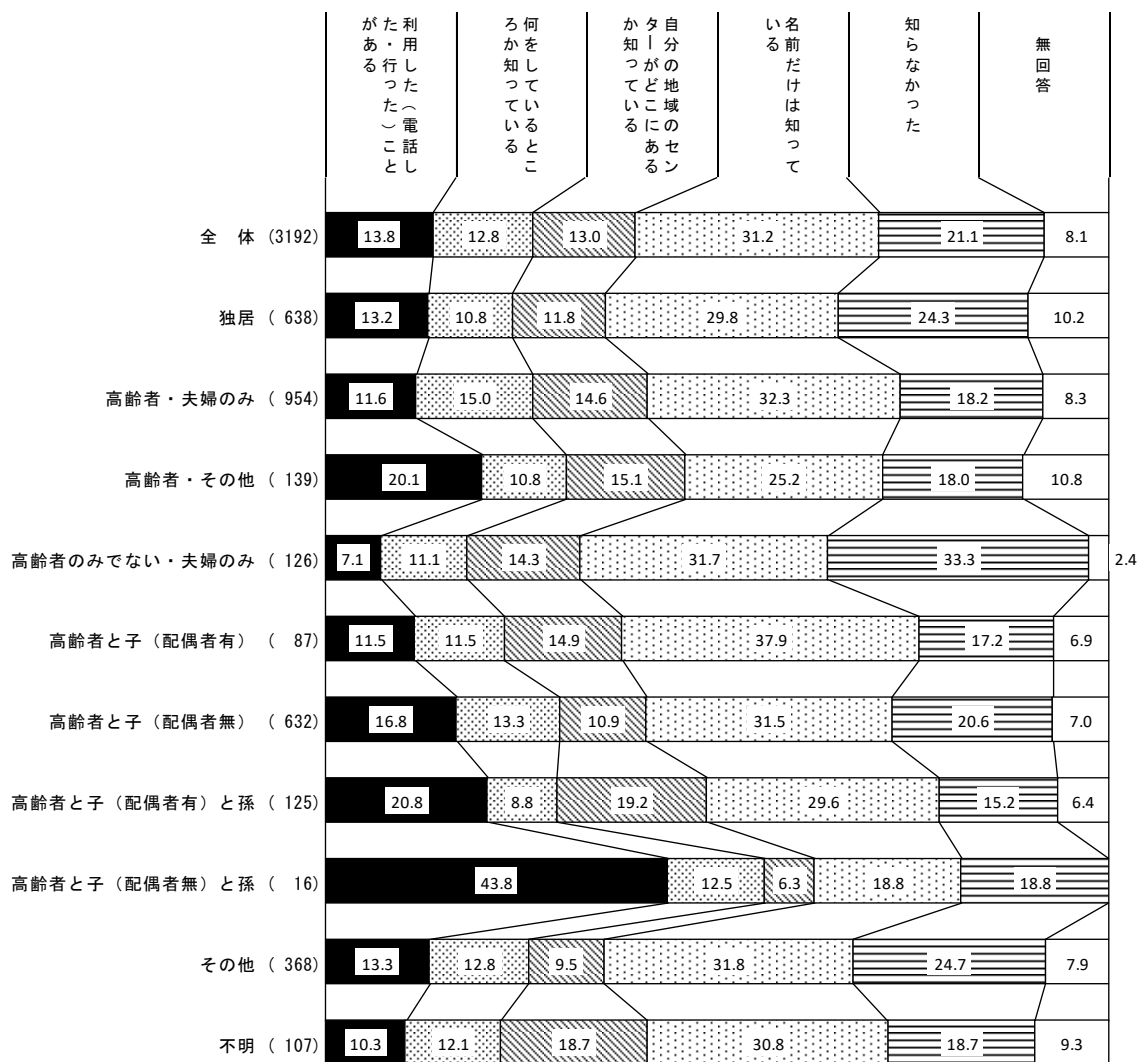
図表 10-3-2 地域包括支援センターの認知度（要介護申請の有無別）



エ 地域包括支援センターの認知度（世帯類型別）

地域包括支援センターの認知度について、世帯類型別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、「利用した（電話した・行った）ことがある」は「高齢者と子（配偶者有）と孫」が20.8%と高くなっている。（図表 10-3-3）

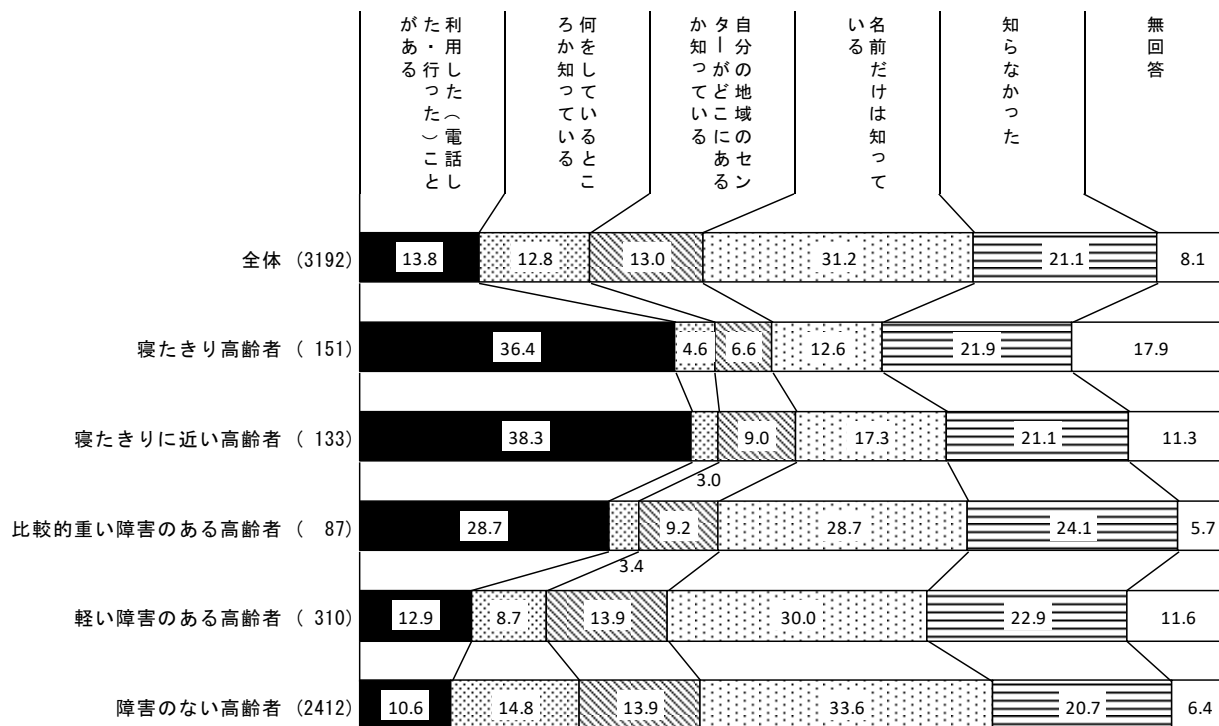
図表 10-3-3 地域包括支援センターの認知度（世帯類型別）



オ 地域包括支援センターの認知度（動作能力類型別）

地域包括支援センターの認知度について、動作能力類型別にみると、「利用した(電話した・行った)ことがある」は「寝たきり高齢者」で36.4%、「寝たきりに近い高齢者」で38.3%と比較的高くなっている。（図表 10-3-4）

図表 10-3-4 地域包括支援センターの認知度（動作能力類型別）



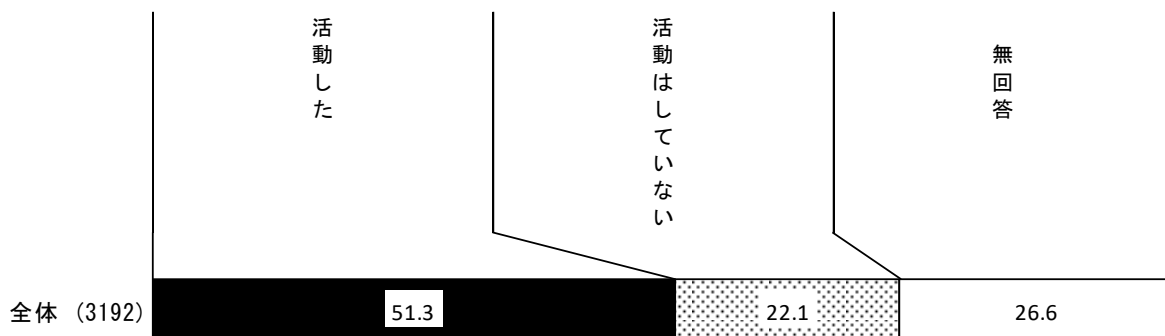
第11章 社会参加

(1) 一年間の活動状況 (問 40)

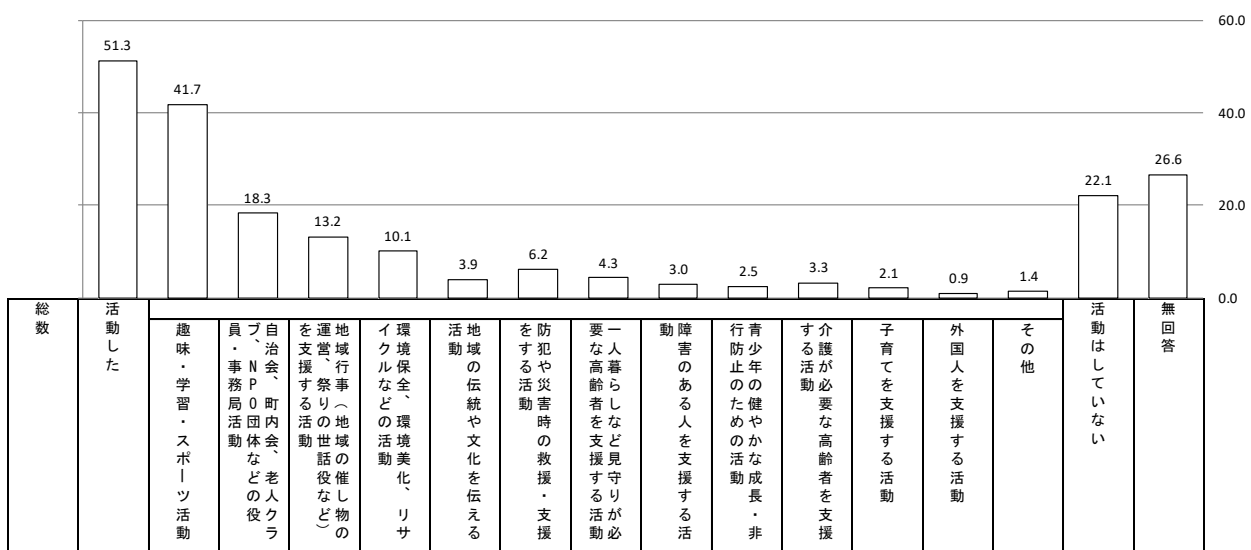
対象者全員にこの一年間に図表 11-1-1 に列挙する活動を行ったか聞いたところ、「活動した」51.3%、「活動していない」が 22.1%となっている。(図表 11-1)

活動内容について聞いたところ、「趣味・学習・スポーツ活動」が 41.7%で最も高く、次いで「自治会、町内会、老人クラブ、NPO 団体などの役員・事務局活動」が 18.3%、「地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)を支援する活動」が 13.2%となっている。(図表 11-1-1)

図表 11-1 一年間の活動状況



図表 11-1-1 一年間の活動内容



ア 一年間の活動状況（性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながり別）

一年間の活動状況について、性・年齢階級別にみると、「活動した」は男性では75～79歳が56.1%で、女性は65～69歳が60.0%で最も高かった。「活動していない」の85歳以上では女性(40.5%)が男性(27.8%)を12.7ポイント上まわった。

健康意識別にみると、「よくない」で「活動した」が17.3%にとどまり、比較的低くなっている。

外出頻度別にみると、「ほとんど外出しない」で「活動した」が12.0%にとどまり、比較的低くなっている。

地域とのつながり別にみると、「活動した」は「少し強くなっている」(74.1%)と「以前と変わらず強い」(70.3%)で7割を超え、比較的高くなっている。(図表11-1-2)

図表 11-1-2 一年間の活動状況

(性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながり別)

	総数	活動した	活動の種類													活動はしていない(今後とも参加予定はない)	無回答	
			趣味・学習・スポーツ活動	自治会、町内会、老人クラブ・NPO団体などの役員・事務局活動	地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)を支援する活動	地域行先(地域の催し物の運営、祭りの世話役など)を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健全な成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動			その他
全体	100.0 (3,192)	51.3	41.7	18.3	13.2	10.1	3.9	6.2	4.3	3.0	2.5	3.3	2.1	0.9	1.4	22.1	26.6	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	50.5	42.1	16.5	10.9	8.1	3.3	5.3	2.5	3.0	2.5	2.5	2.0	1.3	0.3	25.9	23.6
	男性70～74歳	100.0 (305)	48.5	37.0	20.7	17.0	12.5	5.6	8.2	1.3	1.6	2.3	0.7	0.7	0.7	1.0	21.6	29.8
	男性75～79歳	100.0 (314)	56.1	41.1	30.6	22.0	14.6	7.3	13.1	8.3	2.9	4.5	3.5	1.3	1.0	1.3	19.1	24.8
	男性80～84歳	100.0 (142)	42.3	29.6	16.2	12.0	4.9	3.5	4.9	2.8	0.0	2.1	0.0	0.0	1.4	0.7	23.9	33.8
	男性85歳以上	100.0 (90)	34.4	27.8	12.2	4.4	3.3	4.4	3.3	2.2	3.3	1.1	3.3	0.0	0.0	2.2	27.8	37.8
	女性65～69歳	100.0 (428)	60.0	50.7	14.7	11.4	10.5	2.6	5.4	4.4	5.8	3.3	6.8	5.4	1.2	1.6	20.6	19.4
	女性70～74歳	100.0 (362)	55.5	47.0	16.3	13.0	9.4	2.2	5.0	5.5	3.6	2.2	5.2	2.8	1.1	2.2	20.2	24.3
	女性75～79歳	100.0 (427)	59.0	50.1	22.2	16.6	13.1	4.9	6.3	6.3	2.3	1.6	3.7	2.8	0.7	1.9	14.1	26.9
	女性80～84歳	100.0 (240)	47.5	40.4	14.2	8.3	9.2	3.3	3.3	1.7	2.1	0.8	1.3	0.8	0.0	1.7	22.9	29.6
	女性85歳以上	100.0 (158)	27.8	24.7	7.0	4.4	2.5	1.9	0.6	1.9	0.6	1.3	0.6	0.6	0.0	0.6	40.5	31.6
健康意識別	よい	100.0 (644)	65.4	54.7	25.2	19.9	13.7	6.5	10.4	6.7	4.7	4.3	4.0	3.1	1.2	2.0	16.9	17.7
	まあよい	100.0 (743)	59.0	49.7	21.7	13.6	10.8	3.5	7.3	4.3	3.0	2.6	3.9	2.6	0.9	1.1	17.5	23.6
	ふつう	100.0 (1,138)	48.5	38.7	17.0	12.7	9.1	3.4	5.5	3.9	3.0	1.8	3.5	1.8	0.9	1.4	23.4	28.1
	あまりよくない	100.0 (451)	34.1	26.2	9.3	6.9	7.1	2.2	1.6	2.2	0.7	0.9	1.1	0.9	0.7	1.1	30.8	35.0
	よくない	100.0 (104)	17.3	10.6	7.7	2.9	2.9	1.9	1.9	1.9	0.0	2.9	1.0	1.0	0.0	2.9	37.5	45.2
外出頻度別	ほぼ毎日	100.0 (1,603)	57.8	46.5	23.0	17.2	12.5	4.6	8.7	5.9	3.7	3.5	4.1	2.6	1.1	1.4	19.1	23.1
	週4回程度	100.0 (562)	57.1	48.9	16.7	12.3	10.0	4.4	4.8	3.2	3.7	1.8	3.6	3.0	0.7	1.2	20.3	22.6
	週2～3回程度	100.0 (602)	48.8	40.5	15.1	9.0	8.0	3.0	3.8	3.5	1.8	1.5	2.5	1.2	0.8	2.0	24.1	27.1
	週1回程度	100.0 (180)	31.1	22.2	8.9	6.1	5.6	2.8	2.2	1.1	1.1	0.6	0.6	0.0	0.0	1.1	28.3	40.6
	ほとんど外出しない	100.0 (142)	12.0	4.9	3.5	4.2	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	1.4	0.0	0.7	0.7	1.4	52.8	35.2
地域とのつながり別	以前と変わらず弱い	100.0 (1,074)	47.3	41.1	8.1	4.9	5.2	0.9	2.6	2.0	2.1	1.0	2.6	1.6	0.7	1.2	26.3	26.4
	少し弱くなっている	100.0 (676)	52.4	42.3	19.7	12.1	9.9	4.4	5.2	3.4	3.0	1.9	2.2	1.2	0.6	1.0	22.8	24.9
	弱くなっている	100.0 (436)	40.8	31.4	15.1	8.3	4.8	1.8	2.8	2.1	2.1	1.1	2.3	1.6	0.7	1.1	31.0	28.2
	以前と変わらず強い	100.0 (414)	70.3	53.4	39.4	35.7	25.1	11.6	18.8	10.6	5.3	6.5	6.0	3.9	1.4	1.2	11.6	18.1
	少し強くなっている	100.0 (239)	74.1	59.4	34.7	26.4	17.2	7.5	14.2	10.5	6.7	5.9	7.9	5.9	3.3	3.8	7.9	18.0
	強くなっている	100.0 (56)	66.1	50.0	50.0	41.1	25.0	14.3	14.3	16.1	5.4	8.9	1.8	5.4	1.8	1.8	8.9	25.0
	その他	100.0 (188)	37.8	30.3	10.1	6.4	6.4	0.5	1.1	2.1	1.1	1.6	2.1	1.1	0.0	2.1	26.6	35.6

イ 一年間の活動状況（活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別）

一年間の活動状況について、活動の効果の認知度別にみると、「活動した」は「知っている」が61.1%、「知らない」が23.7%となり、顕著な差異となった。

本人の収入別にみると、「活動した」は「700万円以上1,000万円未満」が69.2%で最も高く、「50万円未満」が38.6%で最も低かった。「活動はしていない」は「1,000万円以上」が28.2%で最も高かった。

金融貯蓄別にみると、「活動した」は「3,000万円以上」が69.7%で最も高く、「貯蓄はない」が31.4%で最も低かった。（図表 11-1-3）

図表 11-1-3 一年間の活動状況（活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別）

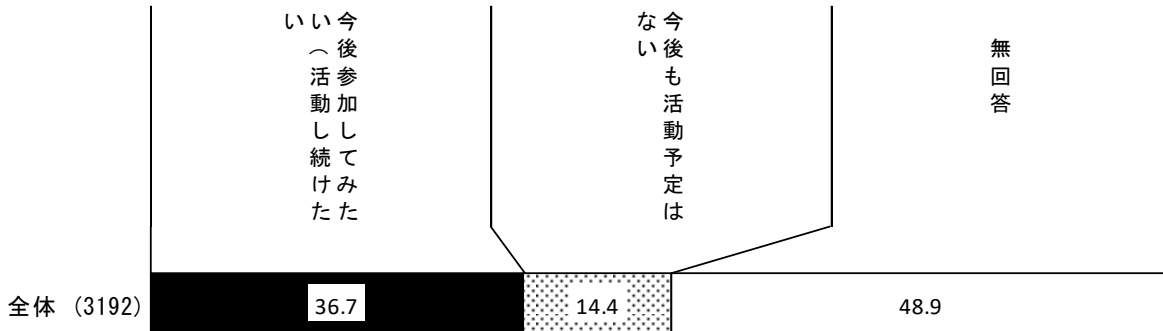
	総数	活動した	活動の効果の認知度別														無回答	
			趣味・学習・スポーツ活動	ブ、NPO団体などの役員・事務局活動	自治会、町内会、老人クラブなどの役割	地域行事（地域の催し物の運営、祭りの世話役など）を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健全な成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他		
全体	100.0 (3,192)	51.3	41.7	18.3	13.2	10.1	3.9	6.2	4.3	3.0	2.5	3.3	2.1	0.9	1.4	22.1	26.6	
認知度別	知っている	100.0 (2,377)	61.1	50.9	22.0	15.8	12.2	4.8	7.7	5.3	3.9	3.0	4.0	2.7	1.0	1.7	19.1	19.7
	知らない	100.0 (569)	23.7	15.3	8.8	6.2	4.6	1.4	2.5	1.4	0.5	1.1	0.9	0.5	0.9	0.5	40.4	35.9
本人の収入別	50万円未満	100.0 (184)	38.6	28.3	14.7	7.1	4.3	1.6	3.8	3.8	3.3	2.2	4.3	1.1	1.6	1.1	23.9	37.5
	50万円以上100万円未満	100.0 (610)	52.1	43.6	14.6	11.8	8.2	2.8	4.1	2.5	2.6	1.6	3.0	2.8	0.3	2.1	25.6	22.3
	100万円以上150万円未満	100.0 (425)	49.9	40.7	15.8	13.2	10.8	4.2	4.7	6.4	3.1	2.4	4.7	2.1	0.5	0.9	20.9	29.2
	150万円以上200万円未満	100.0 (340)	48.8	40.9	17.4	11.8	10.3	4.1	5.6	5.3	2.9	2.6	2.6	2.4	1.5	0.6	25.3	25.9
	200万円以上250万円未満	100.0 (405)	55.6	43.0	24.7	17.3	13.1	4.7	9.4	4.9	4.4	3.2	3.5	3.0	1.0	1.0	23.2	21.2
	250万円以上300万円未満	100.0 (356)	52.8	42.1	21.6	12.9	11.8	3.9	7.6	5.1	2.0	2.8	1.7	2.0	1.1	1.4	21.6	25.6
	300万円以上500万円未満	100.0 (358)	64.5	52.8	23.7	18.2	12.6	5.6	10.3	5.6	4.5	3.6	6.1	1.4	1.1	3.4	16.2	19.3
	500万円以上700万円未満	100.0 (127)	57.5	48.0	22.0	13.4	10.2	2.4	6.3	3.1	0.8	2.4	1.6	3.1	1.6	0.8	18.9	23.6
	700万円以上1,000万円未満	100.0 (65)	69.2	55.4	26.2	21.5	12.3	10.8	9.2	1.5	4.6	4.6	0.0	1.5	1.5	0.0	20.0	10.8
	1,000万円以上	100.0 (78)	56.4	47.4	14.1	19.2	10.3	3.8	6.4	2.6	1.3	2.6	1.3	0.0	0.0	2.6	28.2	15.4
金融貯蓄別	貯蓄はない	100.0 (242)	31.4	22.3	8.3	8.7	7.9	2.9	4.1	2.5	2.5	2.1	2.9	2.1	2.5	1.7	30.6	38.0
	100万円未満	100.0 (328)	39.6	29.0	16.2	10.7	6.4	4.0	4.0	6.1	4.0	1.2	4.3	1.5	0.9	25.3	35.1	
	100～200万円	100.0 (169)	45.6	32.0	16.6	14.8	11.2	4.1	3.6	4.1	0.0	4.1	3.6	0.6	0.6	21.9	32.5	
	200～300万円	100.0 (167)	48.5	33.5	22.2	13.8	12.0	4.8	8.4	6.0	4.2	3.0	3.6	2.4	0.6	1.8	23.4	28.1
	300～400万円	100.0 (115)	46.1	38.3	16.5	8.7	8.7	1.7	3.5	7.8	5.2	5.2	1.7	1.7	0.9	0.0	20.9	33.0
	400～500万円	100.0 (208)	46.2	35.6	13.5	12.0	7.2	1.9	7.2	2.9	1.4	1.9	1.9	1.4	0.5	0.5	25.0	28.8
	500～1,000万円	100.0 (445)	53.0	43.6	20.4	13.7	9.7	3.8	6.1	3.8	3.6	2.9	3.8	3.6	0.7	2.0	22.9	24.0
	1,000～2,000万円	100.0 (461)	60.3	48.8	24.5	16.9	12.1	4.3	8.5	4.6	2.2	3.0	2.8	2.4	1.1	1.3	23.2	16.5
	2,000～3,000万円	100.0 (310)	65.2	55.2	20.6	17.4	14.2	5.5	7.7	3.9	2.9	1.6	3.5	2.3	1.0	1.6	19.0	15.8
3,000万円以上	100.0 (459)	69.7	62.5	20.9	15.7	12.0	5.2	8.3	4.8	4.8	3.1	4.4	2.2	1.5	2.6	17.2	13.1	

(2) 今後の活動意向 (問 40)

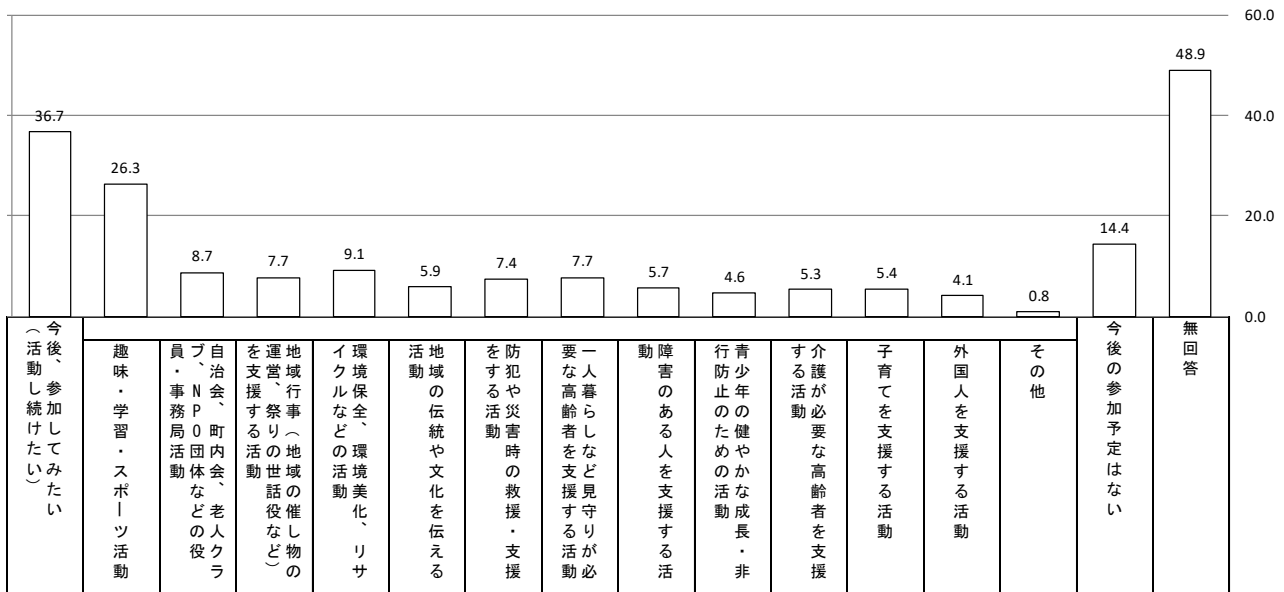
対象者全員に今後の活動意向について聞いたところ、「今後参加してみたい(活動し続けたい)」が 36.7%、「今後も活動予定はない」が 14.4%となっている。(図表 11-2)

今後、参加してみたい(活動し続けたい)人(1,171人)に、どのような活動を行いたいか聞いたところ、「趣味・学習・スポーツ活動」が 26.3%で最も高く、次いで「環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動」が 9.1%、「自治会、町内会、老人クラブ、NPO 団体などの役員・事務局活動」が 8.7%となっている。(図表 11-2-1)

図表 11-2 今後の活動意向



図表 11-2-1 今後、参加してみたい(活動し続けたい)内容



ア 今後の活動意向（性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながりの変化別）

今後の活動意向について、性・年齢階級別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は男女ともに年齢階級が上がるにつれて、割合が低くなっている。

健康意識別にみると、「活動はしていない(今後も活動予定はない)」は健康意識が悪いほど割合が高くなっている。

外出頻度別にみると、いずれの活動も外出頻度が高いほど割合が高くなっている。

地域とのつながりの変化別にみると、「自治体、町内会、老人クラブ、NPO団体などの役員・事務局活動」は地域とのつながりが強いほど割合が高くなっている。（図表 11-2-2）

図表 11-2-2 今後の活動意向

（性・年齢階級別、健康意識別、外出頻度別、地域とのつながりの変化別）

	総数	今後、参加してみたい （活動し続けたい）	趣味・学習・スポーツ活動	自治体、町内会、老人クラブ、NPO団体などの役員・事務局活動	地域行事（地域の催し物の運営、祭りなどの世話をサポートする活動）	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健やかな成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他	今後の参加予定はない	無回答	
			（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）	（％）
全体	100.0 (3,192)	36.7	26.3	8.7	7.7	9.1	5.9	7.4	7.7	5.7	4.6	5.3	5.4	4.1	0.8	14.4	48.9	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	43.4	33.5	11.9	10.7	11.9	8.4	13.2	9.6	7.9	8.9	7.4	8.9	8.9	0.3	18.8	37.8
	男性70～74歳	100.0 (305)	40.3	25.9	12.8	12.1	12.8	7.9	10.2	7.9	5.2	6.6	3.3	3.6	4.6	1.0	15.4	44.3
	男性75～79歳	100.0 (314)	32.8	21.0	8.3	7.0	8.3	6.4	8.0	8.0	5.7	5.4	5.4	2.9	3.5	0.3	12.7	54.5
	男性80～84歳	100.0 (142)	36.6	21.1	8.5	7.0	8.5	7.0	5.6	5.6	4.9	5.6	3.5	4.2	4.9	-	15.5	47.9
	男性85歳以上	100.0 (90)	16.6	11.1	5.6	4.4	2.2	3.3	2.2	4.4	2.2	1.1	3.3	1.1	1.1	2.2	16.7	66.7
	女性65～69歳	100.0 (428)	46.5	36.0	7.0	8.4	12.4	6.8	10.0	11.2	8.4	5.4	9.3	10.3	5.6	0.9	12.6	40.9
	女性70～74歳	100.0 (362)	40.3	29.8	8.6	8.0	10.2	5.8	5.8	8.3	5.5	4.1	4.7	6.6	2.8	0.6	12.7	47.0
	女性75～79歳	100.0 (427)	38.6	28.6	8.9	7.3	8.0	5.4	7.0	8.9	4.7	3.3	5.4	4.7	4.0	1.2	10.1	51.3
	女性80～84歳	100.0 (240)	30.0	22.1	6.7	5.0	6.3	2.9	2.9	5.0	4.2	1.3	2.5	2.5	1.7	1.3	14.6	55.4
	女性85歳以上	100.0 (158)	17.7	13.3	4.4	2.5	3.8	2.5	2.5	2.5	1.9	0.6	1.9	0.6	0.6	-	27.2	55.1
健康意識	よい	100.0 (644)	39.9	28.0	9.9	9.3	9.2	6.2	9.2	9.5	7.3	5.1	7.3	9.0	5.7	0.9	12.4	47.7
	まあよい	100.0 (743)	44.1	33.0	11.4	9.7	12.1	7.5	10.1	9.8	7.1	7.4	5.8	6.6	5.8	0.9	10.4	45.5
	ふつう	100.0 (1,138)	35.5	25.8	8.2	7.6	8.0	5.4	6.2	7.1	4.5	3.8	4.8	3.9	3.3	0.6	15.5	49.0
	あまりよくない	100.0 (451)	28.8	19.7	5.5	4.2	8.4	4.0	4.9	5.3	4.4	2.4	3.8	4.0	2.4	0.7	20.4	50.8
	よくない	100.0 (104)	16.3	8.7	1.9	1.9	3.8	2.9	2.9	3.8	2.9	1.9	2.9	1.0	-	1.0	26.0	57.7
外出頻度	ほぼ毎日	100.0 (1,603)	40.4	28.9	10.4	9.6	11.0	7.4	9.0	8.9	6.6	5.9	6.0	6.9	5.1	0.7	11.9	47.7
	週4回程度	100.0 (562)	39.3	29.7	8.5	8.2	8.7	4.4	8.5	8.7	6.9	4.4	6.0	5.7	5.2	1.2	12.1	48.6
	週2～3回程度	100.0 (602)	35.7	24.9	8.1	6.3	7.5	5.1	5.3	7.0	4.5	3.2	4.2	3.2	3.0	1.0	15.3	49.0
	週1回程度	100.0 (180)	26.1	18.9	3.9	2.2	5.6	2.8	3.3	2.2	2.8	1.7	2.2	2.2	0.6	0.6	25.6	48.3
	ほとんど外出しない	100.0 (142)	9.2	4.2	0.7	0.7	2.8	1.4	1.4	0.7	0.7	-	1.4	1.4	-	0.7	34.5	56.3
地域とのつながり	少し弱くなっている	100.0 (676)	35.3	25.6	8.1	7.0	8.9	5.9	7.0	6.4	4.3	3.0	4.7	3.8	2.5	0.4	12.0	52.7
	弱くなっている	100.0 (436)	31.7	22.7	7.3	7.3	6.7	4.1	5.7	6.9	5.3	3.2	5.0	3.2	2.8	0.5	22.2	46.1
	少し強くなっている	100.0 (239)	50.2	35.1	15.5	14.2	10.9	10.9	12.6	11.3	9.6	7.9	7.9	9.2	8.4	2.1	5.9	43.9
	強くなっている	100.0 (56)	51.8	33.9	21.4	23.2	17.9	12.5	12.5	14.3	14.3	10.7	12.5	8.9	7.1	-	7.1	41.1
	以前と変わらず弱い	100.0 (1,074)	39.5	29.1	6.8	5.9	9.9	5.1	7.2	8.2	5.9	5.1	5.1	5.7	4.8	0.7	17.0	43.5
	以前と変わらず強い	100.0 (414)	37.2	24.4	13.5	11.6	10.9	7.5	9.4	8.9	5.8	6.3	5.1	7.7	5.1	1.0	9.7	53.1
その他	100.0 (188)	27.1	19.7	3.7	4.3	5.9	4.3	4.8	5.9	4.8	3.2	4.8	5.3	2.7	1.6	18.6	54.3	

イ 今後の活動意向（活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別）

今後の活動意向について、活動の効果の認知度別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は「知っている」(31.2%)が「知らない」(12.8%)を18.4ポイント上まわった。

本人の収入別にみると、「活動はしていない(今後も活動予定はない)」は「50万円未満」が20.7%で最も高くなっている。

金融貯蓄別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は貯蓄高と比例して活動比率も高くなる傾向がうかがえる。(図表 11-2-3)

図表 11-2-3 今後の活動意向（活動の効果の認知度別、本人の収入別、金融貯蓄別）

	総数 (活動し続けた)	活動の効果の認知度別														今後の参加予定はない	無回答	
		趣味・学習・スポーツ活動	自治会、町内会、老人クラブ・事務局活動	地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話など)を支援する活動	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	地域の伝統や文化を伝える活動	防犯や災害時の救援・支援をする活動	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動	障害のある人を支援する活動	青少年の健全な成長・非行防止のための活動	介護が必要な高齢者を支援する活動	子育てを支援する活動	外国人を支援する活動	その他				
全体	100.0 (3,192)	36.7	26.3	8.7	7.7	9.1	5.9	7.4	7.7	5.7	4.6	5.3	5.4	4.1	0.8	14.4	48.9	
認知度別	知っている	100.0 (2,377)	43.0	31.2	10.0	8.9	10.6	6.7	8.5	9.2	6.8	5.4	6.2	6.4	4.8	0.8	12.0	45.0
	知らない	100.0 (569)	19.3	12.8	4.7	4.7	5.3	3.9	4.4	3.7	2.8	3.2	2.8	2.6	2.5	0.9	28.6	52.0
本人の収入別	50万円未満	100.0 (184)	26.1	18.5	7.6	2.7	4.3	2.2	2.7	4.9	3.8	1.1	2.7	2.2	0.5	0.0	20.7	53.3
	50万円以上100万円未満	100.0 (610)	32.0	23.1	5.9	4.8	7.7	5.4	4.8	7.0	4.3	2.5	5.1	3.9	1.8	1.1	15.1	53.0
	100万円以上150万円未満	100.0 (425)	38.4	28.0	7.3	7.5	10.1	5.6	5.9	8.0	5.2	3.5	6.8	6.6	3.5	0.5	12.2	49.4
	150万円以上200万円未満	100.0 (340)	37.1	29.7	8.2	7.9	7.6	4.4	7.6	6.2	5.9	3.8	4.4	3.5	3.5	0.0	18.5	44.4
	200万円以上250万円未満	100.0 (405)	42.2	28.1	12.1	12.1	10.1	8.6	10.4	9.6	7.7	6.7	4.4	7.7	4.9	1.0	13.6	44.2
	250万円以上300万円未満	100.0 (356)	41.9	30.1	8.1	9.3	10.7	5.6	9.6	9.0	6.5	5.6	6.2	6.2	2.8	0.8	16.3	41.9
	300万円以上500万円未満	100.0 (358)	43.3	32.1	10.9	8.9	11.7	6.4	11.5	7.8	7.3	7.8	5.9	7.3	7.8	1.7	10.3	46.4
	500万円以上700万円未満	100.0 (127)	51.2	32.3	14.2	7.1	11.0	7.1	11.8	15.0	8.7	7.1	7.1	6.3	12.6	0.8	18.9	29.9
	700万円以上1,000万円未満	100.0 (65)	43.1	27.7	15.4	13.8	12.3	13.8	12.3	12.3	12.3	13.8	12.3	13.8	10.8	0.0	12.3	44.6
	1,000万円以上	100.0 (78)	34.6	24.4	11.5	14.1	16.7	7.7	6.4	6.4	6.4	9.0	5.1	9.0	12.8	2.6	14.1	51.3
金融貯蓄別	貯蓄はない	100.0 (242)	27.3	18.2	7.0	9.1	12.4	6.6	7.9	7.4	4.5	4.1	5.0	5.0	2.5	0.8	14.9	57.9
	100万円未満	100.0 (328)	32.0	21.6	7.9	6.4	7.3	7.6	7.0	8.5	6.1	5.2	5.8	5.2	3.0	0.6	18.3	49.7
	100~200万円	100.0 (169)	37.9	25.4	7.7	6.5	7.7	5.3	5.3	8.9	6.5	4.1	6.5	4.7	3.6	0.6	12.4	49.7
	200~300万円	100.0 (167)	37.1	26.3	10.8	8.4	11.4	7.2	8.4	9.6	10.8	6.6	8.4	7.2	5.4	0.6	15.0	47.9
	300~400万円	100.0 (115)	34.8	28.7	7.8	4.3	7.0	2.6	6.1	7.0	3.5	5.2	1.7	3.5	0.9	0.0	19.1	46.1
	400~500万円	100.0 (208)	38.5	27.9	8.7	7.2	5.8	3.8	5.8	4.8	2.9	2.9	2.9	4.3	1.9	0.5	17.8	43.8
	500~1,000万円	100.0 (445)	38.0	25.6	11.2	8.5	10.3	7.2	9.7	9.0	7.0	5.6	6.3	6.5	4.3	0.9	14.8	47.2
	1,000~2,000万円	100.0 (461)	38.4	26.2	7.6	7.2	7.6	5.2	8.7	8.0	5.6	4.1	4.3	6.1	2.8	1.3	15.0	46.6
	2,000~3,000万円	100.0 (310)	41.6	34.2	9.4	9.4	10.3	5.5	5.5	6.1	3.5	4.5	3.9	4.2	4.8	0.6	13.9	44.5
	3,000万円以上	100.0 (459)	49.5	36.2	10.7	11.1	13.3	7.4	10.2	10.0	8.3	6.5	8.1	7.6	10.2	1.3	11.1	39.4

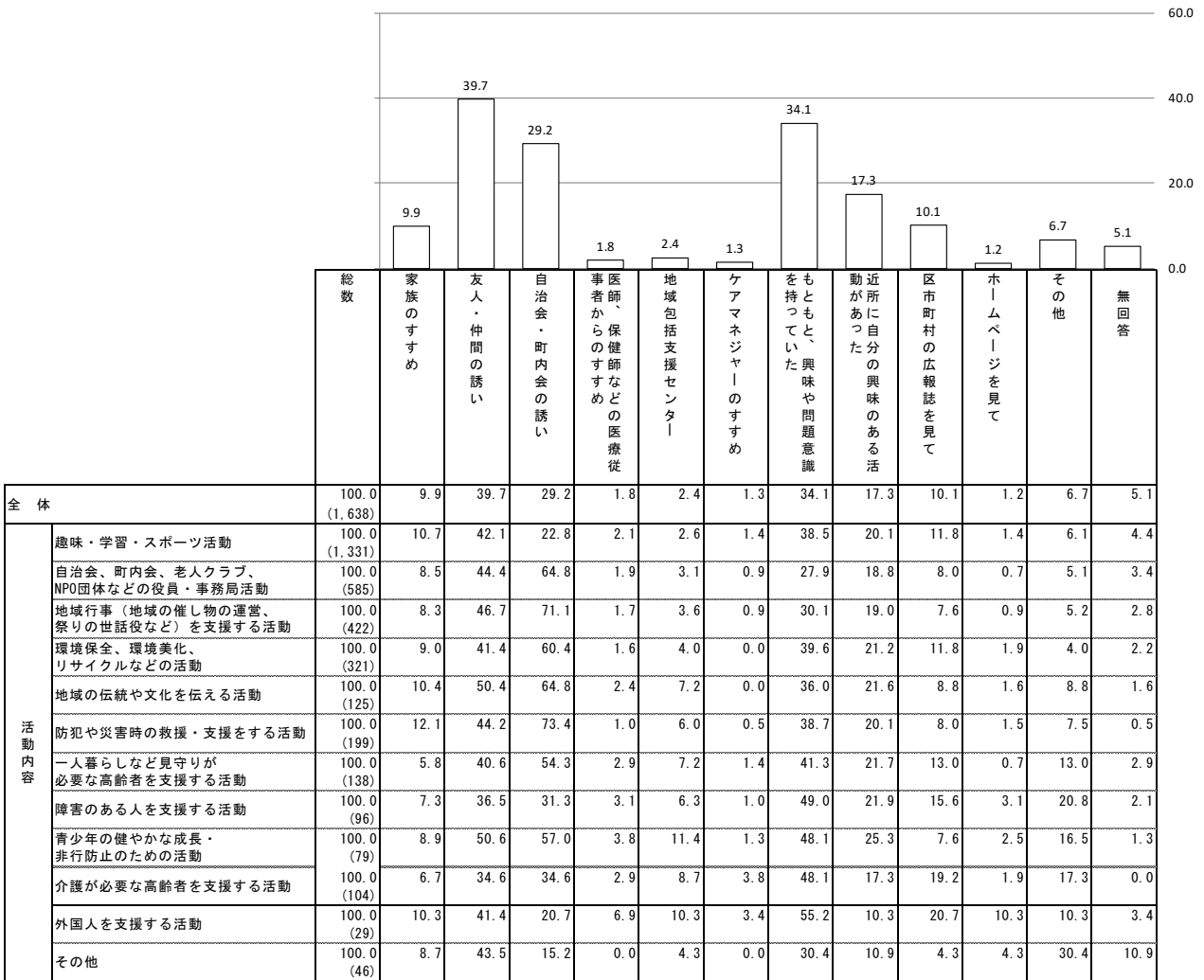
(3) 活動のきっかけ (問 40-1)

ア 活動のきっかけ (活動内容別)

問 40 (1) でこの一年間に図表 11-1-1 に列挙する活動をしたと回答した方に活動のきっかけについて聞いたところ、「友人・仲間の誘い」が 39.7%で最も高く、次いで「もともと、興味や問題意識を持っていた」が 34.1%、「自治会・町内会の誘い」が 29.2%となっている。

活動内容別にみると、「自治会・町内会の誘い」(全体 29.2%)は「防犯や災害時の救援・支援をする活動」で 73.4%、「地域行事を支援する活動」で 71.1%と 7 割を超え、活動内容によって大きな差異が顕著な結果となった。また、「もともと、興味や問題意識を持っていた」(全体 34.1%)では「外国人を支援する活動」で 55.2%と最も高く、過半数となった。(図表 11-3)

図表 11-3 活動のきっかけ



(4) 参加している活動の主体 (問 40-2)

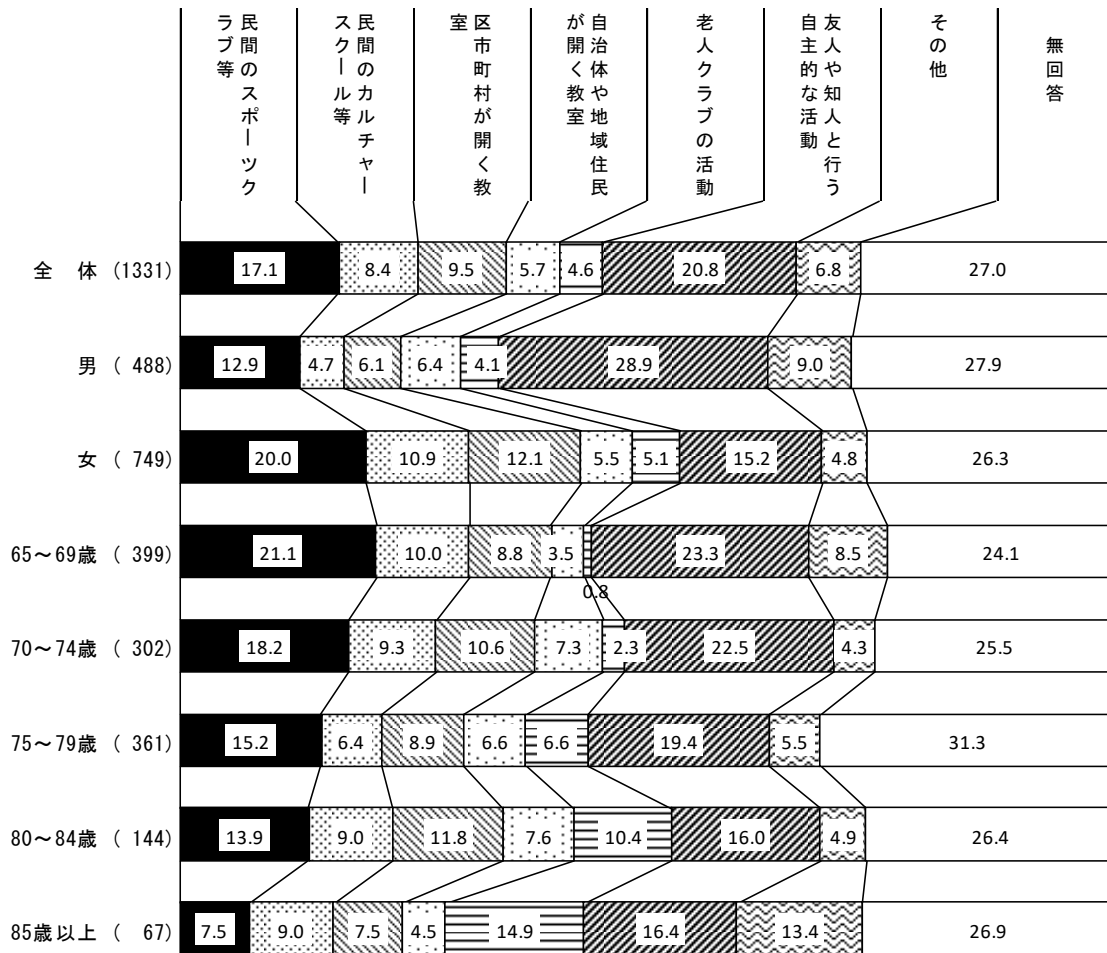
ア 参加している活動の主体 (性別、年齢階級別)

問 40 (1) で「趣味・学習・スポーツ活動」を選んだ方に参加している活動の主体について聞いたところ、「友人や知人と行う自主的な活動」が 20.8%で最も高く、次いで「民間のスポーツクラブ等」が 17.1%となっている。

活動の主体について、性別にみると、「民間のスポーツクラブ等」は男性が 12.9%、女性が 20.0%で女性の方が 7.1 ポイント上回っている。「友人や知人と行う自主的な活動」では女性が 15.2%、男性が 28.9%で男性の方が 13.7 ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、「民間のスポーツクラブ等」は年齢階級が上がるにつれて、割合が低くなっている。(図表 11-4)

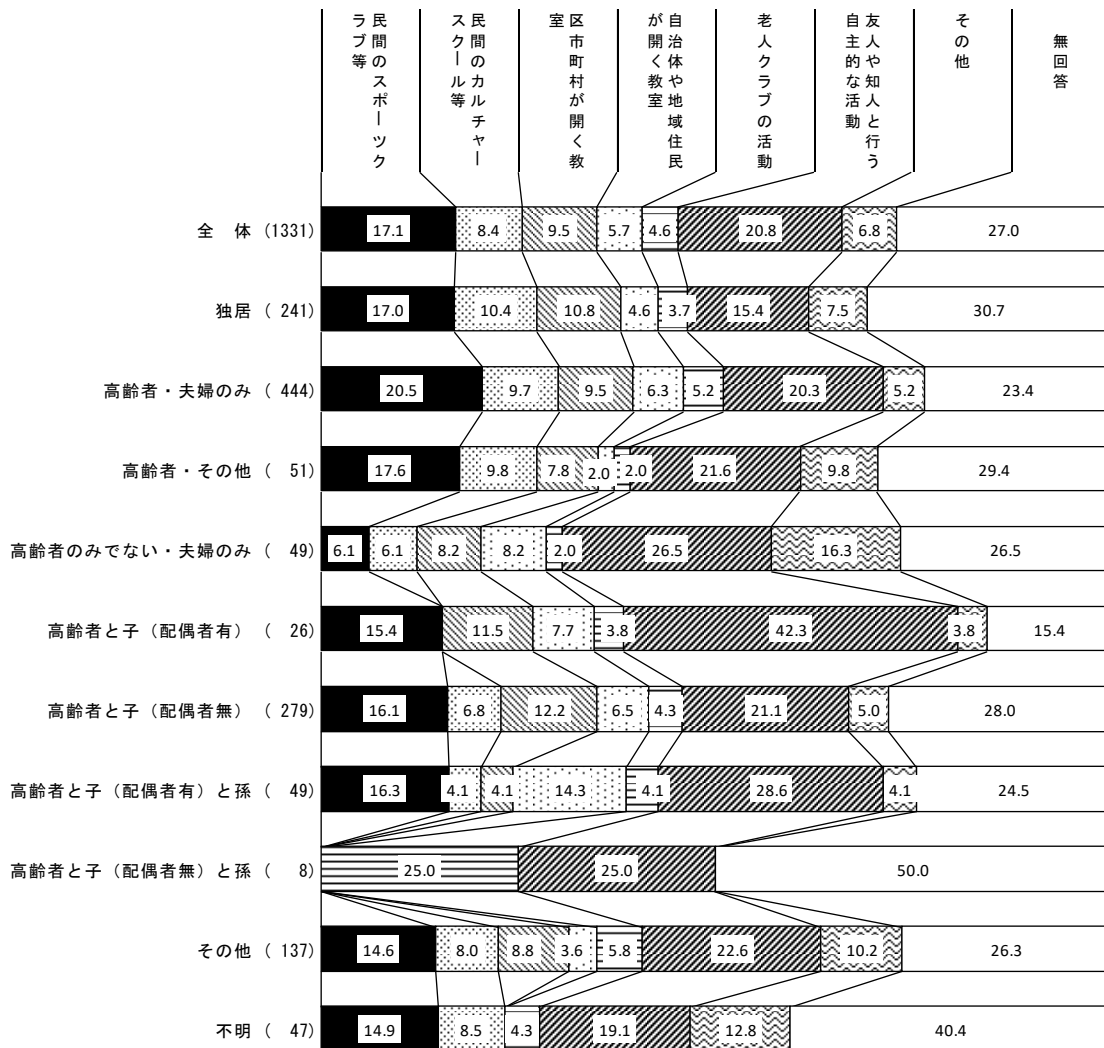
図表 11-4 参加している活動の主体 (性別、年齢階級別)



イ 参加している活動の主体（世帯類型別）

参加している活動の主体について、世帯類型別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、「友人や知人と行う自主的な活動」は「高齢者と子（配偶者有）と孫」が28.6%と高くなっている。（図表 11-4-1）

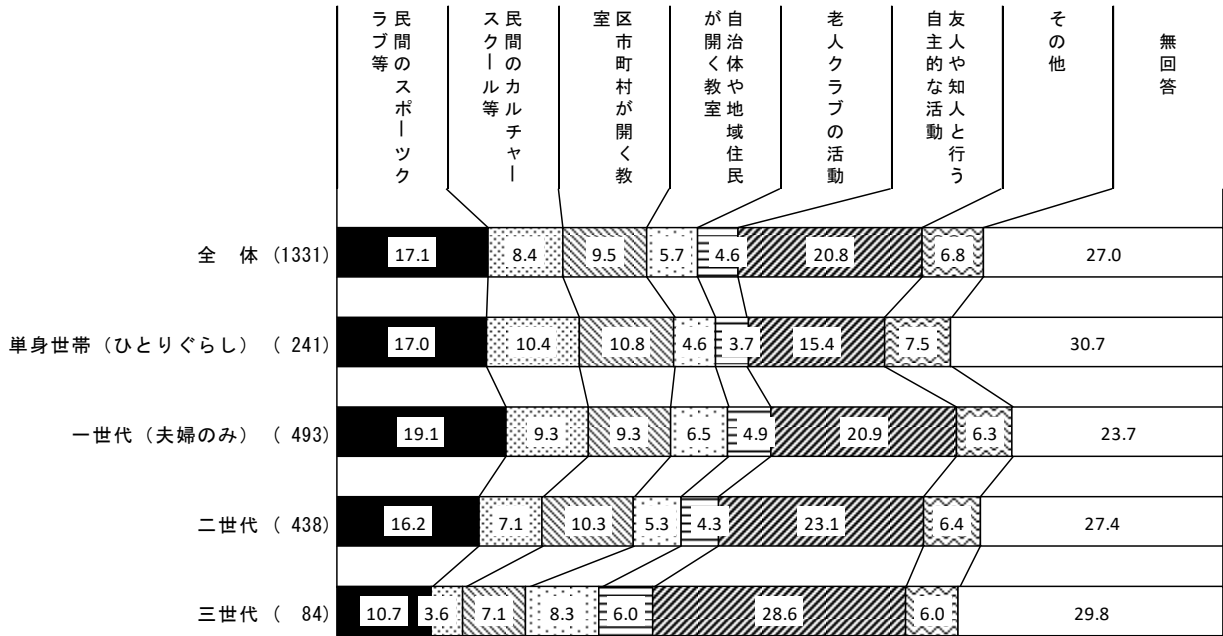
図表 11-4-1 参加している活動の主体（世帯類型別）



ウ 参加している活動の主体（世帯構成（世代）別）

参加している活動の主体について、世帯構成（世代）別にみると、「友人や知人を行う自主的な活動」は「三世代」が28.6%と高くなっている。（図表 11-4-2）

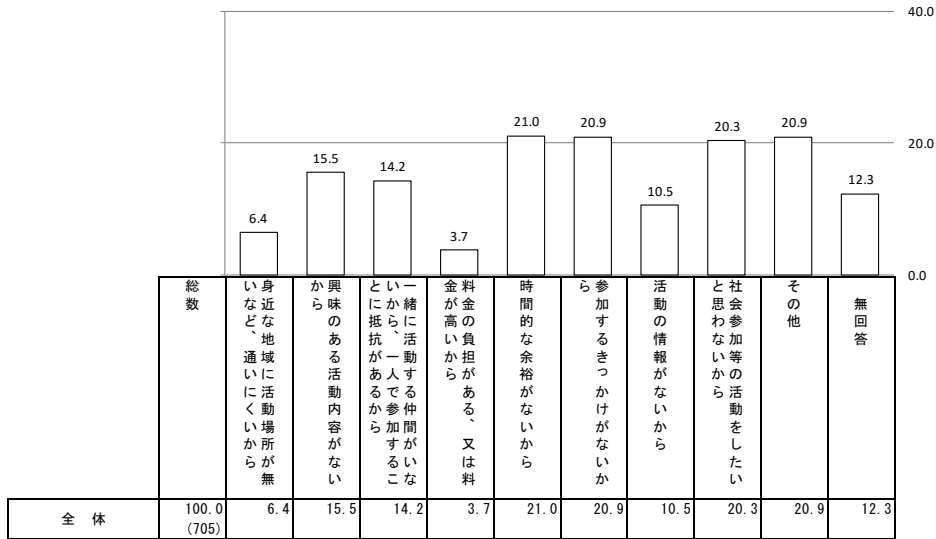
図表 11-4-2 参加している活動の主体（世帯構成（世代）別）



(5) 参加しない理由 (問 40-3)

問 40 (1) で「活動はしていない(今後も参加予定はない)」を選んだ方に活動に参加しない理由について聞いたところ、「時間的な余裕がないから」が 21.0%で最も高く、次いで「参加するきっかけがないから」が 20.9%、「社会参加等の活動をしたと思わないから」が 20.3%となっている。(図表 11-5)

図表 11-5 参加しない理由



ア 参加しない理由（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別）

参加しない理由について、性別にみると、「時間的な余裕がないから」は男性が16.5%、女性が24.3%で女性の方が7.8ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、年齢階級が上がるにつれて、「時間的な余裕がないから」の割合が低くなっている。

世帯構成（世代）別にみると、「一世代（夫婦のみ）」は「参加するきっかけがないから」が26.8%で比較的高くなっている。（図表11-5-1）

図表 11-5-1 参加しない理由（性別、年齢階級別、世帯類型別、世帯構成（世代）別）

		総数	身近な地域に通いにくいから	興味のある活動内容がない	一緒に活動する仲間がいないから抵抗があるから	一緒に活動する仲間がいないから	料金の負担がある、又は料金が安いから	時間的な余裕がないから	参加するきっかけがないから	活動の情報がないから	社会参加等の活動をしたくないから	その他	無回答
全 体		100.0 (705)	6.4	15.5	14.2	3.7	21.0	20.9	10.5	20.3	20.9	12.3	
性別	男	100.0 (291)	6.5	17.9	16.2	3.8	16.5	26.5	11.7	24.4	16.5	11.7	
	女	100.0 (346)	5.5	12.7	11.0	3.5	24.3	16.8	8.7	17.9	25.4	13.3	
年齢階級別	65～69歳	100.0 (207)	4.3	17.4	17.4	4.8	30.9	28.0	12.6	13.5	13.5	12.1	
	70～74歳	100.0 (150)	6.0	15.3	14.7	4.0	23.3	24.0	9.3	28.0	14.0	12.0	
	75～79歳	100.0 (130)	4.6	12.3	9.2	2.3	18.5	20.8	9.2	22.3	24.6	10.8	
	80～84歳	100.0 (92)	8.7	19.6	16.3	5.4	12.0	15.2	12.0	18.5	25.0	13.0	
	85歳以上	100.0 (97)	11.3	10.3	13.4	2.1	9.3	8.2	8.2	23.7	35.1	16.5	
世帯類型	独居	100.0 (133)	5.3	13.5	9.8	5.3	14.3	15.0	13.5	21.1	24.1	15.8	
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (189)	7.9	18.5	14.8	3.2	24.9	28.0	13.8	17.5	16.9	9.5	
	高齢者・その他	100.0 (32)	3.1	21.9	18.8	6.3	21.9	28.1	9.4	21.9	15.6	15.6	
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (35)	5.7	14.3	17.1	5.7	20.0	20.0	8.6	25.7	14.3	17.1	
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (19)	5.3	15.8	21.1	-	15.8	15.8	5.3	31.6	15.8	15.8	
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (141)	7.1	14.2	14.9	4.3	17.0	17.0	7.1	19.1	24.8	14.9	
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (35)	8.6	8.6	2.9	-	8.6	5.7	2.9	28.6	25.7	17.1	
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (4)	25.0	50.0	50.0	25.0	50.0	50.0	50.0	50.0	-	25.0	
	その他	100.0 (94)	4.3	12.8	16.0	1.1	29.8	22.3	8.5	17.0	25.5	5.3	
	不明	100.0 (23)	4.3	17.4	17.4	4.3	34.8	26.1	8.7	21.7	8.7	4.3	
世帯構成（世代）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (133)	5.3	13.5	9.8	5.3	14.3	15.0	13.5	21.1	24.1	15.8	
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (224)	7.6	17.9	15.2	3.6	24.1	26.8	12.9	18.8	16.5	10.7	
	二世帯	100.0 (241)	6.2	15.8	15.8	3.7	21.2	19.9	6.6	21.2	22.8	12.4	
	三世帯	100.0 (61)	8.2	11.5	8.2	1.6	19.7	9.8	8.2	27.9	24.6	11.5	

(6) 活動の効果の認知度 (問 41)

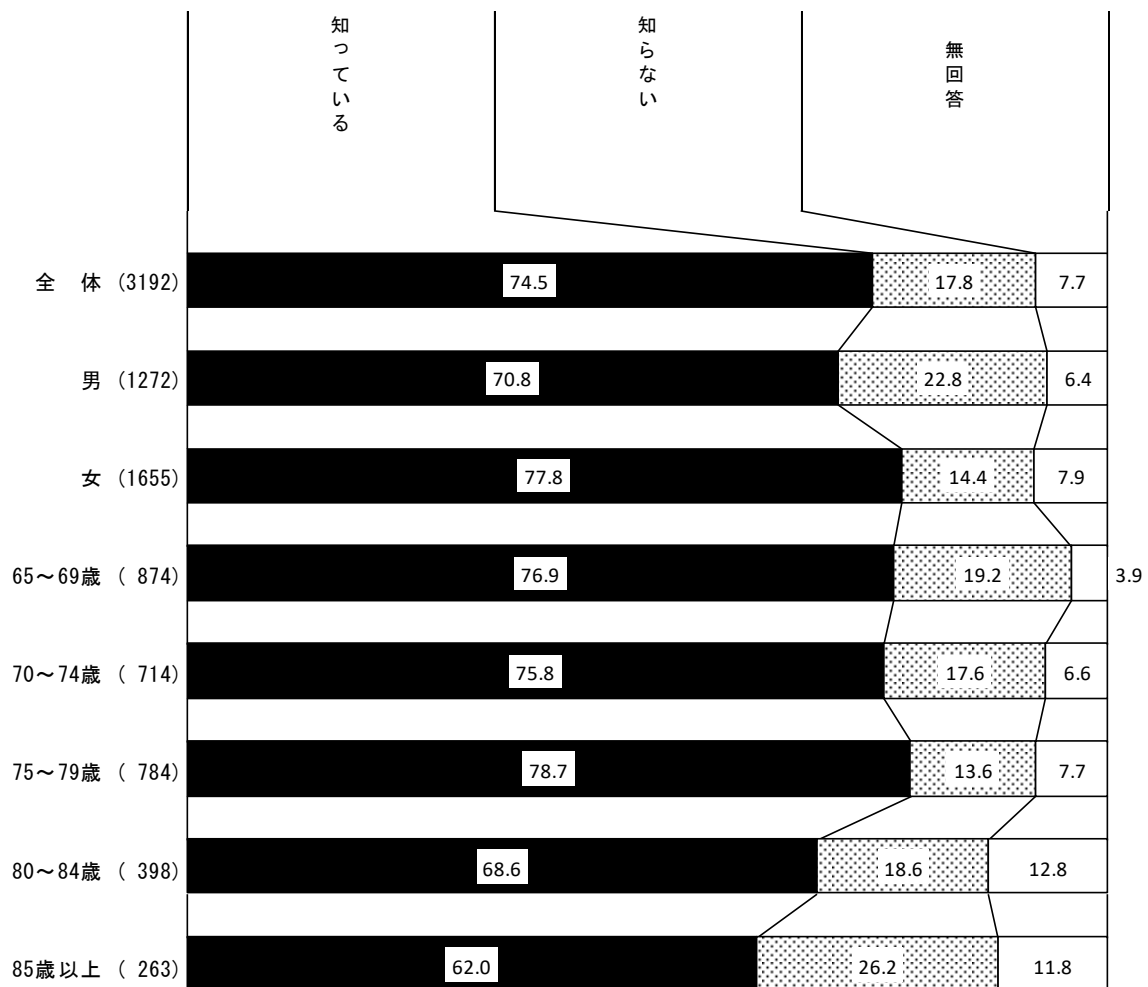
ア 活動の効果の認知度 (性別、年齢階級別)

対象者全員に問 40 のような社会参加の活動が、心身の衰えを防ぐ効果があることを知っているか聞いたところ、「知っている」が 74.5%、「知らない」が 17.8%となっている。

活動の効果の認知度について、性別で見ると、「知っている」は男性が 70.8%、女性が 77.8%で女性の方が 7.0 ポイント高くなっている。

年齢階級別にみると、「知っている」は 75～79 歳が 78.7%と最も高くなっている。(図表 11-6)

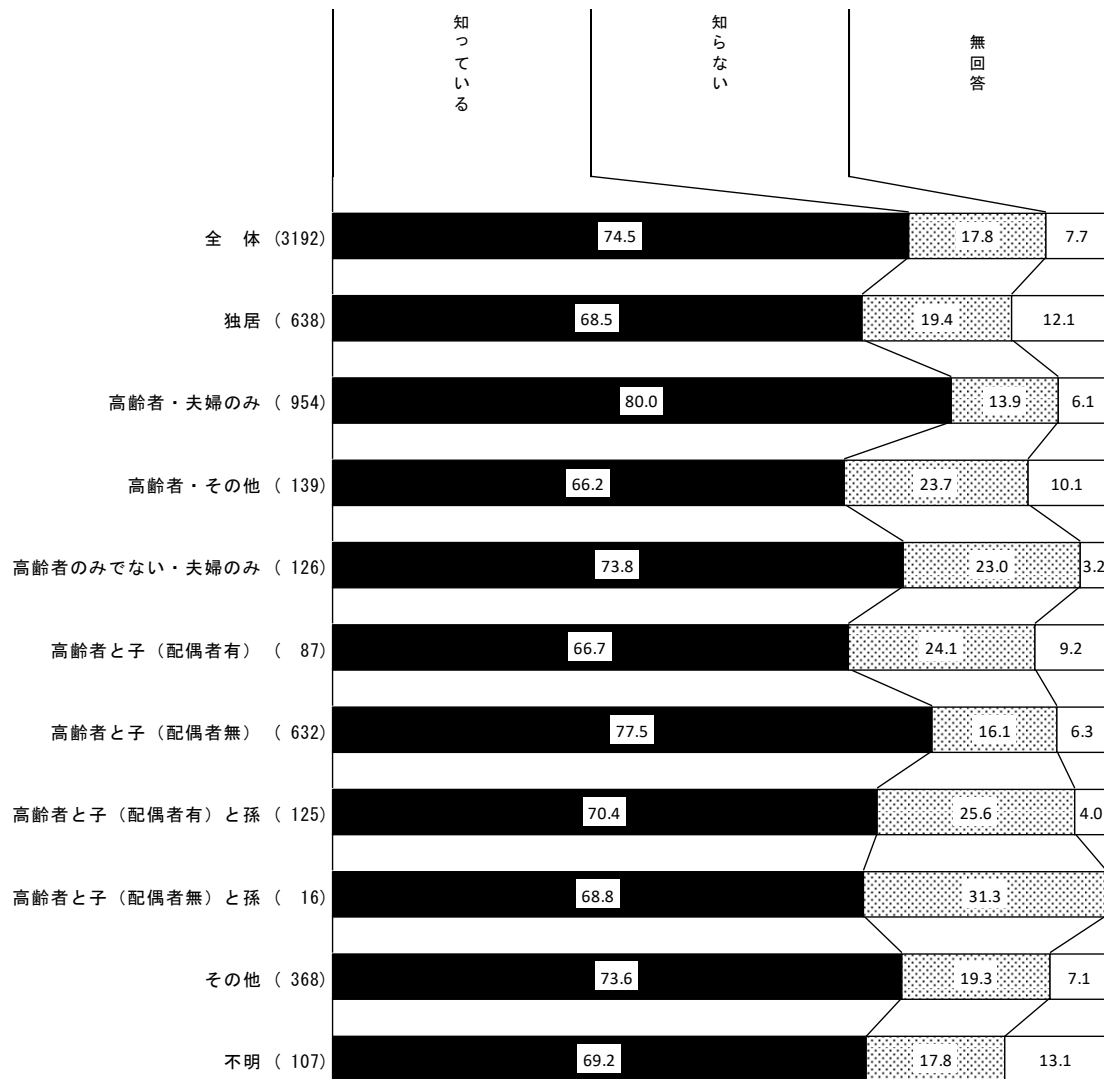
図表 11-6 活動の効果の認知度 (性別、年齢階級別)



イ 活動の効果の認知度（世帯類型別）

活動の効果の認知度について、世帯類型別で見ると、「知っている」は「高齢者・夫婦のみ」で80.0%と最も高くなっている。（図表 11-6-1）

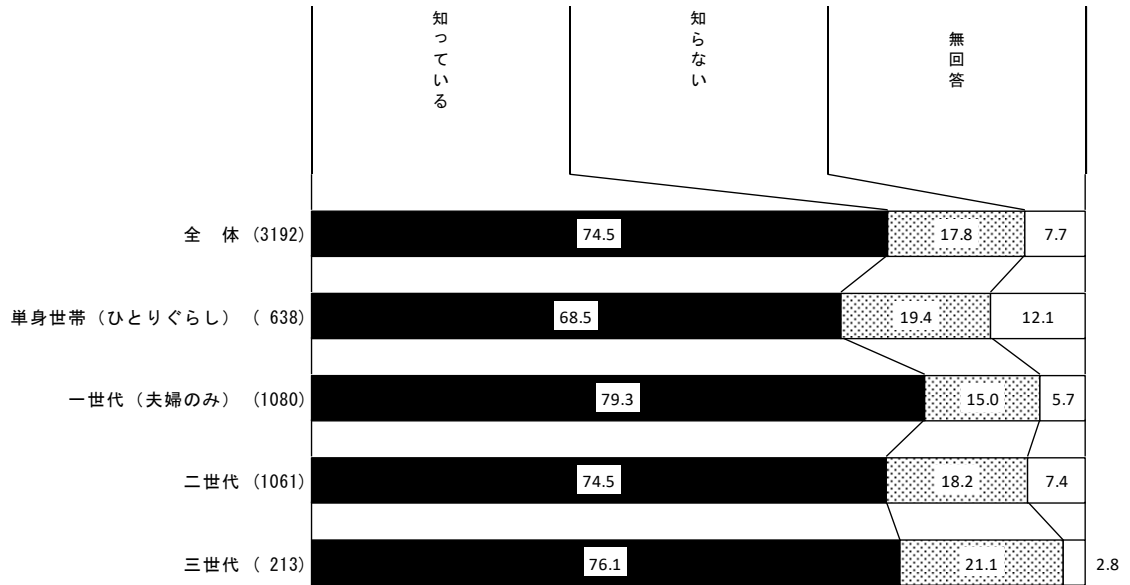
図表 11-6-1 活動の効果の認知度（世帯類型別）



ウ 活動の効果の認知度（世帯構成（世代）別）

活動の効果の認知度について、世帯構成（世代）別でみると、「知っている」は「一世代（夫婦のみ）」で79.3%と最も高くなっている。（図表 11-6-2）

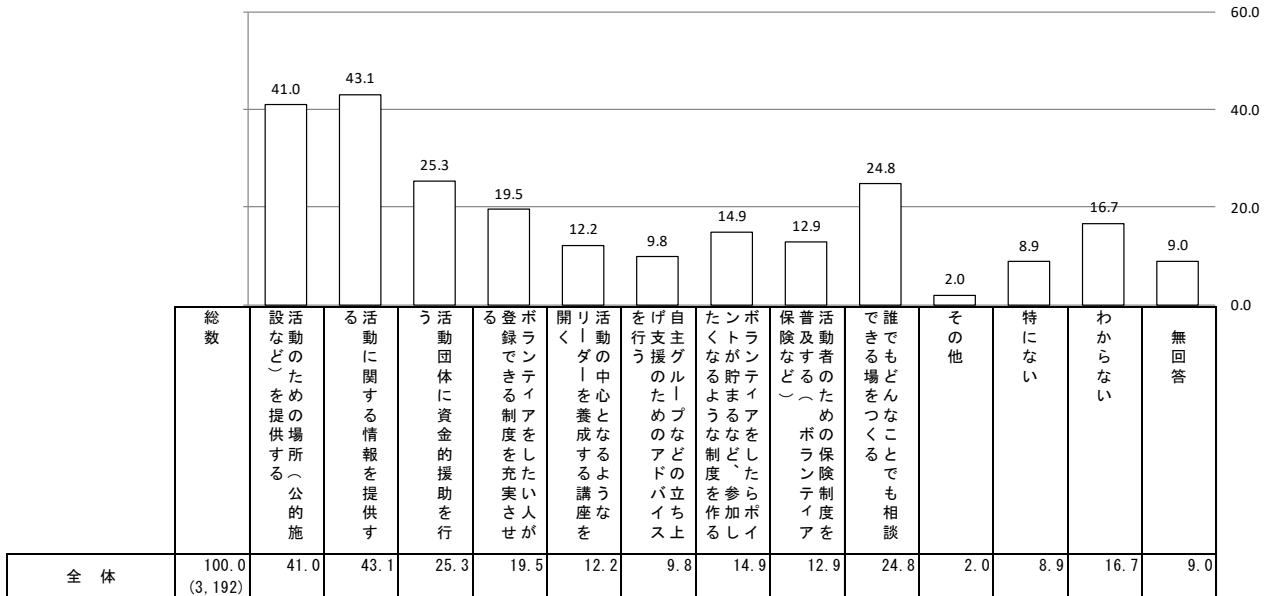
図表 11-6-2 活動の効果の認知度（世帯構成（世代）別）



(7) 必要な行政の支援 (問 42)

対象者全員に、高齢者が行うボランティア活動・地域活動・NPO活動をより盛んにするために必要な行政の支援について聞いたところ、「活動に関する情報を提供する」が43.1%で最も高く、次いで「活動のための場所（公的施設など）を提供する」が41.0%、「活動団体に資金的援助を行う」が25.3%となっている。（図表 11-7）

図表 11-7 必要な行政の支援



第12章 就労

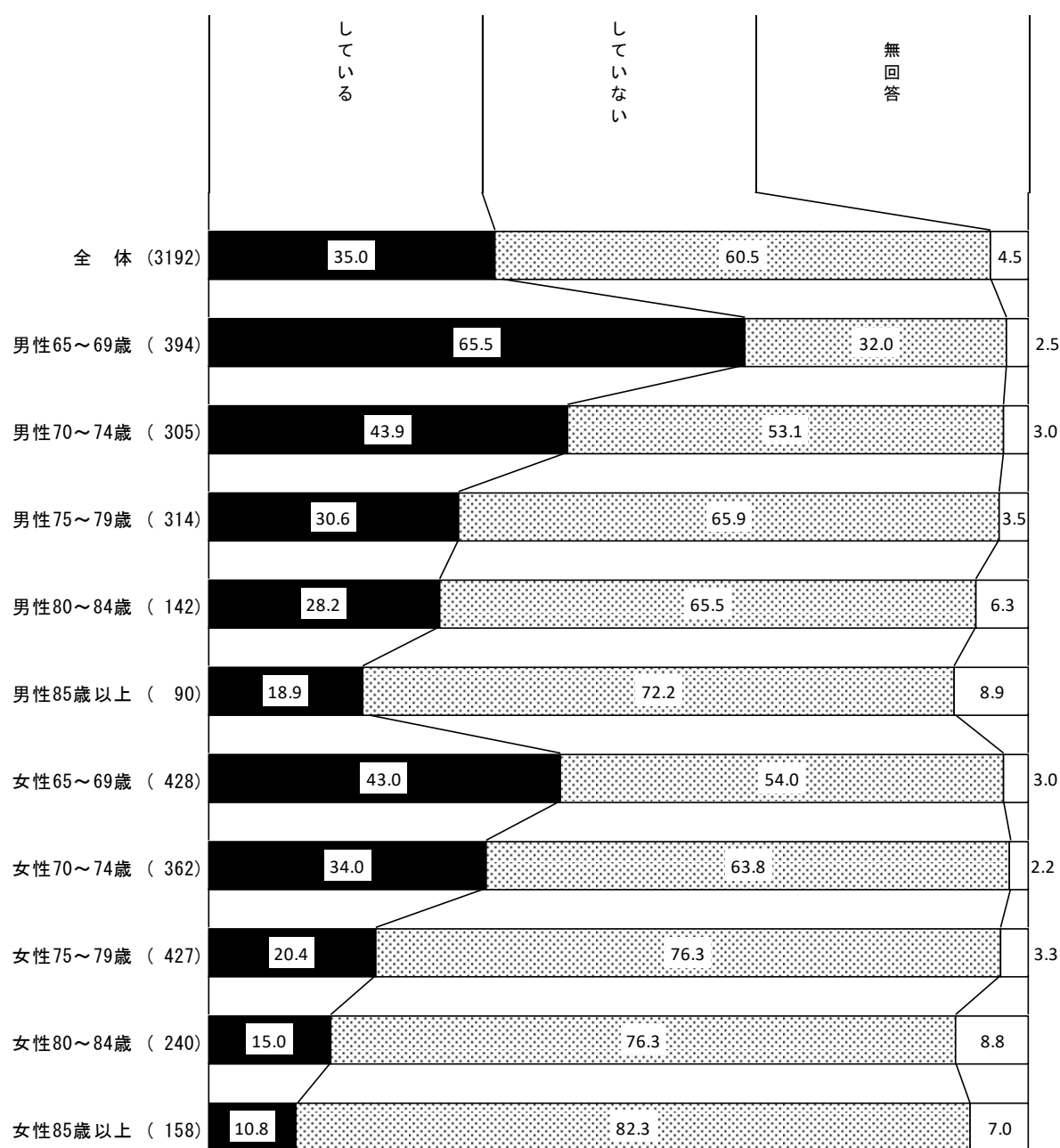
(1) 収入のある仕事の有無 (問43)

ア 収入のある仕事の有無 (性・年齢階級別)

対象者全員に収入のある仕事の有無について聞いたところ、仕事を「している」と答えた人の割合が35.0%、仕事を「していない」と答えた人の割合が60.5%となっている。

収入のある仕事の有無について、性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が上がるにつれて仕事を「している」と答えた人の割合が低くなっており、男性65～69歳が65.5%で最も高くなっている。(図表12-1)

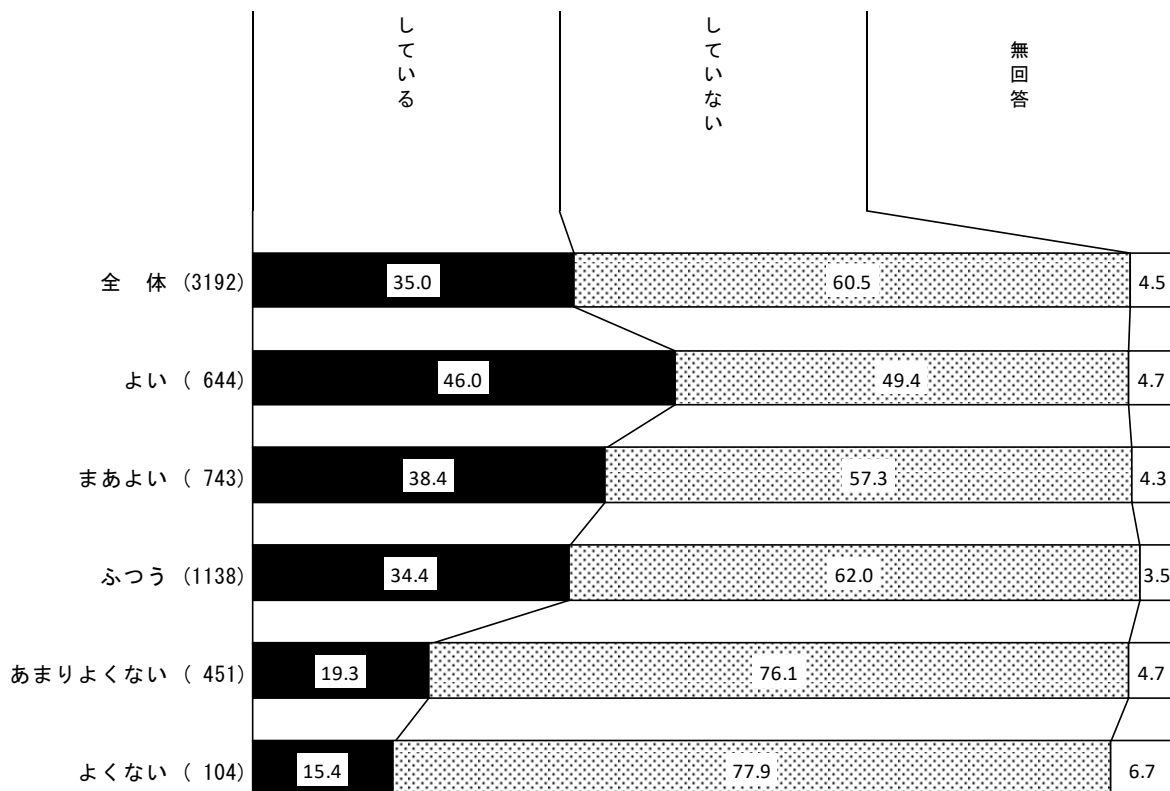
図表12-1 収入のある仕事の有無 (性・年齢階級別)



イ 収入のある仕事の有無（健康意識別）

収入のある仕事の有無について、健康意識別にみると、健康意識が高いほど仕事を「している」と答えた人の割合が高くなっている。（図表 12-1-1）

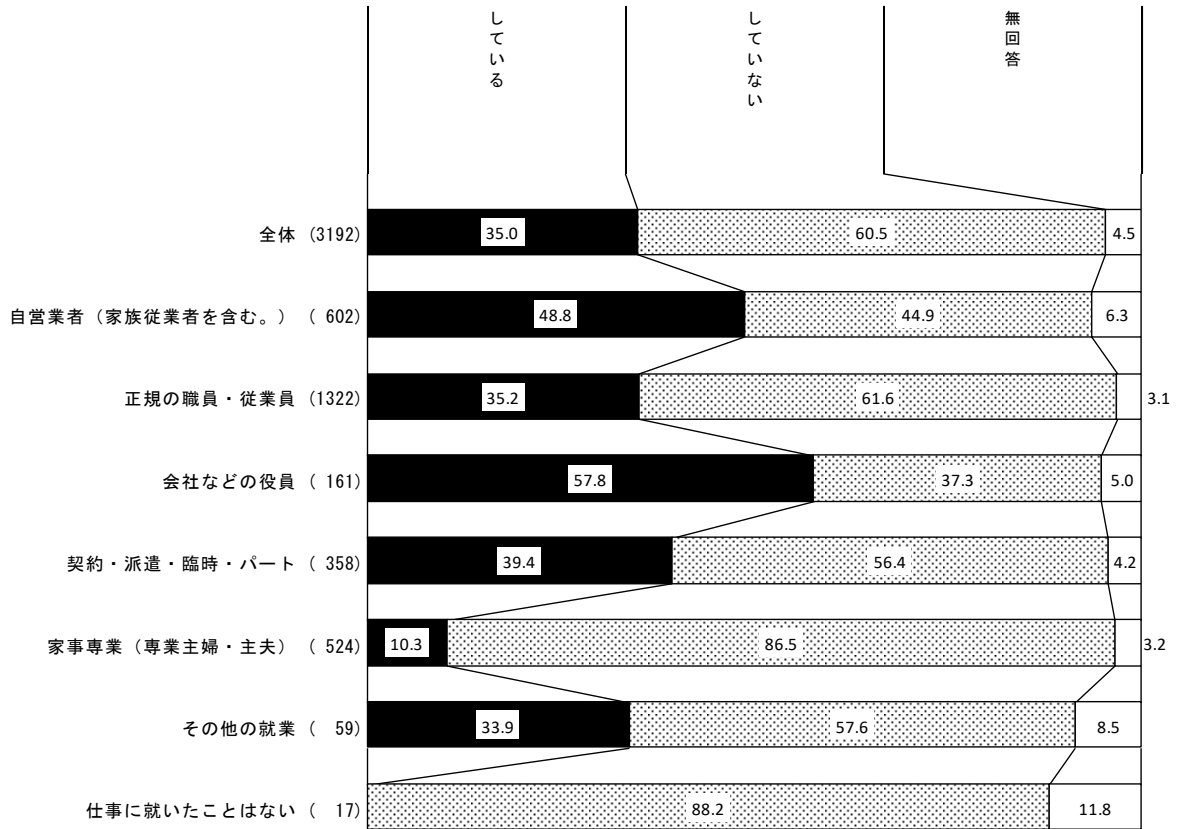
図表 12-1-1 収入のある仕事の有無（健康意識別）



ウ 収入のある仕事の有無（最長職業別）

収入のある仕事の有無について、最長職業別にみると、仕事を「している」と答えた人は「会社などの役員」が57.8%で最も高く、次いで「自営業者」が48.8%となっている。（図表 12-1-2）

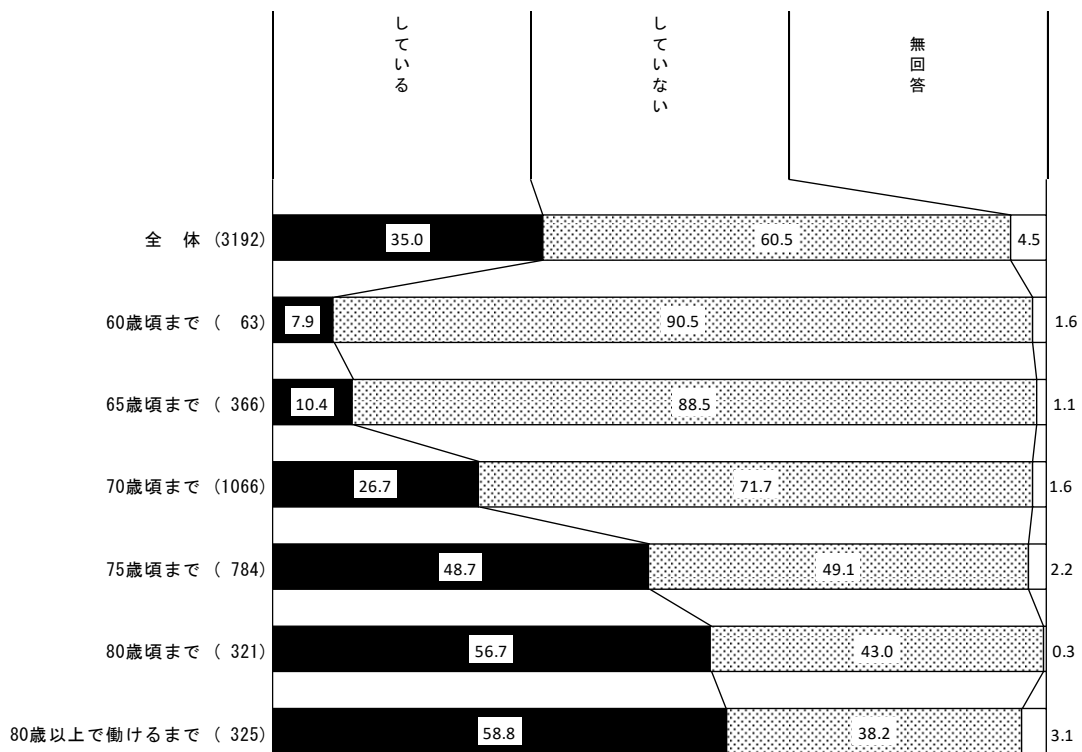
図表 12-1-2 収入のある仕事の有無（最長職業別）



エ 収入のある仕事の有無（働いていたい年齢別）

収入のある仕事の有無について、働いていたい年齢別にみると、高齢まで就労希望がある人ほど仕事を「している」と答えた人の割合が高い傾向がみられる。（図表 12-1-3）

図表 12-1-3 収入のある仕事の有無（働いていたい年齢別）



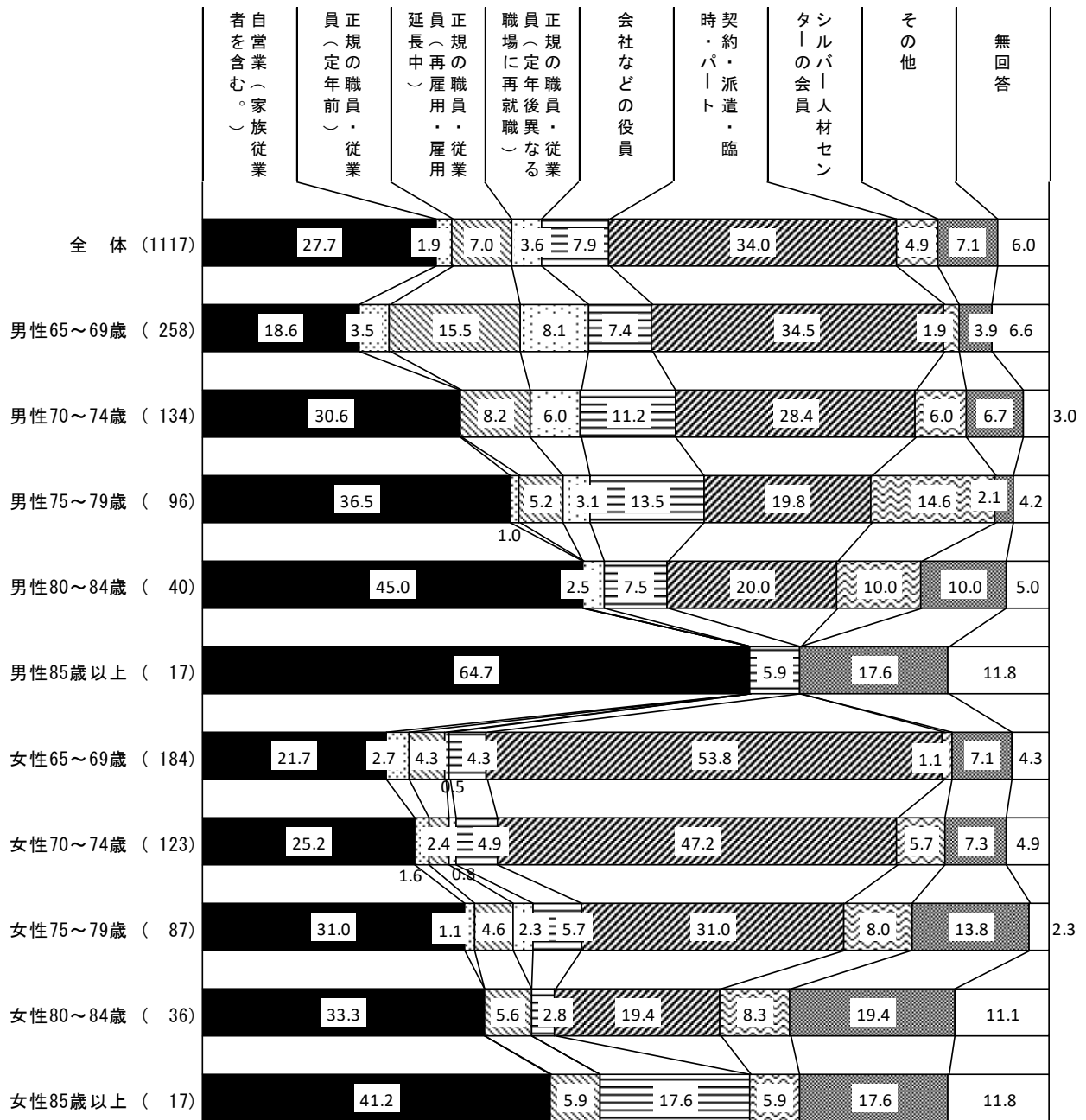
(2) 仕事の形態 (問 43-1)

ア 仕事の形態 (性・年齢階級別)

問 43 で仕事を「している」を選んだ方に仕事の形態について聞いたところ、「契約・派遣・臨時・パート」が 34.0%で最も高く、次いで「自営業 (家族従業者を含む)」が 27.7%となっている。

現在の仕事の形態について、性・年齢階級別にみると、「自営業」は男女ともに年齢階級が上がるにつれて割合が高くなっている。(図表 12-2)

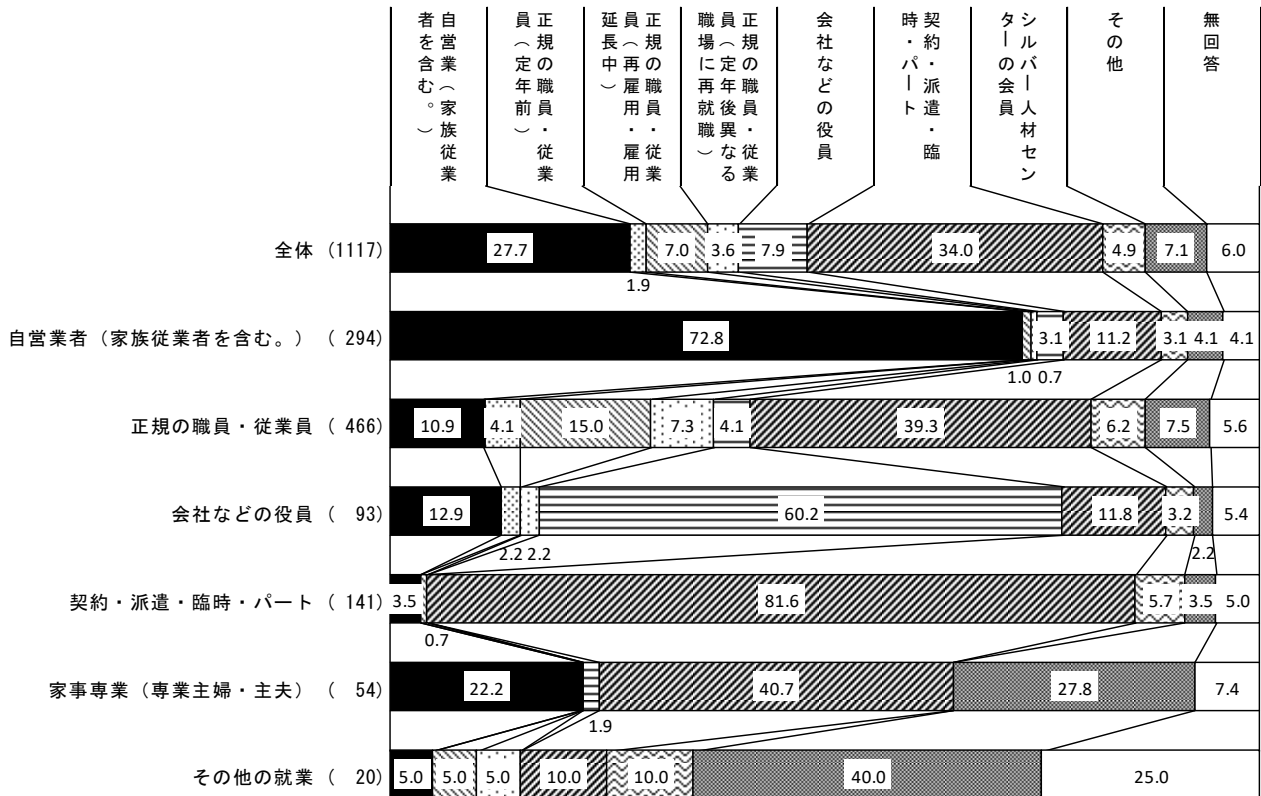
図表 12-2 仕事の形態 (性・年齢階級別)



イ 仕事の形態（最長職業別）

現在の仕事の形態について、最長職業別にみると、「自営業者」（72.8%）・「会社などの役員」（60.2%）・「契約・派遣・臨時・パート」（81.6%）はそのまま現職と一致している。「正規の職員・従業員」（39.3%）と「家事専業」（40.7%）は「契約・派遣・臨時・パート」が最も高かった。（図表 12-2-2）

図表 12-2-2 仕事の形態（最長職業別）



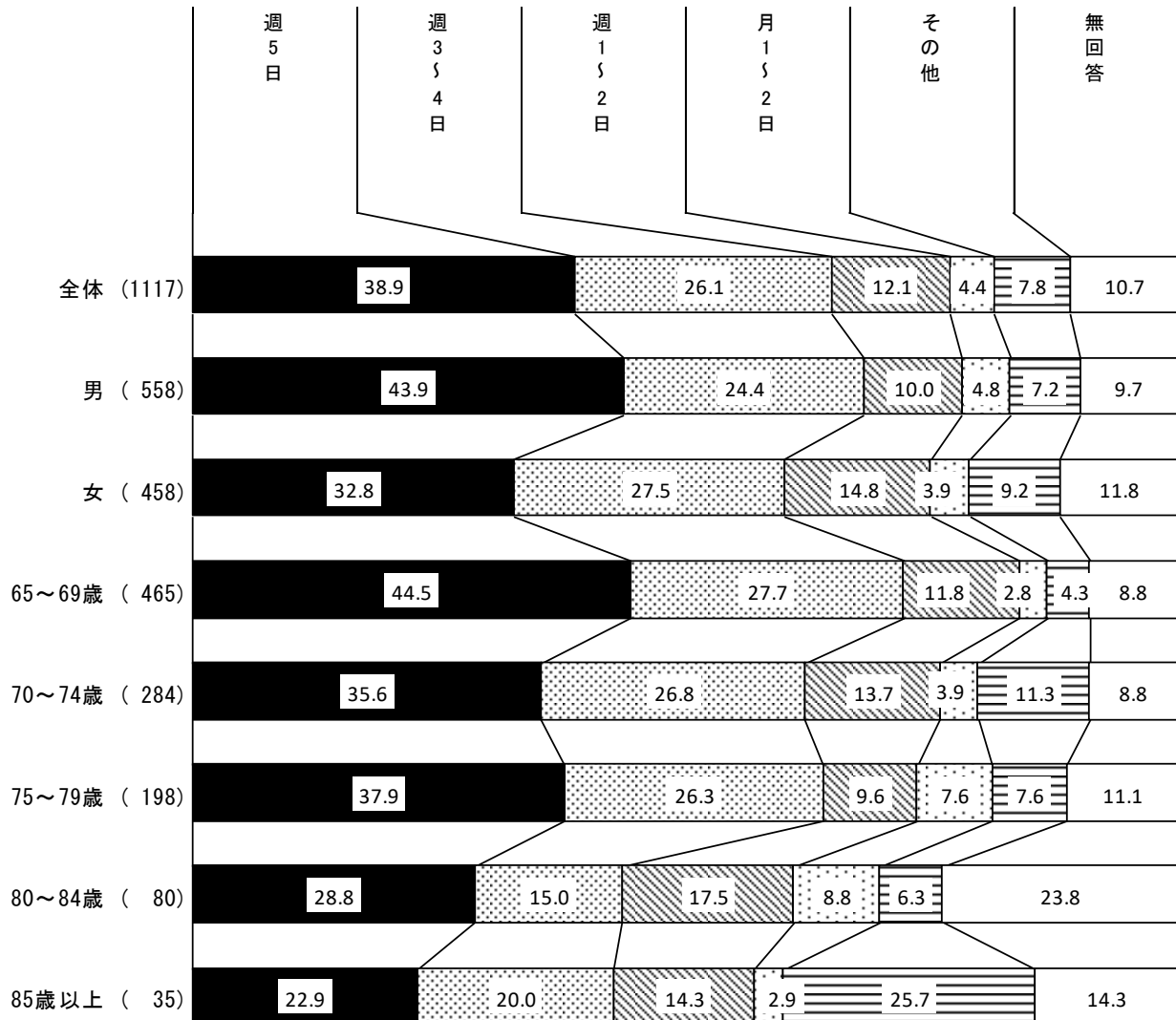
(3) 仕事の頻度 (問 43-2)

ア 仕事の頻度 (性別、年齢階級別)

問 43 で仕事を「している」を選んだ方に仕事の頻度について聞いたところ、「週 5 日」が 38.9% で最も高く、次いで「週 3~4 日」が 26.1%、「週 1~2 日」が 12.1%となっている。

仕事の頻度について、性別にみると、「週 5 日」は女性が 32.8%、男性が 43.9%で男性の方が 11.1 ポイント上回っている。(図表 12-3)

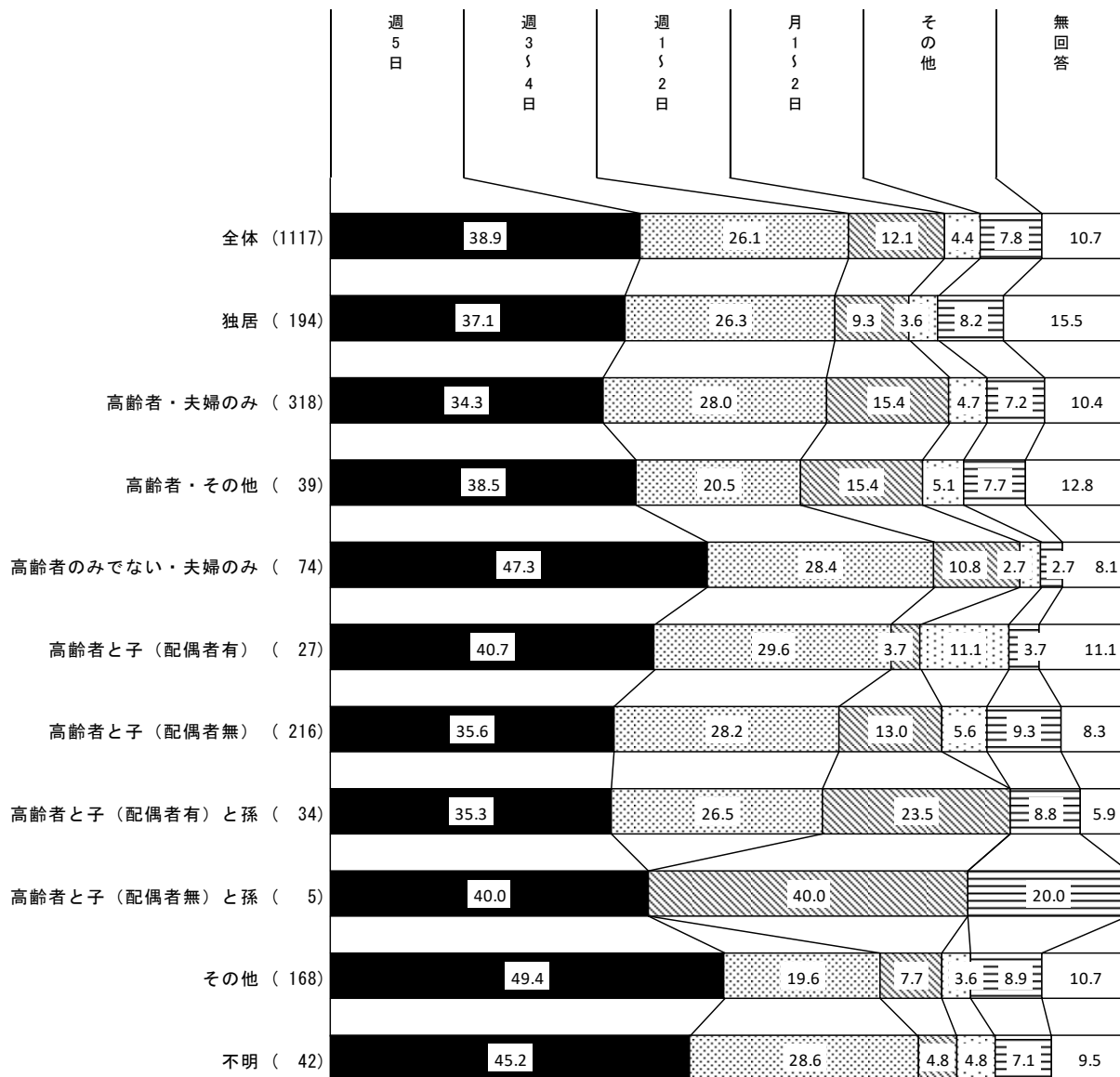
図表 12-3 仕事の頻度 (性別、年齢階級別)



イ 仕事の頻度（世帯類型別）

仕事の頻度について、世帯類型別にみると、「週5日」は「高齢者のみでない・夫婦のみ」が47.3%で最も高くなっている。（図表 12-3-1）

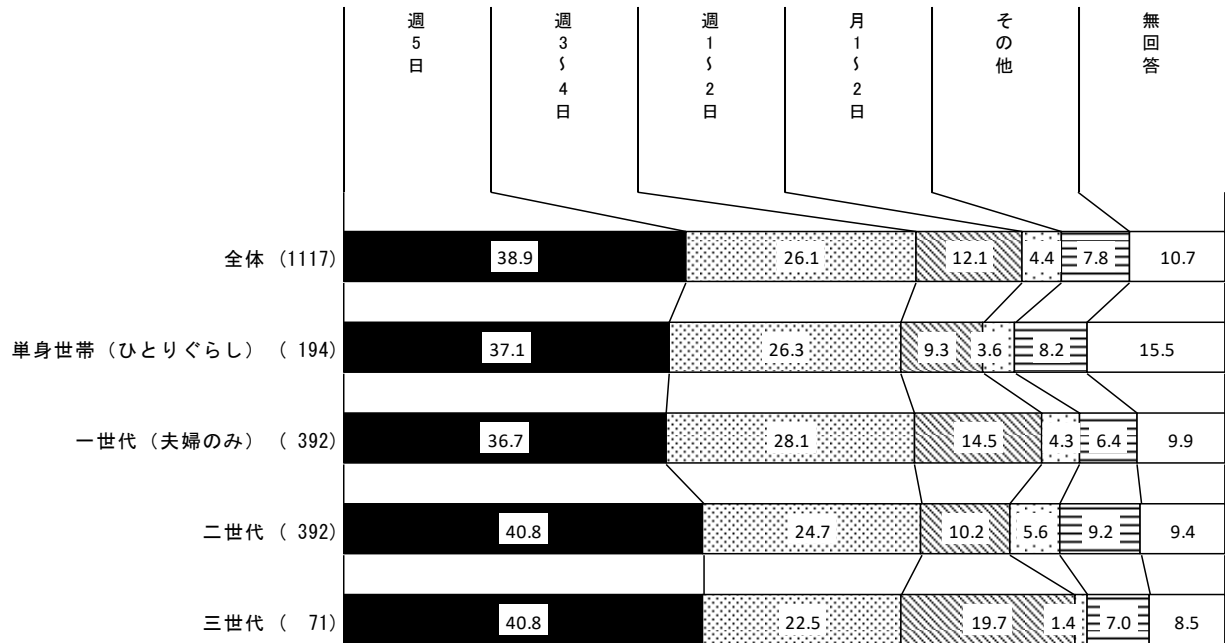
図表 12-3-1 仕事の頻度（世帯類型別）



ウ 仕事の頻度（世帯構成（世代）別）

仕事の頻度について、世帯構成（世代）別にみると、「週1～2日」は「三世代」が19.7%で最も高くなっている。（図表 12-3-2）

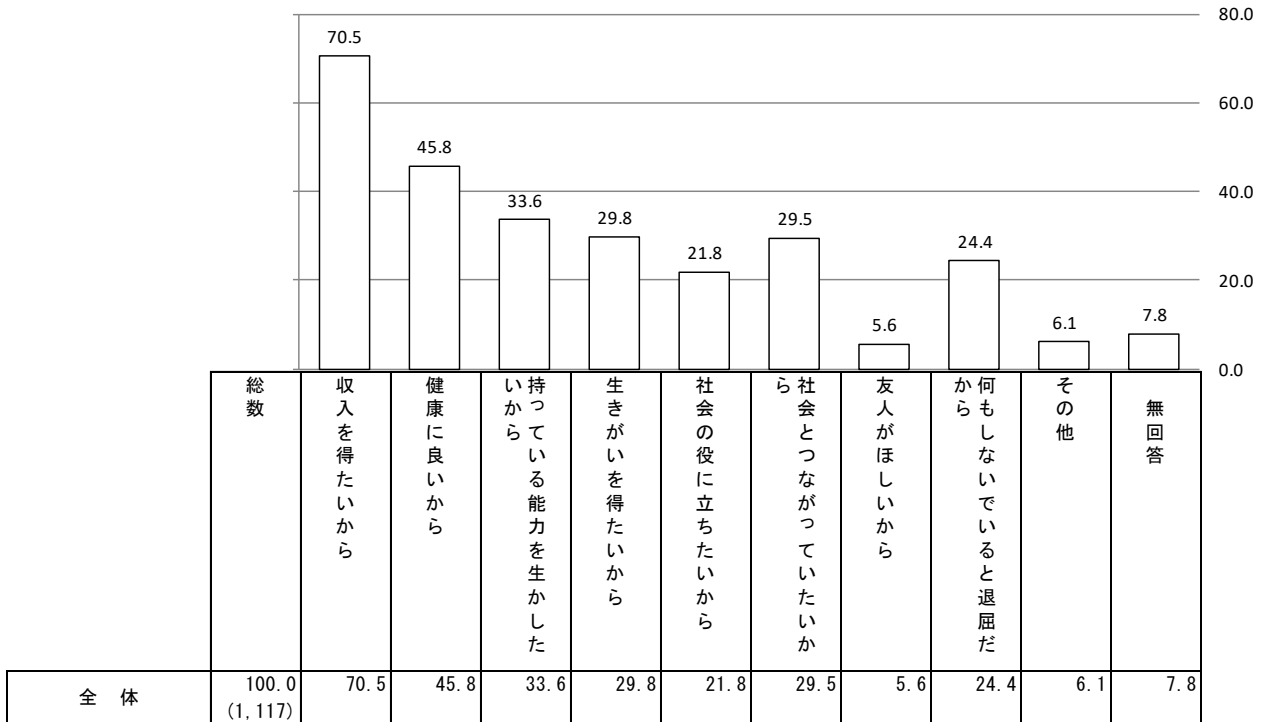
図表 12-3-2 仕事の頻度（世帯構成（世代）別）



(4) 仕事をしている理由 (問 43-3)

問 43 で仕事を「している」を選んだ方に仕事をしている理由について聞いたところ、「収入を得たいから」が 70.5%で最も高く、次いで「健康に良いから」が 45.8%、「持っている能力を生かしたいから」が 33.6%となっている。(図表 12-4)

図表 12-4 仕事をしている理由



ア 仕事をしている理由（性・年齢階級別、健康意識別、最長職業別）

仕事をしている理由について、性・年齢階級別にみると、「収入を得たいから」はサンプル数の少ない85歳以上を除くと、高齢になるにつれ割合が低くなる傾向がうかがえる。一方で、「健康に良いから」と「何もしないでいると退屈だから」は高齢になってもあまり割合は変わらない。

健康意識別にみると、「生きがいを得たいから」は健康意識と比例して、健康意識が良好なほど割合が高くなっている。

最長職業別にみると、「収入を得たいから」は「契約・派遣・臨時・パート」が78.7%で、「生きがいを得たいから」は「会社などの役員」が35.5%で、それぞれ最も高くなっている。（図表12-4-1）

図表 12-4-1 仕事をしている理由（性・年齢階級別、健康意識別、最長職業別）

		総 数	収 入 を 得 た い か ら	健 康 に 良 い か ら	持 つ て い る 能 力 を 生 か し た か ら	生 き が い を 得 た い か ら	社 会 の 役 に 立 ち た い か ら	社 会 と つ な が つ て い た い か ら	友 人 が ほ し い か ら	何 も し な い で い る と 退 屈 だ か ら	そ の 他	無 回 答
全 体		100.0 (1,117)	70.5	45.8	33.6	29.8	21.8	29.5	5.6	24.4	6.1	7.8
性・ 年 齢 階 級 別	男性65～69歳	100.0 (258)	79.8	46.1	40.3	28.7	26.4	29.1	6.6	27.1	3.9	5.0
	男性70～74歳	100.0 (134)	76.1	50.0	35.1	28.4	21.6	29.1	6.0	24.6	3.7	7.5
	男性75～79歳	100.0 (96)	59.4	61.5	37.5	37.5	29.2	29.2	9.4	26.0	8.3	5.2
	男性80～84歳	100.0 (40)	42.5	35.0	37.5	27.5	20.0	25.0	5.0	22.5	2.5	27.5
	男性85歳以上	100.0 (17)	70.6	47.1	17.6	23.5	17.6	5.9	-	23.5	5.9	11.8
	女性65～69歳	100.0 (184)	76.1	41.3	32.1	27.7	21.2	34.2	4.9	26.6	7.6	4.9
	女性70～74歳	100.0 (123)	72.4	43.9	27.6	30.9	17.1	26.8	2.4	17.9	10.6	6.5
	女性75～79歳	100.0 (87)	58.6	42.5	25.3	37.9	18.4	29.9	4.6	23.0	5.7	10.3
	女性80～84歳	100.0 (36)	38.9	61.1	22.2	25.0	11.1	19.4	11.1	22.2	13.9	19.4
	女性85歳以上	100.0 (17)	47.1	23.5	17.6	29.4	11.8	11.8	-	29.4	11.8	11.8
健 康 意 識	よい	100.0 (296)	68.2	50.3	38.9	35.1	26.7	30.4	5.4	22.0	8.4	6.4
	まあよい	100.0 (285)	73.0	49.8	38.9	32.6	26.3	37.9	6.0	24.6	3.9	7.4
	ふつう	100.0 (392)	69.4	42.1	28.1	23.7	16.6	24.5	6.1	28.3	5.9	8.7
	あまりよくない	100.0 (87)	69.0	35.6	25.3	29.9	17.2	21.8	4.6	24.1	8.0	6.9
	よくない	100.0 (16)	62.5	37.5	12.5	6.3	-	12.5	-	12.5	-	25.0
最 長 職 業	自営業者（家族従業者を含む。）	100.0 (294)	69.4	41.2	30.6	28.2	17.0	23.1	4.4	21.8	7.8	6.1
	正規の職員・従業員	100.0 (466)	71.2	48.9	38.8	30.5	28.1	32.4	7.1	27.3	3.9	8.2
	会社などの役員	100.0 (93)	63.4	43.0	37.6	35.5	23.7	35.5	7.5	20.4	14.0	4.3
	契約・派遣・臨時・パート	100.0 (141)	78.7	51.8	22.0	28.4	17.0	31.2	3.5	26.2	4.3	9.9
	家事専業（専業主婦・主夫）	100.0 (54)	59.3	31.5	20.4	29.6	5.6	20.4	-	29.6	11.1	9.3
	その他の就業	100.0 (20)	65.0	35.0	50.0	20.0	15.0	30.0	5.0	20.0	-	5.0

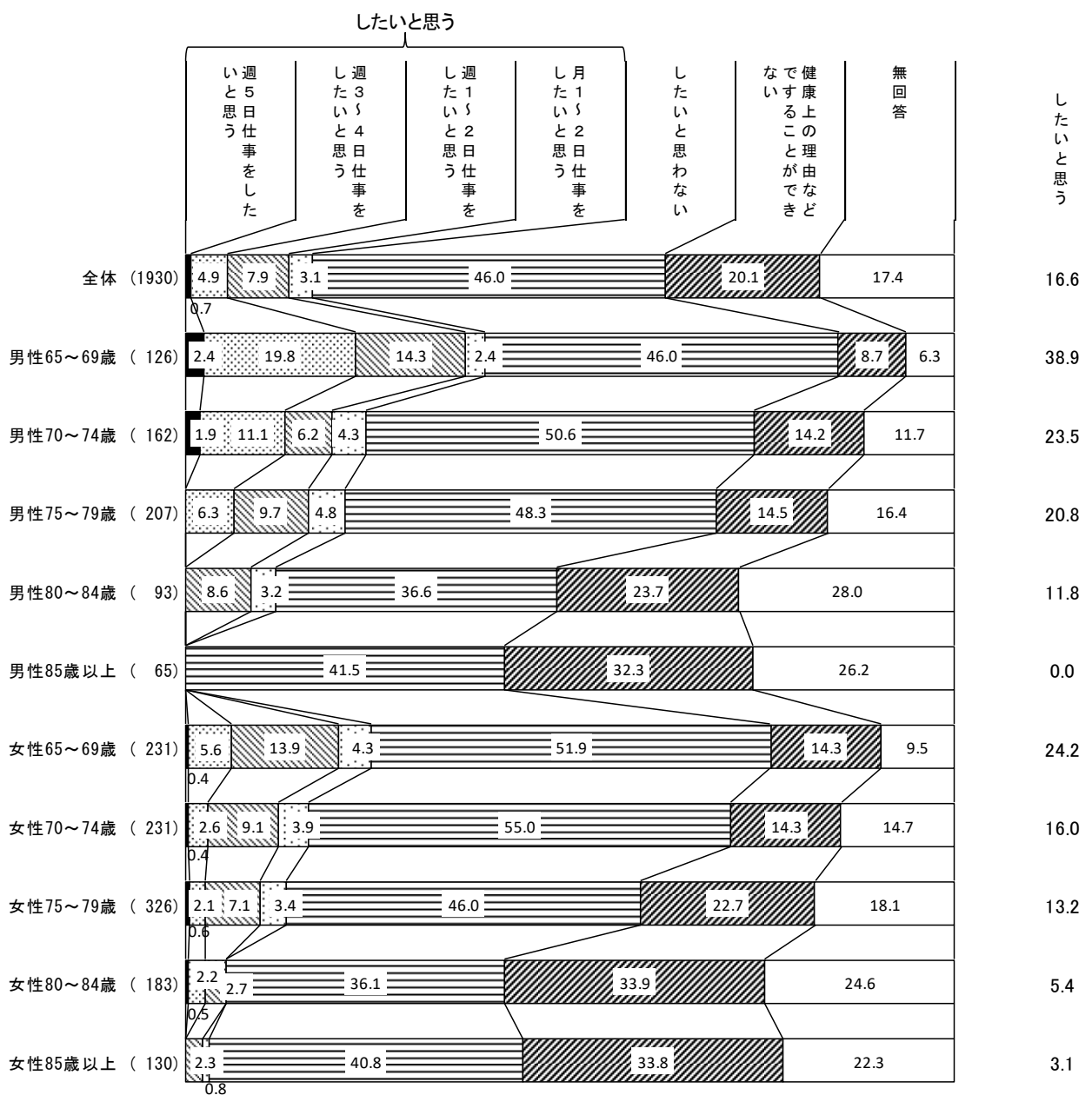
(5) 非就業者の今後の就業意向と頻度 (問 43-4)

ア 非就業者の今後の就業意向と頻度 (性・年齢階級別)

問 43 で仕事を「していない」を選んだ方に今後の就業意向と頻度について聞いたところ、「したいと思わない」が 46.0%で最も高く、次いで「健康上の理由などですることができない」が 20.1%となっている。また、頻度別の就業意向ありを合計した就業『したいと思う』人は 16.6% になっている。

今後の就業意向と頻度について、性・年齢階級別にみると、男女ともに年齢階級が上がるにつれて今後、仕事を『したいと思う』人の割合は低くなっており、総じて男性の方が女性より若干高い傾向がうかがえる。(図表 12-5)

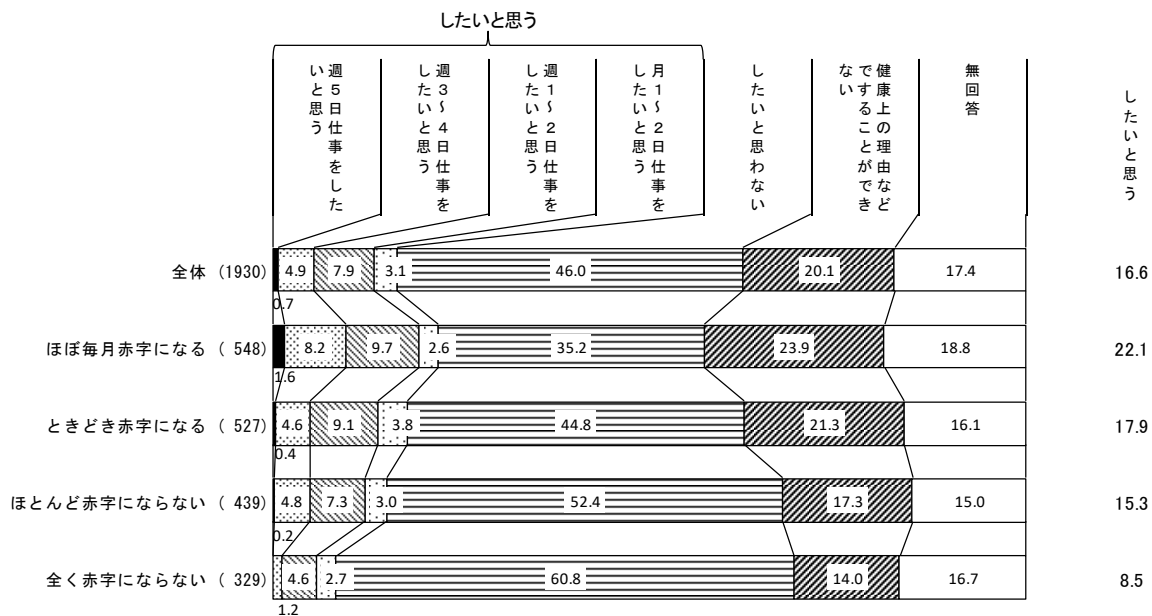
図表 12-5 非就業者の今後の就業意向と頻度 (性・年齢階級別)



イ 非就業者の今後の就業意向と頻度（家計の状況別）

非就業者の今後の仕事の頻度について、家計の状況別にみると、仕事を『したいと思う』人の割合は家計の状況がよくなるにつれ、低くなっている。（図表 12-5-1）

図表 12-5-1 非就業者の今後の就業意向と頻度（家計の状況別）



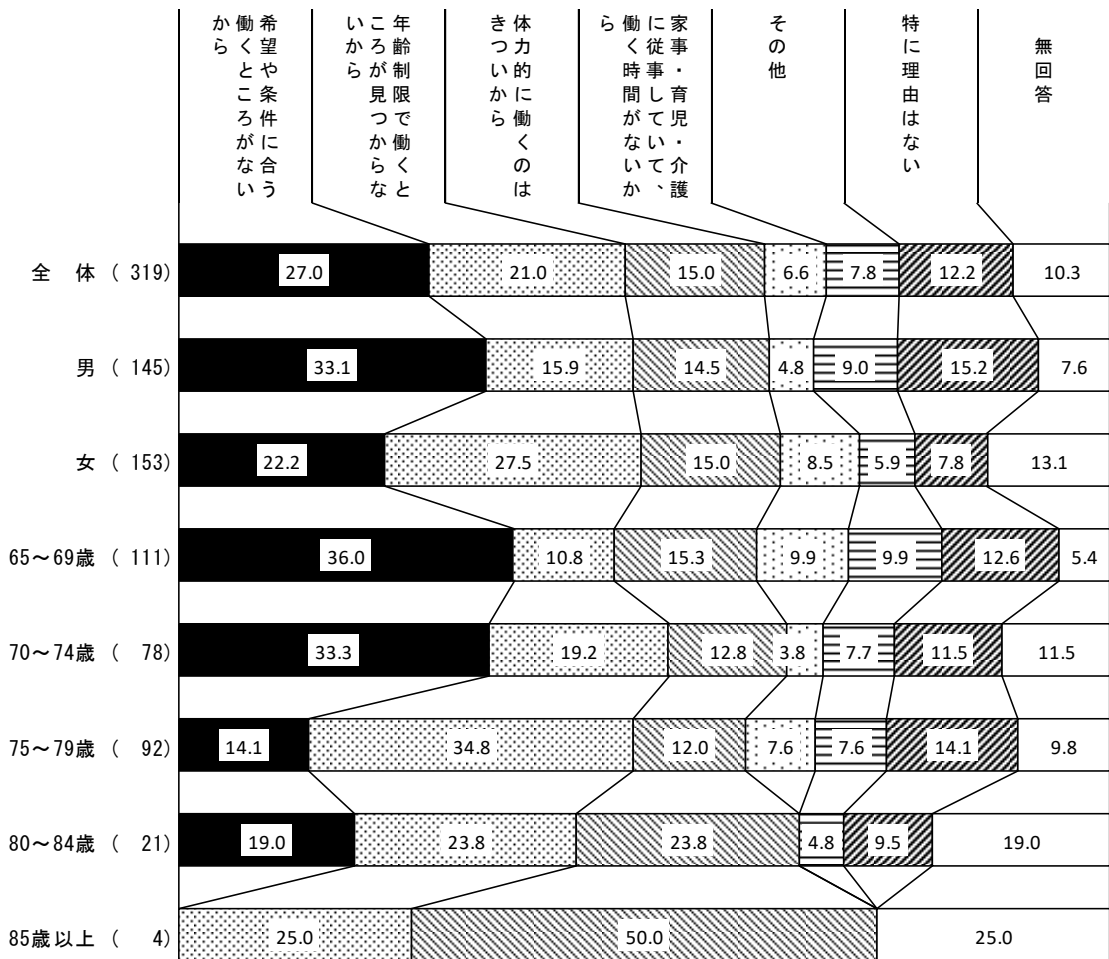
(6) 仕事をしていない理由 (問 43-5)

ア 仕事をしていない理由 (性別、年齢階級別)

問 43-4 で仕事を「したいと思う」を選んだ方に仕事をしていない理由について聞いたところ、「希望や条件に合う働くところがないから」が 27.0% で最も高く、次いで「年齢制限で働くところが見つからないから」が 21.0%、「体力的に働くのはきついから」が 15.0% となっている。

性別にみると、「年齢制限で働くところが見つからない」は男性が 15.9%、女性が 27.5% で女性の方が 11.6 ポイント上回っている。(図表 12-6)

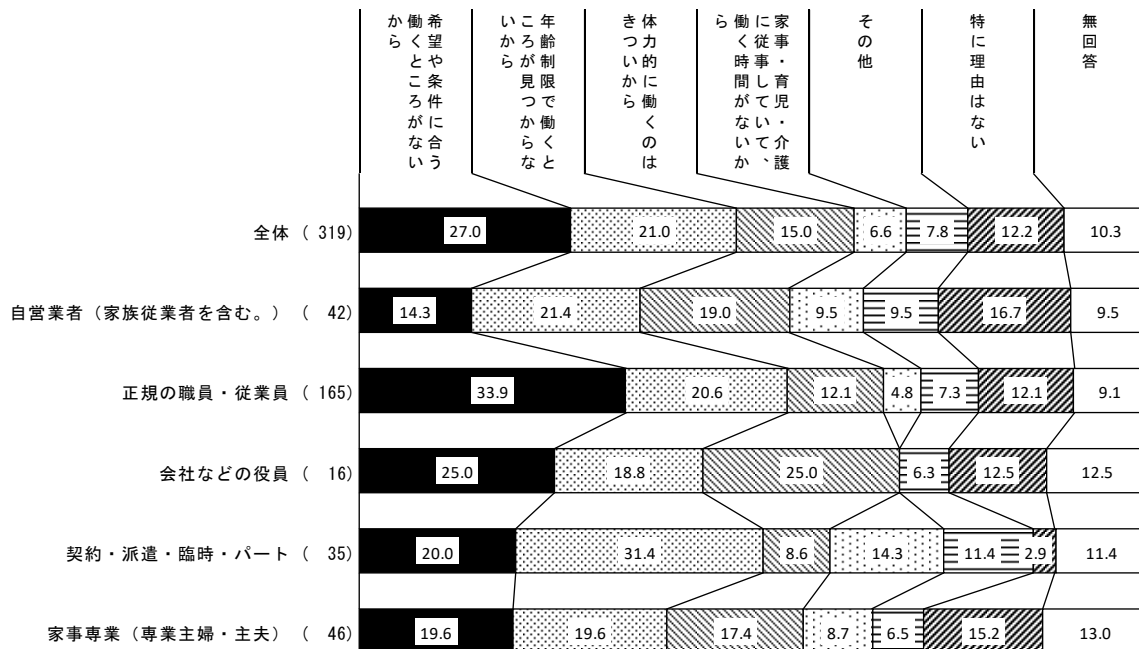
図表 12-6 仕事をしていない理由 (性別、年齢階級別)



イ 仕事をしていない理由（最長職業別）

仕事をしていない理由について、最長職業別にみると、「希望や条件に合う働くところが見つからない」は「正規の職員・従業員」が33.9%と最も高くなっている。（図表 12-6-1）

図表 12-6-1 仕事をしていない理由（最長職業別）



注) 最長職業のうち、「仕事に就いたことがない」および「その他の就業」については母集団がそれぞれなしおよび4人のため省略した。

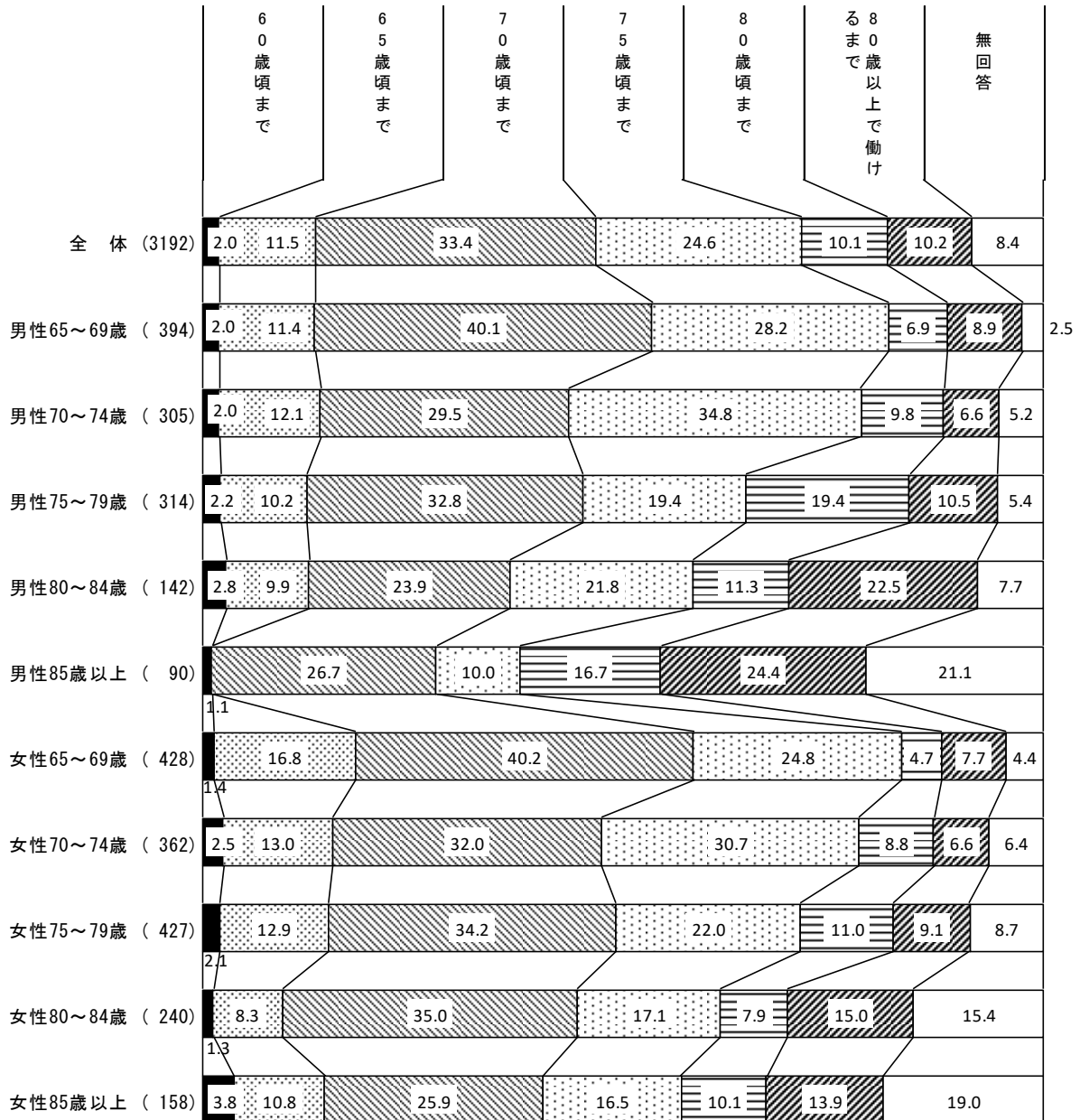
(7) 理想の就業年齢 (問 44)

ア 理想の就業年齢 (性・年齢階級別)

対象者全員に理想の就業年齢について聞いたところ、「70歳頃まで」が33.4%で最も高く、次いで「75歳頃まで」が24.6%となっている。

理想の就業年齢について、性・年齢階級別にみると、男女ともに「80歳以上で働けるまで」では60代、70代よりも80代以降の方が高くなっている。(図表 12-7)

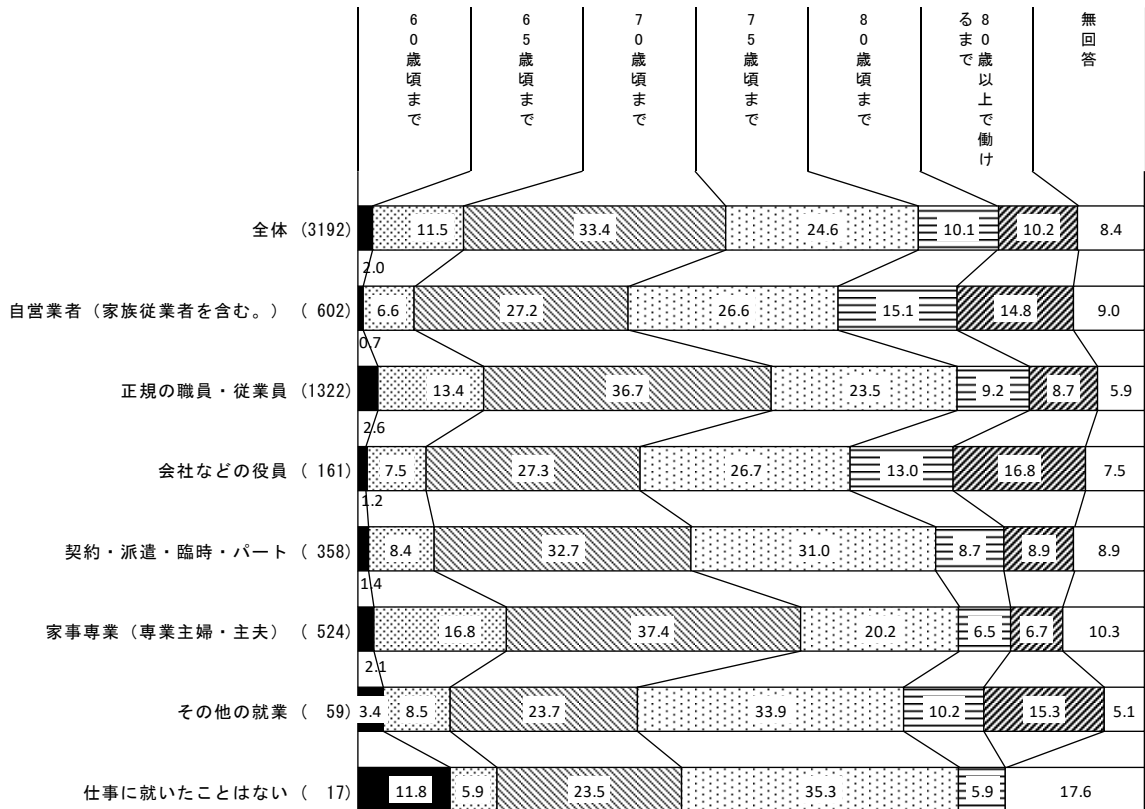
図表 12-7 理想の就業年齢 (性・年齢階級別)



イ 理想の就業年齢（最長職業別）

理想の就業年齢について、最長職業別にみると、「80歳以上で働けるまで」は「会社などの役員」が16.8%で最も高くなっている。（図表 12-7-1）

図表 12-7-1 理想の就業年齢（最長職業別）

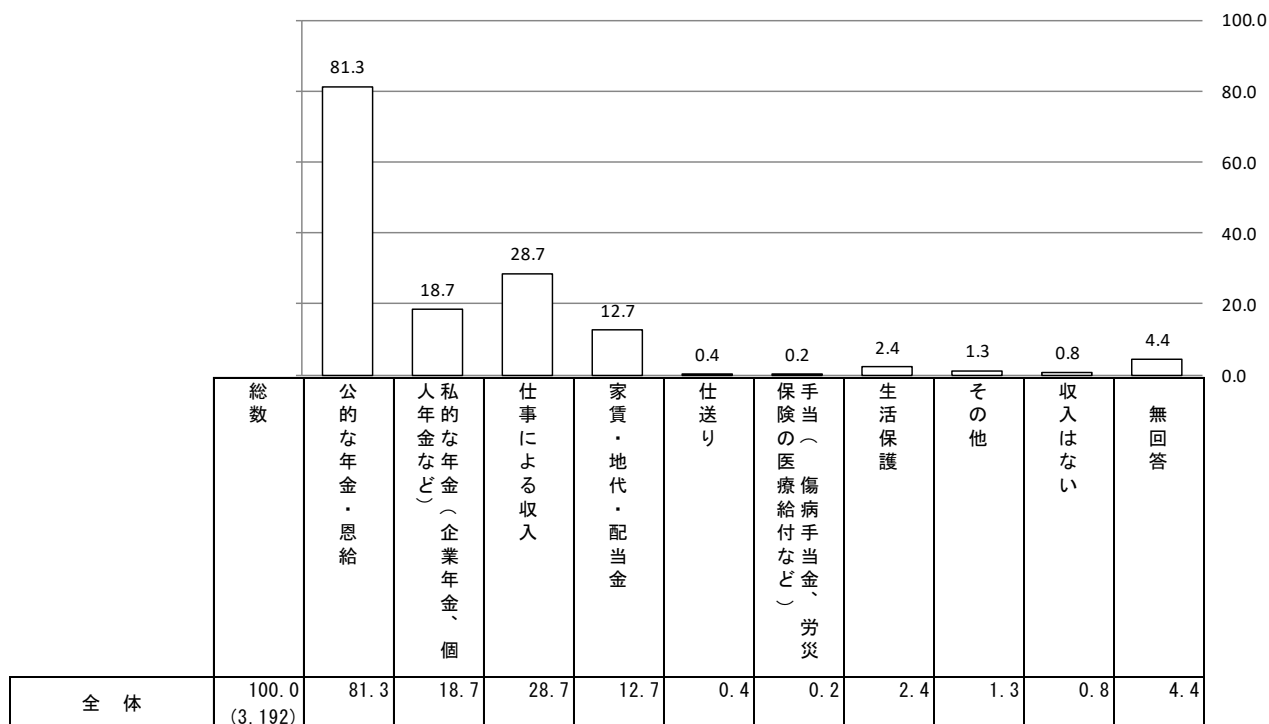


第 13 章 経済状況

(1) 収入の種類 (問 45)

対象者全員に平成 30 年中の収入の種類について聞いたところ、「公的な年金・恩給」が 81.3%で最も高く、次いで「仕事による収入」が 28.7%、「私的な年金（企業年金、個人年金など）」が 18.7%となっている。（図表 13-1）

図表 13-1 収入の種類



ア 収入の種類（性・年齢階級別、最長職業別、世帯類型別）

収入の種類について、性・年齢階級別にみると、「公的な年金・恩給」はいずれの階級においても7割以上を占めている。「仕事による収入」は「男性65～69歳」が62.9%で最も高くなっている。

最長職業別にみると、「仕事による収入」は「会社などの役員」が47.8%で最も多く、次いで「自営業者」が41.5%となっている。

世帯類型別にみると、「仕事による収入」は「高齢者のみでない・夫婦のみ」が54.8%と高くなっている。（図表 13-1-1）

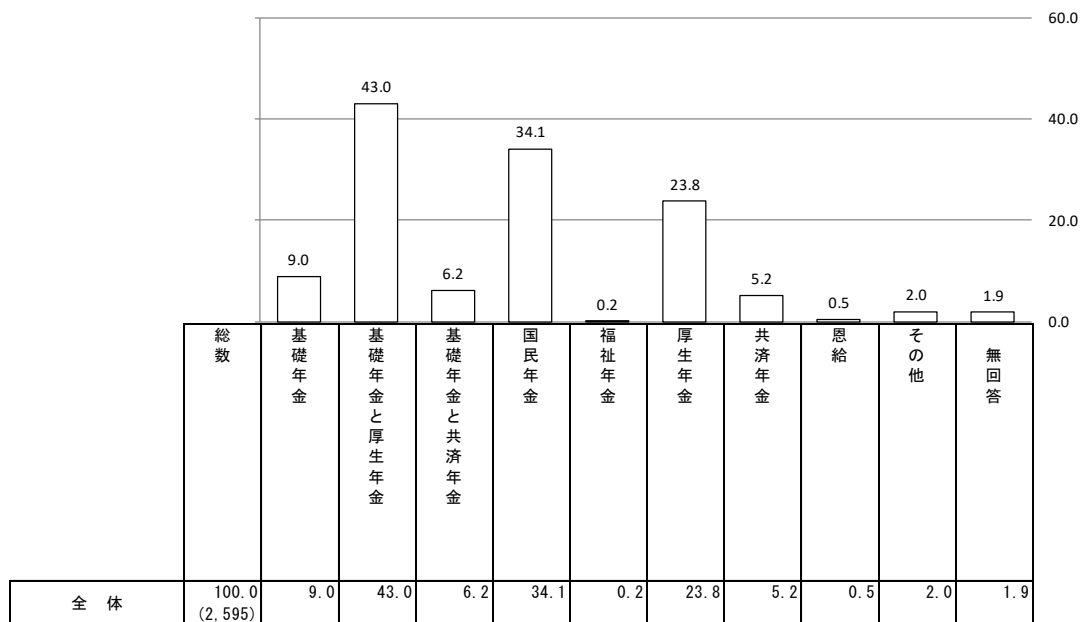
図表 13-1-1 収入の種類（性・年齢階級別、最長職業別、世帯類型別）

	総数	公的な年金・恩給	私的な年金（企業年金、個人年金など）	仕事による収入	家賃・地代・配当金	仕送り	除手当（傷病手当金、労災保 険の医療給付など）	生活保護	その他	収入はない	無回答	
全体	100.0 (3,192)	81.3	18.7	28.7	12.7	0.4	0.2	2.4	1.3	0.8	4.4	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	77.7	29.7	62.9	11.7	0.3	-	2.8	0.3	2.3	
	男性70～74歳	100.0 (305)	80.3	23.9	39.0	13.8	-	-	2.6	-	4.6	
	男性75～79歳	100.0 (314)	83.8	18.2	22.0	17.5	0.3	0.3	2.5	1.3	3.8	
	男性80～84歳	100.0 (142)	84.5	18.3	19.7	19.0	0.7	-	3.5	0.7	4.9	
	男性85歳以上	100.0 (90)	87.8	8.9	12.2	22.2	-	-	2.2	1.1	2.2	
	女性65～69歳	100.0 (428)	80.6	21.5	36.0	9.3	-	-	0.9	1.6	3.3	
	女性70～74歳	100.0 (362)	87.0	18.8	26.8	11.6	1.1	1.1	1.4	0.6	3.3	
	女性75～79歳	100.0 (427)	84.1	15.5	14.8	10.8	0.7	0.2	2.8	2.3	4.2	
	女性80～84歳	100.0 (240)	82.1	7.9	8.8	15.0	0.8	0.4	2.1	2.5	4.6	
	女性85歳以上	100.0 (158)	83.5	10.8	3.2	12.7	0.6	-	-	0.6	2.5	7.0
最長職業	自営業者（家族従業者を含む。）	100.0 (602)	71.9	15.4	41.5	18.8	0.8	0.5	3.8	1.5	4.7	
	正規の職員・従業員	100.0 (1,322)	87.7	24.7	29.5	12.2	0.2	-	1.2	0.5	2.7	
	会社などの役員	100.0 (161)	70.8	21.1	47.8	22.4	-	0.6	2.5	1.2	4.3	
	契約・派遣・臨時・パート	100.0 (358)	76.8	13.7	32.4	4.2	0.6	0.3	4.5	2.0	4.2	
	家事専業（専業主婦・主夫）	100.0 (524)	87.6	13.0	6.3	11.6	0.4	0.2	0.4	1.3	3.8	
	仕事に就いたことはない	100.0 (17)	70.6	5.9	-	17.6	5.9	5.9	5.9	11.8	5.9	11.8
	その他の就業	100.0 (59)	71.2	10.2	22.0	6.8	1.7	-	15.3	1.7	-	6.8
世帯類型	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	86.0	18.0	26.1	13.3	0.3	0.4	1.2	0.9	3.5	
	高齢者・その他	100.0 (139)	79.9	20.9	25.9	14.4	-	-	2.2	1.4	5.0	
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	77.0	31.0	54.8	11.9	-	-	0.8	0.8	3.2	
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (87)	71.3	14.9	26.4	12.6	-	-	-	2.3	1.1	8.0
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (632)	82.3	17.1	26.7	13.4	0.9	0.3	0.5	2.4	0.6	4.3
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (125)	88.0	14.4	20.0	11.2	-	-	-	0.8	1.6	2.4
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (16)	93.8	25.0	12.5	25.0	-	-	6.3	-	-	-
	その他	100.0 (368)	77.2	23.1	40.2	13.6	0.3	-	0.5	1.4	1.4	4.3
	不明	100.0 (107)	79.4	17.8	34.6	11.2	-	-	0.9	0.9	0.9	4.7

(2) 公的年金の種類 (問 45-1)

問 45 で「公的な年金・恩給」を選んだ方に公的年金の種類について聞いたところ、「基礎年金と厚生年金」が 43.0%で最も高く、次いで「国民年金」が 34.1%、「厚生年金」が 23.8%となっている。(図表 13-2)

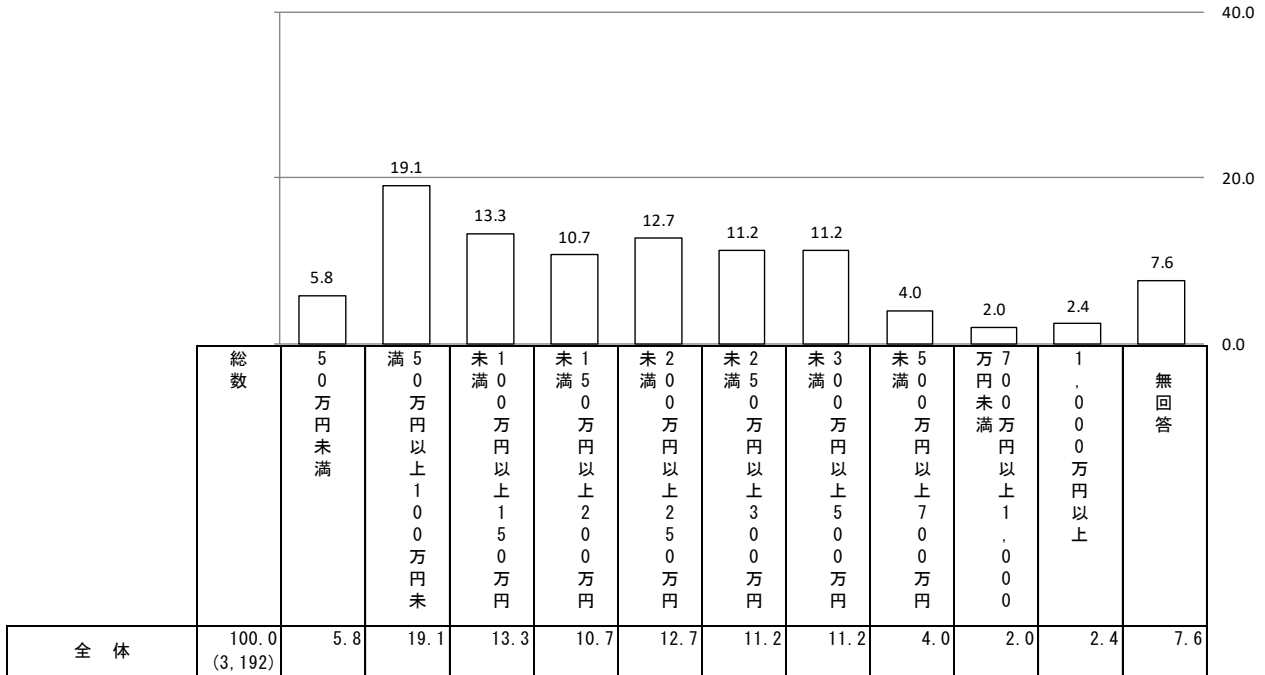
図表 13-2 公的年金の種類



(3) 年間収入 (問 46)

対象者全員に年間収入について聞いたところ、「50 万円以上 100 万円未満」が 19.1%で最も高く、次いで「100 万円以上 150 万円未満」が 13.3%、「200 万円以上 250 万円未満」が 12.7%となっている。(図表 13-3)

図表 13-3 年間収入



ア 年間収入（性・年齢階級別、収入のある仕事の有無別、仕事の形態別）

年間収入について、性・年齢階級別にみると、女性はいずれの年齢階級も「50万円以上100万円未満」が最も高くなっている。

仕事の有無別にみると、仕事をしている人では「300万円以上500万円未満」が最も高く、仕事をしていない人では「50万円以上100万円未満」が最も高くなっている。（図表13-3-1）

図表13-3-1 年間収入（性・年齢階級別、収入のある仕事の有無別、仕事の形態別）

	総数	50万円未満	50万円以上100万円未満	100万円以上150万円未満	150万円以上200万円未満	200万円以上250万円未満	250万円以上300万円未満	300万円以上350万円未満	350万円以上400万円未満	400万円以上450万円未満	450万円以上500万円未満	500万円以上	無回答
全体	100.0 (3,192)	5.8	19.1	13.3	10.7	12.7	11.2	11.2	4.0	2.0	2.4	7.6	
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	1.3	4.8	6.3	10.4	14.7	12.7	22.8	10.4	5.8	5.8	4.8
	男性70～74歳	100.0 (305)	1.0	5.2	6.9	13.4	17.4	15.1	20.7	7.5	2.0	5.2	5.6
	男性75～79歳	100.0 (314)	2.5	6.4	8.9	13.1	17.2	20.4	14.3	7.6	1.9	3.8	3.8
	男性80～84歳	100.0 (142)	1.4	6.3	8.5	11.3	19.0	14.1	19.7	4.2	2.8	3.5	9.2
	男性85歳以上	100.0 (90)	4.4	5.6	8.9	6.7	16.7	26.7	16.7	4.4	2.2	4.4	3.3
	女性65～69歳	100.0 (428)	9.6	27.1	19.2	11.7	12.1	7.2	6.3	1.4	0.7	-	4.7
	女性70～74歳	100.0 (362)	6.4	33.4	20.2	7.5	9.4	7.2	6.4	1.7	1.1	0.6	6.4
	女性75～79歳	100.0 (427)	9.6	32.8	16.9	9.6	9.8	6.1	3.3	1.6	0.2	1.9	8.2
	女性80～84歳	100.0 (240)	10.4	27.9	17.5	12.5	8.8	7.5	2.1	1.7	1.3	0.4	10.0
	女性85歳以上	100.0 (158)	5.7	22.2	12.7	15.2	8.9	10.1	2.5	0.6	1.3	1.3	19.6
仕事の有無	している	100.0 (1,117)	3.9	11.0	10.4	9.7	11.5	11.8	19.9	7.8	4.7	5.5	3.8
	していない	100.0 (1,930)	6.6	24.7	15.3	11.6	13.6	11.1	6.6	1.8	0.5	0.6	7.7
仕事の形態	自営業（家族従業者を含む。）	100.0 (309)	2.6	12.6	11.0	6.8	10.0	12.0	19.1	9.7	5.2	6.5	4.5
	正規の職員・従業員（定年前）	100.0 (21)	-	4.8	-	-	19.0	9.5	28.6	9.5	9.5	9.5	9.5
	正規の職員・従業員（再雇用・雇用延長中）	100.0 (78)	-	-	2.6	2.6	12.8	10.3	47.4	14.1	2.6	6.4	1.3
	正規の職員・従業員（定年後異なる職場に再就職）	100.0 (40)	-	2.5	5.0	7.5	12.5	10.0	27.5	17.5	7.5	7.5	2.5
	会社などの役員	100.0 (88)	-	4.5	1.1	3.4	4.5	11.4	22.7	14.8	12.5	22.7	2.3
	契約・派遣・臨時・パート	100.0 (380)	4.2	11.3	17.1	18.4	12.9	12.6	15.8	2.6	1.8	0.3	2.9
	シルバー人材センターの会員	100.0 (55)	16.4	16.4	7.3	9.1	23.6	7.3	10.9	5.5	-	-	3.6
	その他	100.0 (79)	7.6	21.5	5.1	2.5	8.9	16.5	15.2	8.9	5.1	6.3	2.5

(4) 家計の状況 (問 47)

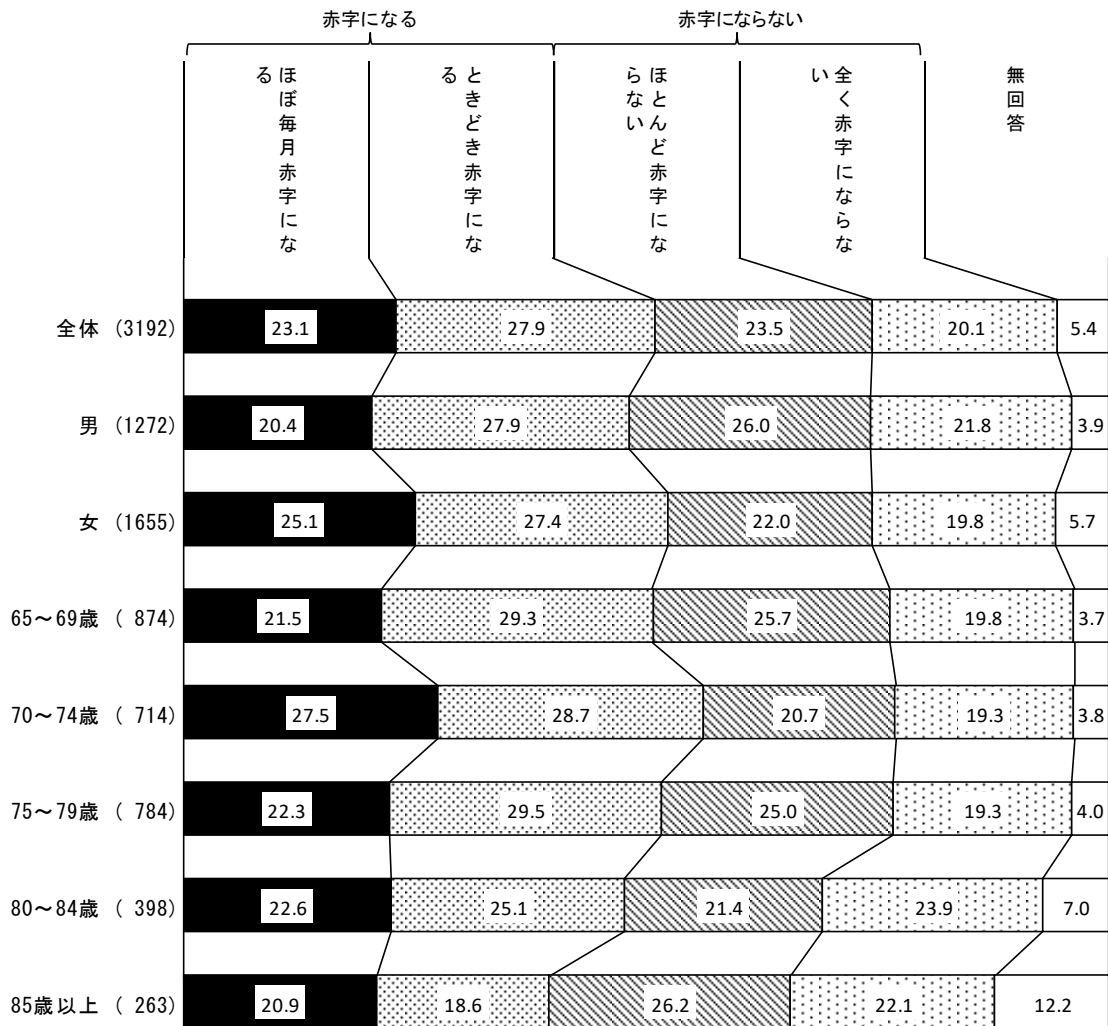
ア 家計の状況 (性別、年齢階級別)

対象者全員に家計の状況について聞いたところ、「ときどき赤字になる」が 27.9%で最も高く、次いで「ほとんど赤字にならない」が 23.5%、「ほぼ毎月赤字になる」が 23.1%となっている。

家計の状況について、性別にみると、「ほぼ毎月赤字になる」と「ときどき赤字になる」を合わせた『赤字になる』は男性が 48.3%、女性が 52.5%で女性の方が 4.2 ポイント上回っている。

年齢階級別にみると、70 歳以降は年齢階級が上がるにつれて『赤字になる』の割合が低くなっている。(図表 13-4)

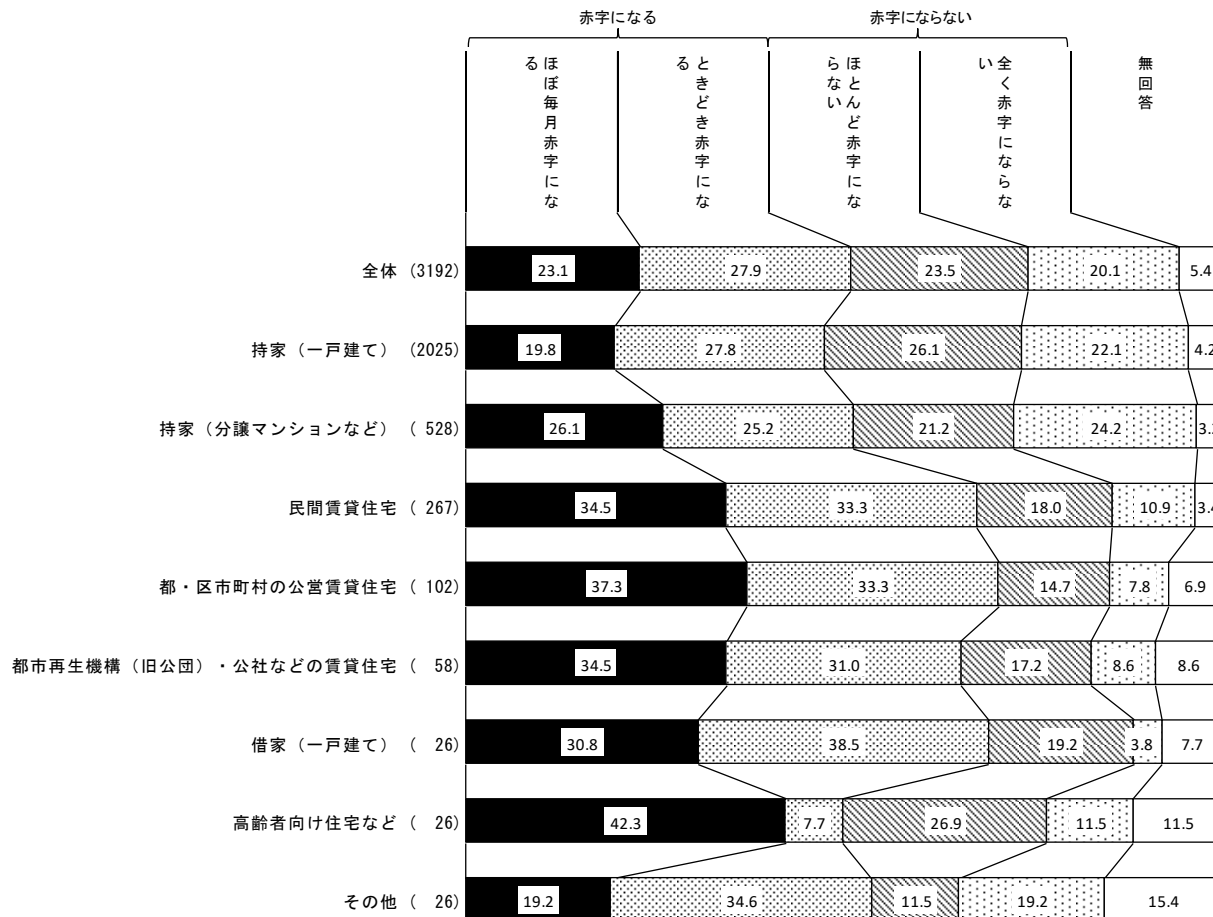
図表 13-4 家計の状況 (性別、年齢階級別)



イ 家計の状況（住まいの形態別）

家計の状況について、住まいの形態別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、「ほぼ毎月赤字になる」は都・区市町村の公営賃貸住宅が 37.3%で最も高くなっている。（図表 13-4-1）

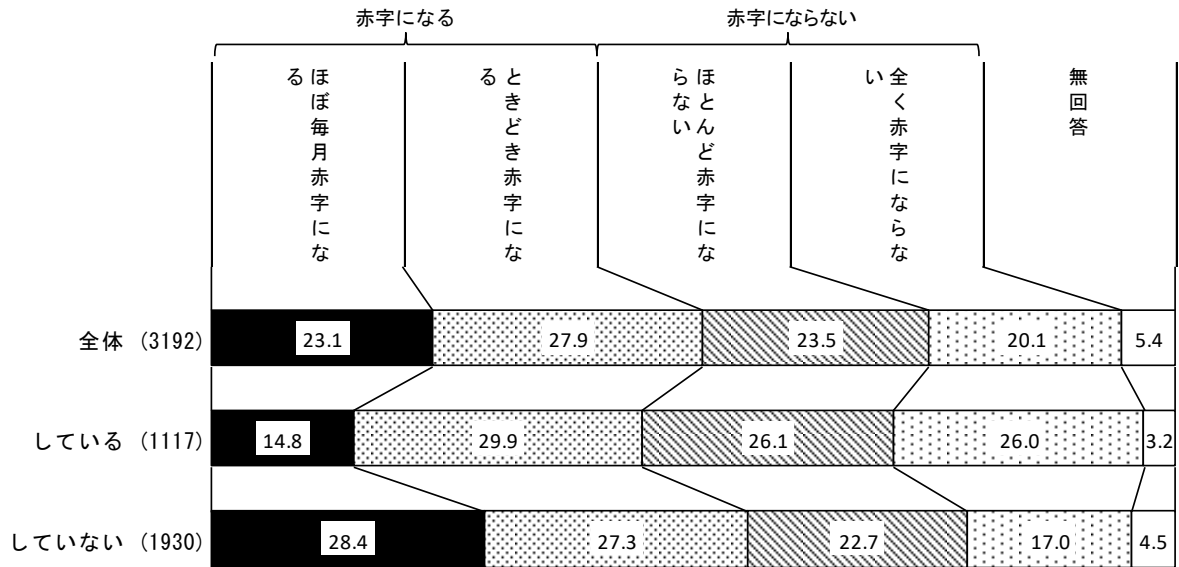
図表 13-4-1 家計の状況（住まいの形態別）



ウ 家計の状況（収入のある仕事の有無別）

家計の状況について、収入のある仕事の有無別にみると、『赤字になる』は仕事をしている人が44.7%、仕事をしていない人が55.7%で、仕事をしている人の方が11.0ポイント下回っている。（図表13-4-2）

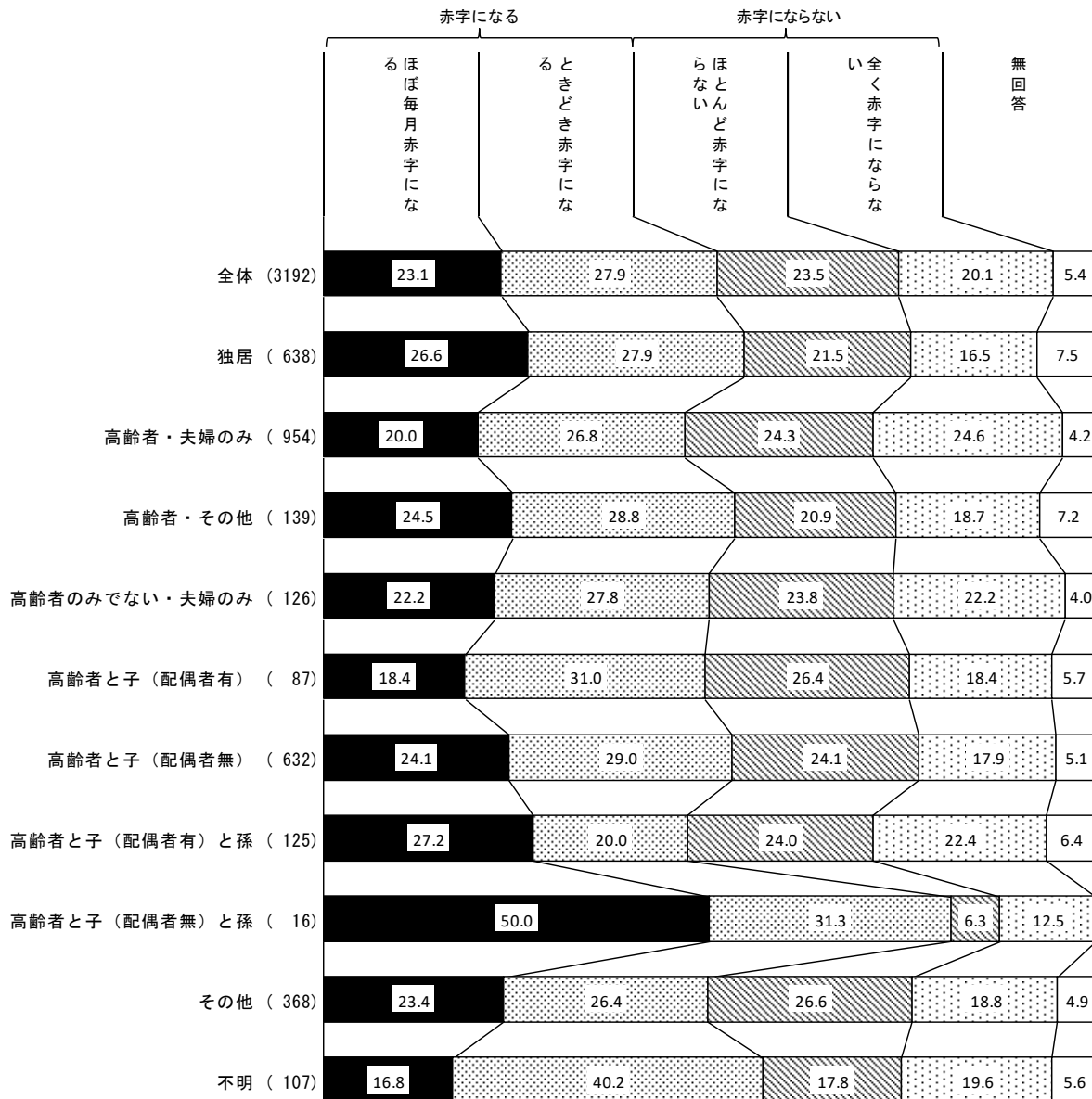
図表 13-4-2 家計の状況（収入のある仕事の有無別）



エ 家計の状況（世帯類型別）

家計の状況について、世帯類型別にみると、サンプル数が少ないものを除くと、『赤字になる』は独居が54.5%で最も高く、次いで高齢者・その他が53.3%、高齢者と子（配偶者無）が53.1%となっている。（図表 13-4-3）

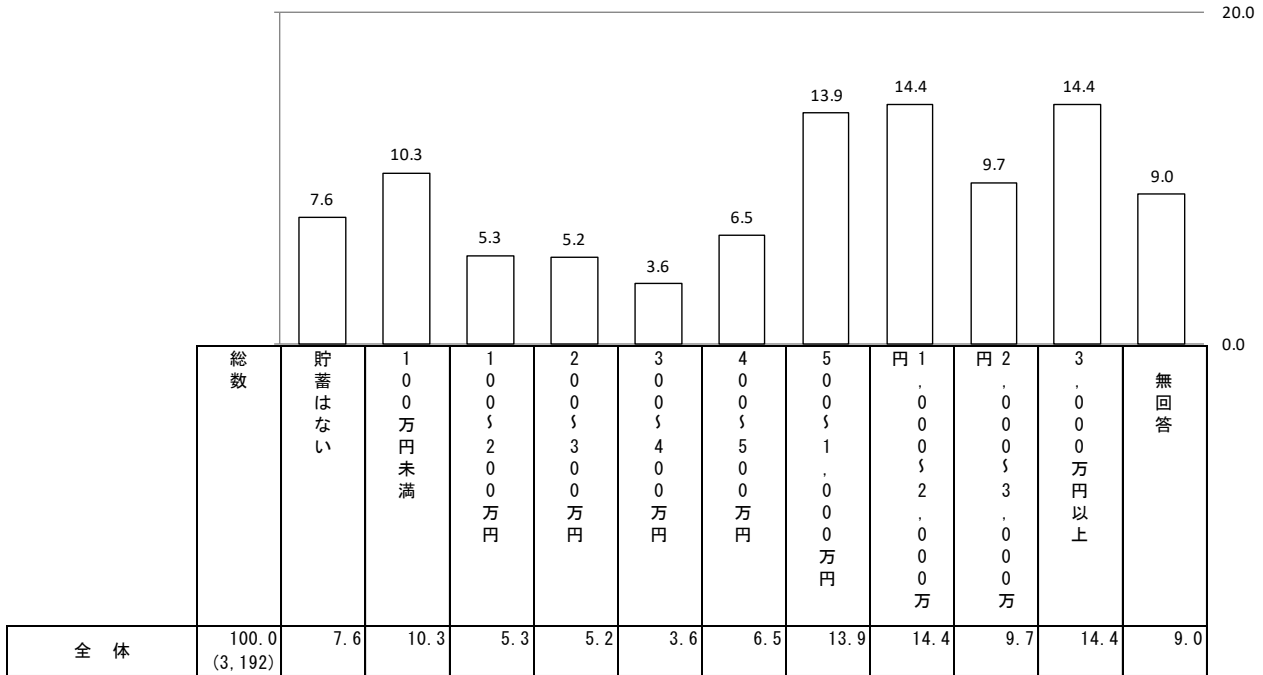
図表 13-4-3 家計の状況（世帯類型別）



(5) 金融貯蓄 (問 48)

対象者全員に金融貯蓄について聞いたところ、「1,000～2,000万円」と「3,000万円以上」がそれぞれ14.4%で最も高く、次いで「500～1,000万円」が13.9%、「100万円未満」が10.3%となっている。(図表 13-5)

図表 13-5 金融貯蓄



ア 金融貯蓄（性・年齢階級別、世帯構成（世代）別、世帯類型別）

金融貯蓄について、性・年齢階級別にみると、あまり大きな差異は見られないが、「女性 80 歳以上」では「1,000 万円以上」が比較的割合が低くなっている。

世帯構成（世代）別にみると、「貯蓄はない」は「単身世帯（ひとりぐらし）」が 13.0%で最も高くなっている。

世帯類型別にみると、「3,000 万円以上」は「高齢者・夫婦のみ」が 17.2%で最も高くなっている。（図表 13-5-1）

図表 13-5-1 金融貯蓄（性・年齢階級別、世帯構成（世代）別、世帯類型別）

		総数	貯蓄はない	100万円未満	100万円～200万円	200万円～300万円	300万円～400万円	400万円～500万円	500万円～1,000万円	1,000万円～2,000万円	2,000万円～3,000万円	3,000万円以上	無回答
全 体		100.0 (3,192)	7.6	10.3	5.3	5.2	3.6	6.5	13.9	14.4	9.7	14.4	9.0
性・年齢階級別	男性65～69歳	100.0 (394)	9.6	11.2	5.8	6.3	3.3	5.1	10.4	14.7	9.1	19.8	4.6
	男性70～74歳	100.0 (305)	6.9	8.5	6.6	3.6	3.6	6.9	13.4	15.1	11.1	17.0	7.2
	男性75～79歳	100.0 (314)	8.0	7.6	5.4	5.7	4.8	3.8	16.6	16.6	11.1	13.7	6.7
	男性80～84歳	100.0 (142)	7.7	9.9	4.2	7.7	4.2	11.3	14.8	12.7	10.6	12.0	4.9
	男性85歳以上	100.0 (90)	3.3	13.3	4.4	6.7	1.1	4.4	12.2	17.8	10.0	18.9	7.8
	女性65～69歳	100.0 (428)	5.6	8.2	3.7	3.7	3.5	8.4	15.4	18.2	9.6	15.9	7.7
	女性70～74歳	100.0 (362)	6.4	8.3	4.7	4.4	2.2	7.7	15.2	13.8	12.4	15.2	9.7
	女性75～79歳	100.0 (427)	6.6	9.4	6.6	5.4	4.0	6.3	15.9	13.3	10.5	12.4	9.6
	女性80～84歳	100.0 (240)	10.8	13.8	4.2	8.8	2.5	7.1	11.7	12.5	6.7	10.4	11.7
	女性85歳以上	100.0 (158)	7.0	10.1	6.3	3.8	5.7	8.2	15.2	12.7	5.7	8.9	16.5
世帯構成（世代）	単身世帯（ひとりぐらし）	100.0 (638)	13.0	12.1	7.1	4.5	3.4	6.6	13.6	9.6	6.0	13.0	11.1
	一世代（夫婦のみ）	100.0 (1,080)	3.9	7.2	4.3	4.7	3.3	6.1	15.2	17.3	13.6	17.1	7.2
	二世帯	100.0 (1,061)	7.5	11.1	4.5	5.7	3.8	6.5	13.4	14.4	9.3	13.8	10.0
	三世帯	100.0 (213)	7.5	11.7	7.5	6.6	4.7	8.0	14.6	16.0	6.6	10.3	6.6
世帯類型	独居	100.0 (638)	13.0	12.1	7.1	4.5	3.4	6.6	13.6	9.6	6.0	13.0	11.1
	高齢者・夫婦のみ	100.0 (954)	3.7	6.6	3.9	5.0	3.5	5.9	15.0	17.5	14.5	17.2	7.3
	高齢者・その他	100.0 (139)	7.9	10.8	6.5	5.0	4.3	5.8	8.6	18.7	7.9	14.4	10.1
	高齢者のみでない・夫婦のみ	100.0 (126)	5.6	11.9	7.1	2.4	2.4	7.9	16.7	15.9	7.1	16.7	6.3
	高齢者と子（配偶者有）	100.0 (87)	8.0	12.6	4.6	6.9	5.7	11.5	10.3	9.2	6.9	9.2	14.9
	高齢者と子（配偶者無）	100.0 (632)	8.2	10.1	4.0	6.5	3.0	6.3	14.9	14.2	10.0	13.3	9.5
	高齢者と子（配偶者有）と孫	100.0 (125)	6.4	11.2	6.4	4.8	5.6	8.0	13.6	16.0	7.2	11.2	9.6
	高齢者と子（配偶者無）と孫	100.0 (16)	12.5	6.3	6.3	12.5	6.3	6.3	12.5	18.8	6.3	6.3	6.3
	その他	100.0 (368)	9.0	13.9	6.3	5.2	3.0	6.8	13.6	14.1	7.3	13.3	7.6
	不明	100.0 (107)	3.7	15.9	7.5	5.6	7.5	5.6	9.3	13.1	7.5	14.0	10.3

イ 金融貯蓄（仕事の有無別、仕事の形態別、本人の収入別）

金融貯蓄について、仕事の有無別にみると、大きな差異は見られない。

仕事の形態別にみると、「貯蓄はない」は「正規の職員・従業員（定年前）」が19.0%で、「3,000万円以上」は会社などの役員が36.4%で、それぞれ最も高くなっている。

本人の収入別にみると、「貯蓄はない」は「50万円未満」が14.7%で、「3,000万円以上」は「1,000万円以上」が64.1%で、それぞれ最も高くなっている。（図表13-5-2）

図表13-5-2 金融貯蓄（仕事の有無別、仕事の形態別、本人の収入別）

		総 数	貯 蓄 は な い	1 0 0 万 円 未 満	1 0 0 万 円 未 満	2 0 0 万 円 未 満	3 0 0 万 円 未 満	4 0 0 万 円 未 満	5 0 0 万 円 未 満	円1 0 0 0 0 万	円2 0 0 0 0 万	3 0 0 0 万 円 以 上	無 回 答
全	体	100.0 (3,192)	7.6	10.3	5.3	5.2	3.6	6.5	13.9	14.4	9.7	14.4	9.0
有 無 の	している	100.0 (1,117)	7.3	11.4	5.7	5.1	3.7	7.3	13.5	14.8	9.0	16.3	6.0
	していない	100.0 (1,930)	7.9	9.6	5.0	5.5	3.5	6.4	15.0	14.7	10.5	13.3	8.7
仕 事 の 形 態	自営業	100.0 (309)	3.9	11.0	2.6	5.2	4.2	8.7	12.0	15.5	11.7	19.1	6.1
	正規の職員・従業員（定年前）	100.0 (21)	19.0	4.8	4.8	9.5	4.8	0.0	28.6	9.5	4.8	9.5	4.8
	正規の職員・従業員（再雇用・	100.0 (78)	6.4	10.3	3.8	6.4	3.8	10.3	15.4	15.4	6.4	16.7	5.1
	正規の職員・従業員（定年後異	100.0 (40)	5.0	7.5	10.0	10.0	0.0	7.5	22.5	12.5	5.0	17.5	2.5
	会社などの役員	100.0 (88)	2.3	8.0	3.4	0.0	3.4	4.5	10.2	8.0	17.0	36.4	6.8
	契約・派遣・臨時・パート	100.0 (380)	10.0	14.5	8.7	5.5	3.9	7.6	13.7	14.7	5.8	9.2	6.3
	シルバー人材センターの会員	100.0 (55)	12.7	10.9	5.5	3.6	5.5	3.6	20.0	20.0	7.3	7.3	3.6
	その他	100.0 (79)	5.1	7.6	6.3	3.8	1.3	6.3	13.9	19.0	8.9	22.8	5.1
本 人 の 収 入	50万円未満	100.0 (184)	14.7	17.4	6.5	6.5	2.7	6.0	12.5	12.5	5.4	7.1	8.7
	50万円以上100万円未満	100.0 (610)	8.5	13.0	6.9	5.4	3.6	8.9	16.2	12.6	8.2	9.7	7.0
	100万円以上150万円未満	100.0 (425)	12.5	14.1	7.5	6.1	4.9	7.1	13.6	11.5	8.0	10.6	4.0
	150万円以上200万円未満	100.0 (340)	8.8	14.4	7.6	5.6	4.1	8.2	18.5	15.0	7.4	7.4	2.9
	200万円以上250万円未満	100.0 (405)	6.9	7.4	5.7	6.7	3.2	7.9	17.8	22.0	10.4	9.4	2.7
	250万円以上300万円未満	100.0 (356)	3.9	8.4	3.7	6.2	7.0	5.1	13.8	17.4	14.9	17.4	2.2
	300万円以上500万円未満	100.0 (358)	3.6	6.4	4.2	5.6	2.2	4.5	12.8	19.3	15.9	21.5	3.9
	500万円以上700万円未満	100.0 (127)	1.6	3.1	1.6	1.6	3.1	5.5	11.0	14.2	15.0	40.9	2.4
	700万円以上1,000万円未満	100.0 (65)	3.1	4.6	0.0	4.6	3.1	3.1	6.2	16.9	7.7	50.8	0.0
1,000万円以上	100.0 (78)	0.0	2.6	0.0	0.0	1.3	1.3	10.3	5.1	14.1	64.1	1.3	

第14章 ひとりぐらし高齢者(単身世帯)の生活実態

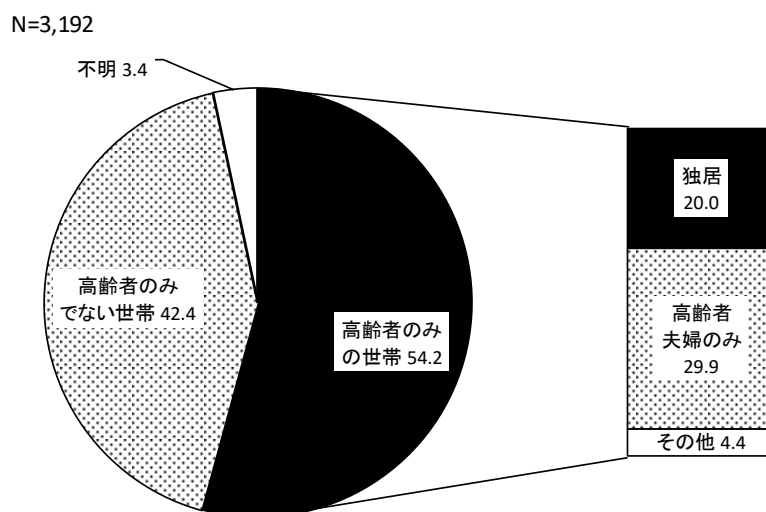
本章では、ひとりぐらし高齢者(638人)の生活実態について、1 属性、2 健康、3 医療、4 介護サービスなど、5 住まい、6 コミュニケーション、7 生きがい、8 不安や悩み事、9 社会参加、10 就労、11 経済状況の11の側面から概観する。

1 ひとりぐらし高齢者の概況

(1) ひとりぐらし高齢者の割合

ひとりぐらし高齢者の割合は、世帯類型別にみると、20.0%となっている。(図表14-1-1)

図表 14-1-1 世帯類型



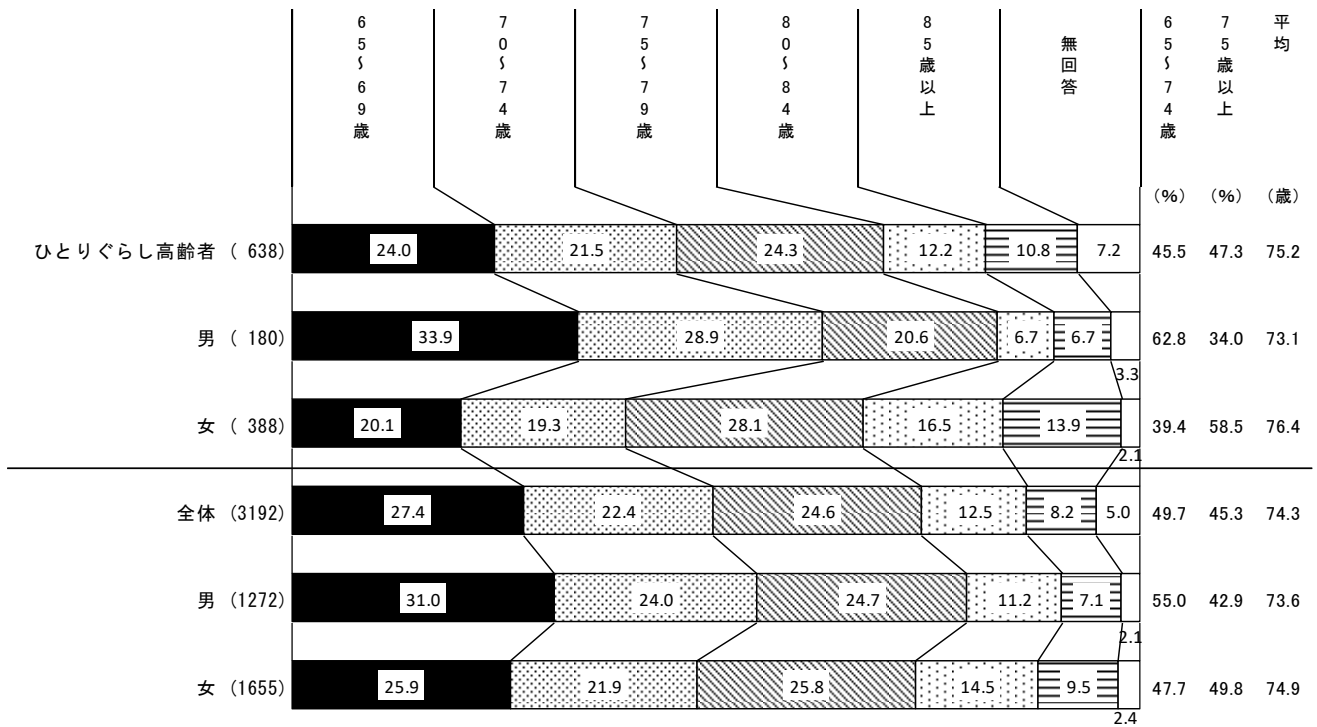
(2) 年齢階級—性別、全数との比較 (問 2)

ひとりぐらし高齢者の年齢階級について、性別にみると、男性(平均 73.1 歳)は「65～69 歳」が 33.9%で、女性(平均 76.4 歳)は「75～79 歳」が 28.1%で最も高く、全体的に女性の方がより高齢の割合が高い。

全体と比較すると、後期高齢者 (75 歳以上) の女性は、8.7 ポイント高くなっている。

(図表 14-1-3)

図表 14-1-3 年齢階級 (性別)

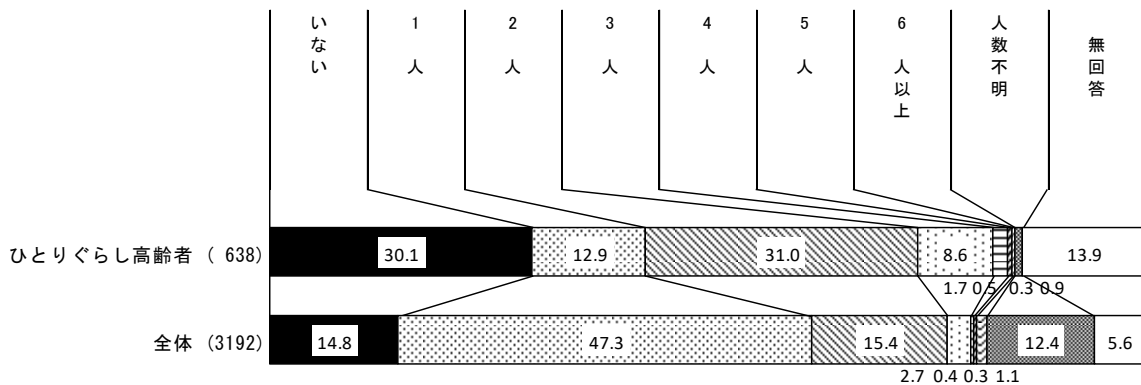


(3) 子供の有無・人数—全数との比較 (問 4)

ひとりぐらし高齢者の属性について、子供の有無をみると、「いる」が 56.0%、「いない」が 30.1%となった。

全体と比較すると「いない」が 15.3 ポイント高くなっている。(図表 14-1-4)

図表 14-1-4 子供の有無



(4) 健康意識—性別、年齢階級別、全数との比較 (問5)

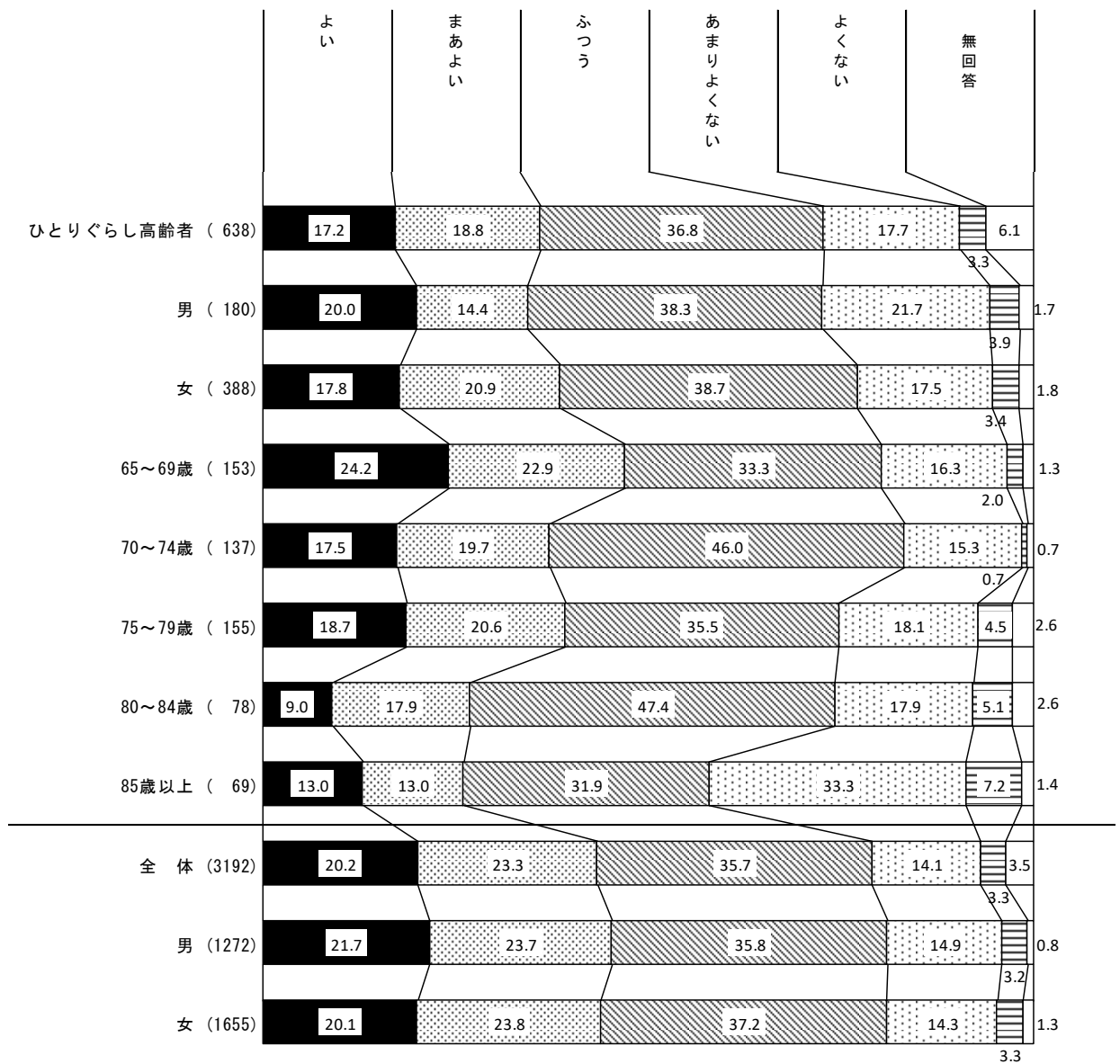
ひとりぐらし高齢者の自覚している健康状態をみると、「ふつう」が36.8%で最も高く、次いで「まあよい」が18.8%、「あまりよくない」が17.7%と続いている。

性別でみると、「よい」と「まあよい」を合わせた割合は、高齢者全体では女性よりも男性が高く(男性45.4%、女性43.9%)、ひとりぐらしの高齢者では男性よりも女性が高くなっている(男性34.4%、女性38.7%)。

年齢階級別では、85歳以上で「あまりよくない」と「よくない」を合わせた割合が40.5%と4割を超え、比較的高かった。

全体と比較すると、総じて「まあよい」がやや減少し、「あまりよくない」がやや増加している。(図表14-1-5)

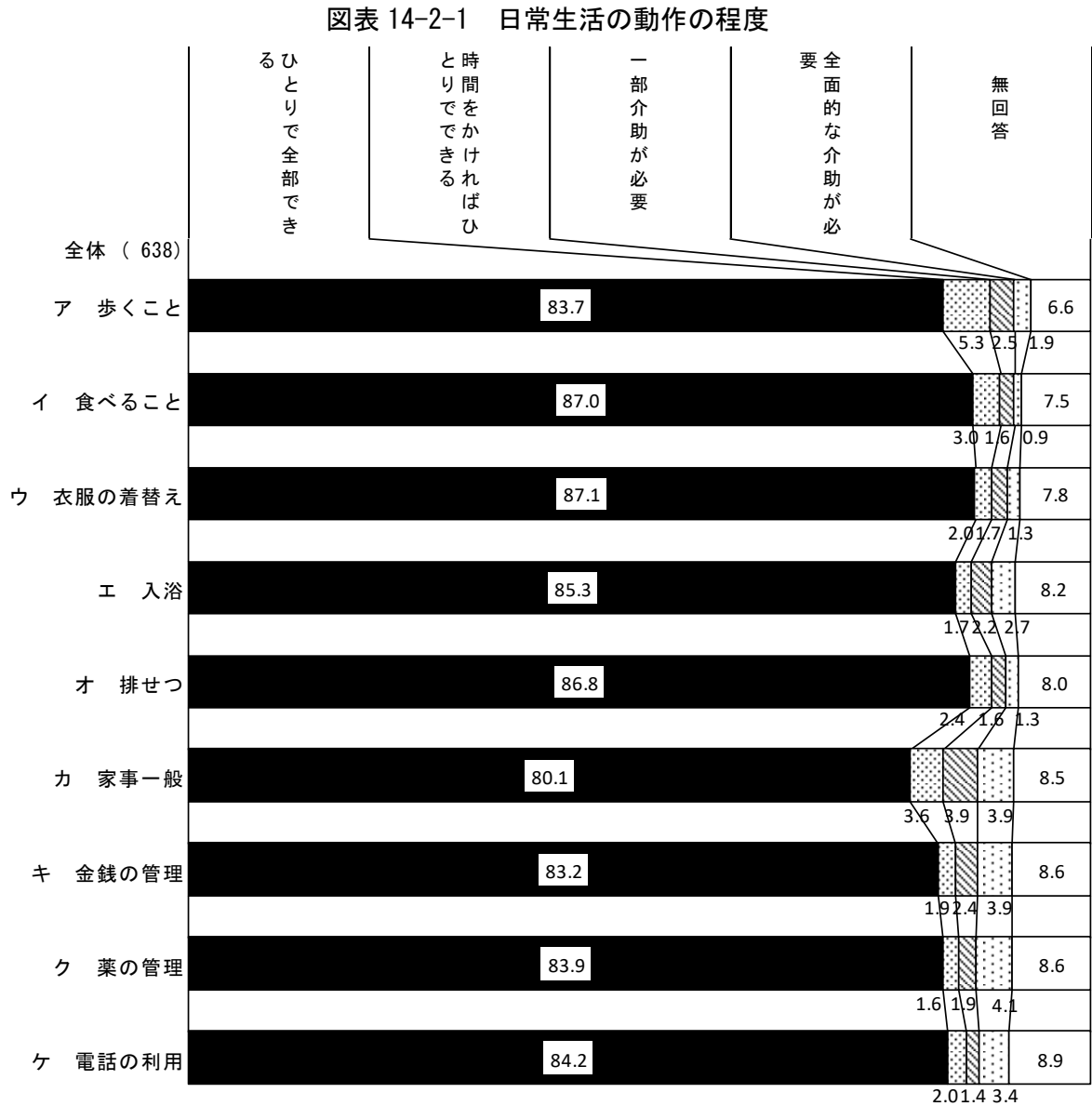
図表 14-1-5 健康意識 (性別、年齢階級別)



2 健康

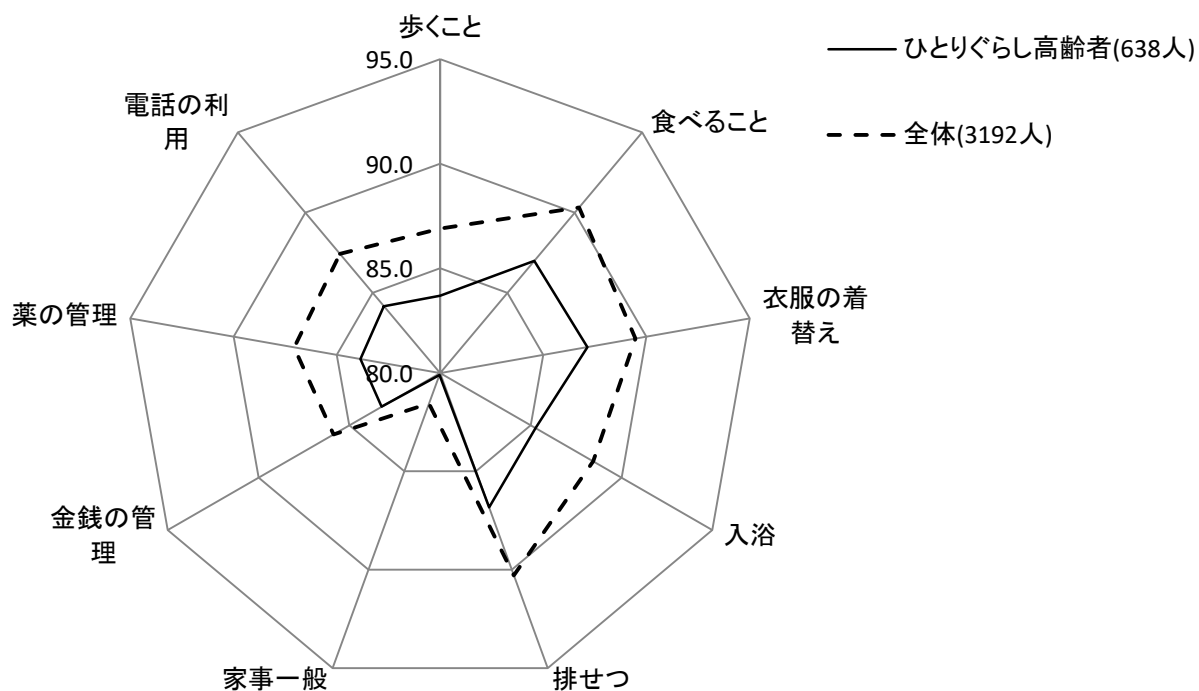
(1) 日常生活の動作の程度(問9)

ひとりぐらし高齢者の日常生活の動作の程度についてみると、すべての動作で「ひとりで全部できる」が8割台で最も高かった。(図表 14-2-1)



下の図表 14-2-2 は、図表 14-2-1 で各項目について「ひとりで全部できる」と回答した、日常生活の動作に問題のない高齢者の割合を示したものである。

図表 14-2-2 日常生活の動作に問題のない高齢者の割合-全数との比較



(2) 物忘れの状況—全数との比較(問 10)

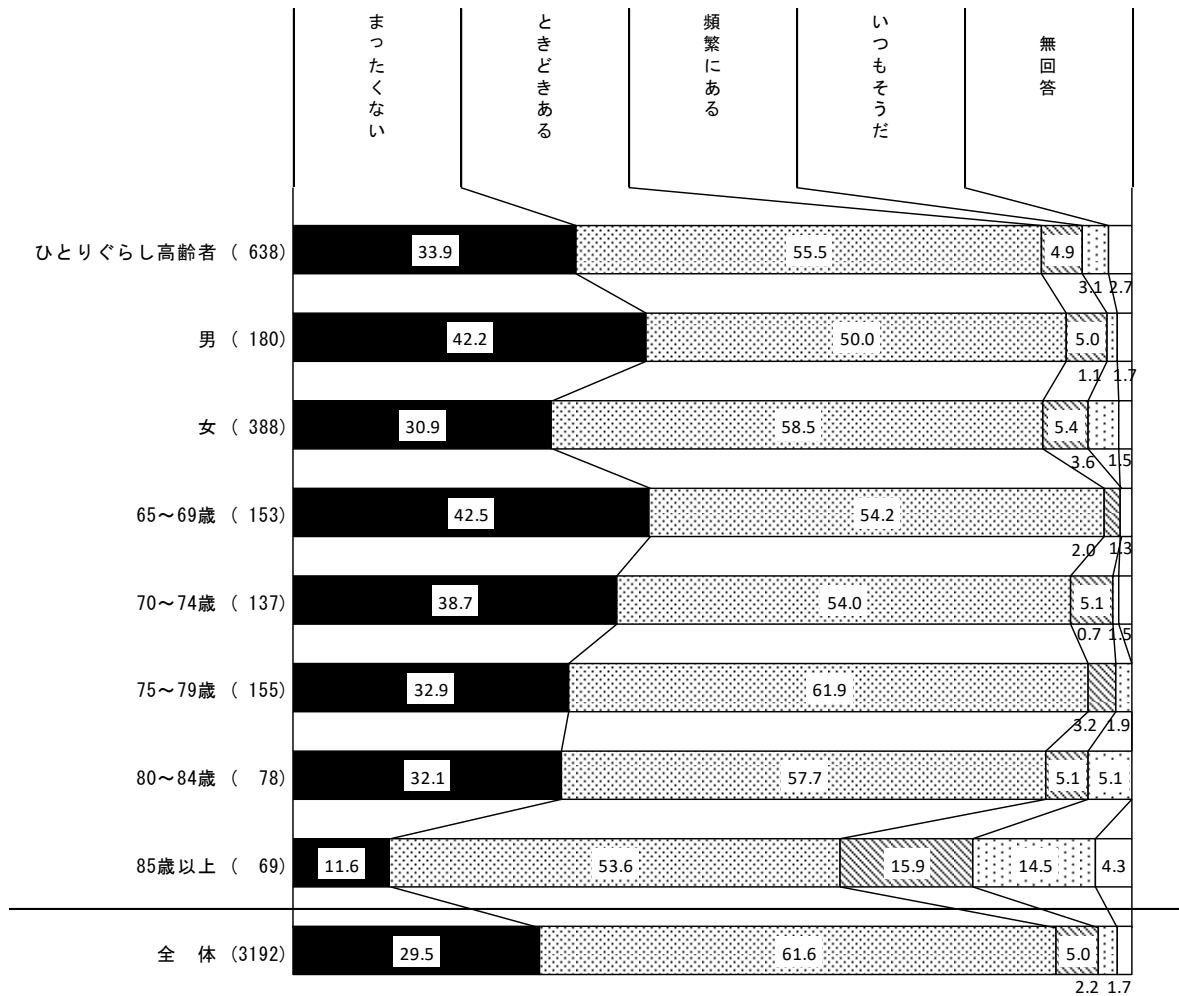
ひとりぐらし高齢者の物忘れの状況についてみると、「ときどきある」が55.5%で最も高く、次いで「まったくない」が33.9%となっている。

性別でみると、「まったくない」は女性より男性の方が11.3ポイント高くなっている。

年齢階級別でみると、「頻繁にある」と「いつもそうだ」は85歳以上でともに1割を超えて高くなっている。

全体と比較すると「まったくない」が4.4ポイント高くなっている。(図表 14-2-3)

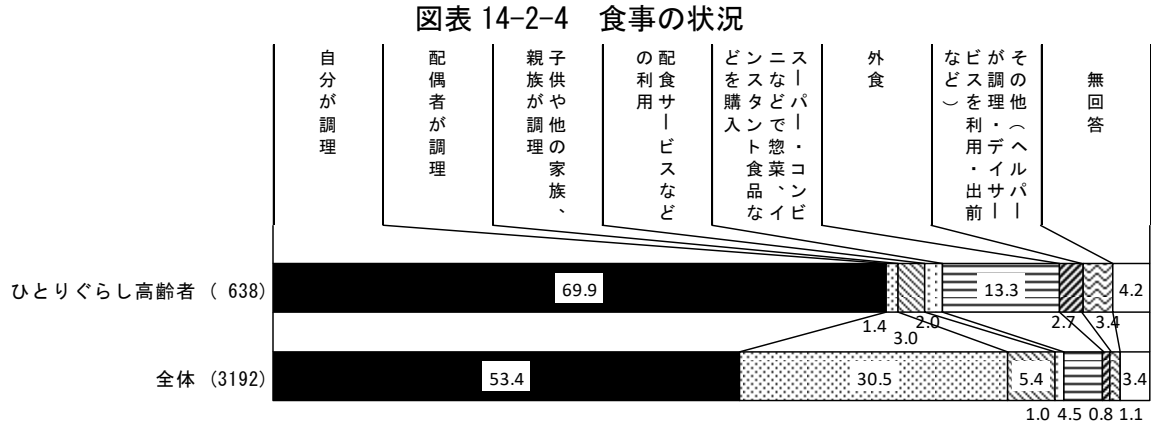
図表 14-2-3 物忘れの状況



(3) 食事の状況(問11)

ひとりぐらし高齢者の食事の状況についてみると、「自分が調理」が69.9%で最も高く、「スーパー・コンビニなどで総菜、インスタント食品などを購入」が13.3%でこれに次いだ。

全体と比較すると、「自分が調理」は16.5ポイント高くなっている。(図表14-2-4)

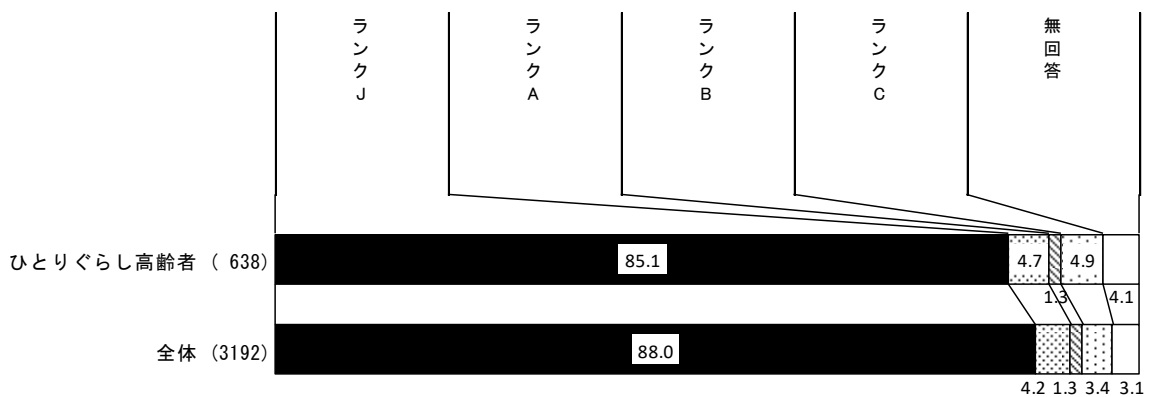


(4) 日常生活動作 (ADL) —性・年齢階級別 (問 12)

ひとりぐらし高齢者の日常生活動作 (ADL) を総合的にみてみると、「ランク J (日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる)」が 85.1% で最も高く、「ランク C (1 日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である)」が 4.9%、「ランク A (食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である)」が 4.7% でこれに次いだ。

全体と比較すると、「ランク J (日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる)」が 2.9 ポイント低くなっている。(図表 14-2-5)

図表 14-2-5 日常生活動作 (ADL)



図表 14-2-6 日常生活動作 (総合)

ランク J	生活自立	<p>①日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる</p> <p>1 バス、電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる</p> <p>2 隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる</p>
ランク A	準寝たきり	<p>②食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である</p> <p>3 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する</p> <p>4 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている</p>
ランク B	寝たきり	<p>③食事、着替え、排せつのいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる</p> <p>5 自分で車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる</p> <p>6 介助により車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要である</p>
ランク C		<p>④1 日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である</p> <p>7 自力で寝返りをうつことができる</p> <p>8 自力で寝返りをうつことができない</p>

3 医療

(1) 延命医療についての希望（性別、年齢階級別）（問 15）

ひとりぐらし高齢者の延命医療についての希望をみると、すべての階級で「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」（全体 44.7%）が最も高かった。

性別でみると、女性が「延命や蘇生のための医療は受けたくない。」（50.0%）で男性（33.3%）を 16.7 ポイント上まわった。

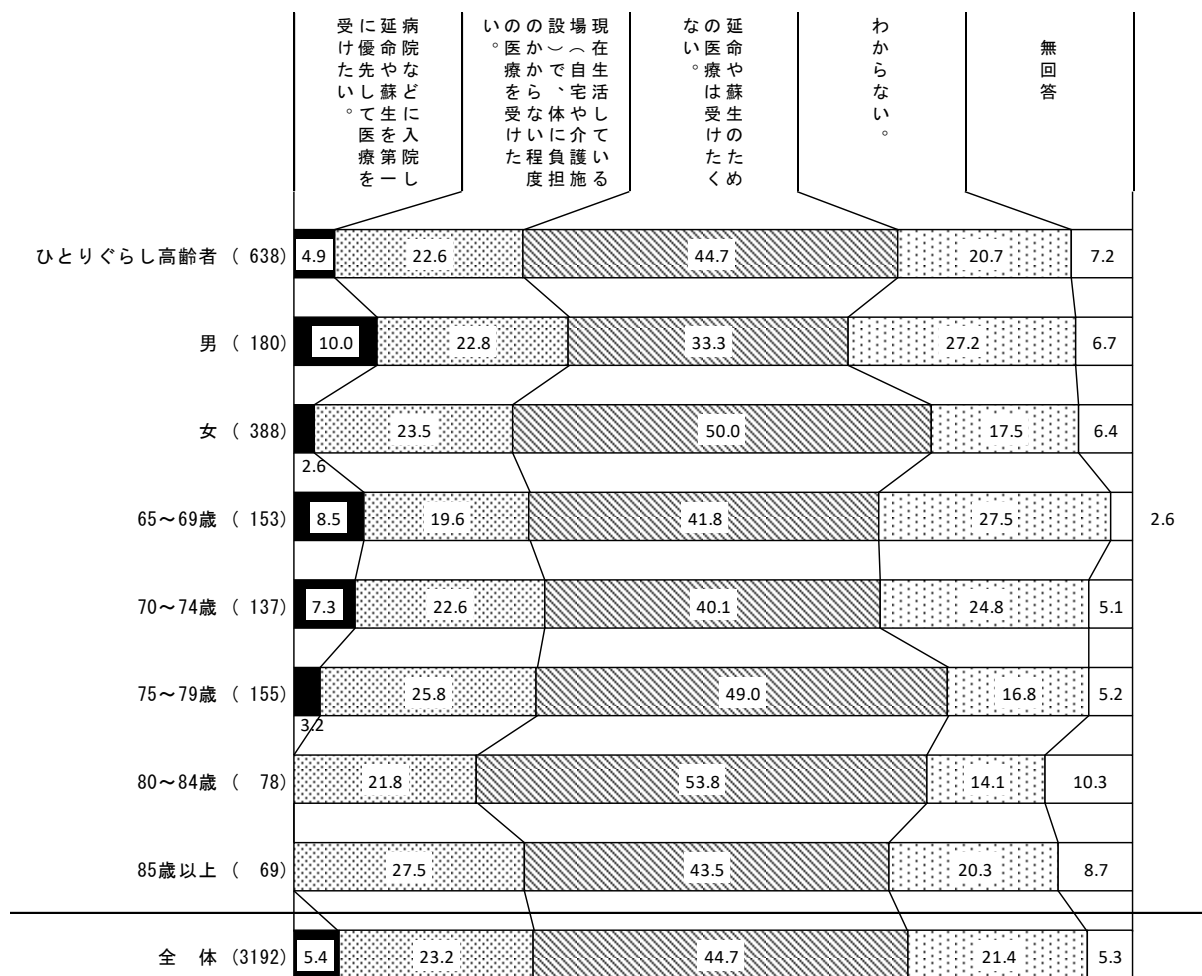
年齢階級別でみると、「病院などに入院し延命や蘇生を第一に優先して医療を受けたい。」は高齢になるにつれ低くなり、80 歳以上では皆無となった。

また、全体的に生死に関してシビアな質問だったせいか、「わからない」が全体で 20.7% と比較的多くなった。

全体と比較すると、すべての項目で差が 1.0 ポイント未満となり、ほぼ差異はみられなかった。

（図表 14-3-1）

図表 14-3-1 延命医療についての希望（性別、年齢階級別）



(2) 延命医療についての希望の周知（性別、年齢階級別）（問 15-1）

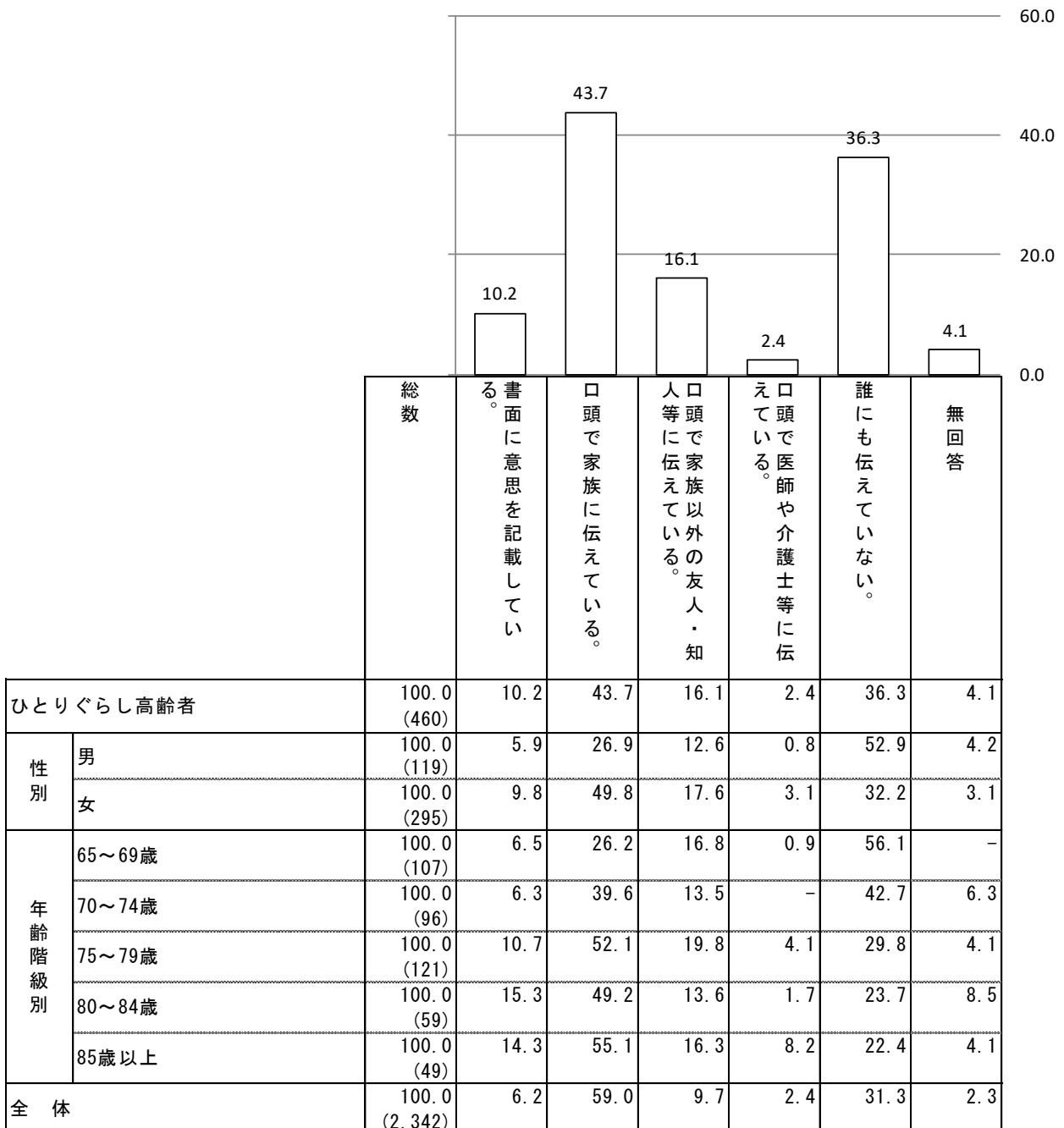
ひとりぐらし高齢者の延命医療についての希望の周知についてみると、「口頭で家族に伝えている。」が43.7%と最も高く、次いで「誰にも伝えていない。」が36.3%となった。

性別でみると、「口頭で家族に伝えている。」は女性(49.8%)が男性(26.9%)を22.9ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「口頭で家族に伝えている。」高齢になるにつれ割合が高くなる傾向にある。

全体と比較すると、「口頭で家族に伝えている。」は15.3ポイント低く、一方、「口頭で家族以外の友人・知人等に伝えている。」は6.4ポイント高くなっている。（図表 14-3-2）

図表 14-3-2 延命医療についての希望の周知（性別、年齢階級別）



(3) 最期を迎えたい場所（性別、年齢階級別）（問16）

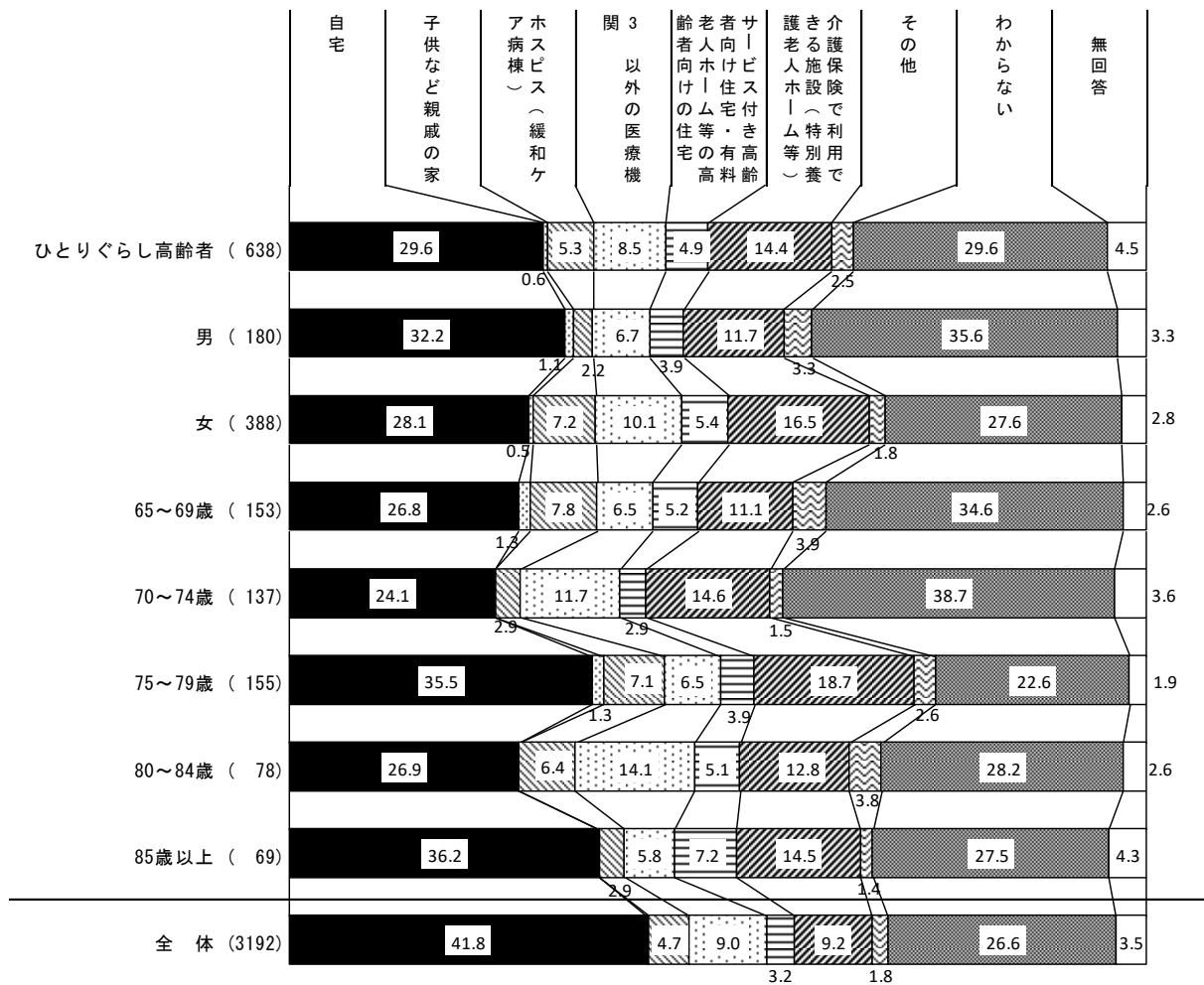
ひとりぐらし高齢者の最期を迎えたい場所についてみると、全体では「自宅」と「わからない」がともに29.6%で最も高かった。

性別でみると、男性が「わからない」（35.6%）で女性（27.6%）を8.0ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、前期高齢者は「わからない」が高い傾向になり、85歳以上では「自宅」が36.2%で比較的高かった。

全体と比較すると、「自宅」は12.2ポイント低く、一方、「介護保険で利用できる施設（特別養護老人ホーム等）」は5.2ポイント高くなっている。（図表14-3-3）

図表 14-3-3 最期を迎えたい場所（性別、年齢階級別）



(4) ACP 認知度 (性別、年齢階級別) (問 17)

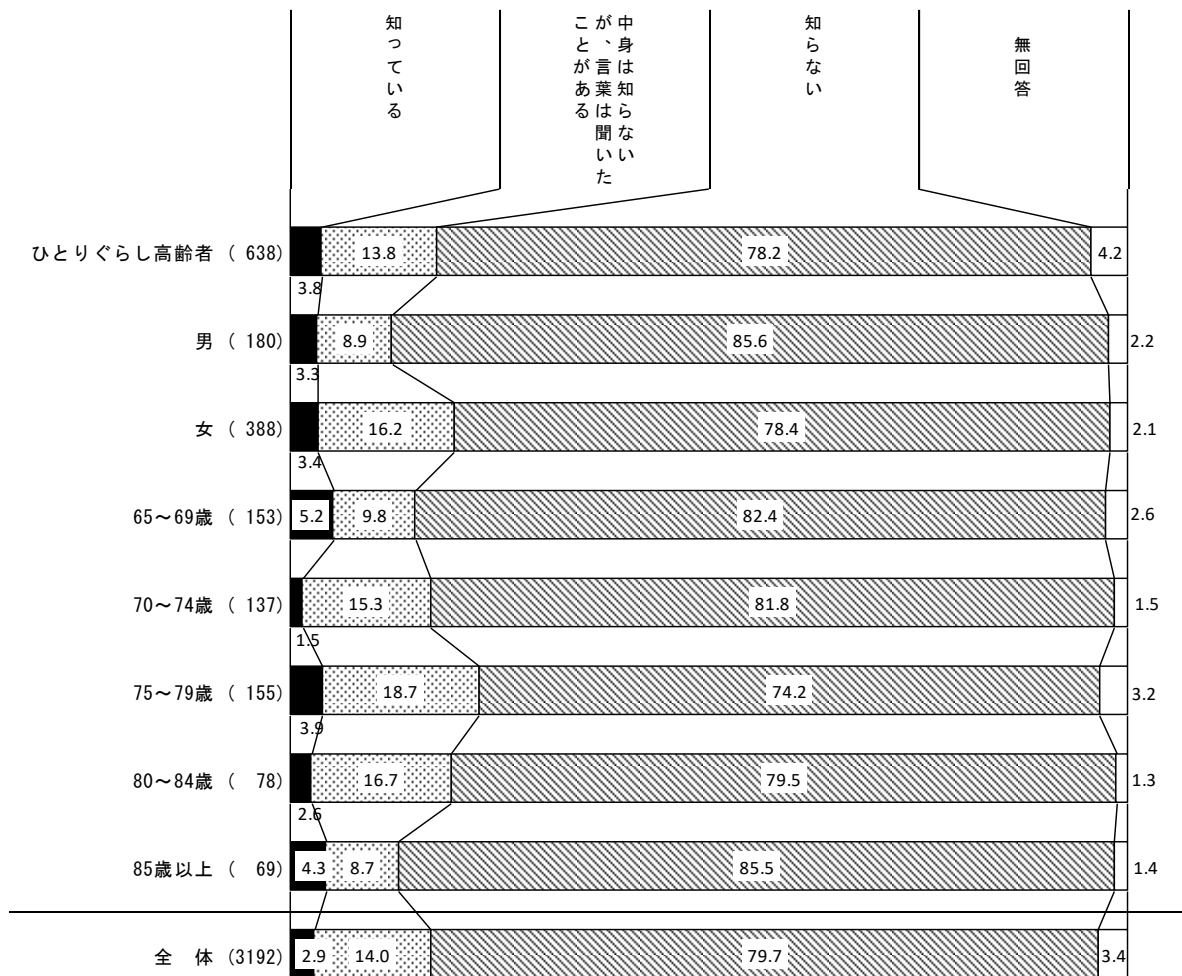
ひとりぐらし高齢者のACP認知度をみると、全体では「知らない」が78.2%で最も高く、「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」は13.8%、「知っている」は3.8%にとどまった。

性別でみると、女性が「中身は知らないが、言葉は聞いたことがある」(16.2%)で男性(8.9%)を7.3ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「知らない」は85歳以上が85.5%で最も高く、「知っている」は60～69歳で最も高かったが、それでも5.2%にすぎなかった。

全体と比較すると、「知らない」は1.5ポイント低くなっている。(図表 14-3-4)

図表 14-3-4 ACP 認知度 (性別、年齢階級別)



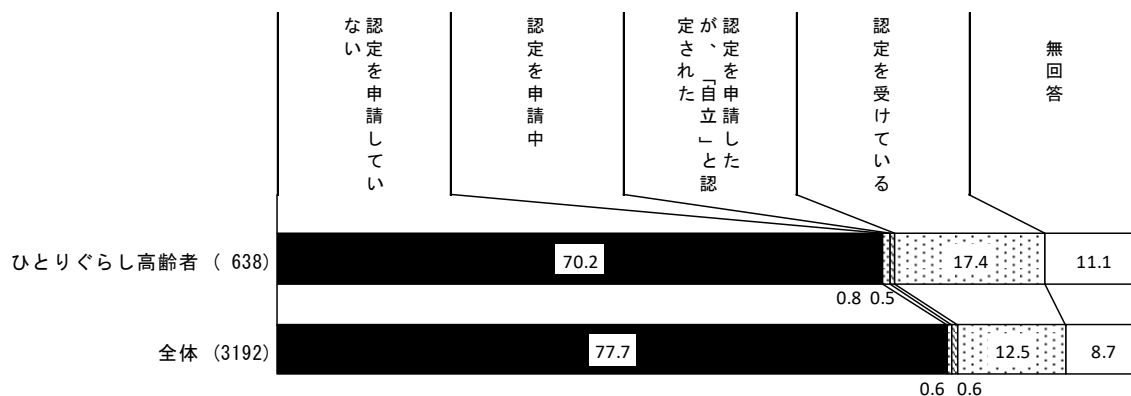
4 介護サービスなど

(1) 要介護認定の有無(問 18)

ひとりぐらし高齢者の要介護認定の有無についてみると、「認定を申請していない」が70.2%、「認定を受けている」が17.4%となった。

全体と比較すると、「認定を申請していない」は7.5ポイント低く、一方、「認定を受けている」は4.9ポイント高くなっている。(図表 14-4-1)

図表 14-4-1 要介護認定の有無



(2) 要支援・要介護度 (問 18-1)

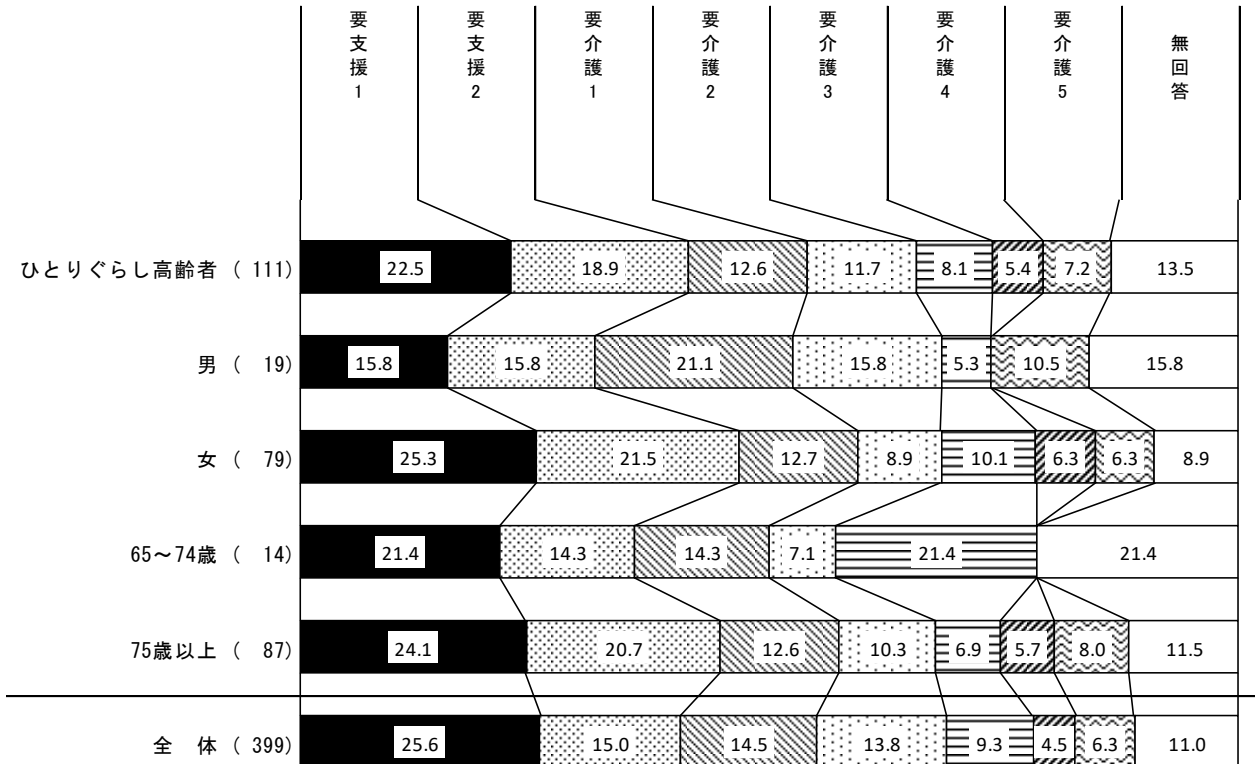
ア 要支援・要介護度 (性別、年齢階級別)

ひとりぐらし高齢者の要支援・要介護度を性別、年齢階級別で見ると、全体では「要支援1」が22.5%で最も高く、次いで「要支援2」が18.9%、「要介護1」が12.6%となっている。

性別で見ると、女性は「要介護4」が6.3%であるが、男性はいなかった。

年齢階級別で見ると、後期高齢者は「要介護度4」で5.7%、「要介護度5」で8.0%になっているが、前期高齢者ではなかった。(図表 14-4-2)

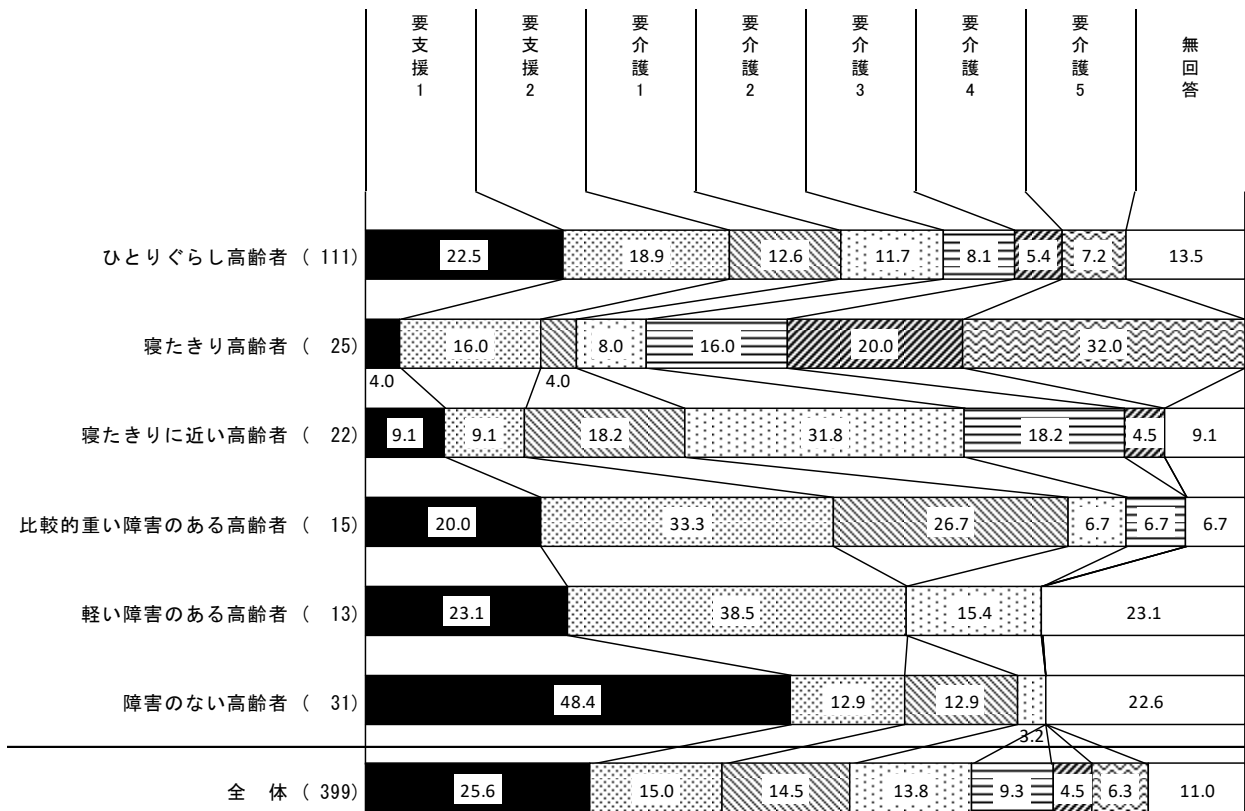
図表 14-4-2 要支援・要介護度 (性別、年齢階級別)



イ 要支援・要介護度（動作能力類型別）

ひとりぐらし高齢者の要支援・要介護度を動作能力類型別で見ると、「障害のない高齢者」では「要支援1」が48.4%で最も高く、「寝たきり高齢者」では「要介護5」が32.0%で最も高くなっている。総じて、動作能力類型が重度になるにつれ、要支援・要介護度も重度になる傾向がある。（図表 14-4-3）

図表 14-4-3 要支援・要介護度（動作能力類型別）



(3) 介護の状況（介護を受けている状況）（問 18-2）

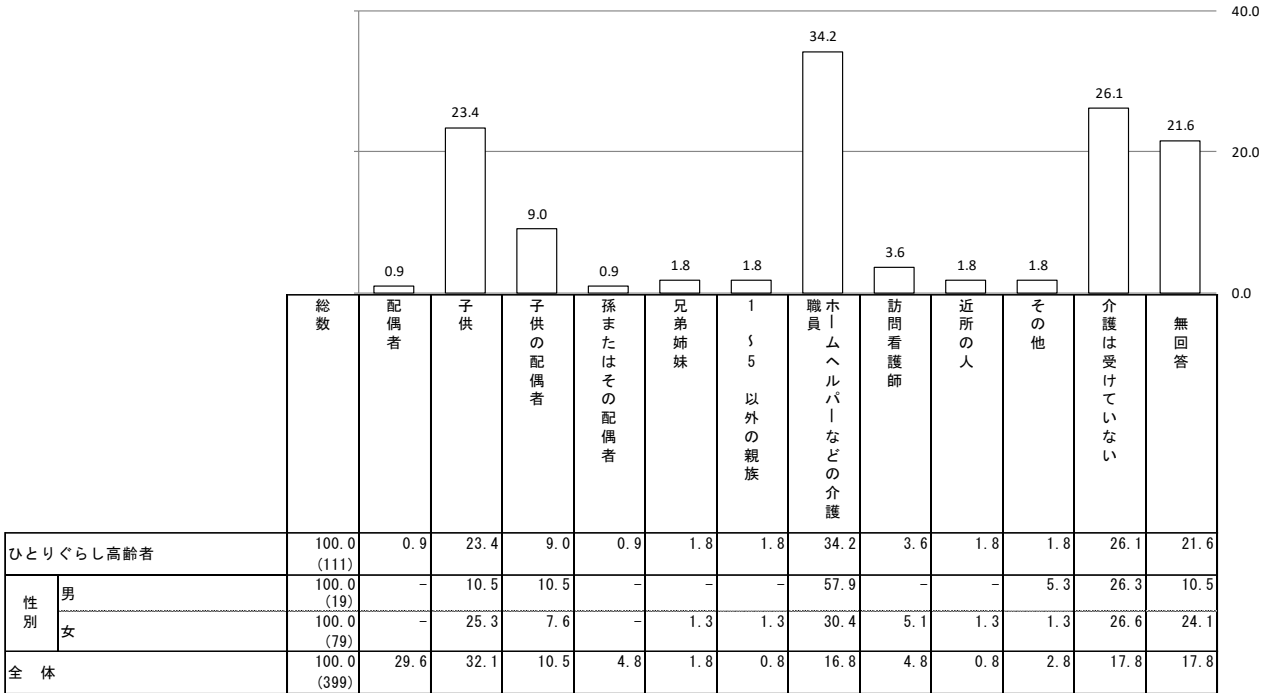
ア 介護をしている人—性別、全数との比較

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人に、だれが介護をしているかについて聞いたところ、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く 34.2%、次いで「子供」が 23.4%となっている。

全体と比較すると、「ホームヘルパーなどの介護職員」は 17.4 ポイント高くなっている。

（図表 14-4-4）

図表 14-4-4 介護をしている人—性別、全数との比較



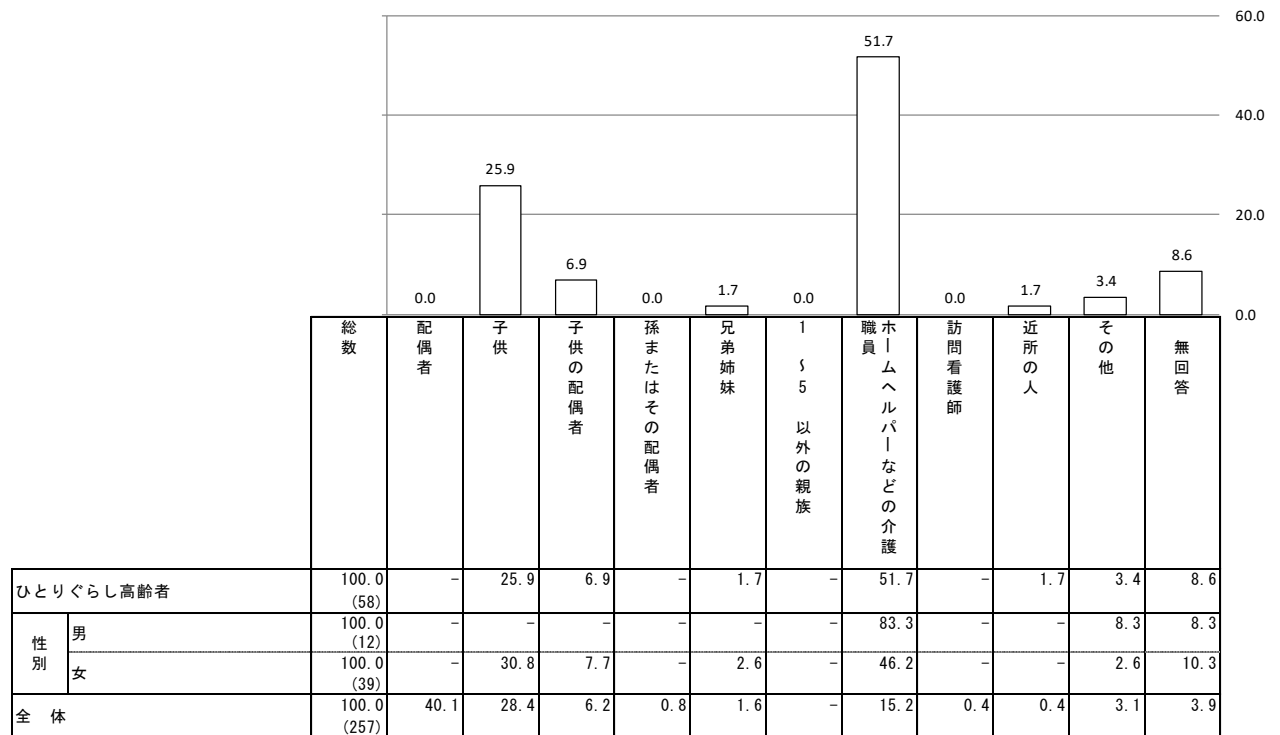
イ 介護している人のうち、最も介護している時間が長い人—性別、全数との比較

ひとりぐらし高齢者で要介護認定（要支援認定を含む。）を受けている人のうち、介護を受けている人を誰が最も長い時間介護をしているかについてみると、「ホームヘルパーなどの介護職員」の割合が最も高く 51.7%、次いで「子供」が 25.9%となっている。

全体と比較すると、「ホームヘルパーなどの介護職員」は 36.5 ポイント高くなっている。

(図表 14-4-5)

図表 14-4-5 介護している人のうち、最も介護している時間が長い人—性別、全数との比較

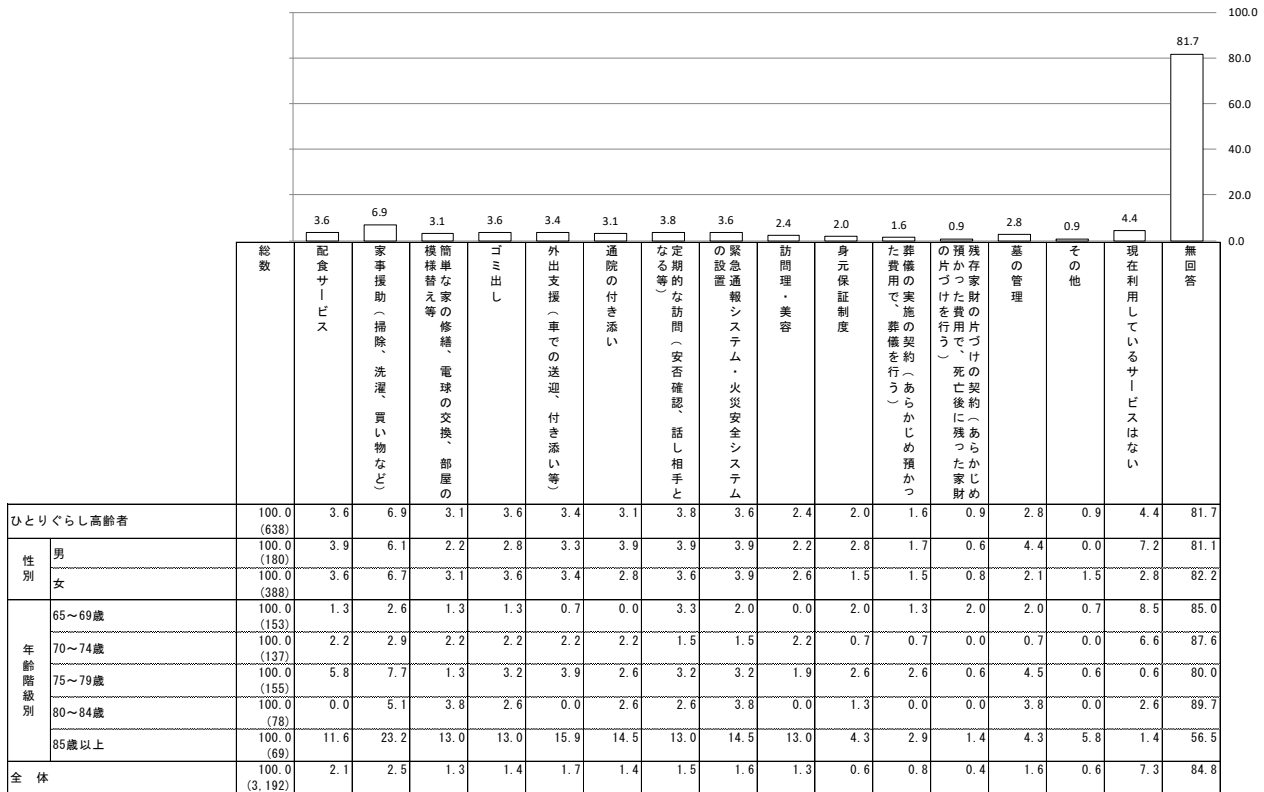


(4) 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス (性別、年齢階級別) (問 19 (1))

ひとり暮らし高齢者に利用している日常生活を支援するサービスについて聞いたところ、「家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)」が6.9%で最も高く、次いで「現在利用しているサービスはない」が4.4%、「定期的な訪問 (安否確認、話し相手となる等)」が3.8%となっている。

全体と比較すると、「現在利用しているサービスはない」は2.9ポイント低く、一方、「家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)」は4.4ポイント高くなっている。(図表 14-4-6)

図表 14-4-6 日常生活を支援するサービス-利用しているサービス (性別、年齢階級別)

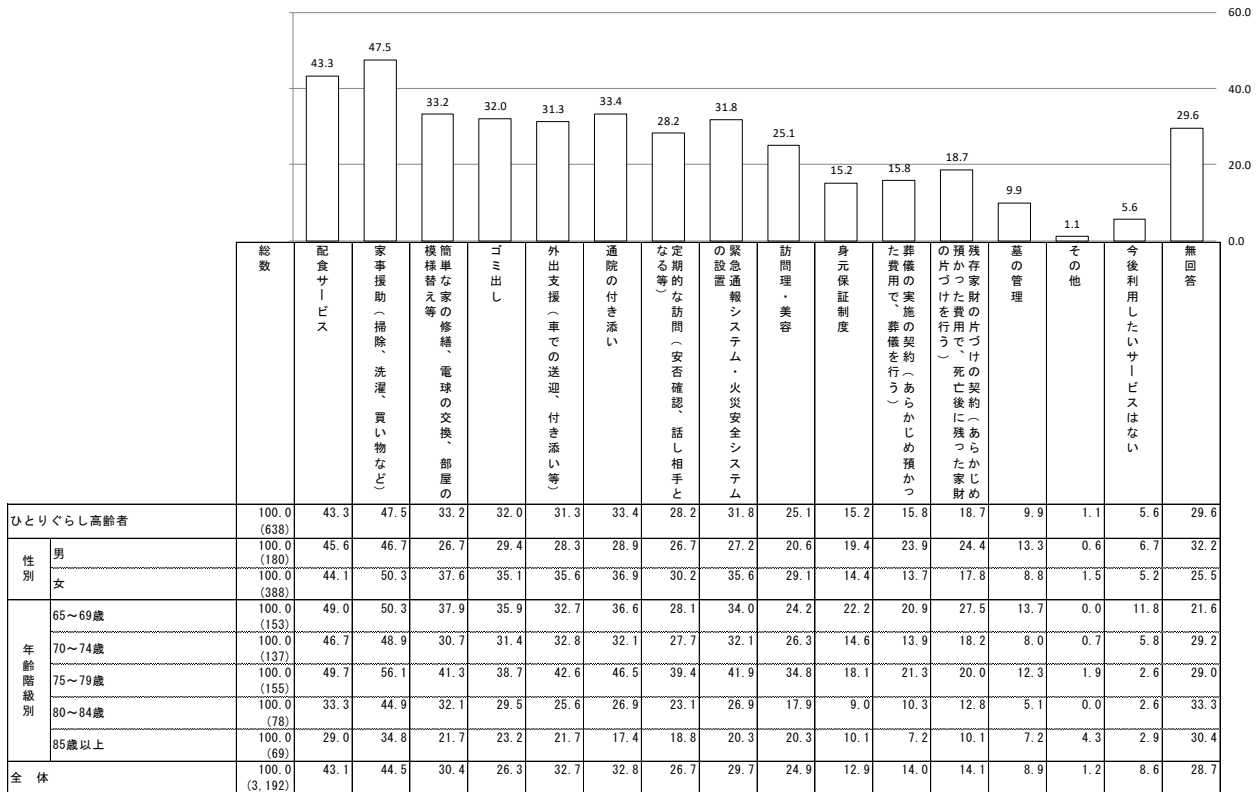


(5) 日常生活を支援するサービス-今後利用したいサービス (性別、年齢階級別) (問 19 (2))

ひとりぐらし高齢者に今後利用したい日常生活を支援するサービスについて聞いたところ、「家事援助 (掃除、洗濯、買い物など)」が 47.5% で最も高く、次いで「配食サービス」が 43.3%、「通院の付き添い」が 33.4% となっている。

全体と比較すると、「今後利用したいサービスはない」は 3.0 ポイント低く、一方、「ゴミ出し」は 5.7 ポイント高くなっている。(図表 14-4-7)

図表 14-4-7 日常生活を支援するサービス-利用したいサービス (性別、年齢階級別)



(6) サービスの主体（性別、年齢階級別）（問 19-1）

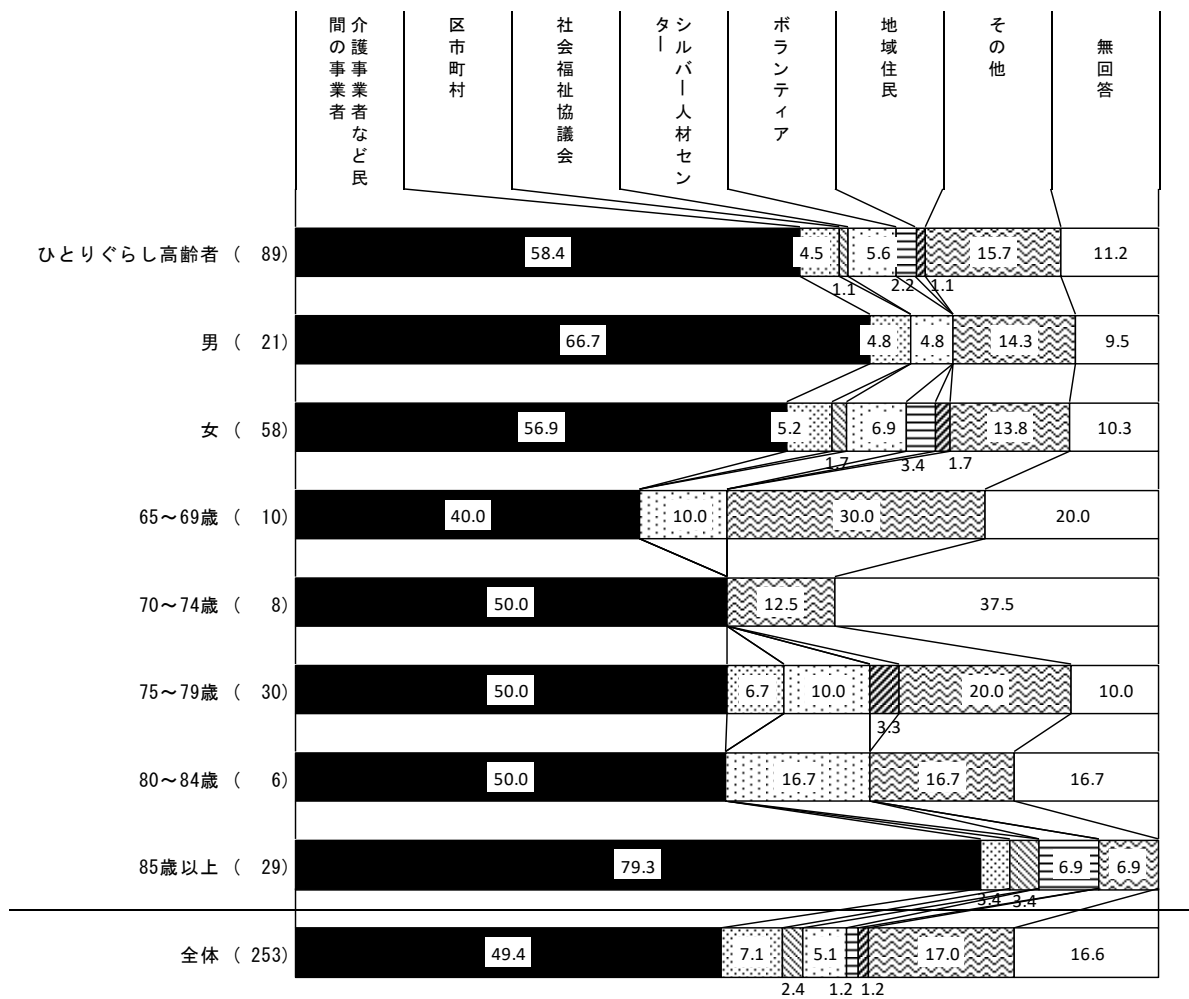
ひとりぐらし高齢者の利用サービスの主体を性別、年齢階級別でみると、全体では「介護事業者など民間の事業者」が 58.4%で最も高く、「シルバー人材センター」が 5.6%、「区市町村」が 4.5%となっている。

性別でみると、男性が「介護事業者など民間の事業者」で 66.7%となり、女性(56.9%)を 9.8ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、全体的にサンプル数は少ないが、年齢階級が高くなるにつれ「介護事業者など民間の事業者」の占める割合が高くなる傾向にある。

全体と比較すると、「区市町村」は 2.6ポイント低く、一方、「介護事業者など民間の事業者」は 9.0ポイント高くなっている。（図表 14-4-8）

図表 14-4-8 サービスの主体（性別、年齢階級別）

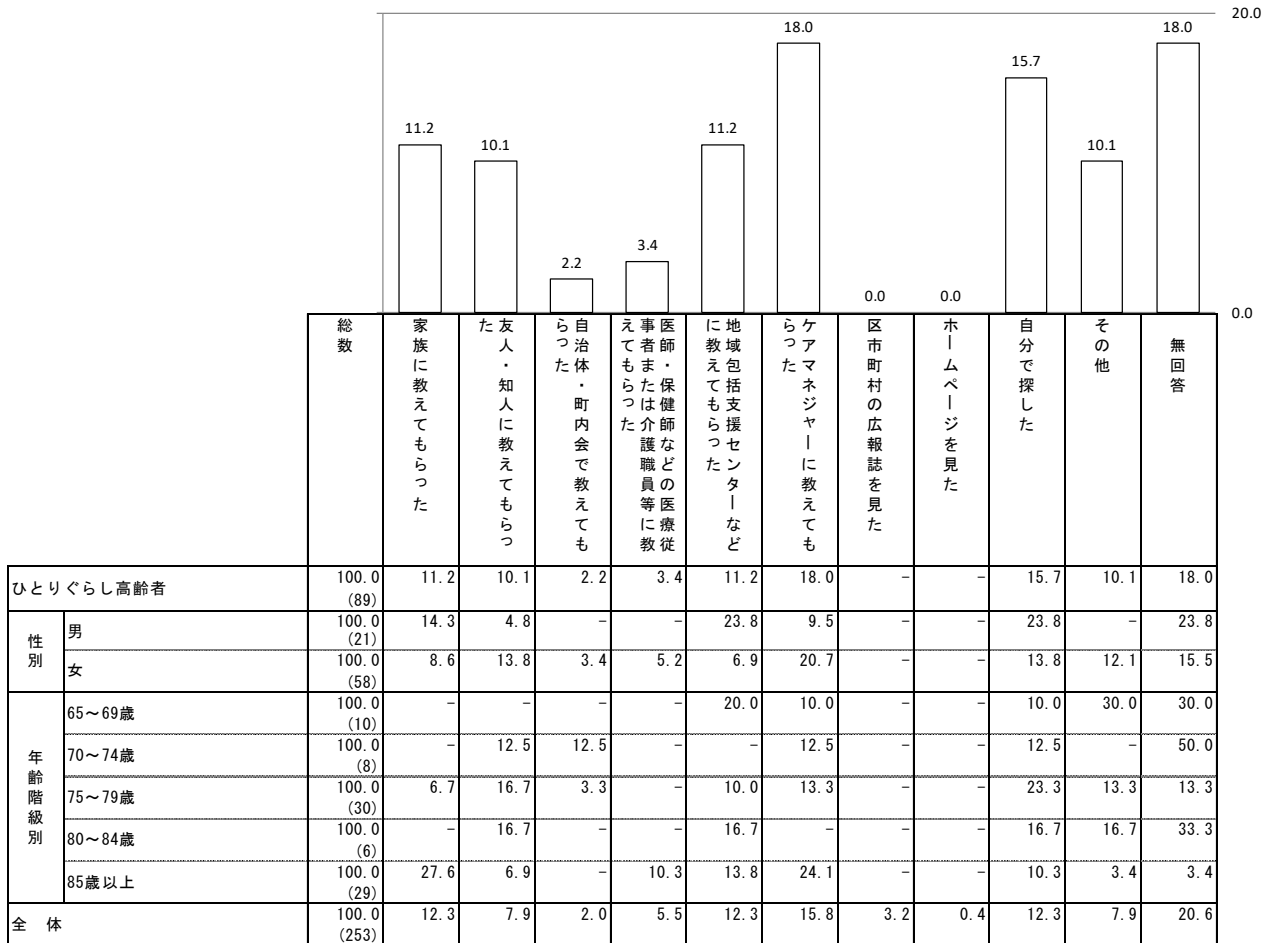


(7) 利用のきっかけ（性別、年齢階級別）（問19-2）

ひとりぐらし高齢者でサービスを利用している人の利用のきっかけについてみると、「ケアマネジャーに教えてもらった」が18.0%で最も高く、次いで「自分で探した」が15.7%となっている。

全体と比較すると、「医師・保健師などの医療従事者または介護職員等に教えてもらった」は2.1ポイント低く、一方、「自分で探した」は3.4ポイント高くなっている。（図表14-4-9）

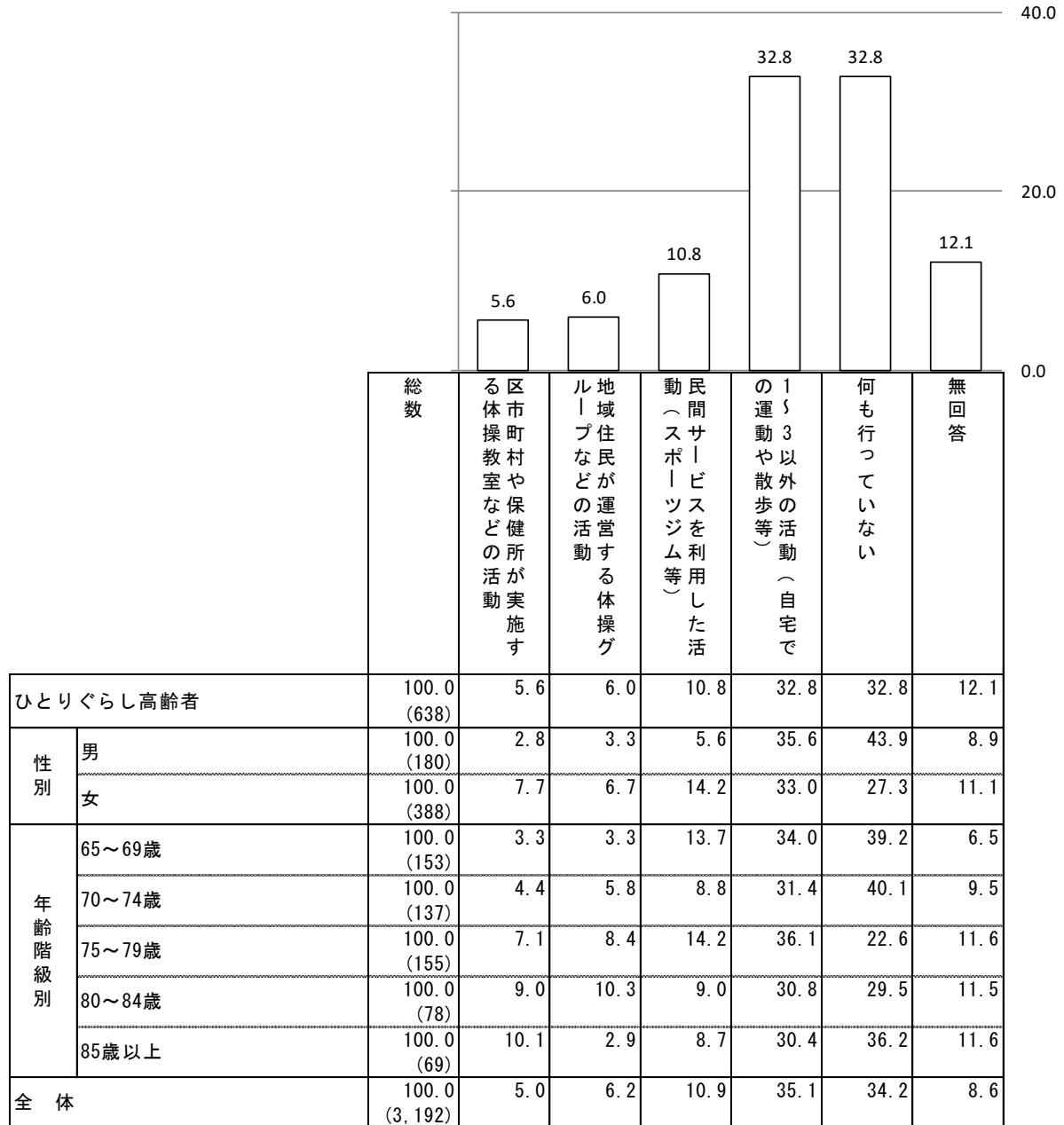
図表 14-4-9 利用のきっかけ（性別、年齢階級別）



(8) 介護予防の活動内容（性別、年齢階級別）（問 20）

ひとりぐらし高齢者の介護予防の活動内容についてみると、「1～3以外の活動（自宅での運動や散歩等）」と「何も行っていない」がともに32.8%となっている。（図表 14-4-10）

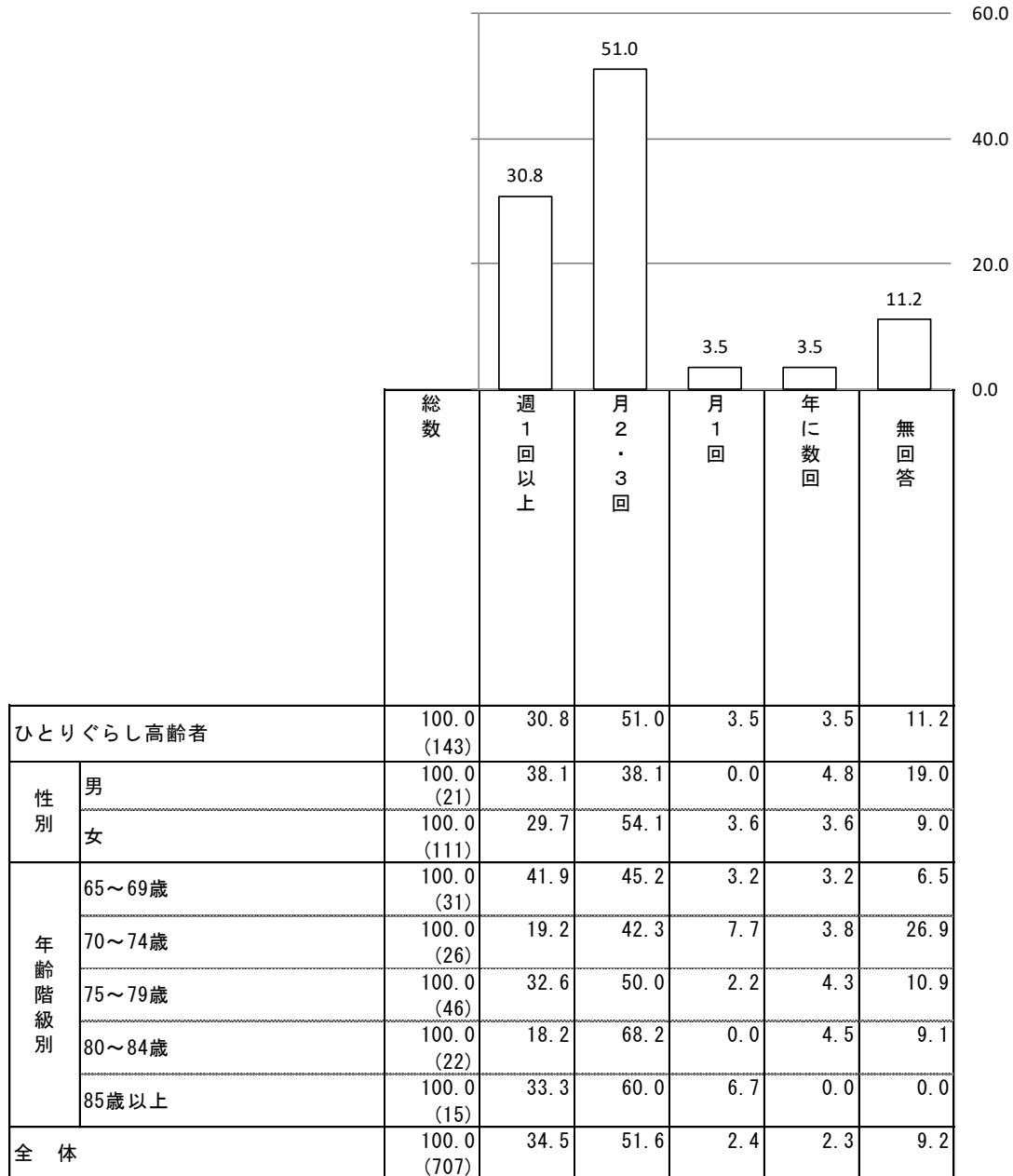
図表 14-4-10 介護予防の活動内容（性別、年齢階級別）



(9) 介護予防の活動頻度（性別、年齢階級別）（問 20-1）

ひとりぐらし高齢者の介護予防の活動頻度についてみると、「月2・3回」が51.0%で最も高く、次いで「週1回以上」が30.8%となっている。（図表 14-4-11）

図表 14-4-11 介護予防の活動頻度（性別、年齢階級別）



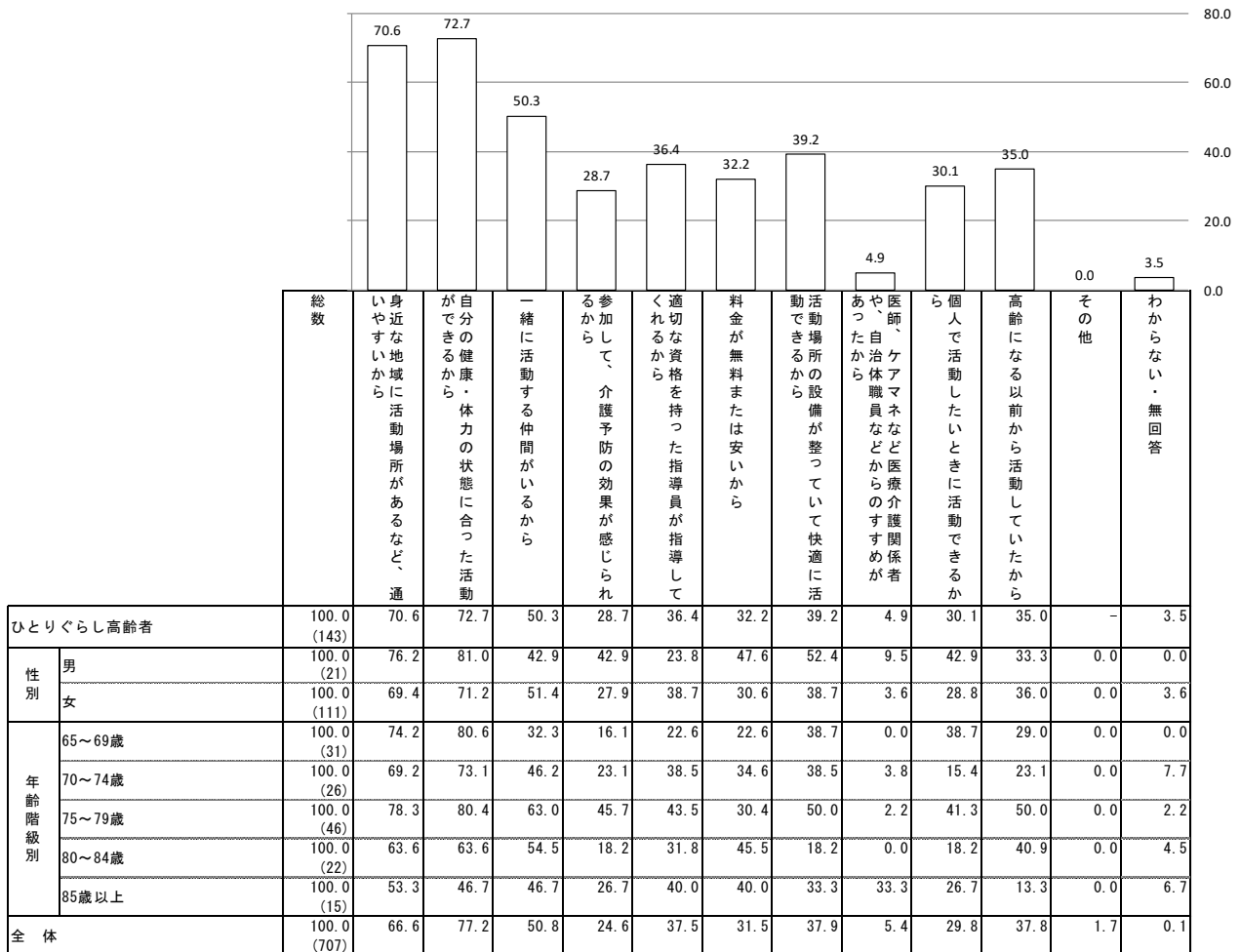
(10) 介護予防の活動の参加理由（性別、年齢階級別）（問 20-2）

ひとりぐらし高齢者の介護予防の活動の参加理由についてみると、「自分の健康・体力の状態に合った活動ができるから」が72.7%で最も高く、次いで「身近な地域に活動場所があるなど、通いやすいから」が70.6%となっている。

全体と比較すると、「自分の健康・体力の状態に合った活動ができるから」は4.5ポイント低く、一方、「参加して、介護予防の効果が感じられるから」は4.1ポイント高くなっている。

（図表 14-4-12）

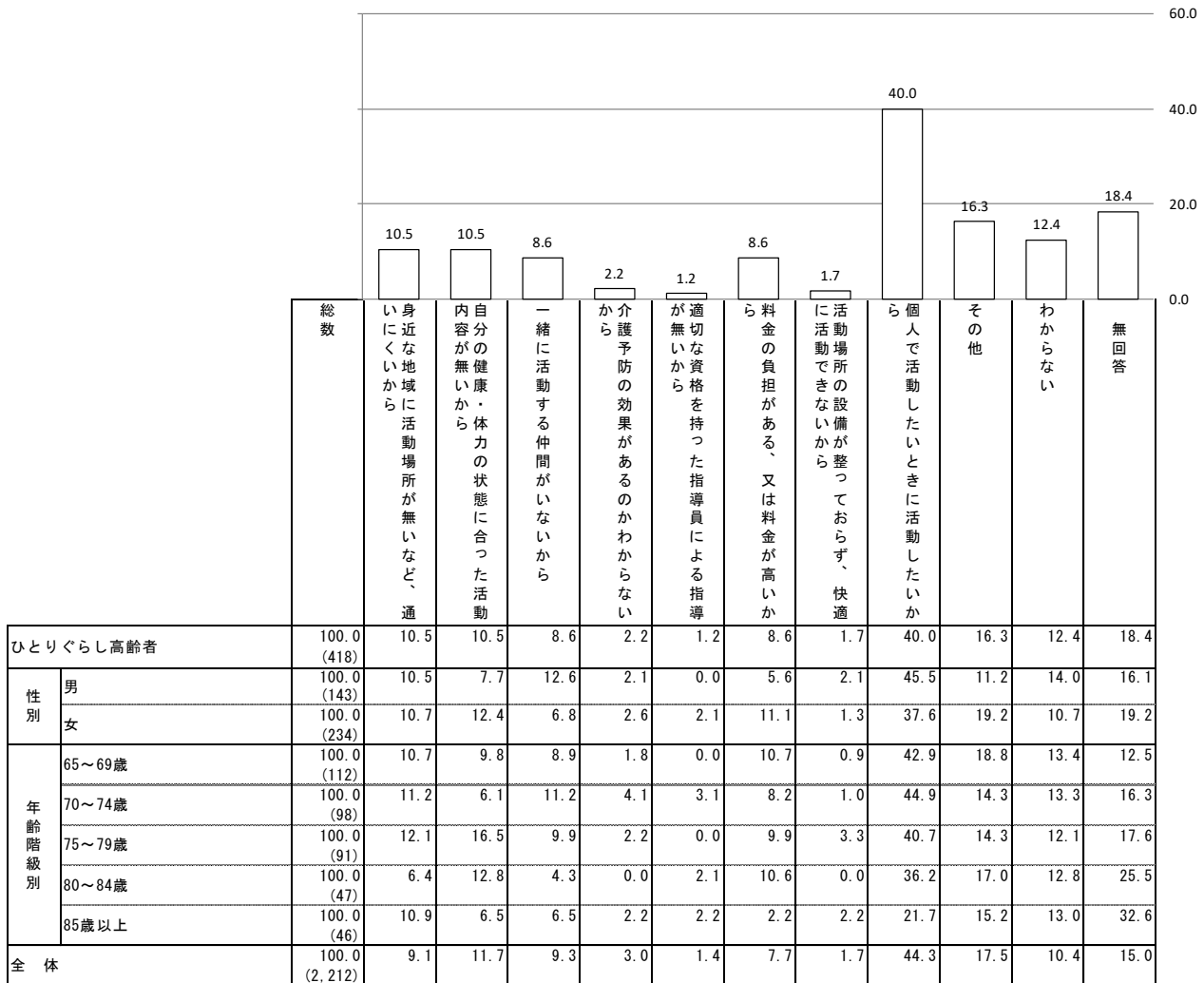
図表 14-4-12 介護予防の活動の参加理由（性別、年齢階級別）



(11) 介護予防の活動を行わない理由（性別、年齢階級別）（問 20-3）

ひとりぐらし高齢者が介護予防の活動を行わない理由についてしてみると、「個人で活動したいときに活動したいから」が 40.0%で最も高く、次いで「身近な地域に活動場所がないなど、通いにくいから」と「自分の健康・体力の状態に合った活動内容が無いから」がともに 10.5%となっている。（図表 14-4-13）

図表 14-4-13 介護予防の活動を行わない理由（性別、年齢階級別）

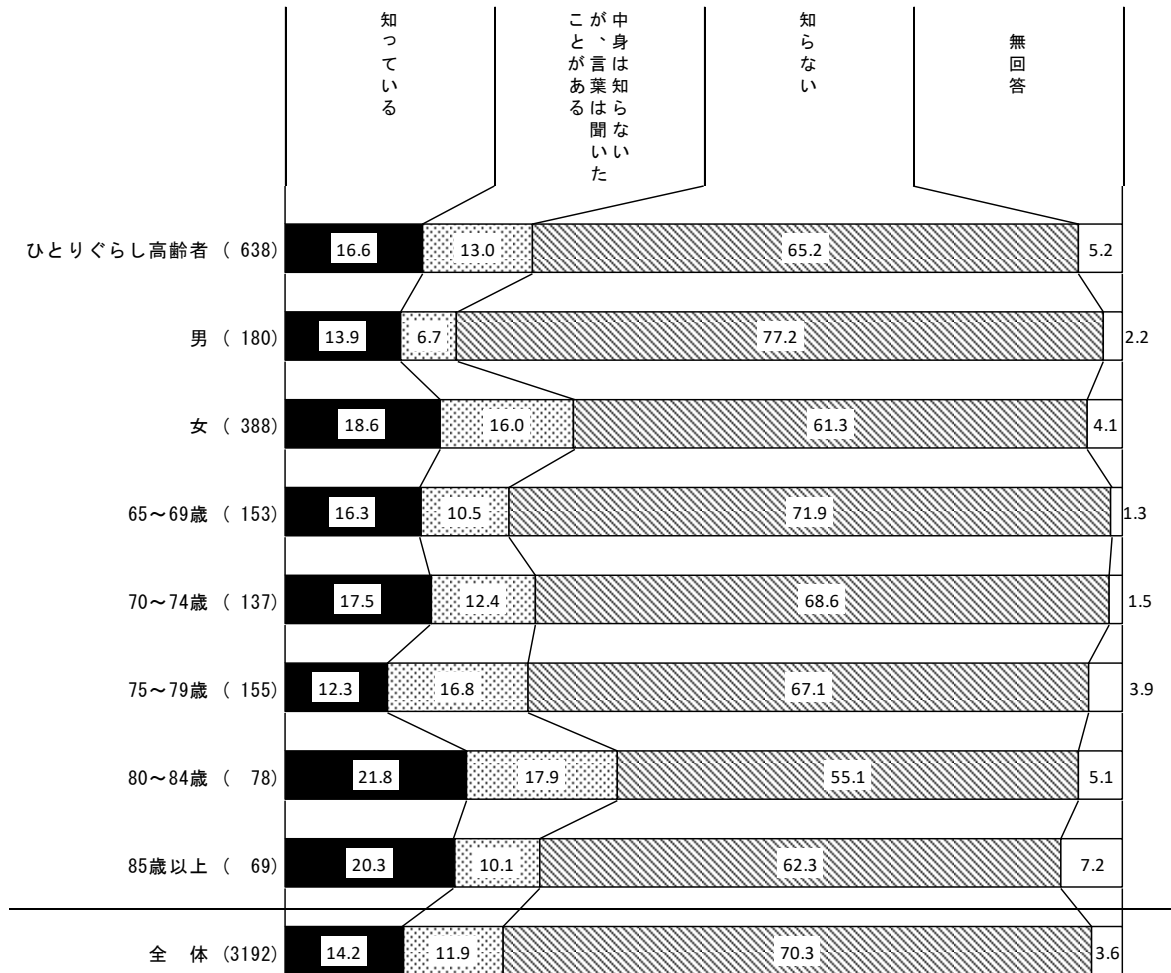


(12) フレイルについて（性別、年齢階級別）（問 21）

ひとりぐらし高齢者が「フレイル」について知っているかみてみると、「知らない」が65.2%と、約3人に2人が「知らない」と答えている。

全体と比較すると、「知らない」は5.1ポイント低く、一方、「知っている」は2.4ポイント高くなっている。（図表 14-4-14）

図表 14-4-14 フレイルについて（性別、年齢階級別）



5 住まい

(1) 住まいの形態（性別、性・年齢階級別）（問25）

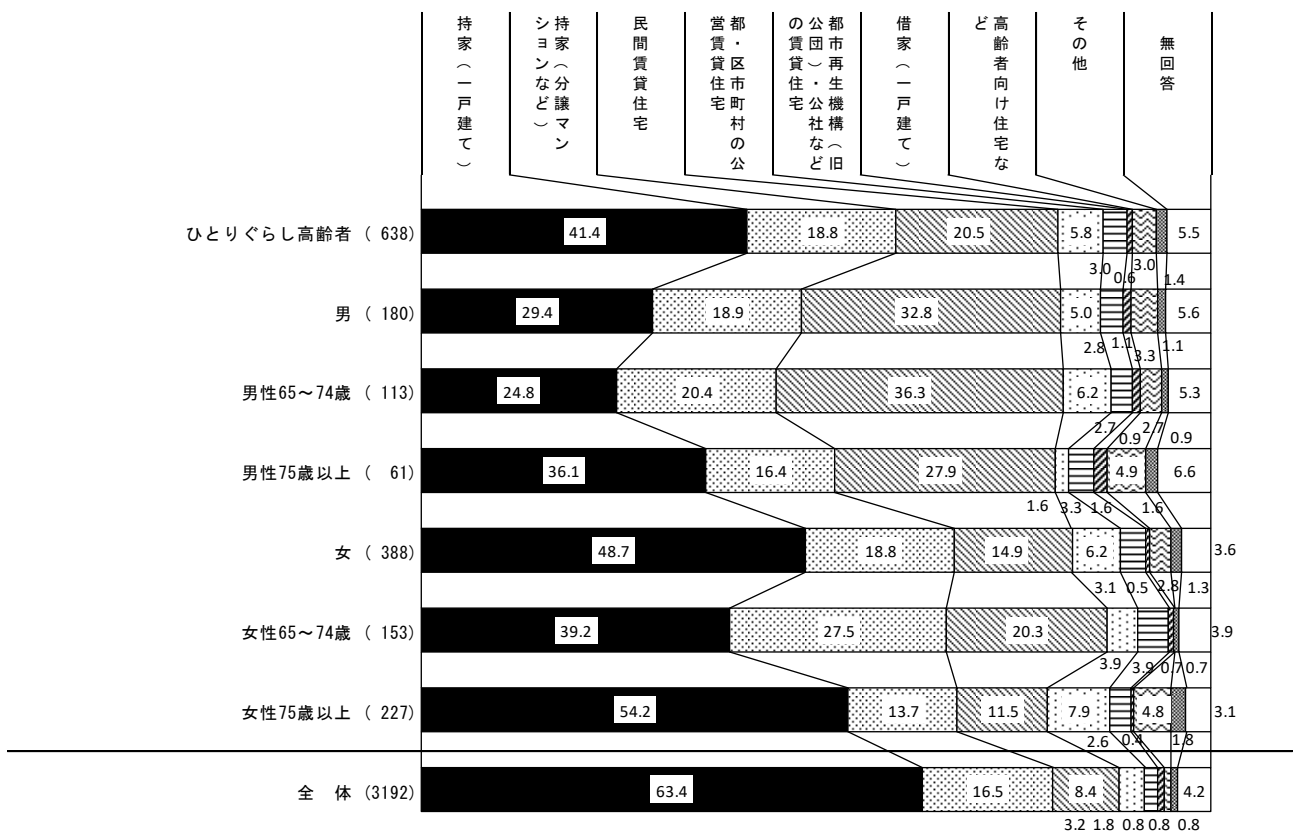
ひとりぐらし高齢者の住まいの形態についてみると、全体では「持家（一戸建て）」が41.4%で最も高く、「民間賃貸住宅」は20.5%、「持家（分譲マンションなど）」は18.8%となっている。

性別でみると、女性が「持家（一戸建て）」で48.7%となり、男性(29.4%)を19.3ポイント上まわった。

性・年齢階級別でみると、男性65～74歳で「民間賃貸住宅」が36.3%で最も高くなったが、他はいずれも「持家（一戸建て）」が最も高くなった。

全体と比較すると、「持家（一戸建て）」は22.0ポイント低く、一方、「民間賃貸住宅」は12.1ポイント高くなっている。（図表 14-5-1）

図表 14-5-1 住まいの形態（性別、性・年齢階級別）



(2) 介護が必要になったときの希望の住まい（性別、住居形態別）（問 26）

ひとりぐらし高齢者の介護が必要になったときの希望の住まいについてみると、全体では「現在の住宅に住み続けたい」が 35.3%で最も高く、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」は 21.8%、「わからない」は 15.7%となっている。

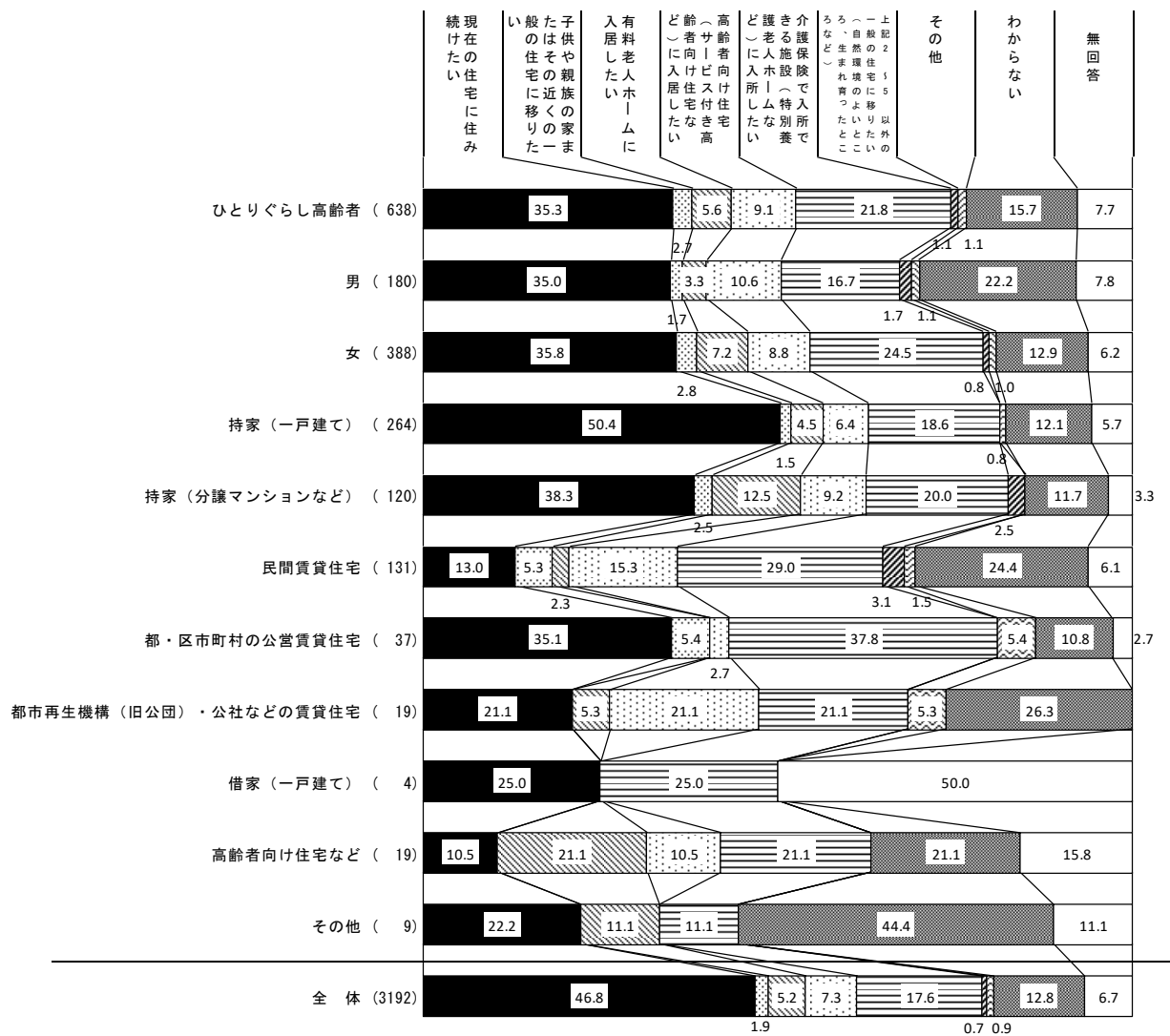
性別でみると、女性が「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」で 24.5%となり、男性(16.7%)を 7.8 ポイント上まわった。

住居種類別でみると、持家（一戸建て）では「現在の住宅に住み続けたい」が 50.4%で最も高く、民間賃貸住宅では「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」が 29.0%で最も高くなった。

全体と比較すると、「現在の住宅に住み続けたい」は 11.5 ポイント低く、一方、「介護保険で入所できる施設（特別養護老人ホームなど）に入所したい」は 4.2 ポイント高くなっている。

（図表 14-5-2）

図表 14-5-2 介護が必要になったときの希望の住まい（性別、住まいの形態別）



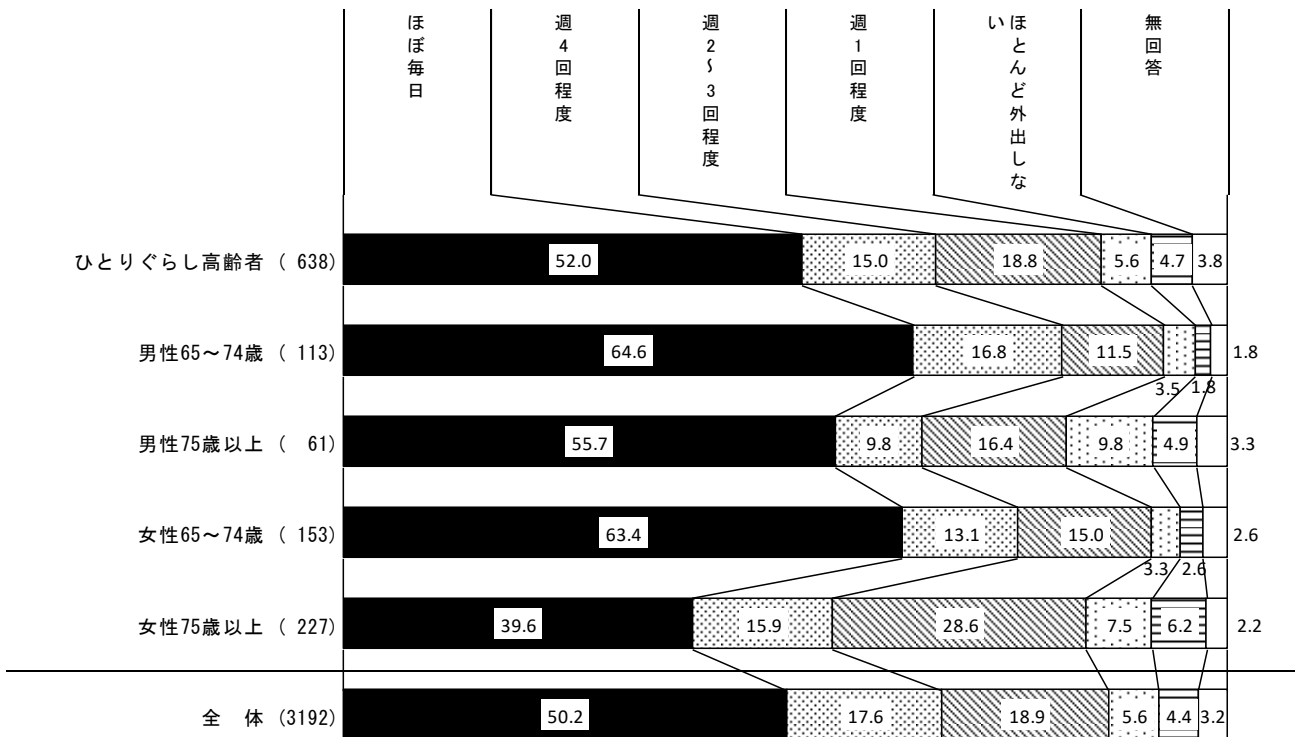
6 コミュニケーション

(1) 外出頻度（性・年齢階級別）（問 30）

ひとりぐらし高齢者の外出頻度についてみると、「ほぼ毎日」が52.0%で最も高く、次いで「週4回程度」が15.0%となっている。

全体と比較すると、「週4回程度」は2.6ポイント低く、一方、「ほぼ毎日」は1.8ポイント高くなっている。（図表 14-6-1）

図表 14-6-1 外出頻度（性・年齢階級別）



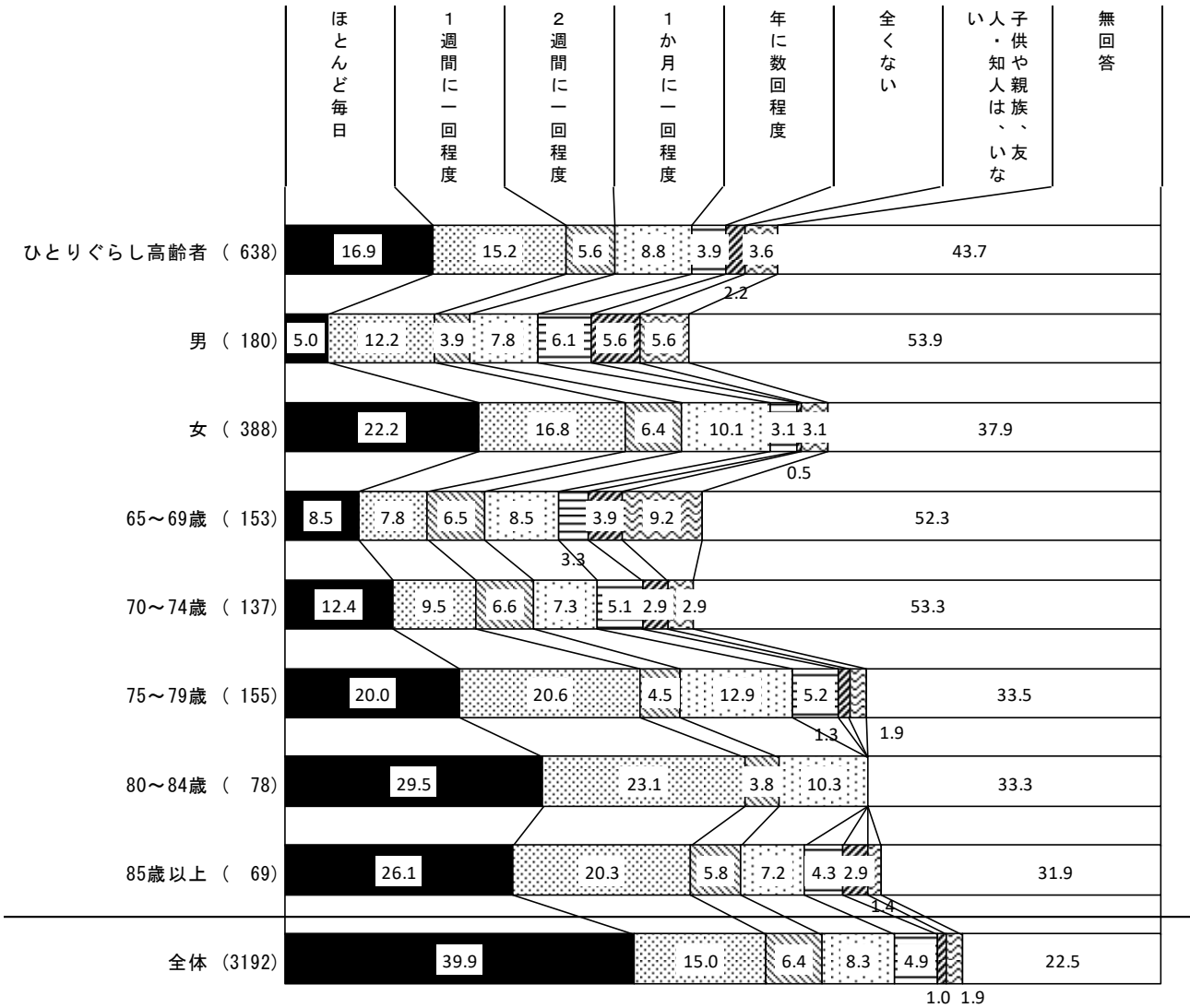
(2) 交流の頻度 (問 31)

ア 子供との交流の頻度 (性別、年齢階級別)

ひとりぐらし高齢者の子供との交流の頻度についてみると、「ほとんど毎日」が16.9%で最も高く、次いで「1週間に一回程度」が15.2%となっている。

全体と比較すると、「ほとんど毎日」は23.0ポイント低くなっている。(図表 14-6-2)

図表 14-6-2 子供との交流の頻度 (性別、年齢階級別)

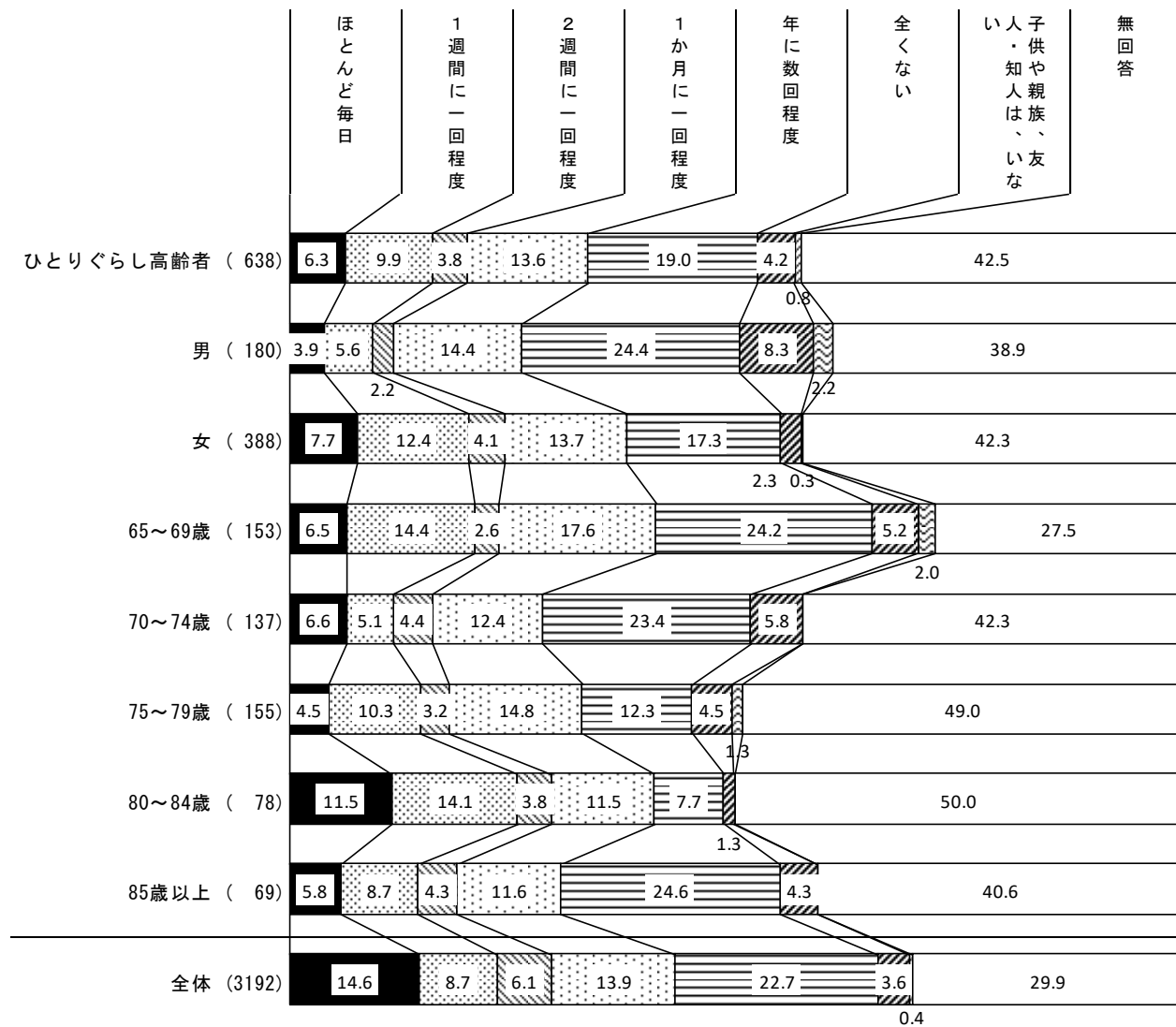


イ 親族との交流の頻度（性別、年齢階級別）

ひとりぐらし高齢者の親族との交流の頻度についてみると、「年に数回程度」が19.0%で最も高く、次いで「1か月に一回程度」が13.6%となっている。

全体と比較すると、「ほとんど毎日」は8.3ポイント低くなっている。（図表 14-6-3）

図表 14-6-3 親族との交流の頻度（性別、年齢階級別）

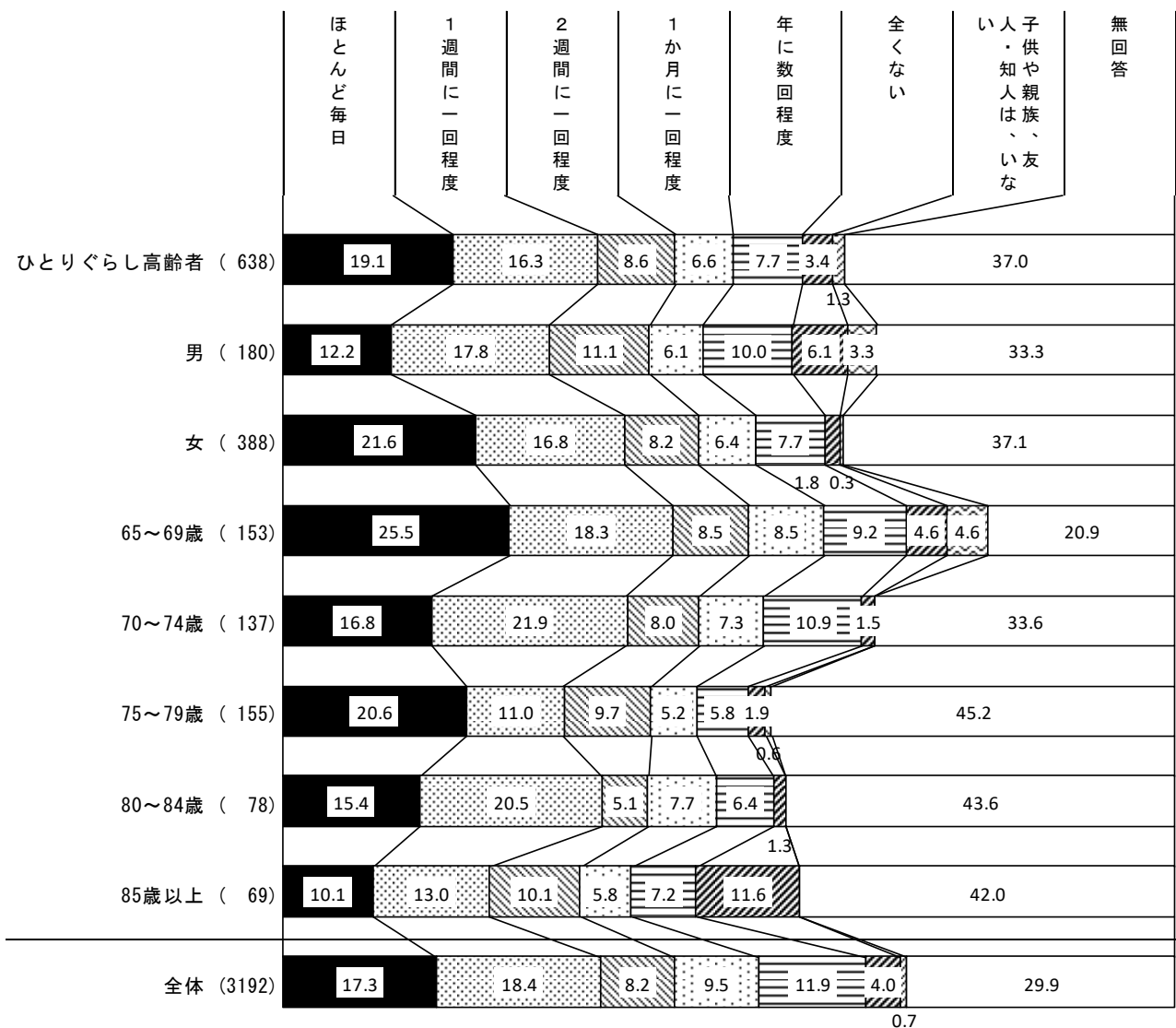


ウ 友人・知人との交流の頻度（性別、年齢階級別）

ひとりぐらし高齢者の友人・知人との交流の頻度についてみると、「ほとんど毎日」が19.1%で最も高く、次いで「1週間に一回程度」が16.3%となっている。

全体と比較すると、「ほとんど毎日」は1.8ポイント高くなっている。（図表 14-6-4）

図表 14-6-4 友人・知人との交流の頻度（性別、年齢階級別）



(3) 近所との付き合いの程度 (問 33)

ア 近所との付き合いの程度 (性別、性・年齢階級別)

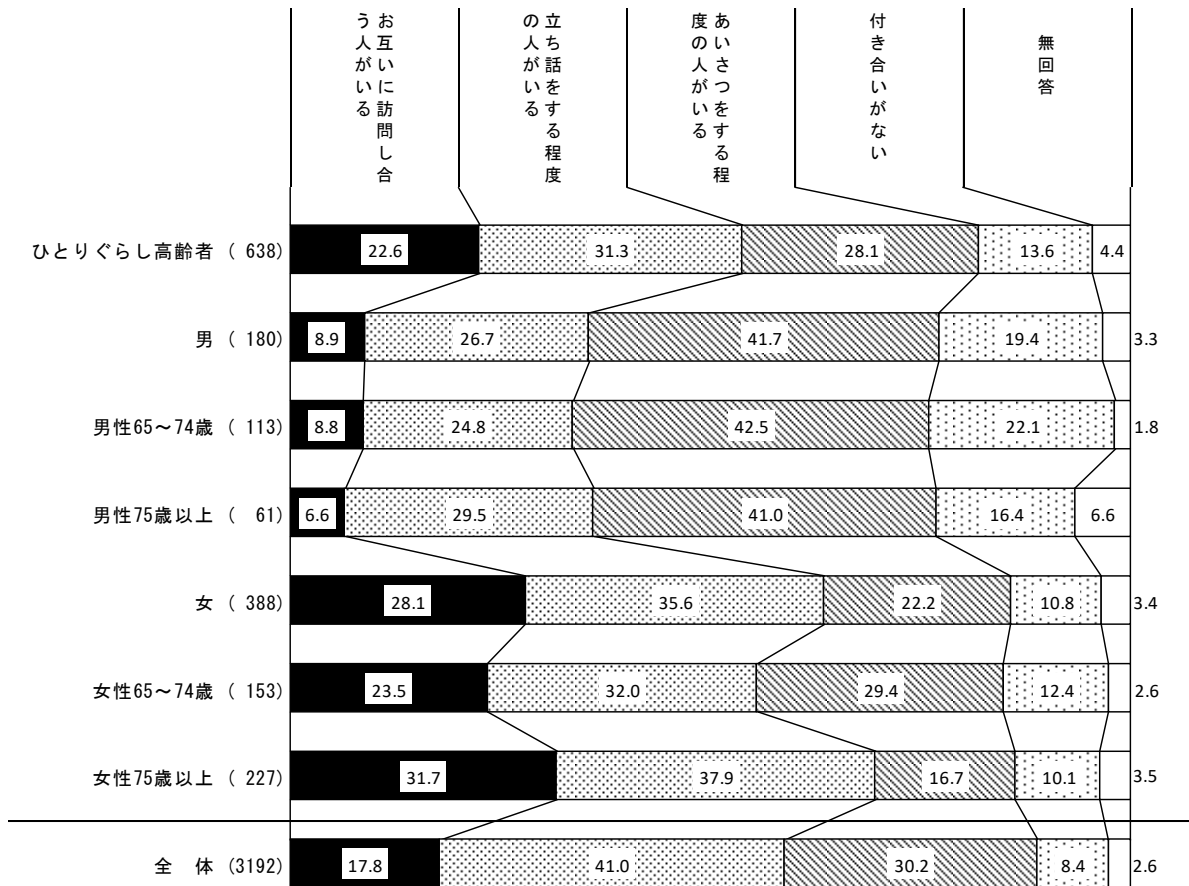
ひとりぐらし高齢者の近所付き合いの程度についてみると、全体では「立ち話をする程度の人がある」が31.3%で最も高く、「あいさつをする程度の人がある」は28.1%、「お互いに訪問し合う人がある」は22.6%となっている。

性別でみると、女性が「お互いに訪問し合う人がある」で28.1%となり、男性(8.9%)を19.2ポイント上まわった。逆に「付き合いがない」では男性(19.4%)が女性(10.8%)を8.6ポイント上まわり、性別により差異が顕著な結果となった。

性・年齢階級別でみると、「お互いに訪問し合う人がある」は75歳以上の女性が31.7%に対し、男性はわずか6.6%となり、より高齢の性別で差異が大きい結果となった。

全体と比較すると、「立ち話をする程度の人がある」は9.7ポイント低く、一方、「お互いに訪問し合う人がある」は4.8ポイント高くなっている。(図表 14-6-5)

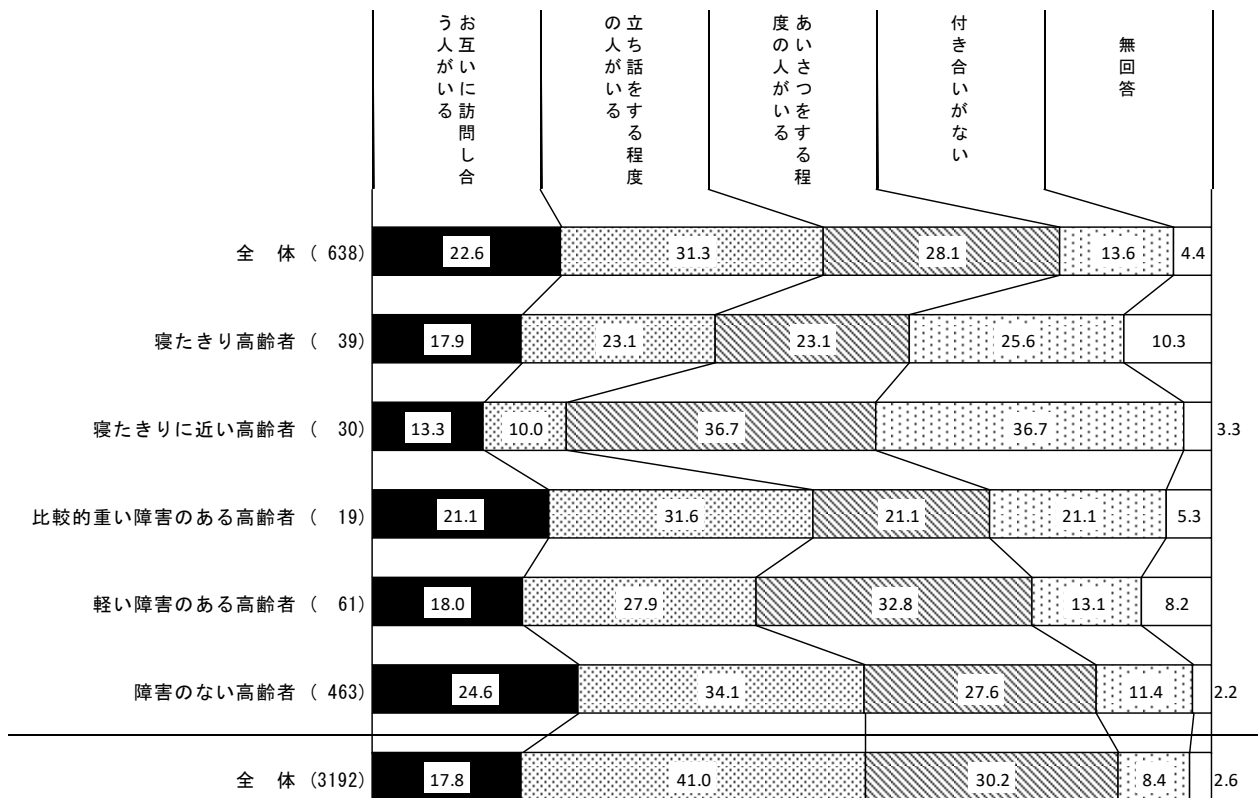
図表 14-6-5 近所との付き合いの程度 (性別、性・年齢階級別)



イ 近所との付き合いの程度（動作能力類型別）

ひとりぐらし高齢者の近所付き合いの程度について動作能力類型別でみると、「付き合いがない」は寝たきり高齢者で25.6%、寝たきりに近い高齢者で36.7%となり比較的高く、逆に障害のない高齢者では11.4%にとどまった。（図表 14-6-6）

図表 14-6-6 近所との付き合いの程度（動作能力類型別）



(3) 役割の期待 (性別、年齢階級別) (問 35)

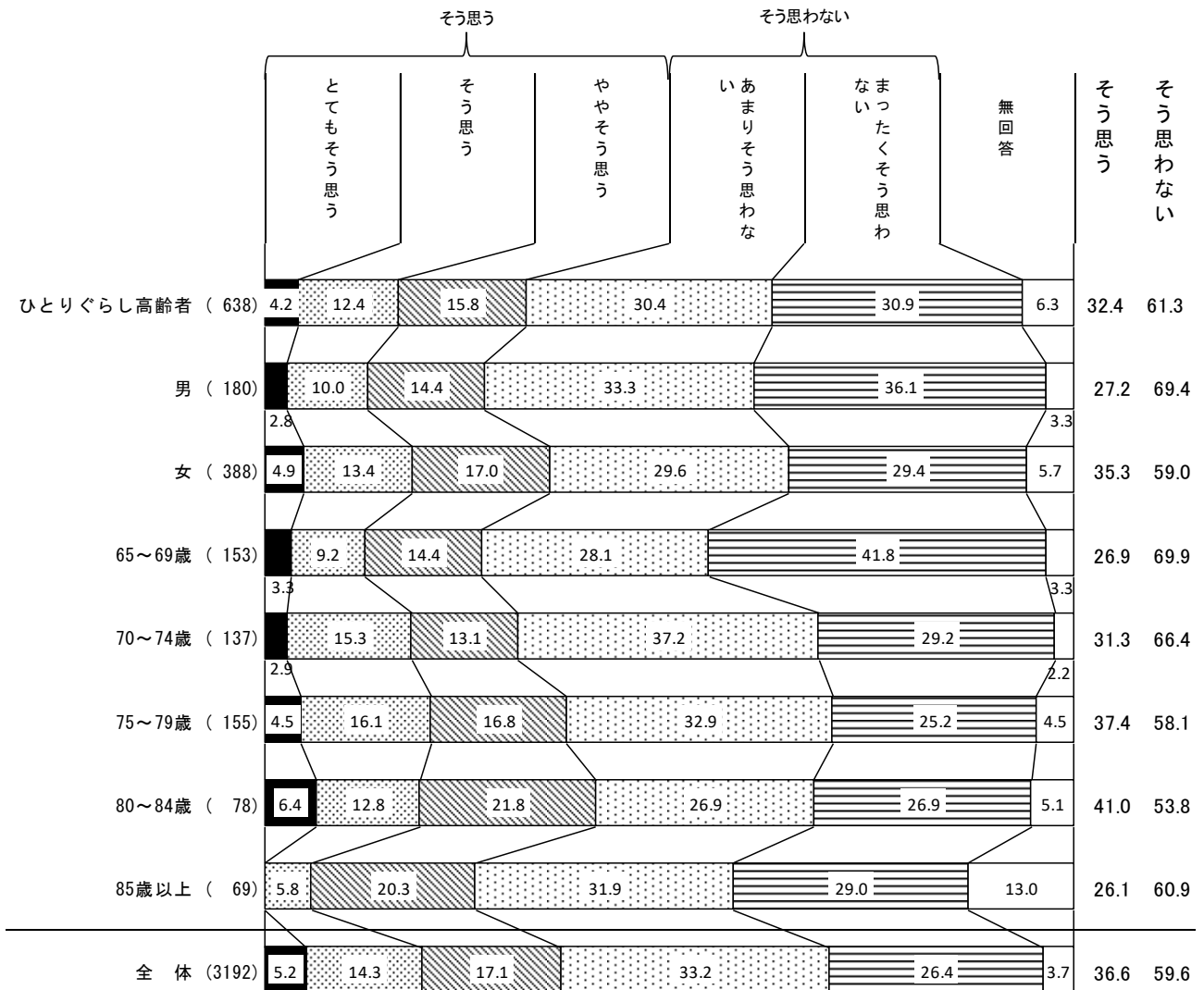
ひとりぐらし高齢者の役割の期待についてみると、全体では「まったくそう思わない」(30.9%)と、「あまりそう思わない」(30.4%)が3割を超えて比較的高くなった。一方で「とてもそう思う」は4.2%にとどまっている。

性別でみると、男性が「まったくそう思わない」で36.1%となり、女性(29.4%)を6.7ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「とてもそう思う」と「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う』は65~69歳(26.9%)から80~84歳(41.0%)まで、高齢になるにつれ割合も高くなったが、85歳以上では26.1%と年齢階級別では最も低くなった。

全体と比較すると、『そう思う』は4.2ポイント低くなっている。(図表 14-6-7)

図表 14-6-7 役割の期待 (性別、年齢階級別)



7 生きがい

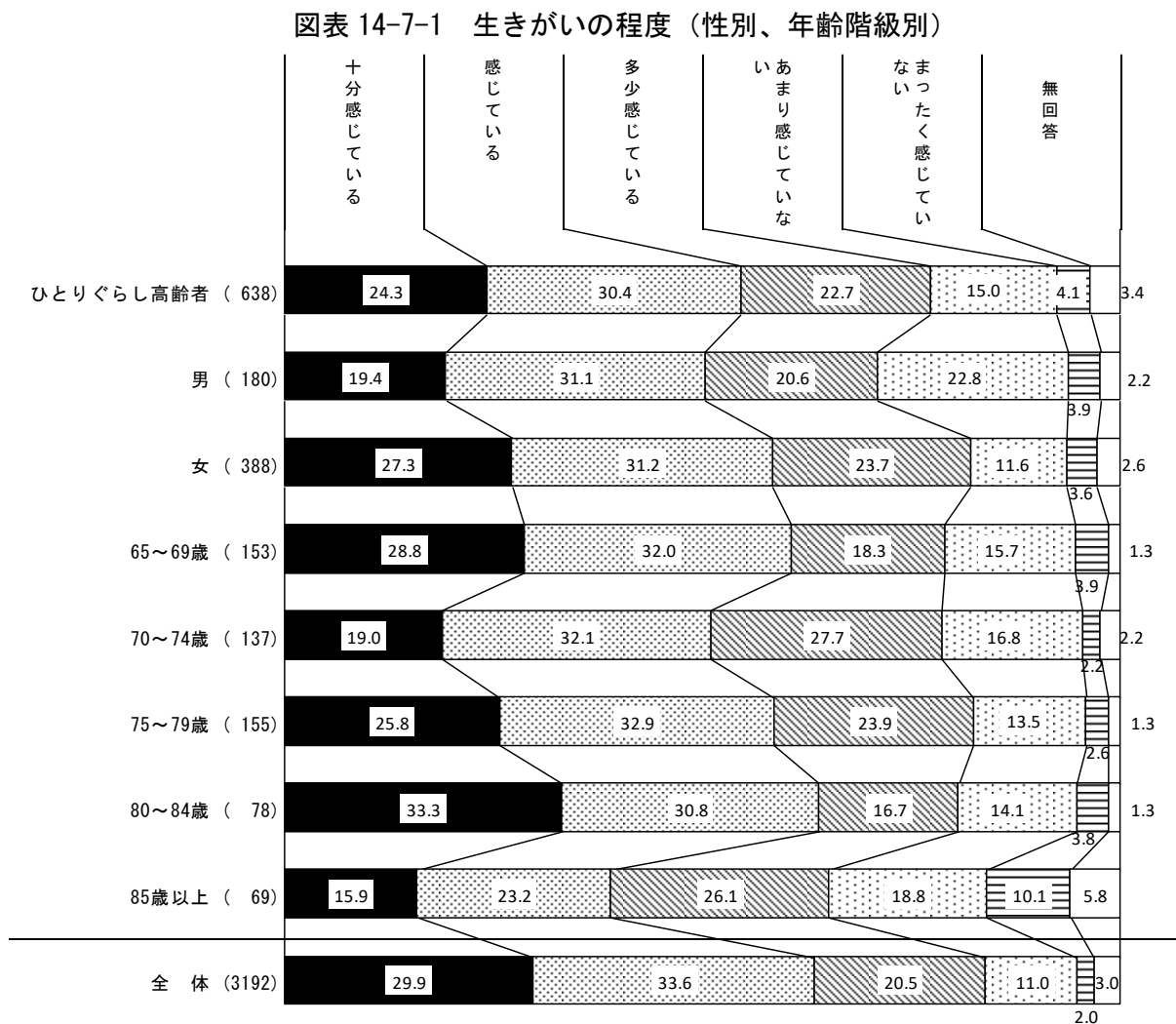
(1) 生きがいの程度（性別、年齢階級別）（問36）

ひとりぐらし高齢者の生きがいの程度についてみると、全体では「感じている」が30.4%で最も高く、「十分感じている」は24.3%、「多少感じている」は22.7%となっている。

性別でみると、女性が「十分感じている」で27.3%となり、男性(19.4%)を7.9ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、80～84歳は「十分感じている」が33.3%で比較的高くなった。また、85歳以上では「あまり感じていない」が18.8%で、
「まったく感じていない」が10.1%で比較的高くなった。

全体と比較すると、「十分感じている」は5.6ポイント低く、一方、「あまり感じていない」は4.0ポイント高くなっている。（図表14-7-1）

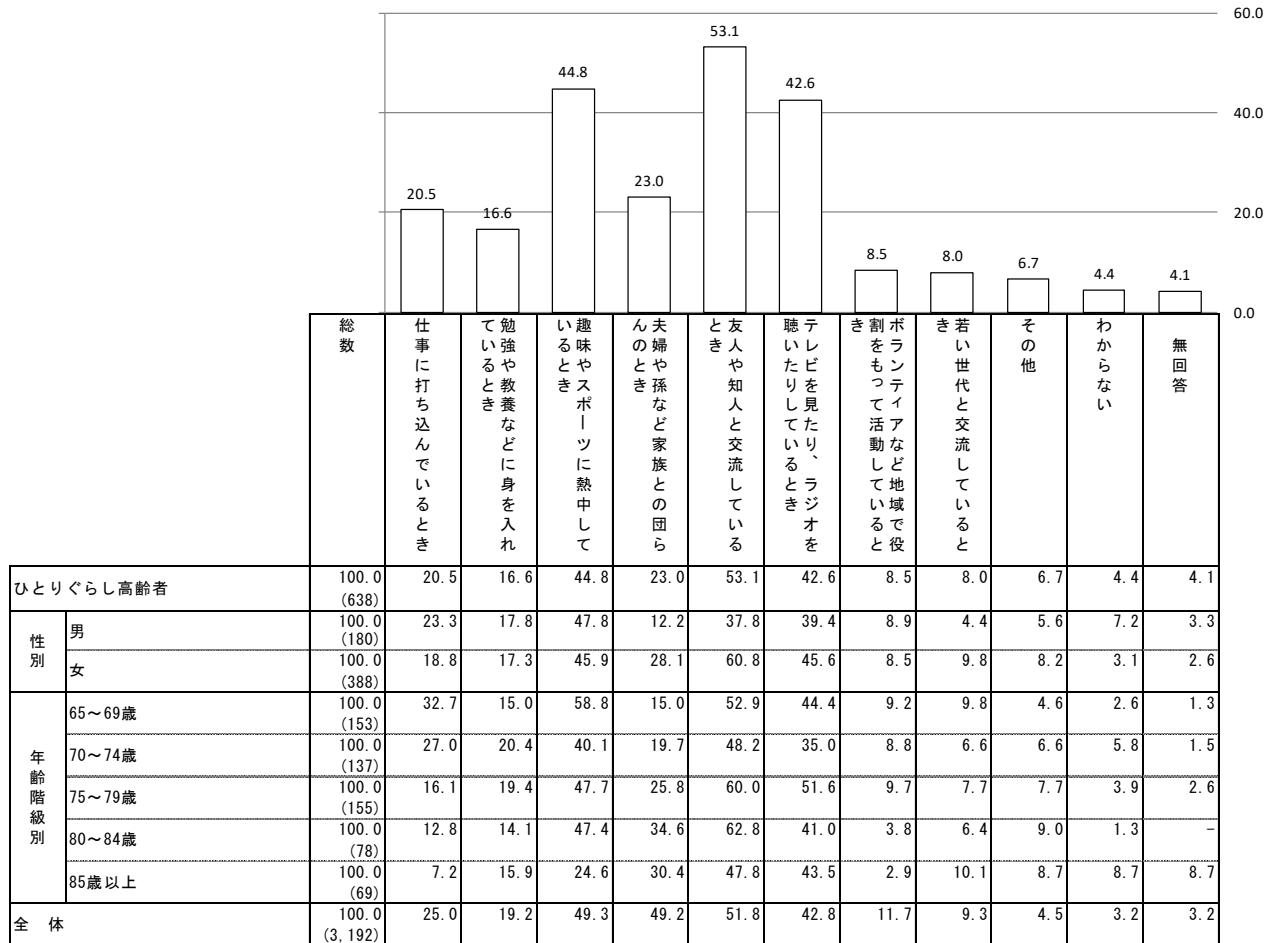


(2) 生きがいを感じる時（性別、年齢階級別）（問 36-1）

ひとりぐらし高齢者の生きがいを感じる時についてみると、「友人や知人と交流しているとき」が53.1%で最も高く、次いで「趣味やスポーツに熱中しているとき」が44.8%となっている。

全体と比較すると、「夫婦や孫など家族との団らんのとき」は26.2ポイント低く、一方、「友人や知人と交流しているとき」は1.3ポイント高くなっている。（図表 14-7-2）

図表 14-7-2 生きがいを感じる時（性別、年齢階級別）



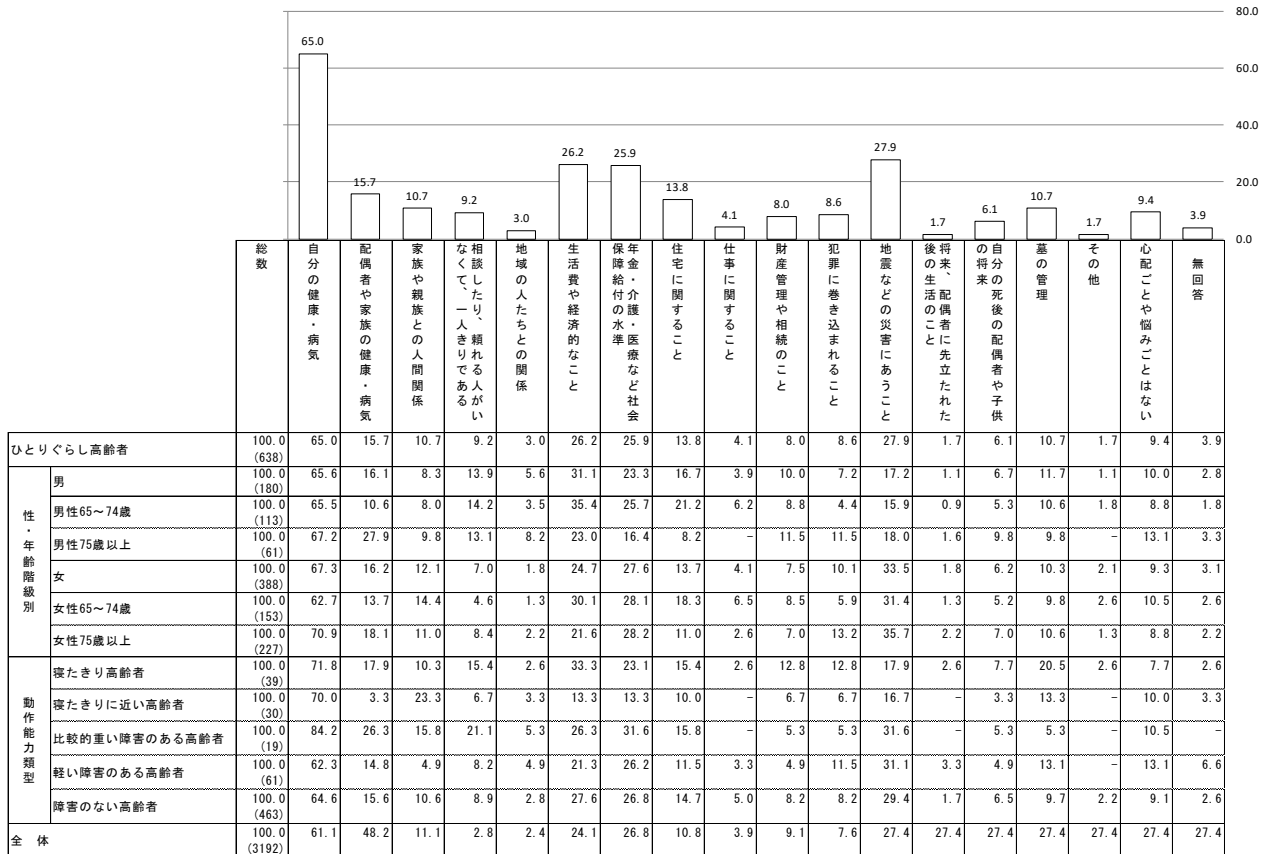
8 不安や悩み事

(1) 悩み事の内容（性別、年齢階級別）（問 37）

ひとりぐらし高齢者の悩み事の内容についてみると、「自分の健康・病気」が 65.0%、次いで「地震などの災害にあうこと」が 27.9%となっている。

全体と比較すると、「配偶者や家族の健康・病気」は 32.5 ポイント低く、一方、「相談したり、頼れる人がいなくて、一人きりである」は 6.4 ポイント高くなっている。（図表 14-8-1）

図表 14-8-1 悩み事の内容（性別、年齢階級別）

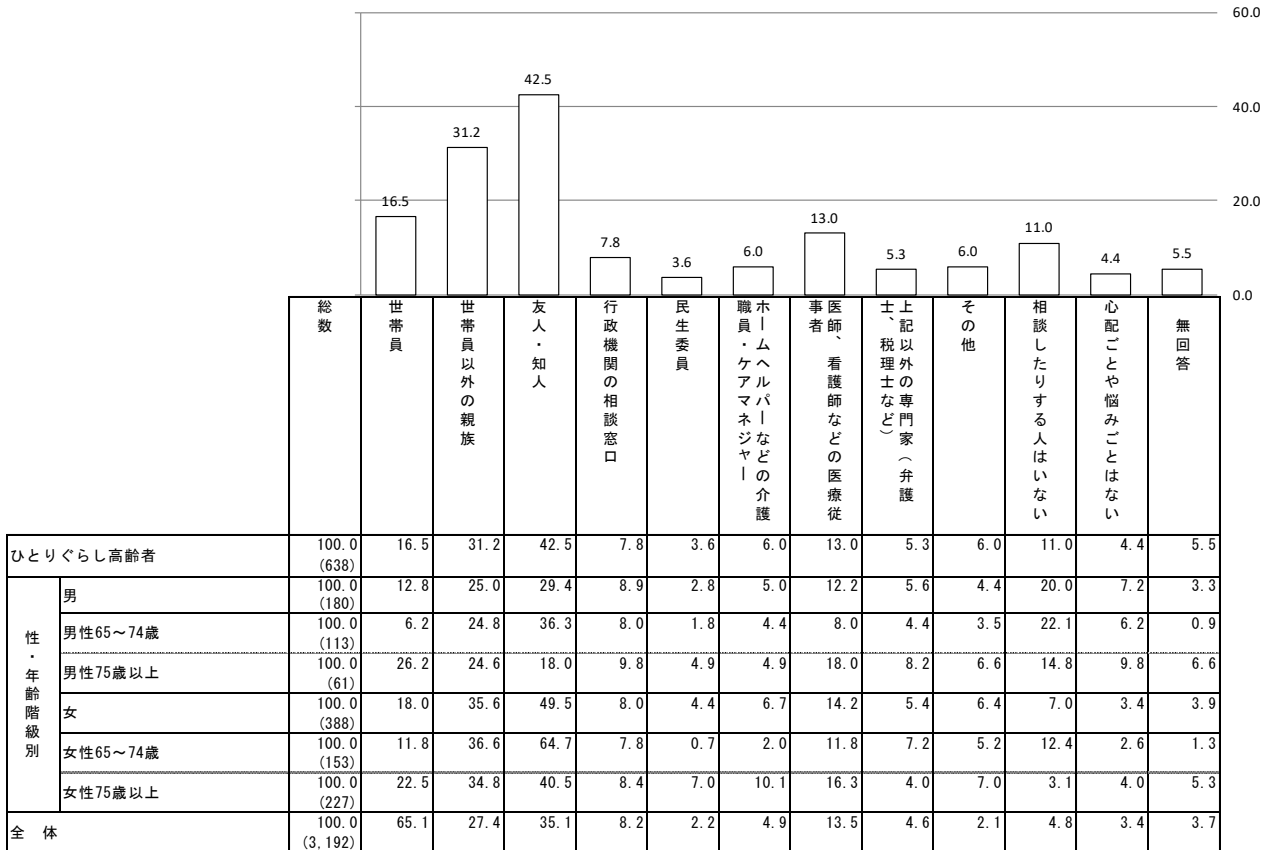


(2) 相談相手（性別、年齢階級別）（問 38）

ひとりぐらし高齢者の心配事や悩み事の相談相手についてみると、「友人・知人」が42.5%で最も高く、次いで「世帯員以外の親族」が31.2%となっている。

全体と比較すると、「世帯員」は48.6ポイント低く、一方、「友人・知人」は7.4ポイント高くなっている。（図表 14-8-2）

図表 14-8-2 相談相手（性別、年齢階級別）



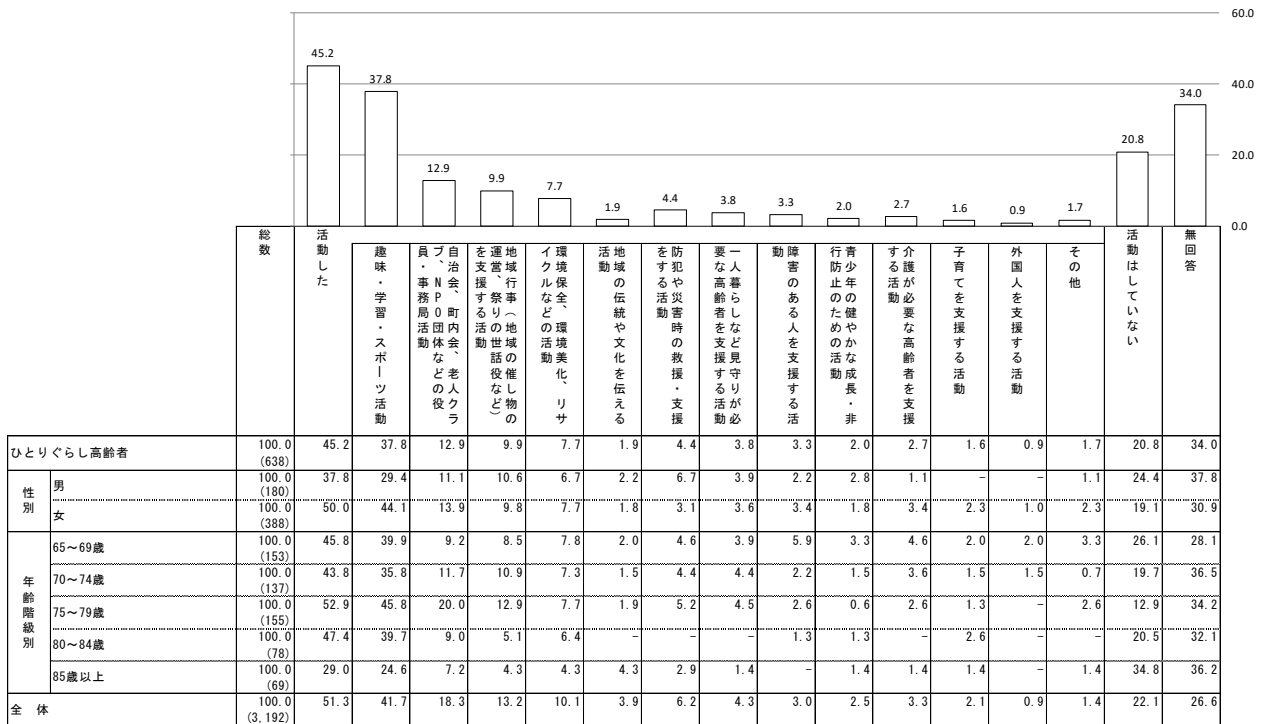
9 社会参加

(1) 1年間の活動状況（性別、年齢階級別）（問40）

ひとりぐらし高齢者の1年間の活動状況についてみると、「活動した」が45.2%、「活動していない」が20.8%となっている。

全体と比較すると、「自治会、町内会、老人クラブ、NPO 団体などの役員・事務局活動」は5.4ポイント、「趣味・学習・スポーツ活動」は3.9ポイント低くなっている。（図表 14-9-1）

図表 14-9-1 1年間の活動状況（性別、年齢階級別）

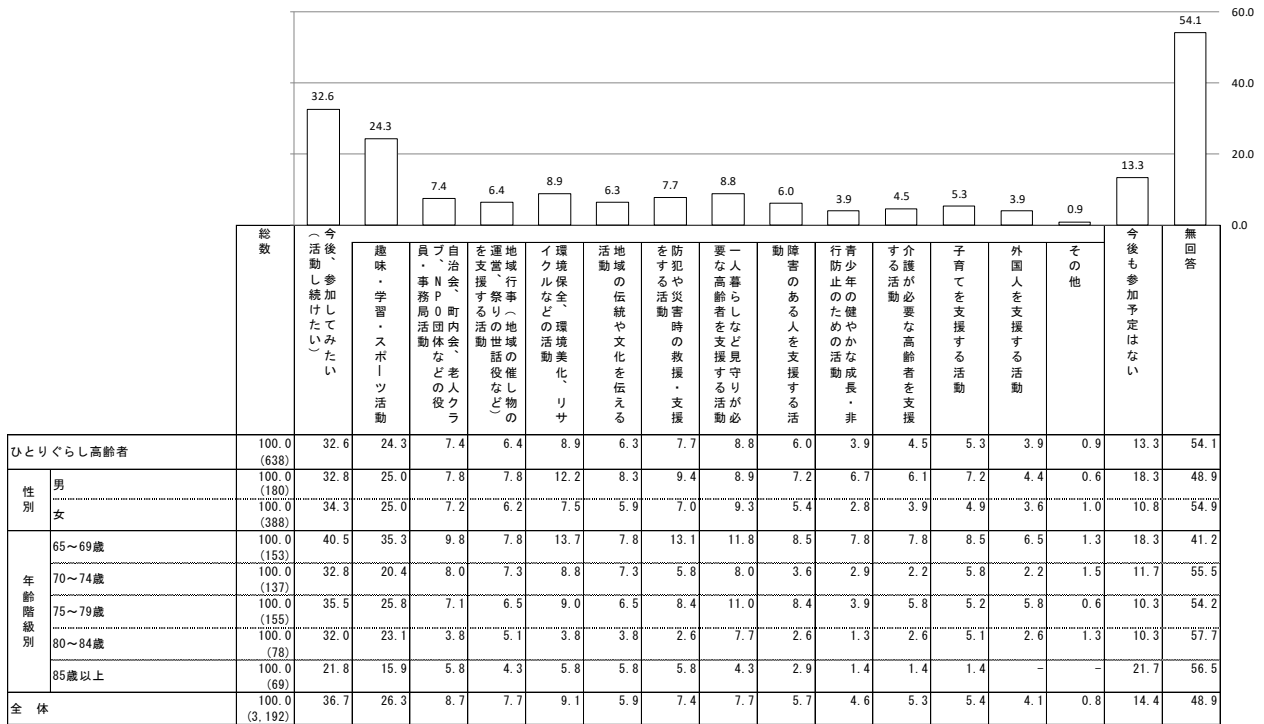


(2) 今後の活動意向 (性別、年齢階級別) (問 40)

ひとりぐらし高齢者の今後の活動意向についてみると、「今後、参加してみたい (活動し続けたい)」が 32.6%、「今後も活動予定はない」が 13.3%となっている。

全体と比較すると、「趣味・学習・スポーツ活動」は 2.0 ポイント低く、一方、「一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援する活動」は 1.1 ポイント高くなっている。(図表 14-9-2)

図表 14-9-2 今後の活動意向 (性別、年齢階級別)



(3) 参加している活動の主体（性別、年齢階級別）（問 40-2）

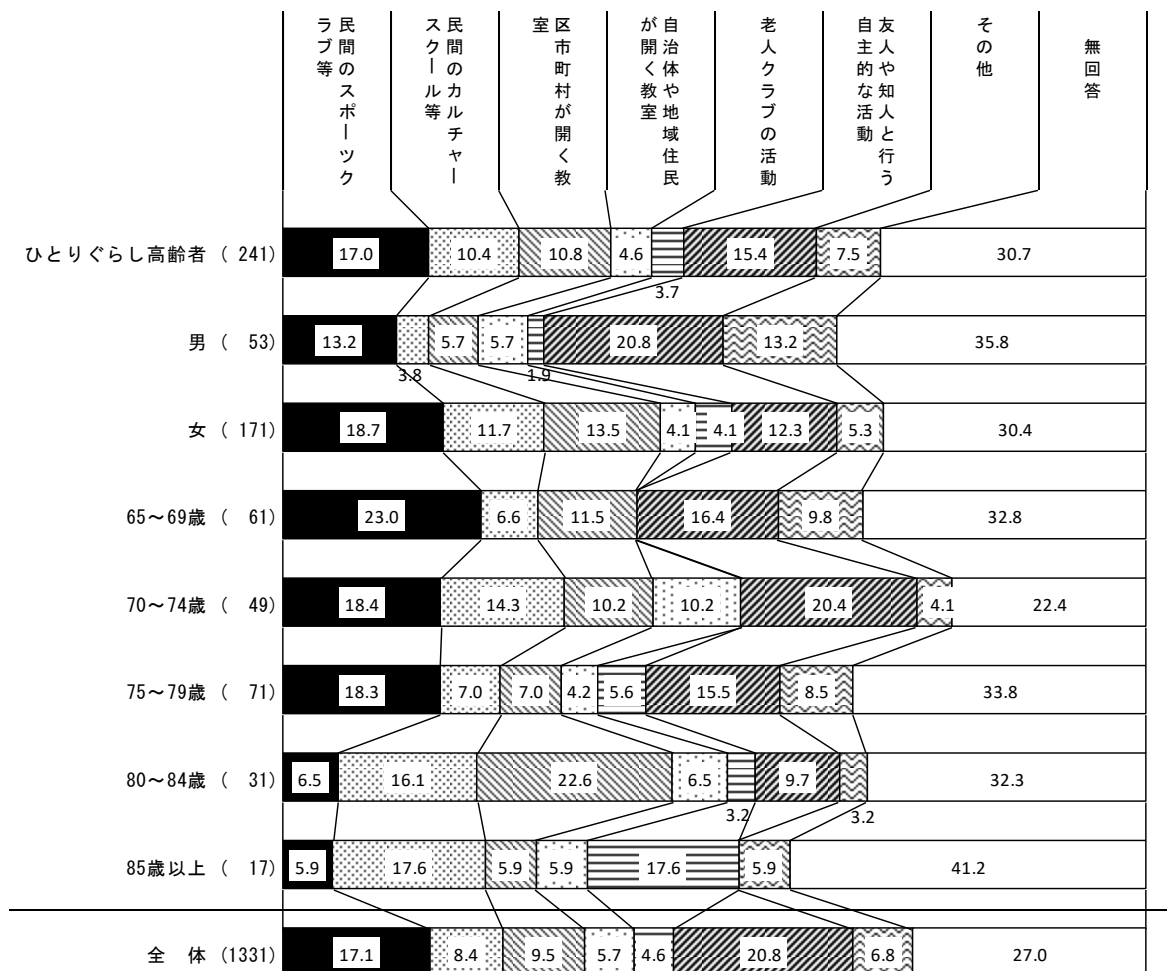
ひとりぐらし高齢者の参加している活動の主体についてみると、全体では「民間のスポーツクラブ等」が17.0%で最も高く、「友人や知人と行う自主的な活動」は15.4%、「区市町村が開く教室」は10.8%となっている。

性別でみると、男性が「友人や知人と行う自主的な活動」で20.8%となり、女性(12.3%)を8.5ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「民間のスポーツクラブ等」は80歳を境に80歳未満の2割前後から80歳以上の1割未満と差異がみられる。85歳以上では「老人クラブの活動」が17.6%と比較的高くなった。

全体と比較すると、「友人や知人と行う自主的な活動」は5.4ポイント低く、一方、「民間のカルチャースクール等」は2.0ポイント高くなっている。（図表 14-9-3）

図表 14-9-3 参加している活動の主体（性別、年齢階級別）

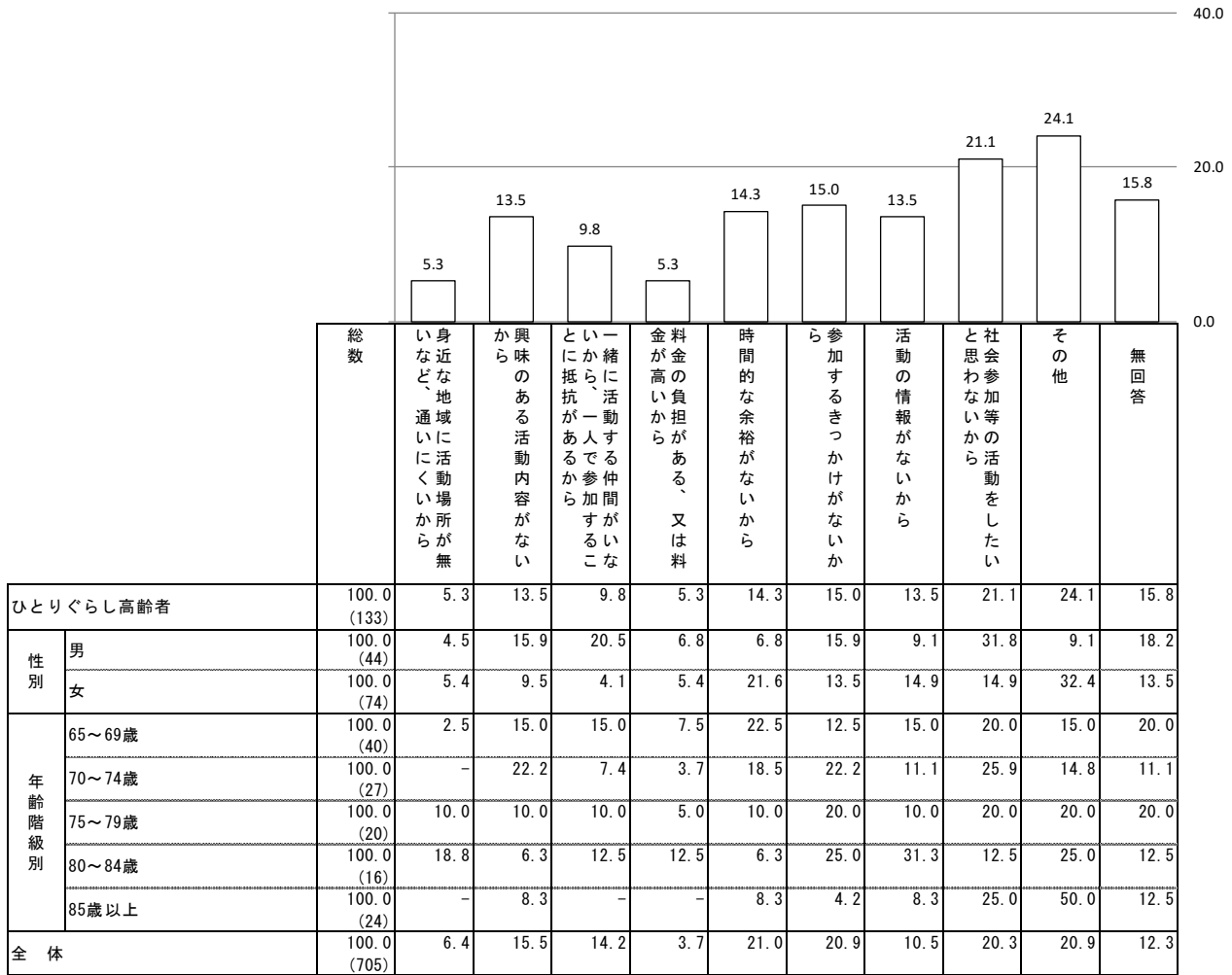


(4) 参加しない理由（性別、年齢階級別）（問 40-3）

ひとりぐらし高齢者の参加しない理由についてみると、「社会参加等の活動をしたと思わないから」が 21.1%で最も高く、次いで、「参加するきっかけがないから」が 15.0 となっている。

全体と比較すると、「時間的な余裕がないから」は 6.7 ポイント、「参加するきっかけがないから」は 5.9 ポイント低くなっている。（図表 14-9-4）

図表 14-9-4 参加しない理由（性別、年齢階級別）



(5) 活動の効果の認知度（性別、年齢階級別）（問 41）

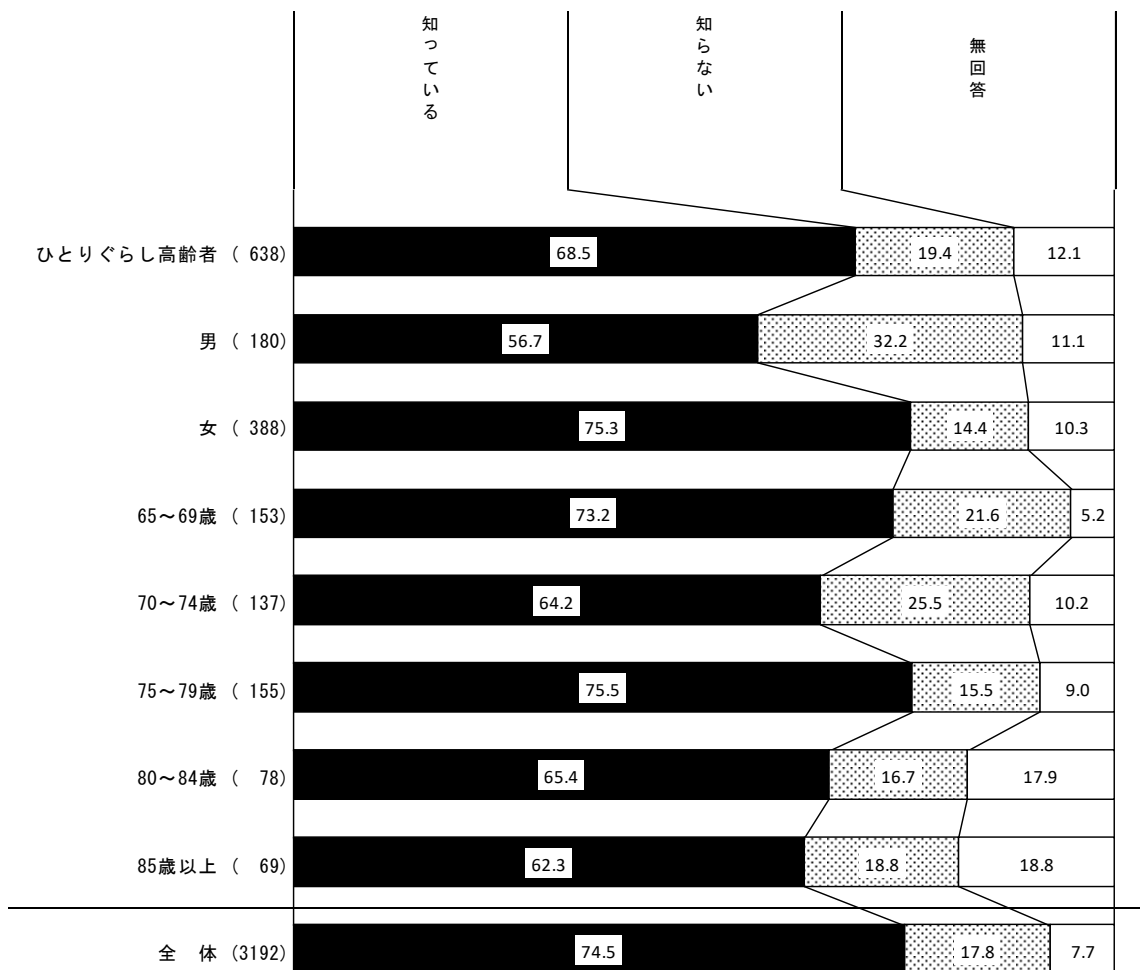
ひとりぐらし高齢者の活動の効果の認知度についてみると、全体では「知っている」が 68.5%、「知らない」は 19.4%となっている。

性別でみると、女性が「知っている」で 75.3%となり、男性(56.7%)を 18.6 ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「知っている」は 75~79 歳で 75.5%と比較的高くなった。

全体と比較すると、「知っている」は 6.0 ポイント低く、一方、「知らない」は 1.6 ポイント高くなっている。（図表 14-9-5）

図表 14-9-5 活動の効果の認知度（性別、年齢階級別）



10 就労

(1) 収入のある仕事の有無（性別、年齢階級別）（問 43）

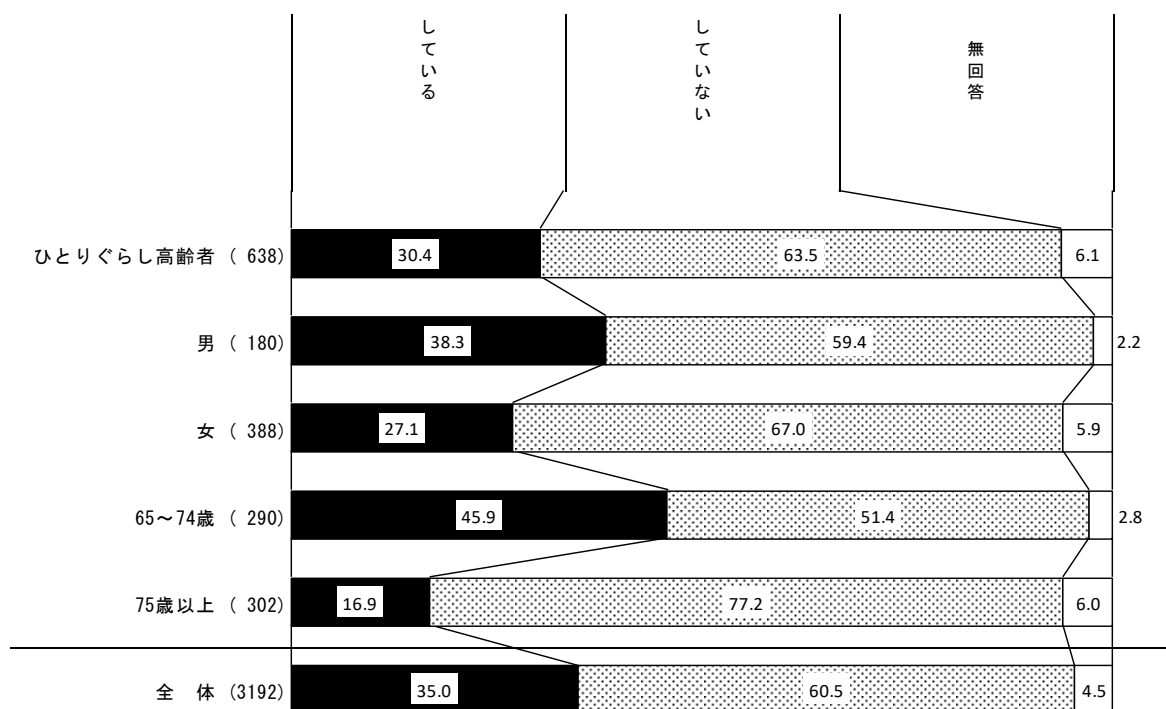
ひとりぐらし高齢者の収入のある仕事の有無についてみると、全体では「している」が30.4%、「していない」は63.5%となっている。

性別でみると、男性が「している」で38.3%となり、女性(27.1%)を11.2ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「している」は65～74歳が45.9%なのに対し、75歳以上は16.9%となっている。

全体と比較すると、「している」は4.6ポイント低く、一方、「していない」は3.0ポイント高くなっている。（図表 14-10-1）

図表 14-10-1 収入のある仕事の有無（性別、年齢階級別）



(2) 収入のある仕事の形態（性・年齢階級別）（問 43-1）

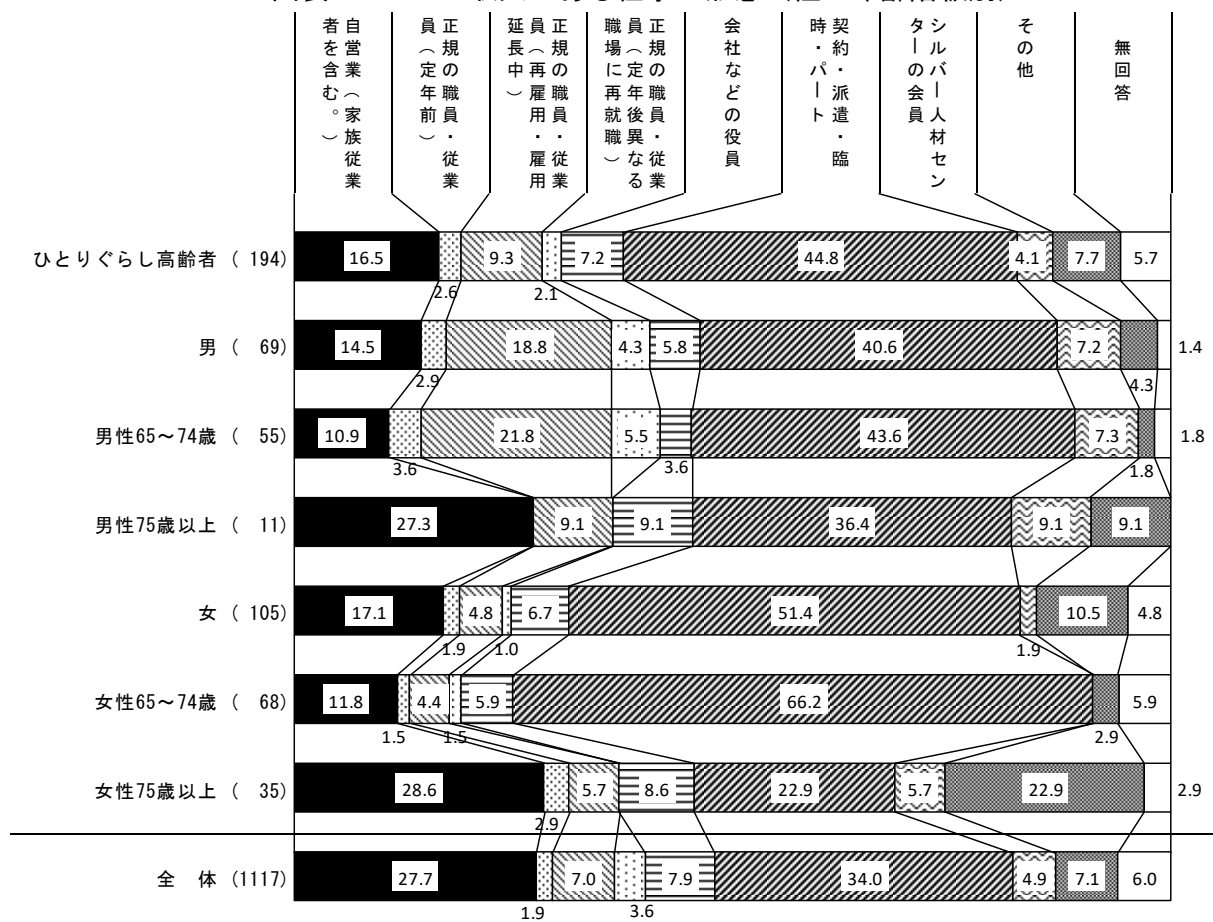
ひとりぐらし高齢者の収入のある仕事の形態についてみると、全体では「契約・派遣・臨時・パート」が44.8%で最も高く、次いで「自営業（家族従業者を含む。）」が16.5%、「正規の職員・従業員（再雇用・雇用延長中）」が9.3%となっている。

性別でみると、男性が「正規の職員・従業員（再雇用・雇用延長中）」で18.8%となり、女性（4.8%）を14.0ポイント上まわった。

性・年齢階級別でみると、「自営業（家族従業者を含む。）」は75歳以上で比較的高く（男性27.3%・女性28.6%）なっている。また、女性65～74歳では「契約・派遣・臨時・パート」が66.2%とかなり高くなっている。

全体と比較すると、「自営業（家族従業者を含む。）」は11.2ポイント低く、一方、「契約・派遣・臨時・パート」は10.8ポイント高くなっている。（図表 14-10-2）

図表 14-10-2 収入のある仕事の形態（性・年齢階級別）



(3) 仕事の頻度（性別、年齢階級別）（問 43-2）

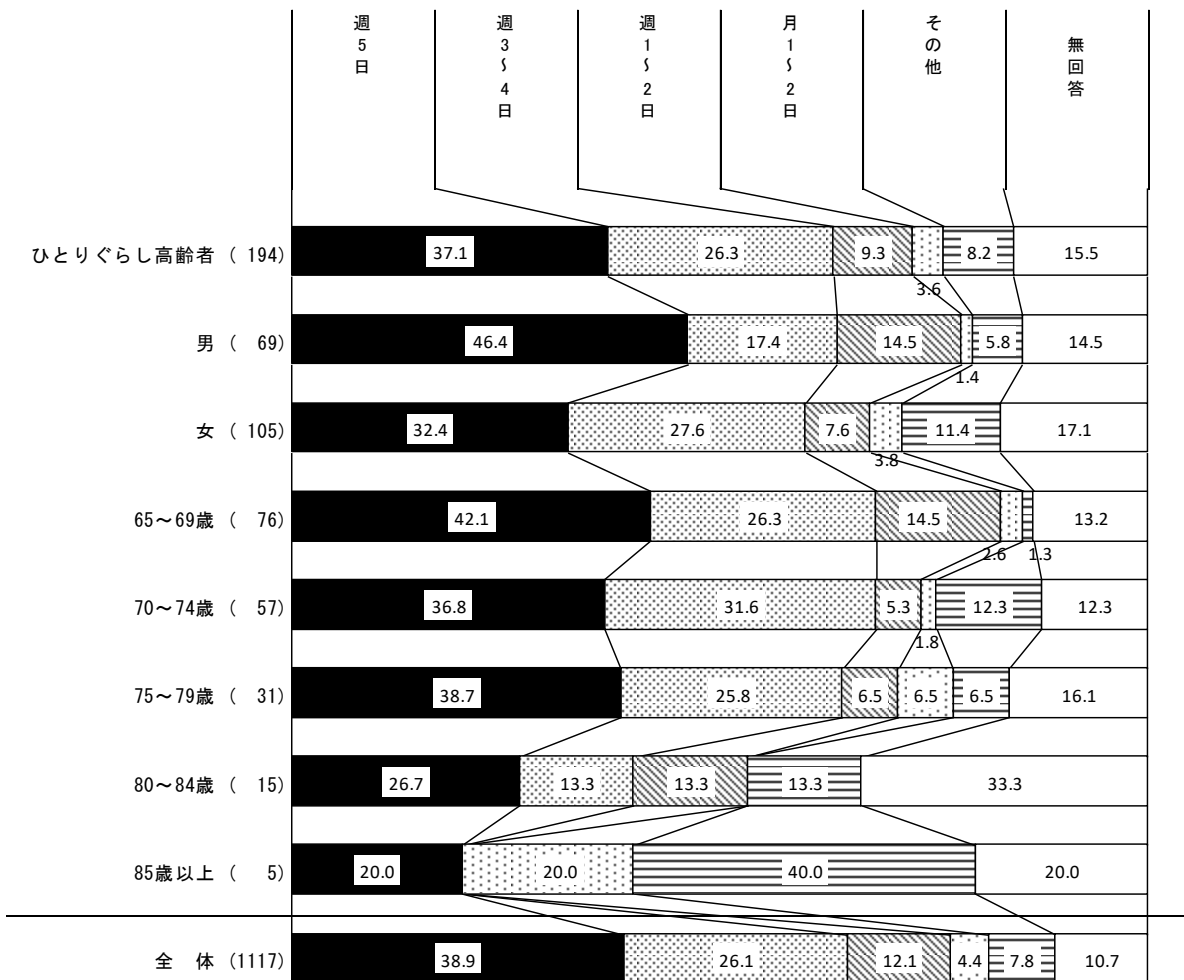
ひとりぐらし高齢者の仕事の頻度についてみると、全体では「週5日」が37.1%で最も高く、次いで「週3～4日」が26.3%、「週1～2日」が9.3%となっている。

性別でみると、男性が「週5日」で46.4%となり、女性(32.4%)を14.0ポイント上まわった。

年齢階級別でみると、「週5日」は65～69歳で42.1%と比較的高く、総じて年齢が高齢になるにつれ就労頻度日数が減少する傾向にある。

全体と比較すると、「週1～2日」は2.8ポイント、「週5日」は1.8ポイント低くなっている。（図表 14-10-3）

図表 14-10-3 仕事の頻度（性別、年齢階級別）



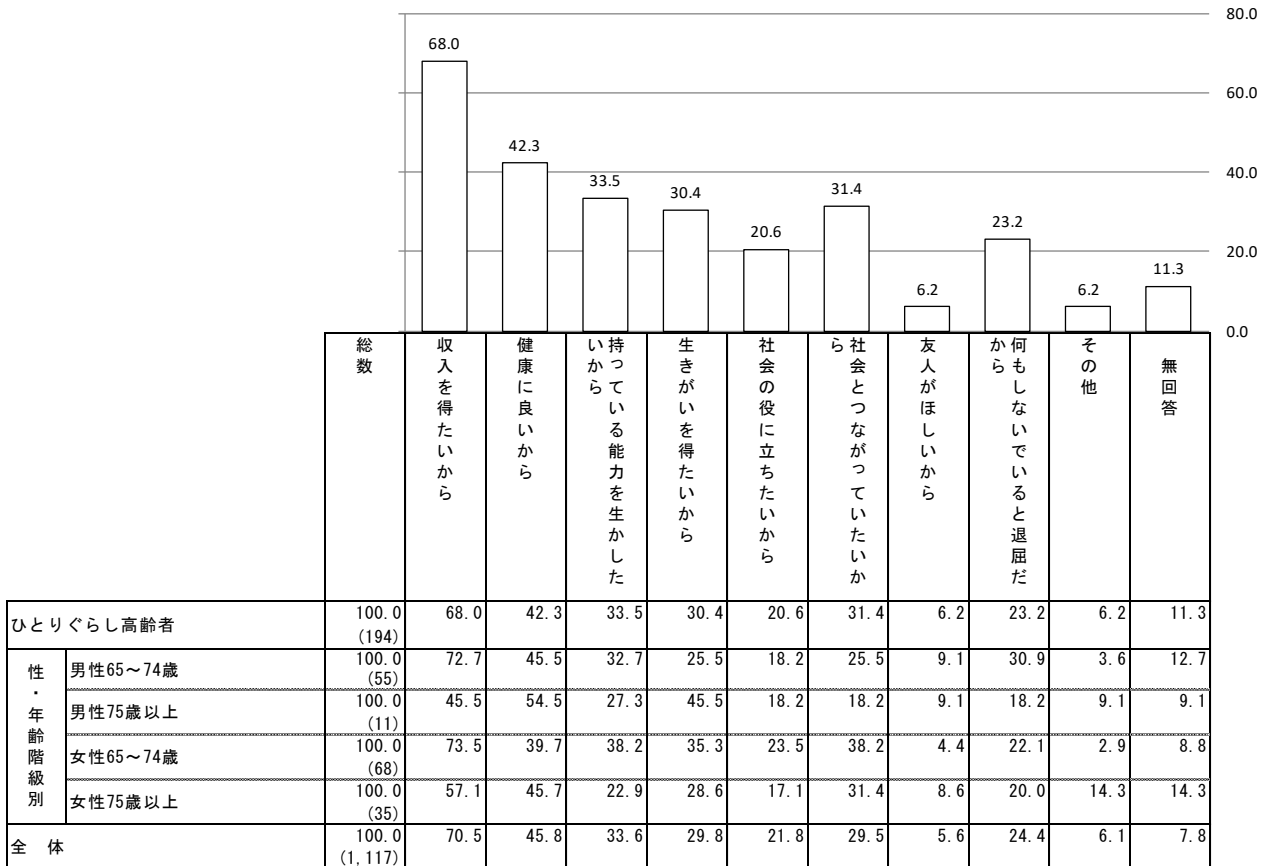
(4) 仕事をしている理由（性・年齢階級別）（問 43-3）

ひとりぐらし高齢者の仕事をしている理由についてみると、「収入を得たいから」が68.0%で最も高く、次いで「健康に良いから」が42.3%となっている。

全体と比較すると、「社会とつながっていたいから」は1.9ポイント高くなっている。

(図表 14-10-4)

図表 14-10-4 仕事をしている理由（性・年齢階級別）



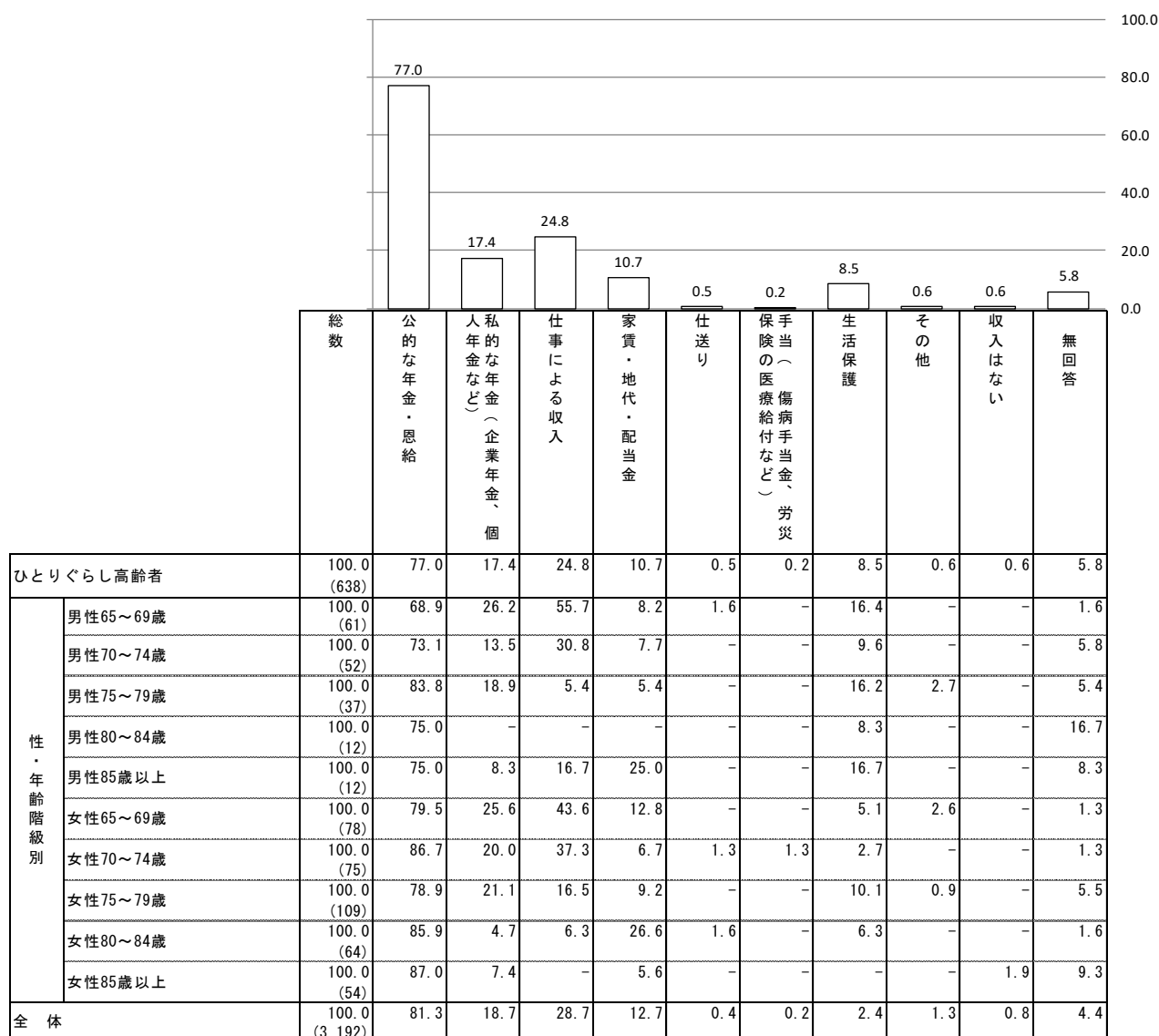
11 経済状況

(1) 収入の種類（性別、年齢階級別）（問 45）

ひとりぐらし高齢者の収入の種類についてみると、「公的な年金・恩給」が77.0%で最も高く、次いで「仕事による収入」が24.8%となっている。

全体と比較すると、「公的な年金・恩給」は4.3ポイント低く、一方、「生活保護」は6.1ポイント高くなっている。（図表 14-11-1）

図表 14-11-1 収入の種類（性別、年齢階級別）

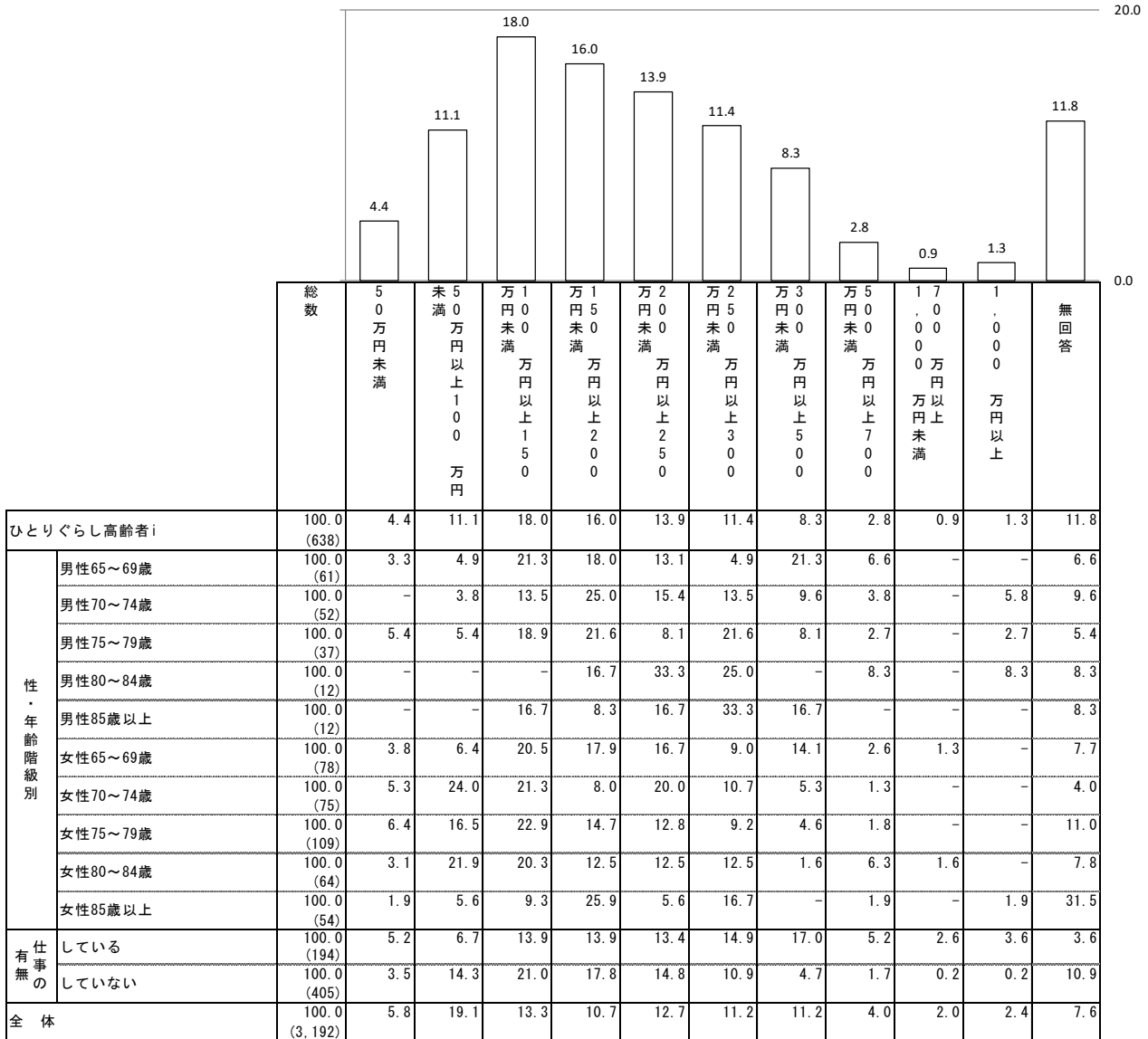


(2) 年間収入（性別、年齢階級別）（問 46）

ひとりぐらし高齢者の年間収入についてみると、「100 万円以上 150 万円未満」が 18.0%で最も高く、次いで「150 万円以上 200 万円未満」が 16.0%となっている。

全体と比較すると、「50 万円以上 100 万円未満」は 8.0 ポイント低く、一方、「150 万円以上 200 万円未満」は 5.3 ポイント高くなっている。（図表 14-11-2）

図表 14-11-2 年間収入（性別、年齢階級別）

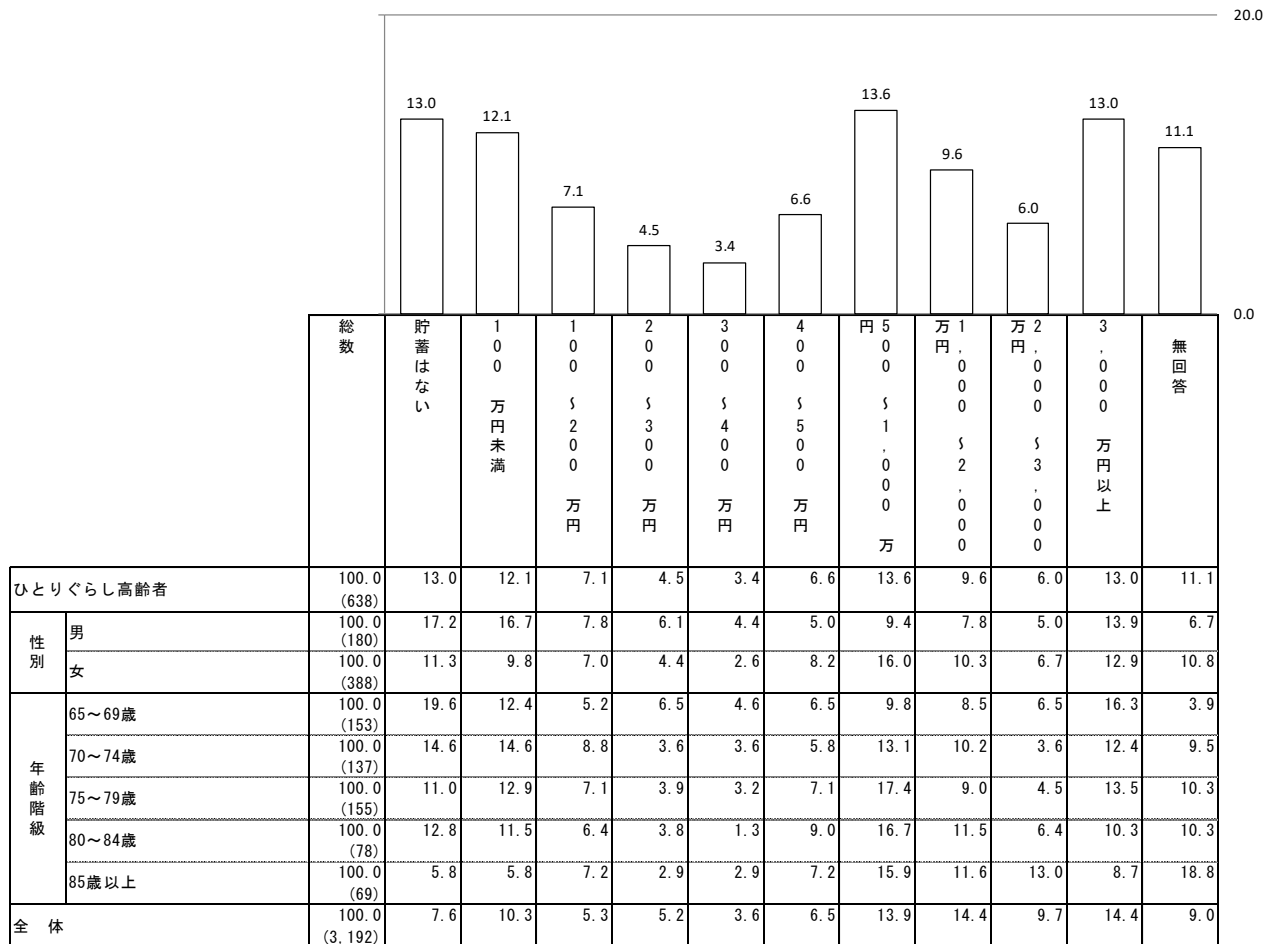


(3) 金融貯蓄（性別、年齢階級別）（問 48）

ひとりぐらし高齢者の金融貯蓄についてみると、「500～1,000万円」が13.6%と最も高く、次いで「3,000万円以上」と「貯蓄はない」がそれぞれ13.0%となっている。

全体と比較すると、「1,000～2,000万円」は4.8ポイント低く、一方、「貯蓄はない」は5.4ポイント高くなっている。（図表 14-11-3）

図表 14-11-3 金融貯蓄（性別、年齢階級別）



第15章 自由意見

東京都の福祉保健行政に対する意見や要望等について、自由に書いてもらったところ 376 人 (11.8%) の意見や要望が寄せられた。

そのうちの主な意見について、以下に記載する。

1. 家族について (5件)

- ・夫婦二人の間で、生活は困らないが昨年主人が大腸がんで入院、やはり子供達も転勤で住いが遠く、ほとんど二人で今も乗り越えています。お互いに無理が出来ないし、出費が多く、節約しながらちょうど一年が過ぎました。無理出来ないので、二人で日常生活が送れている事が本当にありがたいと思っています。毎日三食家庭で、美味しく自分で料理出来、食べてくれる人がいる事はありがたい事です。福祉に助けを求めない様に頑張っています。
- ・息子が、NPO・ボランティア・障害施設で頑張っていますが、収入がなく私は何才まで働けばいいのかしらと……時々不安になります。息子は世の為頑張っているのに、収入は請求出来ません。何か良い方法がないかしら。恵まれない養児を見えています。施設で大変な事が多く私は心の中で息子頑張れと、応援しています
- ・私の住む町は大変充実していて、住みやすいです。父と母を田舎から引き取った時も、保健所、市役所、福祉会館、と相談に答えて頂き、スムーズに行動ができ、助かりました。老人福祉もあり、父は週2回のデイホームに行くのが楽しみで、1ヶ月に1回、近くの公園や動物園、花見にバス旅行につれて行って下さり、お昼にごちそうを、食べるのも喜びでした。父は最後まで家で過ごせて、幸せそうでした。

2. 健康について (12件)

- ・健康維持、なるべく病院へ行かないため、民間のスポーツジムへ通っています。行政からクーポンとか何らかの補助があれば高齢者はとても助かります。ご検討をどうぞよろしくお願い致します。
- ・世間では高齢、高齢と言って、高齢者を年寄り扱いをするが、個人差があるので、一概に、十把一絡げにして施策をする事は間違っています。約80才でも血管年齢は30才で、認知症テストでも90点を出す人もいます(私の場合)。60才代でも認知症で高血圧、糖尿病で苦しんでいる人もいます(多く)。若い時から老化しない様な食生活とタバコ、酒を控え体の酸性化(老化)しない為の努力をしている事が大切です
- ・今まで運動らしい事をやっておりませんでした。介護2級を言われた時は、全くの寝たきりでした。今後、どうやって生きるかと・・・どっちみち駄目ならやってみようと言う手術で成功し、いろいろな事ありましたが、動けるようになり、区の支援を受けながら動けるようになりました。医師に恵まれ、ケアマネの援助を受けながら、杖をたよりにバスにもどうにか乗れるようになり、週1~2、本屋まわりをしています。妻が時々病気になるようになり、自分も少しは考えなければと思っています。

3. 医療について (16 件)

- ・インフルエンザの予防接種代補助金が地域によって違うのは？同じにしてほしい。肺ガン予防なども補助金が違う！！胃ガン予防なども補助金が違う！！※高齢者保健金が高すぎる。※人件費を減らす工夫をぜひやって下さい。
- ・インプラントも保険が適用できるようにしてほしい。
- ・ここ何年も保険証を使わずに生活していますが 何かメリットのようなものがあると良いのに……

4. 介護サービスについて (40 件)

- ・今回のアンケートで今迄以上に、残りの人生を深く考えさせられました。亡き夫の介護を6年半してきた経験から、脳出血と言う事も有り、認知症の症状が進み、私自身、癌（ステージ4）、眼底出血と、つらい治療の中の介護は、大変きついものでした。そんな中、ケアマネージャーさん、ヘルパーさんのお力を借り、大変助かりました。特養に入れたらと、申し込みをしましたが、入所のお知らせを頂いたのは、3年後の夫が亡くなった直後でした。高齢者が増えている現在、経済的に恵まれず、一人住まいの高齢者にとって、頼りとする特養に、今すぐ必要としている人が、入所出来るようになる事を切に願います。
- ・義理の母が介護3で公的サービスを受けています。介護が必要になった時に情報を持っている友人（生活者ネットワーク）のアドバイスを得られた。早目に手続きができたので我が家の介護生活は、比較的順調に推移してきた。困った時、最初に得られる情報はとても重要だと感じた。これから、サービスを必要とする人（多分全員）へのアウトリーチに努めていただきたい。介護認定の規準が厳しくなっていると聞いている。要介護度が下がると本人も家族（ケアラー）も物理的に社会的に日常生活に支障をきたすのではないかと心配している。規準を変えることで困る人が出ない様にしてほしい。自助努力で心身の健康を保ちたいと思うけれども、いずれ介護を必要とする時に現在母が受けている程度のサービスが維持されていて欲しい。高齢者に限らず、東京都（特に区部）は、暮しにくい。日照、大気、水、緑（土）といった生物としての人間が生活出来る環境を修復するまちづくりをして欲しい。
- ・高齢者が増え、他人の手を借りなくては生活していけない環境になって来ています。あちらこちらにきれいな施設ができてきていますが・・・そこで働く人（特に現場で関わってる人）の肩に重くのしかかっています。誰でもできる、仕事ではありません。経営者に国からの補助が行くのではなく、働いている人に行渡るようにする。精神的にも、（これから育っていく人に関わるわけではないので）これから消えている人に関わる重さを考えて、リフレッシュをする為に長期の休暇を取らせる。そして、若い人がずっと続けられる仕事として、高いレベルに認知されるようにして下さい。母が施設に入っている時、現場で働いている人がどんどん変わっていきました。入って数年は定着していたが、ここ数年回転が早い。人手不足と聞いています。人にはお金をかけて下さい

5. 認知症について（5件）

- ・高齢化に伴い、認知症ではないかと思われる方が増えている。私達のボランティアグループでも、会員が配偶者を失くしていく方が増え、一人暮らしになる方がいますが一人になると、会話も少なくなるようで物忘れが多くなり、グループの活動の中でサポートしておりますが、グループを辞めないよう努力していますが、所属している団体を持たない方が心配です。サロン等にお誘いし出てくる方は心配ないのですが、閉じこもりがちの方を、どうしていくか地域の課題です。今後シングルで暮してきた方が高齢になります。行政でも地域との関わりが大切なことを啓発して欲しいと思います。
- ・成年後見制度を更に充実してほしい。認知高齢者については、国や都が財産を保全し、きちっとした介護みとりを希望します。
- ・認知症他、病気になってしまってから、あれこれお金をかけるより、「ならないため」にお金をかけるべき（たとえば、無料検診早期発見）と思います。特に認知症は、各区の無料検診の中に組み込んでほしいし、その支援を、都にはお願いしたいと思います。

6. 住まいについて（26件）

- ・複数の理由により、高齢になって賃貸住宅に住むことになってしまいました。しかし、女性、独身、自営業、という3つの悪条件(?)により、ほぼ断られます。（現在の住居は、たまたま大家さんが90歳、不動産屋さんが85歳というコンビだったので、“まじめそうだから”と、入居ができました）相談できる窓口もなく、途方に暮れます。手狭ですが、もう転居できそうにもなく（以前より悪条件です）、一生けん命働いてきた（いる）独身女性のための“連絡先”のような形で、せめてサポートしていただける制度を望みます。
- ・低額で利用出来るサービス付き高齢者向け住宅を多く造って欲しいです。民間の賃貸住宅に、高齢者でも入居出来るようなシステムを作って欲しいです。
- ・衣食住のうち衣と食とは節約することができますが、住の支出はそれがむりです。一番の不安はいつまで家賃を払って行けるかということです。都営住宅への申し込みはしていますが、なかなかむつかしいようです。できれば、今住んでいる所に住み続けたいと思っています。環境の変化がこれから年を取っていく身には不都合なリスクが高いと思います。都営住宅の空室を調査をして入居者を増やして頂けたらと思います。介護なしで元気で一人でやって行ける者の為にもお願いします。

7. コミュニケーションについて（12件）

- ・高齢者固有の悩みや問題があり、同年令を集めてのスポーツや話し合い、講習会が多くあるが、異年齢集団、若い人との自然な交流の持てる機会があるとよい。同年齢ばかりやそれ以上のグループ交流など、その場に行くだけでも、躊躇する。北欧の高齢者が多い住宅も、いろいろな年令の人達が混在している。自然に多くの人と交流できる場がほしい。ある程度元気ならほっておいてほしい。しかし、ちょっとけがや病気をした後には、若い時とは違って、筋力が落ち、精神的におちこむことがあるのは、当時者とならないと、現実感がなかった。訪問看護や、見守り担当者の感性と当人の感性が合わないと、ただうっとうしいだけになる。お互いに選べないのか。他人の子を見ていて、実際に自分が見守られる対象になったらつらいだろうと思うことがあった。

- ・自治会活動で市の申請で補助などあり地域活動に参加しやすく活動が活発でとても地域住民との結束がかたい
- ・デイサービスのあり方を多様化し、楽しい場所としてもらいたい コミュニケーションが苦手な人でも楽しくなれるよう指導者がほしい 身体が少し不自由になった高齢者にも生きがいとなる仕事がほしい。

8・生きがいについて（10件）

- ・後期高齢者の保健料が高すぎ、生活を圧迫している税金なども年金から引き落とされるので、生活費と豊かにする教養費や趣味などに思いきり使うことができない。
- ・保険料が高く、その上、医療費がかかると生活費に負担がかかり、生活が苦しくなる。高齢者でも、働ける環境ができると生きがいになる。

9. 不安や悩み事について（41件）

- ・今は健康なのですが、病気や認知症になった時の事を思うととても不安で心配です。保育園の事がよく話題になりますが、年寄用の施設も、もっと充実してほしいと思います。金銭面や、介護士さん不足とか、考えるとストレスになってしまうので、がんばって人に迷惑をかけないように生活していくしかないかと、思っています。
- ・今は、健康ですが近い将来、何か不安が生じた場合に、すぐに相談でき、支援につながる、連絡先（例えば、119番のような）が、あると、安心できます！
- ・今は80代の姉と二人暮らしで家賃は半分ずつ出し合っていますが、どちらか亡くなると苦しくなると思う。URの高齢者優遇制度の中で暮していますが、引越などしなくてもすむよう、暮せたら良いと願っています。

10. 社会参加について（34件）

- ・最近、高校の学費を無料にという事よく耳にします。一律にというのではなく、やはり収入に応じて行って欲しいと思います。一人親家庭で子供の貧困も多く胸が痛みます。そういう家庭にこそ、もっと手厚くして欲しいです。都内でフードバンクの活動をしている所もあり、私の住む府中市でも今フードバンクをたち上げるという話を聞きました。私もその話し合いの場に偶然参加させていただきました。私が思う以上に、なかなか難しい問題も多いと感じました。
- ・引越しを何回もくり返しましたが、結果的には、地域の中には受け入れられないということでした。今度こそ、色々参加して地域にとけこもうとしましたが、はじき出されたという感じでした。努力してもむくわれない。いや努力が足りないのかと色々考えました。しかし自分一人の力では無理だと痛感しています。こんなふうに思っている人は、他にも大勢いるはずですが。そんな経験者たちの集いがあつたら、少しは安心して参加できるかもしれない。今の世の中のしくみにあふれた人たちのための集いがあればと希望します。
- ・60才で、定年退職しましたが、高齢者の働く場所が希望する所に合わず（条件等）、年金生活で76才になりました。高齢者をどんどん社会参加させる事、希望します。

11. 就労について (11 件)

- ・ 65 才以上で働く意欲のある人を雇用して、お年寄の困っていることをやってあげる組織を作る。高齢者が、より高齢の人を面倒見ることによって雇用が生まれ、社会参画ができ、健康や、経済的に循環する。お年寄の面倒を見るのは若い人では無理（事件が起きているのを見れば分る）
- ・ 私は 77 歳の現在も、同じ会社に長年継続して勤務させて頂いております。何故か 75 歳に達した時点で「貴方は今年後期高齢者になりました」との連絡が足立区からあり会社の社会保険からは強制的に脱退させられ、更には妻を扶養することも、自分の子供から扶養されることさえ認められなくなりました。意欲をもって元気に働く老人を後期高齢者なるが故として排斥しなければならない理由がどこにあるのでしょうか？人生〇〇〇年時代とか…掛け声が空しく聞こえます。この様な行政に大きな疑問と不満を持つ者です。例え何歳になろうとも社会保険に加入出来、扶養しあえる制度、世の中に変えて頂けるよう希望致します。
- ・ 年齢が 65 才になると就労から切り離される社会的状況が企業にはある。能力的にも問題無く仕事を続けられる人もいる。仕事をしていれば健康寿命が続けられるという人も多く居ると思う。年齢が上がっても本人の意思で仕事が継続できたり新しい職に就いたりボランティアを始めたり容易に選択のできるシステムの充実を望みます。

12. 経済状況について (58 件)

- ・ 私自身は学校（高校）卒業後社会人生活 1 年半で結婚した為、年金収入が低い為、配偶者亡き後の生活収入が、亡くなった時の年金生活だけでは成り立たず預金をくずしての生活が待っているのが日々不安である。
- ・ 毎年税金の支払に苦しんでいる。年々増加して大変だ。もっと税金を大事に使用してほしい。無駄が多すぎる。又何でも無料は良くない。税金を払う人と、使う人の平等を考えてほしい。税金を払う人も大変苦勞して支払っている事を忘れないでほしい。使用する人の立場ばかりでなく、どこから、お金が出ているか良く、自覚をする世の中に方向づけてほしい。切に願っている。税金の支払いにと毎年苦勞している。
- ・ 現在 65 才 持家のマンションのローンが 75 才迄残っている為働く事が必要であり年金ではローンが払って行けない。

13. 社会全般や国政について (55 件)

- ・ 箱物にお金を掛けるのでは無く、学校の施設等（児童数の減少等による）を利用するなどして、もっと人材を育てる事に予算を充てるべきだと思う。又人材を有効に生かせる組織、システム作りが重要だと思います。どれも簡単に短期間で出来る事では無いので計画的に早急に準備をするべきだと思います。
- ・ 保育や、介護の仕事に従事する人達の収入がまだまだ低く、負担が集中している点はとても心が痛むのですが都として何かできることはないのでしょうか？何よりもまず第一に、若い人達が安心して、結婚し、子育てができるような福祉、保健行政を望みます。
- ・ 65 才以上でも健康で才能のある方が沢山いると思う。年令でライン引きをするのはやめてほしい！経験と実績を重視出来るシステムを！センスある行政の取り組み！美しく生きる事！の大切さを！高齢者を既成のイメージでとらえる事が間違いのもと！新しい感覚で美

しく生きるという事をもっと真剣に行政に取り入れてもらいたい。行政のする手口はスタイリッシュさに欠けて興味が持てない！

14. 行政への要望等について（46件）

- ・ボランティアなど高齢者の経験・知見を生かせる場が、個人ではなかなか見つけれられない。行政でいろいろ場を設定していただき、情報発信してもらえれば、高齢者の社会貢献がもっと期待できるのではないか。このような行政主導での活動が活発になれば良いと思います。
- ・認知症他、病気になってしまってから、あれこれお金をかけるより、「ならないため」にお金をかけるべき（たとえば、無料検診早期発見）と思いますが特に認知症。各区の無料検診の中に組み込んでほしいし、その支援を、都にはお願いしたいと思います。
- ・すべてにおいて無駄が多いように感じます。税金は人のお金です。大切に使ってほしいものです。

15. 介護について（36件）

- ・介護保険で利用できる施設。（特別養護老人ホームなど）の大幅な増設、と充実を望みます。今、社会問題でもある孤独死、等がない社会であってほしい。
- ・高齢者向け住宅、有料老人ホームに入居しても、介護する方の質など色々聞いているので、安心して、お願いできない。介護職員は、これからもっと不足してくると思います。ただ人数をふやすという安易な考え方は、やめてほしい。
- ・現在私は健康で介護等の支援は受けていませんが、姉が遠方で支援を受けています。初期の頃より費用が高くなったり、支援がスムーズに受けにくくなったりしていると聞きます。また、介護施設で働くヘルパーさんが辞めていくことも問題です。低賃金や労働条件が悪いので長続きしないようです。今後ますます介護を必要とする人が増えるので、その辺を都も国も考慮し、介護の充実を図ってほしいと思います。一人では生活できなくなった老人が安い費用で入れる施設をたくさん作ってほしいと願います。

16. 福祉について（38件）

- ・老後も安心して楽しく暮らせる一層の福祉の充実を今後も希望します。・シルバーパスの制度は有難いと思います。70歳からでなく（都営バス）65歳からにしてもらえると、活動範囲が広がります。年金生活者になると交通費も大変です。
- ・利用希望者の全てが利用可能な社会福祉施設を整備していただくことが必要と思われます。
- ・本年5月末に死した母（93歳）の医療保健や福祉保健制度を2年間利用させていただきました。東京都の福祉保健行政には満足でした。

17. 生活・住居・地域について (50 件)

- ・国民健康保険を使っております。70 才になって自己負担が 2 割になり、大変有難く助かっております。また、シルバーパスを受けられるようになり、都営バス、都営地下鉄などの利用が出来、しっかり使わせていただいております。私の住んでおります地域は防犯・防災・地域のおまつり行事など活発でお隣・近所ともに交流があり住みやすい町だと感じております。調査表につきましては真摯にお答えしたつもりです。宜しくお願い致します。
- ・今度は、このようなアンケートにお答えする機会を頂いて有り難うございました。アンケートを通して今後の人生の中で起こりうる様々の事を考え検討し家族とも話し合っていくようにしていく必要性を教えて頂きました。その中で住居の問題はなかなか難しいと実感しております。賃貸での住居で今は地域のコミュニティーもよく安心して住んでいる事は出来ませんが、今後を考えるとマンション購入となれば貯蓄が少なくなり不安になります。子供達にも迷惑をかけず安心して住み続けることが出来る都、区の行政での高齢者住宅を民間とも協力してほしいと思います。(ちなみに高齢者のみでなく様々の世代含み)
- ・高齢者の交通事故が毎日のようにニュースに流れていますが、車を離しても、住みなれた場所で、便利に生活ができるよう、ミニバスを通すとか、地域にもっと生活の利便性を考えてほしいと思います。

18. 医療・認知症について (25 件)

- ・自立できなくなった時が不安です。物価もどんどん上がり、長生きしてしまった時も不安です。余命が何年あるかわかれば、貯蓄をあてれば良いが、医療費を考えるとどうしていいかわからない。
- ・公立の医療関係施設の設置をお願いします。なんでも民営化はムダ使いになるのではありませんか？
- ・インプラントも保険が適用できるようにしてほしい。

19. 年金・経済負担について (70 件)

- ・高齢者がもう少し安心して暮らせるように、年金ならこれ以上、介護保険料を増やさないようにしていただきたい。元々少ない年金ですので。若い時からコツコツと納めてきている年金です。
- ・健康保険料、介護保険料が高すぎます。中低階層に配慮したセイフティーネットを充実してほしい。
- ・年金での生活は出来るのですが、その中から固定資産税、後期高齢保健、介護保健料、市都民税を支払い、世帯主が介護 3 で寝たきりで、要介護 2 割負担ですと毎月が、赤字かまあまあです。おむつ代、食べ物代の負担が心痛みます。収入が少し上だけで、支払いが多くなり最悪の生活です。

20. 社会参加・生きがいについて (52 件)

- ・元気なシニアが増えている現状をふまえて、その人達が集まる場所をふやしていただきたい。そしたら健康寿命が延びて税金を使わなくてすむのではないのでしょうか。行政主導ではなく、地域の人達の活動を見守ってほしいと思います。そのための援助は惜しまない。
- ・私は週一回ですけど自立生活体操に通っています。介護を受けてない人達の集い、遊びの出来る所が欲しいのですが、近い所には無く、センターなどで各々のサークルは有りますが、一箇のものでなく、有料（千円未満）で、一日数時間、脳トレ、体操、唄、時には手芸、オリガミ、書ききれませんが、指導して下さる方やボランティアの方、場所を貸して下さる所、そこに送迎して下さる車など本当に大変な事と思います。茨城県の鹿嶋市に、（パレット）ミニデイサービスが有ります。同じにしてほしいとは思いませんが、せめて集える所に送迎がほしいです。勝手な事を書きましたが、残り少ない人生、人の世話に出来るだけ成りたくなく願望を書きました。青梅在住者。
- ・希望、健康づくりに関して、せめてもよりの公園や、広場を利用した朝のラジオ体操の集いを、全国的にできるようなしくみを考えていただきたい。1日1回運動、それだけを近くでしたら、行く事ができるので。

21. 現状や将来の不安等について (42 件)

- ・3月末に満90才となりましたが現在自立しています。介護認定を受けたらとすすめられますが、健康に恵まれていますので多分認められないレベルと思っています。私より年下の近所の友人が脳梗塞で倒れ、リハビリ後自宅介護となりましたが市の支援により、殆んど毎日のように施設からの送迎を受け、在宅の日が少なくらいです。◎東京都及び府中市の、行き届いた福祉行政には本当に驚く程です。私も病気になったらあのように手厚い介護を受けられるのか?…とは云え、こうして現在は自転車で購入、出来た物を買わず自分で調理して、栄養に気を配った食事形態に自己満足しています。（その知識は若い頃からの知的研鑽によるもの）間もなく公的機関にお世話になる事と思いますが、その折は何卒よろしくお願い致します。本当の願いはピンピンコロリです。◎又市の中心部から離れあまり恩恵を受けられない地域です。倒れたら送迎はあるが、気軽に出かけて行くには遠い居住地です。
- ・年を重ねてもパートをしないと生活していけない。現在は辛くても働けるから、なんとか生きて行けますが、身体が動けなくなったら、どうしようと考え、日々不安で、たまりません。
- ・今私は76才です。年を重ねる毎に身体に変化が現れ、あっちこっちが痛くなり病院の診察券が増えると共に支出も増えます。少ない年金生活でこれからの老後が心配です。できるだけ介護のお世話にならないですむように、市の介護予防教室等に行っていますが・・・どうしても施設に入らなければならない時の費用を考えると、心細くなります。行政がいろんな形で支援をしてほしいと思うのです。残り少ない人生をどうか安心して暮らせるように、よろしくお願い致します。

22. この調査について（74 件）

- ・将来まだ働いているから分からないが、住み良い環境であればと思います。今は元気で働いているのでこのアンケートは70才以上の人を対照にした方が良いのではと思います。現段階ではあまりピンとこないし答えもあいまいになってしまいます。
- ・アンケートに答えている間に、問題点が自分なりに握ってきたような気持ちです。回答者に選んでいただきありがとうございました。
- ・アンケートの文字が小さく見えなかったです。高齢者へのアンケートはもっと字を大きくしてほしいです。又、アンケート内容のボリュームが大きく、高齢者がこれを正確にできるか疑問でした。

23. その他について（36 件）

- ・介護は突然やってくると言われますが、今のところ私も主人も全く元気で貯蓄も年金も十分にあるようなので福祉保健に余り関心が向きませんがこれではいけないと思っているところです。
- ・ACPとか「フレイル」について知らなかったのは、勉強不足というか情報弱体というか、反省すべきところ。区の行政については、区便りなどがあって身近な感がありますが、都の行政になると、やや遠い感じがある。都の会報などが新聞とともに配られているので、しっかり読まなければいけないですね。
- ・福祉保健行政と聞かれた時に、細かくは答える事が出来ないと思います。どの程度のことが自分に必要な所なのか？相談できるのか？（個人での相談）詳しい内容がわかりません。

第3 調査票（単純集計結果入り）

「在宅高齢者の生活実態調査」 調査票ご記入にあたってのお願い

●回答はあて名のご本人がご記入ください（ご本人が回答できない場合は、ご本人に代わってご家族などがご本人のことをお答えください。）。

●お答えは、（○を1つ）（あてはまるものすべてに○）などの指示に従って、該当する項目の番号に○印をつけてください。

●「その他（ ）」にあてはまる場合は、お手数ですが、カッコ内にその内容を具体的にご記入ください。

●各質問には、**令和元年7月1日時点**についてお答えください。

ご記入いただきましたアンケートは、同封の返信用封筒（切手不要）にて、令和元年8月26日（月）までにご投函くださいますようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

<調査票に関するお問合せ先>

東京都委託業者（株）アストジェイ 東京事務所（担当：小淵・木下）
電話 03-6262-9715

[回答者]

N=3,192

本アンケート調査票を回答される方はどなたですか。次の中から○を1つつけてください。

※記入のみ代理の方で、対象者本人が回答した場合は、「1 対象者本人」に○をしてください。

1 対象者本人

60.4(1,927)

----- 対象者本人が回答できない場合のみ、代理の方がお答えく -----

2 代理の方(家族・親族)

4.9(158)

3 代理の方(その他(ホームヘルパーなど))

0.1(3)

[本人の状況]

N=3,192

問1~7についてそれぞれあてはまるものに○、または数字を記入してください。

問1 性別	問2 年齢	問3 配偶者の有無	
1 男 39.8(1,272)	令和元年 7月1日現在	1 配偶者あり	63.7(2,034)
2 女 51.8(1,655)	() 歳	2 未婚	6.5(208)
無回答 8.3(265)		3 死別	19.7(629)
		4 離別	6.4(205)
		無回答	3.6(116)

問4 子供の人数	問5 健康
※別居している子供を含む。	1 よい 20.2(644)
1 いる 81.9(2,615)	2 まあよい 23.3(743)
2 いない 12.4(397)	3 ふつう 35.7(1,138)
人数は何人ですか。	4 あまりよくない 14.1(451)
1人 14.8(473)	5 よくない 3.3(104)
2人 47.3(1,510)	無回答 3.5(112)
3人 15.4(491)	
4人 2.7(85)	
5人 0.4(13)	
6人以上 0.3(8)	
人数不明 1.1(35)	
無回答 5.6(180)	

問6 最長職業

(あなたが今までに一番長く従事した仕事)

1 自営業者 (家族従業者を含む。)	18.9 (602)	N=3,192
2 正規の職員・従業員	41.4 (1,322)	
3 会社などの役員	5.0 (161)	
4 契約・派遣・臨時・パート	11.2 (358)	
5 家事専業 (専業主婦・主夫)	16.4 (524)	
6 仕事に就いたことはない	0.5 (17)	
7 その他の就業 ()	1.8 (59)	
無回答	4.7 (149)	

【問6-1】 1~4を選んだ方は、次の中から○を1つつけてください。

N=2,443

1 管理的な仕事	11.1 (271)	7 農林漁業の仕事	0.3 (8)
2 専門的・技術的な仕事	25.7 (627)	8 生産工程の仕事	5.0 (121)
3 事務の仕事	19.2 (470)	9 輸送・機械運転の仕事	2.5 (61)
4 販売の仕事	13.6 (333)	10 建設・採掘の仕事	2.3 (56)
5 サービスの仕事	8.4 (206)	11 運搬・清掃・包装などの仕事	2.7 (65)
6 保安の仕事	0.6 (15)	12 その他の仕事	4.5 (111)
		無回答	4.1 (99)

問7

介護の状況

あなたは、家族・親族の介護 (世話・見守りなどを含む。) をしていますか。

※同居・別居は問いません。

※時間の長短は問いません。

N=3,192

1 している	16.9 (540)
2 していない	74.9 (2,390)
無回答	8.2 (262)

その方はどなたですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=540

1 親	33.0 (178)
2 配偶者の親	15.2 (82)
3 配偶者	31.5 (170)
4 子供	11.7 (63)
5 その他の親族	15.6 (84)
無回答	3.0 (16)

[世帯員の状況]

《現在、ご家族などと同居している方にお聞きします。》

【問 8】 同居している家族など一人ずつについて、下記の回答欄に数字で記入してください。

※ 記入の対象となる世帯員は、調査日現在、住居と生計を共にする方です（一時的に不在の方を含みます。）。

① 本人との続柄		N=2,447	② 年齢	③ 就業状況		N=2,447
1	配偶者	78.3(1,916)	令和元 年 7月1日 現在 () 歳	1	自営業（家族従業者を含む。）	11.2(274)
2	息子（配偶者あり）	7.2(175)		2	正規の職員・従業員	27.3(667)
3	息子の配偶者	4.4(107)		3	会社などの役員	4.3(105)
4	息子（配偶者なし）	20.0(489)		4	契約・派遣・臨時・パート	22.1(540)
5	娘（配偶者あり）	5.9(144)		5	シルバー人材センターの会員	1.1(27)
6	娘の配偶者	3.6(87)		6	その他の就業	3.4(83)
7	娘（配偶者なし）	18.1(444)		7	家事専業（専業主婦・主夫）	18.7(457)
8	孫またはその配偶者	8.4(205)		8	仕事に就いていない	42.4(1,037)
9	親	2.9(71)		無回答	無回答	6.8(167)
10	その他 無回答	4.5(111) 0.6(14)				

《記入例》

本人、配偶者（72歳、無職）、息子（37歳、会社員、配偶者なし）、本人の姉（70歳、不定期就業）の4人暮らしの場合

ア	1	72 歳	8
イ	4	37 歳	2
ウ	10 姉	70 歳	6 不定期で有償ボランティア

《回答欄》

	① 本人との続柄	② 年齢	③ 就業状況
ア		歳	
イ		歳	
ウ		歳	
エ		歳	
オ		歳	
カ		歳	
キ		歳	
ク		歳	

健康

《全員にお聞きします。》

【問 9】 あなたの日常生活の動作について、現在の状況に最も近いものにそれぞれ○を1つつけてください。

※ 自分でできるけれど、習慣的に誰かにやってもらっている場合は、「ひとりで全部できる」に○をつけてください。

N=3,192

日常生活動作	1ひとりで全部できる	2時間をかければひとりでできる	3一部介助が必要	4全面的な介助が必要	無回答
ア 歩くこと※1	86.9 (2,774)	4.4 (142)	2.8 (90)	1.6 (50)	4.3 (136)
イ 食べること	90.3 (2,883)	2.6 (83)	1.1 (36)	0.4 (14)	5.5 (176)
ウ 衣服の着替え	89.5 (2,856)	2.6 (84)	1.7 (55)	0.8 (24)	5.4 (173)
エ 入浴	88.4 (2,823)	2.0 (65)	1.9 (60)	2.1 (68)	5.5 (176)
オ 排せつ	90.3 (2,882)	2.1 (68)	1.3 (40)	0.8 (26)	5.5 (176)
カ 家事一般※2	81.5 (2,603)	4.9 (158)	2.7 (85)	4.3 (136)	6.6 (210)
キ 金銭の管理	85.9 (2,741)	2.1 (67)	2.3 (74)	3.5 (113)	6.2 (197)
ク 薬の管理	87.1 (2,779)	1.9 (60)	2.0 (63)	3.1 (98)	6.0 (192)
ケ 電話の利用	87.4 (2,791)	2.0 (63)	1.8 (56)	2.8 (90)	6.0 (192)

※1 普段、杖や車椅子などを使用している場合は、それらを使用した状態でお答えください。

※2 家事一般とは、食事の用意、掃除、洗濯などのこと。

《全員にお聞きします。》

【問 10】 あなたの日常生活の状況について、お聞きします。あなたは最近物忘れが多いと感じたり、周りの人から物忘れが多いと言われていたりすることはありますか。次の中から現在の状況に最も近いものに○を1つつけてください。

N=3,192

1 まったくない	29.5 (941)	3 頻繁にある	5.0 (160)
2 ときどきある	61.6 (1,965)	4 いつもそうだ	2.2 (71)
		無回答	1.7 (55)

《全員にお聞きします。》

【問 11】 あなたの普段の食事の状況について、お聞きします。食事の用意などは主にどのようにしていますか。次の中から主なものに○を1つつけてください。

	N=3, 192
1 自分が調理	53.4 (1,704)
2 配偶者が調理	30.5 (972)
3 子供や他の家族、親族が調理	5.4 (171)
4 配食サービスなどの利用	1.0 (32)
5 スーパー・コンビニなどで惣菜、インスタント食品などを購入	4.5 (143)
6 外食	0.8 (25)
7 その他（ヘルパーが調理・デイサービスを利用・出前など）	1.1 (35)
無回答	3.4 (110)

《全員にお聞きします。》

【問 12】 総合的に判断してお体の状態はいかがですか。次の右枠の1~8の中から最もご自身の状態に近いものに○を1つつけてください。 N=3,192

※ できるけれど、していない場合は「できる」と考えて○をつけてください。

日常生活のことはほぼ自分ででき、ひとりで外出できる	1 バス、電車などの公共交通機関を利用して、ひとりで遠くまで外出できる 76.8(2,451)
	2 隣近所への買い物や老人会などへの参加など、町内の距離程度の範囲までならひとりで外出できる 11.2(358)
食事、着替え、排せつはだいたい自分でできるが、外出するには介助が必要である	3 介助によりしばしば外出し、日中はほとんどベッドから離れて生活する 2.3(74)
	4 外出の頻度が少なく、日中も寝たり起きたりの生活をしている 1.8(59)
食事、着替え、排せつのいずれかにおいて部分的に介助を必要とし、日中もベッドでの生活が主であるが、椅子などに座ることができる	5 自分で車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要であるが、ベッドから離れて行うことができる 0.8(24)
	6 介助により車いすなどに座り、食事・排せつは介助が必要である 0.5(17)
1日中ベッドの上で過ごし、食事、着替え、排せつのいずれにおいても全面的な介助が必要である	7 自力で寝返りをうつことができる 2.7(87)
	8 自力で寝返りをうつことができない 0.7(23)
無回答 3.1(99)	

《問 12 で 3~8 を選んだ方にお聞きします。》

→ 【問 12-1】 現在の状態になってどのくらいになりますか。 N=284

3 ヶ月未満	0.7(2)	1~3 年未満	16.5(47)	10~15 年未満	2.1(6)
3~6 ヶ月未満	- (0)	3~5 年未満	9.2(26)	15 年以上	2.5(7)
6 ヶ月~1 年未満	1.4(4)	5~10 年未満	6.3(18)	無回答	61.3(174)

→ 【問 12-2】 現在の状態になった主な原因は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

1 脳血管疾患 (脳梗塞、脳卒中など)	18.3(52)	8 糖尿病	16.5(47)
2 骨折・転倒	23.9(68)	9 呼吸器疾患 (肺炎、肺気腫など)	8.8(25)
3 認知症	21.8(62)	10 視覚・聴覚障害	8.5(24)
4 関節疾患 (リウマチなど)	4.6(13)	11 悪性新生物 (がん)	4.9(14)
5 パーキンソン病	3.9(11)	12 高齢による衰弱	34.2(97)
6 心臓病	13.4(38)	13 その他	18.3(52)
7 脊髄損傷	9.2(26)	14 不明	1.8(5)
		無回答	6.3(18)

医療

《全員にお聞きします。》

【問 13】 あなたは、現在、何らかの傷病にかかっていますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=3, 192

代謝障害・ 内分泌	1	糖尿病	13.4(428)	消化器系	21	胃・十二指腸の病気	3.7(118)	
	2	肥満症	4.4(142)		22	肝臓・胆のうの病気	2.5(80)	
	3	脂質異常症 (高コレステロール血症)	16.0(512)		23	その他の消化器系の病気	3.1(100)	
	4	甲状腺の病気	2.7(86)		24	歯の病気(虫歯を含む。)	22.5(719)	
精神・ 神経	5	うつ病やその他 こころの病気	2.4(77)	皮膚	25	アトピー性皮膚炎	1.1(35)	
	6	認知症	3.0(95)		26	その他の皮膚の病気	5.8(186)	
	7	パーキンソン病	0.8(27)		筋骨格系	27	痛風	2.7(87)
	8	その他神経の病気 (神経痛・麻痺等)	1.9(62)			28	関節リウマチ	1.8(58)
9	眼の病気	18.1(578)	29	関節症		5.8(185)		
10	耳の病気	5.9(188)	30	肩こり症		7.9(251)		
循環器系	11	高血圧症	36.1(1,151)	尿路性器系	31	腰痛症	18.2(580)	
	12	脳卒中 (脳出血、脳梗塞等)	2.6(82)		32	骨粗しょう症	8.3(264)	
	13	狭心症・心筋梗塞	6.1(194)		33	腎臓病	3.4(110)	
	14	その他循環器系の病気	5.3(168)		34	前立腺肥大症	5.5(174)	
呼吸器系	15	急性鼻咽頭炎(かぜ)	0.6(19)	損傷	35	閉経期又は 閉経後障害(更年期障害等)	0.1(4)	
	16	アレルギー性鼻炎	6.7(214)		36	骨折	2.3(75)	
	17	慢性閉塞性肺疾患(COPD)	0.6(18)	37	骨折以外のけが・やけど	0.8(27)		
	18	喘息	2.7(86)	38	貧血・血液の病気	2.2(71)		
	19	花粉症	14.7(470)	39	悪性新生物(がん)	3.1(100)		
	20	その他の呼吸器系の病気	2.5(79)	40	その他	2.4(78)		
				41	特になし	6.4(203)		
							→《問 14 へ進んでください。》	
							無回答	6.6(211)

《問 13 で 1~40 を選んだ方にお聞きします。》

【問 13-1】 あなたは、現在、何らかの傷病のために通院していますか。次の中から○を 1 つつけてください。

※ 通院と往診（訪問診療）の両方を利用している場合は、より頻度の多い方をお答えください。 N=2, 778

1	通院している	79. 7 (2, 214)	}	《問 14 へ進んでください。》
2	往診（訪問診療）してもらっている	1. 5 (42)		
3	通院していない	9. 9 (274)		
	無回答	8. 9 (248)		

《問 13-1 で 1 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 13-2】 過去 1 か月の総通院日数は何日ですか。 N=2, 214

1 日以下	41. 2 (913)	4 日	4. 3 (96)	11~15 日	1. 3 (29)
2 日	16. 2 (358)	5 日	2. 5 (56)	16~20 日	0. 4 (8)
3 日	7. 2 (159)	6~10 日	3. 3 (74)	21 日以上	0. 3 (7)
				無回答	23. 2 (514)

→【問 13-3】 あなたの通院状況についてお聞きします。次の中から主なものに○を 1 つつけてください。 N=2, 214

1 ひとりで通院している	80. 5 (1, 783)	5 NPO・区市町村などの	0. 3 (6)
2 家族の付き添い	9. 6 (212)	移送サービスを利用	
3 友人・知人の付き添い	0. 2 (4)	6 その他	0. 5 (11)
4 ヘルパーの付き添い	0. 2 (5)	無回答	8. 7 (193)

《全員にお聞きします。》

【問 14】 現在、かかりつけ医はいますか。次の中から○を 1 つつけてください。

N=3, 192

1	いる	81. 6 (2, 606)
2	いない	14. 6 (465)
	無回答	3. 8 (121)

《全員にお聞きします。》

【問 15】 あなたは、ご自身の死が近く、回復が期待できない場合の医療についてどのように考えますか。次の中からもっとも考えが近いものに○を1つつけてください。

N=3, 192

- | | | |
|---|--|----------------|
| 1 | 病院などに入院し延命や救命を第一に優先して医療を受けたい | 5. 4 (173) |
| 2 | 現在生活している場（自宅や介護施設）で、
体に負担のかからない程度の医療を受けたい | 23. 2 (742) |
| 3 | 延命や救命のための医療は受けたくない | 44. 7 (1, 427) |
| 4 | わからない | 21. 4 (682) |
| | 無回答 | 5. 3 (168) |

→ 《問 15 で 1～3 と答えた方にお聞きします。》

【問 15-1】 あなたはその考えを他の人に伝えたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=2, 342

- | | | |
|---|----------------------|----------------|
| 1 | 書面に意思を記載している | 6. 2 (146) |
| 2 | 口頭で家族に伝えている | 59. 0 (1, 381) |
| 3 | 口頭で家族以外の友人・知人等に伝えている | 9. 7 (228) |
| 4 | 口頭で医師や介護士等に伝えている | 2. 4 (57) |
| 5 | 誰にも伝えていない | 31. 3 (732) |
| | 無回答 | 2. 3 (53) |

《全員にお聞きします。》

【問 16】 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。次の中から○を1つつけてください。

	N=3, 192
1 自宅	41. 8 (1, 333)
2 子供など親族の家	0. 3 (10)
3 ホスピス（緩和ケア病棟）	4. 7 (149)
4 3以外の医療機関	9. 0 (286)
5 サービス付き高齢者向け住宅・ 有料老人ホーム等の高齢者向けの住宅	3. 2 (102)
6 介護保険で利用できる施設（特別養護老人ホーム等）	9. 2 (294)
7 その他	1. 8 (56)
8 わからない	26. 6 (849)
無回答	3. 5 (113)

《全員にお聞きします。》

【問 17】 あなたは、「アドバンス・ケア・プランニング（ACP）」または「人生会議」について知っていますか。次の中から○を1つつけてください。 N=3, 192

※アドバンス・ケア・プランニング（ACP）とは
自らが望む人生の最終段階における医療・ケアについて、前もって考え、
医療・ケアチーム等と繰り返し話し合い共有する取組をいいます。
「人生会議」の愛称で呼ばれることもあります。

1 知っている	2. 9 (93)
2 中身は知らないが、言葉は聞いたことがある	14. 0 (447)
3 知らない	79. 7 (2543)
無回答	3. 4 (109)

介護サービスなど

《全員にお聞きします。》

【問 18】 あなたは、現在、介護保険制度の要介護認定（要支援認定を含む。以下同じ。）を受けていますか。

1	認定を申請していない	77.7 (2,479)
2	認定を申請中	0.6 (19)
3	認定を申請したが、「自立」と認定された	0.6 (18)
4	認定を受けている	12.5 (399)
	無回答	8.7 (277)

N=3,192

《問 19 へ
進んでください。》

《問 18 で 4 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 18-1】 現在の要支援・要介護度はいくつですか。次の中から○を 1 つ つけてください。

1	要支援 1	25.6 (102)	5	要介護 3	9.3 (37)
2	要支援 2	15.0 (60)	6	要介護 4	4.5 (18)
3	要介護 1	14.5 (58)	7	要介護 5	6.3 (25)
4	要介護 2	13.8 (55)		無回答	11.0 (44)

N=399

《問 18 で 4 を選んだ方にお聞きします。》

【問 18-2】 あなたを家で介護している方は誰ですか。次の表の中からあてはまるものすべてに○をつけ、1~6 を選んだ方は、その方の同居の有無、性別についてもお答えください。また、1~10 を選んだ方は、そのうち最も介護をしている時間が長い方の番号を、□欄に記入してください。

N=399

介護をしている人

	同居の有無			性別		
	同居	別居	無回答	男	女	無回答
1 配偶者 29.6(118)	87.3(103)	2.5(3)	10.2(12)	34.7(41)	50.0(59)	15.3(18)
2 子供 32.1(128)	53.9(69)	37.5(48)	8.6(11)	29.7(38)	50.8(65)	19.5(25)
3 子供の配偶者 10.5(42)	57.1(24)	35.7(15)	7.1(3)	26.2(11)	59.5(25)	14.3(6)
4 孫またはその配偶者 4.8(19)	68.4(13)	31.6(6)	- (0)	26.3(5)	47.4(9)	26.3(5)
5 兄弟姉妹 1.8(7)	28.6(2)	71.4(5)	- (0)	57.1(4)	- (0)	42.9(3)
6 1~5 以外の親族 0.8(3)	- (0)	100(3)	- (0)	- (0)	33.3(1)	66.7(2)
7 ホームヘルパーなどの介護職員	16.8(67)					
8 訪問看護師	4.8(19)					
9 近所の人	0.8(3)					
10 その他	2.8(11)					
11 介護は受けていない	17.8(71)					
無回答	17.8(71)					

そのうち、最も介護をしている時間が長い方

N=257

1 配偶者	40.1(103)	6 1~5 以外の親族	- (0)
2 子供	28.4(73)	7 ホームヘルパーなどの介護職員	15.2(39)
3 子供の配偶者	6.2(16)	8 訪問看護師	0.4(1)
4 孫またはその配偶者	0.8(2)	9 近所の人	0.4(1)
5 兄弟姉妹	1.6(4)	10 その他	3.1(8)
		無回答	3.9(10)

《全員にお聞きします。》

【問 19】 日常生活を支援するサービス(民間・公的を問わない。)について、あなたの現在の利用状況と、今後の利用意向をお答えください。

(サービスごとに(1)と(2)それぞれあてはまるものすべてに○をつけてください。)

※ 現在、利用していない方は、今後、体の具合が悪くなるなどで必要になった場合に利用したいサービスに○をつけてください。

N=3,192

サービス名		(1)現在の利用状況	(2)今後の利用意向
		利用している	利用したい (利用し続けたい)
ア	配食サービス	2.1(66)	43.1(1,376)
イ	家事援助(掃除、洗濯、買い物など)	2.5(80)	44.5(1,421)
ウ	簡単な家の修繕、電球の交換、部屋の模様替え等	1.3(42)	30.4(971)
エ	ゴミ出し	1.4(44)	26.3(841)
オ	外出支援(車での送迎、付き添い等)	1.7(54)	32.7(1,045)
カ	通院の付き添い	1.4(45)	32.8(1,046)
キ	定期的な訪問(安否確認、話し相手となる等)	1.5(49)	26.7(852)
ク	緊急通報システム・火災安全システムの設置	1.6(51)	29.7(949)
ケ	訪問理・美容	1.3(40)	24.9(795)
コ	身元保証制度	0.6(18)	12.9(412)
サ	葬儀の実施の契約 (あらかじめ預かった費用で、葬儀を行う)	0.8(27)	14.0(447)
シ	残存家財の片づけの契約(あらかじめ預かった費用で、死亡後に残った家財の片づけを行う)	0.4(12)	14.1(450)
ス	墓の管理	1.6(51)	8.9(285)
セ	その他	0.6(20)	1.2(37)
ソ	現在利用しているサービスまたは今後利用したいサービスはない	7.3(232)	8.6(275)
無回答		84.8(2,707)	28.7(916)

《問 19 で利用しているに1つ以上○をつけた方にお聞きします。》

【問 19-1】 利用しているサービスの主体は何ですか。主なものに○を1つつけてください。

N=253

1 介護事業者など民間の事業者	49.4 (125)	5 ボランティア	1.2 (3)
2 区市町村	7.1 (18)	6 地域住民	1.2 (3)
3 社会福祉協議会	2.4 (6)	7 その他	17.0 (43)
4 シルバー人材センター	5.1 (13)	無回答	16.6 (42)

《問 19 で利用しているに1つ以上○をつけた方にお聞きします。》

【問 19-2】 サービスを知ったきっかけは何ですか。主なものに○を1つつけてください。

N=253

1 家族に教えてもらった	12.3 (31)
2 友人・知人に教えてもらった	7.9 (20)
3 自治体・町内会で教えてもらった	2.0 (5)
4 医師・保健師などの医療従事者または 介護職員等に教えてもらった	5.5 (14)
5 地域包括支援センターなどに教えてもらった	12.3 (31)
6 ケアマネジャーに教えてもらった	15.8 (40)
7 区市町村の広報誌を見た	3.2 (8)
8 ホームページを見た	0.4 (1)
9 自分で探した	12.3 (31)
10 その他	7.9 (20)
無回答	20.6 (52)

《全員にお聞きします。》

【問 20】 あなたは、現在、介護予防や健康づくりのために、次にあげる活動などを行っていますか。最もあてはまるものに○を1つつけてください。

N=3, 192

1 区市町村や保健所が実施する体操教室などの活動	5.0 (161)
2 地域住民が運営する体操グループなどの活動	6.2 (199)
3 民間サービスを利用した活動（スポーツジム等）	10.9 (347)
4 1～3 以外の活動（自宅での運動や散歩等）	35.1 (1, 119)
5 何も行っていない	34.2 (1, 093)
無回答	8.6 (273)

《問 20-1、問 20-2 へ
進んでください》

《問 20-3 へ
進んでください》

《問 20 で 1～3 を選んだ方にお聞きします。》

【問 20-1】 1～3 の活動への参加頻度について、あてはまるものに○を 1 つつけてください。

N=707

1	1 回以上	34.5 (244)	3 月 1 回	2.4 (17)
2	月 2・3 回	51.6 (365)	4 年に数回	2.3 (16)
			無回答	9.2 (65)

《問 20 で 1～3 を選んだ方にお聞きします。》

【問 20-2】 1～3 の活動への参加理由はどのようなものですか。それぞれについて、次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=707

1	身近な地域に活動場所があるなど、通いやすいから	66.6 (471)
2	自分の健康・体力の状態に合った活動ができるから	77.2 (546)
3	一緒に活動する仲間がいるから	50.8 (359)
4	参加して、介護予防の効果が感じられるから	24.6 (174)
5	適切な資格を持った指導員が指導してくれるから	37.5 (265)
6	料金が無料または安いから	31.5 (223)
7	活動場所の設備が整っていて快適に活動できるから	37.9 (268)
8	医師、ケアマネなど医療介護関係者や、 自治体職員などからのすすめがあったから	5.4 (38)
9	個人で活動したいときに活動できるから	29.8 (211)
10	高齢になる以前から活動していたから	37.8 (267)
11	その他	1.7 (12)
12	わからない	0.1 (1)
	無回答	1.4 (10)

《問 20 で 4・5 を選んだ方にお聞きします。》

【問 20-3】 1～3 のいずれかの活動について、行わない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=2,212

1	身近な地域に活動場所が無いなど、通にくいから	9.1 (202)
2	自分の健康・体力の状態に合った活動内容が無いから	11.7 (259)
3	一緒に活動する仲間がいないから	9.3 (205)
4	介護予防の効果があるのかわからないから	3.0 (67)
5	適切な資格を持った指導員による指導が無いから	1.4 (32)
6	料金の負担がある、又は料金が安いから	7.7 (170)
7	活動場所の設備が整っておらず、快適に活動できないから	1.7 (37)
8	個人で活動したいときに活動したいから	44.3 (980)
9	その他	17.5 (386)
10	わからない	10.4 (231)
	無回答	15.0 (331)

《**全員にお聞きします。**》

【問 21】「フレイル」についてお伺いします。あなたはこのことについて知っていましたか。○を 1 つつけてください。

N=3,192

フレイルとは、加齢とともに筋力や認知機能等が低下し、生活機能に障害が出るなど、心身の脆弱性が現れた状態をいいます。多くの高齢者が、フレイルの段階を経て徐々に要介護状態に至るとされています。

- | | |
|------------------------------|--------------|
| 1 知っている | 14.2 (454) |
| →《 問 21-1 へ進んでください。 》 | |
| 2 中身は知らないが、言葉は聞いたことがある | 11.9 (379) |
| 3 知らない | 70.3 (2,245) |
| 無回答 | 3.6 (114) |

《**問 21 で 1 を選んだ方にお聞きします**》

【問 21-1】「フレイル」を予防するにはどんなことに気をつけたら良いか知っていましたか。○を 1 つつけてください。

N=454

フレイルを予防するには、栄養(バランスのよい食事で低栄養を防ぐ)、運動(定期的な運動を行う)、社会参加(外出や趣味活動、地域交流などにより社会とのつながりを保つ)3つが大切です。

- | | |
|---------|------------|
| 1 知っている | 98.7 (448) |
| 2 知らない | 1.1 (5) |
| 無回答 | 0.2 (1) |

認知症

《全員にお聞きします。》

【問 22】 「認知症」に関する以下の4つの項目について、あてはまるものにそれぞれ○を1つつけてください。

N=3, 192

No	項 目	回 答	
(1)	認知症の原因や状態によっては、早期に発見し、適切な治療を受けることによって、症状を軽くしたり、進行を遅らせることが可能なことを知っていますか。	1 知っていた 2 知らなかった 無回答	81.9 (2, 614) 14.3 (457) 3.8 (121)
(2)	認知症になると何も分からなくなってしまうわけではなく、感情やプライドは保持されるため、本人は多くの不安や混乱を抱えることを知っていますか。	1 知っていた 2 知らなかった 無回答	72.5 (2, 313) 22.2 (710) 5.3 (169)
(3)	あなたは、認知症になった場合に備えて、希望する暮らし方や財産管理について誰かに伝えたことがありますか。	1 伝えたことがある 2 伝えたことはない 無回答	23.8 (761) 71.1 (2, 268) 5.1 (163)
(4)	認知症は一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症する認知症（若年性認知症）があることを知っていますか。	1 知っていた 2 知らなかった 無回答	87.5 (2, 794) 8.6 (273) 3.9 (125)

《全員にお聞きします。》

【問 23】 あなたは、お住まいの地域や職場で、認知症について学ぶ次のような講座や学習会が行われた場合、参加したいと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

N=3, 192

1 認知症についての医学的知識	33.0 (1, 053)
2 認知症の人に対する介護の仕方・接し方	27.5 (878)
3 認知症の本人やその家族、介護者の経験談	17.0 (543)
4 認知症についての相談窓口、相談先	31.3 (999)
5 認知症になった場合に利用できる制度	43.0 (1, 371)
6 認知症が進行した後に備えて自分の意思を伝えるための法制度	20.9 (666)
7 その他	4.1 (131)
8 参加したいと思わない	26.2 (837)
無回答	9.2 (293)

《全員にお聞きします。》

【問 24】 「成年後見制度」と「日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）」についてお伺いします。あなたはこれらの制度を知っていましたか。また今後利用したいと思いませんか。それぞれについて、○を1つつけてください。

※ 成年後見制度とは

認知症などの理由で判断能力の不十分な方に対し、成年後見人などが本人の意思を尊重し、財産を管理したり、生活に必要な様々な契約を結ぶといった支援をする制度。法定後見制度と任意後見制度の2つがある。利用のための手続きに費用がかかります。

※ 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）とは

判断能力に不安がある方を対象として、日常の金銭管理の支援や、福祉サービスの利用について相談や手続きの支援を行う制度。利用するごとに費用がかかります。

N=3,192

	(1) 成年後見制度	(2) 日常生活自立支援事業 (地域福祉権利擁護事業)
ア 認知度	1 知っている 46.2(1,474)	1 知っている 23.0(735)
	2 中身は知らないが、言葉は聞いたことがある 26.3(840)	2 中身は知らないが、言葉は聞いたことがある 24.5(781)
	3 知らない 17.6(563)	3 知らない 40.6(1,297)
	無回答 9.9(315)	無回答 11.9(379)
イ 利用意向	1 利用したい 7.9(252)	1 利用したい 12.7(405)
	2 利用したいと思わない 32.9(1,049)	2 利用したいと思わない 23.7(755)
	3 既に利用している 0.5(16)	3 既に利用している 0.3(10)
	4 わからない 46.3(1,477)	4 わからない 49.8(1,589)
	無回答 12.5(398)	無回答 13.6(433)

住まい

《全員にお聞きします。》

【問 25】 あなたが現在お住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。次の中から○を1つつけてください。

		N=3, 192
1	持家（一戸建て）	63.4 (2, 025)
2	持家（分譲マンションなど）	16.5 (528)
} 《問 26 へ進んでください。》		
3	民間賃貸住宅	8.4 (267)
4	都・区市町村の公営賃貸住宅	3.2 (102)
5	都市再生機構（旧公団）・公社などの賃貸住宅	1.8 (58)
6	借家（一戸建て）	0.8 (26)
7	高齢者向け住宅など（シルバーピア、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウス、認知症高齢者グループホームなど）	0.8 (26)
8	その他	0.8 (26)
	無回答	4.2 (134)

《問 25 で 3～6 を選んだ方にお聞きします。》

【問 25-1】 お住まいの月々の家賃（共益費を含む。）を、教えてください。

N= 453			
5 万円未満	18.8 (85)	15～20 万円未満	2.4 (11)
5～10 万円未満	39.3 (178)	20～25 万円未満	0.4 (2)
10～15 万円未満	8.6 (39)	25 万円以上	0.2 (1)
		無回答	30.2 (137)

《問 25 で 7 を選んだ方にお聞きします。》

【問 25-2】 お住まいの月々の利用料を、教えてください。

※ 利用料には、室料、共益費、生活支援サービス（安否確認、食事提供、家事援助など）の費用を含みます。

N=26			
5 万円未満	-(0)	15～20 万円未満	11.5 (3)
5～10 万円未満	7.7 (2)	20～25 万円未満	11.5 (3)
10～15 万円未満	7.7 (2)	25 万円以上	3.8 (1)
		無回答	57.7 (15)

《**全員にお聞きします。**》

【問 26】 あなたは、介護が必要になったときの高齢期の住まいについて、どのようにしたいと思いますか。次の中からあてはまるものに○を1つつけてください。

※ 現在、介護を受けられている方は、今後の希望をお答えください。

N=3, 192

1	現在の住宅に住み続けたい	46. 8 (1, 495)
2	子供や親族の家またはその近くの一般の住宅に移りたい	1. 9 (62)
3	有料老人ホームに入居したい	5. 2 (166)
4	高齢者向け住宅 (サービス付き高齢者向け住宅など)に入居したい	7. 3 (232)
5	介護保険で入所できる施設 (特別養護老人ホームなど)に入所したい	17. 6 (561)
6	上記 2~5 以外の一般の住宅に移りたい (自然環境のよいところ、生まれ育ったところなど)	0. 7 (23)
7	その他	0. 9 (28)
8	わからない	12. 8 (410)
	無回答	6. 7 (215)

《**問26で1を選んだ方にお聞きします。**》

→ 【問 26-1】 あなたが現在の住宅に住み続けたい理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=1, 495

1	現在住んでいる地域に愛着があるから	59. 1 (883)
2	現在の住宅や土地を処分したくないから	25. 0 (374)
3	現在同居している家族と住み続けたいから	51. 4 (768)
4	新たな環境で生活するのは不安だから	27. 8 (415)
5	(有料老人ホームや高齢者向け住宅に入居する場合) 賃貸料、利用料、入居一時金などを負担できないから	20. 6 (308)
6	賃貸住宅は好きではないから	10. 0 (150)
7	高齢者だけで住む建物には住みたくないから	21. 0 (314)
8	その他	3. 4 (51)
	無回答	0. 7 (11)

《**全員にお聞きします。**》

【問27】 あなたが介護などの支援が必要となって、もし、自宅以外(サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、特別養護老人ホームなど)に住むことになった場合、月々どの程度であれば、費用を支出することができますか。次の中から○を1つつけてください。

※ 「費用」は、室料のほか、生活支援サービス(安否確認、食事提供、家事援助など)、介護保険サービスなど必要なサービスを受けた場合を想定し、自分が負担できる範囲の費用に○をつけてください。

※ 入居時の一時金については、除いて考えてください。

N=3, 192

1	5万円未満	22. 7 (724)	4	15～20万円未満	12. 2 (391)
2	5～10万円未満	29. 7 (949)	5	20～25万円未満	4. 6 (147)
3	10～15万円未満	20. 4 (650)	6	25万円以上	2. 2 (69)
				無回答	8. 2 (262)

コミュニケーション

《**お子さんがいらっしゃる方で、現在、お子さんと同居していない方にお聞きします。**》

【問 28】 一番近くに住んでいるお子さんとの距離はどのくらいですか。次の中から○を1つつけてください。

※ 時間は、通常行き来する方法(徒歩、バス、電車など)でお答えください。

※ お子さんが複数いて、1人でも同居されている場合は除きます。

※ 「隣」とは、左右両隣・裏・表を指します。外階段で行き来する2世帯住宅、離れなどに住む場合及び集合住宅で棟が同じ場合も「隣」とみなします。

N=1, 482

1	隣	8. 6 (128)	4	1時間くらい	24. 4 (361)
2	10分くらい	17. 4 (258)	5	それ以上	15. 7 (232)
3	30分くらい	22. 7 (336)		無回答	11. 3 (167)

《**現在、ご家族と同居している方にお聞きします。**》

【問 29】 ご家族が日中外出している(仕事や学校など)ため不在になり、日中、自宅でひとりになることはどのくらいありますか。次の中から最も近いものに○を1つつけてください。

N=2, 447

1	よくある(週4日以上)	17. 9 (438)
2	たまにある(週1～3日)	22. 2 (544)
3	家族がいる、知人が訪ねてくる、出かけることが多いなど、自宅でひとりで過ごすことは、ほとんどない	33. 6 (821)
	無回答	26. 3 (644)

《全員にお聞きします。》

【問 30】 あなたは、通常どれくらいの頻度で外出しますか。次の中から○を 1 つつけてください。

※ 1日に2回以上外出する場合は、1回と数えます。

N=3,192

1 ほぼ毎日	50.2(1,603)	4 週1回程度	5.6(180)
2 週4回程度	17.6(562)	5 ほとんど外出しない	4.4(142)
3 週2~3回程度	18.9(602)	無回答	3.2(103)

《全員にお聞きします。》

【問 31】 あなたは、お子さん・兄弟などの親族・友人の方と、どれくらいの頻度で交流（話す、会う、電話、メールなど）していますか。次の中から最も近いものにそれぞれ○を 1 つつけてください。

※ 同居か別居かは問いません。

N=3,192

	1 ほとんど毎日	2 1週間に一回程度	3 2週間に一回程度	4 1か月に一回程度	5 年に数回程度	6 全くない	7 子供や親族、友人・知人は、いない	無回答
ア 子供	39.9 (1,275)	15.0 (478)	6.4 (204)	8.3 (264)	4.9 (157)	1.0 (33)	1.9 (62)	22.5 (719)
イ 親族	14.6 (465)	8.7 (278)	6.1 (196)	13.9 (443)	22.7 (725)	3.6 (115)	0.4 (14)	29.9 (956)
ウ 友人・知人	17.3 (553)	18.4 (588)	8.2 (262)	9.5 (302)	11.9 (381)	4.0 (129)	0.7 (22)	29.9 (955)

《全員にお聞きします。》

【問 32】 あなたの身に何かあったとき（急病、災害などの緊急時）に、まず連絡をする、または、連絡したいのは誰ですか。次の中からあなたの考えに最も近いものに○を 1つ つけてください。また、1~4 を選択される場合、同居の有無もあわせて選択してください。

N=3, 192

		同居の有無		
		同居	別居	無回答
1 配偶者	47. 5 (1, 516)	同居 92. 3 (1, 399)	別居 1. 4 (21)	無回答 6. 3 (96)
2 子供	30. 0 (959)	同居 41. 0 (393)	別居 46. 2 (443)	無回答 12. 8 (123)
3 兄弟姉妹	5. 7 (182)	同居 17. 0 (31)	別居 67. 6 (123)	無回答 15. 4 (28)
4 親族（配偶者・ 子供・兄弟姉妹を除く。）	1. 9 (60)	同居 15. 0 (9)	別居 71. 7 (43)	無回答 13. 3 (8)
5 友人・知人	1. 0 (33)			
6 近所の人	0. 3 (8)			
7 その他	0. 5 (17)			
8 いない	1. 3 (40)			
無回答	11. 8 (377)			

《全員にお聞きします。》

【問 33】 あなたは、ご近所の方とどの程度お付き合いしていますか。次の中から最も近いものに○を 1つ つけてください。

N=3, 192

- | | |
|------------------|----------------|
| 1 お互いに訪問し合う人がいる | 17. 8 (567) |
| 2 立ち話をする程度の人がある | 41. 0 (1, 310) |
| 3 あいさつをする程度の人がある | 30. 2 (964) |
| 4 付き合いがない | 8. 4 (268) |
| 無回答 | 2. 6 (83) |

《全員にお聞きします。》

【問 34】 あなたは、地域の方々とのつながり（近所付き合い、交流など）について、以前と比べて、どのように感じますか。次の中からあなたの考えに最も近いものに○を 1つつけてください。

N=3, 192

- | | | |
|---|-----------|----------------|
| 1 | 少し弱くなっている | 21. 2 (676) |
| 2 | 弱くなっている | 13. 7 (436) |
| 3 | 少し強くなっている | 7. 5 (239) |
| 4 | 強くなっている | 1. 8 (56) |
| 5 | 以前と変わらず弱い | 33. 6 (1, 074) |
| 6 | 以前と変わらず強い | 13. 0 (414) |
| 7 | その他 | 5. 9 (188) |
| | 無回答 | 3. 4 (109) |

《全員にお聞きします。》

【問 35】 あなたは、地域の人から何らかの役割※を期待されたり、頼りにされたりしていると思いますか。（※自分なりにできること、会・グループでの役、隣近所のちよつとしたこと、お手伝いやお願いごとなど）○を 1つつけてください。

N=3, 192

- | | | | | | |
|---|---------|-------------|---|------------|----------------|
| 1 | とてもそう思う | 5. 2 (166) | 4 | あまりそう思わない | 33. 2 (1, 060) |
| 2 | そう思う | 14. 3 (457) | 5 | まったくそう思わない | 26. 4 (844) |
| 3 | ややそう思う | 17. 1 (547) | | 無回答 | 3. 7 (118) |

生きがい

《全員にお聞きします。》

【問 36】あなたは現在、どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていますか。
○を1つつけてください。

N=3, 192

1 十分感じている	29.9 (956)	4 あまり感じていない	11.0 (350)
2 感じている	33.6 (1, 073)	5 まったく感じていない	2.0 (63)
3 多少感じている	20.5 (655)	無回答	3.0 (95)

《全員にお聞きします。》

【問 36-1】あなたが生きがい（喜びや楽しみ）を感じるのはどのようなときですか。
次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=3, 192

1 仕事に打ち込んでいるとき	25.0 (798)
2 勉強や教養などに身を入れているとき	19.2 (612)
3 趣味やスポーツに熱中しているとき	49.3 (1, 574)
4 夫婦や孫など家族との団らんのとき	49.2 (1, 571)
5 友人や知人と交流しているとき	51.8 (1, 652)
6 テレビを見たり、ラジオを聴いたりしているとき	42.8 (1, 366)
7 ボランティアなど地域で役割をもって活動しているとき	11.7 (373)
8 若い世代と交流しているとき	9.3 (296)
9 その他	4.5 (143)
10 わからない	3.2 (102)
無回答	3.2 (101)

不安や悩み事

《全員にお聞きします。》

【問 37】 あなたには現在、心配ごとや悩みごとがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=3, 192

1	自分の健康・病気	61. 1 (1, 949)
2	配偶者や家族の健康・病気	48. 2 (1, 538)
3	家族や親族との人間関係	11. 1 (355)
4	相談したり、頼れる人がいなくて、一人きりである	2. 8 (88)
5	地域の人たちとの関係	2. 4 (77)
6	生活費や経済的なこと	24. 1 (769)
7	年金・介護・医療などの公的な制度や費用について	26. 8 (856)
8	住宅に関すること	10. 8 (346)
9	仕事に関すること	3. 9 (126)
10	財産管理や相続のこと	9. 1 (289)
11	犯罪に巻き込まれること	7. 6 (243)
12	地震などの災害にあうこと	27. 4 (874)
13	将来、配偶者に先立たれた後の生活のこと	20. 6 (656)
14	自分の死後の配偶者や子供の将来	20. 5 (654)
15	墓の管理	10. 2 (324)
16	その他	1. 7 (53)
17	心配ごとや悩みごとはない	8. 6 (273)
	無回答	3. 2 (102)

《全員にお聞きします。》

【問 38】 あなたは、心配ごとや悩みごとができた場合、誰に話を聞いてもらったり、相談したりしますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=3, 192

1	世帯員	65. 1 (2, 078)
2	世帯員以外の親族	27. 4 (876)
3	友人・知人	35. 1 (1, 121)
4	行政機関の相談窓口	8. 2 (262)
5	民生委員	2. 2 (69)
6	ホームヘルパーなどの介護職員・ケアマネジャー	4. 9 (155)
7	医師、看護師などの医療従事者	13. 5 (430)
8	上記以外の専門家（弁護士、税理士など）	4. 6 (148)
9	その他	2. 1 (67)
10	相談したりする人はいない	4. 8 (153)
11	心配ごとや悩みごとはない	3. 4 (108)
	無回答	3. 7 (117)

《全員にお聞きします。》

【問 39】 各区市町村は、高齢者やその家族などを総合的に支援する窓口として、「地域包括支援センター※」を設置していますが、次の中からあてはまるものに○を1つつけてください。

N=3,192

※地域包括支援センターについて

地域包括支援センターは、高齢者が住み慣れた地域で、健康で生き生きとした生活を送れるよう、主任ケアマネジャー、保健師、社会福祉士などの職員が高齢者やその家族などを総合的に支援する窓口です。各区市町村が設置しており、地域によっては、親しみやすい名称で呼んでいる場合もあります。

例：高齢者総合相談センター、高齢者あんしん相談センター、おとしより相談センター、あんしんすこやかセンター、熟年相談室など

- | | |
|--------------------------|-----------|
| 1 利用した（電話した・行った）ことがある | 13.8(441) |
| 2 何をしているところか知っている | 12.8(408) |
| 3 自分の地域のセンターがどこにあるか知っている | 13.0(415) |
| 4 名前だけは知っている | 31.2(995) |
| 5 知らなかった | 21.1(674) |
| 無回答 | 8.1(259) |

社会参加

《全員にお聞きします。》

【問 40】 あなたは、この1年間に以下のような活動をしましたか。また、今後参加してみたい活動はありますか。(1)1年間の活動状況と(2)今後の活動意向について、それぞれあてはまる箇所すべてに○をつけてください。

N=3,192

		(1)1年間の活動状況	(2)今後の活動意向
		活動した	今後、参加してみたい (活動し続けたい)
ア	趣味・学習・スポーツ活動	41.7(1,331)	26.3(839)
イ	自治会、町内会、老人クラブ、NPO団体などの 役員・事務局活動	18.3(585)	8.7(277)
ウ	地域行事(地域の催し物の運営、祭りの世話役 など)を支援する活動	13.2(422)	7.7(247)
エ	環境保全、環境美化、リサイクルなどの活動	10.1(321)	9.1(290)
オ	地域の伝統や文化を伝える活動	3.9(125)	5.9(188)
カ	防犯や災害時の救援・支援をする活動	6.2(199)	7.4(237)
キ	一人暮らしなど見守りが必要な高齢者を支援 する活動	4.3(138)	7.7(247)
ク	障害のある人を支援する活動	3.0(96)	5.7(181)
ケ	青少年の健やかな成長・非行防止のための活動	2.5(79)	4.6(148)
コ	介護が必要な高齢者を支援する活動	3.3(104)	5.3(168)
サ	子育てを支援する活動	2.1(68)	5.4(172)
シ	外国人を支援する活動	0.9(29)	4.1(131)
ス	その他	1.4(46)	0.8(26)
セ	活動はしていない(今後も参加予定はない)	22.1(705)	14.4(461)
無回答		26.6(849)	48.9(1,560)

《問 40-1 へ進んでください。》

《問 40(1)で 1～13 を選んだ方にお聞きします。》

【問 40-1】 そのような活動を始めたきっかけはどのようなものでしたか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=1, 638

1	家族のすすめ	9. 9 (162)
2	友人・仲間の誘い	39. 7 (650)
3	自治会・町内会の誘い	29. 2 (478)
4	医師、保健師などの医療従事者 または介護職員等からのすすめ	1. 8 (30)
5	地域包括支援センターでのすすめ	2. 4 (39)
6	ケアマネジャーのすすめ	1. 3 (21)
7	もともと、興味や問題意識を持っていた	34. 1 (559)
8	近所に自分の興味のある活動があった	17. 3 (283)
9	区市町村の広報誌を見て	10. 1 (165)
10	ホームページを見て	1. 2 (19)
11	その他	6. 7 (110)
	無回答	5. 1 (84)

《問 40(1)で 1 を選んだ方にお聞きします。》

【問 40-2】 参加されている活動の主体はどれですか。次の中から主なもの 1つ に○をつけてください。

N=1, 331

1	民間のスポーツクラブ等	17. 1 (228)
2	民間のカルチャースクール等	8. 4 (112)
3	区市町村が開く教室	9. 5 (127)
4	自治体や地域住民が開く教室	5. 7 (76)
5	老人クラブの活動	4. 6 (61)
6	友人や知人で行う自主的な活動	20. 8 (277)
7	その他	6. 8 (91)
	無回答	27. 0 (359)

《問 40(1)で 14 を選んだ方にお聞きします。》

【問 40-3】 問 40 のような活動に、参加しない理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=705

1 身近な地域に活動場所が無いなど、通いにくいから	6. 4 (45)
2 興味のある活動内容がないから	15. 5 (109)
3 一緒に活動する仲間がないから、 一人で参加することに抵抗があるから	14. 2 (100)
4 料金の負担がある、又は料金が高いから	3. 7 (26)
5 時間的な余裕がないから	21. 0 (148)
6 参加するきっかけがないから	20. 9 (147)
7 活動の情報がないから	10. 5 (74)
8 社会参加等の活動をしたいと思わないから	20. 3 (143)
9 その他	20. 9 (147)
無回答	12. 3 (87)

《全員にお聞きします。》

【問 41】 問 40 のような社会参加の活動が、心身の衰えを防ぐ効果があることを知っていますか。

N=3, 192

1 知っている	74. 5 (2, 377)
2 知らない	17. 8 (569)
無回答	7. 7 (246)

《全員にお聞きします。》

【問 42】 高齢者が行うボランティア活動・地域活動・NPO活動をより盛んにするためには、どのような行政の支援が必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

	N=3, 192
1 活動のための場所（公的施設など）を提供する	41.0 (1, 309)
2 活動に関する情報を提供する	43.1 (1, 375)
3 活動団体に資金的援助を行う	25.3 (808)
4 ボランティアをしたい人が登録できる制度を充実させる	19.5 (622)
5 活動の中心となるようなリーダーを養成する講座を開く	12.2 (390)
6 自主グループなどの立ち上げ支援のためのアドバイスを行う	9.8 (312)
7 ボランティアをしたらポイントが貯まるなど、 参加したくなるような制度を作る	14.9 (475)
8 活動者のための保険制度を普及する（ボランティア保険など）	12.9 (411)
9 誰でもどんなことでも相談できる場をつくる	24.8 (791)
10 その他	2.0 (65)
11 特にない	8.9 (284)
12 わからない	16.7 (534)
無回答	9.0 (288)

就労

《全員にお聞きします。》

【問 43】 あなたは、現在、収入のある仕事をしていますか。

N=3, 192

- | | | |
|---|--------------------------|---------------|
| 1 | している | 35.0 (1, 117) |
| 2 | していない→《問 43-4 へ進んでください。》 | 60.5 (1, 930) |
| | 無回答 | 4.5 (145) |

《問 43 で 1 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 43-1】 それはどのような仕事ですか。次の中から○を 1つ つけてください。複数の仕事をしている場合は、収入の最も多いものに○をつけてください。

N=1, 117

- | | | |
|---|-------------------------|------------|
| 1 | 自営業（家族従業者を含む。） | 27.7 (309) |
| 2 | 正規の職員・従業員（定年前） | 1.9 (21) |
| 3 | 正規の職員・従業員（再雇用・雇用延長中） | 7.0 (78) |
| 4 | 正規の職員・従業員（定年後異なる職場に再就職） | 3.6 (40) |
| 5 | 会社などの役員 | 7.9 (88) |
| 6 | 契約・派遣・臨時・パート | 34.0 (380) |
| 7 | シルバー人材センターの会員 | 4.9 (55) |
| 8 | その他 | 7.1 (79) |
| | 無回答 | 6.0 (67) |

《問 43 で 1 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 43-2】 あなたは、現在どれくらいの頻度でお仕事をされていますか。次の中から○を 1つ つけてください。

N=1, 117

- | | | | | | |
|---|---------|------------|---|---------|------------|
| 1 | 週 5 日 | 38.9 (435) | 4 | 月 1～2 日 | 4.4 (49) |
| 2 | 週 3～4 日 | 26.1 (292) | 5 | その他 | 7.8 (87) |
| 3 | 週 1～2 日 | 12.1 (135) | | 無回答 | 10.7 (119) |

《問 43 で 1 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 43-3】 あなたが仕事をしている理由は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

N=1, 117

- | | | | | | |
|---|-----------------|------------|---|----------------|------------|
| 1 | 収入を得たいから | 70.5 (788) | 6 | 社会とつながっていたいから | 29.5 (330) |
| 2 | 健康に良いから | 45.8 (512) | 7 | 友人がほしいから | 5.6 (63) |
| 3 | 持っている能力を生かしたいから | 33.6 (375) | 8 | 何もしないでいると退屈だから | 24.4 (273) |
| 4 | 生きがいを得たいから | 29.8 (333) | 9 | その他 | 6.1 (68) |
| 5 | 社会の役に立ちたいから | 21.8 (243) | | 無回答 | 7.8 (87) |

《問 43 で 2 を選んだ方にお聞きします。》

【問 43-4】 あなたは、今後、収入を得られる仕事をしたいと思いますか。次の中から○を 1 つつけてください。

N=1,930

1	週 5 日仕事をしたいと思う	0.7 (13)	
2	週 3~4 日仕事をしたいと思う	4.9 (95)	
3	週 1~2 日仕事をしたいと思う	7.9 (152)	
4	月 1~2 日仕事をしたいと思う	3.1 (59)	
5	したいと思わない	46.0 (888)	} 《問 44 へ進んでください。》
6	健康上の理由などで することができない	20.1 (388)	
	無回答	17.4 (335)	

《問 43-4 で 1~4 を選んだ方にお聞きします。》

→【問 43-5】 あなたが仕事をしたいと思っているのに、現在していない理由は何ですか。次の中から主なものに○を 1 つつけてください。

N=319

1	希望や条件に合う働くところがないから	27.0 (86)
2	年齢制限で働くところが見つからないから	21.0 (67)
3	体力的に働くのはきついから	15.0 (48)
4	家事・育児・介護に従事していて、働く時間がないから	6.6 (21)
5	その他	7.8 (25)
6	特に理由はない	12.2 (39)
	無回答	10.3 (33)

《全員にお聞きします。》

【問 44】 あなたは、何歳頃まで働ける社会が理想であると思いますか。次の中から○を 1 つつけてください。

N=3,192

1	60 歳頃まで	2.0 (63)	4	75 歳頃まで	24.6 (784)
2	65 歳頃まで	11.5 (366)	5	80 歳頃まで	10.1 (321)
3	70 歳頃まで	33.4 (1,066)	6	80 歳以上で働けるまで	10.2 (325)
				無回答	8.4 (267)

経済状況

福祉施策の参考とするため、あなたの経済状況についてお聞きします。
 個人的なことですが、お答えいただいた内容は調査の集計以外には一切使用せず、外部へ情報が漏れることは決してありませんので、ご協力をよろしくお願いたします。

《全員にお聞きします。》

【問 45】 あなたの平成 30 年中の収入の種類は、どのようなものですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

また、その種類のうち、主なもの1つをお答えください。

	すべて（複数回答） N=3,192	主なもの1つ N=3,029
1 公的な年金・恩給	81.3 (2,595)	64.1 (1,943)
2 私的な年金（企業年金、個人年金など）	18.7 (598)	4.3 (129)
3 仕事による収入	28.7 (916)	16.9 (513)
4 家賃・地代・配当金	12.7 (406)	5.2 (157)
5 仕送り	0.4 (13)	0.1 (4)
6 手当（傷病手当金、労災保険の医療給付など）	0.2 (7)	0.1 (2)
7 生活保護	2.4 (76)	1.9 (57)
8 その他	1.3 (40)	0.7 (22)
9 収入はない	0.8 (24)	
無回答	4.4 (139)	6.7 (202)

《問 45 で 1 を選んだ方にお聞きします。》

→ 【問 45-1】 あなたが受給している公的年金の種類は何ですか。次の中から受給しているものすべてに○をつけてください。

N=2,595			
1 基礎年金	9.0 (233)	6 厚生年金	23.8 (617)
2 基礎年金と厚生年金	43.0 (1,117)	7 共済年金	5.2 (135)
3 基礎年金と共済年金	6.2 (162)	8 恩給	0.5 (14)
4 国民年金	34.1 (884)	9 その他	2.0 (52)
5 福祉年金	0.2 (4)	無回答	1.9 (49)

《全員にお聞きします。》

【問 46】 あなた個人の平成 30 年中の総収入（税込み）はおよそいくらでしたか。
次の中から○を 1つつけてください。

N=3, 192

1	50 万円未満	5. 8 (184)
2	50 万円以上 100 万円未満	19. 1 (610)
3	100 万円以上 150 万円未満	13. 3 (425)
4	150 万円以上 200 万円未満	10. 7 (340)
5	200 万円以上 250 万円未満	12. 7 (405)
6	250 万円以上 300 万円未満	11. 2 (356)
7	300 万円以上 500 万円未満	11. 2 (358)
8	500 万円以上 700 万円未満	4. 0 (127)
9	700 万円以上 1, 000 万円未満	2. 0 (65)
10	1, 000 万円以上	2. 4 (78)
	無回答	7. 6 (244)

《全員にお聞きします。》

【問 47】 あなたの世帯の家計はこの中のどれに最も近いですか。次の中から○を 1つつけてください。

N=3, 192

1	ほぼ毎月赤字になる	23. 1 (737)
2	ときどき赤字になる	27. 9 (889)
3	ほとんど赤字にならない	23. 5 (751)
4	全く赤字にならない	20. 1 (643)
	無回答	5. 4 (172)

《全員にお聞きします。》

【問 48】 あなたの世帯の金融貯蓄はこの中のどれに最も近いですか。次の中から○を 1つつけてください。

N=3, 192

1	100 万円未満	10. 3 (328)
2	100～200 万円	5. 3 (169)
3	200～300 万円	5. 2 (167)
4	300～400 万円	3. 6 (115)
5	400～500 万円	6. 5 (208)
6	500～1, 000 万円	13. 9 (445)
7	1, 000～2, 000 万円	14. 4 (461)
8	2, 000～3, 000 万円	9. 7 (310)
9	3, 000 万円以上	14. 4 (459)
10	貯蓄はない	7. 6 (242)
	無回答	9. 0 (288)

東京都の福祉保健行政に関してご意見やご要望がありましたら、お聞かせください。

長時間にわたりご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
この調査の結果は、東京都の福祉保健施策の重要な基礎資料とさせていただきます。